

ツルサシ遺跡  
ミカド遺跡  
増田遺跡  
垣外遺跡

一小規模排水対策特別事業下黒田中部地区  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1989. 3

長野県下伊那郡上郷町役場産業課  
長野県下伊那郡上郷町教育委員会

上郷町埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

ツルサシ遺跡  
ミカド遺跡  
増田遺跡  
垣外遺跡

一小規模排水対策特別事業下黒田中部地区  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

1989. 3

長野県下伊那郡上郷町役場産業課  
長野県下伊那郡上郷町教育委員会



## 序

下黒田中部地区関係者の強い要望により、地域の基盤の整備を行ない、地域農業の振興を図るため、昭和62年度に於て、小規模排水対策特別事業を導入し、8.5haの農地の区画整理を実施することになりました。

当地域は低い丘陵でもあり、日当りも良く、かつ湿地も含まれていて、古代の人々の生活の場として適していたと思われる環境であり、「ツルサシ・ミカド・増田・垣外」などの遺跡の指定地が含まれています。そこで、事業実施に先立ちまして町の教育委員会にお願いして発掘調査を行ないました。

調査の結果は報告書にありますが、改築をしながら何代にもわたって居住されたのであろうかと思われる増田遺跡の集落や、全国的にも貴重な垣外遺跡の木炭棺が出土するなど、古代人の生活についての夢が膨んでまいります。

広い地域に亘る調査を、工事に間に合うように暑い日も寒い日も懸命の努力をしていただきました今村調査団を始め、調査に従事された皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、ここに報告書の発刊が出来ることに対しまして厚く御礼を申し上げます。

平成元年3月

上郷町長 山 田 隆 士

## 例　　言

1. 本書は、小規模排水対策特別事業下黒田中部地区工事に伴う上郷町黒田「ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡」の緊急発掘調査報告書である。合せて、昭和61年度町道都出線拡幅改良工事に伴う「垣外遺跡」の調査報告書を収録した。
2. 上郷町教育委員会が組織する上郷町遺跡発掘調査団が、昭和62年度に発掘調査を、昭和63年度に整理作業及び報告書の作成を行なった。
3. 発掘調査・整理作業等は併記の記号によって実施した。

ツルサシ遺跡－TRS ミカド遺跡－MKD 増田遺跡－MSD 垣外遺跡－KIT

4. 本書は昭和63年度中にまとめることが要求されており、できるかぎり資料呈示することを編集方針とした。
5. 本書を作成するにあたっての作業分担は以下のとおりである。  
遺構実測－山下誠一、米山義盛、伊藤 泉　　図面修正－山下誠一、吉川金利、市瀬禎子  
遺構製図－上沼文代、篠田せい子、高橋美鈴、村沢千代江、　遺構・遺物写真－山下誠一  
遺物拓影－中原友江、古林登志子、遺物実測・製図－山下誠一、吉川金利、市瀬禎子  
町道調査の整理作業全般－今村善興、林 貢、福田千八、今村俱栄
6. 本書は、Vを今村善興、II－1・2を岡田正彦が執筆し、それ以外の執筆と編集は山下誠一が行なった。
7. 本書に関連した遺物及び記録・図面類は、上郷町教育委員会が管理し、上郷町歴史民俗資料館で保存している。
8. 奈良国立文化財研究所工楽善通先生に調査について現地指導・ご教示を得た。記して感謝の意を表します。ほかにも、下記の各氏にご教示を得た。  
芦部公一、市沢英利、小林正春、笛沢 浩、桜井弘人、宮沢恒之、松枝高明

# 本文目次

序	(2) 弥生時代 .....	94
例 言	2 ) 集石炉 .....	95
I 経 過 .....	3 ) 土坑 .....	96
1. 調査に至るまで .....	4 ) 垣外遺跡 .....	109
2. 調査の経過 .....	1 ) 穫穴住居址 .....	109
3. 調査の概要 .....	(1) 繩文時代 .....	109
4. 調査組織 .....	(2) 弥生時代 .....	125
1 ) 上郷町埋蔵文化財調査委員会 .....	(3) 奈良時代 .....	151
2 ) 上郷町遺跡発掘調査団 .....	(4) 中世 .....	153
II 遺跡の立地と環境 .....	2 ) 方形周溝墓 .....	156
1. 自然的環境 .....	3 ) 團溝址 .....	168
2. 歴史的環境 .....	4 ) 建物址・柱穴列 .....	170
3. 層序 .....	5 ) 溝址 .....	178
III 調査結果 .....	6 ) 集石炉 .....	187
1. ツルサシ遺跡 .....	7 ) 土坑 .....	188
1 ) 穫穴住居址 .....	IV まとめ .....	225
2 ) 方形周溝墓 .....	V 垣外遺跡(町道都出線拡幅改良工事) .....	229
3 ) 建物址 .....	1 ) 調査の経過 .....	229
4 ) 穫穴状遺構 .....	1 ) 発掘調査の経過 .....	229
5 ) 溝址・溝状遺構 .....	2 ) 調査組織 .....	229
6 ) 土坑 .....	2 ) 調査結果 .....	231
2. ミカド遺跡 .....	1 ) 調査の概要 .....	231
1 ) 穫穴住居址 .....	2 ) 遺構と遺物 .....	231
2 ) 方形周溝墓・円形周溝墓 .....	(1) 1号住居址 .....	231
3 ) 建物址 .....	(2) 2号住居址 .....	233
4 ) 穫穴状遺構 .....	(3) 3号住居址 .....	233
5 ) 溝址・溝状遺構 .....	(4) 溝址 1 .....	236
6 ) 土坑 .....	(5) 溝址 2 .....	236
7 ) ロームマウンド .....	(6) 溝址 3 .....	236
3. 増田遺跡 .....	(7) 土壌 .....	236
1 ) 穫穴住居址 .....	3 . 調査のまとめ .....	237
(1) 繩文時代 .....	後 記	

## 挿 図 目 次

挿図 1 ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡 位置図	6	挿図36 MKD 土坑 2・3・4・5 ..... 47
挿図 2 ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡 発掘位置図及び周辺図	7・8	挿図37 MKD 土坑 1、ピット ..... 48
挿図 3 ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡 基本土層柱状図	11	挿図38 MKD 土坑 6・7・10、ピット ..... 50
挿図 4 TRS 1号住居址	13	挿図39 MKD 土坑 8、ピット ..... 51
挿図 5 TRS 2号住居址	14	挿図40 MKD 土坑 9、ピット ..... 52
挿図 6 TRS 3号住居址	15	挿図41 MKD 土坑 11、ピット ..... 53
挿図 7 TRS 4号住居址	16	挿図42 MKD 土坑 12、ピット ..... 54
挿図 8 TRS 5号住居址	17	挿図43 MKD 土坑 13・14、ピット ..... 55
挿図 9 TRS 方形周溝墓 1	18	挿図44 MKD ロームマウンド 1・2 ..... 56
挿図10 TRS 方形周溝墓 2・3	20	挿図45 MKD 土坑 17、ピット ..... 57
挿図11 TRS 方形周溝墓 4	21	挿図46 MKD 土坑 18、ピット ..... 58
挿図12 TRS 建物址 1	22	挿図47 MKD 第 I 地区ピット (1) ..... 59
挿図13 TRS 穴式状遺構 1、溝状遺構 1	23	挿図48 MKD 第 I 地区ピット (2) ..... 60
挿図14 TRS 穴式状遺構 2、溝址 3	24	挿図49 MKD 第 I 地区ピット (3) ..... 61
挿図15 TRS 土坑 1、ピット、小溝	25	挿図50 MKD 第 I 地区ピット (4) ..... 62
挿図16 TRS 土坑 2・3・4・5	26	挿図51 MKD 第 I 地区ピット (5) ..... 63
挿図17 MKD 1号住居址	28	挿図52 MKD 第 I 地区ピット (6) ..... 64
挿図18 MKD 方形周溝墓 1	29	挿図53 MKD 第 I 地区ピット (7) ..... 65
挿図19 MKD 方形周溝墓 2	30	挿図54 MKD 第 I 地区ピット (8) ..... 66
挿図20 MKD 方形周溝墓 3	31	挿図55 MKD 第 II 地区ピット (1) ..... 67
挿図21 MKD 方形周溝墓 4	32	挿図56 MKD 第 II 地区ピット (2) ..... 68
挿図22 MKD 方形周溝墓 5	33	挿図57 MKD 第 III 地区ピット ..... 69
挿図23 MKD 方形周溝墓 6・7	34	挿図58 MKD 第 IV 地区ピット ..... 70
挿図24 MKD 円形周溝墓 1	35	挿図59 MSD 1号住居址炉址 ..... 71
挿図25 MKD 円形周溝墓 2	36	挿図60 MSD 1号住居址 ..... 72
挿図26 MKD 建物址 1、穴式状遺構 1	37	挿図61 MSD 2号住居址 ..... 73
挿図27 MKD 第 II 地区溝址 1	38	挿図62 MSD 2号住居址埋甕 ..... 74
挿図28 MKD 第 III 地区溝址 1	39	挿図63 MSD 3号住居址 ..... 75
挿図29 MKD 第 II 地区溝址 2	40	挿図64 MSD 5号住居址 ..... 76
挿図30 MKD 第 III 地区溝址 2・4	41	挿図65 MSD 5号住居址炉址 ..... 77
挿図31 MKD 溝址 3	42	挿図66 MSD 6号住居址 ..... 78
挿図32 MKD 溝址 5	43	挿図67 MSD 7号住居址 ..... 80
挿図33 MKD 溝状遺構 1	44	挿図68 MSD 8号住居址 ..... 81
挿図34 MKD 溝状遺構 2、土坑 16、ピット	45	挿図69 MSD 9号住居址、土坑 86 ..... 82
挿図35 MKD 溝状遺構 3、土坑 15、ピット	46	挿図70 MSD 9号住居址炉址・埋甕 ..... 83
		挿図71 MSD 10号住居址 ..... 84
		挿図72 MSD 11号住居址 ..... 85
		挿図73 MSD 12号・17号住居址 ..... 86

挿図74	MSD 13号住居址炉址	87	挿図105	KIT 30号住居址	120
挿図75	MSD 23号住居址	88	挿図106	KIT 42号住居址	121
挿図76	MSD 14号住居址	89	挿図107	KIT 43号住居址	122
挿図77	MSD 15号住居址	90	挿図108	KIT 44号住居址、土坑65・70・71・ 72・92	124
挿図78	MSD 16号住居址	91	挿図109	KIT 6号住居址	125
挿図79	MSD 18号住居址	93	挿図110	KIT 7号住居址	127
挿図80	MSD 4号住居址	94	挿図111	KIT 8号住居址	128
挿図81	MSD 4号住居址縄・炭分布	95	挿図112	KIT 9号住居址	129
挿図82	MSD 集石炉1	95	挿図113	KIT 10号住居址	130
挿図83	MSD 土坑6・7・8・9・10・11・ 12	96	挿図114	KIT 11号住居址	131
挿図84	MSD 土坑1・2・3・4・5・41・ 42・43・44	97	挿図115	KIT 12号住居址	132
挿図85	MSD 土坑12・13・14・15・16・17・ 18・40・49	98	挿図116	KIT 14号住居址	134
挿図86	MSD 土坑19・20・21・22・23・24・ 25・47・48	99	挿図117	KIT 16号住居址	135
挿図87	MSD 土坑26・27・28・29・30・31・ 32・33・34・35・36・37・38・ 39・45・46	100	挿図118	KIT 17号住居址	136
挿図88	MSD 土坑51・52・53・54・55・56・ 57・58・59・72・81・82・85・ 86	101	挿図119	KIT 18号住居址	137
挿図89	MSD 土坑60・61・63・70・71・73・ 80・83・84	102	挿図120	KIT 21号住居址	138
挿図90	MSD 土坑64・65・66・67・68・69・ 74・75・76・77・78・79	103	挿図121	KIT 26号住居址	139
挿図91	MSD 土坑50	104	挿図122	KIT 27号住居址	140
挿図92	MSD 14号住居址東側ピット群(1)	107	挿図123	KIT 28号住居址、土坑64	142
挿図93	MSD 14号住居址東側ピット群(2)	108	挿図124	KIT 32号住居址	143
挿図94	KIT 5号住居址	109	挿図125	KIT 34号住居址	144
挿図95	KIT 13号住居址炉址	110	挿図126	KIT 35号住居址	145
挿図96	KIT 13号住居址	111	挿図127	KIT 36号住居址	146
挿図97	KIT 15号住居址	112	挿図128	KIT 37号住居址	148
挿図98	KIT 19号住居址	113	挿図129	KIT 38号住居址	149
挿図99	KIT 20号住居址	114	挿図130	KIT 39号住居址	150
挿図100	KIT 22号住居址	115	挿図131	KIT 41号住居址	151
挿図101	KIT 23号住居址	116	挿図132	KIT 4号住居址	152
挿図102	KIT 24号住居址、土坑31	117	挿図133	KIT 31号住居址、土坑97	154
挿図103	KIT 25号住居址	118	挿図134	KIT 33号住居址	155
挿図104	KIT 29号住居址	119	挿図135	KIT 40号住居址	156
			挿図136	KIT 方形周溝墓1主体部	156
			挿図137	KIT 方形周溝墓1	157
			挿図138	KIT 方形周溝墓2	158
			挿図139	KIT 方形周溝墓3	159
			挿図140	KIT 方形周溝墓4	160
			挿図141	KIT 方形周溝墓6	161
			挿図142	KIT 方形周溝墓5	162
			挿図143	KIT 方形周溝墓7・8	163・164
			挿図144	KIT 方形周溝墓9	166
			挿図145	KIT 方形周溝墓10	167

挿図146 KIT 方形周溝墓11	168	挿図178 KIT 土坑32・33・34	199
挿図147 KIT 四溝址1	169	挿図179 KIT 土坑44・47・51・52	200
挿図148 KIT 四溝址2	169	挿図180 KIT 土坑55・56	201
挿図149 KIT 建物址1	170	挿図181 KIT 土坑57・58・59・60・61・62	
挿図150 KIT 建物址2	171		202
挿図151 KIT 建物址3	172	挿図182 KIT 土坑63・67	203
挿図152 KIT 建物址4	173	挿図183 KIT 土坑66・80・81・82・85・86・	
挿図153 KIT 建物址5	174	87・89・101	204
挿図154 KIT 建物址6・7	176	挿図184 KIT 土坑68・69・73・74・75・88・	
挿図155 KIT 柱穴列1	177	99・100	205
挿図156 KIT 溝址4・5・6	179	挿図185 KIT 土坑76・77・78・79・95・96・	
挿図157 KIT 溝址7	180	102	206
挿図158 KIT 溝址8	181	挿図186 KIT 土坑83・103	207
挿図159 KIT 溝址9・10	182	挿図187 KIT 土坑84・90・91・93・94	208
挿図161 KIT 溝址12	183	挿図188 KIT 土坑98、第Ⅲ地区ビット	209
挿図162 KIT 溝址13・14	184	挿図189 KIT 土坑105・106	210
挿図163 KIT 溝址15、土坑104	185	挿図190 KIT 第Ⅰ地区ビット(1)	214
挿図164 KIT 溝址16	186	挿図191 KIT 第Ⅰ地区ビット(2)	215
挿図165 KIT 溝状遺構1・2・3	187	挿図192 KIT 第Ⅰ地区ビット(3)	216
挿図166 KIT 築石炉1	187	挿図193 KIT 第Ⅰ地区ビット(4)	217
挿図167 KIT 土坑1、ビット	188	挿図194 KIT 第Ⅰ地区ビット(5)	218
挿図168 KIT 土坑2・42・45	189	挿図195 KIT 第Ⅰ地区ビット(6)	219
挿図169 KIT 土坑3・35	190	挿図196 KIT 第Ⅰ地区ビット(7)	220
挿図170 KIT 土坑4・5・6・8・9・10・ 11・12	191	挿図197 KIT 第Ⅰ地区ビット(8)	221
挿図171 KIT 土坑13・48・49・50	192	挿図198 KIT 第Ⅱ地区ビット(1)	222
挿図172 KIT 土坑14・15・16・21・43	193	挿図199 KIT 第Ⅱ地区ビット(2)	223
挿図173 KIT 土坑17・18・19・20・23	194	挿図200 KIT 第Ⅳ地区土坑	224
挿図174 KIT 土坑22・38・39・40・41・53 .....	195	挿図201 KIT (町道調査) 遺構全体図	230
挿図175 KIT 土坑23・36・37	196	挿図202 KIT 1号・2号住居址	232
挿図176 KIT 土坑24・46・54	197	挿図203 KIT 3号住居址・溝址3平面図及び 1号・2号・3号住居址・溝址	
挿図177 KIT 土坑25・26・27・28・29・30 .....	198	3出土石器	234
		挿図204 KIT 1号・2号・3号住居址・溝址 3、その他出土土器	235

# 図 版 目 次

第1図 TRS 1号・2号・3号・5号住居址 出土土器	238	第33図 MSD 5号・6号住居址出土石器	270
第2図 TRS 4号住居址、方形周溝墓、 竪穴状遺構、土坑出土土器	239	第34図 MSD 6号・7号住居址出土石器	271
第3図 TRS 出土石器・水晶・銛器	240	第35図 MSD 7号・8号住居址出土石器	272
第4図 MKD 出土遺物	241	第36図 MSD 8号住居址出土石器(1)	273
第5図 MSD 1号住居址出土土器	242	第37図 MSD 8号住居址出土石器(2)	274
第6図 MSD 2号住居址出土土器	243	第38図 MSD 9号・10号住居址出土石器	275
第7図 MSD 2号・3号住居址出土土器	244	第39図 MSD 10号・11号住居址出土土器	276
第8図 MSD 3号住居址出土土器	245	第40図 MSD 11号・12号住居址出土土器	277
第9図 MSD 3号・5号住居址出土土器	246	第41図 MSD 12号住居址出土土器	278
第10図 MSD 5号住居址出土土器	247	第42図 MSD 12号・13号住居址出土土器	279
第11図 MSD 5号・6号住居址出土土器	248	第43図 MSD 13号・14号住居址出土土器	280
第12図 MSD 7号住居址出土土器(1)	249	第44図 MSD 14号・15号住居址出土土器	281
第13図 MSD 7号住居址出土土器(2)	250	第45図 MSD 15号・16号・18号・4号 住居址出土遺物	282
第14図 MSD 8号住居址出土土器(1)	251	第46図 MSD 4号住居址・土坑出土土器	283
第15図 MSD 8号住居址出土土器(2)	252	第47図 MSD 土坑出土石器	284
第16図 MSD 9号住居址出土土器	253	第48図 MSD 出土小型石器(1)	285
第17図 MSD 10号・11号住居址出土土器	254	第49図 MSD 出土小型石器(2)	286
第18図 MSD 11号住居址出土土器	255	第50図 MSD 出土小型石器(3)	287
第19図 MSD 12号住居址出土土器	256	第51図 MSD 出土小型石器(4)	288
第20図 MSD 13号住居址出土土器(1)	257	第52図 MSD 出土土製品・石製品	289
第21図 MSD 13号住居址出土土器(2)	258	第53図 KIT 5号・13号住居址出土土器	290
第22図 MSD 14号住居址出土土器	259	第54図 KIT 13号・15号住居址出土土器	291
第23図 MSD 14号・15号・16号・18号 住居址出土土器	260	第55図 KIT 19号・20号・22号・23号 住居址出土土器	292
第24図 MSD 18号住居址・土坑出土土器	261	第56図 KIT 24号・25号・29号 住居址出土土器	293
第25図 MSD 土坑出土土器(1)	262	第57図 KIT 29号住居址出土土器	294
第26図 MSD 土坑出土土器(2)	263	第58図 KIT 29号・30号住居址出土土器	295
第27図 MSD 土坑、第I・II地区出土土器	264	第59図 KIT 30号住居址出土土器(1)	296
第28図 MSD 1号住居址出土土器	265	第60図 KIT 30号住居址出土土器(2)	297
第29図 MSD 1号・2号・3号 住居址出土土器	266	第61図 KIT 30号住居址出土土器(3)	298
第30図 MSD 3号・5号住居址出土土器	267	第62図 KIT 42号・43号・44号・6号 住居址出土土器	299
第31図 MSD 5号住居址出土土器(1)	268	第63図 KIT 6号住居址出土土器	300
第32図 MSD 5号住居址出土土器(2)	269	第64図 KIT 7号・8号・9号 住居址出土土器	301

第66図	KIT 9号住居址出土土器	302	第94図	KIT 土坑2・71・84・94、埋設土器1 出土土器	331
第66図	KIT 10号・11号・12号 住居址出土土器	303	第95図	KIT 5号・13号住居址出土石器	332
第67図	KIT 12号・16号住居址出土土器	304	第96図	KIT 13号住居址出土石器	333
第68図	KIT 16号住居址出土土器(1)	305	第97図	KIT 13号・15号住居址出土石器	334
第69図	KIT 16号住居址出土土器(2)	306	第98図	KIT 19号・20号・22号 住居址出土土器	335
第70図	KIT 16号住居址出土土器(3)	307	第99図	KIT 23号・24号・25号・29号 住居址出土石器	336
第71図	KIT 17号住居址出土土器(1)	308	第100図	KIT 29号・30号住居址出土石器	337
第72図	KIT 17号住居址出土土器(2)	309	第101図	KIT 30号住居址出土石器(1)	338
第73図	KIT 18号・21号住居址出土土器	310	第102図	KIT 30号住居址出土石器(2)	339
第74図	KIT 21号・26号・27号・28号 住居址出土土器	311	第103図	KIT 30号・42号・43号 住居址出土石器	340
第75図	KIT 32号・34号住居址出土土器	312	第104図	KIT 43号・44号住居址出土石器	341
第76図	KIT 34号・35号住居址出土土器	313	第105図	KIT 6号・7号住居址出土石器	342
第77図	KIT 35号住居址出土土器(1)	314	第106図	KIT 7号・8号・9号 住居址出土石器	343
第78図	KIT 35号住居址出土土器(2)	315	第107図	KIT 9号・10号住居址出土石器	344
第79図	KIT 35号・36号住居址出土土器	316	第108図	KIT 11号・12号・14号 住居址出土石器	345
第80図	KIT 36号・37号住居址出土土器	317	第109図	KIT 14号・16号・17号 住居址出土石器	346
第81図	KIT 37号・38号・41号・4号・31号 住居址出土土器	318	第110図	KIT 17号・18号・21号・26号 住居址出土石器	347
第82図	KIT 31号住居址・方形周溝墓2・ 6・7・8出土土器	319	第111図	KIT 26号・27号・28号 住居址出土石器	348
第83図	KIT 方形周溝墓8・11・溝址13・ 3・5・8・14出土土器	320	第112図	KIT 32号・34号・35号・36号 住居址出土石器	349
第84図	KIT 土坑3・7・12・13・14・20・ 22・24出土土器	321	第113図	KIT 37号・38号・41号・31号 住居址出土石器	350
第85図	KIT 土坑24・25・26・28・30・31・ 34	322	第114図	KIT 方形周溝墓2・3・4・5・7 出土石器	351
第86図	KIT 土坑35・36・38・40・41・42・ 43出土土器	323	第115図	KIT 方形周溝墓8・9・圓溝址2・ 建物址5、土坑出土石器	352
第87図	KIT 土坑44出土土器	324	第116図	KIT 土坑出土石器(1)	353
第88図	KIT 土坑45・47出土土器	325	第117図	KIT 土坑出土石器(2)	354
第89図	KIT 土坑47・49・50・51・52・53・ 55出土土器	326	第118図	KIT 出土小型石器	355
第90図	KIT 土坑55・60・61・62・69・82 出土土器	327	第119図	KIT 出土土製品・石製品	356
第91図	KIT 土坑82出土土器	328	第120図	KIT 出土鉄器・鐵滓(1)	357
第92図	KIT 土坑82・97・98・104・106 出土土器	329	第121図	KIT 出土鉄器・鐵滓(2)	358
第93図	KIT 土坑82・107・108出土土器	330			

## 写真図版目次

- 図版1 ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡遠景  
図版2 ツルサシ遺跡近景、TRS 1号住居址、2号住居址  
図版3 TRS 3号住居址、4号住居址、5号住居址  
図版4 TRS 方形周溝墓1、方形周溝墓2、方形周溝墓3  
図版5 TRS 方形周溝墓4、建物址1、第I地区全景  
図版6 TRS 第Iトレンチ全景、第IIトレンチ南東側全景、第IIトレンチ北東側全景  
図版7 ミカド遺跡近景、MKD 1号住居址、方形周溝墓1  
図版8 MKD 方形周溝墓2、方形周溝墓3、方形周溝墓4  
図版9 MKD 方形周溝墓5、方形周溝墓6・7、円形周溝墓1  
図版10 MKD 円形周溝墓2、第II地区溝址1・2・3、第III地区溝址1・2  
図版11 MKD 第I地区全景、第II地区全景、第III地区全景  
図版12 増田遺跡近景、MKD 1号住居址、2号住居址  
図版13 MSD 3号住居址、5号住居址、6号住居址  
図版14 MSD 7号住居址、8号住居址、9号住居址  
図版15 MSD 10号住居址、11号住居址、12号・17号住居址  
図版16 MSD 13号住居址、14号住居址、15号住居址  
図版17 MSD 16号住居址、18号住居址、4号住居址  
図版18 MSD 築石炉、第I地区土坑群、第II地区土坑群  
図版19 MSD 全景、第I地区全景、第II地区全景  
図版20 堀外遺跡近景 KIT 5号住居址、13号住居址  
図版21 KIT 15号住居址、19号住居址、20号住居址  
図版22 KIT 22号住居址、23号住居址、24号住居址  
図版23 KIT 25号住居址、29号住居址、30号住居址  
図版24 KIT 42号住居址、43号住居址、44号住居址  
図版25 KIT 6号住居址、7号住居址、8号住居址  
図版26 KIT 9号住居址、10号住居址、11号住居址  
図版27 KIT 12号住居址、14号住居址、16号住居址  
図版28 KIT 17号住居址、18号住居址、21号住居址  
図版29 KIT 26号住居址、27号住居址、28号住居址  
図版30 KIT 32号住居址、34号住居址、35号住居址  
図版31 KIT 36号住居址、37号住居址、38号住居址  
図版32 KIT 39号住居址、37号・39号住居址、41号住居址  
図版33 KIT 4号住居址、31号住居址、33号住居址  
図版34 KIT 40号住居址、方形周溝墓1、方形周溝墓1主体部  
図版35 KIT 方形周溝墓1木炭棺、方形周溝墓2、方形周溝墓3  
図版36 KIT 方形周溝墓4、方形周溝墓5、方形周溝墓6  
図版37 KIT 方形周溝墓7、方形周溝墓8、方形周溝墓8壺棺出土状態  
図版38 KIT 方形周溝墓9、方形周溝墓10、方形周溝墓11  
図版39 KIT 圈溝址1、建物址1、建物址3

- 図版40 KIT 建物址 4・5・6・7、建物址 2、柱穴列 1
- 図版41 KIT 溝址 4、溝址 5・6、溝址 8
- 図版42 KIT 溝址 9・10、溝址 9 南東側、溝址 12
- 図版43 KIT 溝址 13、溝址 14、集石炉 1
- 図版44 KIT 第Ⅱ地区北東側土坑群、第Ⅰ地区全景、第Ⅱ地区全景
- 図版45 KIT 第Ⅱ地区全景、第Ⅲ地区全景、第Ⅳ地区全景
- 図版46 TRS 方形周溝墓 2 布留式壇、方形周溝墓 4 鉢  
MSD 3号住居址深鉢、7号住居址深鉢、18号住居址深鉢、4号住居址壇、  
11号住居址土鉢、11号住居址土偶
- 図版47 MSD 土偶  
KIT 29号住居址深鉢、30号住居址深鉢、30号住居址吊手土器、土坑24深鉢、  
土坑82深鉢、9号住居址壇、10号住居址壇、10号住居址小型壇
- 図版48 KIT 34号住居址壇、35号住居址壇、35号住居址高杯、36号住居址壇、  
方形周溝墓 8 壺棺、2号住居址土偶、30号住居址土偶
- 図版49 MSD 調査スナップ  
MKD 現地見学会スナップ  
KIT 現地見学会スナップ
- 図版50 KIT 1号住居址
- 図版51 KIT 1号住居址炉と間仕切りピット
- 図版52 KIT 2号住居址
- 図版53 KIT 3号住居址
- 図版54 KIT 3号住居址炉の掘り下げ
- 図版55 KIT 溝址 3
- 図版56 KIT 出土遺物
- 図版57 KIT 調査風景

# I 経 過

## 1. 調査に至るまで

昭和62年度において下黒田中部地区に小規模排水対策特別事業の施工が計画され、事業範囲内にツルサシ・ミカド・増田・垣外の4遺跡が所在することが明らかとなった。そこで、昭和61年9月30日と11月4日に長野県教育委員会文化課指導主事・上郷町役場産業課担当職員・同教育委員会担当職員・地元研究者今村善興氏による保護協議を実施し、遺跡の一部が破壊されることが余儀なくなったために、事前に発掘調査を実施して記録保存することとなった。

発掘調査の実施については、本発掘調査のほかにも考えられるため膨大な量になるを予想された。そのため、円滑な事業の実施を計るために、「上郷町埋蔵文化財調査委員会」を組織し、実際の調査は「上郷町遺跡発掘調査団」が当ることとした。

調査を実施すると、各遺跡とも予想以上の範囲の広がりを示し、多量の造構・遺物が検出され、年度内に報告書を刊行することが不可能となった。そこで、昭和62年10月2日に、県教育委員会文化課指導主事・町産業課担当職員・町教育委員会担当職員・調査団長今村善興氏による保護協議を実施し、整理作業の実施と報告書の刊行を昭和63年度事業とすることとした。

## 2. 調査の経過

事業範囲は広大であり時間・費用が限られるため、効果的な調査が必要であった。そこで、機械力を使用してなるべく広範囲を調査するように留意した。しかし、耕作の関係から当初より全面的な発掘調査できず不効率な点があった。遺跡毎の調査の日程は次のとおりである。

**ツルサシ遺跡** 4月25日に発掘機材・テントを搬入し、27日より調査を開始する。5月6日までにグリット調査を行ない、住居址1軒を検出して12日までかかって調査する。8月に重機を導入して調査区の拡張とトレンチを設定して第I地区と第I・IIトレンチとし、9月9日から10月5日にかけて調査する。

**ミカド遺跡** 5月2日から7日でグリット調査を実施し、引き続き重機を使って3箇所の調査区を拡張し、それぞれ第I・II・III地区とし、6月24日まで順次調査を済ませる。8月に重機を使用して調査区を拡張して第IV地区とし、8月10日から9月14日にかけて調査する。

**増田遺跡** 8月に重機を導入して2箇所の調査区を拡張して第I・II地区とし、8月13日から9月18日にかけて調査する。

**垣外遺跡** 9月に重機を使って2箇所の調査区を拡張して第I・II地区とし、9月21日から11

月12日にかけて調査を実施し、11月に並行して2箇所の調査区を重複で拡張して第Ⅲ・Ⅳ地区として、11月5日から25日に調査し、測量等が12月8日までかかり全ての作業を終了した。

この間、6月6日にミカド遺跡、9月5日に増田遺跡、11月7日に垣外遺跡の現地説明会を実施して合計約350名の参加があった。

整理作業は昭和63年度に実施し、4月当初から10月まで遺物の復元等を行ない、並行して図面の整理・遺物の実測を進め、10月から2月に遺物の実測、遺構・遺物のトランク等を済ませ、2月に原稿を執筆して、本発掘調査報告書刊行となった。

### 3. 調査の概要

今次調査における調査面積・検出遺構は次のとおりである。

#### ツルサシ遺跡

第I地区………954m<sup>2</sup>、竪穴住居址1軒・方形周溝墓4基・建物址1棟・土坑1基

第Iトレンチ…242m<sup>2</sup>、竪穴住居址2軒

第IIトレンチ…206m<sup>2</sup>、竪穴住居址1軒・竪穴状遺構1基・溝址3本・土坑4基

グリット調査…272m<sup>2</sup>、竪穴住居址1軒・竪穴状遺構1基・溝状遺構1本

#### ミカド遺跡

第I地区………1655m<sup>2</sup>、竪穴住居址1軒・方形周溝墓2基・円形周溝墓2基・土坑5基・ロームマウンド2基・ピット多数

第II地区………770m<sup>2</sup>、方形周溝墓2基・建物址1棟・竪穴状遺構1基・溝址3本・土坑5基・ピット多数

第III地区………702m<sup>2</sup>、溝址4本・溝状遺構1本・土坑1基

第IV地区………827m<sup>2</sup>、方形周溝墓3基・溝址1本・溝状遺構2本・土坑5基・ピット多数

#### 増田遺跡

第I地区………465m<sup>2</sup>、竪穴住居址4軒・土坑37基・ピット多数

第II地区………635m<sup>2</sup>、竪穴住居址14軒・土坑49基・ピット多数

#### 垣外遺跡

第I地区………1570m<sup>2</sup>、竪穴住居址2軒・方形周溝墓2基・建物址7棟・溝址4本・小竪穴1基・土坑1基・ピット多数

第II地区………2174m<sup>2</sup>、竪穴住居址20軒・方形周溝墓6基・圓溝址2・溝址4本・溝状遺構3本・暗渠1本・土坑56基・ピット多数

第III地区………990m<sup>2</sup>、竪穴住居址11軒・方形周溝墓2基・溝址1本・土坑52基・ピット多数

第IV地区………801m<sup>2</sup>、竪穴住居址8軒・方形周溝墓1基・柱穴列1棟・溝址5本・集石炉1基・土坑2基

## 4. 調査組織

### 1) 上郷町埋蔵文化財調査委員会

#### ① 規約

##### (設置)

第1条 この会は、「上郷町埋蔵文化財調査委員会」(以下委員会という)と称し、事務局を上郷町教育委員会事務局に置く。

##### (目的)

第2条 この委員会は、上郷町内の関係各機関・団体及び考古学関係者の相互協力により、上郷町埋蔵文化財保護事業の円滑な実施をはかることを目的とする。

##### (事業)

第3条 この委員会は、前条の目的達成のため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 遺跡調査の総合企画・連絡・調整に関すること。
- (2) 土地所有者等の発掘承諾に関すること。
- (3) 発掘調査員及び作業員の確保に関すること。
- (4) そのほか目的達成に必要なこと。

##### (役職員)

第4条 この委員会に次の役職員を置く。

- (1) 顧問 1名、会長 1名、副会長 2名、委員若干名、事務局員若干名
- (2) 顧問は町長とし、そのほかの役員は委員会において互選する。
- (3) 委員は次の通りとする。  
教育委員 5名、文化財保護委員 5名、考古学関係者 3名、産業常任委員長、建設常任委員長、土地改良事業等地元代表者
- (4) 事務局員は関係各課局の職員を充てる。

##### (役員の職務)

第5条 会長は委員会を代表し、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。

##### (会議)

第6条 この委員会の会議は、会長の招集により開催する。

##### (そのほか)

第7条 この規約に定めるもののほか、会の運営に必要な事項は委員会において決定する。

##### 付則

1. この規約は、昭和62年4月10日より施行する。

## ② 役職員

顧問	山田 隆士（町長）	
会長	北原 忠夫（教育委員会委員長～62.9）	小室 伊作（同左 62.10～）
副会長	北原 治人（産業常任委員長～62.4）	岩崎 智道（同左 62.5～）
	小木曾英寿（文化財保護委員長）	
委員	小室 伊作（教育委員～62.9）	牧野 光弥（文化財保護委員）
	北原 勝（教育委員）	麥島 正吉（同上）
	矢崎 和子（同上）	菊本 正義（同上）
	北原政治郎（同上 62.10～）	福垣 隆（同上）
	吉川 昭文（教育委員会教育長）	堀口 信幸（別府小手抜地区）
	平栗 弘（建設常任委員長～62.4）	島中 尚二（別府下河原地区）
	篠木 俊寛（同上 62.5～）	北原 治作（大明神地区）
	今村 善興（日本考古学協会員）	中島 博男（下黒田中部地区）
	佐藤 鮎信（同上）	唐沢 富雄（南条地区）
	岡田 正彦（同上）	松沢 郷司（同上）
		佐々木啓治（上黒田東部地区）
事務局員	吉川 昭文（教育委員会教育長）	北原 克司（産業課課長）
	菅沼 富雄（同上 事務局長）	岡田 清平（同上 課長補佐）
	吉川 勝一（同上 局長補佐）	中園 緑（同上 耕地係長）
	山下 誠一（同上 社会教育係）	鈴木 幹夫（同上 主任～63.3）
	今村 美和（同上）	小室 勇治（同上 主事 63.4～）

## 2) 上郷町遺跡発掘調査団

調査団長 今村 善興（日本考古学協会員）

調査主任 山下 誠一（教育委員会社会教育係）

調査員 岡田 正彦（日本考古学協会員）、吉川 金利（63.4～）

調査補助員 林 敏、米山義盛、伊藤泉（以上～63.3）、林 貴、市瀬楨子（63.4～）

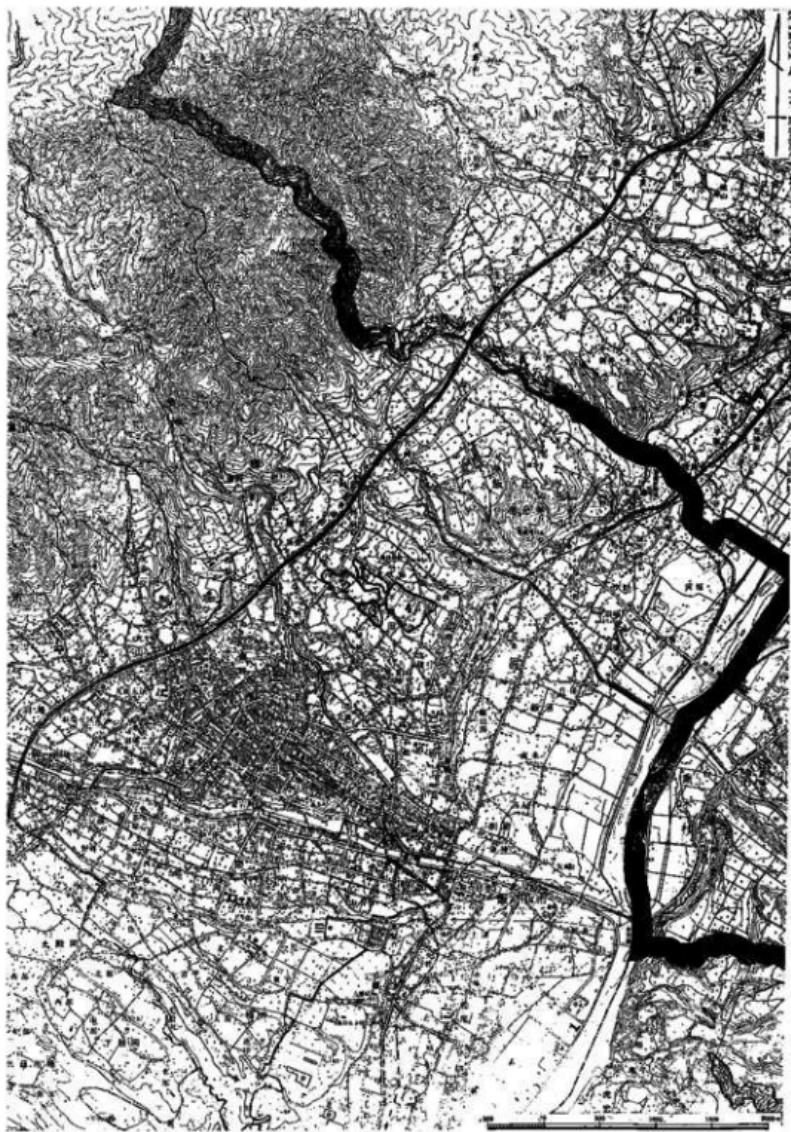
作業協力員 東定男、池戸大八、井坪芳一、今村春一、今村健栄、井上直樹、今井浩一、大坪安江、尾曾広男、柏原広司、柏原百合子、片桐正二、上沼文代、上柳久夫、北林覚男、北原利江、北原弘子、木下美香、桐生彰、小島英一、小西広司、小林薰、篠田せい子、島崎泰三、清水梅男、清水やち、下沢貞満、下田忠彦、鶴柄文雄、菅沼庄三、瀬古郁保、高橋美鈴、玉置巖、中島かずえ、中原友江、中村亮平、原祐三、堀口勇三、平谷恵子、福田千八、古林登志子、細田重、堀内英樹、松田照江、宮沢三枝子、宮脇直人、麦島孝男、村沢千代江、山岸章、山口明子、横前利男、吉川佐一、吉川健星、渡辺栄子

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 自然的環境

ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡の所在する長野県上郷町は、長野県の南端を南北に走行する南・中央アルプスの谷間に広がる飯田盆地の中央部に位置する。町を象徴する野底山が北西にあり、ここを源として清流野底川と土曾川が南流して飯田松川と天竜川に注いでいる。町の東側には天竜川を境として喬木村が、西は野底川を挟んで飯田市街地が、南は松川を境として飯田市松尾が、北は野底山と土曾川によって高森町と飯田市座光寺がそれぞれ隣接する。面積は約26km<sup>2</sup>で東西に細長い緩傾斜の地域である。一帯は諏訪湖に源を発して南流する天竜川とその支流によって形成された河岸段丘や扇状地上に、往古から現在に至る人々の生活舞台が展開している。

『下伊那の地質解説』によれば、伊那谷の段丘は火山灰土の堆積を基準として、高位面・高位段丘・中位段丘・低位段丘Ⅰ・Ⅱの五段階に編年されている。上郷町の地形の特徴として、町の中央部を南北に横断する大段丘があり、これを境として俗に上段と呼称される洪積土壌地帯の中位段丘及び低位段丘Ⅰと、下段と呼ばれる沖積土壌面の低位段丘Ⅱとがみられる。その段丘崖の比高約50mあり、前者には黒田地籍が、後者には別府・飯沼地籍がある。中位段丘・低位段丘Ⅱ地帯は天竜川の現河床面海拔398mとの比高差200~80mを測り、野底山山麓から南東方向に緩やかに傾斜する広大な地域を占めている。野底川による新期扇状地が発達し、総体とすれば乾燥した台地をなしている。ちなみに、中位段丘・低位段丘Ⅰ地帯は三大別でき、南西側に原の城遺跡等がある中位段丘下殿岡面、北東側に大明神原遺跡がある中位段丘八幡原面があり、いずれも細長く小高い丘陵地形を呈している。この間の地域が低位段丘Ⅰ伊久間面で2×1kmの広い範囲となる。ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡は上郷町黒田下黒田地区に所在し、低位段丘Ⅰ伊久間面の海拔520~560mに立地する。下黒田地区は前述の原の城と大明神原の台地とそれに挟まれた一帯をいい、うねるように凹地と台地が連続して、台地上には良好な遺跡が存在している。調査遺跡の微地形をみると、中央に幅約50mの凹地帯がS字状に存在し、両側が南東方向に緩やかに傾斜する台地をなして遺跡の範囲となる。北東台地の北西寄りがツルサシ遺跡で、連続して南東寄りが垣外遺跡となる。最も広大な範囲を占めるのが垣外遺跡で、今次調査でも最大の調査面積となった。南西台地の北西寄りがミカド遺跡で、連続して南東寄りが増田遺跡となる。いわば、凹地帯を挟んでツルサシとミカド遺跡、増田と垣外遺跡が対峙する形で存在しており、いずれも密接な関連を持つ遺跡といえる。ちなみに、垣外遺跡の南東側には桜畠・堀垣外遺跡、増田遺跡の南東側には福島遺跡がある。



挿図1 ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡位置図 (1. ツルサシ遺跡、2. ミカド遺跡、3. 増田遺跡、4. 壁外遺跡)



図2 ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡発掘位置図及び周辺図 (1:5,000)

## 2. 歴史的環境

上郷町の遺跡調査は、大正13年鳥居龍藏博士が『下伊那の先史及び原始時代図版』を編纂する際、市村成人氏と郡下一帯を調査したのを端緒とする。現在の上郷町の遺跡は、昭和57年度の詳細分布調査により明確にされたもので、一般遺跡69カ所・古墳32基・中世城跡3カ所の合計104遺跡が登録されている。一般遺跡を時代別に区分すると、縄文時代50、弥生時代47、古墳時代21、奈良・平安時代65、中世42を数えるが、単純遺跡は少なくその大半が複合遺跡である。

先ず上郷町の歴史的変遷を概観してみると、12000年前の旧石器時代の遺構・遺物は現在のところない。上郷町最古の文化は、上段の姫宮遺跡出土の表裏縄文式土器片と、同じく柏原A遺跡出土の石器剥片とより、縄文時代草創期からその黎明を知ることができる。次の縄文時代早期になると比較的山寄り八王子遺跡など5遺跡から、押型文土器や織維を含む条痕文及び撚糸文土器が出土しており、本年1月の西浦遺跡の町道新設に伴う調査において押型文の住居址が検出されている。約6000年前の縄文時代前期の遺跡は姫宮・日影林・大明神原など8遺跡があるが、いずれも上段の中位段丘と低位段丘I地帯であり、下段の飯沼・別府地域からの発見がなく、未だ沖積地帯への進出はなかったと考えられていたが、町道改良による矢崎遺跡の発掘調査において前期後半の堅穴住居址が検出されており、見直しが必要となった。しかし、次の縄文時代中期になると、低位段丘II地帯の南条面下段を除き、全町内に遺物の散布が目立ち、人々の生活の舞台の広がりを示している。特に、中期の遺跡49カ所中栗屋元・大明神原遺跡は重要遺跡である。この後に続く約4000～3000年前の縄文時代後期には遺跡は極端に減少し、上段を中心にして8遺跡が判明している。さらに、最終末の縄文時代晚期の遺跡は3カ所が知られていたが、先年新たに矢崎遺跡より条痕文土器片が多量に発見され、その出土意義が注目されている。

次の弥生時代は水稻栽培を経済基盤とする新文化であり、下伊那地方へは美濃・尾張・三河地方から東漸したものと推定される。弥生時代前期の遺物は少なく、中期に至って遺跡数が増大する。特に、南条面に立地する棚田遺跡は、県下初の弥生時代の水田址が発見されたことで有名である。また、該期の遺跡の大半は下段の飯沼・別府地籍に集中することから、低位段丘II地帯にみられた湿地帯を利用しての水稻耕作の展開が類推されている。約1800年前の弥生時代後期になると、その遺跡は山麓地帯から天竜川氾濫原に至る間に44カ所あり、高燥段丘上の陸耕と稻作が考えられる。その代表的なものが、住居址43軒を検出した高松原遺跡と今次調査の垣外遺跡である。

古墳時代は集落址と墓域に区別される。上郷町の古墳は煙滅古墳を含めて32基、その大部分は別府地籍の台地端に立地するが、いずれも後期古墳であり、天神塚と番神塚の両前方後円墳以外は全て円墳である。当時の集落は古墳の近在にみられ、現在のところ上段になく、下段の経済的基盤の豊かな地域に発見されている。代表的な集落として、古墳時代の前期及び後期の土師器を

多量に出土した南条の藏越遺跡と飯沼北の的場遺跡がある。また、矢崎遺跡内には焼滅した鳥屋場古墳と久保古墳があり、当該期の土師器や須恵器が周辺一帯から発見されている。

次の奈良・平安時代の遺物は全町内に散在しているが、下段地帯の栗沢川・土曾の右岸に所在する高屋・堂垣外遺跡には多量の須恵器片がみられる。また、昨年度調査した矢崎遺跡は平安時代の大集落址で、大規模な鍛冶遺構の検出とフイゴ羽口や鉄滓等の多量の出土遺物により、上郷町の重要な遺跡となった。この低位段丘Ⅱ地帯は、伊那郡衙と言われる飯田市座光寺の恒川遺跡群と同一段丘面上にあり、しかも古代条里製造構の存在が地割と地名から推測される地帯であり、古代史研究上注目すべき地域である。また、海拔410mラインは都と国府を結ぶ官道東山道の通過候補地であり、製鉄史研究者の注目的となっている。この地方は『和名抄』、『伊呂波字類抄』等の文献から、古代伊那郡五郷のひとつである麻績郷に所属し、平安時代末期には近衛家領の郡戸庄であった。このように、ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡の所在する上郷町は、当地方の文化高揚地帯であり、恵まれた自然・歴史的環境の中に立地しているのである。

### 3. 層序

調査が広範囲に及ぶため一様ではないが、基本的には共通する点が多い。遺跡が傾斜地に立地し、水田として利用されているので、造成により地形を改変している。水田の先端部分は比較的良好に層位が観察できたので、そこを主体として挿図3で模式的にあらわした。遺跡ごとに説明を加える。

**ツルサシ遺跡** 第I地区2号住居址付近と第Iトレンチ4号住居址付近のものである。前者の遺構検出面は褐色土層下部で、これはどの地区でもほとんど共通している。その上の黒褐色土層が弥生時代の遺構面である。後者では褐色土ではなく、いずれも造成などによる人为的な層の可能性が強く、傾斜地における土地利用の姿をあらわしている。

**ミカド遺跡** 第I地区土抗1付近と第II地区方形周溝墓3付近のものである。いずれも遺構検出面は褐色土下部である。現水田面の耕土の下にも第I地区で1層、第II地区で2層の旧水田面がある。第II地区的漆黒色土が弥生時代の遺構面である。第III・IV地区もほとんどこれに共通する様相を示す。

**増田遺跡** 第I地区土抗79付近と第II地区4号住居址付近のものである。いずれも遺構検出面は褐色土下部であるが、水田の造成を受けている前者は褐色土が薄い。

**垣外遺跡** 第I地区6号住居址付近と第II地区27号住居址付近のものである。前者では、3層の水田面があり、その下が黒褐色土・褐色土となる。この層は水田の造成で削平されている箇所も多く、その場合耕土の下がすぐにローム面上層となる。後者は水田耕土の下に厚い埋土があり、その下が旧水田面となる。第I・II地区も同様であるが、前者は水田造成面が広く、黒褐色土・褐色土が見られないことが多かった。

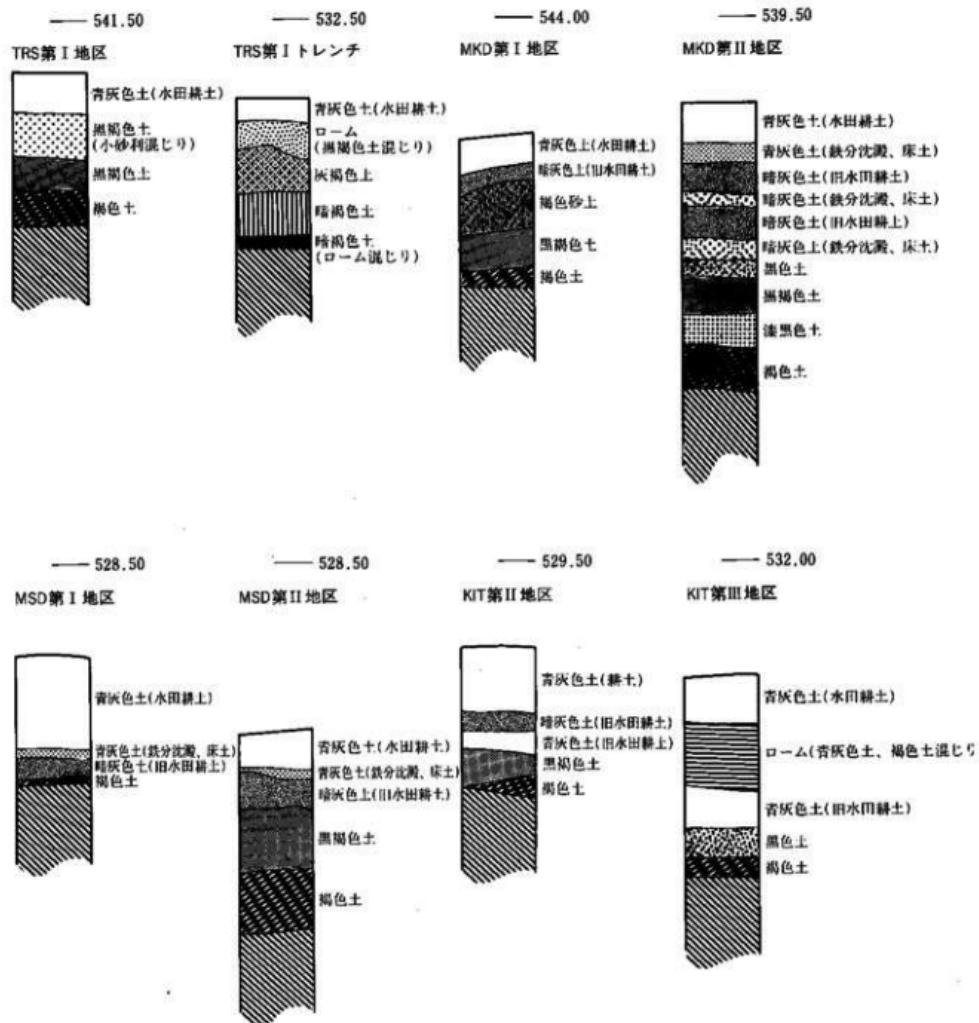


図3 ツルサシ・ミカド・増田・塙外遺跡基本土層柱状図

### III 調査結果

#### 1. ツルサシ遺跡

##### 1) 積穴住居址

###### ① 1号住居址（挿図4、第1・3図）

遺跡 第Iトレンチの北側でグリット調査時に床面が確認され付近を拡張して全体を調査した。5.0×4.9mの隅丸方形の積穴住居址で、主軸方向はN7°Eを示す。壁高は最も高い箇所で14cmを測るが、耕作などで擾乱を受けていて確認できない部分が多い。床面はたたき状に堅くきわめて良好であるが、部分的に耕作の擾乱を受けている。主柱穴はP1～P4で、P1・P2・P4は主軸に直交、P3は主軸方向に細長い状態で検出され、割り材使用の柱が考えられる。炉址から入口部にかけて3個の浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。南壁中央に位置するP5・P6は入口施設と考えられる。炉址は北側主柱穴の中間に位置する土器埋設炉で、床面を45×40cmの楕円形に掘り凹めて、口縁部と底部を欠く甕を埋めている。土器の北側に焼土が認められた。

遺物 土器と石器がある。出土量は少ないが、全て床面上もしくはその直上から出土している。土器は、壺（1-1・2）・甕（1-3・4）がある。壺（1）は口縁部が短く内傾して折立し、この部分が無文の例は珍しい。底部も同一個体であり接合しないが胴部片もかなりみられる。甕（2）は炉址に使用されていたもので、櫛描の波状文と斜走短線文が施される。石器は当擦型で砂岩製の砥石（3-1）で、ほぼ全面に使用痕が認められる。

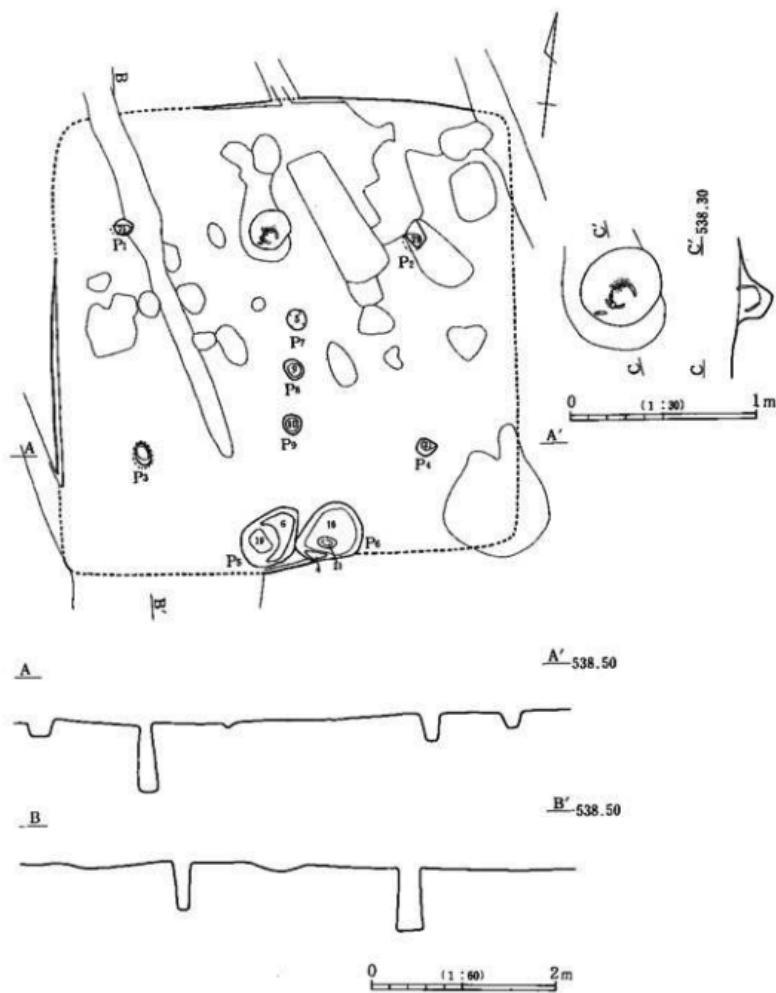
出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

###### ② 2号住居址（挿図5、第1・3図）

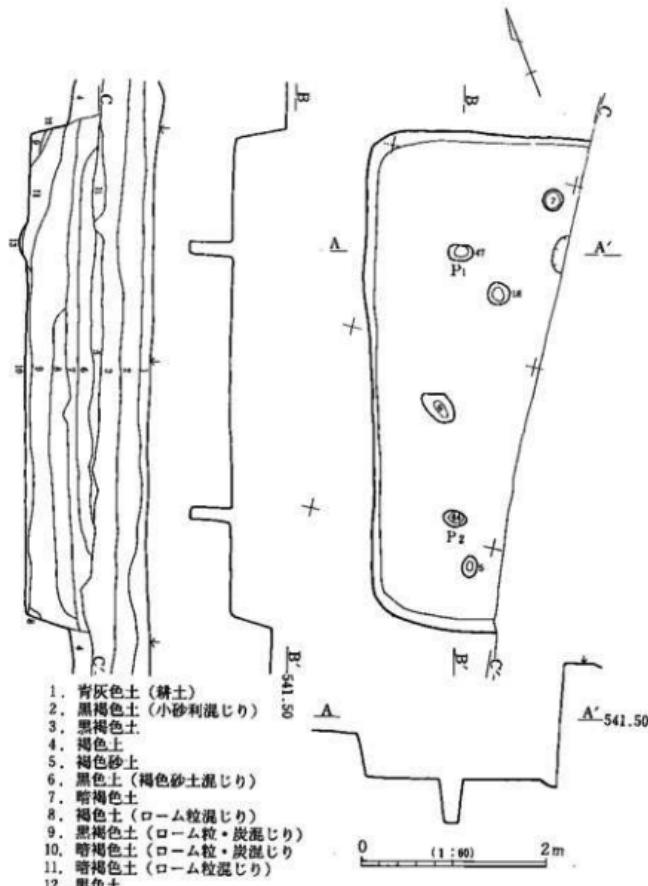
遺構 第I地区東側AM58を中心にして検出した。南東側が用地外にかかり、1/3程度を調査した。主軸方向が5.3mの隅丸方形と推定される積穴住居址で、主軸方向はN22°Eを示す。壁高は54～38cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は一部がたたき状に堅かったが、全体は軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P2で、主軸に直交する方向に細長い状態で検出され、割り材使用の柱が考えられる。炉址は北東側主柱穴間に位置する地床炉で、床面がナベ底状に凹みわずかに焼土が認められた。用地外に土層断面がかかったために本址が褐色土の上面から掘り込まれているのが確認できた。覆土下層には細かい炭と焼土が散布しており、火事の住居址である。

遺物 出土量は極めて少なく、甕（1-5・6）と有肩扁状形石器（3-2）がある。

出土遺物が少なく確定した時期を示すことは不可能であるが、弥生時代後期に位置づけられる。



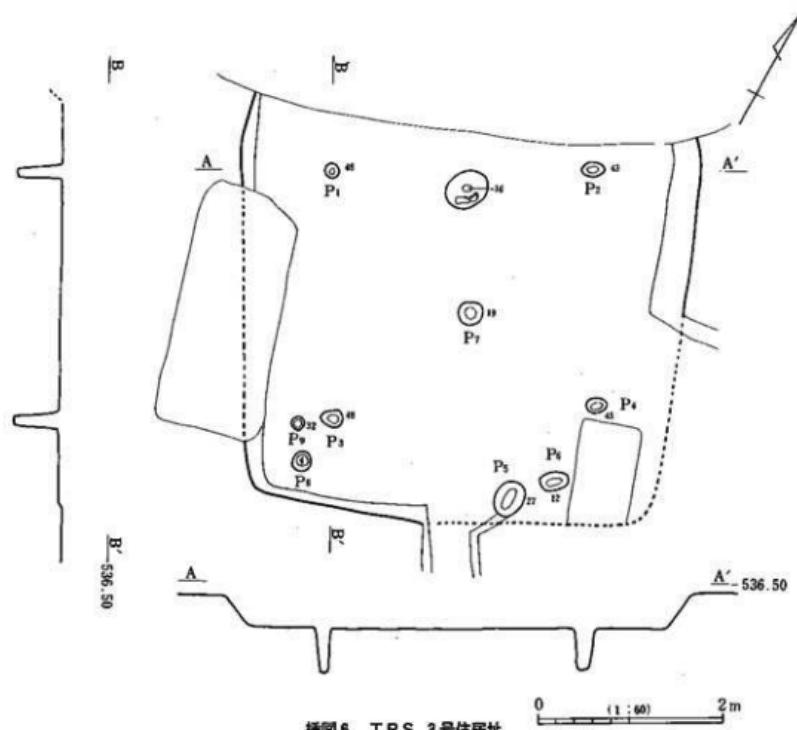
插図4 TRS 1号住居址



挿図5 TRS 2号住居址

③ 3号住居址（挿図6、第1・3図）

**遺構 第Iトレンチ西側で検出した。**土層のみきわめが難しかったために重機等で壁を飛ばしてしまった部分が生じ、北西側は近世陶器が1点出土した灰白色砂土の攪乱に切られるが、ほぼ全体を調査した。4.4×4.9mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN27.5° Wを示す。壁高は45~46cmを測り、やや分かり難く緩やかな壁面をなす。床面は灰黒色土層にロームをはり床とたたき状に堅く良好なものである。主柱穴はP1~P4で、P2・P3・P4は主軸に直交する方向に細



挿図6 TRS 3号住居址

長い状態で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁北東側のP5・P6は入口に関連する可能性が高い。炉址は北西側主柱穴中間や内側よりに位置する2個の炉縁石を有する地床炉で、床面を38×47cmの楕円形に掘り回めている。焼土・炭はほとんど確認できなかった。

**遺物** 土器・石器があり、土器は口縁部が受け口状を呈する壺（1-7・8）と口縁部が面取りされる外来系の壺（1-9）、小型壺（1-10）、壺の底部（1-11・12）があり、石器はやや大形の横刃形石器（3-4・5）と磨製石器未完成品（3-6）がある。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

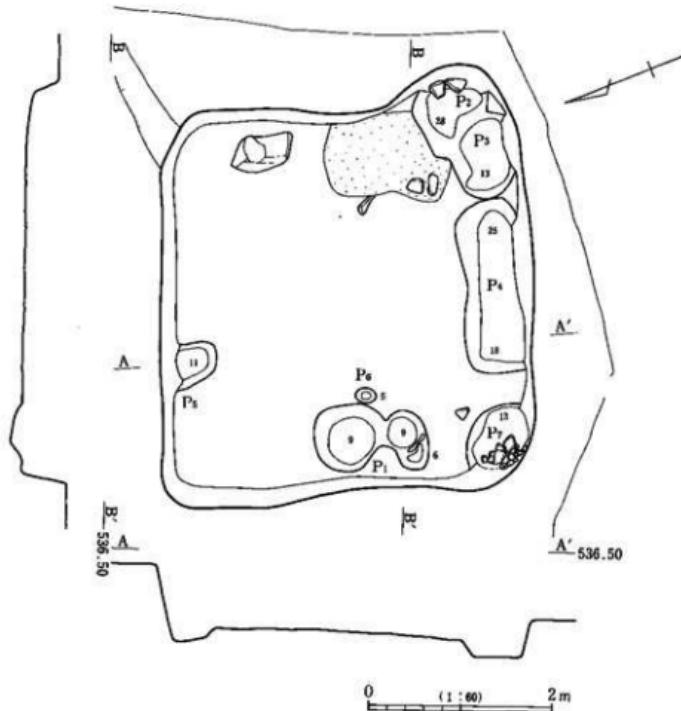
#### ④ 4号住居址（挿図7、第2・3図）

**遺物** 第Iトレンチ東側で検出し、全体を調査した。4.5×4.0mの隅丸方形の堅穴住居址で、主軸方向はN65°Wを示す。壁高は66～15cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、全体に軟らかく状態は悪い。北東壁下東隅寄り140×90cmくらいの範囲に焼土が

散布しており、この部分にカマドが設けられていたと考えられるが、残存状態が悪く形態・規模等は不明である。カマド東側にあるP2・P3は貯蔵穴もしくは灰だめの穴と考えられる。ほかに、壁ぎわを主体に穴が認められるが、役割を特定できるものはない。P7には15cm以下の石が入っていた。

遺物 土器と鉄器があり、出土量は多くない。土器（第2図）は、土師器ハケ壺（4）・ロクロ壺（2・3）・内面黒色の糸切り壺（6）、須恵器ヘラ切り壺（7）・糸切り壺（8・9）・高台壺（10・11・12）、灰釉陶器長颈瓶（5）があり、鉄器は断面形が方形でハリガネ状を呈するもの（3・19）がある。

出土遺物から奈良時代後半に位置づけられる。



擇図7 TRS 4号住居址

⑤ 5号住居址（挿図8、第2・3図）

遺構 第IIトレンチの北西側で検出した。トレンチ設定の際一部の壁をとばしてしまったが、ほぼ全体を調査した。6.3×4.8mの隅丸長方形の堅穴住居址で、主軸方向はN37°Wを示す。壁高は80~31cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は北東側はたたき状に堅く良好であるが、南東側は軟らかく分かり難い。主柱穴はP1・P2と考えたが、いずれも深さ10cmしかなく問題を残す。P3は2段の掘込みを持ち入口部と考えられ、その西側には長さ104cm・幅16cmの小溝があり、関連が想定される。周溝が北東壁下全面と北西壁下に一部断絶しながら確認できた。幅8~14cm・深さ2~9cmを測る。炉址は北東壁寄りに位置する土器埋設炉で、床面を100cm前後の円形に掘り凹め、口縁部と底部を欠く壺と壺の胴部片を埋めている。周辺に焼土が認められた。南側を主体として炭が散布しており火事の住居址である。



挿図8 TRS 5号居住址

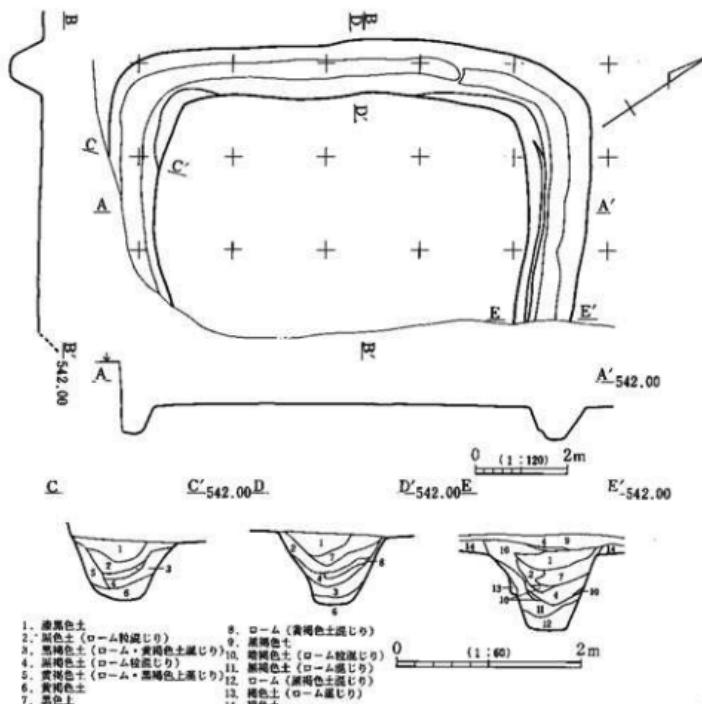
遺物 土器と石器がある。土器は(第1図)、外面へラミガキ・内面へラケズリされる単純口縁の甕(13)、内外面がヘラミガキされる甕(14)、平底甕の底部(15)、台付甕(16)があり、前二者は炉址の埋設土器である。石器(第3図)は、打製石斧(7・8)・小形の有肩扁状形石器(9)・抉入打製石庖丁(11)・横刃形石器(10)・砾石(12)がある。

出土遺物より弥生時代後期終末から古墳時代前期前半に位置づけられ、後者の可能性が高い。

## 2) 方形周溝墓

### ① 方形周溝墓1(拵図9、第2図)

遺構 第I地区AN55を中心にして検出し、南東側が土盛りとなり半分ほどを調査した。北東南西方向が約3mを測る方形周溝墓である。周溝は幅1.4×1.0m・深さ80~85cmを測り、断面形は逆台形を呈し、内側がやや急な立ち上がりをなす。北東溝の内側は中途で段をもつ。中途で段を持つ箇所が多い。主体部は中央部を詳細に調査したが確認できなかったが、もう少し土層を見



拵図9 TRS 方形周溝墓1

極める必要があった。

遺物 遺物はほとんどなく、周溝内から弥生土器の壺の底部（2-13）、石器の剣片がある。

時期を決定する遺物はないが、方形周溝墓2・4との関連から古墳時代前期前半に位置づくと考える。

### ② 方形周溝墓2（挿図10、第2・3図）

遺構 第I地区AO43を中心にして検出し、全体を調査した。方形周溝墓3を切る。10.0×9.2mを測る方形周溝墓で、長軸方向はN50°Wを示す。南東周溝は方形周溝墓3と重複するが土橋部ではなく、周溝が全周する形と考えられ、この溝を利用して造られたと考えられる。周溝は幅1.8×1.0m・深さ41～75cmを測り、断面形は逆台形を呈し、中途で稜を持つ箇所が多い。主体部は中央部を詳細に調査したが確認できなかったが、もう少し土層を見極める必要があった。

遺物 出土量は少ないが、周溝内北隅の底からやや浮いた位置から完形の布留式土器の壺（2-14）が出土している。ほかに、弥生土器の底部（2-15・16）と粗製の石匙（3-13）がある。

出土遺物から古墳時代前期前半に位置づけられる。布留壺の検出は当地方で6例めであり、土器を通じての地域交流を考える上で貴重な資料になるといえる。

### ③ 方形周溝墓3（挿図10）

遺構 第I地区AL42付近で検出し、南東側が水田の造成で低くなっていることもあり、北西周溝のみを調査した。方形周溝墓2に切られる。北東・南西方向が7.0mを測る方形周溝墓である。周溝は南西側でとぎれて土橋部となる。周溝は幅2.0×1.2m・深さ60～89cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

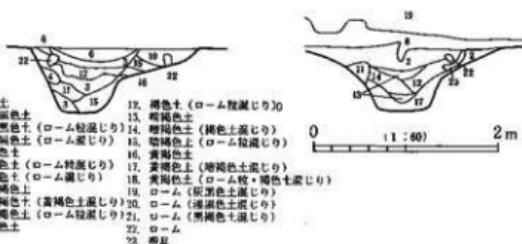
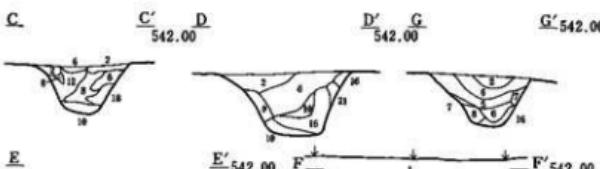
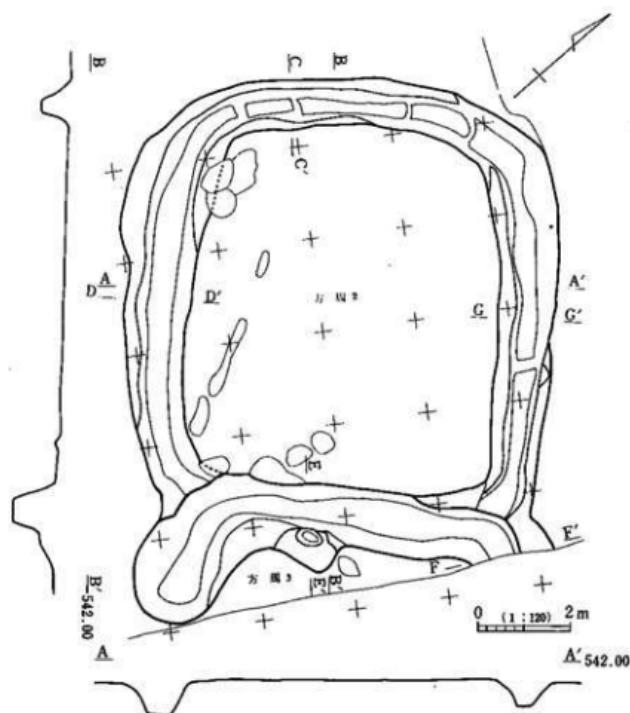
図示しうる遺物はなく、弥生土器の破片が8点あるのみである。切り合い関係から弥生時代終末から古墳時代前期前半に位置づけられる。

### ④ 方形周溝墓4（挿図11、第2・3図）

遺構 第I地区AN38を中心にして検出し、全体を調査した。10.0×9.5mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN40°Wを示す。土橋部がなく、周溝が全周する形だが、南・東隅がやや浅くなる。周溝は幅0.8×2.0m・深さ23～84cmを測り、断面形は南東溝を除いて途中で稜を持った逆台形を呈する。主体部は中央部を詳細に調査したが確認できなかったが、もう少し土層を見極める必要があった。

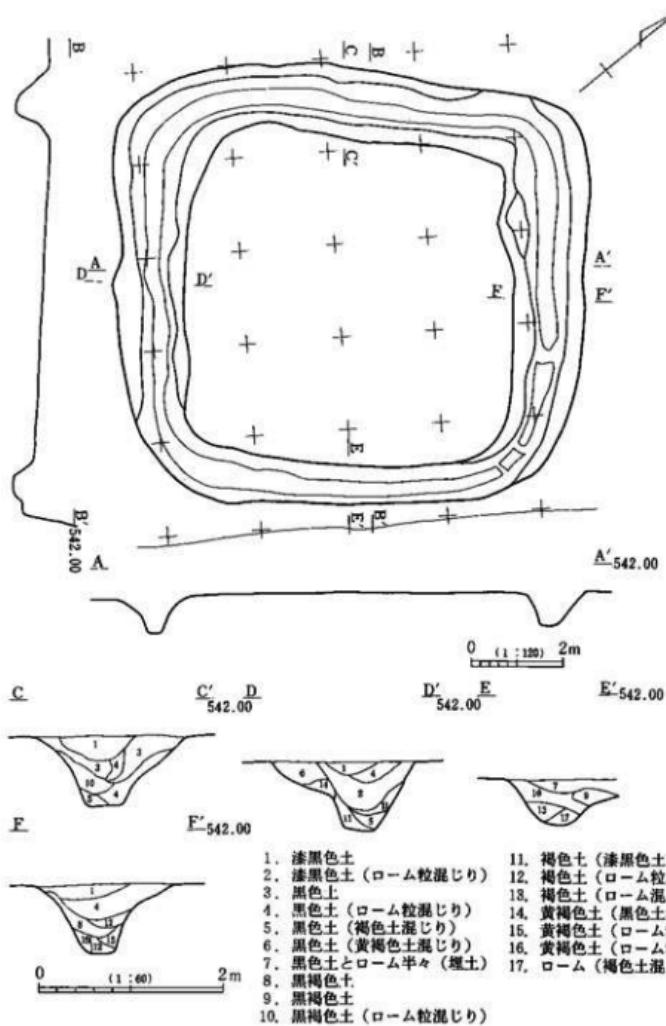
遺物 出土量は少ないが、周溝内西隅の底からやや浮いた位置からほぼ完形の鉢（2-18）、南西溝から水晶の結晶（3-17）が出土した。ほかに、弥生土器の底部（3-19）と横刃形石器（3-14）がある。

出土遺物から古墳時代前期前半に位置づけられる。方形周溝墓2と同時期と推定される。



1. 砂土  
2. 深褐色土  
3. 淡紫褐色土  
4. 深褐色土 (ローム状じり)  
5. 黄褐色土  
6. 黑褐色土 (ローム特徴じり)  
7. 黑褐色土 (ローム混じり)  
8. 黄褐色土  
9. 黄褐色土 (淡褐色土混じり)  
10. 黑褐色土 (深褐色土混じり)  
11. 黑褐色土 (ローム特徴じり)  
12. 淡褐色土 (ローム特徴じり)  
13. 喀斯特土  
14. 喀斯特土 (褐色土混じり)  
15. 喀斯特土 (ローム粒混じり)  
16. 黄褐色土  
17. 黄褐色土 (喀斯特土混じり)  
18. 黄褐色土 (ローム粒・褐色土混じり)  
19. ローム (褐色土混じり)  
20. ローム (深褐色土混じり)  
21. ローム (黒褐色土混じり)  
22. ローム  
23. 砂丘

插図10 方形周溝墓 2・3



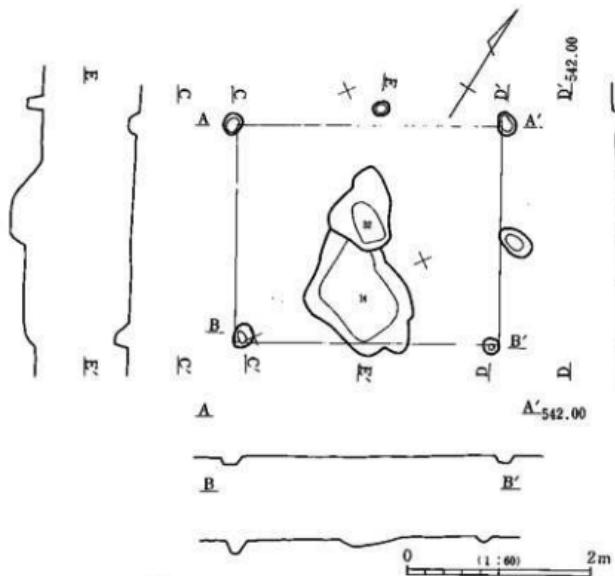
挿図11 TR S 方形周溝墓 4

### 3) 建物址

#### ① 建物址1 (挿図12)

遺構 第I地区AO54を中心にして検出した。黒色土の小ピットが6個方形に並び建物址ととらえた。2×2間の掘立柱建物址で、桁行2.8m・梁行2.3m、柱間は桁行1.46m・梁行1.16mを測り、桁行方向はN59°Eを示す。柱壠方は楕円形で、径26~18cm・深さ16~6cmを測る。中間の柱穴は歪んだ位置にあり、南東・南西側は検出できなかった。

出土遺物はなく時期の決め手に欠けるが、検出状況等から中世以降に位置づけられる。



挿図12 TRS 建物址1

### 4) 穹穴状遺構

#### ① 穹穴状遺構1 (挿図13、第2図)

遺構 地番1750-1の水田のグリット調査によって検出した。地主の自主的なほ場整備によって削平されていてわずかに残ったのみだったので、拡張しての調査はしなかった。長さ1,48cm・幅0.38cm程を調査し、壁高は25cm前後を測り、緩やかな壁面をなす。底部は平坦で、床面状に堅い。

出土遺物は縄文時代中期後半の土器片が1点（2-20）ある。部分的な調査に終わったのではつきり断定できないが、竪穴住居址の可能性が高く、時期は不明である。

### ② 竪穴状遺構2（挿図14、第2・3図）

遺構 第IIトレンチの中央部で検出した。溝址3に切られる。調査範囲は7×1.8mで、10cm前後の落ち込みとなる。覆土は耕土と同様な灰色土である。

縄文土器片12点・近世陶器片1点、横刃形石器（3-15）、鉄器（3-19）がある。

出土遺物や土層から近世以降に位置づけられる。

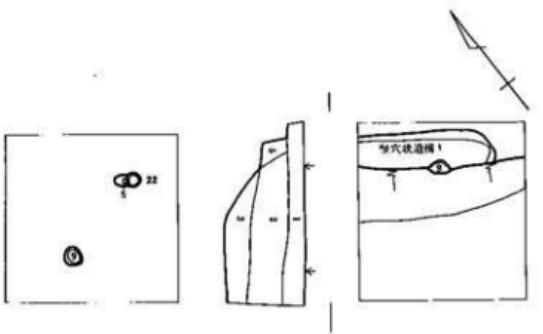
## 5) 溝址・溝状遺構

### ① 溝址1（第3図）

遺構 第IIトレンチで検出した。幅7.3m・深さ1.2~0.9mを測る。

土層はほとんどが砂層となり、かなり大きな川の跡である。土層からみれば、何回にわたっても流れている。

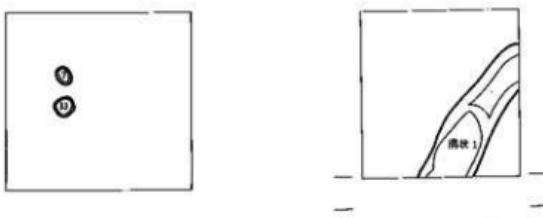
遺物は流れ込みによる石錐（3-16）がある。



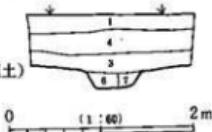
### ② 溝址2

遺構 第IIトレンチ溝址1の南東側で検出した。幅2.0m・深さ0.9mを測る。溝址1と同様に砂が主体の土層で、旧河道である。

出土遺物はなく、時期は不明である。



1. 灰色土（耕土）
2. ローム（灰色土混じり埋土）
3. ローム（灰色土混じり・埋土）
4. ローム（黒色土・灰色土混じり・埋土）
5. 黒色土（ローム混じり）
6. 黑褐色土
7. 黑褐色土



挿図13 TRS 竪穴状遺構1、溝状遺構1

### ③ 溝址 3 (挿図14図)

造構 第IIトレンチの中央部で検出した。竪穴状造構2を切る。幅1.0m・深さ18cmを測り、土層は砂で、小さな川の跡である。

出土遺物は流れ込みによる縄文土器が4点あるのみで、切り合い関係から近世くらいに位置づけられる。

### ④ 溝状造構1 (挿図13)

造構 地番1750-1の水田のグリット調査によって検出した。地主の自主的な場整備によって削平されていて底部がわずかに残ったのみだったので、拡張しての調査はしなかった。調査延長1.4m・幅52~40cm・深さ20~10cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。後のツルサシ・埴外遺跡の調査結果によれば、方形周溝墓の周溝である可能性が高く、この箇所だけでも拡張すべきであった。

## 6) 土坑

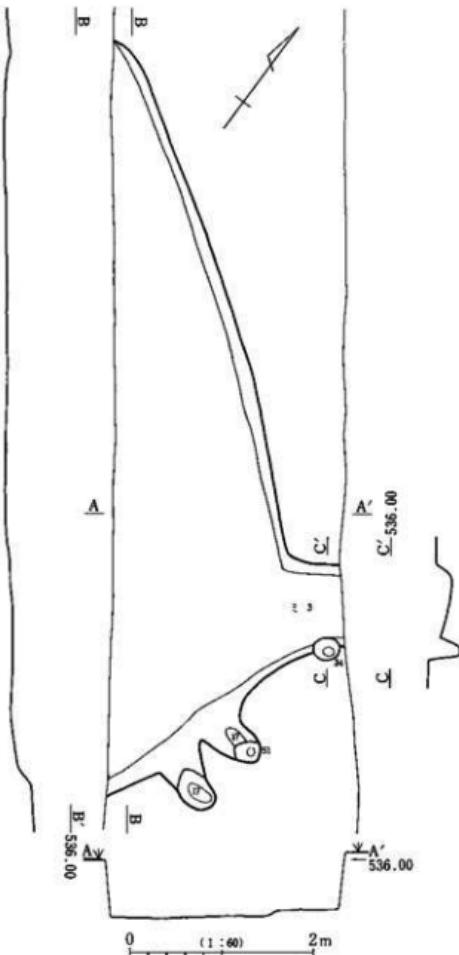
### ① 土坑1 (挿図16、第2図)

造溝 第I地区AP42で検出した。方形周溝墓2に切られる。60×55cmの精円形を呈し、深さは17cmを測る。断面形は逆台形を呈する。北西側で2個の土坑と重複する。

縄文時代後期終末の土器片(2-21)がある。

### ② 土坑2 (挿図16)

造溝 第IIトレンチで検出した。95×95cmの角張った円形を呈し、深さは34cmを測る。断面形は段を持つ逆台形を呈する。



挿図14 TRS 竪穴状造構2、溝址3

出土遺物は縄文時代中期  
土器の小片がある。

③ 土坑3（挿図16）

遺構 第IIトレンチで検出出した。1.7×1.3mの不整形を呈し、深さは15～37cmを測る。断面形は逆台形を呈する。いくつかの土坑が重複したものであろうが、一つととられた。

遺物 縄文時代中期中葉の深鉢（2-22～25）で、22・23は同一個体である。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

④ 土坑4（挿図16）

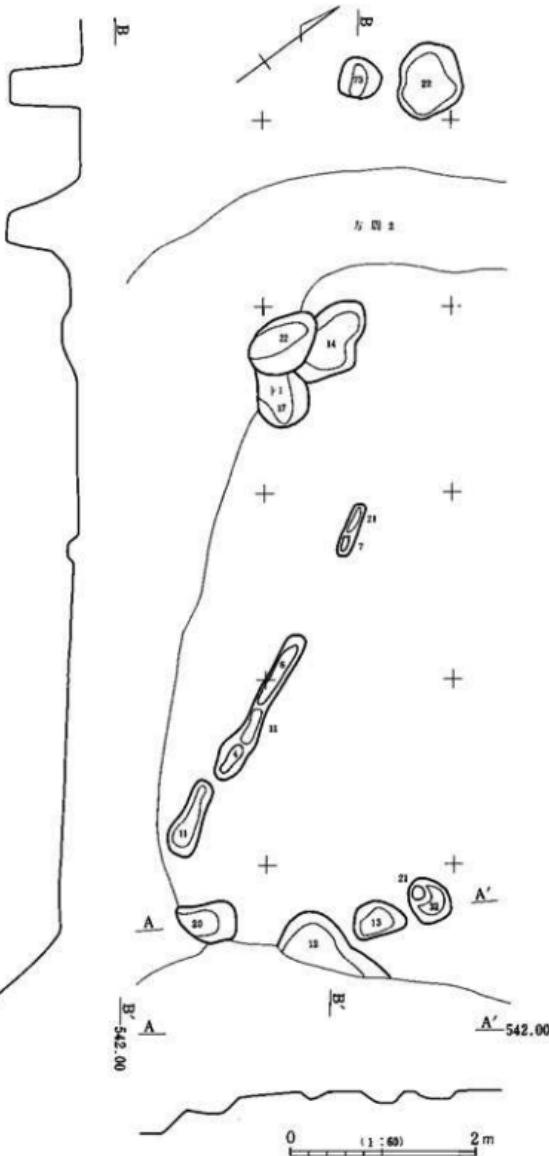
遺構 第IIトレンチで検出出した。110×95cmの角張った楕円形を呈し、深さは23cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物は縄文時代中期土器の小片がある。

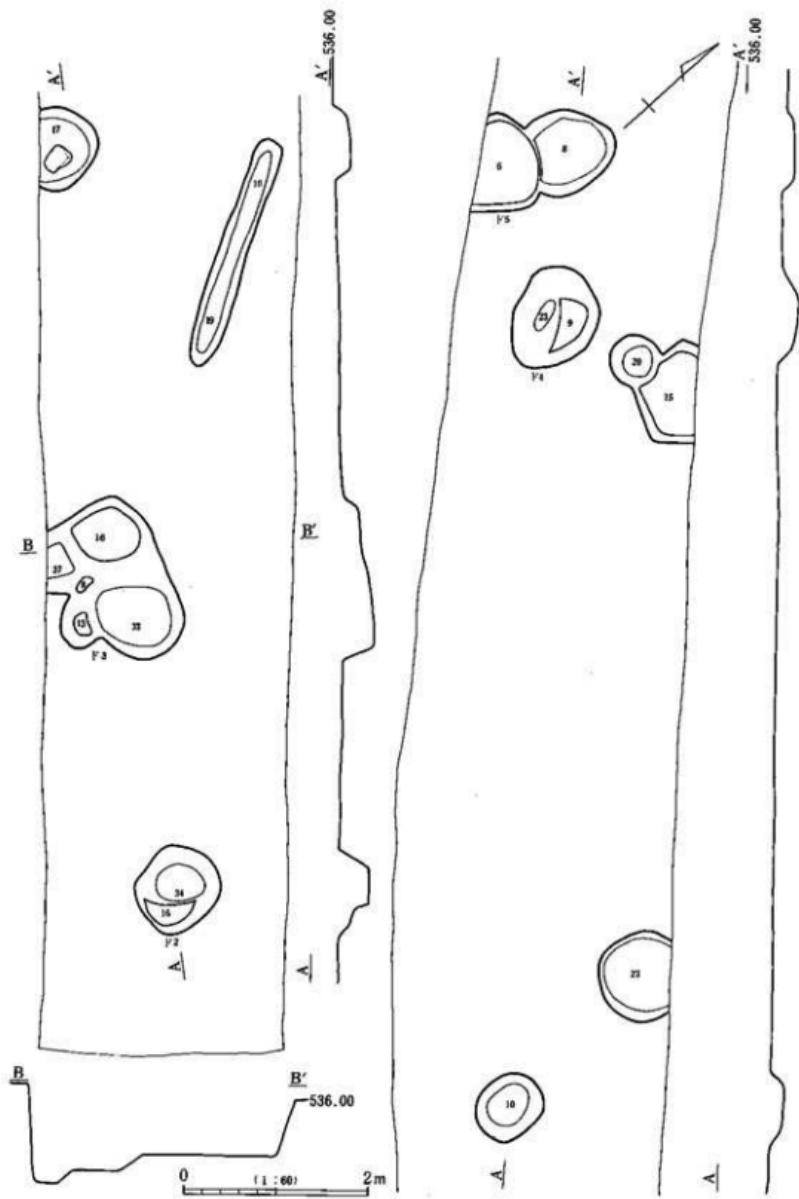
⑤ 土坑5（挿図16）

遺構 第IIトレンチで検出出した。180×110cmの不整形を呈し、深さは20cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物は縄文時代中期土器の小片がある。



挿図15 TRS 土坑1、ピット、小溝



插図16 TRS 土坑2・3・4・5

## 2. ミカド遺跡

### 1) 壺穴住居址

#### ① 1号住居址（挿図17）

遺構 第I地区B B 107を中心にして検出した。南東側が未掘となり、半分強を調査した。主軸方向の長さが7.2mの隅丸の壺穴住居址で、主軸方向はN $27^{\circ}$  Eを示す。壁高は38~11cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はたたき状に堅く良好であるが、南西側半分ほどは軟弱で状態は悪い。主柱穴はP1のみ検出した。西隅から南西壁下に位置するP2は、3.6×1.9mの丸みを帯びた方形を呈し、二段の落ち込みをなして、深さ31cmを測る。南西壁北隅より、壁が内側に106×70cm張り出す箇所があり、断ち割ったところ地山のロームを掘り残してあった。炉址は中央北東側と南西側の2箇所にあり、いずれも炉様石を有する地床炉で、前者は49~44cm・後者は48~43cmに床面をわずかに掘り凹めてある。前者にかなりの焼土、後者にわずかの焼土が認められた。

遺物 出土量は極めて少なく、弥生土器片13点・縄文土器片1点・石器剝片3点があるのみで、図示し得るものはない。

時期を決定する遺物に欠けるが、住居址形態等から弥生時代後期に位置づけられる。

規模・炉址・住居址内の大穴・壁の張り出部など、通常の該期住居址と異なる点が多い。また、単独の検出であり、集落を構成するものでもない。以上を勘案すれば、特殊な用途の住居址と考えられる。墓域との関連を想定する必要があろう。

### 2) 方形周溝墓・円形周溝墓

#### ① 方形周溝墓1（挿図18、第4図）

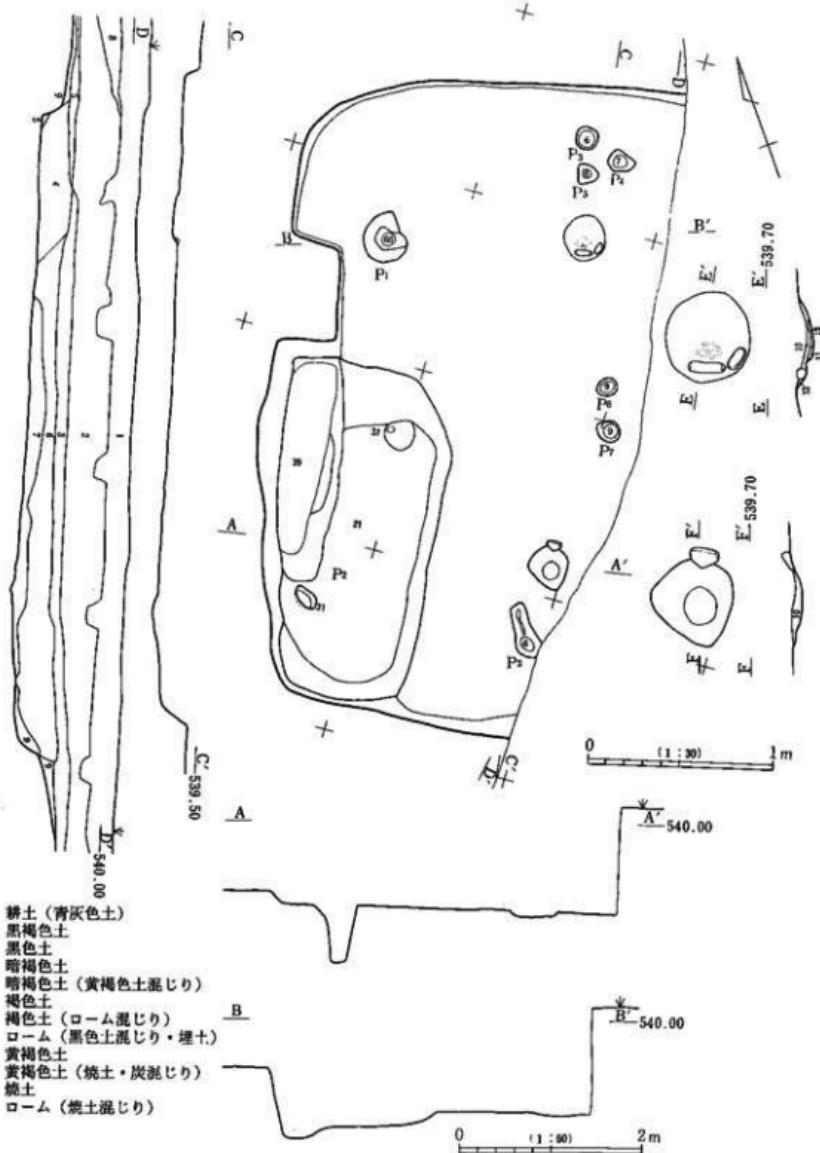
遺構 第I地区B B 102を中心に検出し、全体を調査した。土坑3・4・5と重複し、上層が耕作の溝に切られる。12.8×11.8mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN $61.5^{\circ}$  Wを示す。南東溝ほぼ中央が2.2mとぎれ、土橋部となる。周溝は幅2.0×1.0m・深さ84~35cmを測る。断面形は基本的に逆台形を呈し、中途で稜を持つ箇所がある。壁面は内側が急な、外側は緩やかな立ち上がりをなす。主体部は確認できなかった。

遺物 弥生土器片5点・縄文土器片1点・石器3点があり、打製石斧（4-1）を図化した。

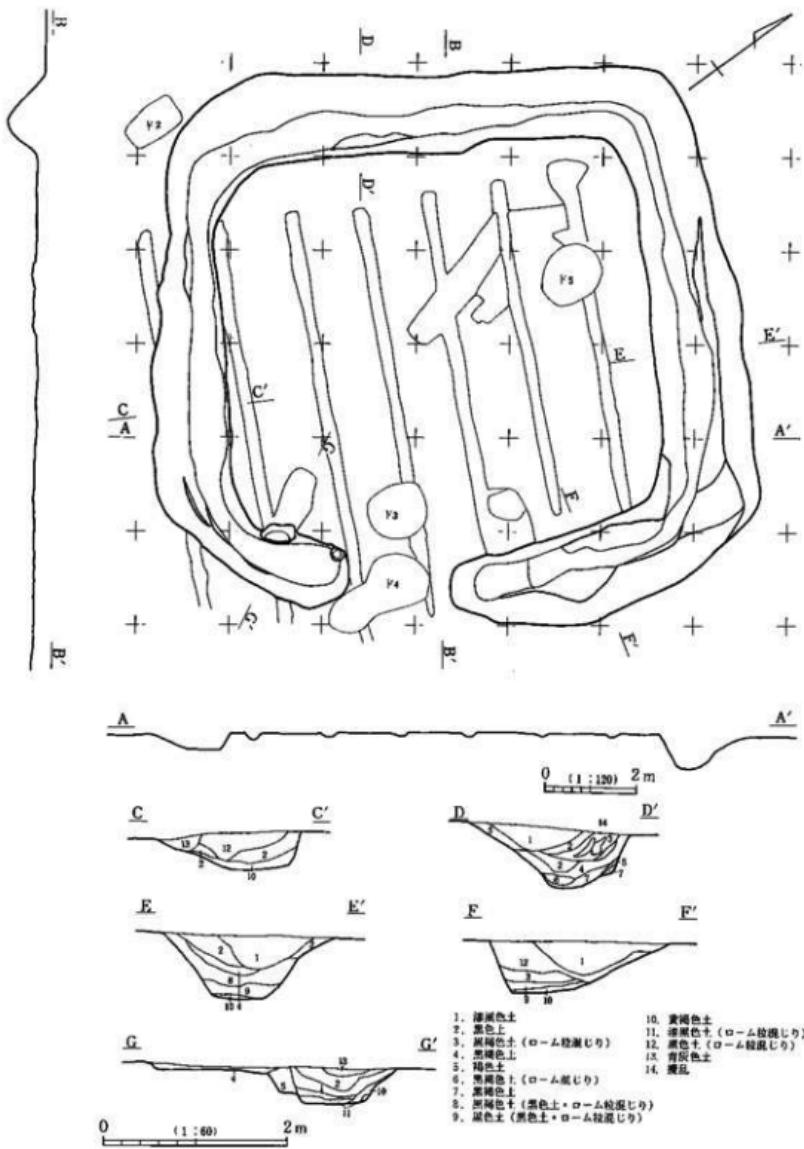
出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。

#### ② 方形周溝墓2（挿図19、第4図）

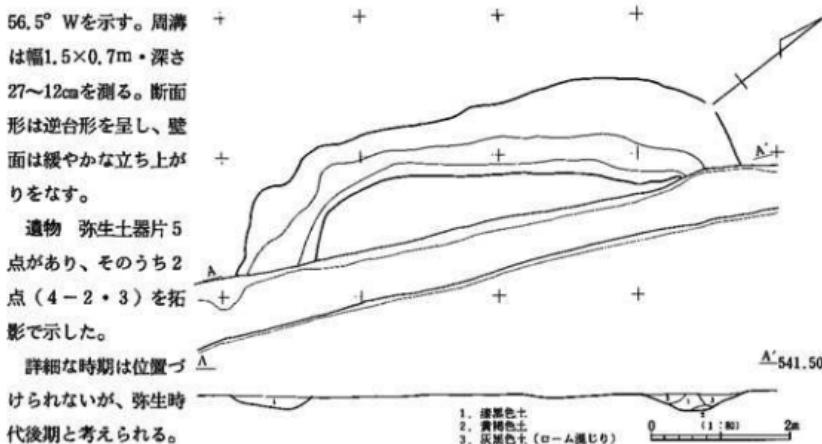
遺構 第I地区B X 97を中心に検出した。南東側が水田の造成で削平されており、北西溝と西隅を調査した。北東・南西方向が7.3mを測る方形周溝墓で、周溝から推定される主軸方向はN



擇図17 MKD 1号住居址



插図18 MKD 方形周構墓 1



挿図19 MKD 方形周溝墓 2

### ③ 方形周溝墓 3 (挿図20、第4図)

**造構** 第II地区B F 63を中心検出し、南側が用地外にかかるため、半分程を調査した。方形周溝墓 4を切る。東西方向が9.1mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN 23.5° Wを示す。周溝は幅1.0×0.6m・深さ48~34cmを測り、断面形は中途で稜を持つ逆台形を呈する。壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は2.6×1.9mの長方形を呈し、深さは50cmを測る。水田の先端の用地外にかかったため、造成による地形の変更を受けておらず良好な土層が観察された。上層から3回にわたる水田面があり、その下が灰褐色砂質土となる。主体部が黄褐色土を主体とした上で埋められていたので、漆黒色土上面から掘られているのが観察され、周溝には漆黒色土が落ち込んでいた。いずれも、基本的に水平の土層となる。これらにより、本址の構築面が漆黒色土上面で、盛り土はほとんどなかったと考えられる。

**遺物** 周溝から弥生土器片 1点、縄文土器片 3点、石器 1点出土し、主体部は慎重に掘り下げたがなにもみられなかった。縄文時代晚期の深鉢片(4-4)と弥生時代後期前半の壺片(4-5)を拓影で示した。

出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。

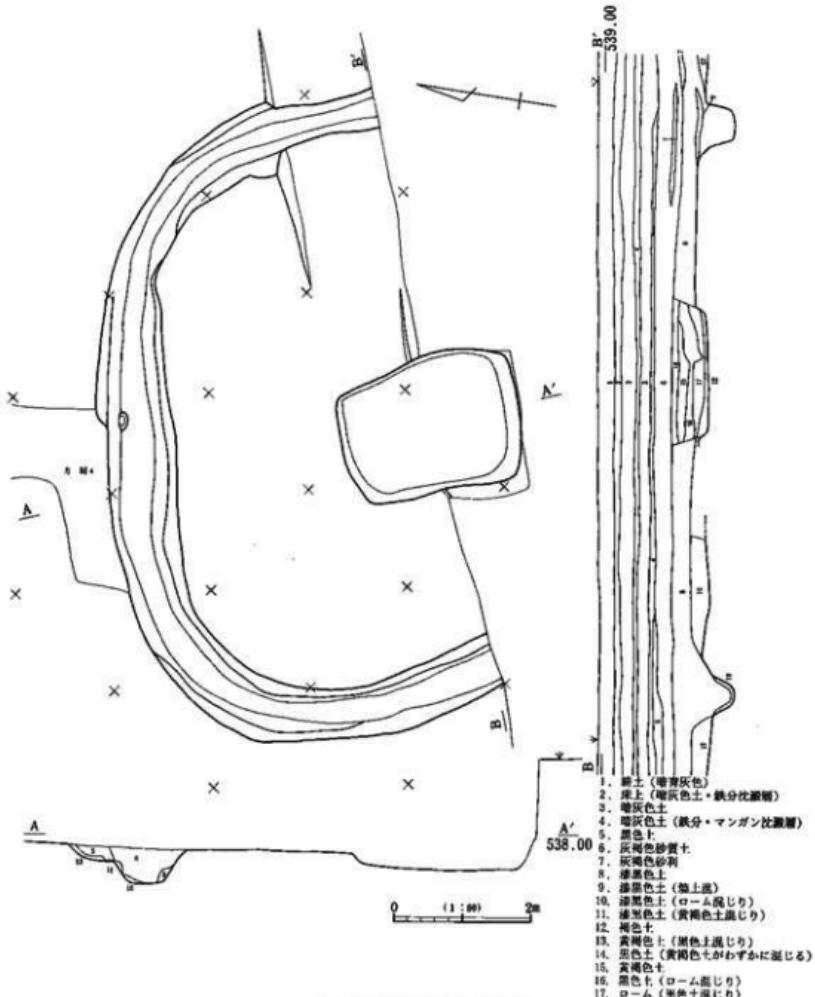
### ④ 方形周溝墓 4 (挿図21、第4図)

**造構** 第II地区B I 64を中心検出し、全体を調査した。方形周溝墓 3に切られる。7.2×6.5mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN 16° Wを示す。南溝ほぼ中央が2mとぎれ、土橋部となる。周溝は幅134×54cm・深さ29~10cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面は緩やかな立ち上がり

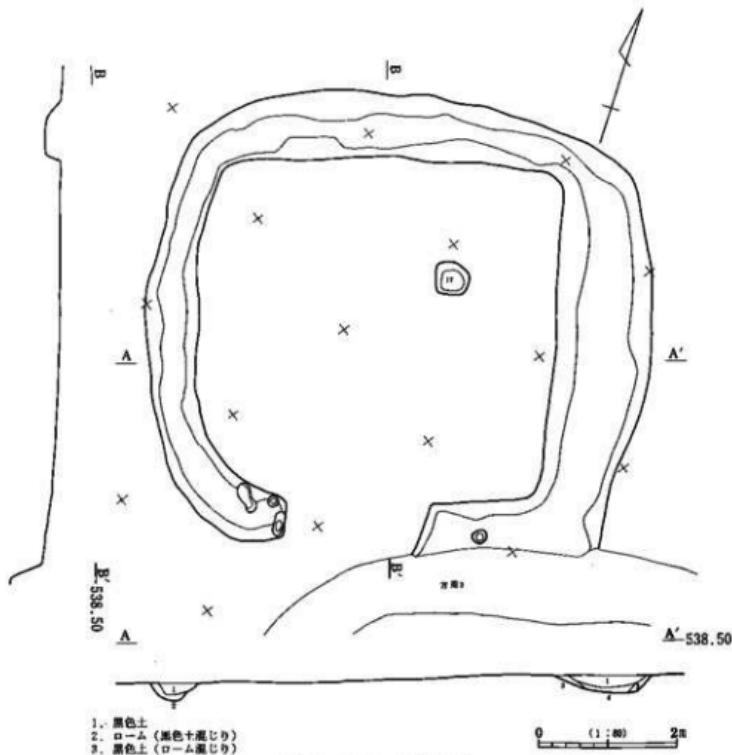
をなす。主体部は詳査したが確認できなかった。

遺物 周溝内から弥生土器片1点(4-6)が出土した。

出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられ、方形周溝墓3と密接な関連を持つものといえる。



挿図20 MKD 方形周溝墓 3



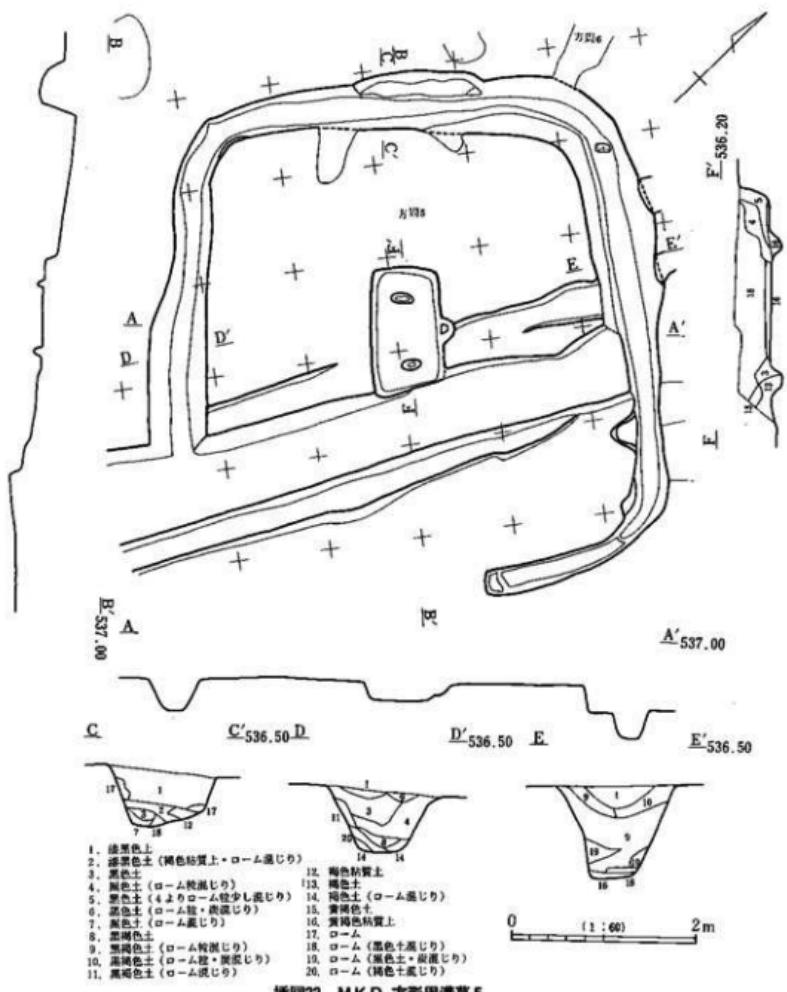
挿図21 MKD 方形周溝墓 4

##### ⑤ 方形周溝墓 5（挿図22、第4図）

**造構** 第IV地区Y K109を中心に検出した。南東側が水田の造成で削平されたため南側の周溝は一部確認できなかったが、ほぼ全体を調査した。方形周溝墓 6と重複する。11.2×11.2mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN47°Wを示す。南東溝東側は底が確認できたが、ほぼ中央で確認できず、土橋部考えられる。周溝は幅140×40cm・深さ117~13cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面は急な立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央や北西寄りに位置し、2.6×1.5mの長方形を呈する。底部に小口痕と考えられる小穴があり、この内側126×54cmの範囲がロームを主体とした土が入っており、周囲との違いが確認できた。これらにより、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。

**遺物** 周溝内から有柄石器（4-7）・横刃形石器（4-8）・磨製石斧（4-9）が出土した。主体部は慎重に調査したが何も出土しなかった。

出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。



插図22 MKD 方形周溝墓 5

#### ⑥ 方形周溝墓 6 (押図23、第4図)

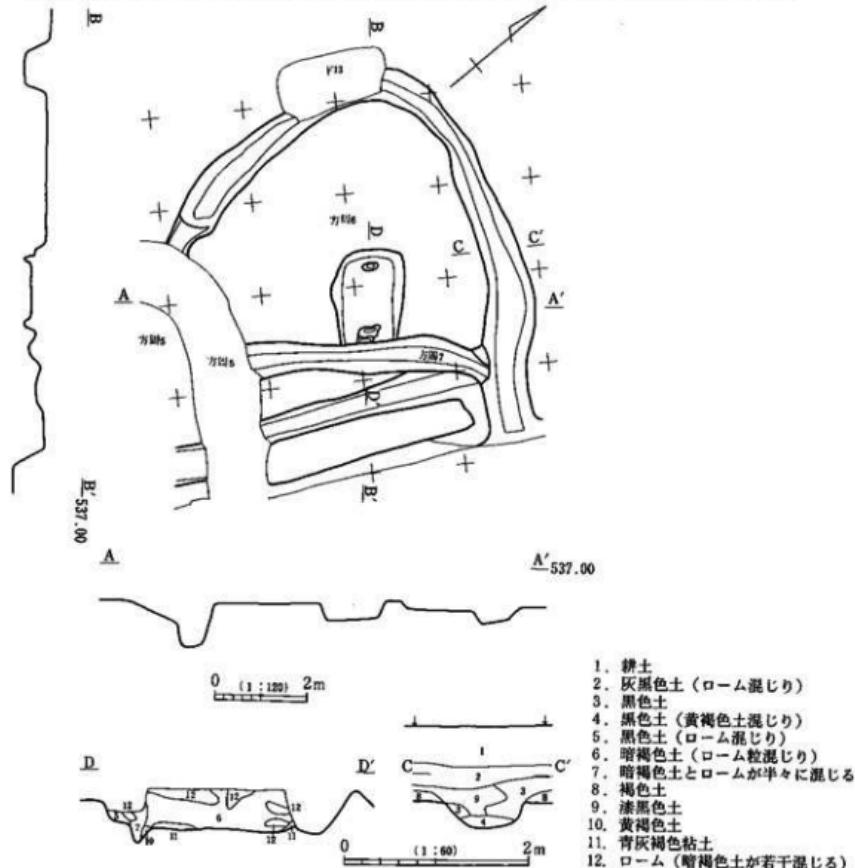
**遺構** 第IV地区YM113を中心に検出した。南東側が水田の造成で削平されたため南東溝が確認できなかった。方形周溝墓5・7・土坑13に切られる。北側にゆがみを持つ方形周溝墓で、主軸方向はN47°Wを示す。周溝は幅1.0~0.5m・深さ50~13cmを割り、西隅が9~4cmと浅くなる。断面形状は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央に位置し、2.0×1.4mの長方形を呈する。底部に小口痕と考えられる小穴があり、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。

遺物 周溝内から弥生土器3点が出土し、壺片(4-10)を拓影で示した。主体部は慎重に調査したが何も出土しなかった。

出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。

#### ⑦ 方形周溝墓7(挿図23)

遺構 第IV地区Y L112を中心に検出した。方形周溝墓5に切られ、方形周溝墓6を切る。南東側が水田の造成で削平されたため、北西溝を5.4m調査しただけである。周溝は幅76~52cm・



挿図23 MKD 方形周溝墓6・7

深さ50~13cmを測り、断面形は逆台形を呈する。壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。

遺物は何も出土しなかった。詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。

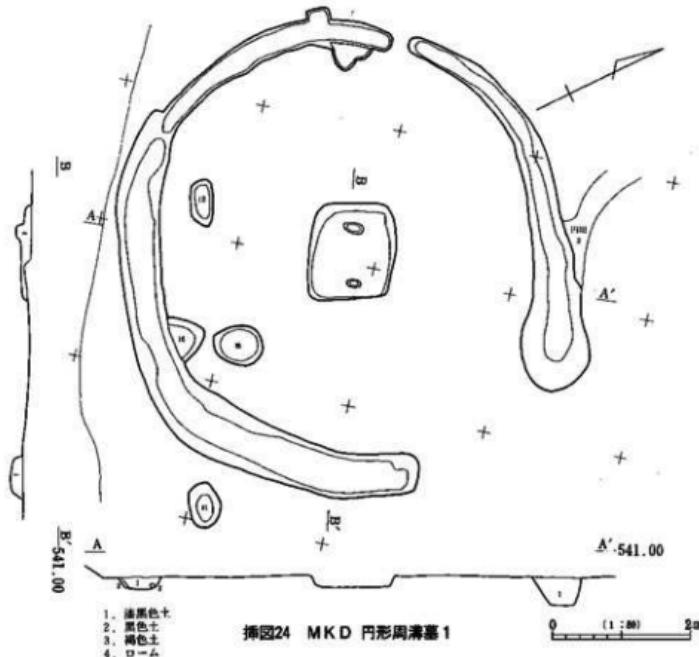
方形周溝墓 5・6・7は、6→7→5の順で構築されたと考えられ、それぞれ周溝が重複するなど密接な関連を持つものといえる。

### ⑧ 円形周溝墓 1（挿図24）

遺構 第I地区B Q96を中心検出した。円形周溝墓 2を切る。6.8×6.5mを測る円形周溝墓で、主軸方向はN47.5°Wを示す。溝が東側で2m・北西側で26cmとされ、前者は土橋部と考えられる。後者はこの部分が水田の造成で溝の上層が削平されており、本来は溝が存在したものと考えられる。周溝は幅100~26cm・深さ41~7cmを測り、断面形は逆台形を呈する。壁面はやや急な立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央に位置し、138×124cmの方形を呈する。底部に小口痕と考えられる小穴があり、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。

周溝内から縄文土器片4点・石器剣片2点が出土した。主体部の土は水洗したが何も出土しなかった。

出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。

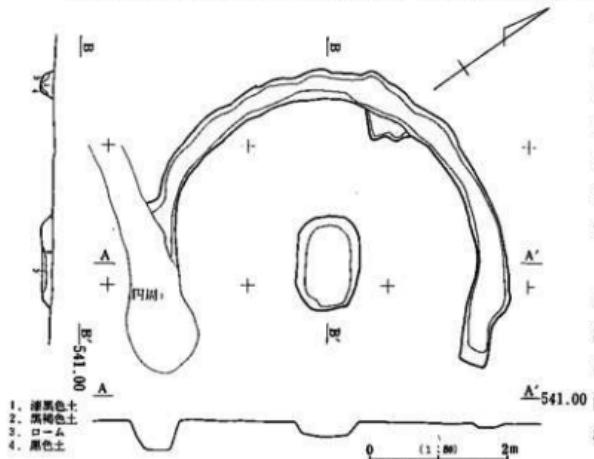


### ⑧ 円形周溝墓 2（挿図25）

遺跡 第I地区B Q98を中心して検出した。円形周溝墓1に切られる。5.2×4.2mを測る半円形を呈する円形周溝墓で、主軸方向はN53.5°Wを示す。南東側に溝はなく、大きな土橋部をなし

ている。周溝は幅56~28cm・深さ18~4cmを測り、断面形は逆台形を呈する。壁面は緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央に位置し、134×88cmの丸みを帯びた長方形を呈する。

周溝内から縄文土器片1点が出土した。主体部の土は水洗したが何も出土しなかった。出土遺物から詳細な時期は位置づけられないが、弥生時代後期と考えられる。



挿図25 MKD 円形周溝墓 2

### 3) 建物址

#### ① 建物址 1（挿図26）

遺物 第II地区B N65を中心にして検出した。竪穴状遺構1を切る。2×1間の掘立柱建物址で、桁行2.36・梁行1.07、柱間は桁行1.18・梁行1.07を測り、桁行方向はN25°Eを示す。柱掘方は円形で、径27~20cm・深さ16~10cmを測る。北・南側に同じくらいの規模・形・覆土をもつ穴があり、補助的な柱が建てられたのかもしれない。

出土遺物はなく時期の決め手に欠けるが、検出状況などから中世以降に位置づけられる。

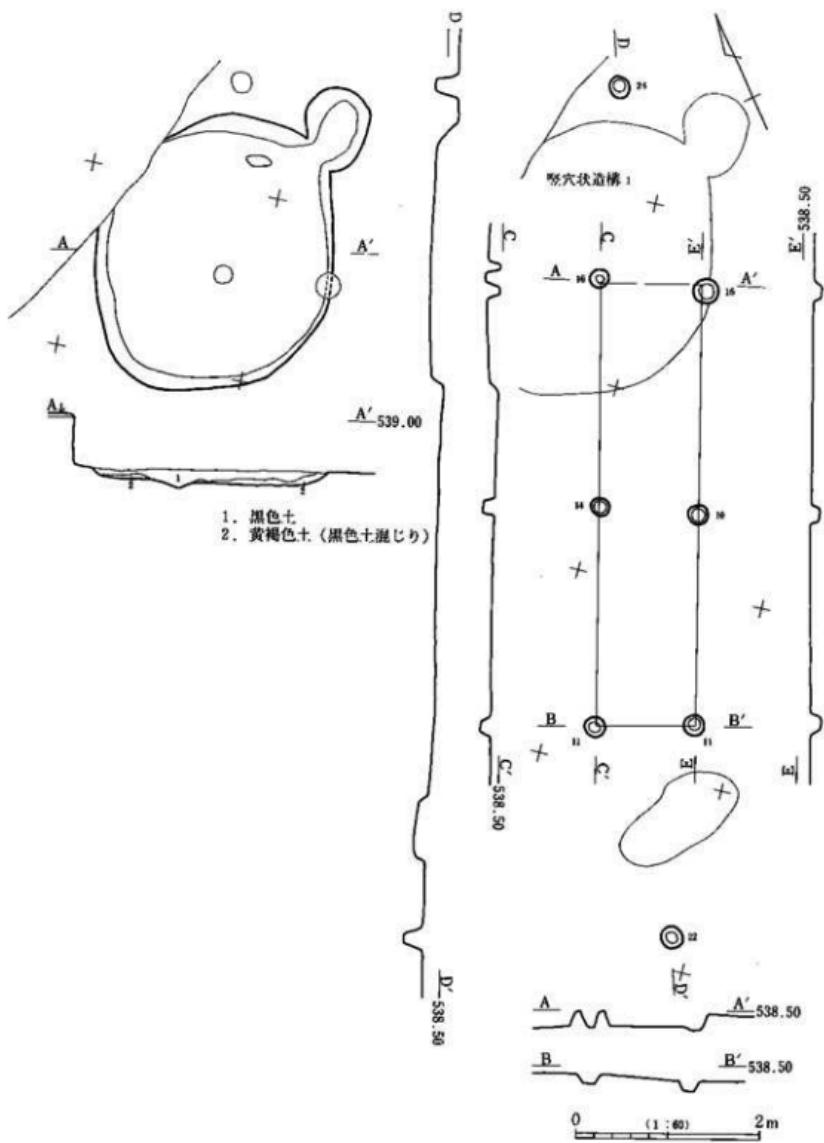
本址の東側に同じような小穴が8個あり、規則的に並ばないので建物址にはしなかったが、同様な施設があった可能性を指摘しておく。

### 4) 竪穴状遺構

#### ① 竪穴状遺構 1（挿図26）

遺物 第II地区B O66を中心にして検出した。建物址1に切られる。3.8×2.5mの楕円形を呈し、なだらかな皿状の落ち込みをなす。床面らしき部分は認められず、付属する施設もない。

出土遺物はなく、時期・用途等不明である。



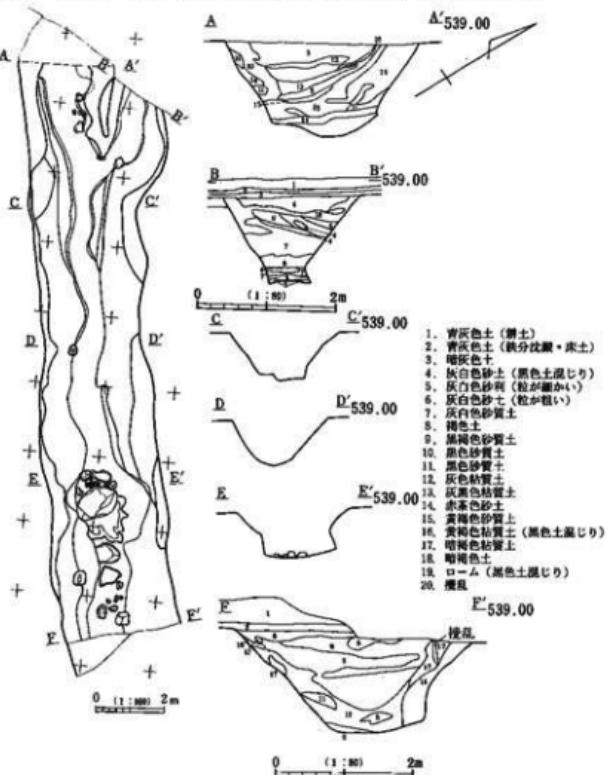
插図26 MKD 建物址1、竪穴状構造1

## 5) 溝址・溝状造構

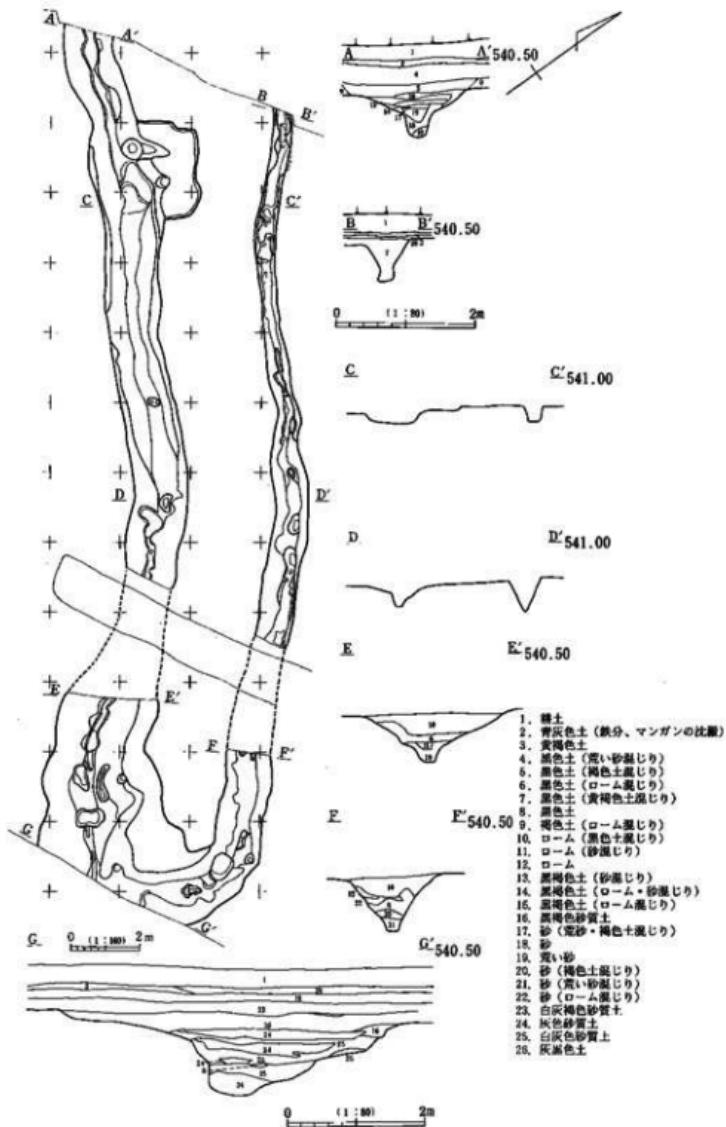
### ① 溝址 1 (挿図27・28、第4図)

**遺跡** 第II地区東側、第III地区中央東寄りで検出した。第II地区で16.4m・第III地区で24.6m調査し、両側に延長する。地区毎に説明する。第II地区では、西側で2本であったものが合流し、N60°Wの方向を示す。幅3.4~1.4m・深さ1.6~1.2mを測り、断面形は逆台形を呈し、底でえぐられる箇所が多い。覆土は砂を主体としており、細かい堆積をなしている。第III地区では、2本となり、南東端で合流して1本となる。南西溝は、幅2.6~1.3m・深さ110~44cmを測り、断面形は緩いV字形で底がえぐれる。覆土は底に砂が入り、上層はロームを主体とした土で埋められている。北東溝は、幅1.3~0.5m・深さ75~24cmを測り、断面形はV字形で底がえぐれる。覆土は底に砂が入り、上層はロームを主体とした土で埋められている。合流すると、幅4.8m・深さ1.1mを測り、断面形は段を有する逆台形を呈する。覆土は砂を主体としており、細かく何層にも分れている。全体の方向はN50°Wを示す。中間に未調査部が存在するのではっきりしないが、第III地区的溝が第II地区南西溝に続き、第II地区北東溝は後述する第III地区溝址2の南西溝から続くと考えられる。第III地区では、明らかに人為的に埋められており、自然による流路である。

**遺物** 第III地区の砂の中からわずかに出土した。縄文・弥生時代の土器片・石器が15点、青磁3点・山茶碗7点・灰釉陶器2点・焼成粘土塊(4-13)、鐵器



挿図27 MKD 第II地区 溝址1



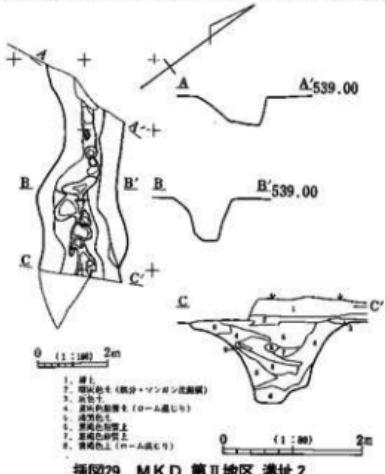
插図28 MKD 第三地区 溝址1

釘（4-15）があり、山茶碗碗（4-12）・灰釉陶器瓶子（4-13）が図化できた。

出土遺物から中世に位置づけられる。

### ② 溝址 2 (挿図29・30)

遺構 第II地区東端、第III地区東側で検出した。第II地区で5.2m・第III地区で26.0m調査し、両側に延長する。地区毎に説明する。第II地区ではN69°Wの方向を示す。幅2.4~1.6m・深さ1.3~0.8mを測り、断面形は逆台形を呈し、底でえぐれる箇所が多く、形状も一様でない。覆土も一様でなく人為的埋められている。第III地区では、大部分が3本に別れるが合流する箇所もあり、南東端で合流して1本となり、すぐに2本に枝分れする。總体とすれば、幅4.4~1.0m・深さ90~20cmを測り、方向はN56°Wを示す。断面形は不定形で底がえぐれる箇所が多い。覆土はほぼ全面に砂が入る。中間に未調査部が存在するのではっきりしないが、第II地区の溝が第III地区南東端北東溝に続き、第III地区南西溝は第II地区溝址1の北西溝に続くと考えられる。



挿図29 MKD 第II地区 溝址2

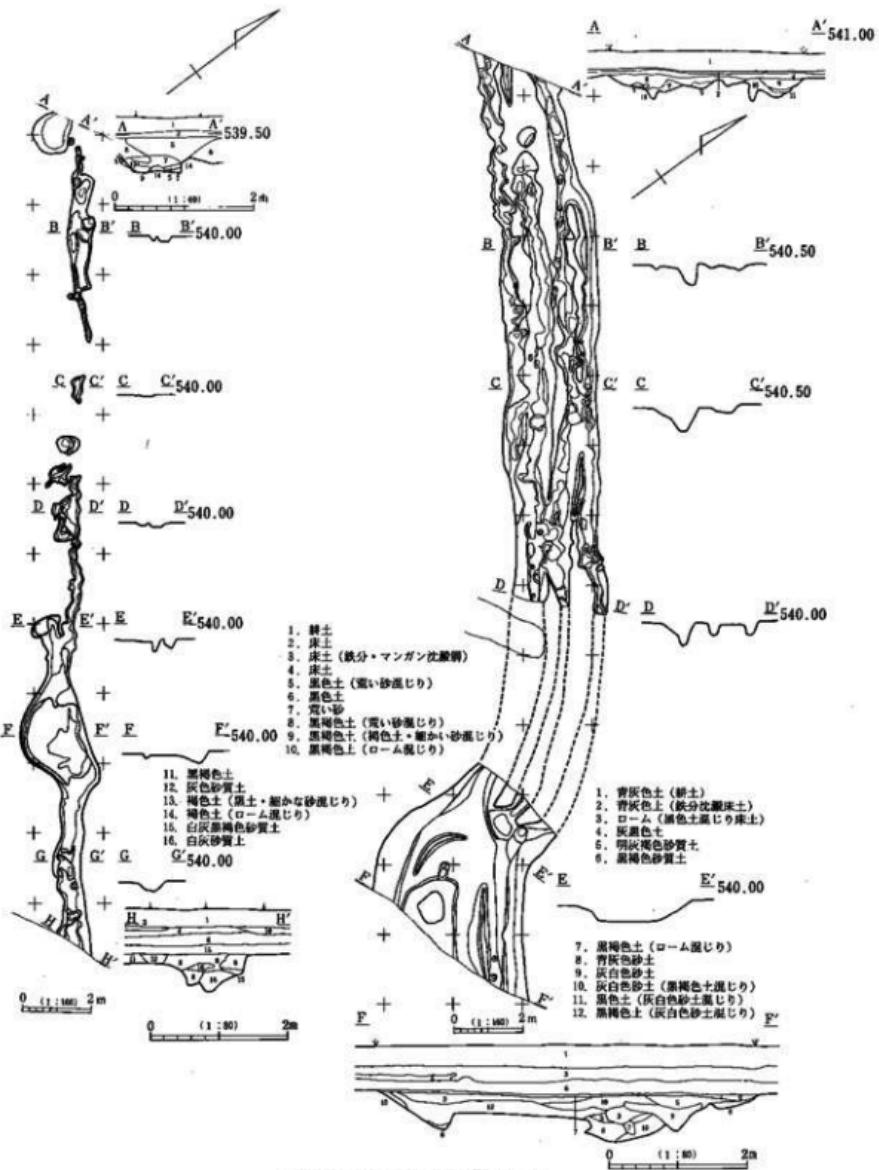
### ③ 溝址 3 (挿図29・30)

遺構 第II地区東北側、第III地区南側で検出した。第II地区で20m・第III地区で10.4m調査し、いずれも西側が確認できなくなる。地区毎に説明する。第II地区では、N68°Wの方向を示す。幅120~10cm・深さ47~2cmを測り、断面形は不定形で底の形状も一様でない。第III地区では、N80°Wの方向を示す。幅118~10cm・深さ37~3cmを測り、断面形は不定形で底の形状も一様でない。覆土はいずれもほとんどが灰白色の砂である。形状・状態・方向等から、中間部に未調査区が存在するが、同一の溝と把握した。自然の川の流路と考えられ、上層から掘られたものが、遺構検出面にわずかに残ったものである。

出土遺物はなく、時期は不明であるが、中世以降と考えられる。

出土遺物は繩文・弥生土器片5点、横刃形石器1点、白磁1点・山茶碗2点があるが、図示し得るものはない。

遺構の状況から自然の流路であり、中世に位置づけられる。



插図30 MKD 第III地区 潟址 2・4

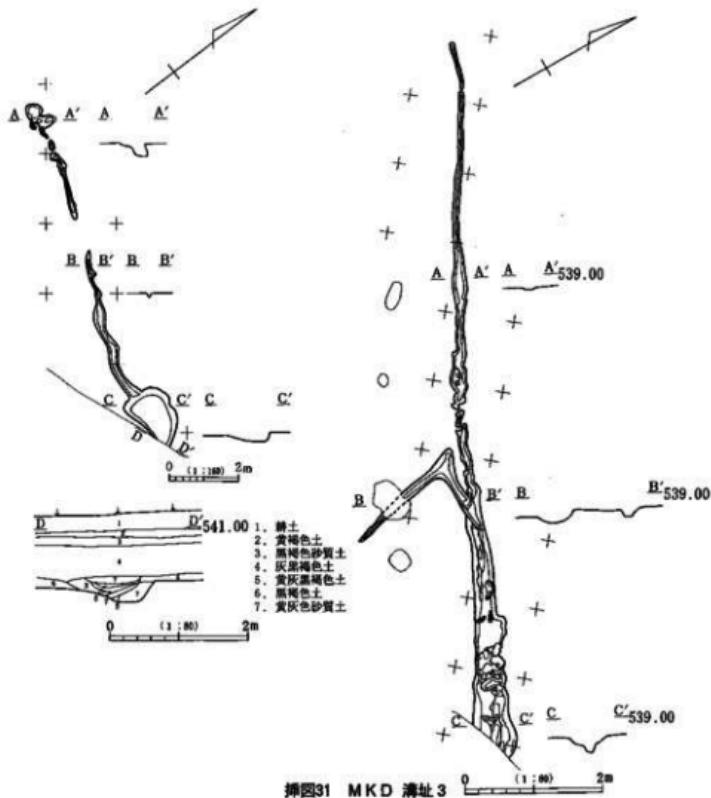


図31 MKD 溝3

#### ④ 溝3 (押図30)

**遺跡** 第III地区中央部で検出した。一部でとぎれる箇所があるが23.6m調査し、両側に延長する。N54°Wの方向を示し、幅94~10cm・深さ62~2cmを測る。断面形は不定形で底の形状も一様でなく、覆土は砂が主体となる。北西側の土層断面をみると検出面より上層から掘られている。自然の川の流路と考えられ、遺構検出面にわずかに残ったものである。

出土遺物はなく、時期は不明であるが、中世以降と考えられる。

#### ⑤ 溝4 (押図31)

**遺構** 第IV地区南端で検出した。北側の落ち込みのプランを10.4m確認し、2箇所にトレンチを入れて状況を確認した。N71°Wの方向を示し、南側が未調査部にかかるため、幅は確認でき

なかった。深さは227～157cmを測り、途中で4つの段を持つ立ち上がりをなす。土層は底が砂を主体としており、その上からはロームが混じる土が入っており、人為的に埋められていると判断できた。

出土遺物は縄文土器片が2点ある。

溝址1から5は、地形が南側に傾斜し始める肩の部分に検出されており、形状や覆土など似ている部分が多い。いずれも自然の川の流路であり、少しずつ位置を変化しながら流れしており、中には、一気に掘られたものを埋めているのもみられ、土地の利用状況を知る資料になるといえる。

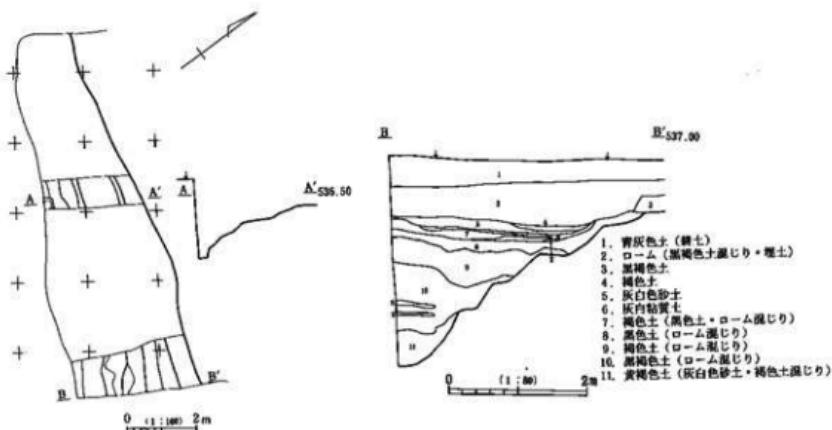


図32 MKD 溝址5

#### ⑥ 溝状遺構1（拡図33）

遺構 第III地区南東側で検出した。溝址1・2の上層を切る。長さ11.6m・幅132～90cm・深さ27～5cmを測り、方向はN65°Eを示す。覆土は暗灰色砂質土の一層である。

出土遺物はなく、切り合い関係から中世以降と考えられ、本遺跡の中で最も新しい遺構と考えられる。

#### ⑦ 溝状遺構2（拡図34）

遺構 第IV地区南東側で検出した。長さ6.2m・幅90～54cm・深さ20～5cmを測り、方向はN24°Eを示す。南東端に小穴2個がある。覆土は黒褐色の一層である。

出土遺物はなく、時期の決め手に欠けるが、覆土や検出状況は方形周溝墓に類似しており、弥生時代後期に位置づくと考える。

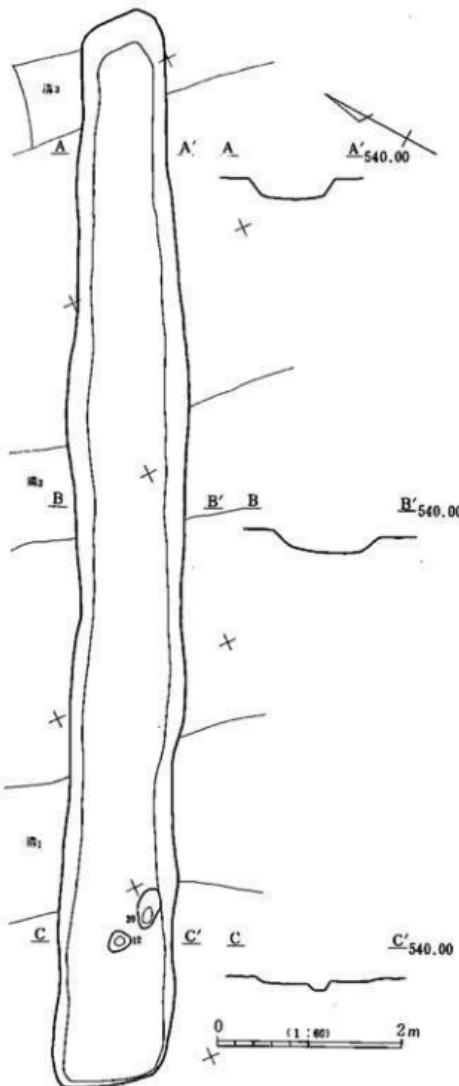
⑧ 溝状遺構 3 (挿図35)

遺構 第IV地区南東側で検出した。

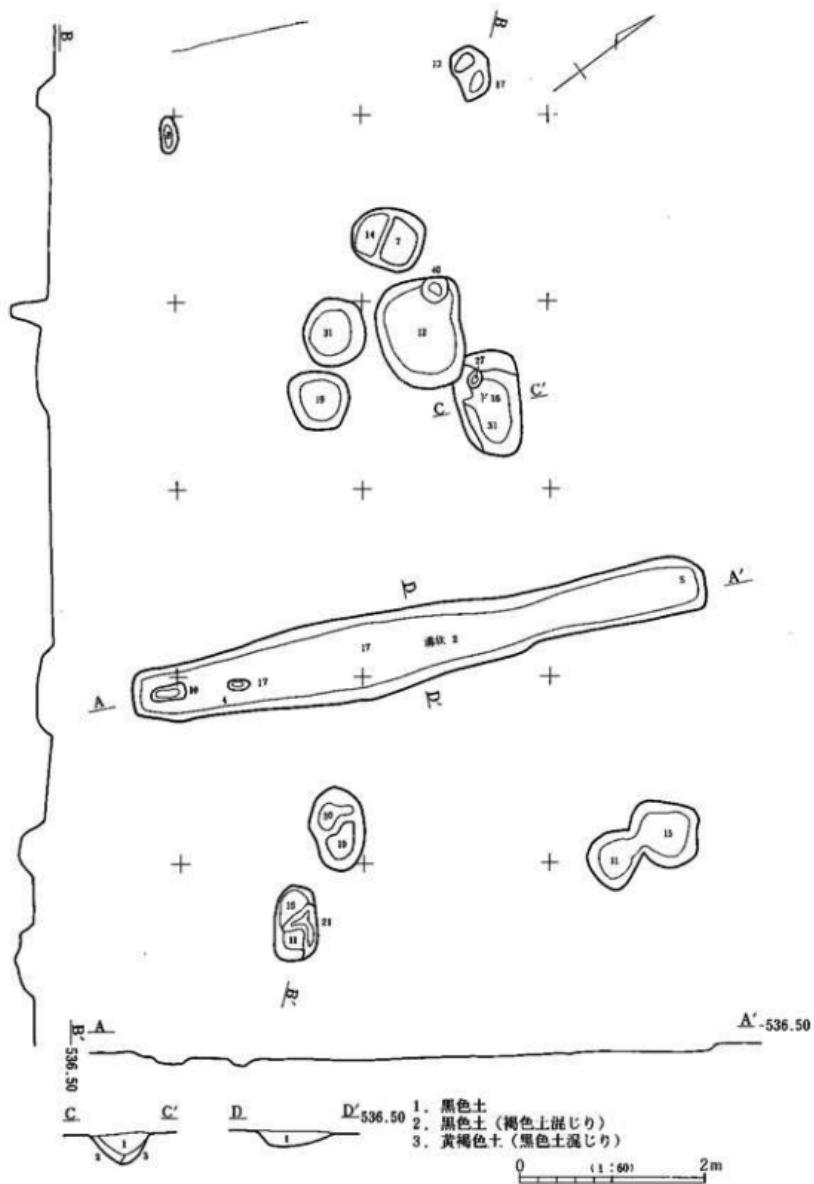
長さ2.6m・幅82~50cm・深さ15~8cmを測り、方向はN 8° Wを示す。

覆土は黒褐色の一層である。

出土遺物はなく、時期の決め手に欠けるが、覆土や検出状況は方形周溝墓に類似しており、弥生時代後期に位置づくと考える。同じような溝状遺構 2との関連を考える必要がある。



挿図33 M K D 溝状遺構 1



插図34 MKD 溝状遺構2、土坑16、ビット

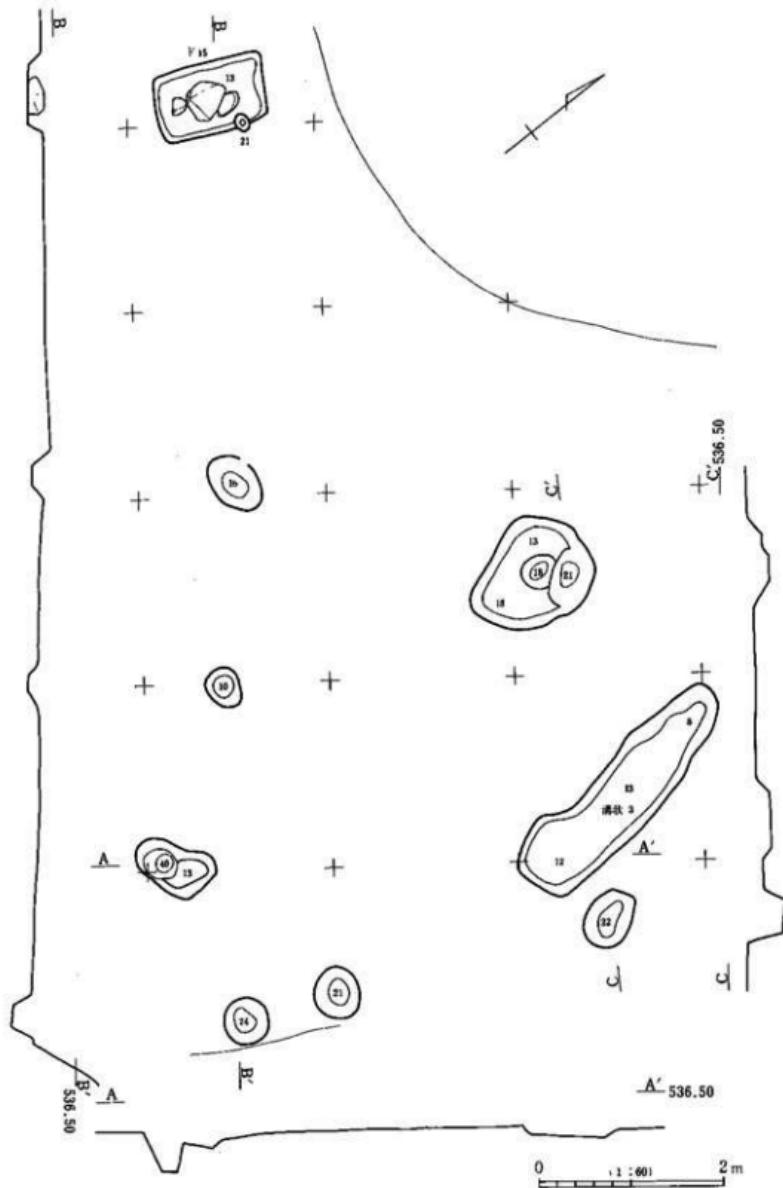


図35 MKD 溝状遺構3、土坑15、ピット

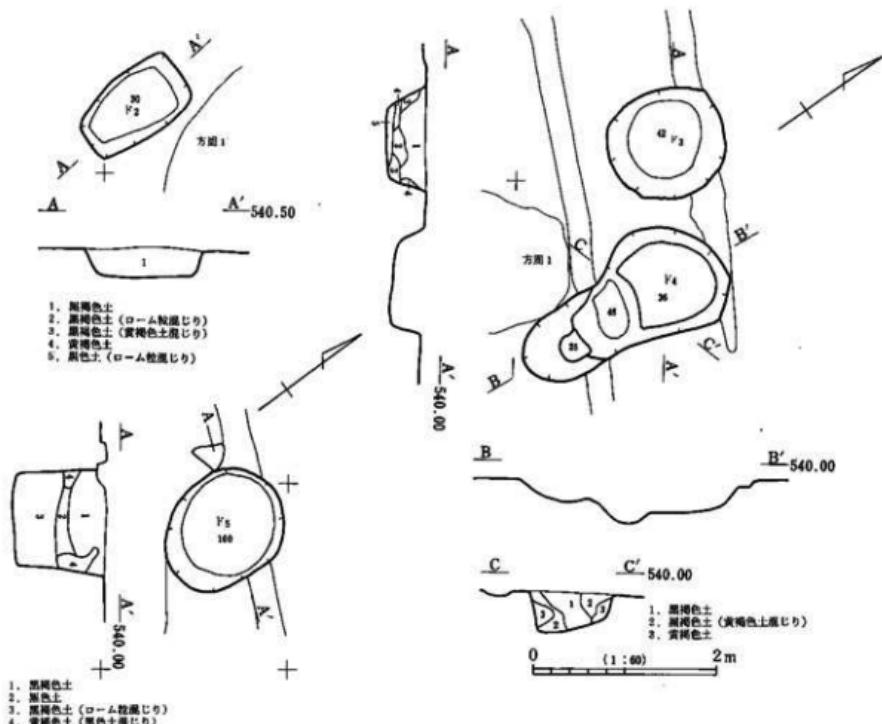
## 6) 土 坑

ミカド遺跡で土坑としたものは18を数える。遺物が出土したり形が整ったものを土坑ととらえため、ほかにも土坑とすべき大きな穴が存在する。遺構図では全てを掲載するが、説明は省略する。

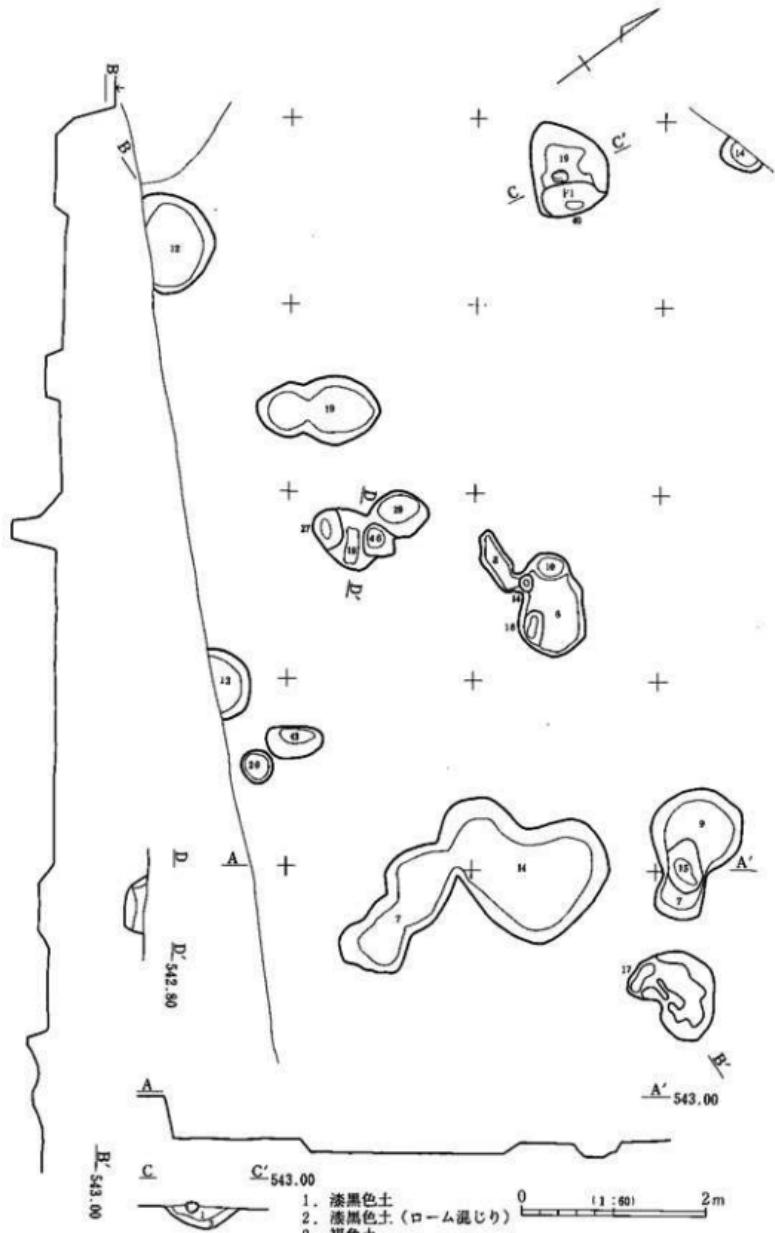
### ① 土坑1（挿図37、第4図）

造構 第I地区C T90で検出した。104×82cmの丸みを帯びた台形を呈し、深さは40cmを測る。断面形は椀状を呈し、西側が段をもつ。

上層から縄文土器底部1点（4-14）が出土した。



挿図36 MKD 土坑2・3・4・5



插図37 MKD 土坑1、ピット

② 土坑2（押図36）

遺構 方形周溝墓1周溝西隅西側第I地区B K99で検出した。120×74cmの長方形を呈し、深さは30cmを測る。断面形は逆台形を呈し、覆土は漆黒色土の一層である。

弥生土器の小片3点が出土した。覆土は方形周溝墓の周溝と同じであり、遺跡の状況を考慮すれば、弥生時代後期の土壙墓の可能性が強い。

③ 土坑3（押図36、第4図）

遺構 方形周溝墓1周溝内側第I地区B G102で検出した。124×118cmの円形を呈し、深さは40cmを測る。断面形は逆台形を呈し、覆土は黒褐色土を主体とする。

弥生土器の小片3点が出土した。

④ 土坑4（押図36）

遺構 方形周溝墓1土橋部第I地区B F101で検出した。2.4×1.2mのひさご形を呈し、深さは36を測る。断面形は逆台形を呈し、中央部が48cmと深くなる。覆土は黒褐色土を主体とする。

出土遺物はない。

⑤ 土坑5（押図36）

遺構 方形周溝墓1周溝内側第I地区B J104で検出した。140×118cmの円形を呈し、深さは100cmを測る。断面形はコップ状を呈し、垂直の壁面をなす。覆土は中層に黒色土があり、人為的に埋められていると判断できた。

出土遺物はない。

⑥ 土坑6（押図38）

遺跡 第II地区B K62で検出した。80×76cmの円形を呈し、深さは29cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑦ 土坑7（押図38）

遺構 第II地区B E68で検出した。140×94cmの梢円形を呈し、深さは38cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南東側で段をもつ。

出土遺物はない。

⑧ 土坑8（押図36）

遺構 第II地区B G68で検出した。96×94cmの不整円形を呈し、深さは42cmを測る。断面形も不整形を呈する。

出土遺物はなく、遺構の状況から人為的な可能性がうすい。

⑨ 土坑9（押図36）

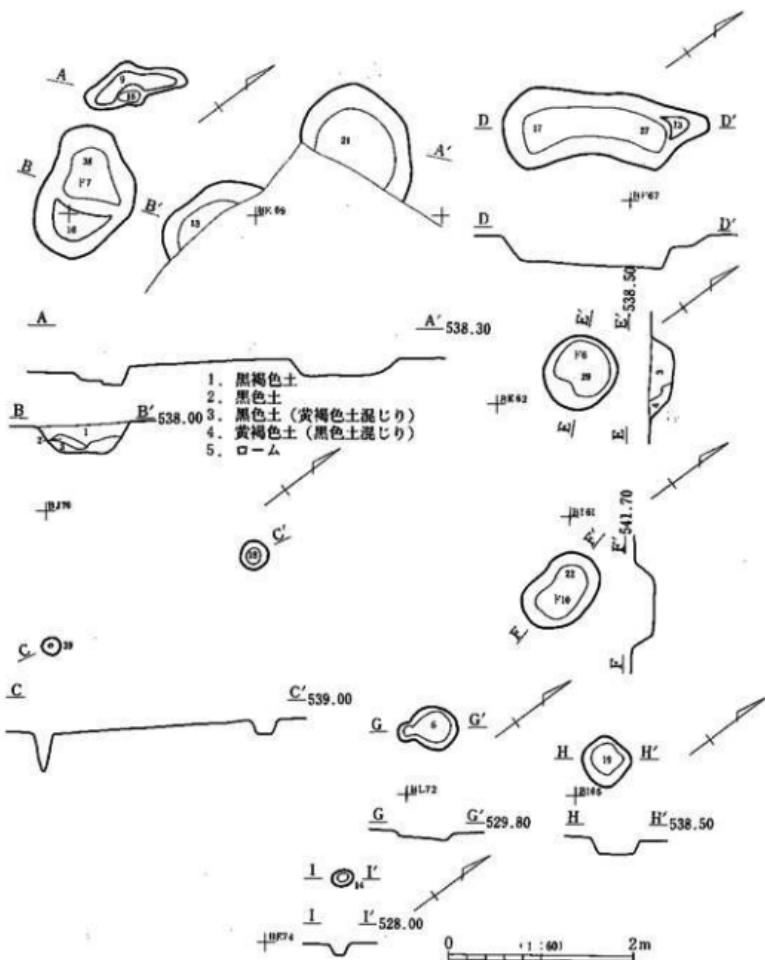
遺構 第II地区B K68で検出した。127×114cm梢円形を呈し、深さは46cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北側で段をもつ。

出土遺物はない。

⑩ 土坑10（挿図38）

遺構 第II地区B H60・61で検出した。92×61cmの椭円形を呈し、深さは22cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。



挿図38 MKD 土坑6・7・10、ピット

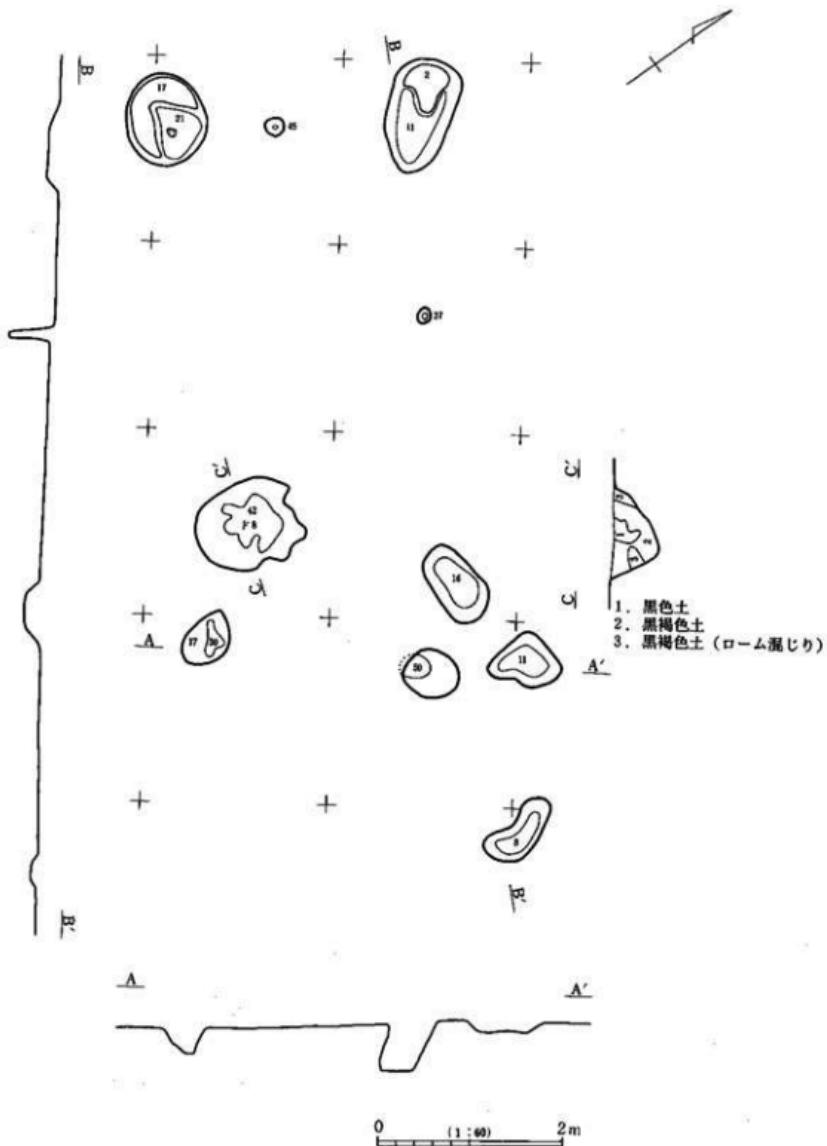
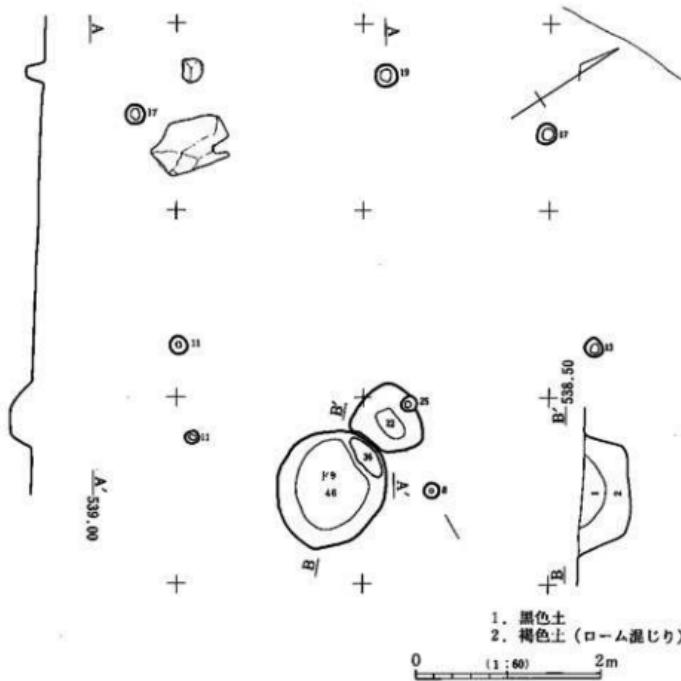


插圖39 MKD 土坑 8、ビット



挿図40 MKD 土坑9、ピット

⑪ 土坑11（挿図40）

**遺構** 第Ⅲ地区B U74で検出した。154×74cm梢円形を呈し、深さは58cmを測る。断面形は楕状を呈し、北側が急な立ち上がりをなす。

出土遺物はない。

⑫ 土坑12（挿図38）

**遺構** 第Ⅲ地区B U74で検出した。溝址4が上層を切る。2.6×1.1mの不整梢円形を呈し、深さは86cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北東側が急な立ち上がりをなす。覆土は細かく層位が分かれており、中層にまとまった焼土が認められた。

出土遺物はない。

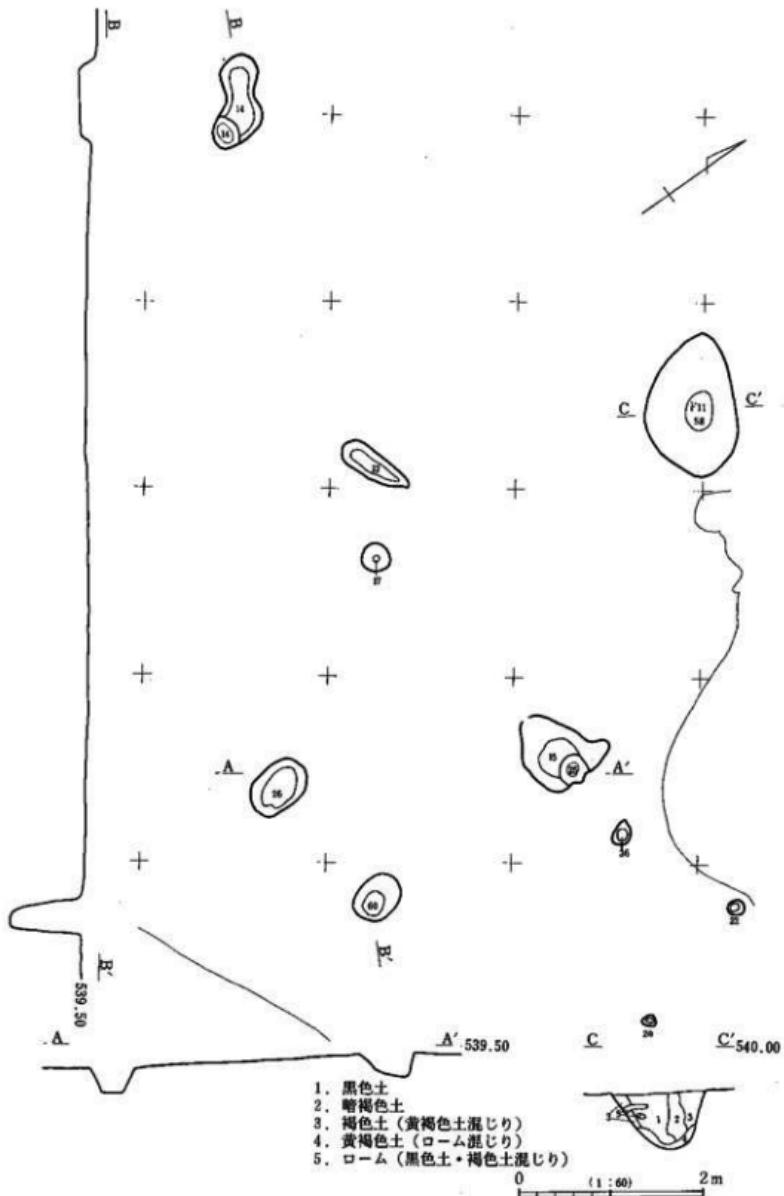
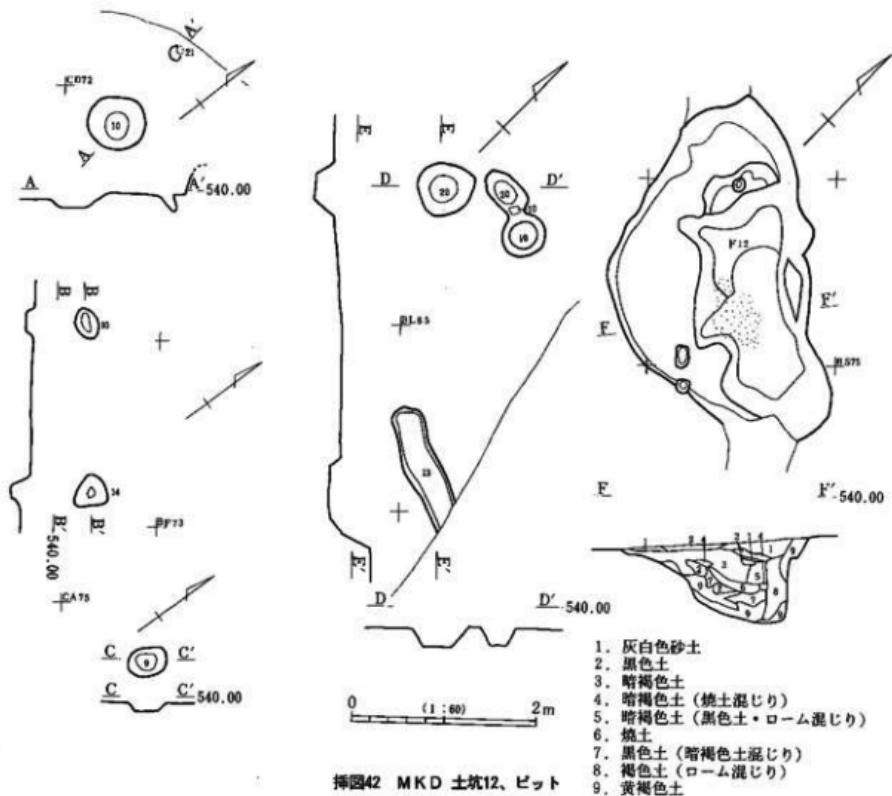


図41 MKD 土坑11、ピット



插図42 MKD 土坑12、ピット

### ⑩ 土坑13（挿図43）

**遺構** 第IV地区Y Q113で検出し、方形周溝墓6を切る。232×114cm長方形を呈し、深さは58cmを測る。断面形は逆台形を呈する。覆土は中心部の170×54cm位の範囲と周辺で明確な差があり、周辺は埋めてあることが確認できた。

遺物の出土はないが、遺構の状況から弥生時代後期の土壙墓と考えられ、木棺が埋葬施設であった可能性が高い。

### ⑪ 土坑14（挿図43）

**遺構** 第IV地区Y Q113で検出した。180×118cm長方形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は逆台形を呈する。底北側に長椭円形で深43cmの穴がある。

遺物の出土はない。

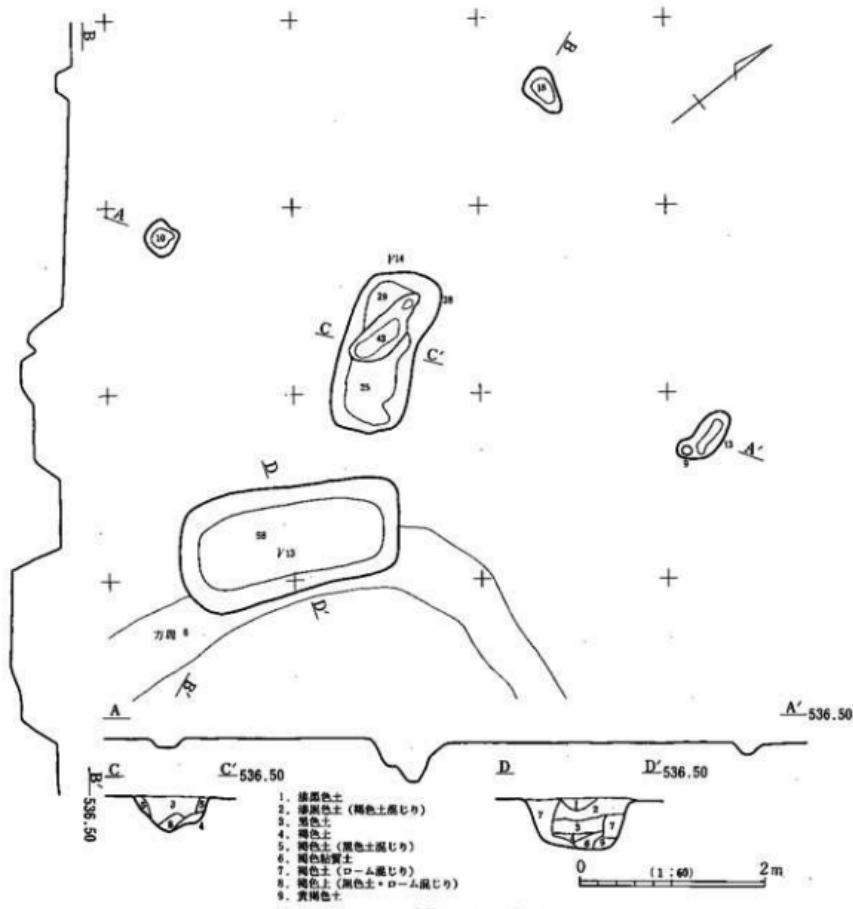


図43 MKD 土坑13・14、ピット

#### ⑯ 土坑15 (押図35)

遺構 第IV地区Y S 119で検出した。120×76cm長方形を呈し、深さは14cmを測る。断面形は逆台形を呈する。底部中央に40~18cmの疊が3個認められた。

遺物は図示していないが、鉄器が出土した。覆土の状況や鉄器の出土から、これまでの土坑とは様相が異なり、中世以降に位置づけられる。

⑩ 土坑16（挿図43）

遺構 第IV地区Y Q117で検出した。112×68cmの丸みを帯びた長方形を呈し、深さは29cmを測る。断面形はすり鉢状を呈する。

遺物の出土はない。

⑪ 土坑17（挿図43）

遺構 第IV地区Y P104で検出した。142×110cm長方形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は逆台形を呈する。底部には小口痕と考えられる小穴が2個ある。

遺物の出土はなが、遺構の状況から弥生時代後期の土壙墓と考えられ、組合せ式箱形木棺が埋葬施設であった可能性が高い。

⑫ 土坑18（挿図43）

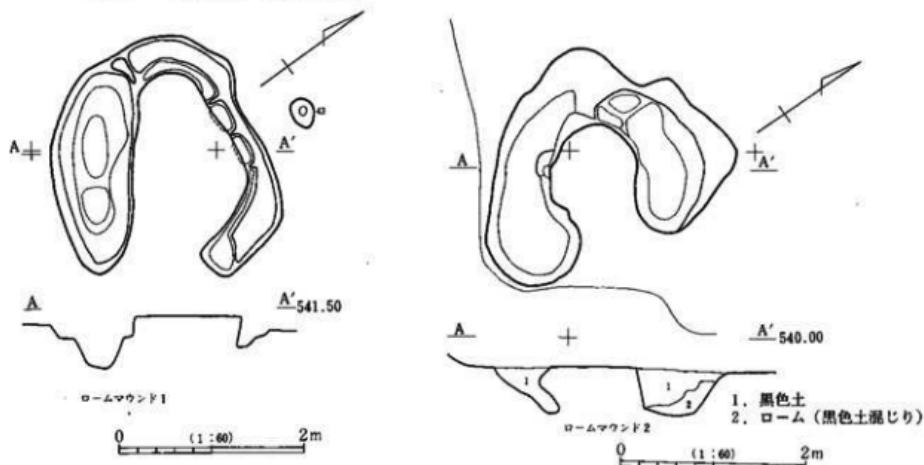
遺構 第IV地区N 1101で検出した112×80cm楕円形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物の出土はない。

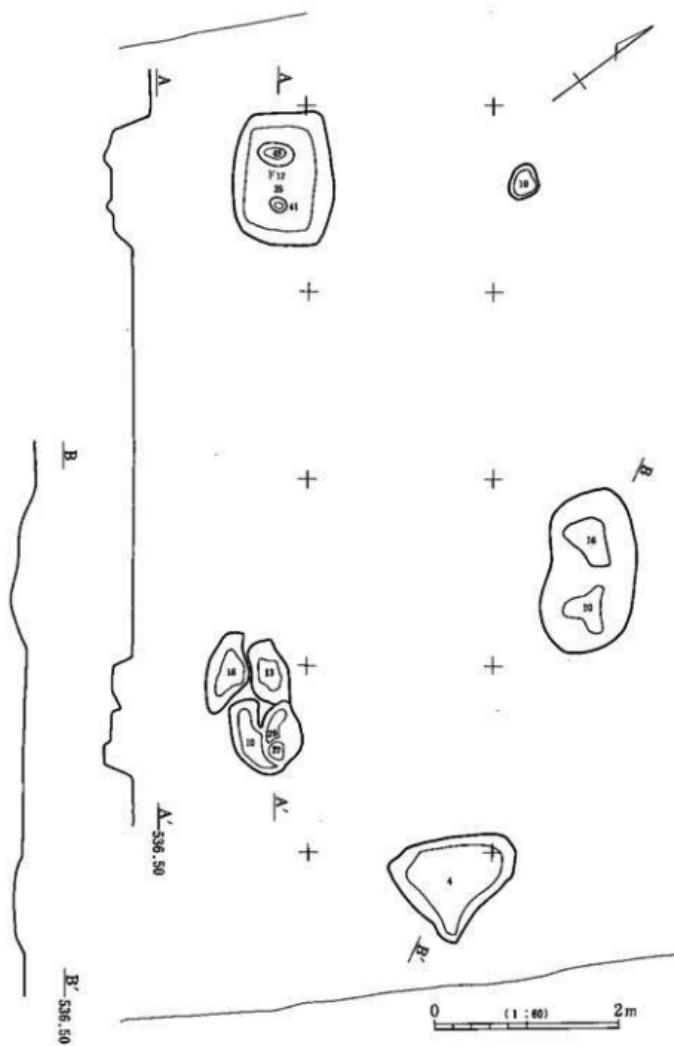
## 7) ロームマウンド

ロームマウンド2基検出がされ、第I地区C A100を中心とするものを1、第I地区B D98を中心とするものを2とした。いずれも馬蹄形の溝があり、その内側がロームのマウンドとなる。溝は規格性がなく、内側に斜めにえぐれる箇所がある。

遺物はなく、風倒木の痕跡である。



挿図44 MKD ロームマウンド1・2



挿図45 MKD 土坑17、ピット

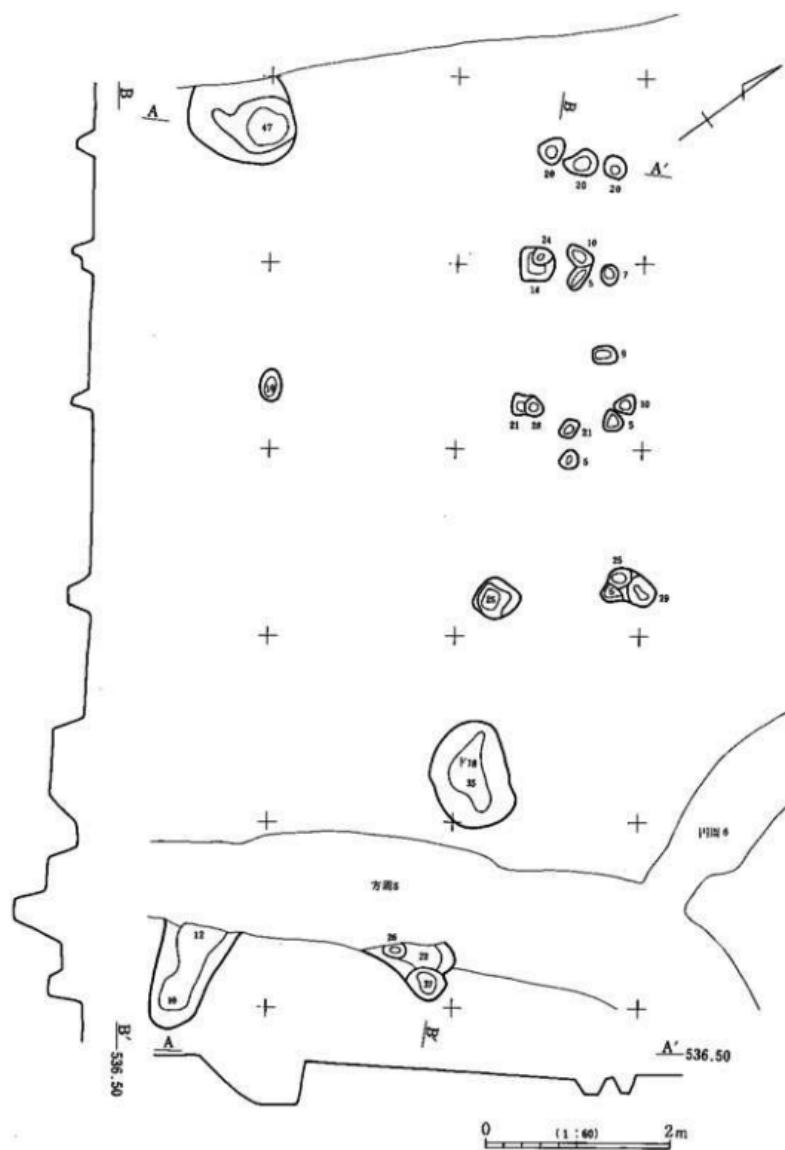
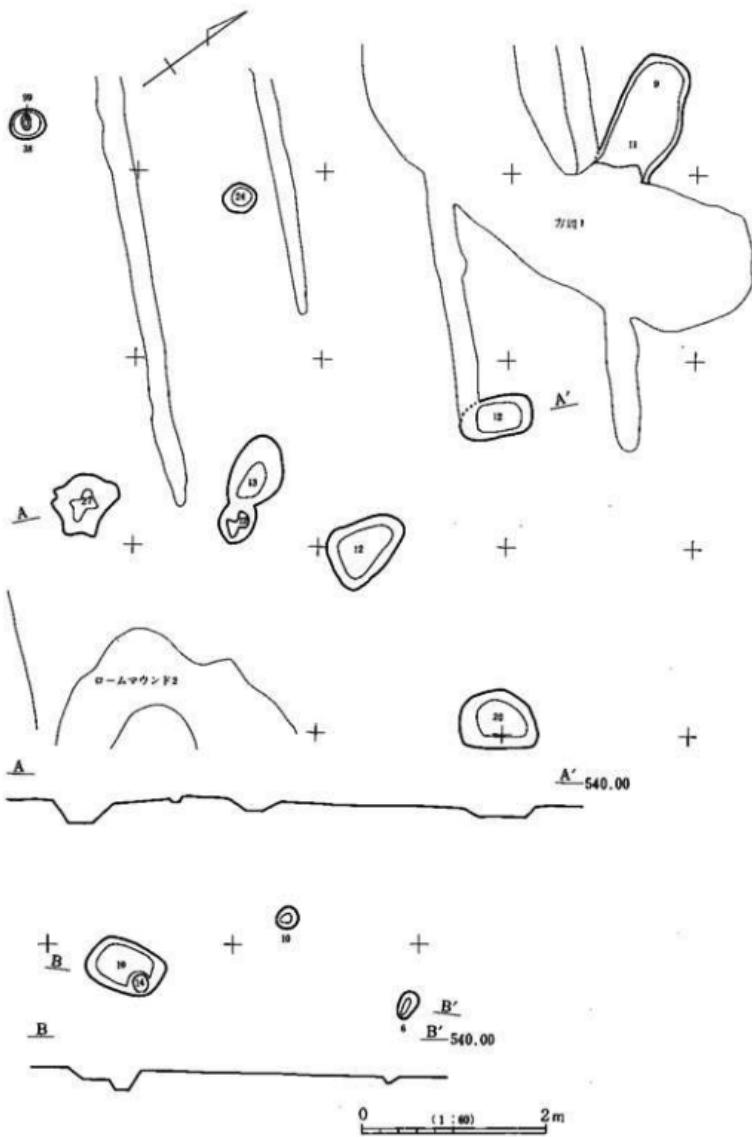


図46 MKD 土坑18、ピット



挿図47 MKD 第I地区 ピット(1)

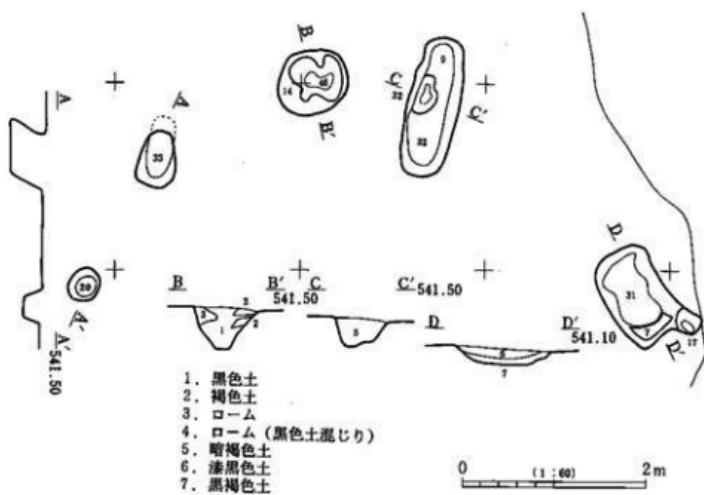
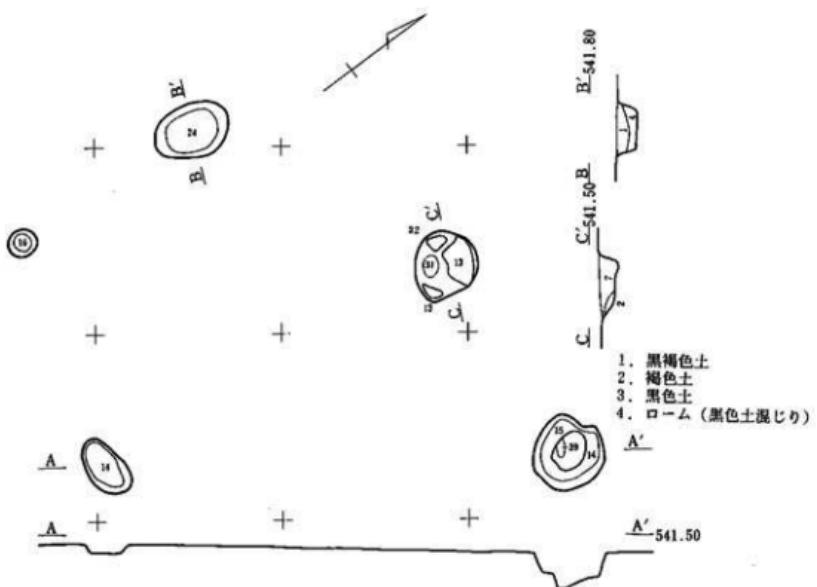


図48 MKD 第I地区 ピット(2)

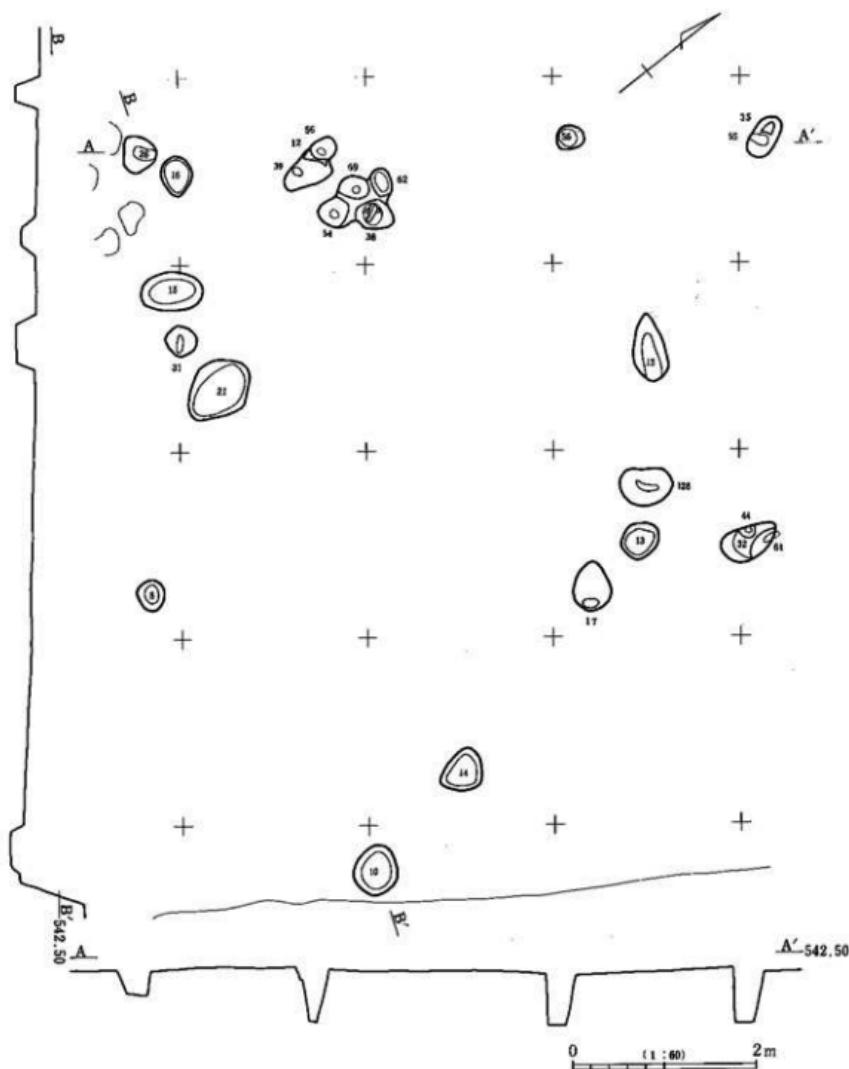
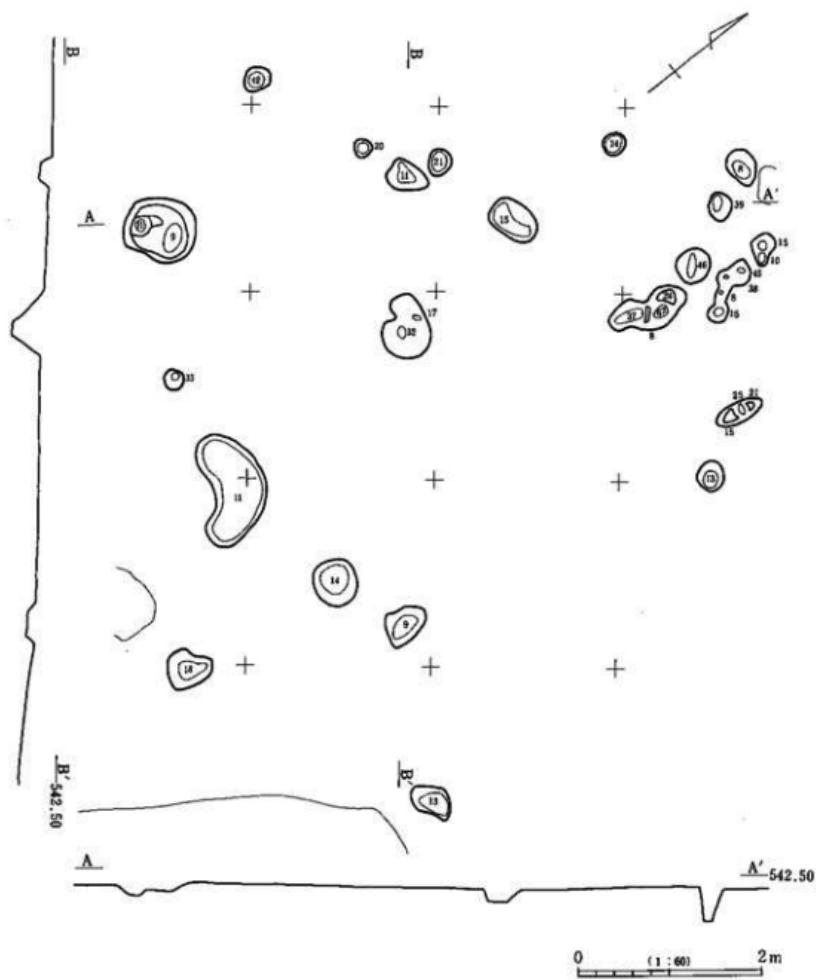
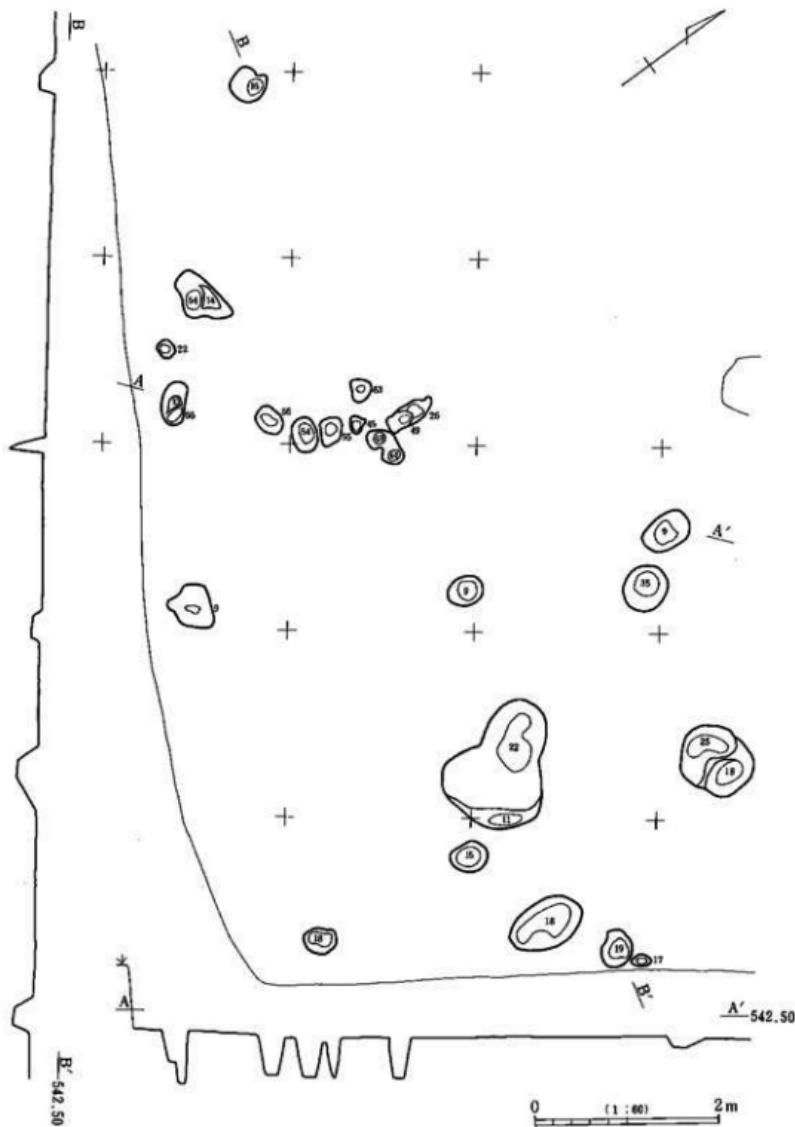
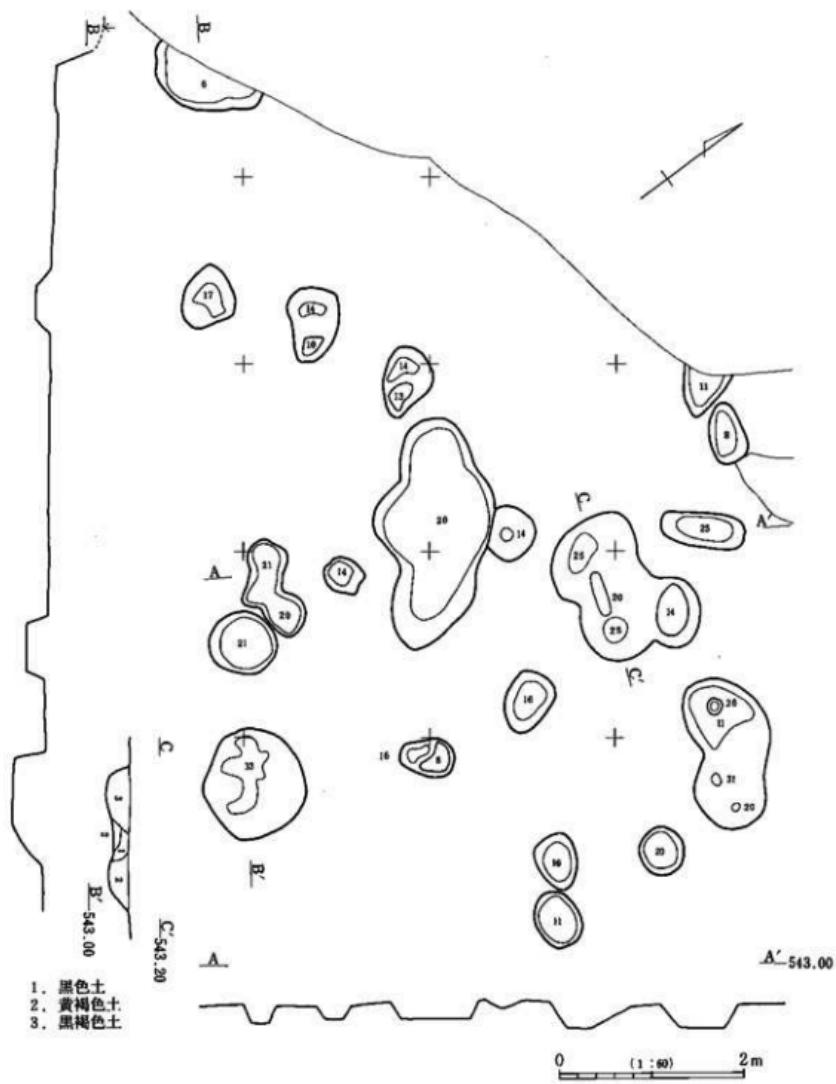


図49 MKD 第I地区 ピット(3)

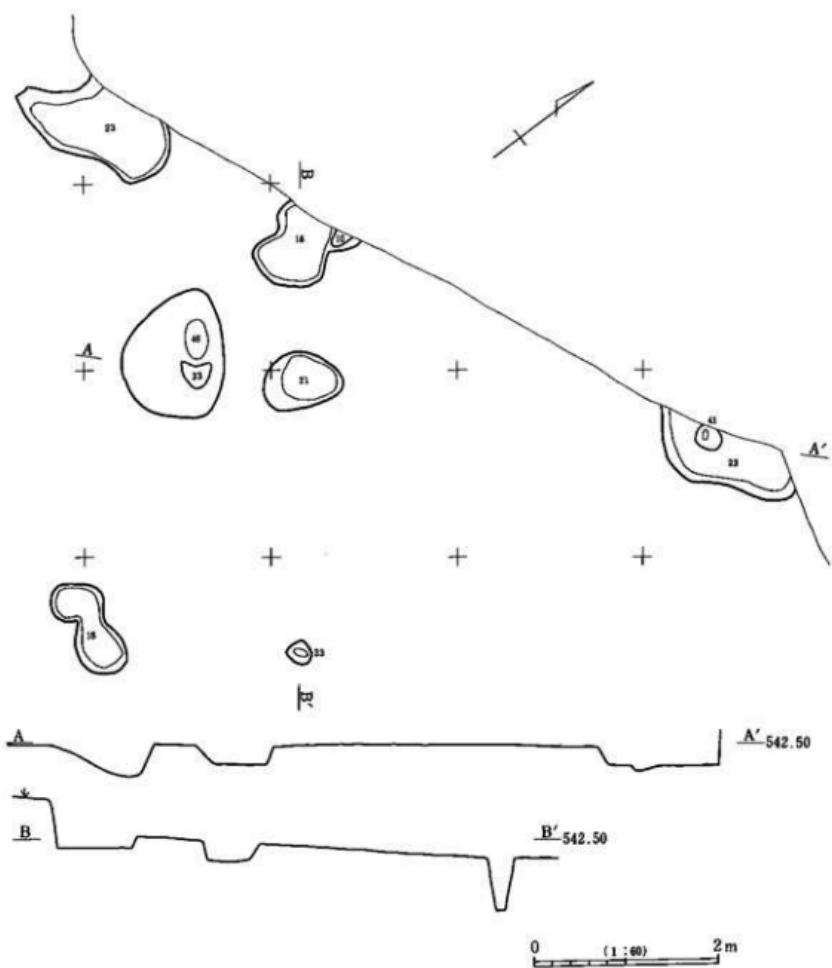


挿図50 MKD 第I地区 ピット (4)





挿図52 MKD 第I地区 ピット(6)



挿図53 MKD 第I地区 ピット(7)

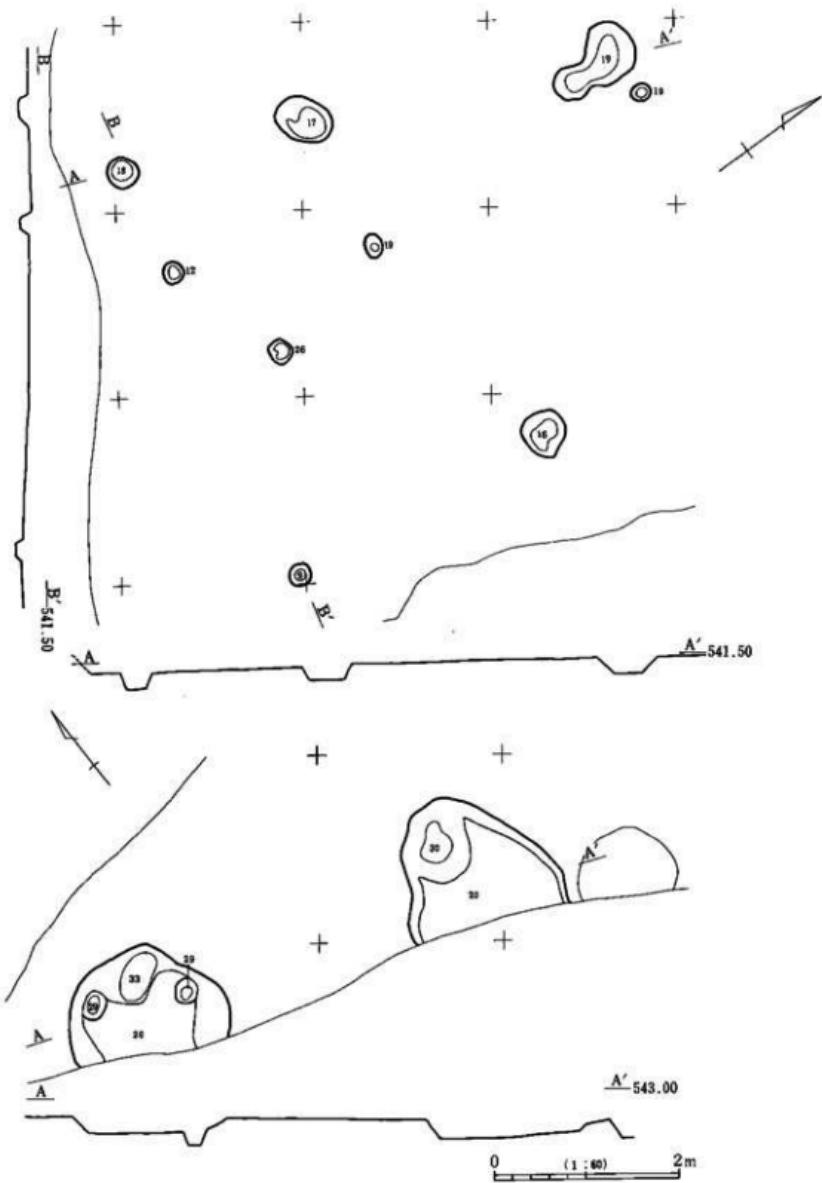
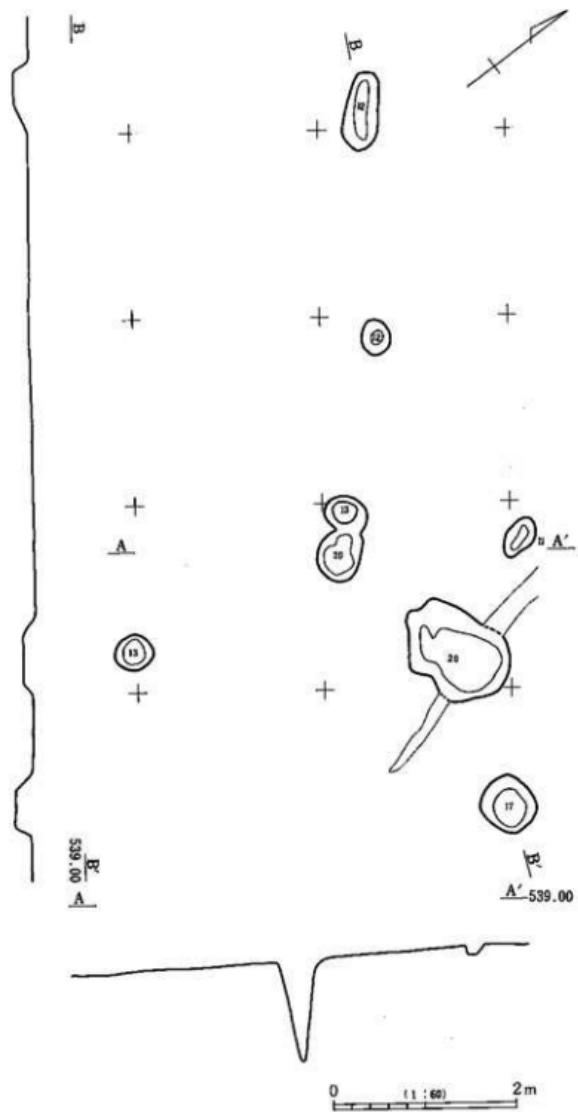


図54 MKD 第I地区 ピット(8)



挿図55 MKD 第II地区 ピット(1)

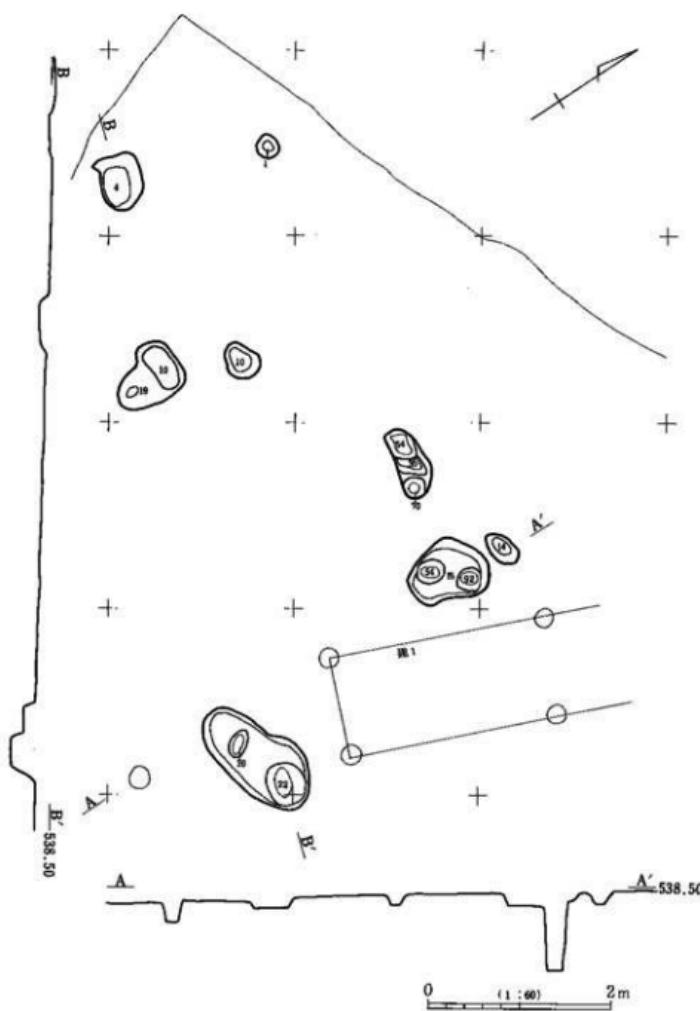
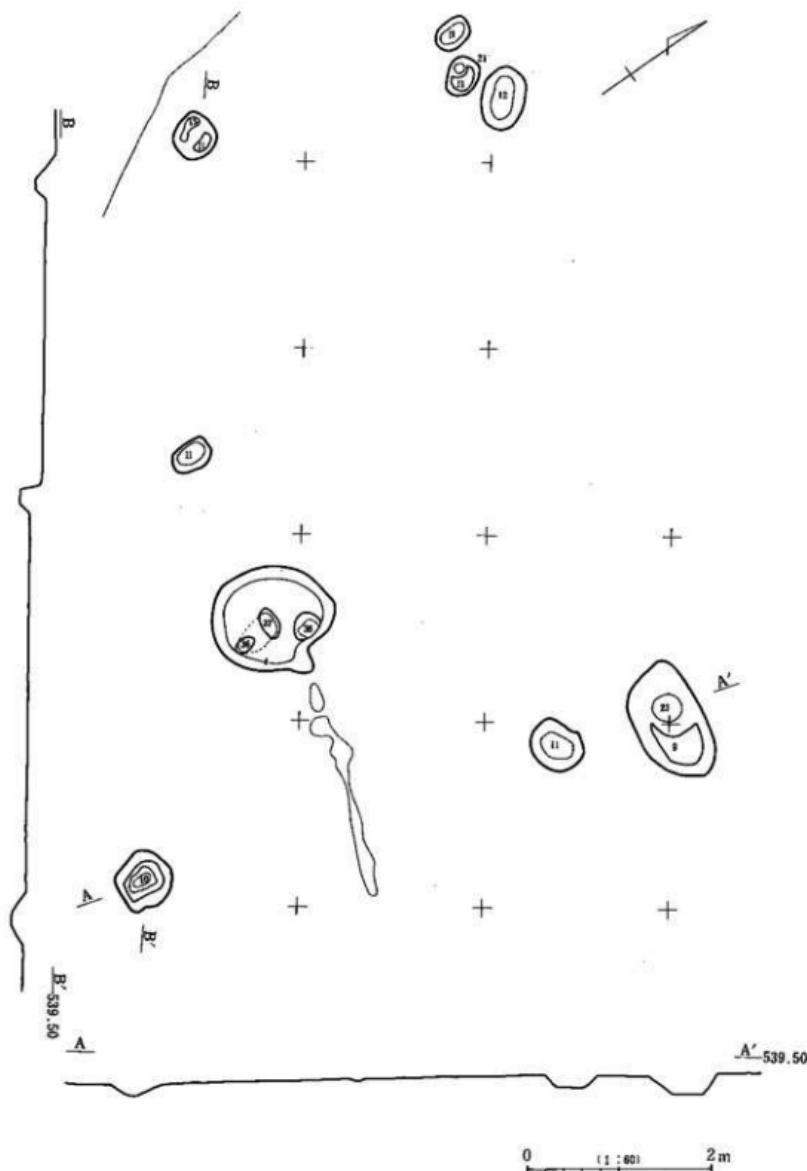
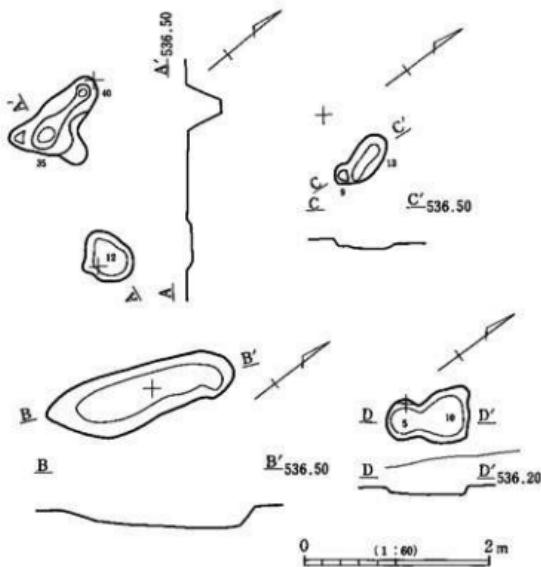


図56 MKD 第II地区 ピット (2)



插図67 MKD 第三地区 ピット



摺図58 MKD 第IV地区 ピット

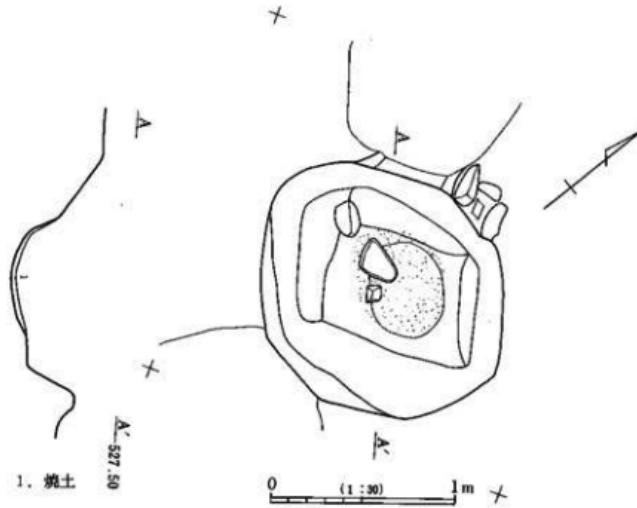
### 3. 増田遺跡

#### 1) 穹穴住居址

##### (1) 縄文時代

###### ① 1号住居址（挿図59・60、第5・28・29図）

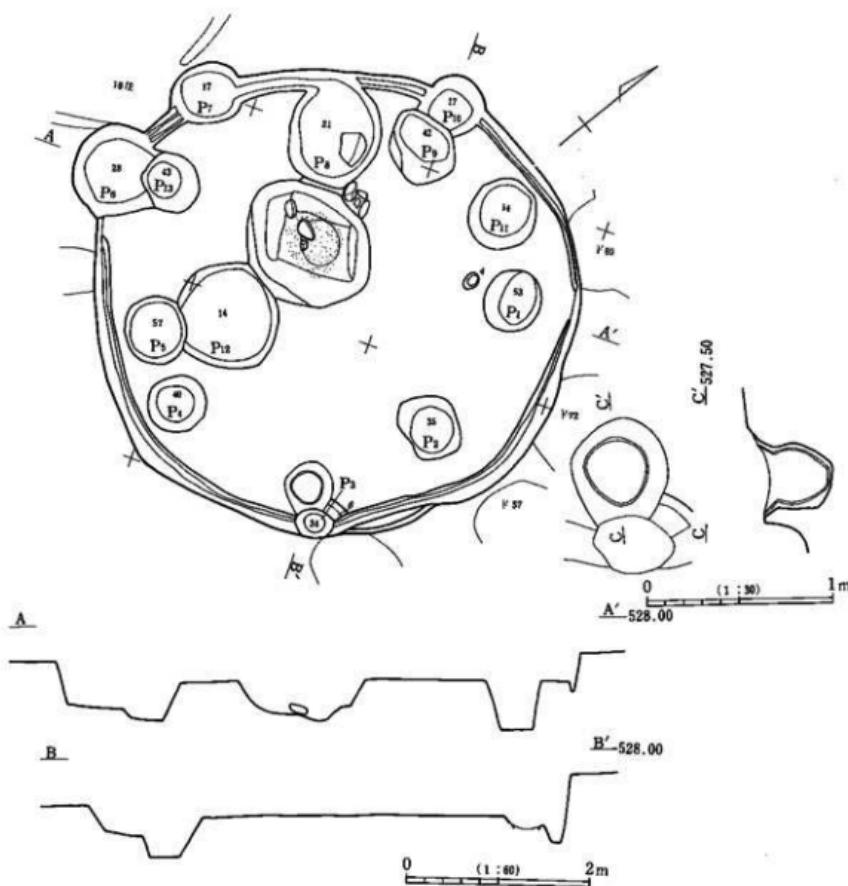
遺構 第I地区B G 49を中心にして検出し、全体を調査した。18号住居址を切り、土坑72・80と重複する。5.0×5.2mの円形の穹穴住居址で、主軸方向はN39° Eを示す。壁高は43～16cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は壁下をほぼ全周し、幅16～5cm・深さ16～3cmを測る。床面はたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1・P2・P4・P9・P13の5本で、円形を呈するものが多い。壁外にかかるP6・P7・P10は本址と重複する土坑であり、P5は本址より古い土坑である。南東壁下に埋甕があり、床面を50×55cmの円形に掘り凹め、口縁部を欠く深鉢を正位で埋めている。炉址は中央わずかに北東寄りに位置し、128×134cmの丸みを帯びた方形を呈する。石は抜かれているが、切りゴタツ状の石組炉で、礫が置かれた位置がほぼ特定でき、4個の礫を方形に組合せてあったと考えられる。焼土は底に認められた。北側には、20cm前後の砾を3個用いて方形に組んだ副炉があり、内部に焼土が認められた。



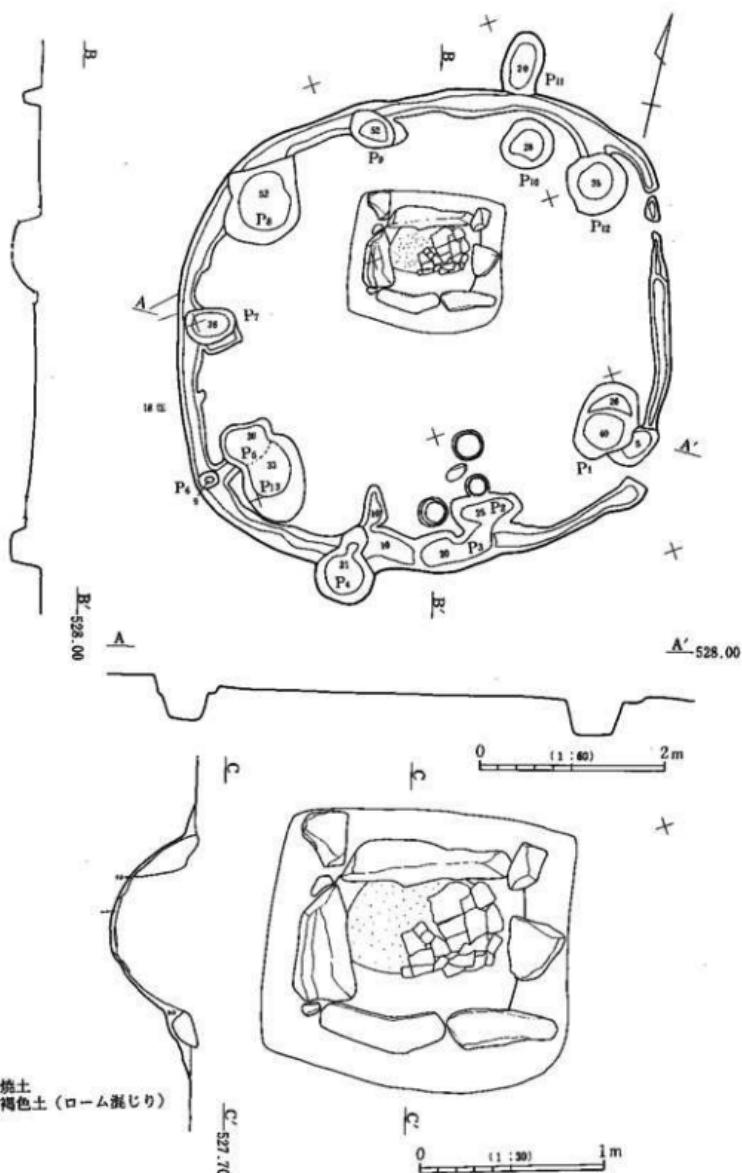
挿図59 MSD 1号住居址

**遺物** 出土量は多くない。土器は深鉢（5-1～8）で、1は埋甕の埋設土器であり、連弧文を有する東海の影響を受けたものである。6はP5から出土し、中期中葉に位置づくものである。7・8も同時期の破片である。石器は、打製石斧（28-1～6）・横刃形石器（28-7～18）・磨製石斧（28-19～21）・石舞（28-22～24）・敲打器（29-1）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



擲図60 MSD 1号住居址



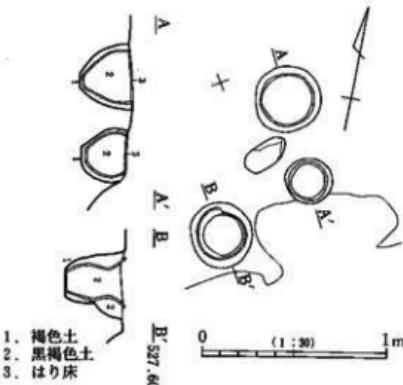
挿図61 MSD 2号住居址

② 2号住居址（挿図61・62、第6・7・29・48・52図）

**造構** 第I地区B G49を中心にして検出し、上層が水田の造成で削平されていたが、ほぼ全体を調査した。18号住居址を切る。5.1×5.3mの丸みを帯びた方形の竪穴住居址で、主軸方向はN 11° Eを示す。壁高は12~1cmを測る。周溝は壁下をほぼ全周し、住居址範囲確認の決め手となつた。幅38~10cm・深さ19~3cmを測る。床面はたたき状に堅い部分も認められるが、全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P5・P8・P12の4本で隅に位置する。壁外にかかるP4・P11は本址と重複する穴であり、P13ははり床下から検出した。南壁下わずかに南東隅寄りに埋甕が3個あり、北側の2個ははり床下にあり、南側が新しい埋甕である。いずれも床面を円形に掘り凹め、深鉢を正位に埋めている。前二者は口縁部を、後者は底部を欠いている。炉址は中央わずかに北寄りに位置する切りゴタツ状の石組炉で、150×164cmの方形に床面を掘り、礫7個を用いて115×143cmの方形に組んでいる。底面東側にはほぼ全面土器が敷いてあり、西側にはなく焼土が認められた。

**遺物** 出土量は多くない。土器は深鉢（6-1~8、7-1）で、6-1・2・5は埋甕の埋設土器であり、5が新しい、1・2が古いものである。7-1は炉址に敷いてあった土器である。石器は、打製石斧（29-2・3）・横刃形石器（29-4~6）・敲打器（29-7~9）・すり石（29-10）・打製石鎧（48-1）がある。ほかに、石製耳飾の破片（52-11）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



挿図62 MSD 2号住居址 埋甕

③ 3号住居址（挿図63、第7・8・29・30・48図）

**造構** 第I地区B H54を中心にして検出し、全体を調査した。5.8×5.5mの円形の竪穴住居址で、主軸方向はN 67° Wを示す。壁高は14~5cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は東側に若干傾斜し、西側にたたき状に堅い部分が認められたが、全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P3・P5・P6・P7の5本で、58~32cmの円形を呈する。P4はP3の支柱穴の可能性がある。P16は入口部と考える。炉址は中央西寄りに位置する石組炉で、34~10cmの礫8個を用いて60×56cmの方形に組み、内側の床面がわずかに凹んで焼土が認められた。

**遺物** 土器・石器があり、出土量は多くないが、床面上から主体として出土している。土器は深鉢（7-2~8、8-1~18、9-1~4）で、7-7はP2から出土した無頸の鉢であり、

ほとんど類例がみられないものである。石器は、打製石斧（29-11～15）・横刃形石器（30-1～8）・敲打器（30-9）・打製石錐（30-11～16）・打製石鐵（48-2～5）・石錐（48-6）使用痕のある剝片（48-7・8）がある。打製石錐の2は水晶製である。

出土遺物から縄文時代中期中葉末に位置づけられる。

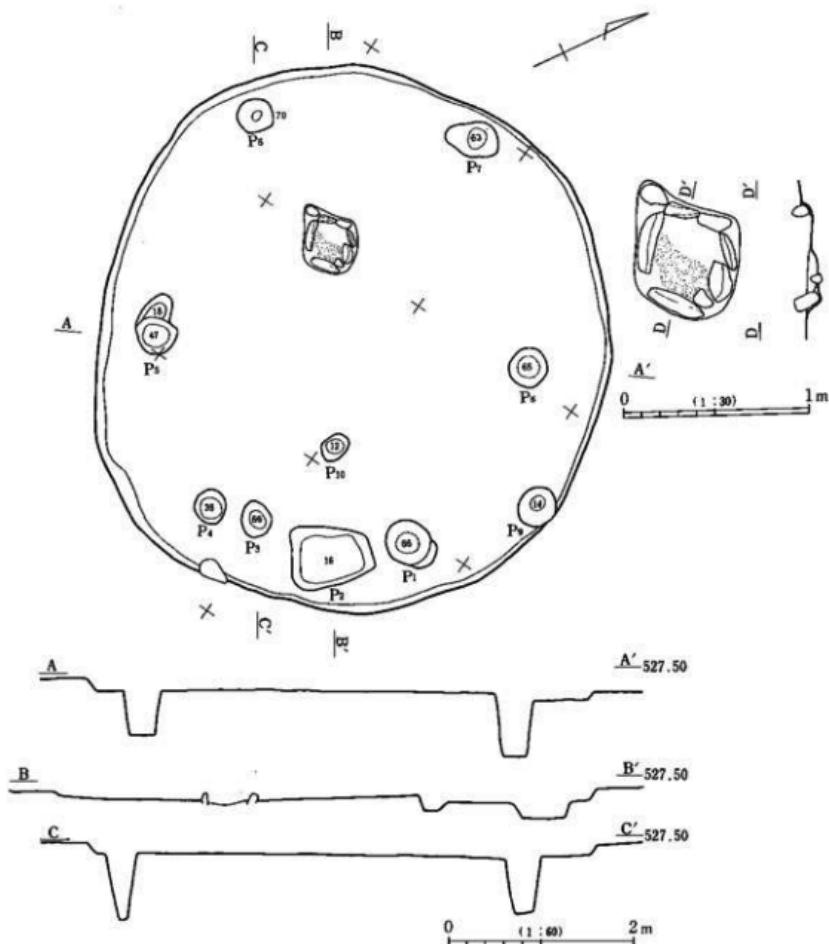
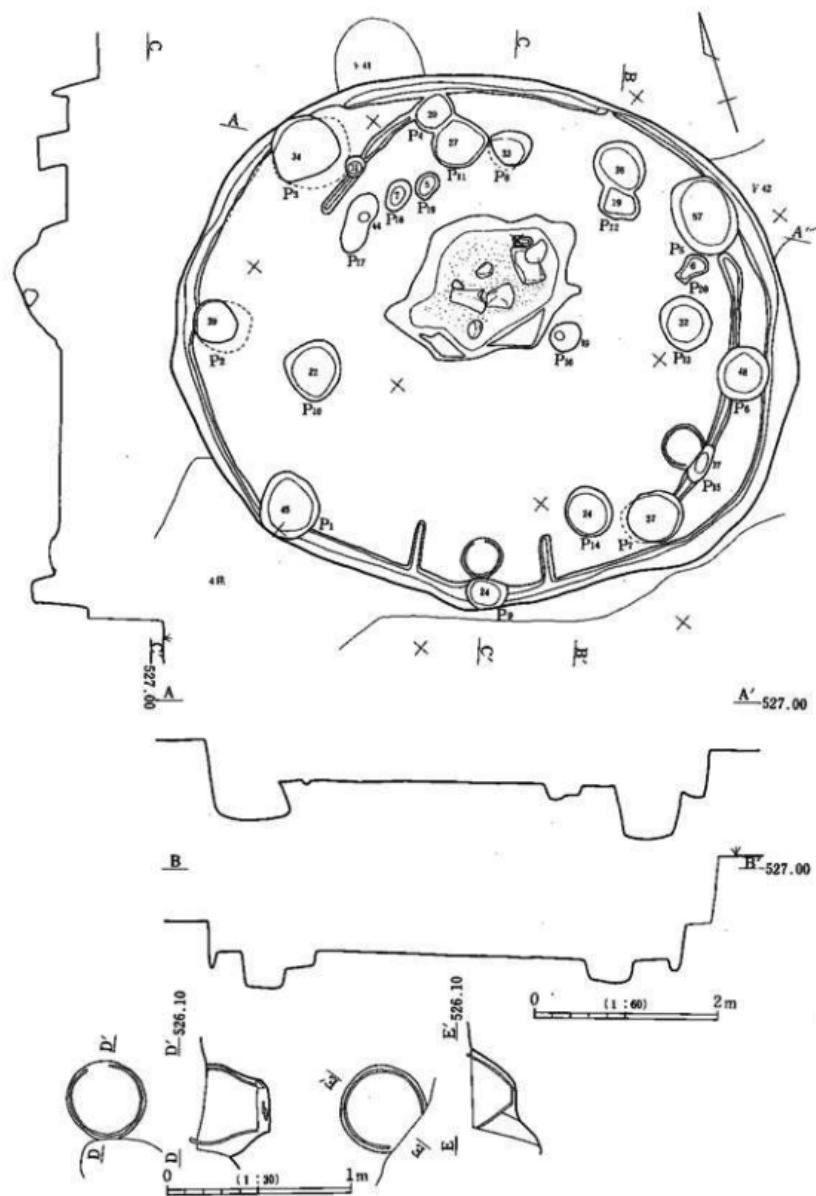


図63 MSD 3号住居址



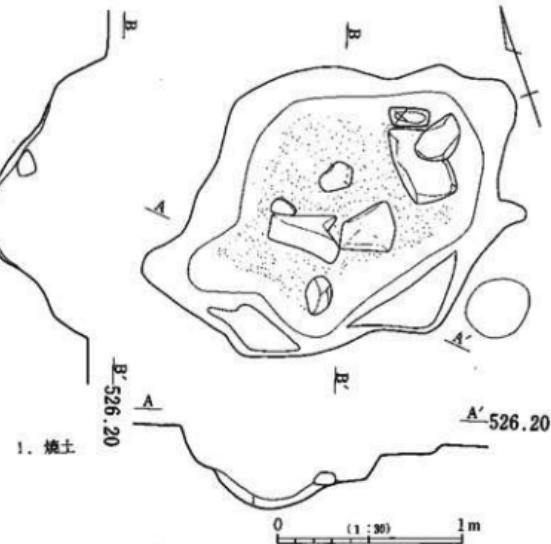
擲圖64 MSD 5号住居址

④ 5号住居址（押図64・65、第9・10・11・30・31・32・33・48・49・52図）

**遺構** 第II地区AM53を中心にして検出し、全体を調査した。土坑41・42を切り、弥生時代の4号住居址に切られる。5.7×6.6mの精円形の竪穴住居址で、主軸方向はN21°Eを示す。壁高は46~26cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は壁下をほぼ全周し、幅22~6cm・深さ17~3cmを測る。北側・南東側の周溝内側には、はり床下に周溝が確認され、幅19~8cm・深さ15~2cmを測る。床面は平坦でたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1・P2・P3・P5・P6・P7の6本で、壁下に位置する。P10・P11・P12・P13・P14ははり床下から検出され、古い主柱穴と考えられる。南壁下と南東壁下やや内側に埋甕があり、床面を円形に掘り凹め、底部を穿孔した深鉢を正位で埋めている。後者ははり床下にあり、古い埋甕と判断できた。炉址は中央わずかに北寄りに位置する切りゴタツ状の石組炉で、202×162cmの不整形を呈する。甕は抜かれて残っていないが、底に礫が落ち込んでいた。焼土は底の全面と西側のやや高い位置にあり、後者は古いものと判断できた。周溝・主柱穴・埋甕・炉址ともに新旧が確認でき、建て替え住居址である。ただ、古い主柱穴の1本のみが把握できなかった。旧の住居址は、5.1×4.5mの精円形を呈し、主軸方向はN41°Eを示す。

**遺物** 土器・石器があり、上層から多量に出土していく、いわゆる吹上パターンである。土器は深鉢（9-5~13、10-1~10、11-1・2）で、9-9は新しい埋甕、10-1は旧の埋甕である。石器は、打製石斧（30-7~25、31-1~6）、横刃形石器（31-8~17、32-1~19）、磨製石斧未成品（31-7、32-20）、敲打器（32-21~23）、打製石錐（33-2~4）、すり石（33-1）、打製石鏡（48-9）、使用痕のある剝片等（48-11~14、49-1~6）がある。ほかに、土偶の頭部（52-1）、土製円板（52-6）がある。

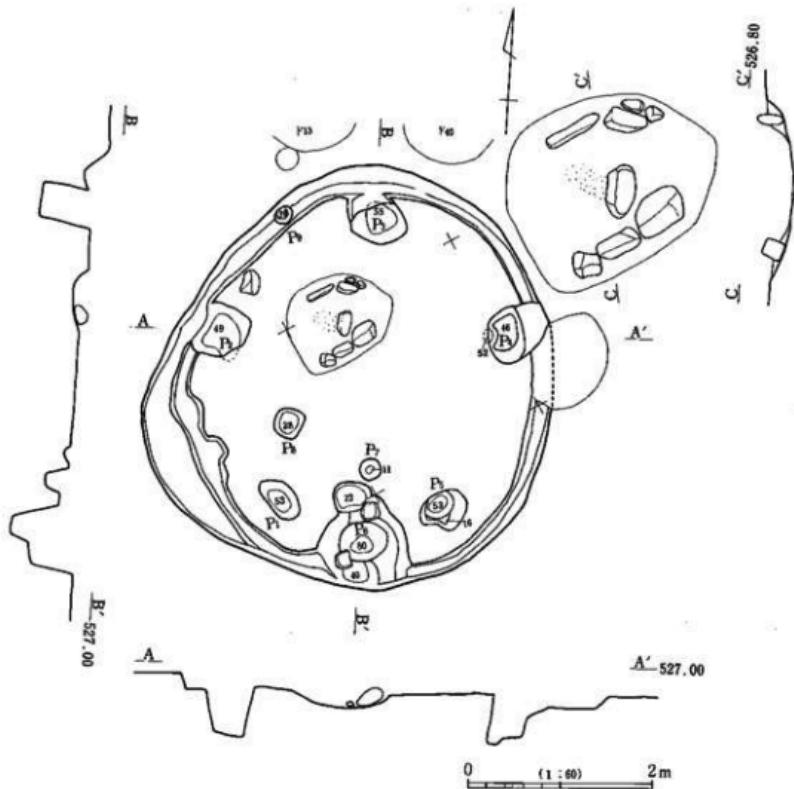
出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



押図65 MSD 5号住居址

⑤ 6号住居址（拝図66、第11・33・34・49図）

遺構 第II地区 A P52を中心にして検出し、全体を調査した。4.3×4.5mの円形の竪穴住居址で、主軸方向はN32°Wを示す。西側のプラン把握が十分でなく、ややふくらんでしまった可能性がある。壁高は19~5cmを測り、浅いため分かり難く緩やかな壁面をなす。周溝は壁下を全周し、幅30~16cm・深さ26~2cmを測る。床面は一部にたたき状に堅い部分が認められたが、全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P2・P3・P4・P5の5本で、壁際に規則的に並ぶ。P6は入口部である。炉址は中央北西寄りに位置する石組炉で、114×94cmの方形に床面を凹め、32~10cmの礫7個を用いて方形に組んでいる。北西・南東側の石は抜かれて残っていなかった。内側にわずかに焼土が認められた。



拝図66 MSD 6号住居址

遺物 土器・石器があり、出土量は多くない。土器は深鉢（11-3～20）である。石器は、打製石斧（33-5～8）・横刃形石器（33-9～19）・磨製石斧（33-20～22）・打製石錐（34-1～4）・使用痕のある剝片（49-7・8）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。

#### ⑥ 7号住居址（挿図67、第12・13・34・35・49図）

造構 第II地区A T54を中心にして検出した。12号住居址を切り、8号・13号住居址に切られる。5.7×5.7mの円形の竪穴住居址で、主軸方向はN 2° Eを示す。壁高は28～11cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は壁下をほぼ全周し、8号・13号住居址はり床下にも確認され、幅26～12cm・深さ30～15cmを測る。南東側一部が二重になっていた。床面は平坦でたたき状に堅く良好である。主柱穴はP2・P6・P9・P10・P12の5本で、ほぼ等間隔で並ぶ。P1は上面に30～15cmの礫7個が入れられる。炉址は中央北寄りに位置する石組炉で、北側は8号住居址に切られている。130×80cmの長方形に礫を組み合わせ、内側がわずかに凹んで焼土が多く認められた。

遺物 土器・石器があり、まとまった好資料である。土器は深鉢（12-1～6、13-1～12）で、12-2は類例の乏しい器形を呈する。13-10～12は同一個体である。石器は、打製石斧（34-5～10）・横刃形石器（34-11～22、35-1～5）・石匙（35-6）・敲打器（35-7・8）・打製石錐（35-9）・石皿（35-10）・石棒（35-11）・石錐（49-9・10）等がある。

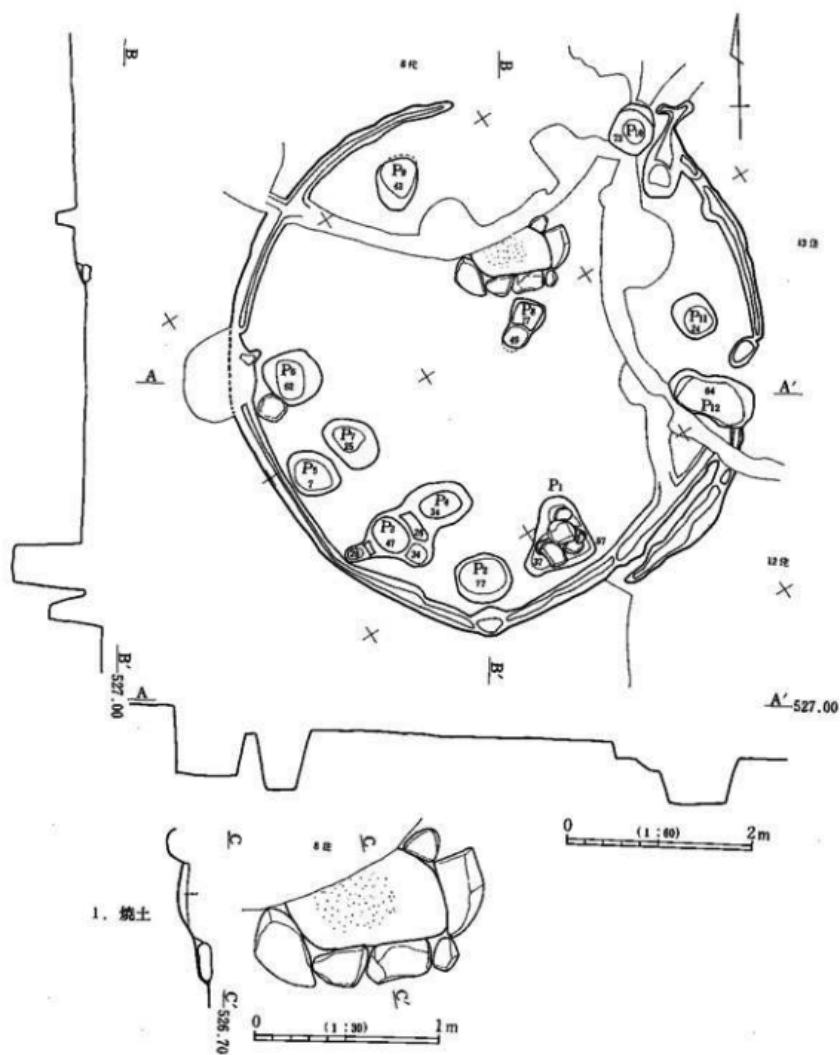
出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。

#### ⑦ 8号住居址（挿図68、第14・15・35・36・37・49図）

造構 第II地区B U54を中心にして検出し、全体を調査した。7号・12号住居址を切る。5.0×5.0mの丸みを帯びた方形の竪穴住居址で、主軸方向はN 63° Wを示す。壁高は40～11cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は壁下をほぼ全周し、幅20～12cm・深さ24～6cmを測る。床面は東側がやや低くなり、たたき状に堅く良好である。主柱穴はP3・P4・P5・P82の4本で、壁下隅に位置する。埋甕が南壁下中央に3個あり、北側の2個ははり床下にあり、南側が新しい埋甕である。いずれも床面を円形に掘り凹め、深鉢を正位に埋めている。炉址は中央西寄りに位置する切りゴツッ状の石組炉で、138×114cmの不整形を呈する。礫は抜かれて残っていないが、礫が置かれた位置は段がついて確認できた。底に焼土が大量に認められた。

遺物 床面上からの出土が多い好資料である。土器は深鉢（14-1～13、15-1～12）で、14-1・3・4が埋甕の埋設土器で、1が新しい。石器は、打製石斧（35-12～16、36-1～5）・横刃形石器（36-6～21、37-1～4）・磨製石斧（37-5～7）・敲打器（37-8～14）・打製石錐（37-15）・石皿（37-16）・打製石錐（49-11・12）・石錐（49-15）・使用痕のある剝片（49-13・14）がある。ほかに、土偶（52-8）・土製円板（52-8・9）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



擇図67 MSD 7号住居址

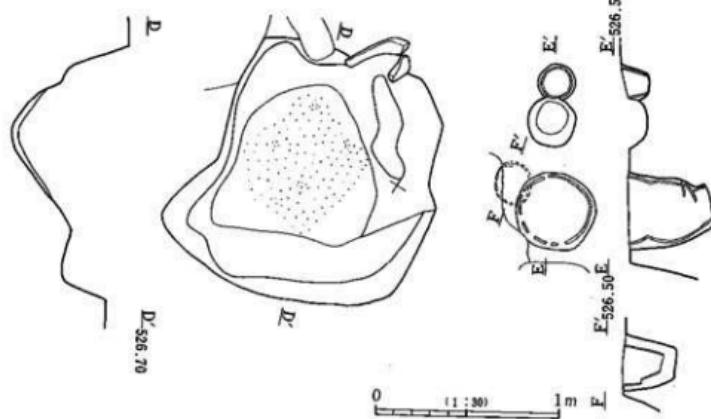
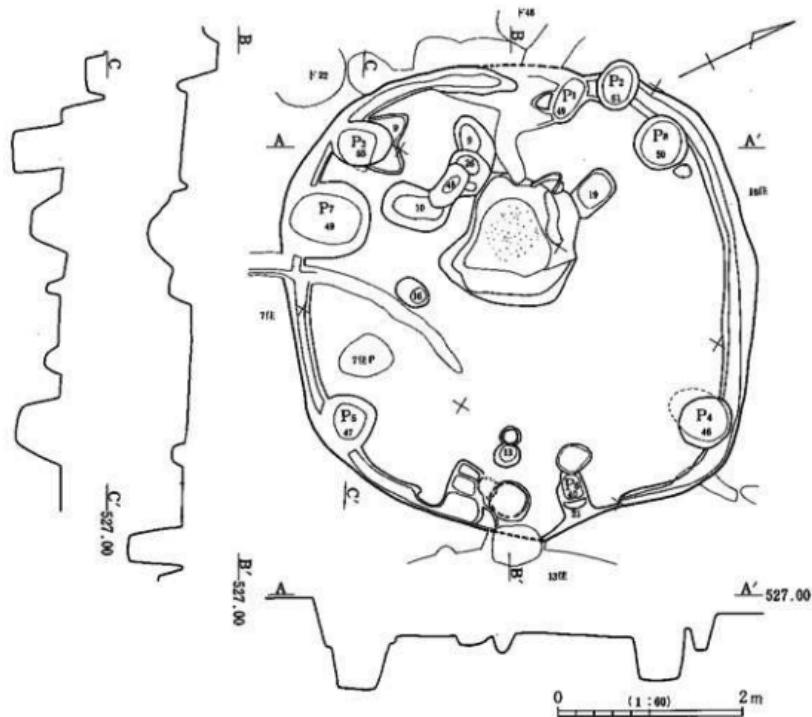
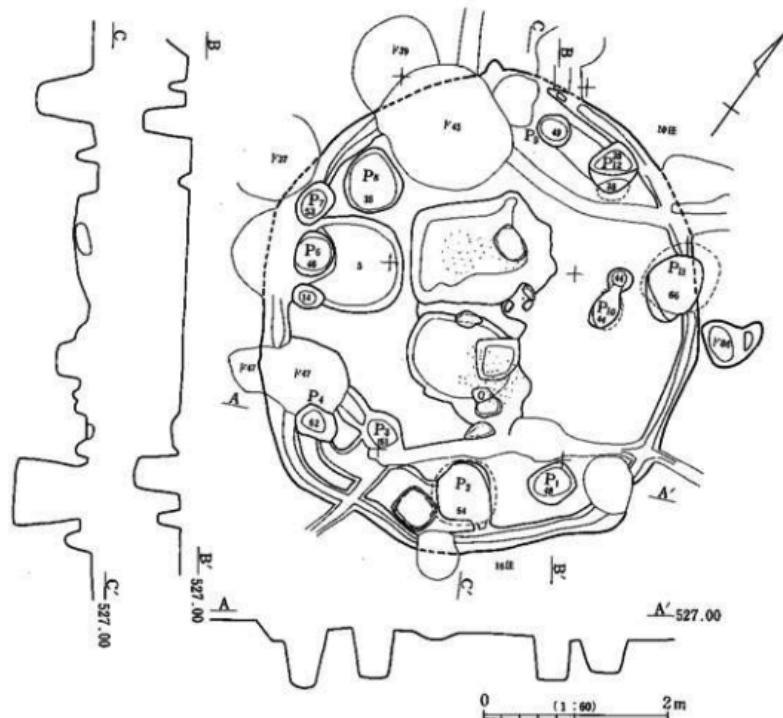


图68 MSD 8号住居址

⑧ 9号住居址（拵図69・70、第16・38・図）

造構 第II地区AX55を中心にして検出した。10号・16号住居址を切り、土坑37・45・47と重複し、ほぼ全体を調査した。5.1×4.6mの楕円形の竪穴住居址で、主軸方向はN36Eを示す。壁高は27~1cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。東側では残らない部分が多い。周溝は壁下を全周し、幅26~16cm・深さ22~6cmを測り、東側のプラン確認の決め手となった。床面は凹凸があり、全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P4・P7・P9で、ほかに本址より新しいP11の位置に主柱穴があったと考えらる。埋甕は南壁下中央にあり、床面を方形に掘り凹め、深鉢を正位に埋めている。炉址は中央北西寄りに位置する切りゴタツ状の石組炉で、150×110cmの不整形を呈する。礫は抜かれて残っていない。底に焼土が認められた。その南東側に焼土をもつ120×100cmの浅い落ち込みがあり、旧の炉址と考えられる。切り合い関係が著しい上検出面から浅いため、柱穴の把握に問題を残す。炉址の状況からみれば建て替えられている可能性が高い。

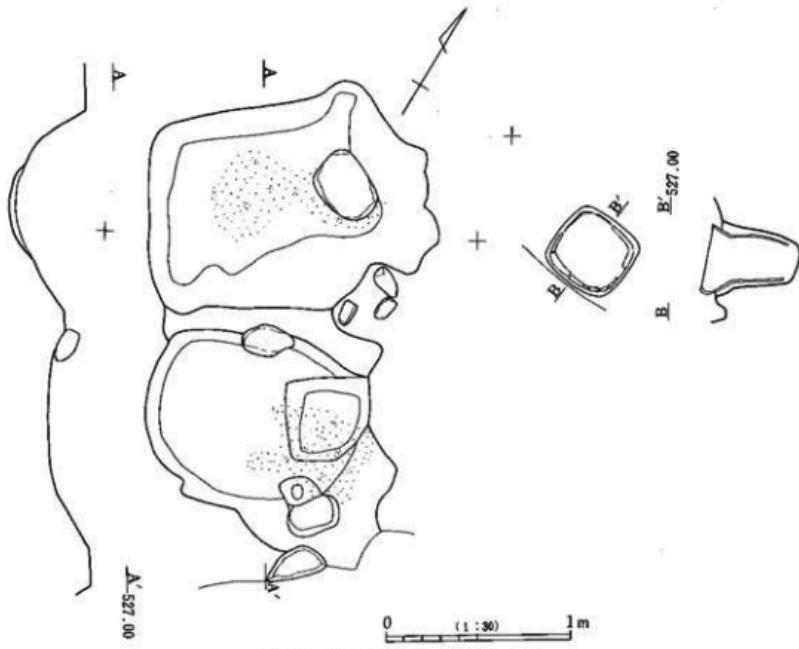


**遺物** 土器・石器があり、床面上からやや浮いた位置からの出土が多い。土器は深鉢（16-1～9）で、16-1 埋甕の埋設土器で、口縁部が方形を呈する。石器は、打製石斧（38-1～7）・横刃形石器（38-8～10）・磨製石斧（38-11）・打製石錐（38-12・13）がある。

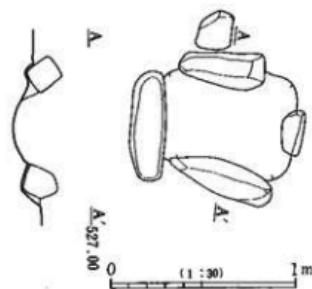
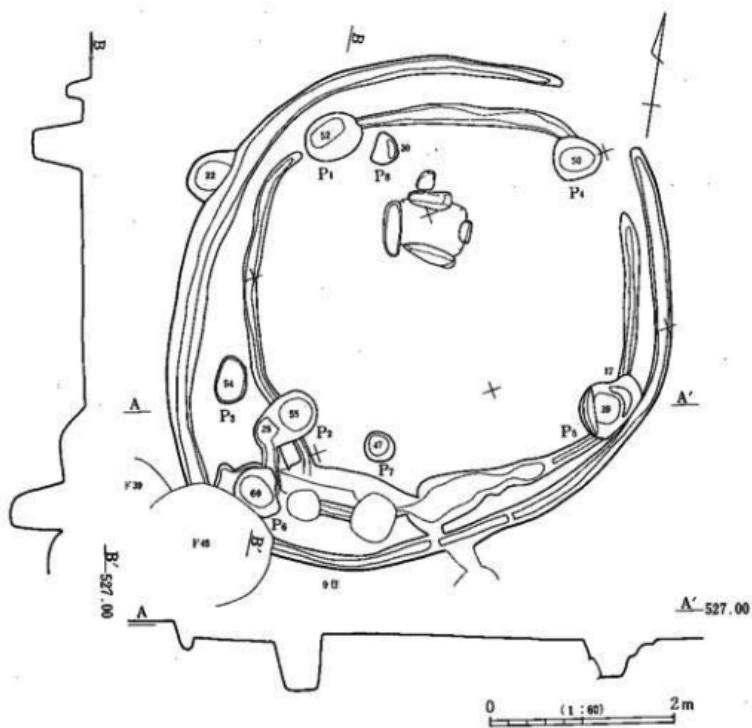
出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。

⑨ 10号住居址（挿図71・72、第17・38・39・50図）

**遺構** 第II地区B H55を中心にして検出した。9号住居址、土坑45に切られ、東側1/3程は削平されて床面・壁は残っていないが、ほぼ全体を調査した。5.3×3.3mの楕円形の竪穴住居址で、主軸方向はN10Wを示す。壁高は28～1cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。周溝は北東隅を除いて二重に全周する。内側のものははり床が認められたので、住居址が外側に拡張されたと判断できた。内側は幅22～12cm・深さ45～8cm、外側は幅32～14cm・深さ26～9cmを測る。床面は全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P2・P4・P5・P6で、P1・P4・P5が新旧とも同じ位置で建てられていて、南西隅では旧のP2がP6に変えられている。以上のように、ほぼ方形だったものが南西側に建て替えている。旧は4.4×4.2mの規模を呈する。炉址は中央北寄りに位置す



挿図70 MSD 9号住居址炉址・埋甕

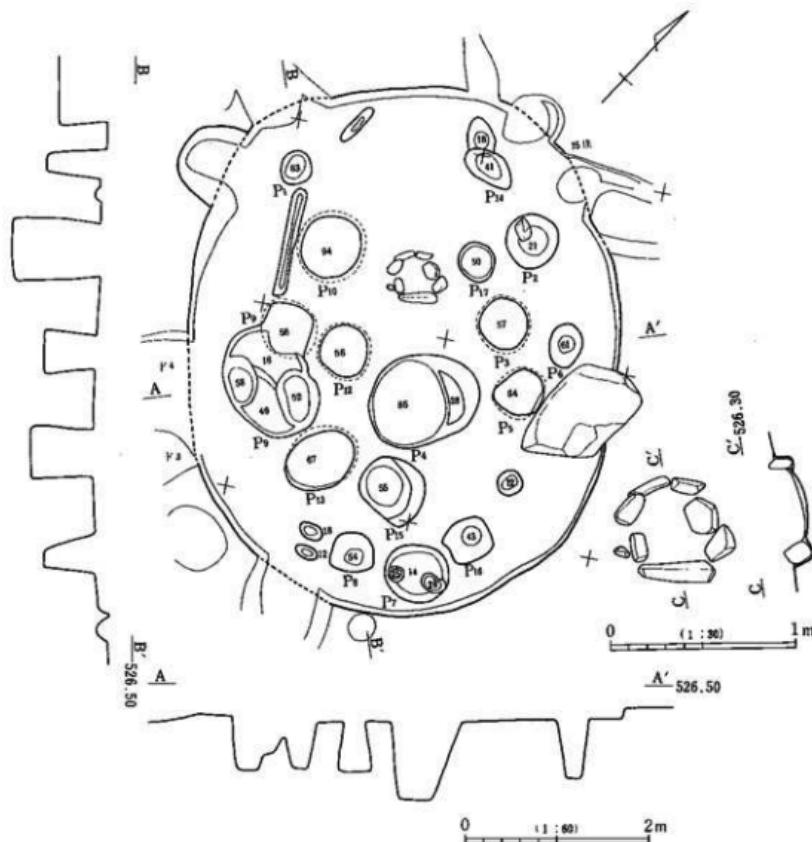


插図71 MSD 10号住居址

る石組炉で、礫4個を用いて76×92cmの方形に組む。内部は若干凹むが、ほとんど焼土は認められなかった。

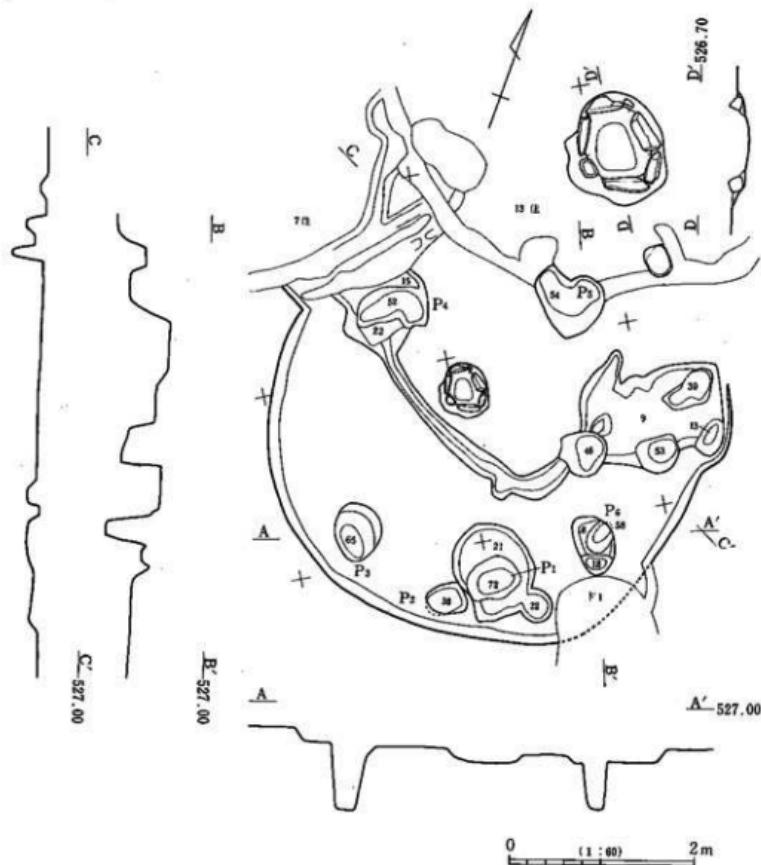
遺物 土器・石器があり、出土量は多くなく、削平の少ない西側に集中する。土器は深鉢(17-1~14)で、破片がほとんどである。石器は、打製石斧(38-14~18、39-1~3)・横刃形石器(39-4・5)・大型粗製石匙(39-6)・砥石(39-7)・磨製石斧(39-8)・打製石錐(39-9・10)・石錐(50-1)・使用痕のある剝片(50-2)がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



⑩ 11号住居址（挿図72、第17・18・39・40・50・52図）

遺構 第II地区AO56を中心にして検出した。15号住居址、土坑3・4に切られるが、ほぼ全体を調査した。5.6×4.6mの楕円形の竪穴住居址で、主軸方向はN10°Wを示す。壁高は35～8cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P6・P8・P9・P14・P16の6本で、壁からやや内側に位置する。P3・P4・P5・P10・P12・P13・P15ははり床下の柱穴となる。炉址は中央北西寄りに位置する石組炉で、礫7個を用いて56×55cmの方形に組む。内部は若干凹み、ほとんど焼土は認められなかった。



挿図73 MSD 12号・17号住居址

**遺物** 土器・石器があり、出土量は多くない。土器は深鉢（17-15、18-1～33）で、18-2は器台の可能性がある。石器は、打製石斧（39-11～15、40-1・2）・横刃形石器（40-3～8）・大型粗製石匙（40-9・10）・磨製石斧（40-11）・敲打器（40-12）・打製石錐（40-13～16）・打製石鎌（50-4）・石核（50-3）がある。ほかに、土鈴（52-5）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

⑪ 12号住居址（挿図73、第19・40・41・42・50・52図）

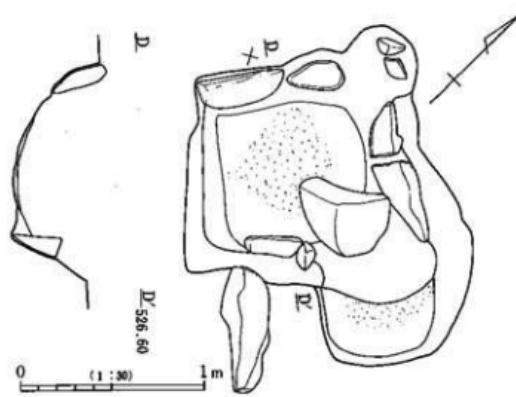
**遺構** 第II地区A Q55を中心にして検出した。7号・13号・17号住居址、土坑1に切られ、2/3程を調査した。切り合いのため北側が不明であるが、4.9mの円形の竪穴住居址で、主軸方向はN24°Wを示す。壁高は23～1cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は東側が低くなり、たたき状に堅く良好である。主柱穴はP3・P4・P5・P6の4本で、壁からやや内側に位置する。炉址は中央北西寄りに位置する石組炉で、礫7個を用いて62×52cmの丸みを帯びた方形に組む。内部は若干凹み、ほとんど焼土は認められなかった。

**遺物** 土器・石器があり、土器の出土は多くないが、石器が壁際に集中して出土した。土器は深鉢（19-1～30）で、2時期にわたる。4～17が縄文時代中期中葉1・18～30が中期後半に位置づけられ、後者は17号住居址に属するものであろう。石器は、打製石斧（40-17～21、41-1～6）・横刃形石器（41-7～19、42-1・2）・敲打器（42-3）・石皿（42-4）・打製石錐（42-5～8）・打製石鎌（50-5）がある。ほかに、土偶の頭部（52-3）がある。

出土遺物と住居址形態から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

⑫ 13号住居址（挿図74・75、第20・21・42・43・50図）

**遺構** 第II地区A S56を中心にして検出した。7号・12号・17号住居址を切り、全体を調査した。5.2×5.5mの梢円形の竪穴住居址で、主軸方向はN49°Wを示す。壁高は23～5cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦でたたき状に堅く良好である。主柱穴はP1・P2・P3・P4・P5・P6の6本で、壁際に位置する。P6は7号住居址の穴と重複している。南東壁下に石

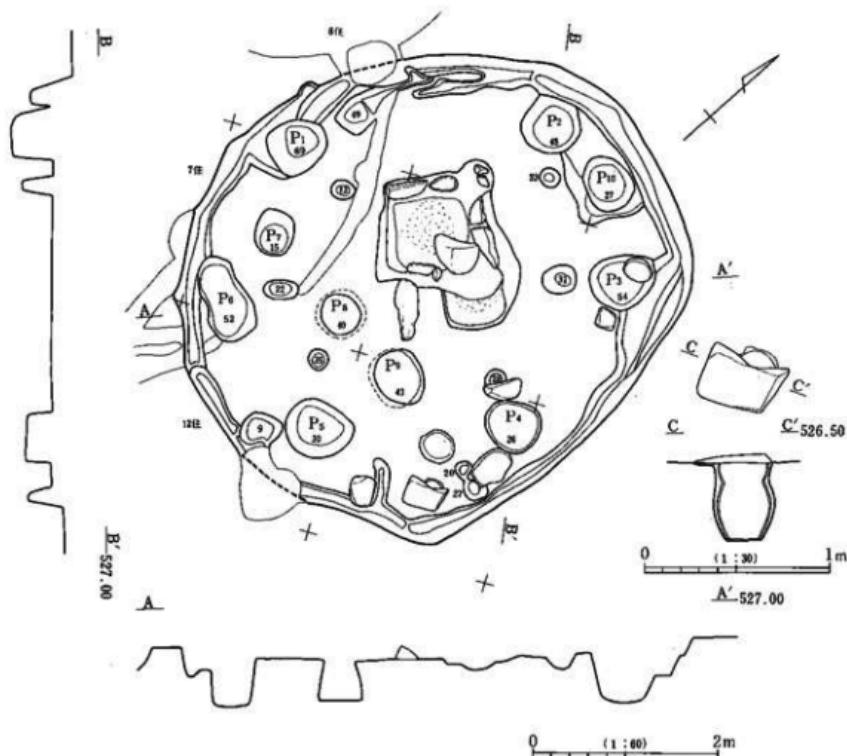


挿図74 MSD 13号住居址

蓋付の埋甕があり、床面を円形に掘り凹め、口縁部と底部を欠く深鉢を正位で埋め、上に方形の甕を置いている。炉址は中央北西寄りに位置する切りゴタツ状の石組炉で、南西側は抜かれているが甕7個を用いて125×120cmの方形に組む。内部は深くなり、焼土が認められた。南西側に75cmの方形の落ち込みがあり、中央に焼土が認められた。旧の炉址と考えられる。炉址からみれば、建て替えられている可能性がある。

遺物 土器・石器があり、多くないが床面上から出土した。土器は深鉢（20-1～9、21-1～3）で、20-1は埋甕の埋設土器である。石器は、打製石斧（42-9～15）・横刃形石器（43-16～19、44-1～7）・磨製石斧（44-8～10）・敲打器（44-11・12）・打製石鏟（44-13～16）・打製石鎌（50-6）・使用痕のある剥片（50-7～9）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



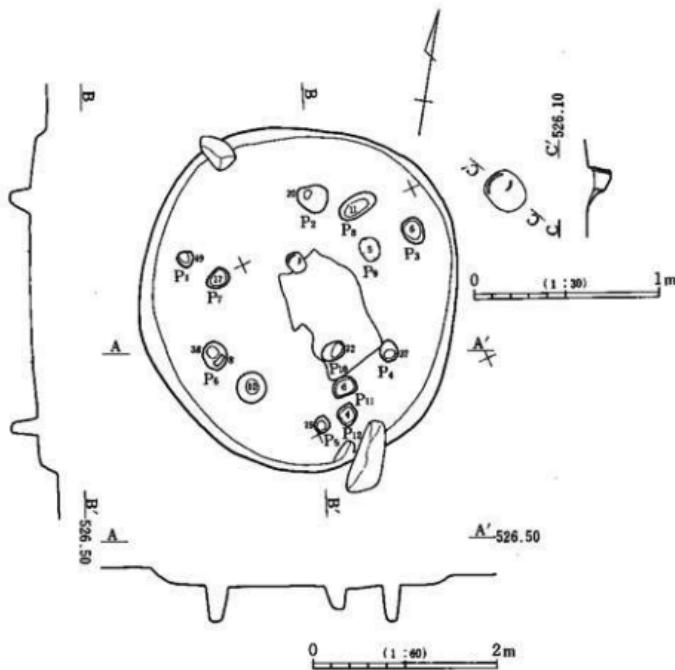
挿図75 MSD 13号住居址

⑬ 14号住居址（掲図76、第22・23・43・44・50・51図）

遺構 第II地区A L58を中心にして検出し、全体を調査した。3.7×3.4cmのゆがんだ円形の堅穴住居址で、主軸方向はN 9° Wを示す。壁高は20～8cmを割り、極めて緩やかな壁面をなす。床面は中央が低くなるナベ底状をなし、全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1～P6の6本で、壁から内側に33～18cmの小さい穴が位置する。炉址は中央北西寄りに位置する土器埋設炉で、床面を稍円形に掘り凹め、深鉢の脚部を埋めている。焼土はほとんど認められなかった。

遺物 土器・石器があり、土器の出土は多くない。土器は深鉢（22-1～51、23-1～7）で、22-4～10が炉址の埋設土器である。石器は、打製石斧（43-17～21）・横刃形石器（44-1～9）・磨製石斧（44-10～12）・敲打器（44-13）・打製石錐（44-14～17）・打製石鎌（50-10～12）・石錐（50-13）・使用痕のある剣片（51-1・2）等がある。

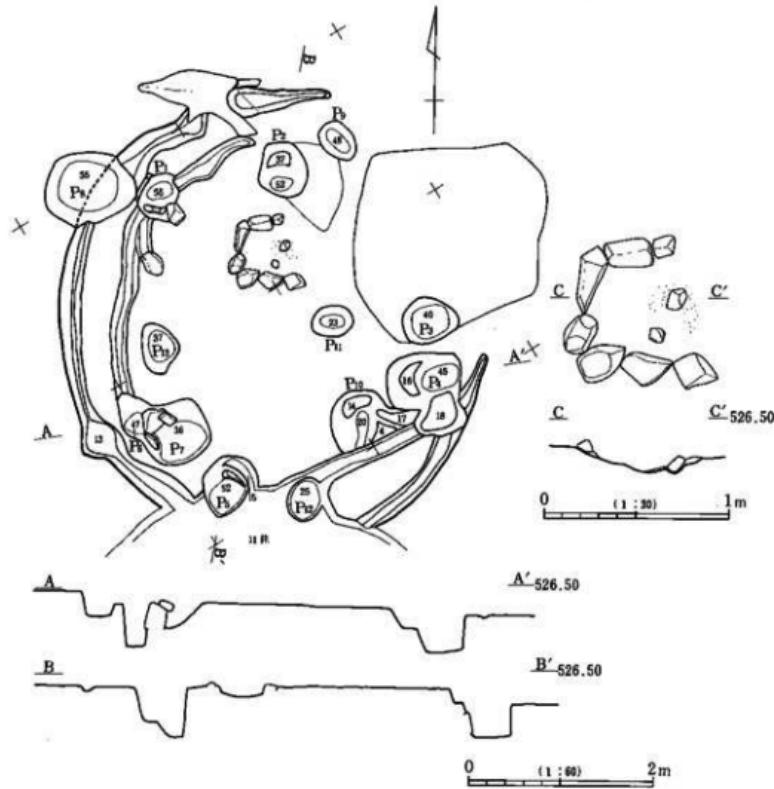
出土遺物から縄文時代中期初頭に位置づけられる。



掲図76 MSD 14号住居址

⑭ 15号住居址（拵図77、第23・44・45図）

**造構** 第II地区AQ58を中心にして検出した。11号住居址を切る。上面を削平され、東側の壁・床面は残っていないが、ほぼ全体を調査した。4.7×4.7mの円形の竪穴住居址で、主軸方向はN 10° Eを示す。壁高は14～8cmを測り、緩やかな壁面をなす。周溝は削平されている北東側を除いて確認できた。二重になる箇所が多く、内側ははり床されていた。外側は幅34～10cm・深さ20～5cm、内側は幅21～13cm・深さ11～5cmを測る。床面は東側半分は残存せず、西側は軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1・P4・P6・P9・P12で、本来は6本で北東側の1本を把握できなかつたものといえる。P2・P3・P5・P13も主柱穴である。P7・P10・P11・P13ははり床下から検出した。炉址は中央北寄りに位置する石組炉で、礫7個を用いて小規模の方形に組んでいるが、東側の礫は失っていた。内側がわずかに回み若干の焼土が認められた。周溝・主柱穴・はり床下柱

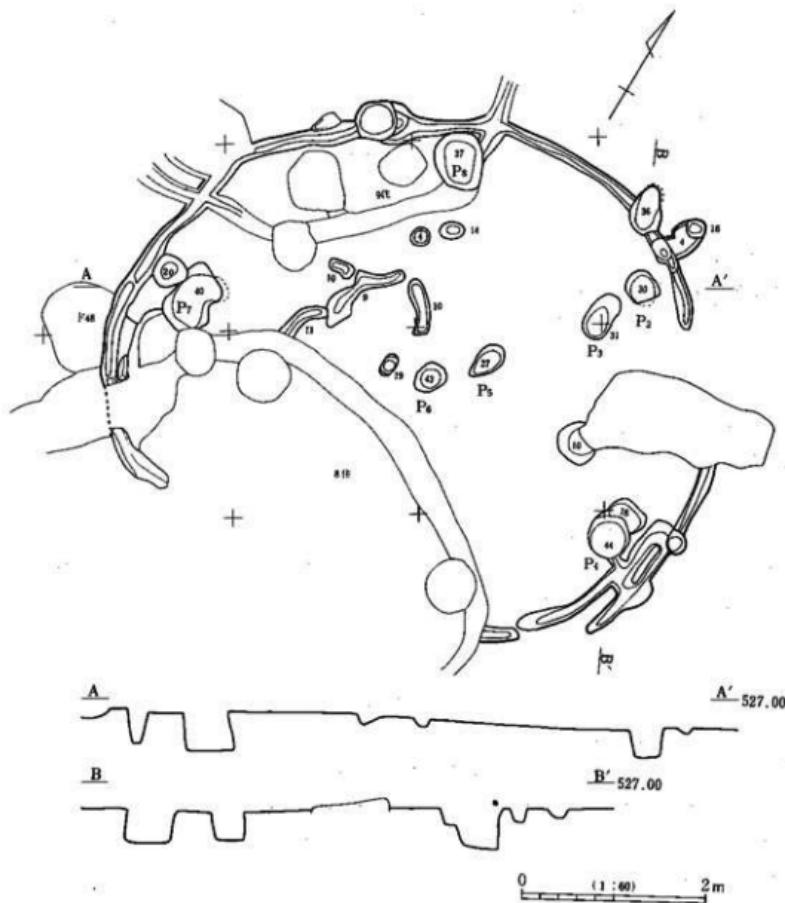


拵図77 MSD 15号住居址

穴の存在から建て替えの住居址である。

遺物 土器深鉢（23-8～12）、石器横刃形石器（44-18～20、45-1～4）、磨製石斧（45-5）、打製石錐（45-6～11）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。



插図78 M.S.D. 16号住居址

⑯ 16号住居址（挿図78、第23・45図）

遺構 第II地区A V56を中心にして検出した。8号・9号住居址に切られ、土坑48と重複する。上層は削平されている。5.6×6.4mの楕円形の竪穴住居址である。壁高は5cm以下で、切られたたり削平されていて、南東側でわずかに残存するのみである。周溝は東側と8号住居址に切られる箇所以外にあり、幅18~10cm・深さ31~3cmを測る。床面はわずかに南西側に残存し、たたき状に堅い箇所を認めた。主柱穴はP2・P4・P7・P8の4本で、8号住居址に切られる位置に2本ある6本主柱穴と考えられる。炉址は削平されたのか残っていない。中央北西側に小溝がみられ、この箇所が炉址だったかもしれない。

遺物 土器深鉢（23-13~17）・石器横刃形石器（45-12）があり、出土量は極めて少ない。出土遺物が少なく明確でないが、縄文時代中期後半に位置づけられる。

⑰ 17号住居址（挿図73）

遺構 第II地区A R55付近で12号住居址床面調査中に、住居址の周溝らしき小溝が検出されたので、竪穴住居址とした。重複が著しいため、平面形は分からず、12号住居址を切っている可能性が高く、13号住居址に切られる。床面は確認できなかった。

本址に伴うと把握できた遺物はないが、12号住居址の図版で掲載したうちで、縄文時代中期後半に位置づく19-18~30が可能性がある。

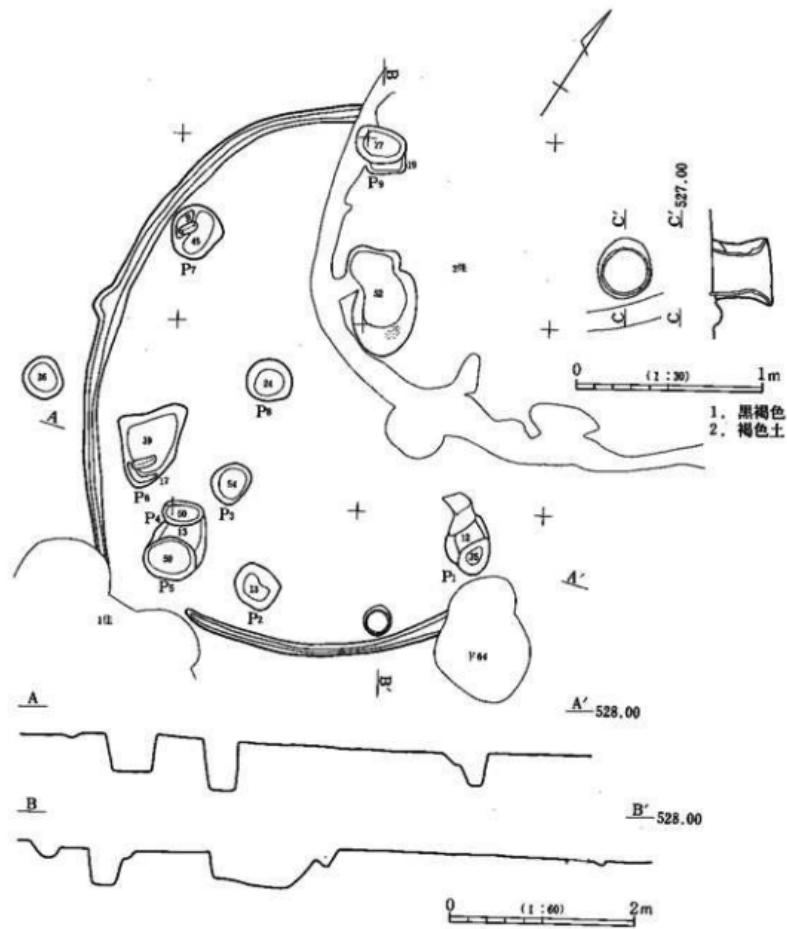
出土遺物から時期は明確にできないが、切り合い関係と前記遺物からみれば縄文時代中期後半に位置づけられる。

⑱ 18号住居址（挿図79、第23・45図）

遺構 第I地区B I51を中心にして検出した。1号・3号住居址・土坑64に切られ、床面は水田の造成で削平されている。5.8×6.1mの楕円形の竪穴住居址で、主軸に直交する方向の規模は推定である。壁面・床面は残らず、周溝と柱穴が確認できた。周溝は東側を除きほぼ確認でき、幅32~8cm・深さ13~2cmを測る。主柱穴はP1・P5・P7・P9の4本で、3号住居址に切られる位置に1本ある5本主柱穴と考えられる。南東周溝際に上面を削平されているが埋甕があり、床面を円形に掘り凹め、深鉢を逆位に埋めていた。炉址は削平されたか残っていないが、中央北側に2号住居址はり床下に焼土をもつ穴があり、この箇所が炉址だったかもしれない。

遺物 土器・石器があり、出土量は少なく、埋甕以外は柱穴内から出土した。土器は深鉢（23-18~26、24-1）で、24-1は埋甕の埋設土器である。石器は、石器打製石斧（45-13）・横刃形石器（45-14）がある。

出土遺物が少なく明確でないが、縄文時代中期後半に位置づけられる。



擇図79 MSD 18号住居址

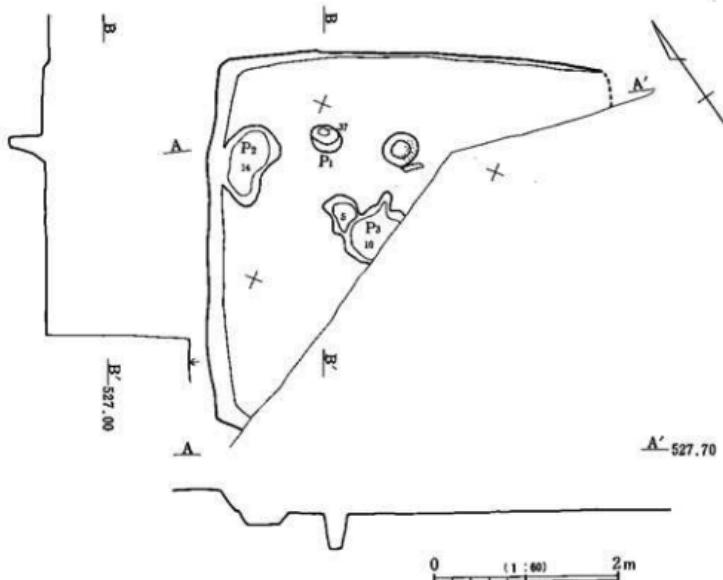
## (2) 弥生時代

### ① 4号住居址（挿図80・81、第45・46図）

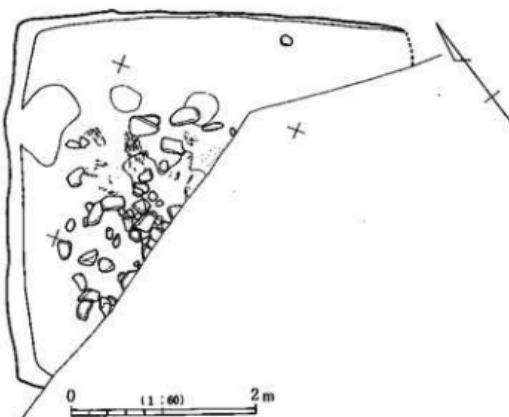
**遺構** 第II地区AM51を中心にして検出し、南側が用地外にかかるため半分程を調査した。縄文時代の5号住居址を切る。4.0×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN38°Eを示す。壁高は27~15cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は平坦で軟らかく状態は悪い。主柱穴は北側のP1のみを検出した。P2・P3は本址より古い可能性が高い。炉址は北東側主柱穴間に位置する炉縁石を有する地床炉で、床面を28×30cmの円形にわずかに凹め、内側に打製石斧を炉縁石として置く。焼土が若干認められた。中央部の覆土中から床面上にかけて、30cm前後の礫が大量にあり、炭・焼土と一緒に認められた。

**遺物** 遺物は少なく、床面上からの出土が多い。土器甕（45-15~17）、石器打製石斧（45-18、46-2・3）、横刃形石器（46-4）、磨製石斧（46-6）、打製石錐（46-6）がある。台付甕（45-15）は東海系の土器で、打製石斧の46-1は炉縁石である。石器の中には縄文時代のものがあると考えられる。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



挿図80 MSD 4号住居址



挿図81 MSD 4号住居址 石・炭分布

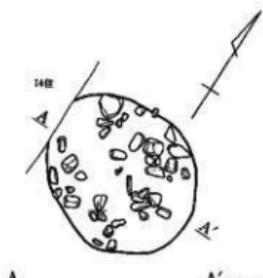
## 2) 集石炉

### ① 集石炉 1 (挿図82)

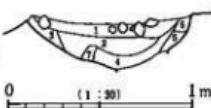
遺構 第II地区AK・L59で検出し、縄文時代中期初頭の14号住居址に切られるが、ほぼ全体を調査した。83×80cmの円形を呈し、上層に14~3cmの石が集まっている。その下には、細かい炭の層があり、石は上層のみに認められた。

断面形は椀状を呈し、深さは30cmを測る。

遺物の出土はなく時期の決め手に欠けるが、  
切り合い関係から縄文時代中期初頭以前に位  
置づけられる。



1. 灰褐色土 (炭混じり)
2. 炭 (粒子が細かい)
3. 棕色土 (灰褐色土・ローム混じり)
4. 灰褐色土 (炭・ローム粒・褐色土混じり)
5. 灰褐色土 (黄褐色土混じり)
6. 黄褐色土 (灰褐色土・ローム粒混じり)
7. ローム (炭混じり)

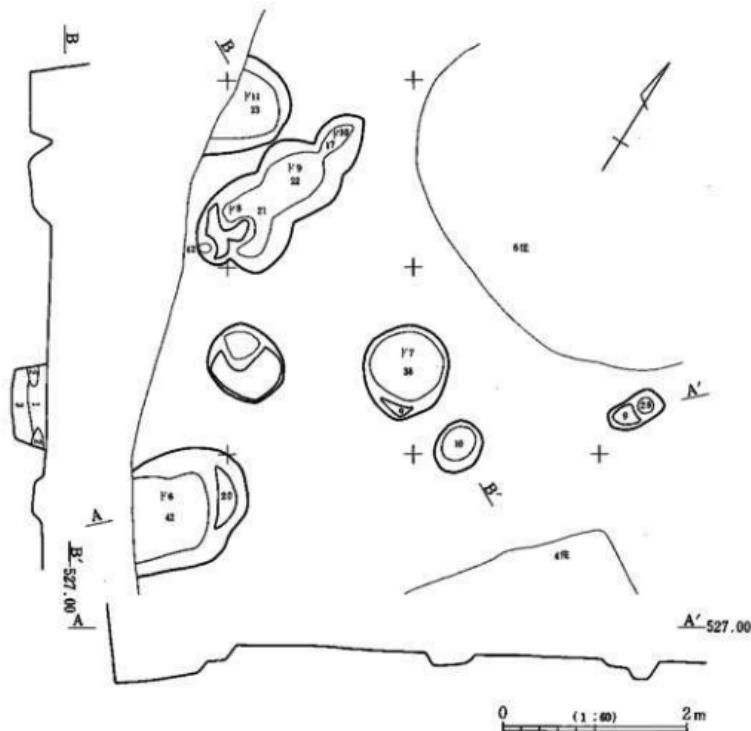


挿図82 MSD 集石炉 1

### 3) 土 坑

増田遺跡で土坑としたものは86を数える。遺物が出土した形の整ったものを土坑ととらえたため、ほかにも土坑とすべき大きな穴がある。遺構図（第69・83～91）では全てを掲載するが、説明は省略して一覧表で示す。遺物も図示・拓影できるものは全て掲載した。

分布をみると、縄文時代の堅穴住居址が東側の凹地帯に傾斜し始める箇所にあり、一部これらと重複しているが、ほとんど内側に存在する。形態は様々であり、遺物は細片が主体である。時期は全て縄文時代のものと考えて差し支えなく、集落に伴って長期間にわたって構築されたものであろう。性格は不明なことが多いが、一様でない状態からして様々な用途があったと考えられる。個々について十分な説明ができないのは遺憾である。



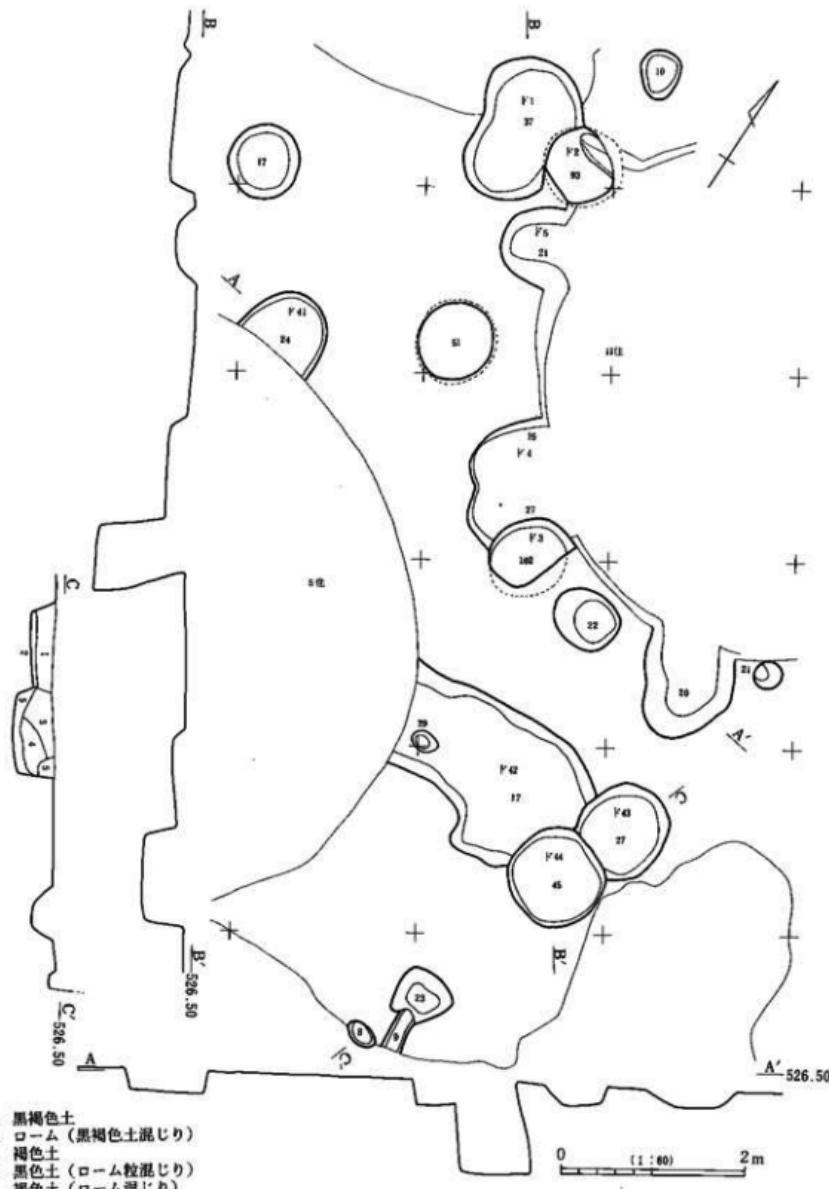


図84 MSD 土坑1・2・3・4・5・41・42・43・44

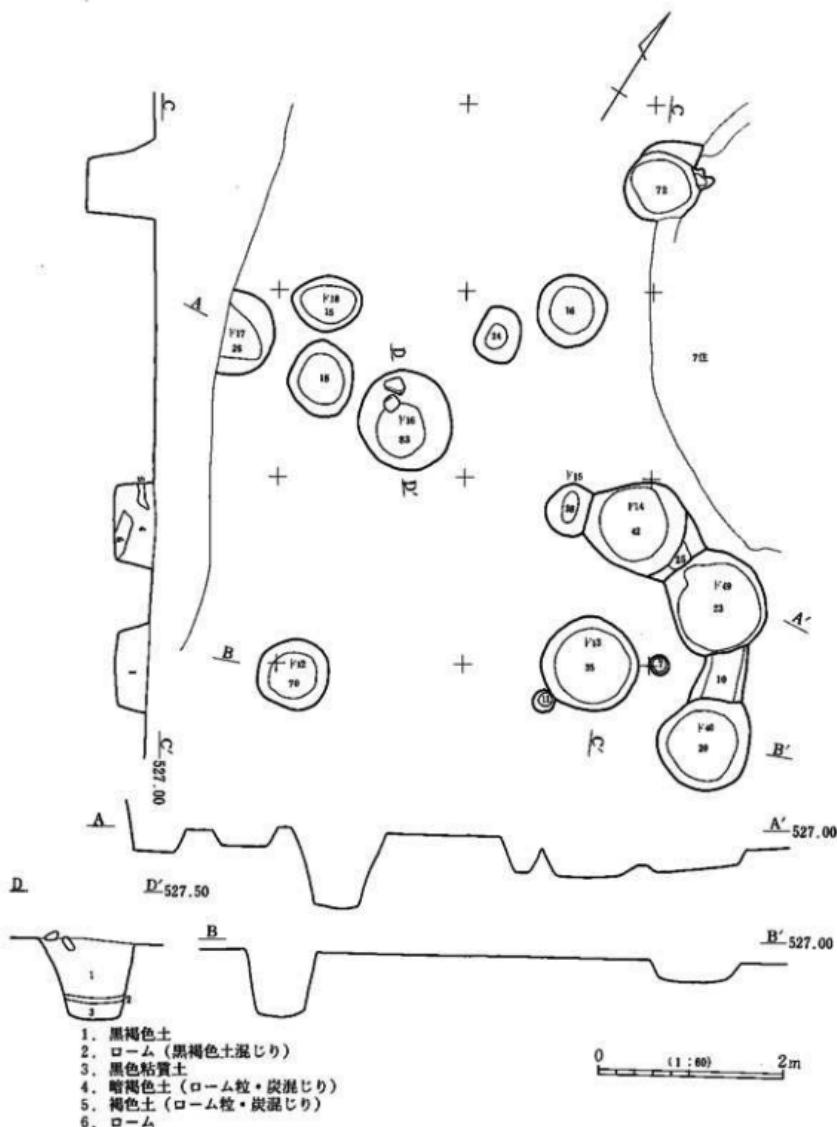
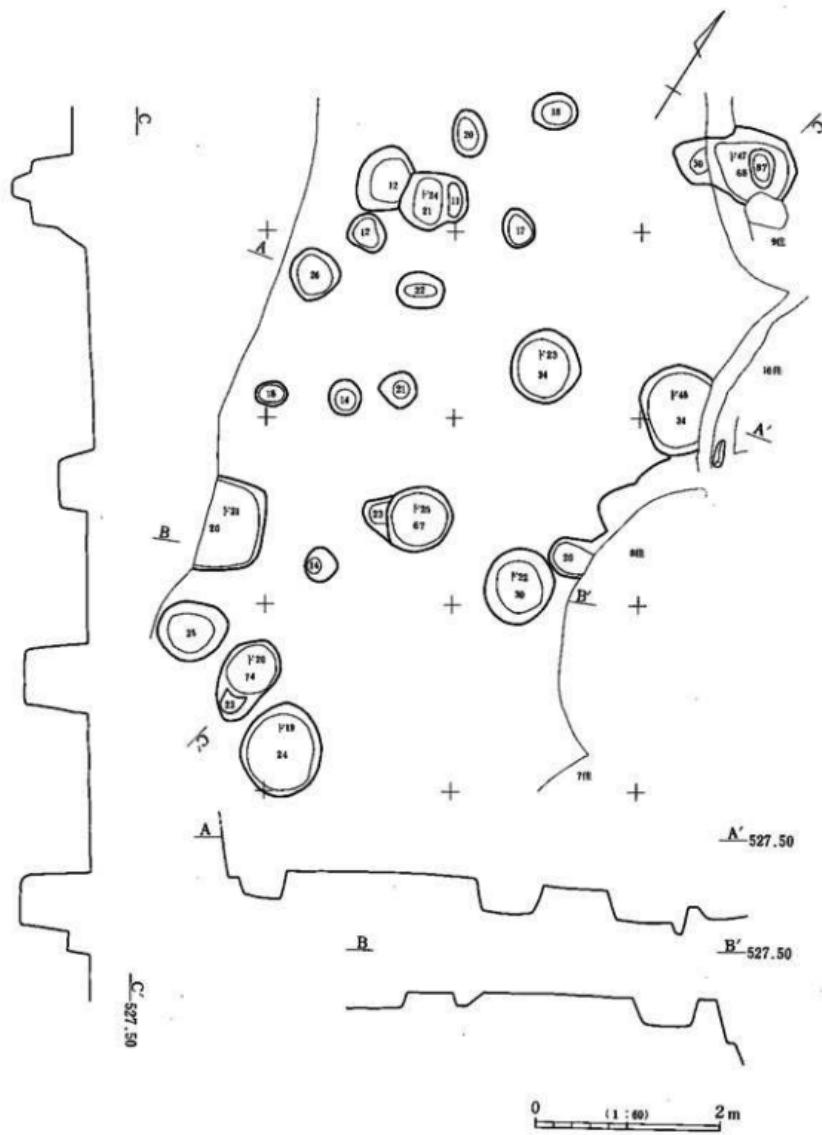


図85 MSD 土坑12・13・14・15・16・17・18・40・49



插図86 MSD 土坑19・20・21・22・23・24・25・47・48

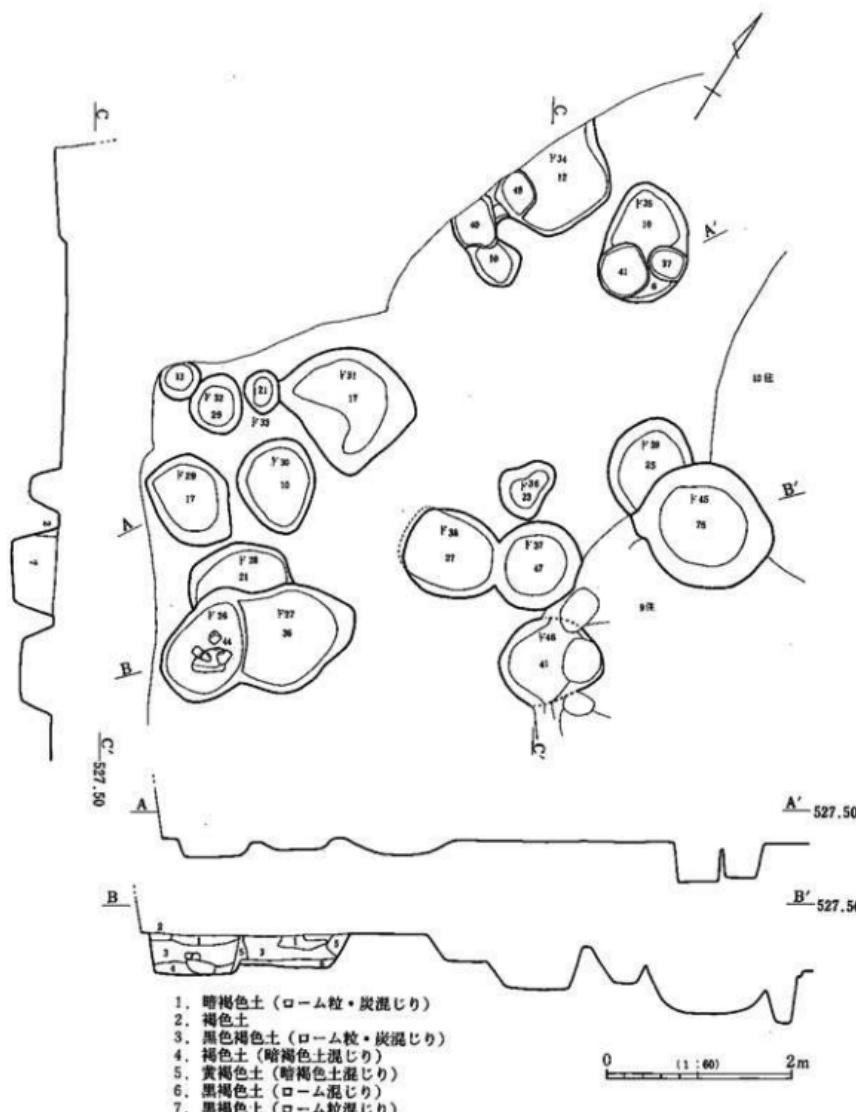
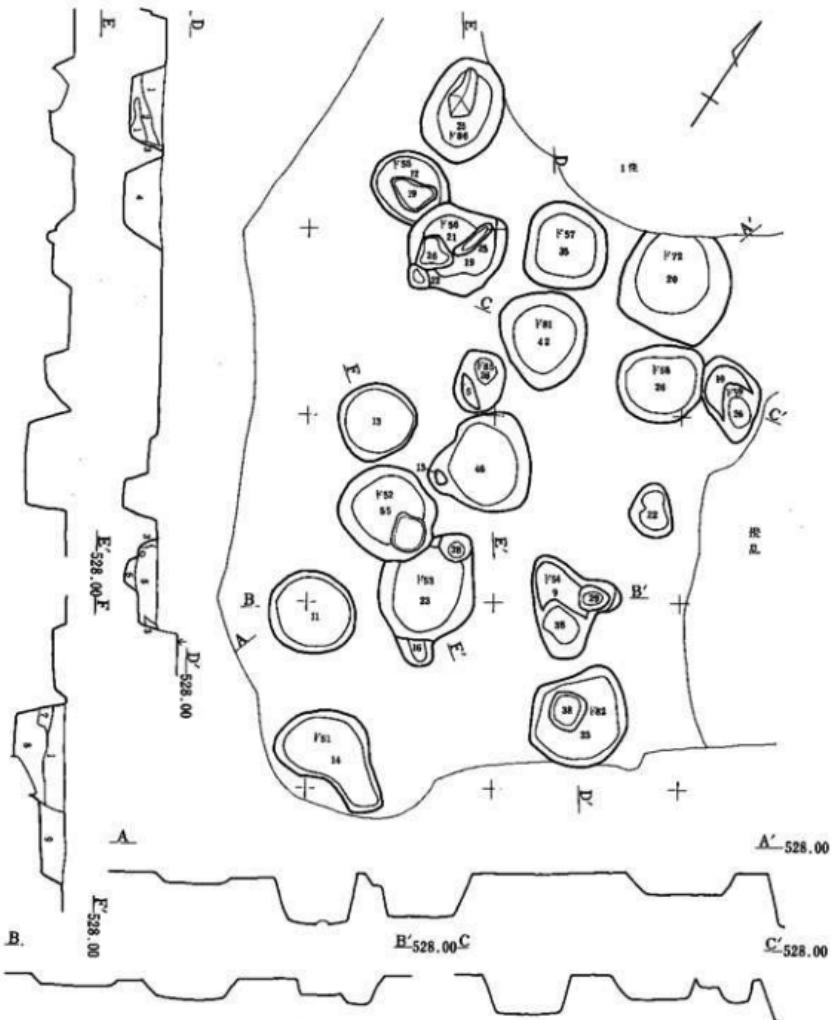


図87 M S D 土坑26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46



插図88 MSD 土坑51・52・53・54・55・56・57・58・59・72・81・82・85・86

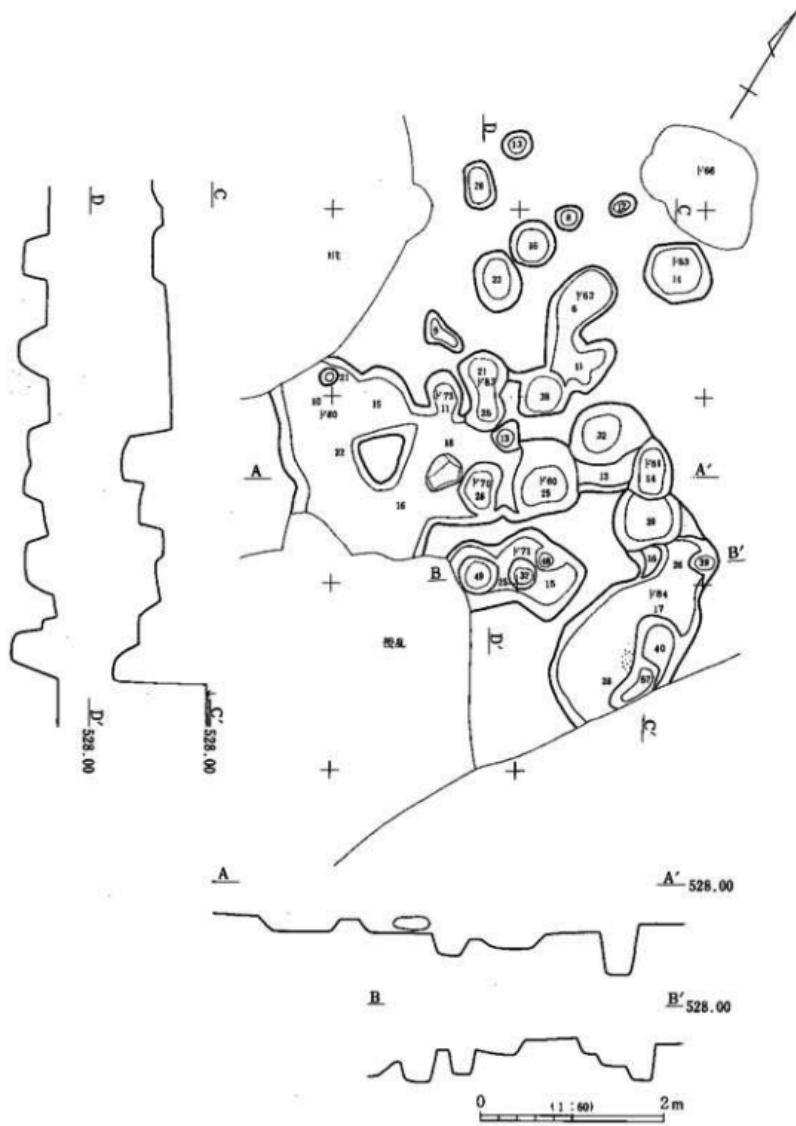
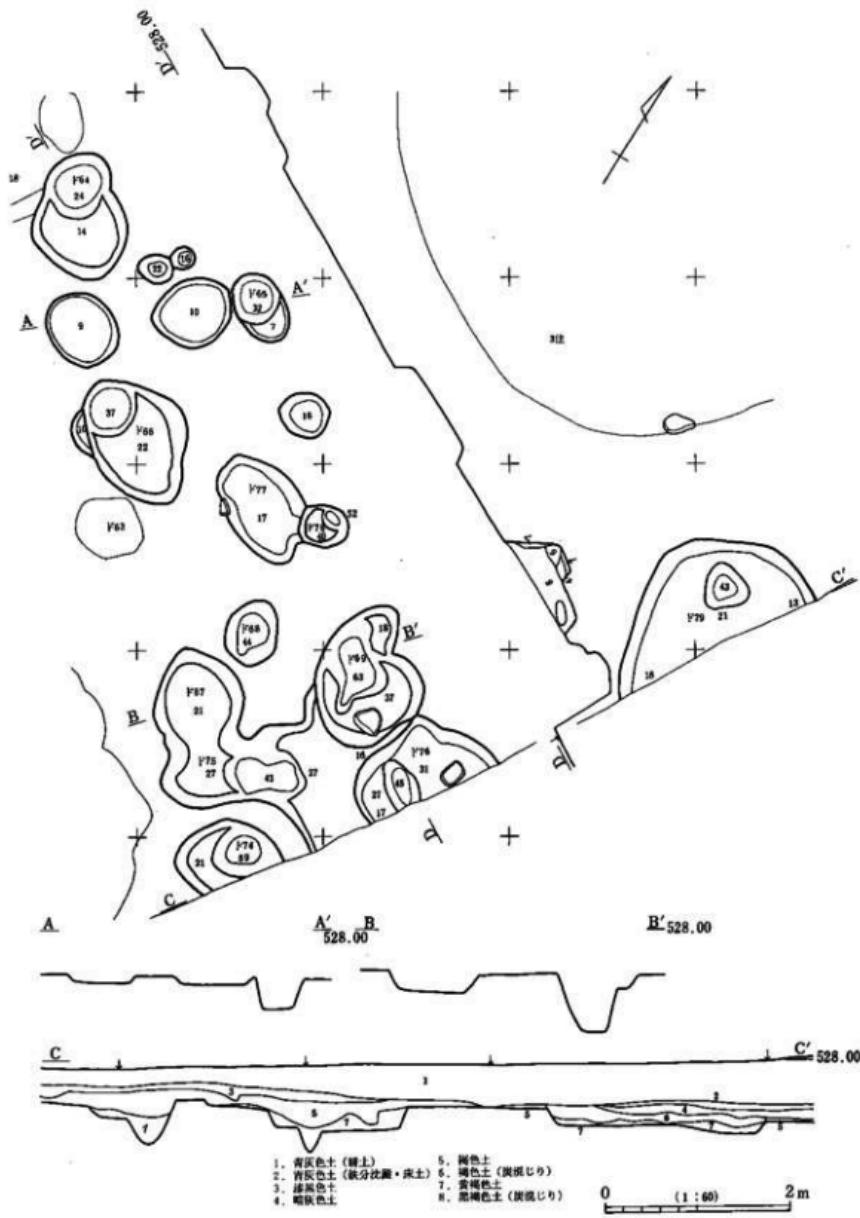


图89 MSD 土坑60·61·62·63·70·71·73·80·83·84



挿図90 MSD 土坑84・85・66・67・68・69・74・75・76・77・78・79

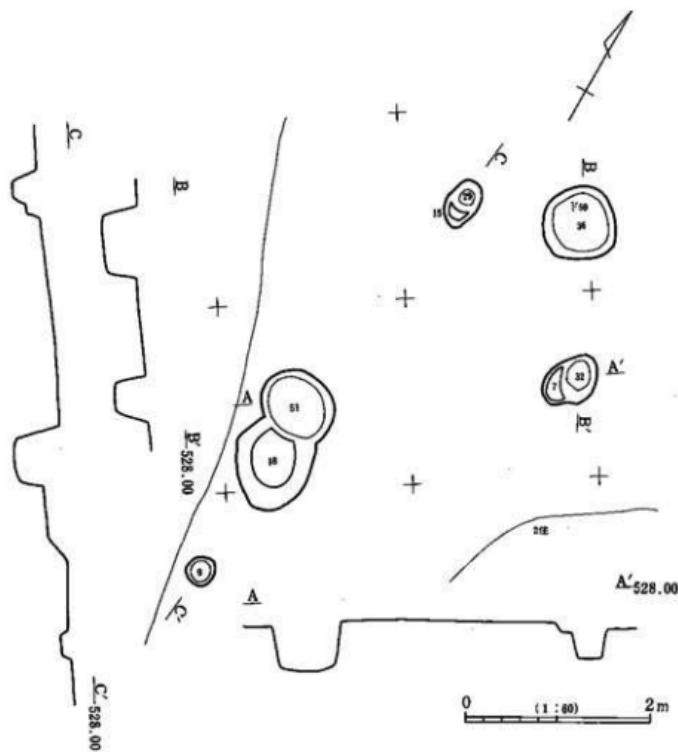


図91 MSD 土坑50

第1表 M S D 土坑一覧表

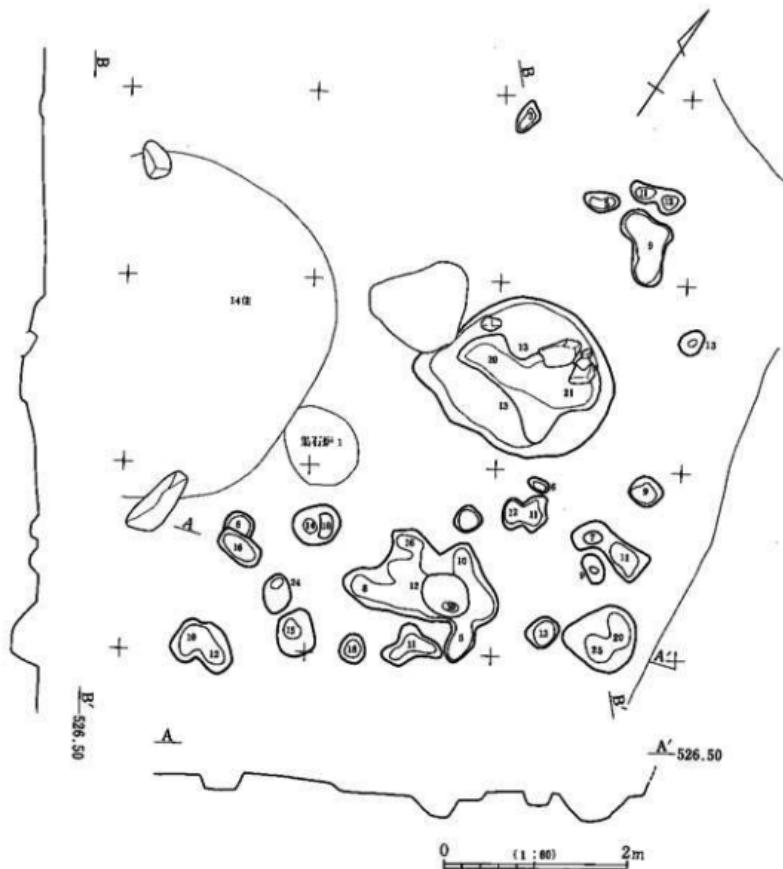
単位 cm

No	位 置	平 面 形	規 模	断 面 形	深 さ	備 考
1	A P55	椭円形	158×90	ナベ底状	37	7住・土坑2と重複
2	A P55	ひさご形	88×67	フ拉斯コ	93	11住・土坑1と重複
3	A N55	椭円形	86×64	袋 状	102	土坑4と重複、
4	A N55	ひさご形	106×-	ナベ底状	27	土坑3・11住と重複
5	A O55	椭円形	90×-	逆 台 形	21	11住と重複
6	A N49	不明	-×42	ナベ底状	42	南西側用地外
7	A N50・51	円形	100×93	逆 台 形	38	
8	A P50	椭円形	108×96	不 整 形	38	
9	A P50	円形	90×86	ナベ底状	22	
10	A P50	ゆがんだ椭円形	68×48	ナベ底状	17	
11	A P50	椭円形	-×112	逆 台 形	23	西側用地外
12	A Q51	円形	77×74	コップ状	70	
13	A Q・R52	円形	100×100	逆 台 形	35	
14	A R52	不整円形	105×102	逆 台 形	42	
15	A R52	不整円形	56×45	逆 台 形	38	
16	A S51	円形	108×99	コップ状	83	
17	A S50	不明	-×91	逆 台 形	26	
18	A S51	不整椭円形	75×59	ナベ底状	15	
19	A U52	椭円形	100×87	ナベ底状	24	
20	A U51	椭円形	95×88	コップ状	24	2基の重複で深いのが円形を呈する。
21	A V51	不明	103×-	皿 状	20	
22	A V53	円形	81×75	逆 台 形	30	
23	A W53	円形	79×75	逆 台 形	34	
24	A X52	丸っこい五角形	70×63	段をもつ	21	
25	A X52	円形	73×66	コップ状	67	ピットと重複
26	A Y52	椭円形	104×90	逆 台 形	44	土坑27・28を切る。下層に躙5個
27	A Y52・53	丸っこい方形	122×108	逆 台 形	36	
28	A Y52	椭円形	112×-	ナベ底状	21	
29	A Y52	ゆがんだ椭円形	102×91	ナベ底状	17	
30	AY・BA52	椭円形	102×94	皿 状	10	
31	B A53	丸っこい方形	126×114	皿 状	17	
32	B A52	円形	64×58	逆 台 形	29	
33	B A52	円形	47×38	逆 台 形	21	
34	B B54	方形	124×-	皿 状	12	
35	B B54・55	椭円形	122×80	皿 状	10	2基の重複
36	A Y54	ゆがんだ椭円形	66×53	逆 台 形	23	
37	A Y54	円形	96×94	逆 台 形	47	
38	A Y53	椭円形	104×92	椭円形	27	
39	B A54	円形	95×-	円 形	25	
40	A Q53	円形	98×98	円 形	20	
41	A O54	椭円形	-×94	逆 台 形	24	5住に切られる。
42	A L55	不定形	-×164	不 定 形	17	5住、土坑43・44に切られる。
43	A L56	円形	96×92	逆 台 形	27	土坑44を切る。

単位 cm

No.	位置	平面形	規模	断面形	深さ	備考
44	A L55	円形	105×98	逆台形	45	土坑43に切られ、土坑42を切る。
45	A Y55	円形	141×125	ナベ底状	75	9住・土坑39を切る。
46	A X・Y54	楕円形	106×90	逆台形	41	9住と重複する。
47	A X54	不整形	124×100	段をもつ	87	9住と重複する。
48	A V・W54	楕円形	96×82	ナベ底状	34	16住と重複する。
49	A R52	不整形	108×100	ナベ底状	23	
50	B M51・52	円形	78×78	逆台形	36	
51	B C47	方形と円形	128×92	ナベ底状	14	2基の重複
52	B D47	楕円形	107×92	逆台形	55	土坑53を切る。
53	B C・D47	楕円形	110×103	逆台形	23	土坑52に切られる。
54	B C・D48	楕円形	113×66	段をもつ	38	ピットと重複する。
55	B F47	楕円形	84×73	皿状	19	土坑56と重複する。
56	B E47	丸っこい五角形	100×98	ナベ底状	21	土坑55・ピットと重複する。
57	B E48	丸っこい方形	92×85	逆台形	35	
58	B E48	ゆがんだ円形	92×83	逆台形	26	土坑59と接する。
59	B E49	丸っこい菱形	94×62	段をもつ	26	土坑58と接する。
60	B E51	丸っこい方形	80×70	ナベ底状	25	
61	B E51	楕円形	66×42	コップ状	54	
62	B F51	丸っこい方形	72×52	皿状	6	
63	B F51	丸っこい六角形	74×68	皿状	14	
64	B H51	ゆがんだ楕円形	118×102	段をもつ	24	18住と重複、2基の重複
65	B G54	円形	54×52	逆台形	32	
66	B G51・52	楕円形	151×108	段をもつ	37	
67	B M51・52	円形	78×78	逆台形	36	
68	B F52	楕円形	70×59	コップ状	44	
69	B E53	ゆがんだ円形	154×116	段をもつ	63	
70	B E50	ゆがんだ楕円形	58×38	逆台形	28	
71	B D・E51	方形	98×75	ナベ底状	15	
72	B E48・49	ゆがんだ円形	-×116	逆台形	20	1住と重複する。
73	B E・F50	円形	50×34	皿状	11	
74	B D52	不明	98×-	段をもつ	59	南東側道路
75	B E52	楕円形	130×48	逆台形	21	
76	B E52	不明	153×-	逆台形	31	南東側道路
77	B F52	楕円形	112×81	皿状	17	
78	B F52・53	楕円形	52×45	コップ状	52	
79	B F54・55	不明	-×195	皿状	21	南東側道路
80	B E・F50	不明	-×-	皿状	15	
81	B E48	楕円形	105×91	逆台形	42	
82	B C48	扇状	113×105	ナベ底状	23	
83	B E・F50	ひさご形	86×48	不整形	25	
84	B D51	楕円形	60×66	皿状	26	上層に焼土
85	B E47	楕円形	66×60	段をもつ	26	
86	B F47	楕円形	113×80	底に地山の礫	25	

そのほか、名称は付さなかったけれど、14号住居址東側に50~10cmくらいのピットを集中して検出した。黒色土を主体として土坑とは覆土・位置等明確な差がみられた。遺物の出土はないが中世以降に位置づくと考えられる。ほかにも、全体に小さなピット散在し、中に同様な位置づけが可能なものがあるが、この箇所のようなまとまりはみられなかった。実測図で区別できてないのは遺憾である。



挿図92 MSD 14号住居址東側ピット群 (1)



挿図93 MSD 14号住居址東側ビット群 (2)

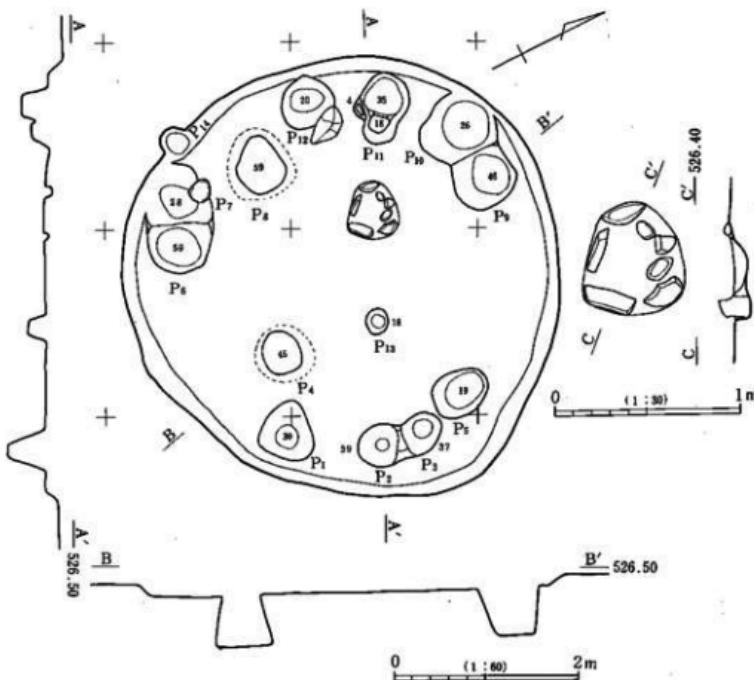
## 4. 垣外遺跡

### 1) 壺穴住居址

#### (1) 繩文時代

##### ① 5号住居址（挿図94、第53・95図）

遺構 第I地区B E34を中心にして検出し、全体を調査した。4.7×4.7mの円形の壺穴住居址で、主軸方向はN65°Wを示す。壁高は20~6cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は一部にたたき状に堅い部分が認められたが、全体に軟らかく不良である。主柱穴はP1・P2・P3・P5・P6・P7・P9・P10・P11・P12の10本で、配置は不規則で対になるものもあり、建て替えられている



挿図94 K I T 5号住居址

可能性がある。P5・P9は袋状の断面形をなし、貯蔵穴と考えられる。炉址は中央北西寄りに位置する石組炉で、礫7個を用いて60×45cmの丸みを帯びた方形に組み、内側の床面がわずかに凹んでいた。

遺物 土器・石器があり、上層から出土している。土器深鉢（53-1～14）、石器打製石斧（95-1・2）・横刃形石器（95-3～9）・磨製石斧（95-10）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

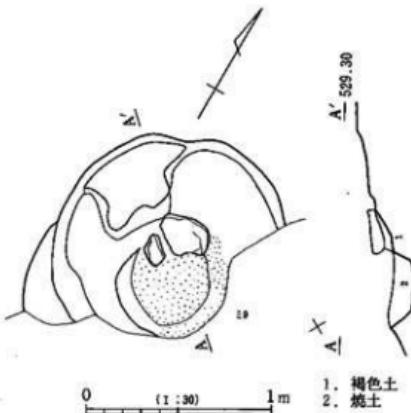
② 13号住居址（挿図95・96、第53・54・95・96・97図）

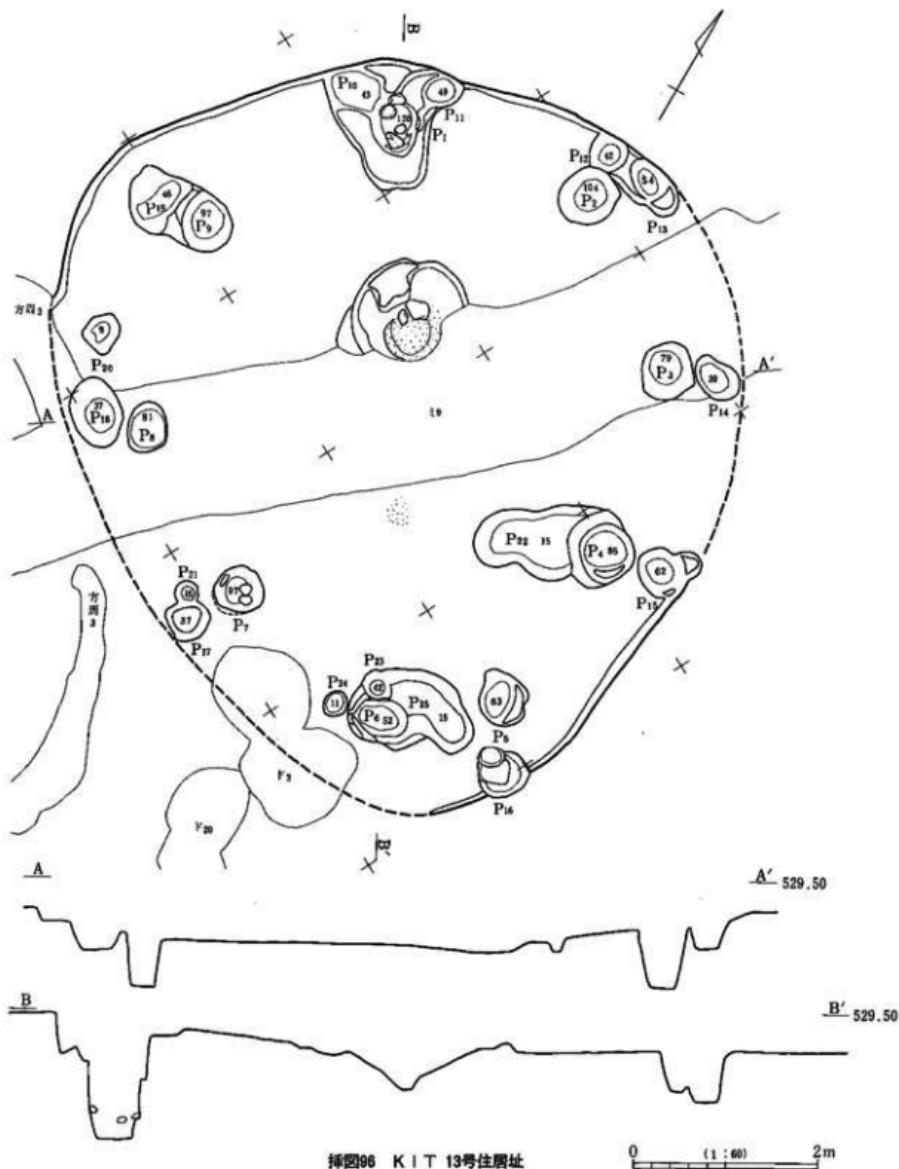
遺構 第II地区D R38を中心にして検出した。縄文時代の土坑3と重複し、弥生時代の方形周溝墓3・中世の溝址9に切られる。8.1×7.3mのゆがんだ円形の竪穴住居址で、主軸方向はN 29° Wを示す。壁高は13～8cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴は壁下とその内側に二重にある。外側はP6・P10・P11・P12・P13・P14・P15・P17・P18・P19、内側はP1・P2・P3・P4・P5・P7・P8・P9・P23で、前者のP10・P11・P12・P13は建て直しの可能性がある。全体とすれば、内側のものが規模が大きくて深い。P16は上面に石皿2点が伏せた状態で出土した。炉址は中央わずかに北西寄りに位置し、南東側半分を溝址9に切られるが、底部はかなり厚く焼土

が堆積し良く焼けている。礫はないが、石組炉と考えられる。

遺物 土器・石器があり、上層から主体に出土している。土器は深鉢（53-18～24、54-1～10）で、結節縄文が施されるものが多い。石器は、打製石斧（95-11～17）・横刃形石器（96-1～14）・石匙（96-15）・磨製石斧（96-16～19）・石皿（97-1・2）・打製石錐（97-3・4）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。





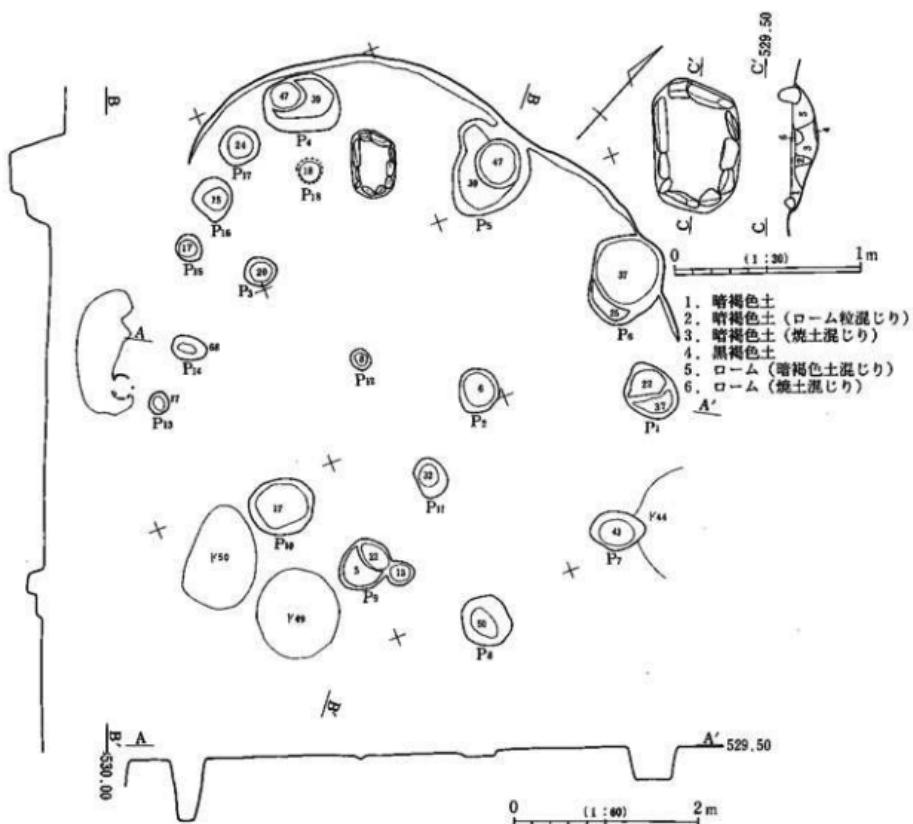
挿図96 KIT 13号住居址

0 (1 : 60) 2m

要がある。P12・P13・P14・P15は本址より新しい。炉址は北西寄りに位置する石組炉で、30～10cmの躊10個を用いて68×44cmの長方形に組み、内側の床面がわずかに凹み、焼土はほとんど認められなかった。西側に深鉢が埋められる埋設土器1があり、本址に付属する可能性がある。

遺物 土器・石器があり、出土量は少ない。土器深鉢（54-11～20）、石器打製石斧（97-5～9）、横刃形石器（97-10・11）、敲打器（97-12）、打製石錐（97-13）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

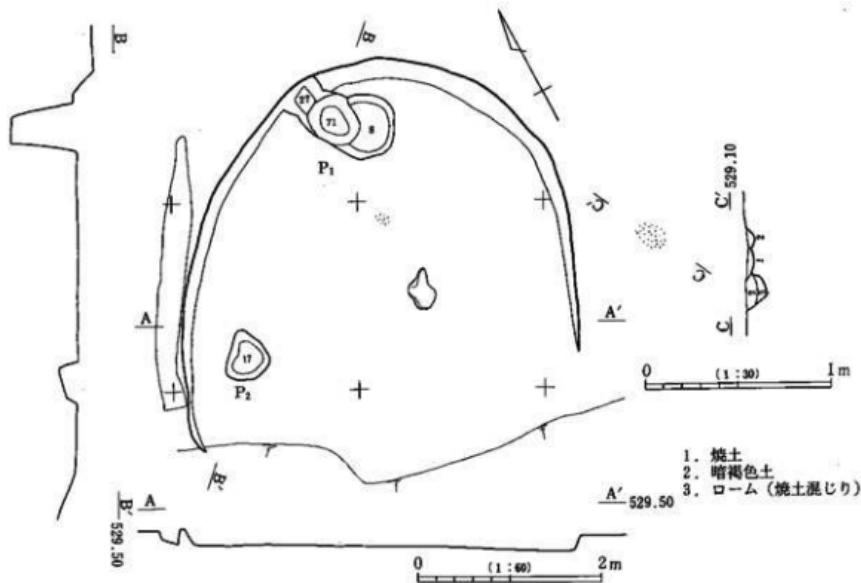


④ 19号住居址（挿図98、第55・98図）

遺構 第II地区E B31を中心にして検出し、南西側が水田の造成で削平されているため、2/3程を調査した。東西方向が4.3mの竪穴住居址で、主軸方向はN $28^{\circ}$  Eと推定される。壁高は最高26cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は極めて軟弱で不良である。柱穴はP1・P2があるが、主柱穴かどうか分からぬ。炉址は中央北よりの床面に焼土が認められ、地床炉と考えられる。

遺物 出土遺物は極めて少なく、土器（55-1～5）、石器打製石斧（98-1）・石匙（98-2）がある。

出土遺物が少なく断定できないが、縄文時代中期初頭に位置づけられる。



挿図98 K I T 19号住居址

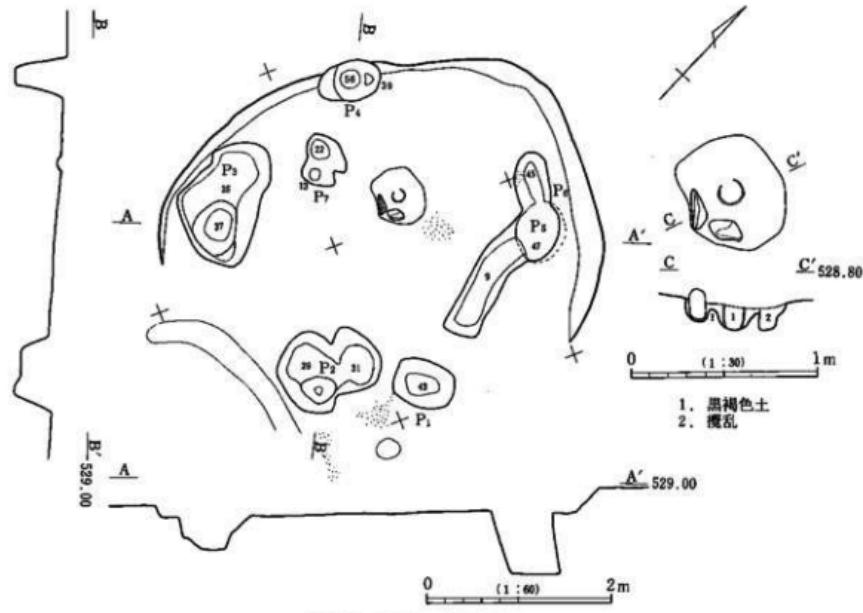
⑤ 20号住居址（挿図99、第55・98・119図）

遺構 第II地区D W30を中心にして検出した。南東側が水田の造成で削平されているが、ほぼ全体を調査した。平面形の把握に問題を残すが、東西方向が4.7mのややくがんだ円形の竪穴住居址で、主軸方向はN $41^{\circ}$  Wと推定される。壁高は最高27cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は一部にたたき状に堅い部分が認められたが、全体に軟らかく状態は悪い。床面上には焼土が広く散布していた。主柱穴はP1・P2・P4・P5の4本と考えられる。P6ははり床下の穴である。炉

址は中央北西寄りに位置する埋設土器を有する石組炉で、 $63 \times 54\text{cm}$ の方形を呈し、内側に深鉢の胴部を埋めている。焼土はほとんど認められなかった。礫は2個が残っていたのみだが、周囲に組まれていたと推定できる。

**遺物** 土器・石器があり、出土量は多くない。土器は深鉢（55-6～21）で、6が炉址の埋設土器である。石器は、打製石斧（98-3）・横刃形石器（98-4）・石匙（98-5）・磨製石斧（98-6・7）・打製石錐（98-8～10）がある。ほかに、土偶脚部（119-1）・土製円板（119-6）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。



挿図99 KIT 20号住居址

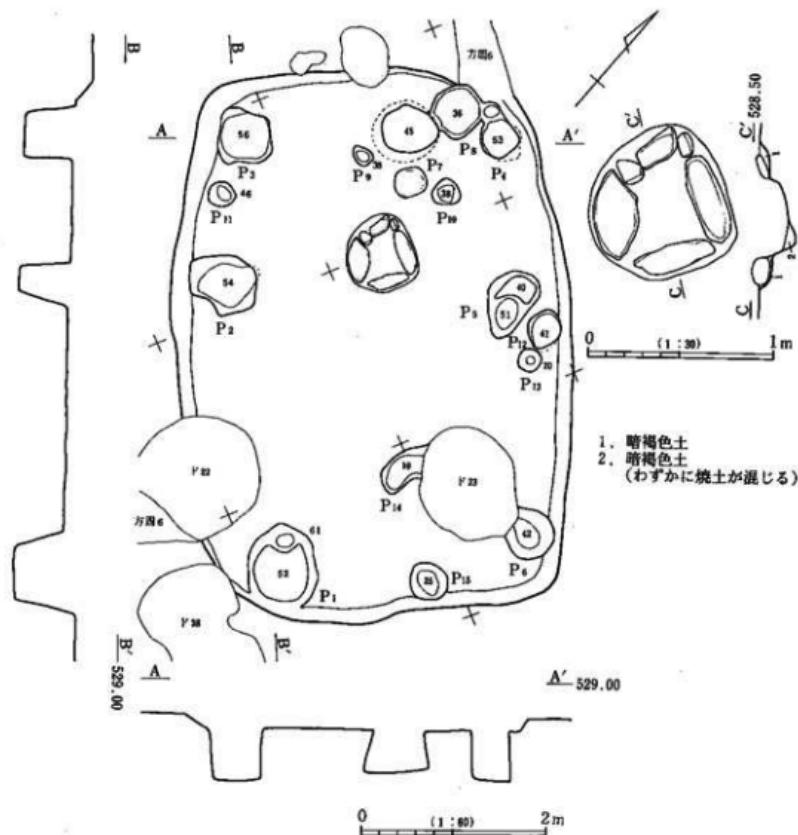
#### ⑥ 22号住居址（挿図100、第55・98図）

**遺構** 第II地区D A37を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。縄文時代の土坑22・23、弥生時代の方形周溝墓6に切られる。 $5.9 \times 4.2\text{m}$ の丸みを帯びた隅丸長方形の竪穴住居址で、主軸方向はN41°Wを示す。壁高は19～5cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は一部にたたき状に堅い部分が認められたが、全体に軟らかく状態は悪い。主柱穴はP1～P6の6本で、P8・P12も主柱穴の可能性がある。P7は袋状の断面形をなし、貯蔵穴と考えられる。炉址は中央北西寄り

に位置する石組炉で、50~12cmの礫6個を用いて80×77cmの方形に組み、内側の床面がわずかに凹んで焼土はほとんど認められなかった。

遺物 土器・石器があり、出土量は多くない。土器深鉢（55-22~33）、石器打製石斧（98-11~15）・横刃形石器（98-16~18）・石匙（98-19）・磨製石斧（98-20）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。



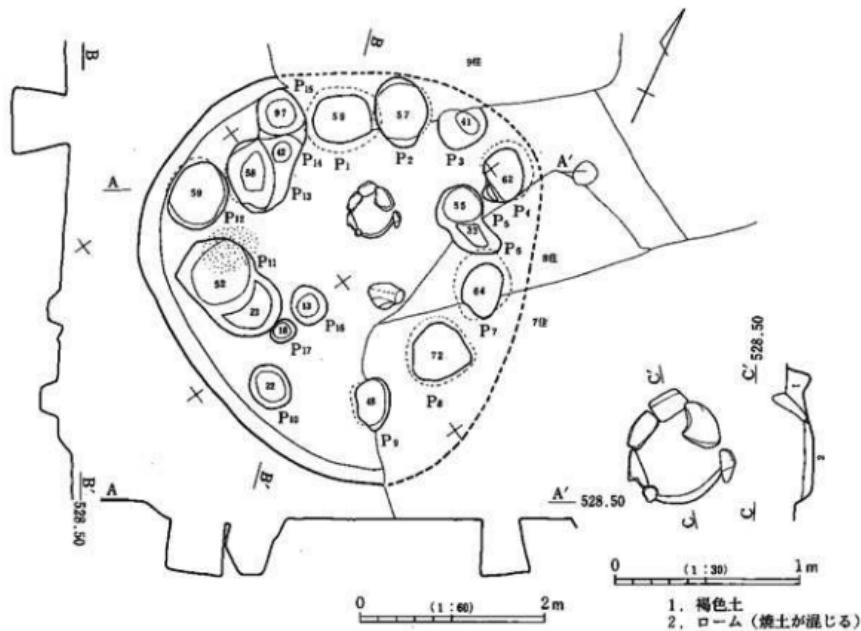
挿図100 K I T 22号住居址

⑦ 23号住居址（挿図101、第55・99図）

**遺構** 第II地区 D D33を中心にして検出した。弥生時代後期の7号・8号・9号住居址に切られ、北東側は平面形の把握ができず掘り過ぎてしまった。4.3×4.2mの円形の竪穴住居址で、主軸方向はN25°Wを示す。壁高は29~12cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は平坦でたたき状に堅く良好である。柱穴は壁際にP1~P14の穴があり、この中の幾つかが主柱穴になると考えられる。P1・P7・P8は袋状の断面形をなし、貯蔵穴と考えられる。炉址は中央北寄りに位置する石組炉で、28~8cmの躰6個を用いて62×53cmの方形に組み、内側の床面がわずかに凹んで焼土がわずかに認められた。南東側には礫がない。

**遺物** 土器・石器があり、出土量は多くない。土器深鉢（55-34~38）、石器打製石斧（99-1）、横刃形石器（99-2~6）、磨製石斧（99-7・8）、打製石錐（99-9）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。



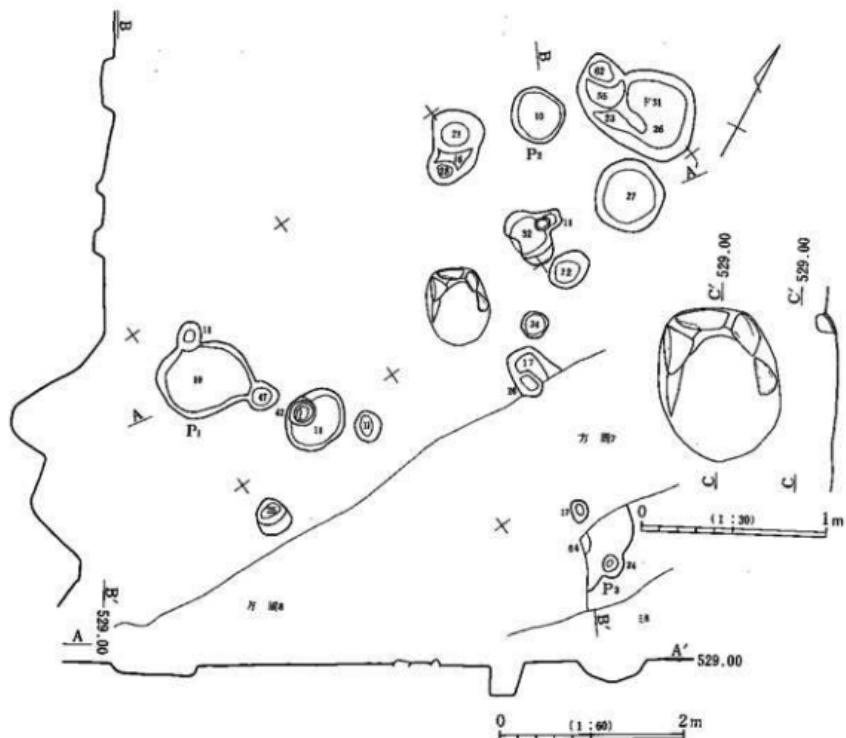
挿図101 K I T 23号住居址

⑧ 24号住居址（挿図102、第56・99図）

**遺構** 第II地区DK35に石組炉を検出して住居址と把握できた。弥生時代の方形周溝基7・8、中世の溝址8に切られるうえ、床面がプラン検出面にありかつ水田の造成で削平されているため、炉址のみの把握となった。平面形・主軸方向とも不明の堅穴住居址である。床面は炉址周辺にたたき状に堅い部分を認めたが、ほかは確認できず、南西側は完全に削平されている。主柱穴も分からぬが、P3は可能性がある。炉址は30~20cmの躰4個を82×66cmのコの字状に組んで石組炉としている。内部は浅く凹み、わずかに焼土が認められた。

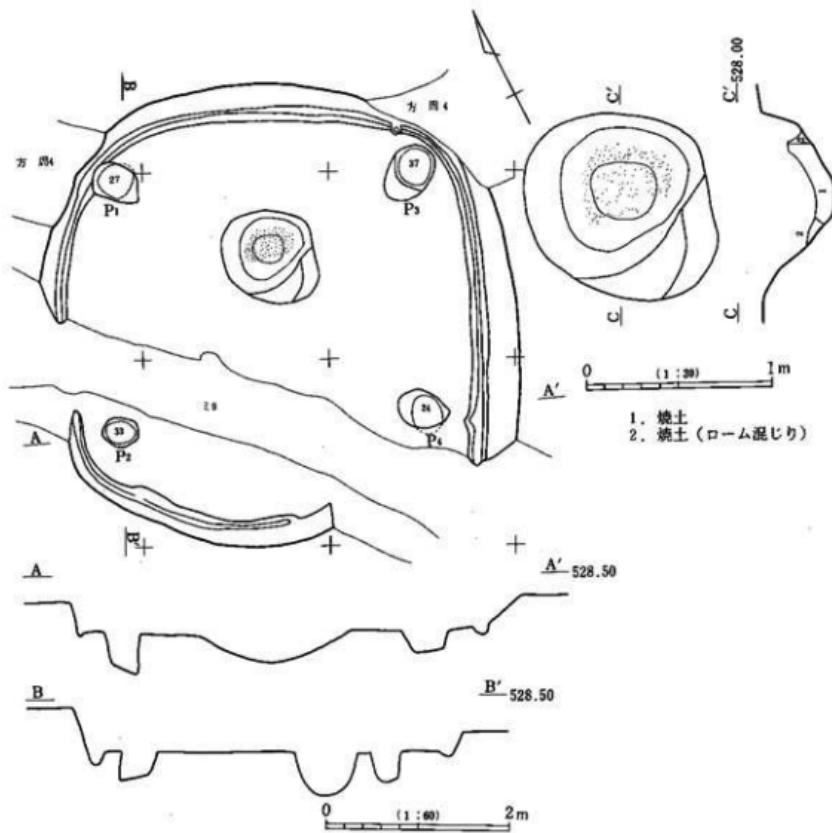
**遺物** 出土量は極めて少なく、土器深鉢（56-1～7）、石器横刃形石器（99-10）があるのみである。

出土遺物が少なく断定できないが、縄文時代中期中葉に位置づけられる。



⑤ 25号住居址（拵図103、第56・99図）

**造構** 第II地区D O29を中心にして検出した。弥生時代の方形周溝墓4、中世の溝址9に切られるが、ほぼ全体を調査した。5.1×4.9mの丸みを帯びた隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN37°Wを示す。壁高は53~8cmを測り、南東壁を除きほぼ垂直の壁面をなす。周溝は南東壁の一部を除いて壁下を全周し、幅20~10cm・深さ12~5cmを測る。床面は平坦でたたき状に堅く良好である。主柱穴はP1~P4で、四隅に規則的に並ぶ。炉址は中央北東寄りに位置する切りゴタツ状の石組炉で、114×100cmの方形を呈し、内部は深く凹んで底にかなり厚く焼土が認められた。礫は抜かれたのか残っていないが、置かれた位置は確認できる。



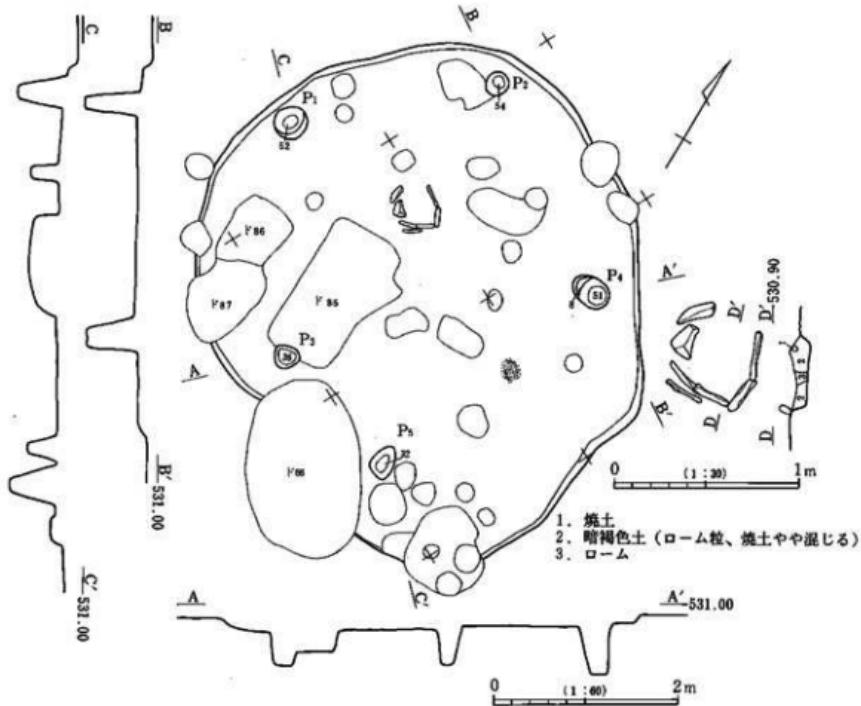
拵図103・K I T 25号住居址

遺物 土器・石器があり、出土量は少ない。土器深鉢（56-8～10）、石器打製石斧（99-11）・横刃形石器（99-12・13）・打製石錐（99-14）がある。

出土遺物から縄文時代中期後半に位置づけられる。

⑩ 29号住居址（挿図104、第56・57・58・99・100・119図）

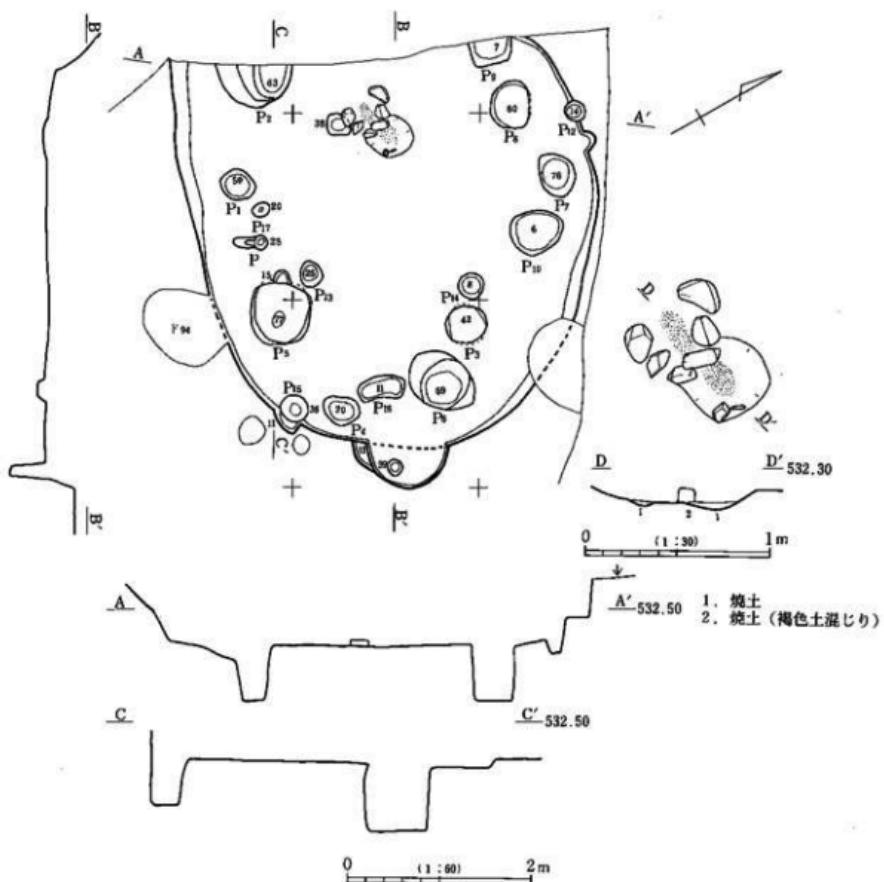
遺構 第Ⅲ地区E A56を中心にして検出した。中世の土坑66・85・86・87、ピットに切られるが、ほぼ全体を調査した。5.5×4.6mの楕円形の堅穴住居址で、主軸方向はN39°Wを示す。壁高は13～3cmを測り、やや緩やかな表面をなす。床面は多少の凹凸があるがたき状に堅く良好である。主柱穴はP1～P5で、44～24cmの小さい穴が壁からわずか内側に位置する。そのほかで本址に伴う穴はない。炉址は中央北西寄りに位置する石組炉で、27～18cmの細長い躰7個を用いて52×47cmのコの字状に組み、内側の床面がわずかに凹み、焼土はほとんど認められなかった。北側の躰は抜かれた可能性がある。南東側の床面上に焼土が認められた。



挿図104 KIT 29号住居址

遺物 出土量は比較的多く、床面上から出土した良好な資料である。土器深鉢（56-12~15、57-1・2）・有孔鍔付土器（58-1）・石器打製石斧（99-15~18・100-1）・横刃形石器（100-2~6）・磨製石斧（100-7）・打製石錐（100-8~14）、土製円板（119-7~9）がある。57-2は北陸系土器である。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

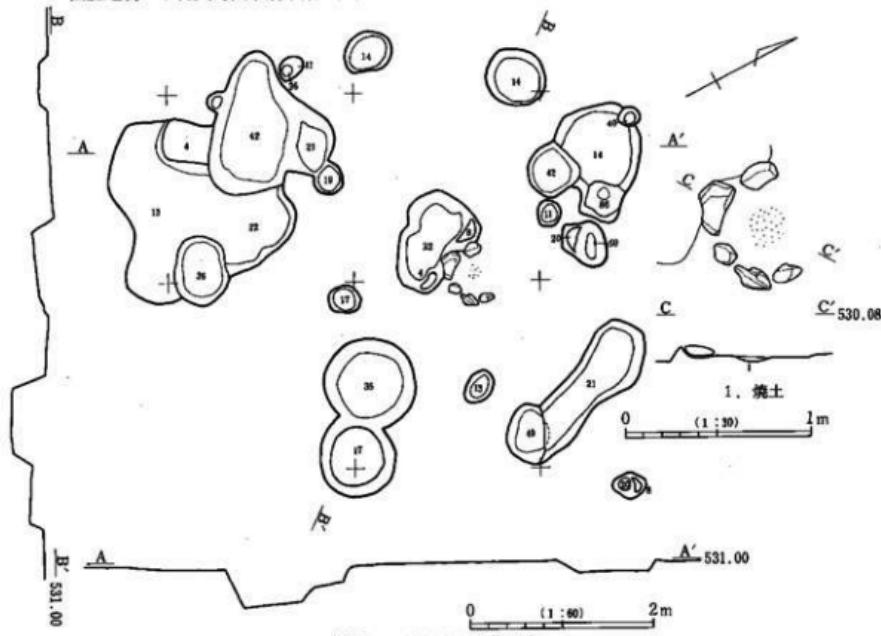


⑪ 30号住居址（挿図105、第58・59・60・61・100・101・102・103・104・118・119図）

**遺構** 第III地区 E F 58を中心にして検出した。平安時代の土坑94に切られ、西側が未調査になり、全体の2/3程を調査した。南北方向が4.5mの椭円形の堅穴住居址で、主軸方向はN63° Wと推定される。壁高は27~6cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はたたき状に堅く良好である。主柱穴はP2・P5・P6・P7で、未調査部に1本存在する5本主柱穴と考えられる。P12~P18は土層から本址より新しい。炉址は中央西寄りに位置し、新・旧2箇所が確認できた。新しいのは20~15cmの躰6個を58×40cmのコの字に組んだ石組炉で、内側の床面がわずかに凹んで焼土がわずかに認められた。西側の躰はない。旧はこのすぐ東側にあり、はり床下が43×35cmの丸みを帯びた方形に凹んで、内部に厚く焼土が認められた。炉址の状況から建て替えの住居址である。

**遺物** 覆土中から多量の遺物が出土し、良好な資料である。土器深鉢（58-2~10、59-1、60-1~5、61-1~4）・浅鉢（61-5）・有孔鈎付土器（61-6）・顔面付の吊手土器（61-8）・石器打製石斧（100-15~19、101-1~20、102-1~7）・横刃形石器（102-8~22）・石匙（103-1~3）・磨製石斧（104-4~5）・打製石鍬（104-6~10）・打製石錐（118-3~4）・使用痕のある剝片（118-5）・頭部欠の土偶（119-2）がある。

出土遺物から縄文時代中期中葉に位置づけられる。



挿図106 K I T 42号住居址

⑫ 42号住居址（拵図106、第62・103図）

遺構 第Ⅲ地区D W50に石組炉を検出して住居址と把握できた。水田の造成で削平されているために、規模・主軸方向とも不明の竪穴住居址である。床面はほとんど確認できず、主柱穴を検出して本址の範囲を確定するように精査したが、周辺に穴は認められたが、本址に伴うものは分からなかった。炉址は27~13cmの礫5個を68×40cmのコの字状に組んで石組炉とし、内部が浅く凹んで焼土が認められた。南東側の礫はない。

遺物 出土量は極めて少なく、炉址周辺から出土したものを本址遺物としたが、まぎれこみ遺物がある可能性が高い。土器深鉢（62-1~5）、石器打製石斧（103-11）・横刃形石器（103-12）・石匙（103-13）がある。

出土遺物が少なく断定できないが、縄文時代中期中葉に位置づけられる。

⑬ 43号住居址（拵図107、第62・103・104図）

遺構 第Ⅲ地区D U49を中心にして検出した。時期不明の溝址15、土坑105・106に切られ、南側が未調査になり、全体の半分程を調査した。平面形・規模・主軸方向とも不明の竪穴住居址である。壁高は14~9cmを測り、極めて緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟らかく状態は悪い。柱穴はP1~P3が確認された。炉址は石組炉で、38~24cmの礫4個を用いて80×72cmに組んでいる。西側が土坑105に切られ、東側は礫がないが、総体とすれば方形をなしていたと考えられる。内部は平坦で、わずかに焼土が認められた。

遺物 土器・石器があり、出土量は少ない。土器深鉢（62-6~12）、石器打製石斧（103-14・15、104-1~4）・横刃形石器（104-5~9）・石匙（104-10）・打製石錐（104-11）・炉址の石で砥石（104-13）がある。

出土遺物が少なく断定できないが、縄文時代中期中葉に位置づけられる。

⑭ 44号住居址（拵図108、第62・104図）

遺構 第Ⅲ地区D X58に石組炉を検出して住居址と把握できた。中世の土坑59・70に切られるうえ水田の造成で削平されているために、規模・主軸方向とも不明の竪穴住居址である。床面はほとんど確認できなかった。周囲のピットは中世以降のものである。炉址は28~14cmの礫4個を60×45cmのコの字状に組んで石組炉とし、内部が浅く凹んで焼土はほとんど認められなかった。東側の礫はない。

遺物 出土量は極めて少なく、炉址周辺から出土したものを本址遺物としたが、まぎれこみ遺物である可能性が高い。土器深鉢（62-13~15）、石器打製石錐（104-14）がある。

確実に本址に伴う遺物がなく時期は断定できないが、炉址の形態から縄文時代中期中葉に位置づけられる。

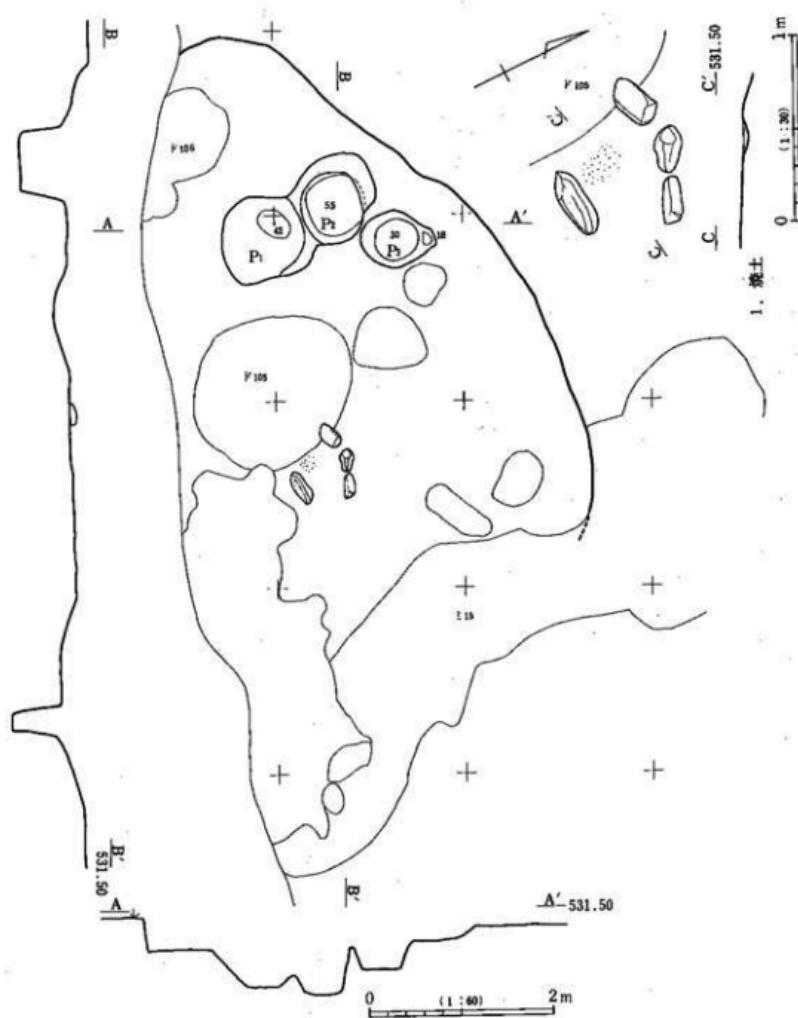


插图107 KIT 43号住居址

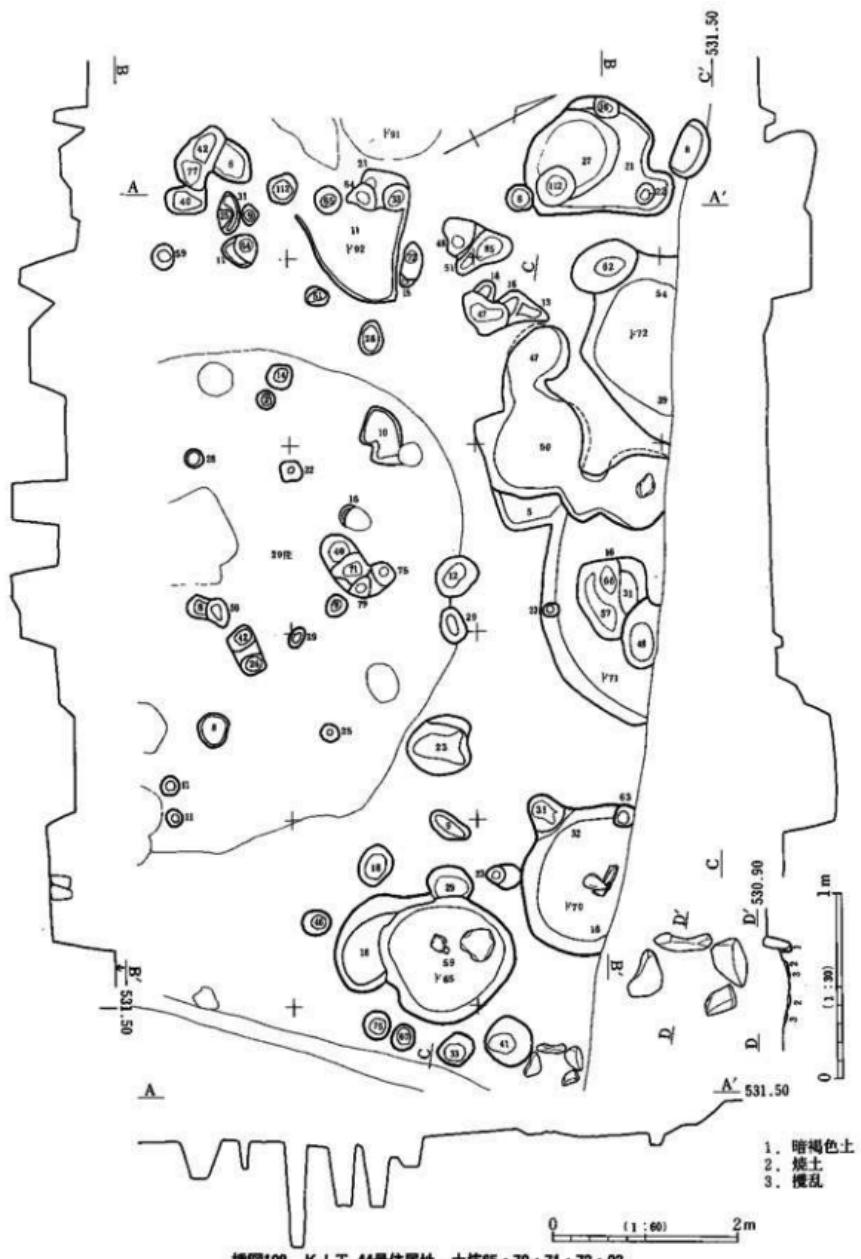
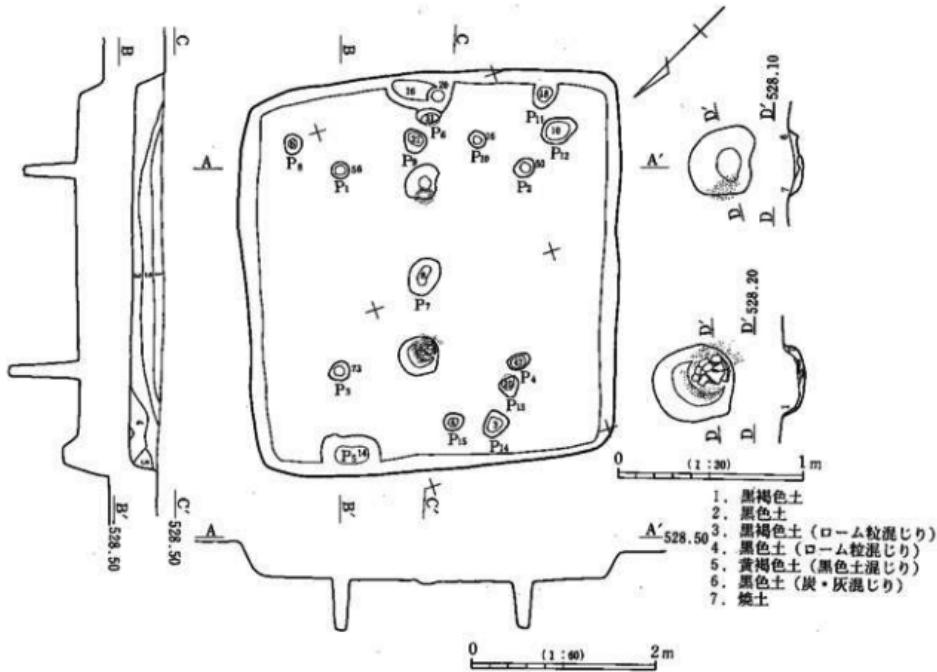


图108 KIT 44号住居址、土坑85·70·71·72·92

## (2) 弥生時代

### ① 6号住居址 (挿図109、第62・63・105図)

造構 第II地区C V34を中心にして検出し、全体を調査した。4.3×4.0mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN133° Eを示す。壁高は37~26cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は平坦でたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。そのほかの柱穴は北西・南東壁ぎわに多い。入口施設と炉址ははり床の有無で新旧の2箇所が確認できた。新しいのは、入口部が北西壁下南隅よりに位置するP5である。炉址は、南東側主柱穴中間にある地床炉で、床面を43×35cmの楕円形に掘り凹め、焼土・炭が認められた。古いのは、入口部が南東壁下ほぼ中央にあるP6で、小穴を伴って二段の掘込みをなす。炉址は、北西側主柱穴中間に位置する土器埋設炉で、作り替える時に壊されたものか、破片が底部に残っていたのみである。周辺に焼土が多く認められた。炉址や入口部から、180°方向を変えて建て替えられている。主柱穴は同じ位置で建てたと推定さ



挿図109 KIT 6号住居址

れる。旧いものの主軸方向はN41°Wを示す。

遺物 床面上から多く出土した良好な資料である。土器壺（62-16～22）・甕（63-1～10）・高坏（63-11・12）・石器有孔磨製石庖丁（105-1）・抉入打製石庖丁（105-2）・横刃形石器（105-3・4）・打製石錐（105-5）・すり石（105-6）・石棒状石製品（105-7）がある。62-20の壺と63-10の台付甕は東海からの外来系土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

### ② 7号住居址（押図110、第64・105・106・119図）

遺構 第II地区D E33を中心にして検出し、全体を調査した。縄文時代の23号住居址・土坑を切り、弥生時代の8号住居址・方形周溝墓6に切られる。5.7×5.2mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN36°Wを示す。壁高は56～23cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。周溝が北西壁下に二箇所、北東壁下に一箇所認められた。床面は平坦でたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1～P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。そのほかの柱穴は炉址から入口部にかけてと東隅に多い。南東壁下に位置するP5は入口部と考えられ、206×42cm細長い楕円形を呈する。炉址は北西側主柱穴中間に位置する炉碌石を有する地床炉で、床面を73×58cmの楕円形に掘り凹め、内側に2個の石を置く。底に焼土が認められた。

遺物 出土量は少ない。土器壺（64-1～7）・甕（64-8～20）・石器打製石斧（105-8～11）・有肩扁状形石器（105-12・13）・横刃形石庖丁（106-1）・横刃形石器（106-2）・敲打器（106-3・4）・打製石錐（106-5～11）・土製丸玉（119-5）がある。116-4の敲打器は抉入部を敲打で作成しており、別な用途かもしれない。

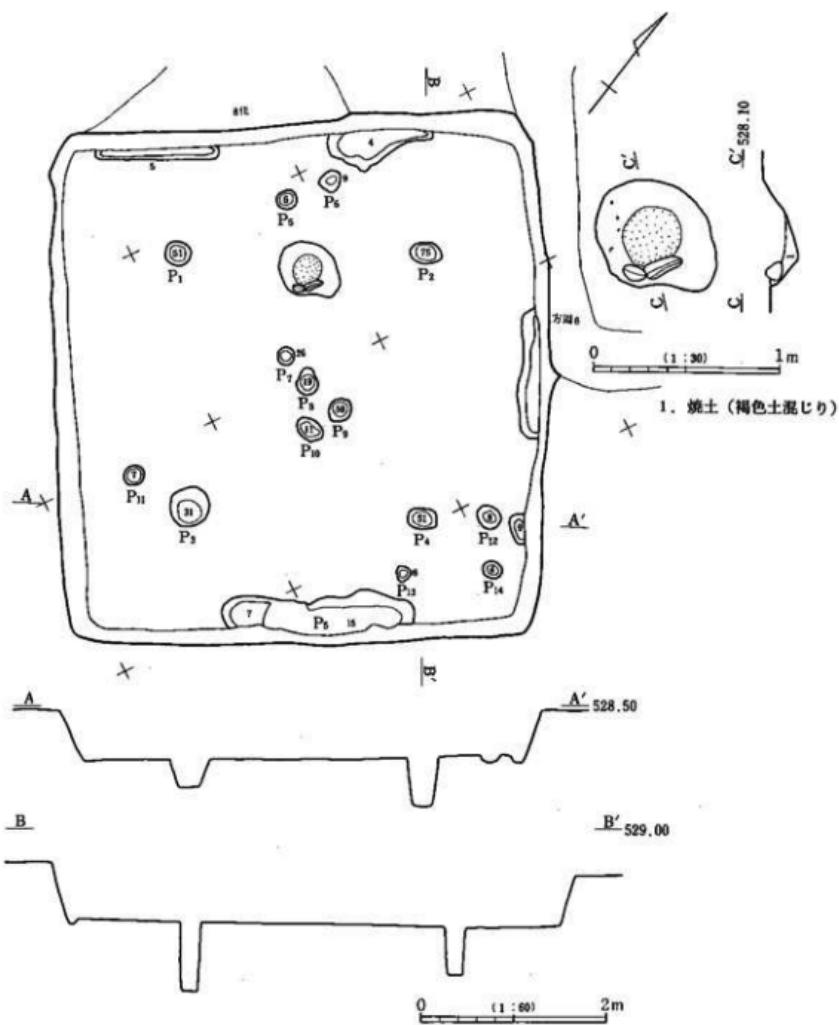
出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

### ③ 8号住居址（押図111、第64・106図）

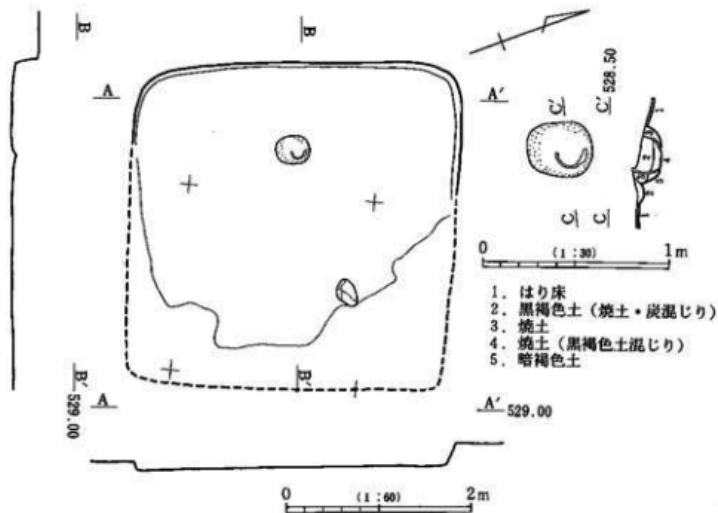
遺構 第II地区D B33を中心にして検出した。縄文時代の23号住居址・弥生時代の8号住居址を切る。当初から住居址が重複するのは把握できたが、切り合い関係が確認できないままに掘り下げたため、7号住居址覆土中に本址の床面があり、切り合い関係か判明した。よって、平面形の把握は問題を残し、床面の範囲で規模を推定した。3.5×3.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN71°Wを示す。壁高は西壁と南・東壁の一部を確認し、25～8cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はロームのはり床で、たたき状に堅く極めて良好である。炉址は西壁寄りに位置する土器埋設炉で、床面を35×29cmの楕円形に掘り凹め、底部を欠く甕を埋める。周辺に焼土が多く認められた。炉址以外の住居址施設は確認できなかった。

遺物 出土量は少ない。土器壺（64-21）・甕（64-22～23）・小型高坏（64-25）・石器有肩扁状形石器（106-12・13）がある。64-23の甕が炉址の埋設土器である。

出土遺物から弥生時代後期終末に位置づけられる。



挿図110 KIT 7号住居址



挿図111 K I T 8号住居址

④ 9号住居址（挿図112、第64・65・106・107図）

**遺構** 第II地区D E34を中心にして検出した。縄文時代の23号住居址を切り、弥生時代の方形周溝墓7に切られ、2/3程を調査した。4.2×3.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN 37° Wを示す。壁高は41～25cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦でたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1～P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁下東隅寄りに位置するP5は入口部と考えられ、二段の堀込みをなして小穴を伴う。炉址は北西側主柱穴中間に位置する炉縁石を有する土器埋設炉で、床面を52cmの円形に掘り凹め、内側に石を置く。北西側に焼土が認められた。

**遺物** 出土量は少ない。土器壺(64-26・27、65-1)・甌(65-2～6)、石器打製石斧(106-14～16、107-1・2)・横刃形石器(107-3～6)・磨製石斧(107-7・8)・敲打器(107-9)・打製石鏟(107-10～13)がある。65-1は東隅の床面上から出土した。

出土遺物から弥生時代後期後半に位置づけられる。

⑤ 10号住居址（挿図113、第65・66・107図）

**遺構** 第II地区D H37を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。弥生時代の方形周溝墓7、中世の溝塁3、暗渠1に切られる。5.0×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN 36° Wを示す。壁高は61～38cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦で壁際の60～8cm位を除いてたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1～P4で、P1～P3は主軸に直交する方向、P4は

主軸方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。炉址から入口部にかけて2個の浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。南東壁下東隅寄りに位置するP5は入口部と考えられ、二段の堀込みをなして小穴を伴う。炉址は北西側主柱穴中間に位置する土器埋設炉で、床面を78×63cmの椭円形に掘り凹め、底部をくぼみを埋める。西側に焼土が認められた。

遺物 出土量は少ない。土器臺(65-7~13)・臺(65-14、66-1・2)・高坏(66-3)、石器打製石斧(107-14・15)・横刃形石器(107-16)がある。小型壺(65-13)は入口部から出土し、胴部に焼成後の穿孔がされる。65-14は炉址の埋設土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

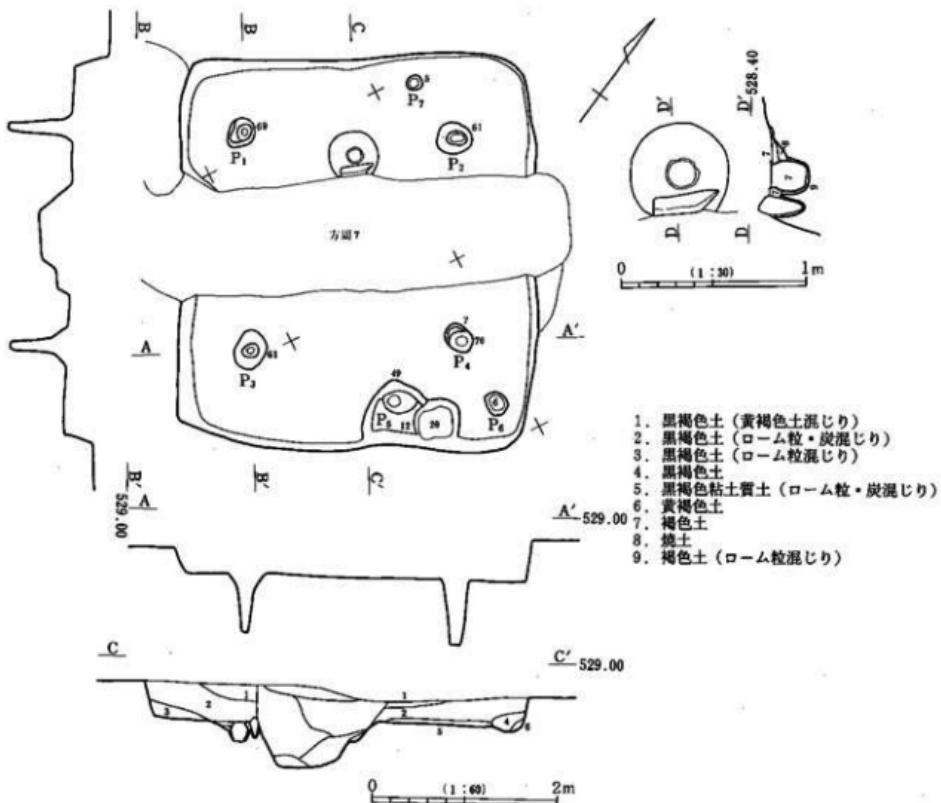
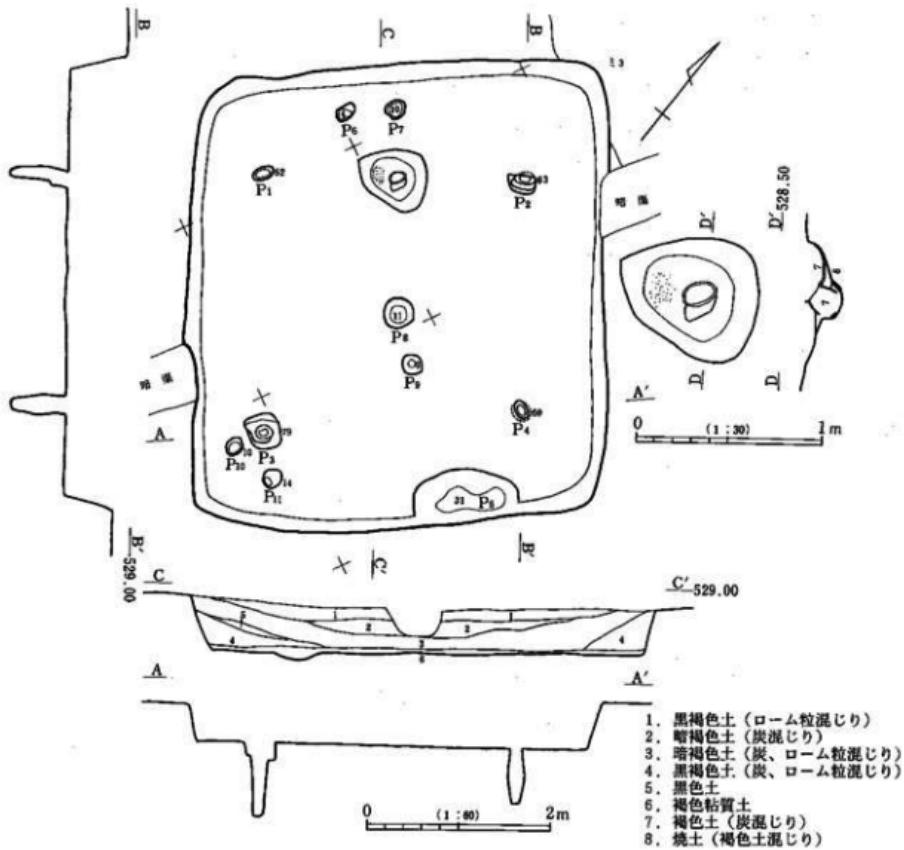


図112 KIT 9号住居址



挿図113 K I T 10号住居址

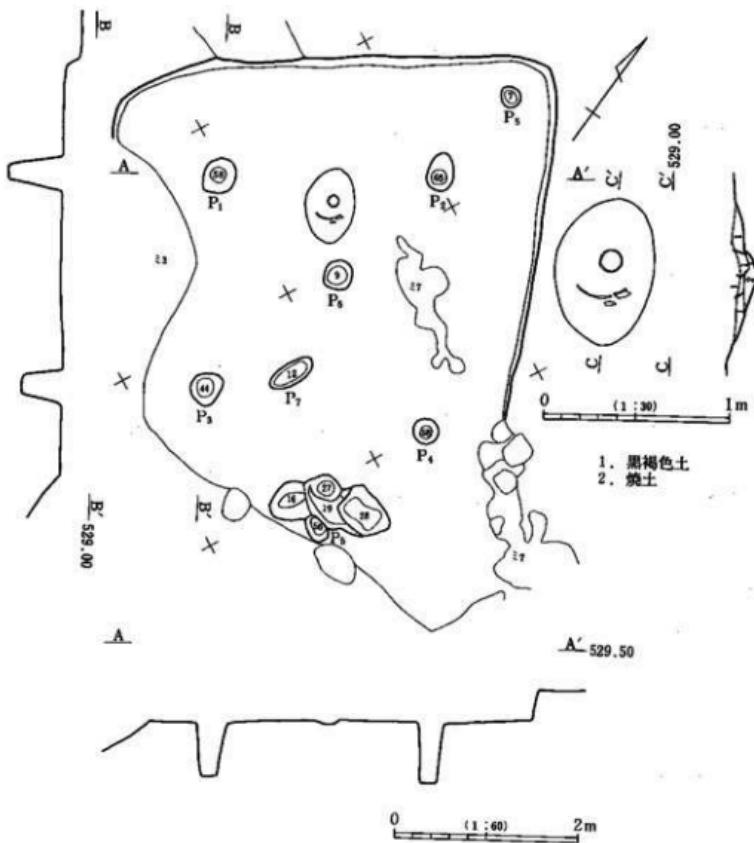
⑥ 11号住居址（挿図114、第66・108図）

**遺構** 第II地区D E43を中心にして検出した。中世の溝辻 3・7に切られ、全体の3/4程を調査した。5.2×4.7mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN30°Wを示す。壁高は32~9cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は炉址から北西壁ぎわと中央部を除いてたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4である。南東側に位置するP5は幾つかの穴が重複し、入口部と考えられる。炉址は北西側主柱穴中間にやや内側に位置する土器埋設炉で、床面を79×53cmの精円形に掘り凹め、底部を欠く甕を埋め、内側に甕の脚部片を埋めて二重にしている。焼土は土

器の下に厚く認められた。

遺物 出土量は少ない。土器塗 (66-4~7)・甕 (66-8~15)、石器打製石斧 (108-1・2)・横刃形石器 (108-3・4)・敲打器 (108-5)・凹石 (108-6) がある。66-11は炉址の埋設土器である。

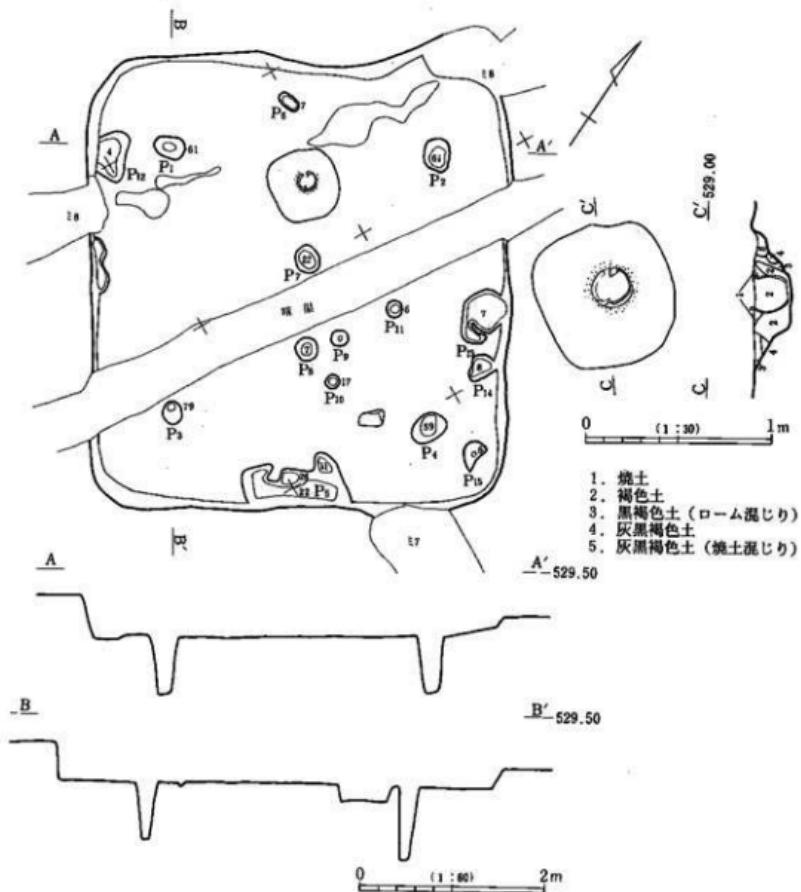
出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



挿図114 KIT 11号住居址

⑦ 12号住居址（挿図115、第66・67・108図）

**遺構** 第II地区DG43を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。中世の溝址7、近世の溝址8、暗渠1に切られる。4.9×4.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN33°Wを示す。壁高は47~11cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全体にたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4である。南東壁下中央に位置するP5は、110×30cmの不整形を呈して小穴を伴い、入口部と考えられる。そのほかの柱穴は炉址から入口部にかけて多い。炉址は北西側主柱穴中间



挿図115 K I T 12号住居址

やや内側に位置する土器埋設炉で、床面を76×73cmの楕円形に掘り凹め、底部を欠く壺を埋めている。土器周辺に焼土が認められた。

遺物 出土量は少ない。土器壺(66-13~20)・壺(66-21~26、68-1・2)、石器抉入打製石庖丁(108-7)・有肩扁状形石器(108-8・9)で、67-1は炉址の埋設土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

#### ⑧ 14号住居址（挿図116）

遺構 第II地区DW35を中心にして検出し、全体を調査した。縄文時代の土坑47・52を切る。5.9×4.0mの隅丸長方形の竪穴住居址で、主軸方向はN33W Eを示す。壁高は65~29cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。北西壁下には、幅24~14cm・深さ6~2cmを測る。床面は全体に平坦でたたき状に堅く極めて良好であり、西側半分にはり床を認めた。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱を考えられる。P1の上層に礫2個が入れられる。炉址から入口部にかけて4個の浅い穴が並び、間仕切りと考えられる。南東壁下中央に56×46cmの不定形を呈するP5があり、入口部と考えられる。炉址は北西側主柱穴中間にやや内側に位置する炉縁石を有する土器埋設炉で、土器と石は抜かれているが、埋められていた位置は確認でき、石と土器の間に焼土が認められた。炉址や遺物は住居址廃絶時に持ち去り、P1も柱を抜いた後に石を埋めていると考えられる。

出土遺物は紛れ込みの縄文土器が若干みられるだけである。

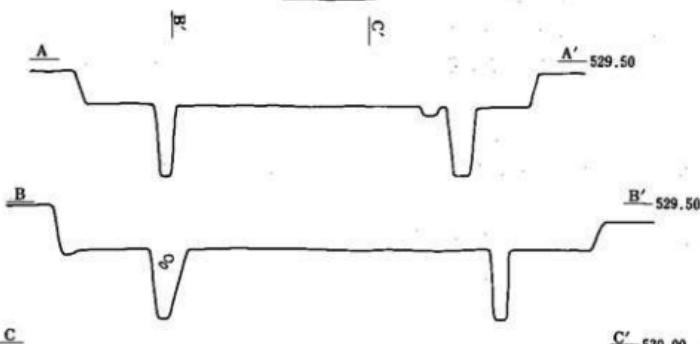
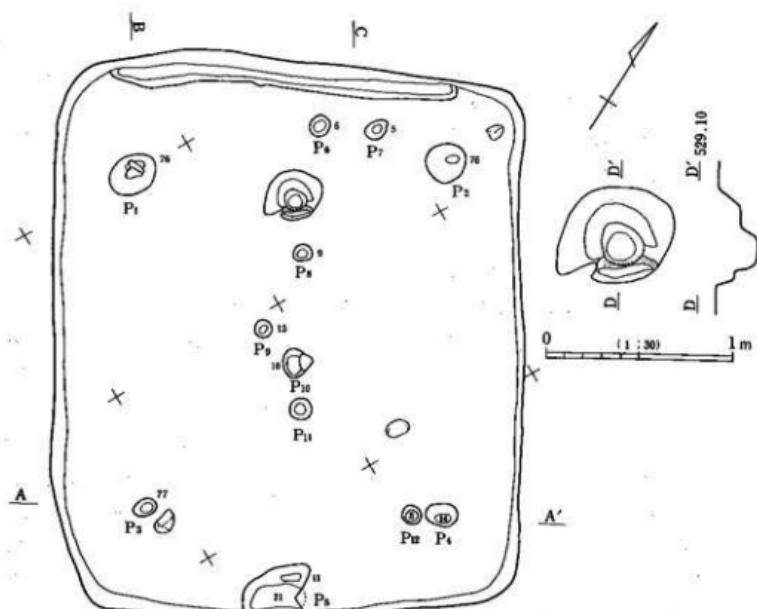
出土遺物がなく詳細な時期は不明であるが、住居址形態から弥生時代後期に位置づけられる。

#### ⑨ 16号住居址（挿図117、第67・68・69・70・109図）

遺構 第II地区E E32を中心にして検出し、全体を調査した。縄文時代の土坑27・28を切る。4.9×4.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN42° Wを示す。壁高は66~34cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦で全面がたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱を考えられる。そのほかの柱穴は炉址から入口部にかけてと炉址北西側に多い。南東壁下東隅寄りに位置するP5・P6は入口部と考えられる。炉址は北西側主柱穴中間にやや内側に位置する土器埋設炉で、床面を62×53cmの楕円形に掘り凹め、底部を欠く壺を埋めている。土器の北西側に焼土が認められた。

遺物 中央部の床面上を中心にして多量の遺物が出土し、極めて良好な資料である。土器壺(67-3~7、68-1、69-1)・壺(68-2~5、69-2~6、70-1)、石器打製石斧(109-5~7)・有肩扁状形石器(109-8)・横刃形石器(109-9)・石匙(109-10)・打製石錐(109-11)がある。67-7は外来系土器、68-3は炉址の埋設土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



0 (1:60) 2m

挿図116 KIT 14号住居址

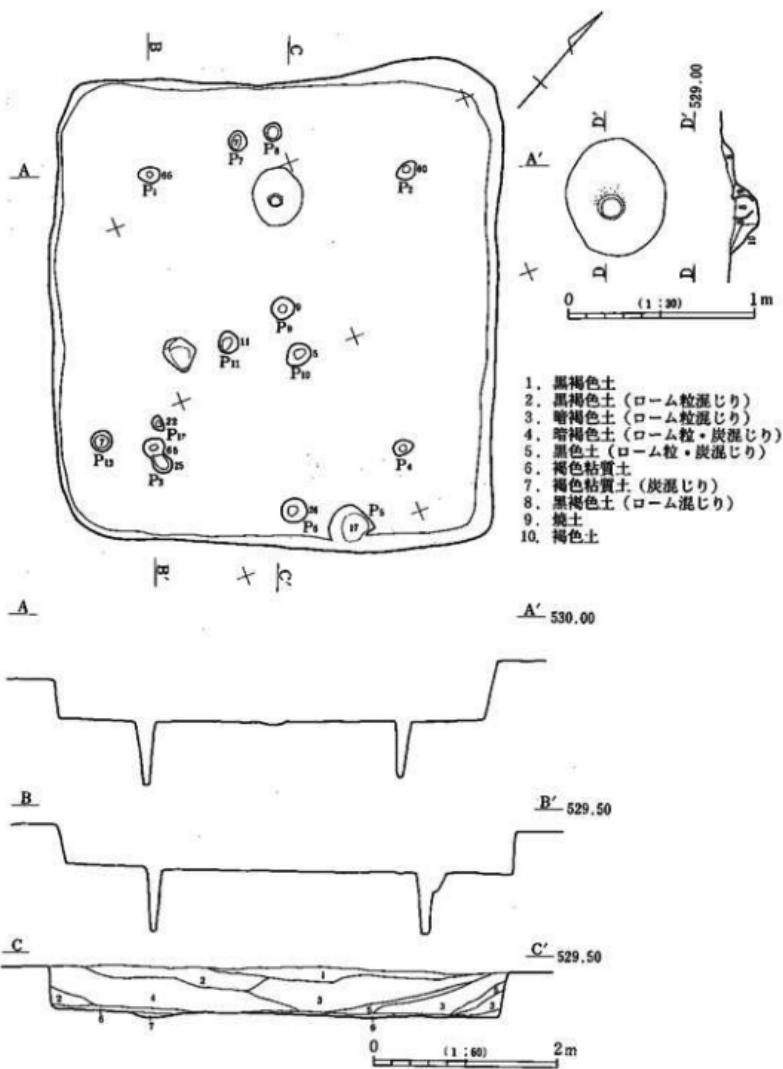
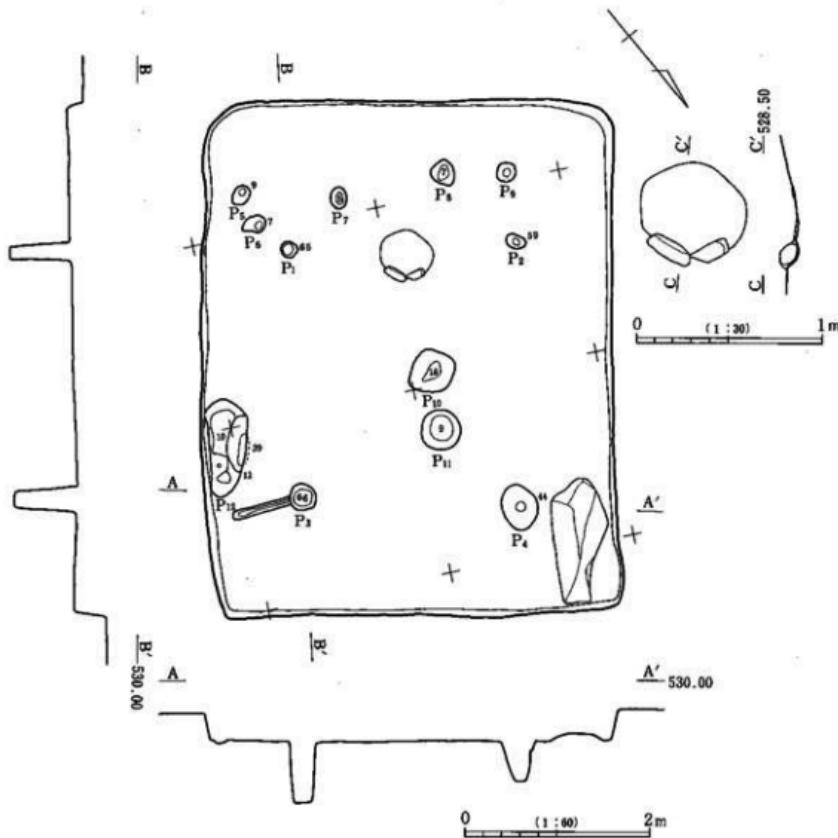


図117 K I T 16号住居址

⑩ 17号住居址（挿図118、第71・72・109・110図）

**遺構** 第II地区D J 34を中心にして検出し、全体を調査した。縄文時代の土坑25を切る。5.5×4.4mの隅丸長方形の竪穴住居址で、主軸方向はN139° Wを示す。壁高は34~22cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦でがたつき状に堅く極めて良好であるが、中央部240×120cm位に軟らかい部分が認められた。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。中央部に浅い穴が2個並び、間仕切りと考えられる。南東壁下東隅寄りに位置するP12は入口部と考えられ、P3から南東壁にある小溝も関連する施設と推定される。そのほかの柱穴は炉址から南西壁にかけて集中する。炉址は南西側主柱穴中間に位置す

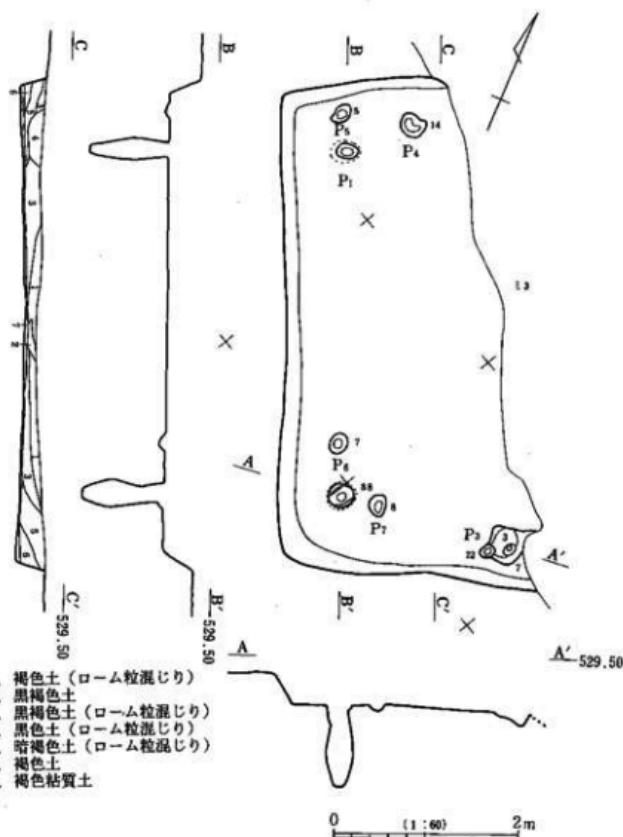


挿図118 K I T 17号住居址

る炉縁石を有する地床炉で、床面を57×55cmの浅い円形に堀り凹め、内側に石を2個置き、焼土がわずかに認められた。

遺物 中央部の上層を中心にして遺物が出土し、良好な資料である。土器壺(71-1~4)・甕(71-5~9、72-1~5)・高环(72-6)・石器打製石斧(109-12~15)・横刃形石庖丁(109-16・17)・有肩扁状形石器(110-1)・敲打器(110-2)・石皿(110-3)がある。71-1は胴部に二箇所焼成後の穿孔があり、72-6の高环は外面と坏部内面が丹影される。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



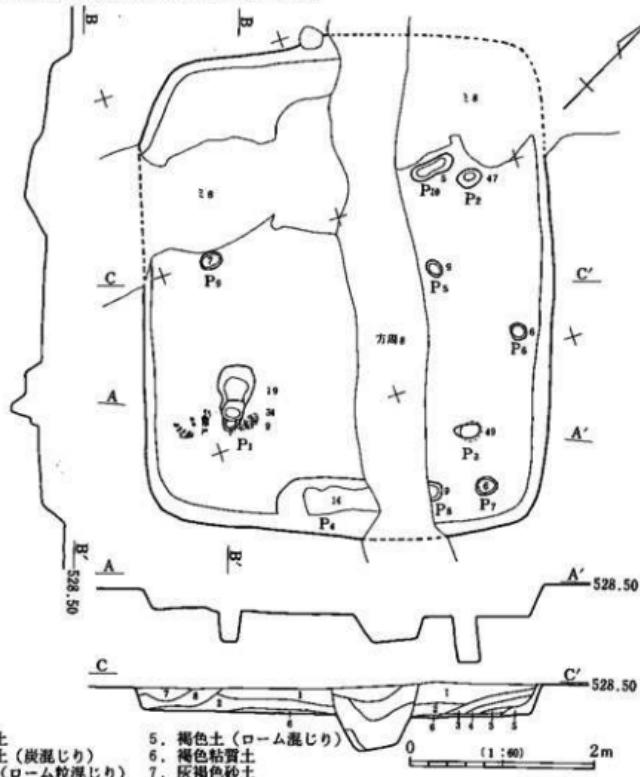
摺図119 K I T 18号住居址

⑪ 18号住居址（挿図119、第73・110図）

遺構 第II地区DO40を中心にして検出した。中世の溝址3に切られ、1/2程を調査した。主軸方向が5.3mの隅丸の堅穴住居址で、主軸方向はN23°Wを示す。壁高は35~12cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は平坦でたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1・P2で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁下に位置するP3は入口部と考えられ、2個の小穴を伴う。そのほかの住居址施設は切られた部分に存在すると考えられる。

遺物 出土量は極めて少ない。土器壺(73-1)・壺(73-2)・高壺(73-3)、石器打製石斧(110-4)・横刃形石器(110-5)がある。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



灰褐色砂質土  
標識120，長1.5，寬1.5

⑫ 21号住居址（挿図120、第65・66・110図）

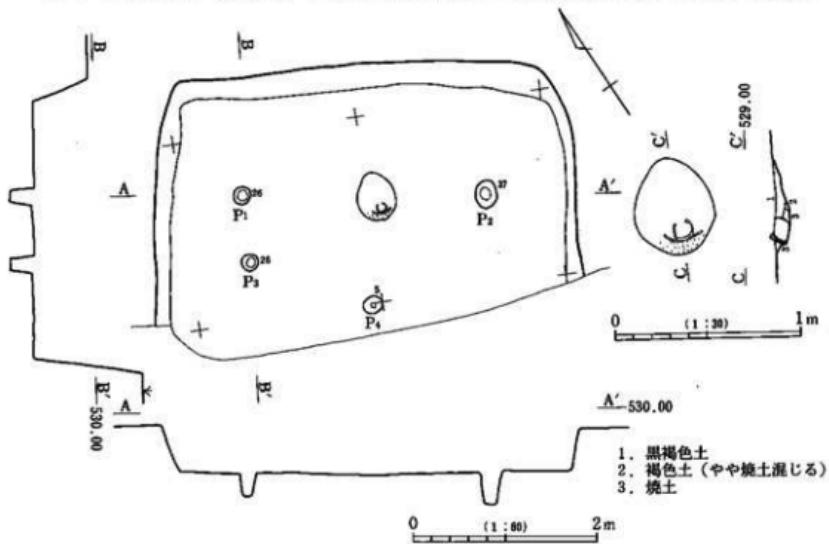
**造構** 第II地区D I 31を中心にして検出した。弥生時代の方形周溝墓8、近世の溝址8、暗渠1に切られ、全体の2/3程を調査した。5.1×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN 43° Wを示す。壁高は37~17cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は平坦で南西・南東壁際の100~30cm位を除いてたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P3で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁下中央に位置するP4は入口部と考えられる。P9は本址より新しい。主柱穴1本と炉址は溝址8に切られる位置に存在すると想定される。床面からやや上層に炭が散布しており、火事の住居址である。

**遺物** 出土量は多くないが、床面上からまとまって出土した。土器壺（73-4~7）、壺（73-8~13）、高环（74-1・2）、石器打製石斧（110-6・7）、有肩扁状形石器（110-8・9）がある。73-5の壺は白っぽい胎土で丹彩される外来系土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

⑬ 26号住居址（挿図121、第74・110・111図）

**造構** 第III地区DM49を中心にして検出し、南西側が未調査で、全体の半分程を調査した。主軸に直交する方向の長さが4.6mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN 35° Wを示す。壁高は58~46cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は平坦で全体がたたき状に堅く極めて良好で

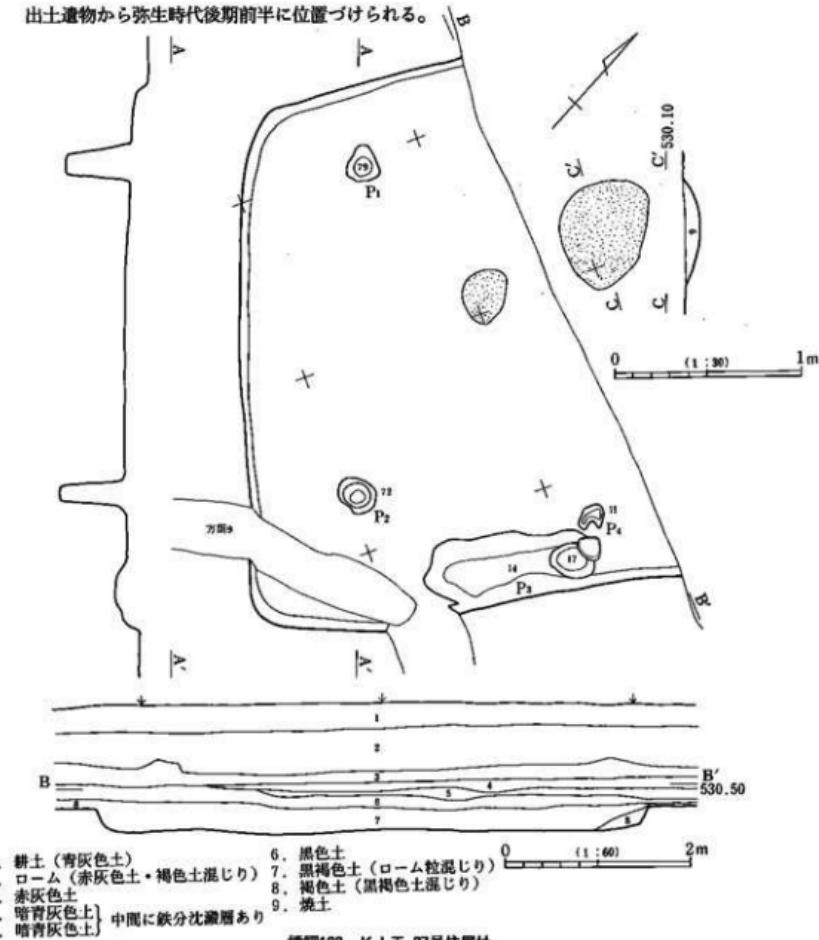


挿図121 K I T 26号住居址

ある。主柱穴はP1・P2である。炉址は北東側主柱穴中間に位置する土器埋設炉で、床面を52×43cmの楕円形に掘り凹め、底部を欠く壺を埋め、内側に壺の胴部片を埋めて二重にしている。焼土は内側と土器の下に認められた。

遺物 出土量は少ない。土器壺(74-3)・甕(74-4~6)、石器打製石斧(110-10)・有肩肩状形石器(110-11・12)・台石片(111-1)・打製石錐(111-2・3)がある。73-5は炉址の埋設土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



挿図122 K I T 27号住居址

⑩ 27号住居址（押図122、第74・111図）

第Ⅲ地区D G43を中心にして検出し、北側が未調査で、全体の2/3程を調査した。弥生時代の方形周溝墓9に切られる。主軸方向の長さが5.9mの隅丸の竪穴住居址で、主軸方向はN42°Wを示す。壁高は29~9cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟弱であるが、たたき状に堅い部分も認められた。主柱穴はP1・P2である。南東壁下に位置するP3は、185×60cmの不整形を呈し、小穴と台石を伴い、入口部と考えられる。炉址は中央部に60×46cmの楕円形に焼土が認められ、これが地床炉の可能性があるが、位置などは該期住居址と異なるので、未調査部分に存在する可能性も残る。

遺物 出土量は極めて少ない。土器壺（74-7・8）、石器有肩扁状形石器（111-4・5）・横刃形石器（111-6~8）・打製石錐（111-9）がある。74-7は東海系土器である。

遺物 出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

⑪ 28号住居址（押図123、第74・111図）

遺構 第Ⅲ地区D U57を中心にして検出し、北側が未調査で、全体の3/4程を調査した。中世の土坑64に切らる。主軸方向の長さが5.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN41°Wを示す。壁高は30~13cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は平坦で全体にたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P3である。炉址から入口部にかけて並ぶP12・P13・P16は間仕切りと考えられる。南東壁下に位置するP4は、85×34cmの楕円形を呈して小穴を伴い、入口部と考えられる。P5・P6・P7・P10・P11・P14・P17・P18・P19・P20・P21・P22は本址より新しい。主柱穴1本は未調査部に存在すると想定される。炉址は北東側主柱穴間に位置する炉縁石を有する地床炉で、床面を56×46cmの浅い楕円形に掘り凹め、内側に石を2個置き、焼土がわずかに認められた。

遺物 出土量は極めて少ない。土器壺（74-9）・高坏（74-10）、横刃形石器（111-10）・敲打器（111-11）がある。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

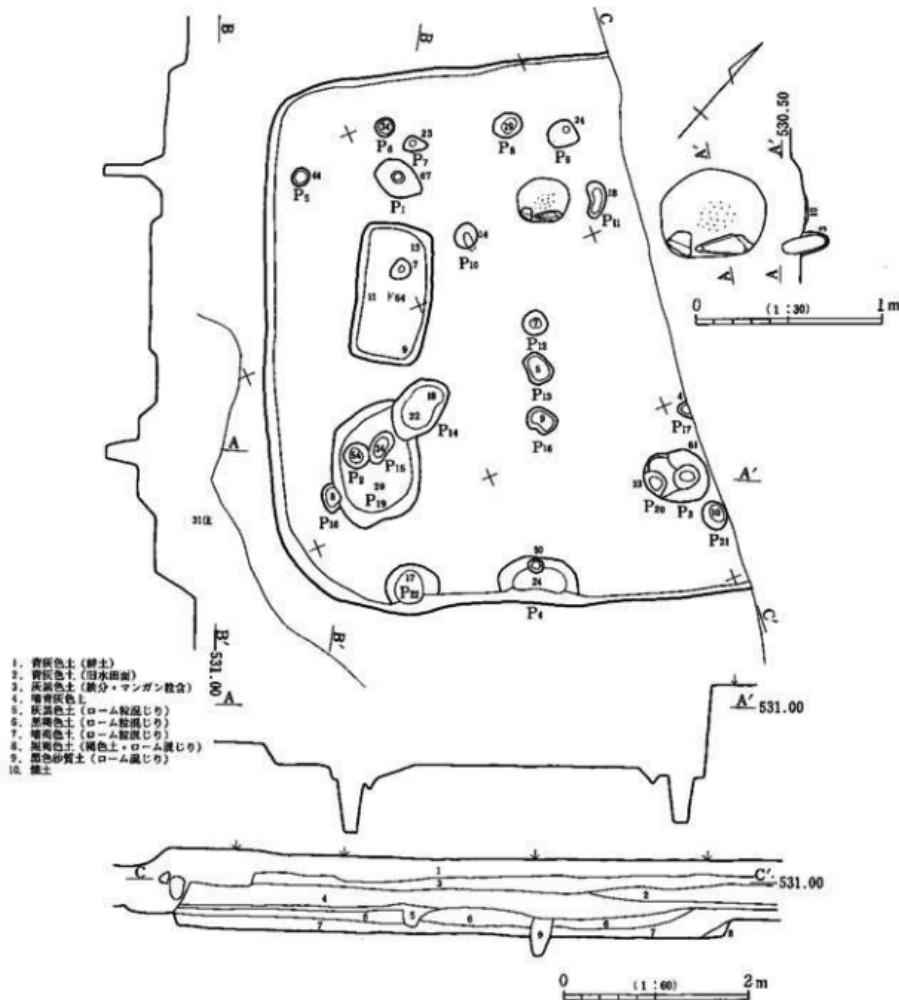
⑫ 32号住居址（押図124、第74・112図）

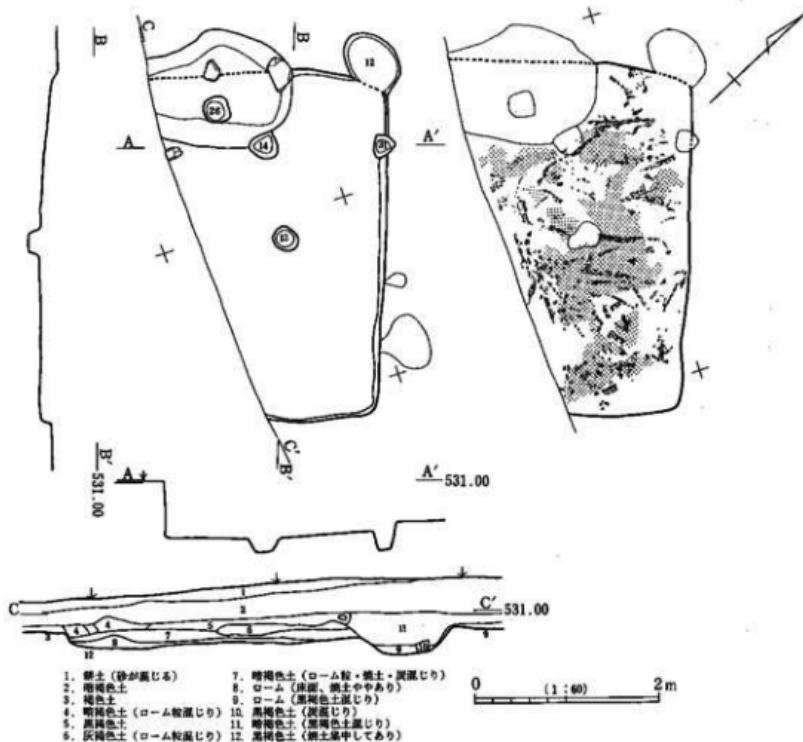
遺構 第Ⅲ地区E D49を中心にして検出し、南側が未調査で、全体の半分程を調査した。土坑に切られる。北西・南東方向の長さが3.8mの隅丸の竪穴住居址である。壁高は20~7cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟弱で状態は悪い。本址に付属する穴は不明である。床面上から覆土全面に焼土・炭が分布する。焼土は隅の上に多く、焼土をはずすと炭が散乱していた。炭が建築部材とすればその上に焼土が散布しており、屋根の上ののっていた土などが焼けたために、炭の上に分布したと推測される。

遺物 出土量は極めて少ない。土器壺（75-1）・甕（75-2・3）、石器打製石斧（112-1）・

磨製石斧（112-2）がある。

出土遺物が少なく断定できないが、弥生時代後期に位置づけられる。





掲図124 KIT 32号住居址

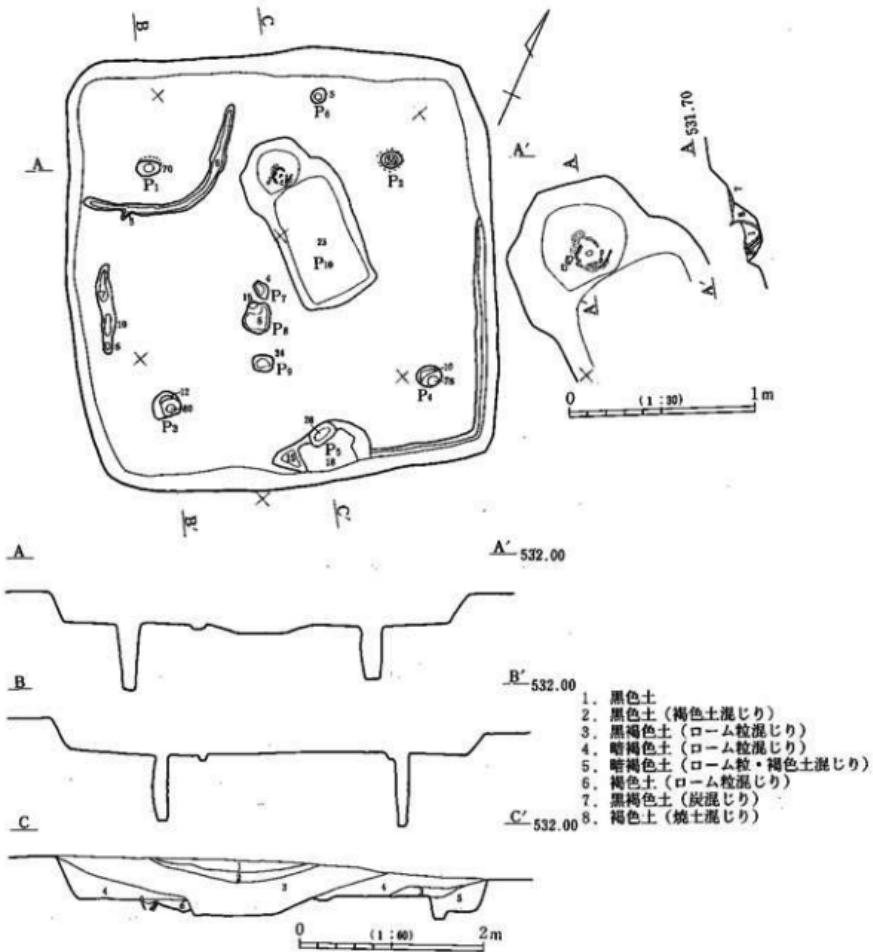
⑩ 34号住居址 (掲図125、第75・76・112図)

第IV地区DW77を中心にして検出し、全体を調査した。4.3×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN31°Wを示す。壁高は44~19cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。南東壁から北東壁下にかけて、幅12~8cm・深さ5cm前後の周溝がある。床面は平坦で壁際の60~10cm位を除いて全面がたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。炉址から入口部にかけて3個の浅い穴が並び、間仕切りと考えられる。南西壁下の西隅よりから炉址の西側にかけて、長さ130cm・幅18~6cm・深さ5cm前後の緩やかに曲がる小溝があり、同様に間仕切りと考えられる。ほかに、南西壁下中央から20cm内側に、長さ95cm・幅15cm・深さ10~6cmを測る小溝がある。南東壁下東隅寄りに位置するP5は、小穴を伴い入口部と考えられる。炉址南東側に、136×86cmの長方形を呈する穴がある。土層からみると本址を切るものでなく、何らかの役割を果たしていたと考えられる。

炉址は北西側主柱穴中間に位置する土器埋設炉で、床面を83×69cmの椭円形に掘り凹め、口縁部と底部をくぐる土を埋めている。周辺に焼土が認められた。

遺物 出土量は多くはないが、床面上から出土した。土器壺(75-4~6、76-1・2)・甕(75-7・8)、石器有肩扁状形石器(112-3)・打製石錐(112-4)がある。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

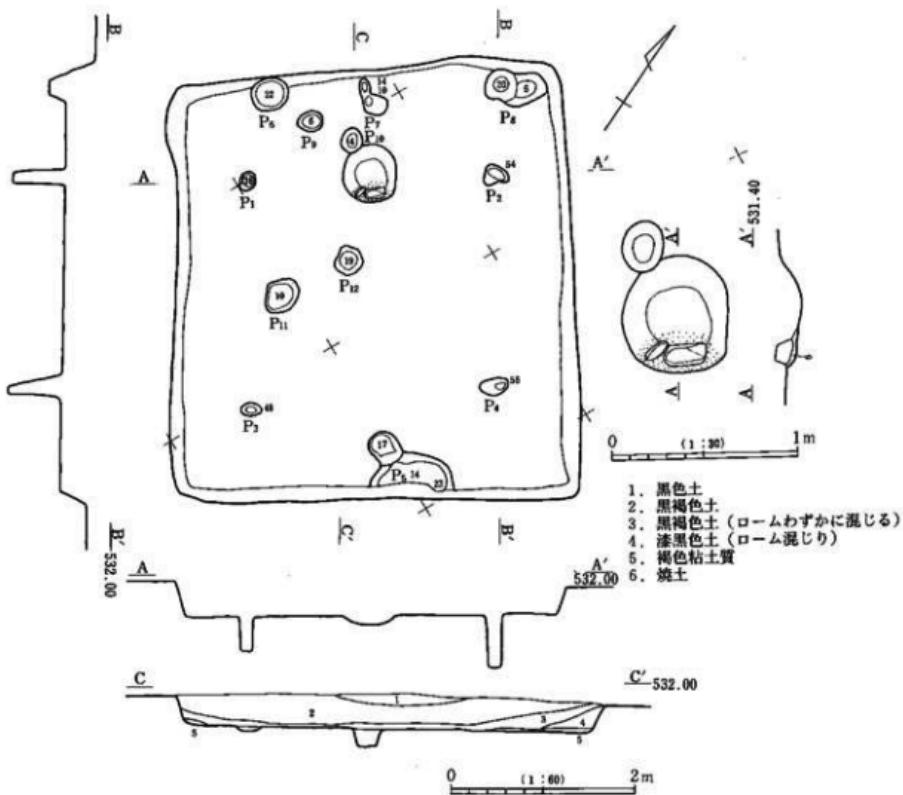


挿図125 KIT 34号住居址

⑩ 35号住居址（挿図126、第76・77・78・79・11図）

**遺構** 第IV地区 E B78を中心にして検出し、全体を調査した。4.6×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN33°Wを示す。壁高は39~24cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は平坦で全体にたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁下東隅寄りに90×34cmの半円形で西側に小穴を伴うP5があり、入口部と考えられる。P6は本址より新しい。炉址は北西側主柱穴中間に位置する炉縁石を有する地床炉で、床面を63×57cmの浅い円形に掘り凹め、内側に石を2個置く。石の周辺に焼土が認められた。

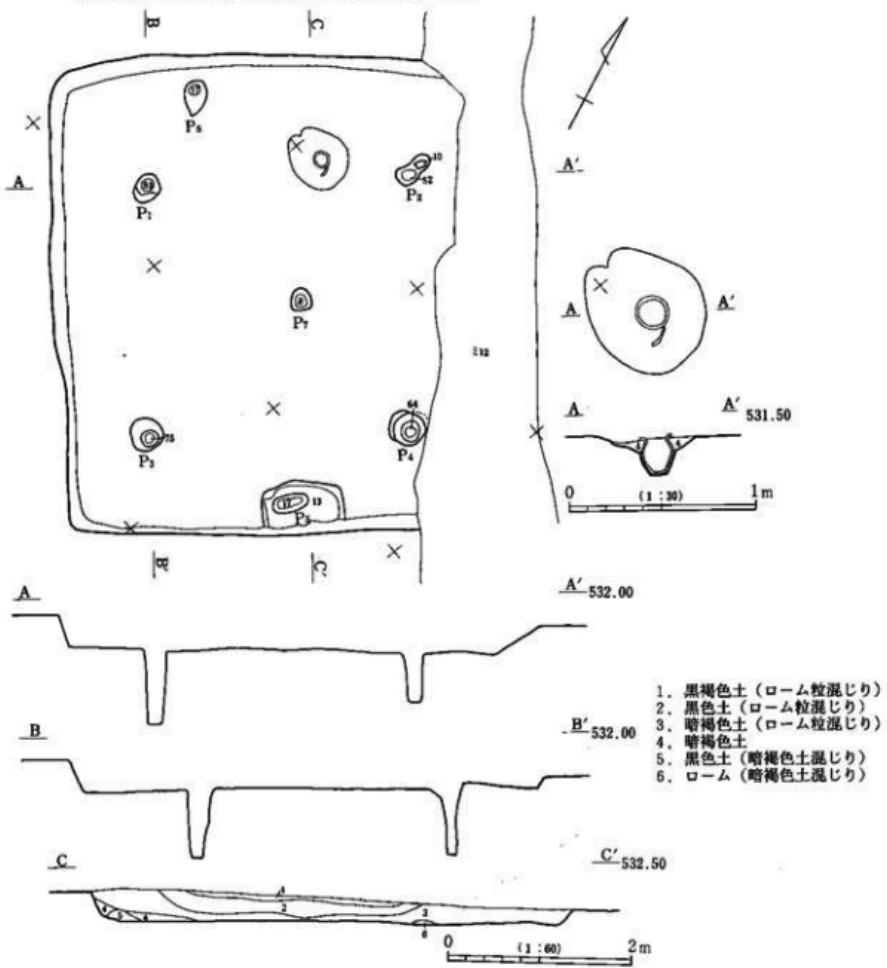
**遺物** 上層から覆土中に多量の遺物が出土し、極めて良好な資料である。土器壺（76-3~6、



挿図126 KIT 35号住居址

77-1~3、)・臺(77-4~13、78-1~6、79-1~3)・高環(79-4~6)、石器打製石斧(112-5~6)・有肩扁形石器(112-7~8)・磨製石斧(112-10)・砥石(112-11)がある。79-1は胴部に焼成後の穿孔があり、79-6の高環はほぼ完形に復元された白っぽい色調を呈する外来系土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。



挿図127 KIT 36号住居址

⑩ 36号住居址（挿図127、第79・80・112図）

造構 第IV地区D X82を中心にして検出した。中世の溝址12に切られ、全体の3/4程を調査した。5.0×4.2mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN19°Wを示す。壁高は54~13cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦で全面がたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁下中央に位置するP5は、88×50cmの長方形を呈して小穴を伴い入口部と考えられる。炉址は北西側主柱穴間やP2寄りに位置する土器埋設炉で、床面を70×60cmの精円形に掘り凹め、完形の臺を埋めている。焼土はほとんど認められなかった。

遺物 出土量は多くない。土器壺（79-7・8）・壺（79-9・10、80-1~3）、石器打製石斧（112-12）・石匙（112-13）がある。80-1は炉址の埋設土器で、80-3の台付壺は内面がヘラケズリされる外来系土器である。

出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

⑪ 37号住居址（挿図128、第80・81・113図）

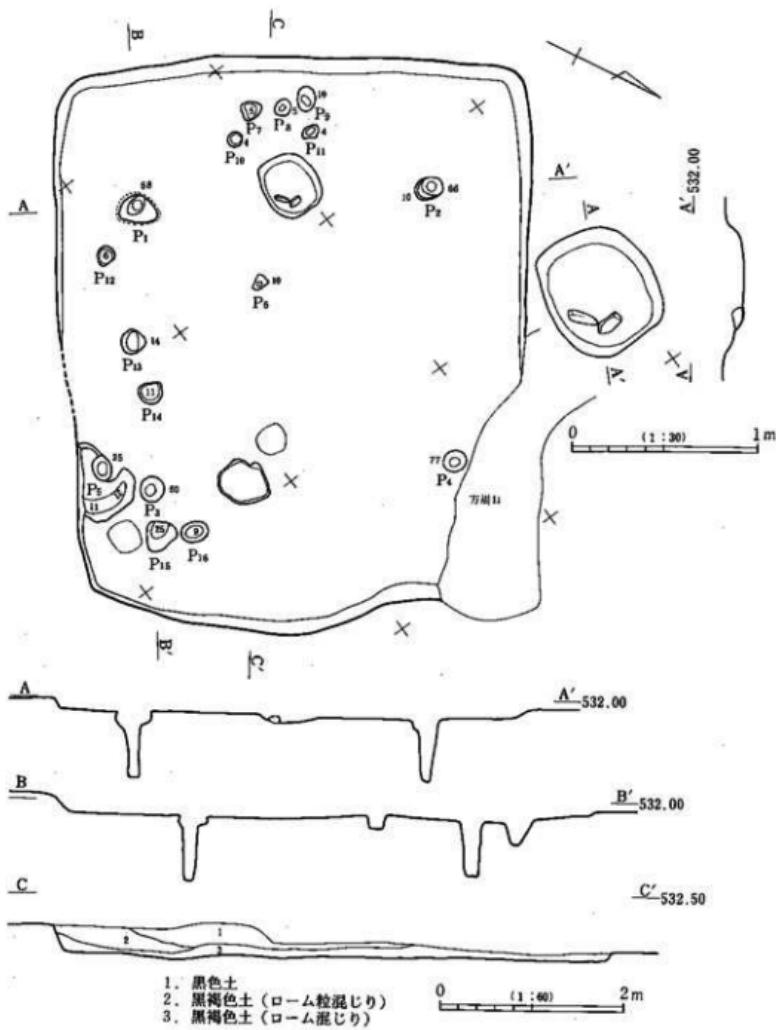
造構 第IV地区D J80を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。弥生時代の方形周溝墓11、柱穴列1に切られ、弥生時代の39号住居址を切る。5.9×4.9mの隅丸長方形の竪穴住居址で、主軸方向はN117°Wを示す。壁高は35cmを以下を測り、やや緩やかな壁面をなす。床面ははり床でたたき状に堅く良好であるが、壁ぎわ50~15cm位に軟らかい部分が認められた。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い状況で検出され、割り材使用の柱が考えられる。南東壁下東隅寄りに位置するP5は、28×20cmの精円形で小穴を伴い入口部と考えられる。そのほかの柱穴は炉址から南西壁にかけて集中する。炉址は南西主柱穴中間に位置する炉縁石を有する地床炉で、床面を73×60cmの精円形に掘り凹め、内側に石を2個置く。焼土はほとんど認められなかった。

遺物 出土量は多くない。土器壺（80-4~6）・壺（80-7~9、80-1~4）・高坏（80-5）、石器打製石斧（113-1・2）・磨製石庖丁未完成品（113-3）・有肩扁状形石器（113-4）・敲打器（113-5）・すり石（113-6）がある。

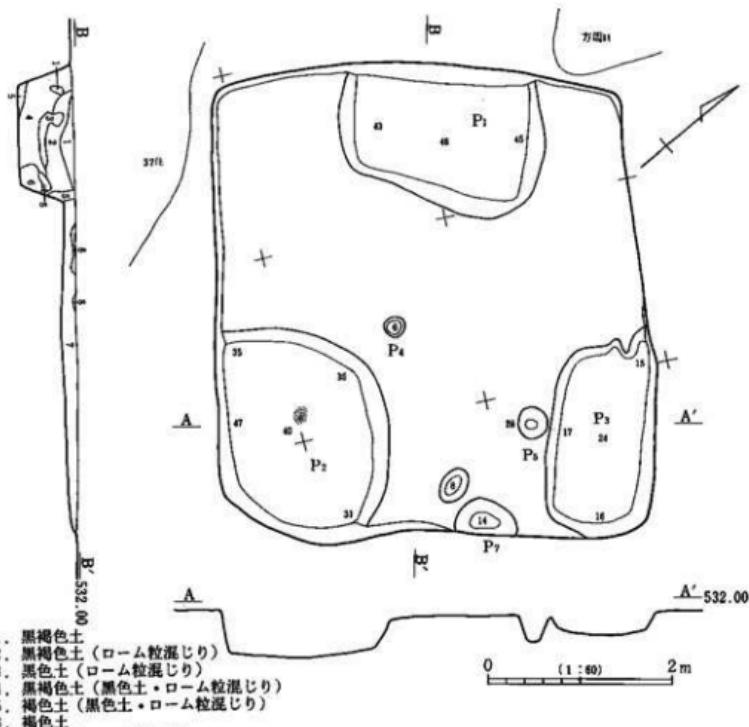
出土遺物から弥生時代後期前半に位置づけられる。

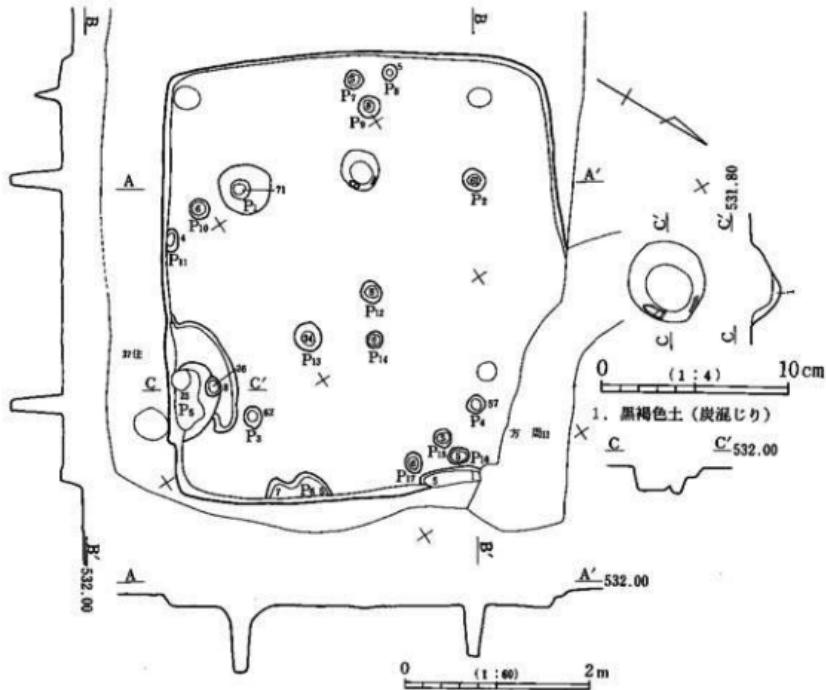
⑫ 38号住居址（挿図129、第81・113図）

造構 第IV地区E C82を中心にして検出し、全体を調査した。4.7×4.5mの隅丸方形を呈する。壁高は最高で10cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟弱で状態は悪い。柱穴はP1~P7まであり、P1・P2・P3は大きなものである。P1は北西壁下に位置し、224×140cmの長方形を呈する。P2は南隅に位置し、204×150cmの精円形を呈し、中央部上層には焼土が認められた。P3は東隅に位置し、220×100cmの長精円形を呈する。そのほかは小穴である。本址の形態は通常の竪穴住居址とは全く異なる。3箇所に大きな穴があき、主柱穴・炉址等はみられない。掘り込みも浅く、床面の状態も悪い。



插図128 K I T 37号住居址





挿図130 39号住居址

考えられる。南東壁下東隅寄りに位置するP4は、 $130 \times 67\text{cm}$ の半円形を呈して二段の掘り込みをなして小穴を伴い、入口部と考えられる。炉址は南西主柱穴中間にやや外側に位置する土器埋設炉で、床面が $46 \times 41\text{cm}$ の楕円形に掘り凹られわずかに土器片が認められた。埋設土器を抜いたものと推測される。

遺物はほとんど出土せず、図示できる遺物はない。

切り合い関係と住居址形態から弥生時代後期に位置づけられる。主軸方向ほぼ同じで本址の上に構築される37号住居址と密接な関連を持つと考える。

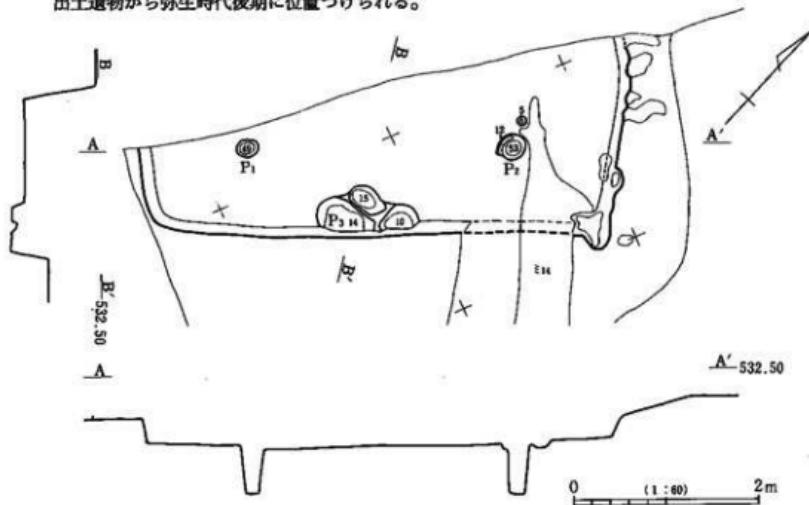
#### ② 41号住居址（挿図131、第81・113図）

**遺構** 第IV地区E G70を中心にして検出し、北西側が未調査で、全体の $1/4$ 程を調査した。中世の溝址14に切られる。主軸に直交する方向の長さが $5.1\text{ m}$ の隅丸の竪穴住居址で、主軸方向は N $48^\circ$  Wと推定される。壁高は $33\sim 27\text{cm}$ を測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は平坦で全体がたたき状に堅く極めて良好である。主柱穴はP1・P2である。南東壁下ほぼ中央に位置するP5は、

104×44cmの不整形を呈して3個の穴が重複し、入口部と考えられる。そのほかの住居址施設は未調査部に存在するのであろう。

遺物 出土量は極めて少ない。土器壺(81-9)、石器打製石斧(113-11)・有肩扇状形石器(113-12)がある。

出土遺物から弥生時代後期に位置づけられる。



挿図131 K I T 41号住居址

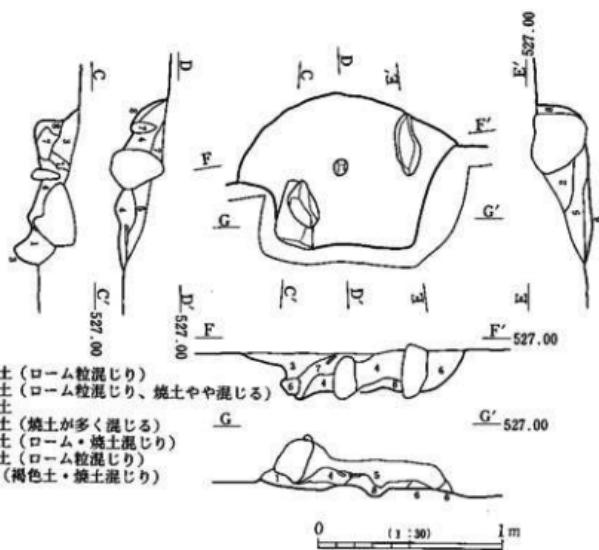
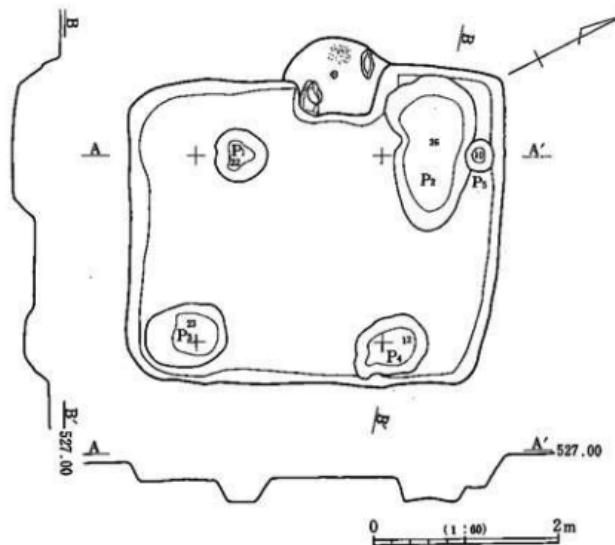
### (3) 奈良時代

#### ① 4号住居址 (挿図132、第81図)

遺構 第I地区B L35を中心にして検出し、全体を調査した。3.2×4.0mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN54°Wを示す。壁高は24~14cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は全体に軟弱で状態は悪い。主柱穴は確認できない。カマド右脇に位置するP2は、一部がはり床となるが、貯蔵穴もしくは灰だめの穴と考えられる。カマドは北西壁中間やや北隅寄りに位置する石芯粘土カマドで、壁外に若干突出する。右袖に1個・左袖に2個の石と支脚の石が残っていた。たき口の焼土は余り認められないが、煙道部には認められた。全体とすれば残存状態は悪く、袖石は抜かれている可能性がある。

遺物 出土量は極めて少ない。カマドから土器壺(81-10・11)、床面上から須恵器高台环(81-12)が出土した。

出土遺物から奈良時代に位置づけられる。



1. 黒褐色土（ローム粒混じり）
2. 黒褐色土（ローム粒混じり、焼土やや混じる）
3. 灰黒色土
4. 噴褐色土（焼土が多く混じる）
5. 噴褐色土（ローム・焼土混じり）
6. 噴褐色土（ローム粒混じり）
7. 黒色土（褐色土・焼土混じり）
8. 褐色土

挿図132 KIT 4号住居址

#### (4) 中世

##### ① 31号住居址（挿図133、第81・113図）

遺構 第III地区D U55を中心にして検出し、全体を調査した。縄文時代の土坑97を切る。8.2×6.7mの不整形を呈する。壁高はほとんど認められず、緩やかな皿状の落ち込みをなす。床面は中心部が凹みたたき状に堅く良好である。特に、南側が良好であった。小穴がかなり認められるが、主柱穴は特定できない。北側の膨らむ箇所は、本址より新しい遺構である。平面形をみれば、7.5×4.4mと4.5×3.3mの長方形の住居址2軒が重複してこうした形になったとも考えられるが、床面に明確な差を認めることができず、1つの遺構として把握した。

遺物 出土量は極めて少ない。山茶碗碗（81-13）・同鉢（82-1）・灰釉陶器鉢（81-14）・白磁碗（81-15）、砥石（113-13・14）がある。

出土遺物から中世に位置づけられる。

##### ② 33号住居址（挿図134）

遺構 第III地区E F52を中心にして検出し、北西側が未調査で、全体の半分程を調査した。北東・南西方向の長さが3.3mの隅丸の竪穴住居址である。壁高は24～6cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は全体にたたき状に堅く良好である。本址に付属する穴はない。北東側の壁上にもたたき状の床面が認められ、本址との関連が考えられる。

出土遺物はないが、周囲の土坑群との関連から中世に位置づく可能性が高い。

##### ③ 40号住居址（挿図135）

遺構 第IV地区D Y85を中心にして検出し、全体を調査した。中世の溝址12を切る。3.7×2.8mの梢円形をした遺構である。壁高は、皿状のなだらかな立ち上がりをなすのではなく、壁面は認められない。床面は中心部が凹みたたき状に堅く良好である。本址ほぼ中央部に小穴があるが役割などは不明である。

出土遺物はなく時期は不明であるが、遺構の形態からすれば、中世に位置づけるのが適切と考えている。

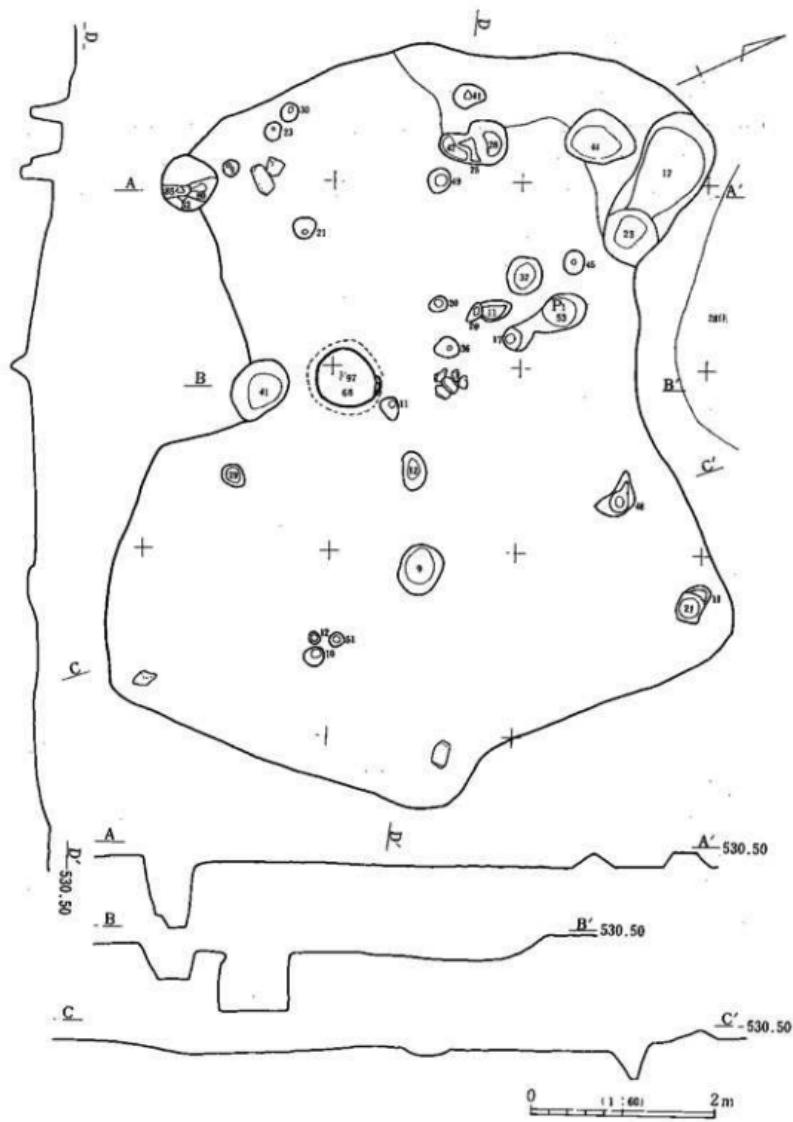


插圖133 KIT 31號住居址、土坑97

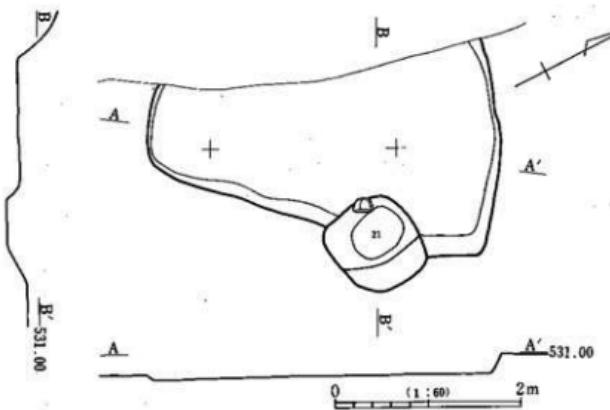


插圖134 K I T 33號住居址

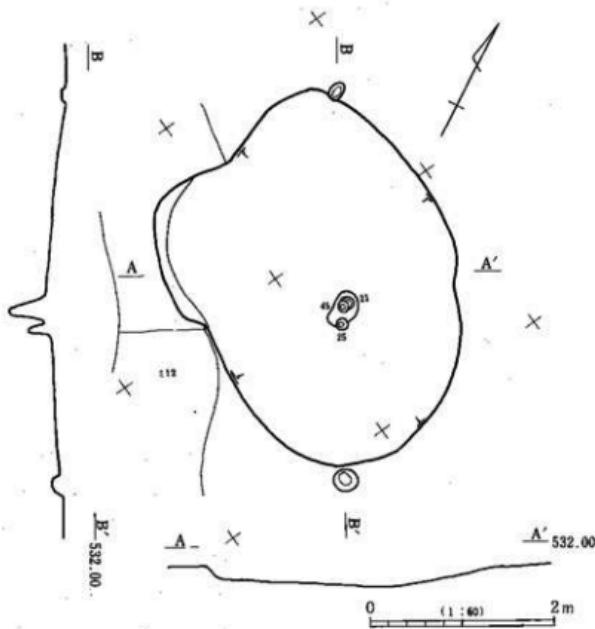


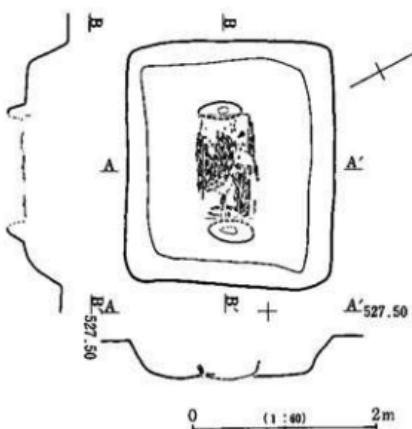
插圖135 K I T 40號住居址

## 2) 方形周溝墓

### ① 方形周溝墓1 (挿図136・137)

**遺構** 第I地区B T32を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。中世の以降の溝址5・6、時期不明の建物址3に切られる。14.8×12.8mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN63°Wを示す。周溝の形態は西隅が膨らんでゆがみをもち、南東溝中央部が約3.0mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅190~82cm・深さ83~12cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなし、北西側の西隅寄りに棟をもつ部分を認めた。主体部は周溝内中央やや北西寄りに位置し、2.6×2.2mの長方形を呈し、断面形は逆台形をなしてやや緩やかな壁面をなす。この中から、埋葬施設として炭を使った特殊なものが出土したので、説明を加える。形状は、底に100×50cmの一枚の板状の炭があり、船底状に凹んで底板をなしている。北・南の両側に板状の炭を組み、側板をしている。北側のものは長さ70cm・高さ15cm・幅3cm、南側のものは長さ90cm・高さ12cm・幅5cmを測り、後者が良好に残存していた。底の南側の側板寄りには、長さ20~5cm・太さ3cm前後の枝状の炭が認められた。西・東側には、底に長さ50cm・幅15cmの小口痕がある。覆土中に若干の焼土が混じり、南東側に5cm以下の骨が10点位残っていた。

以上が本址の埋葬施設であるが、これにつき若干の考察を試みたい。底板と側板に炭を使用し小口板を組み合わせる箱状の形態となり、通常は板材を使用する木棺を炭にしたものである。作り方に二つの方法が考えられる。まず第一は、別の場所で材料となる炭を焼き、それを運んで組合せたとする方法である。もう一方は、現地において板を箱状に組合せておき、蒸し焼きにして炭とした方法である。いずれも可能な方法であろうが、底にみられた枝状の炭が一つの判断材料



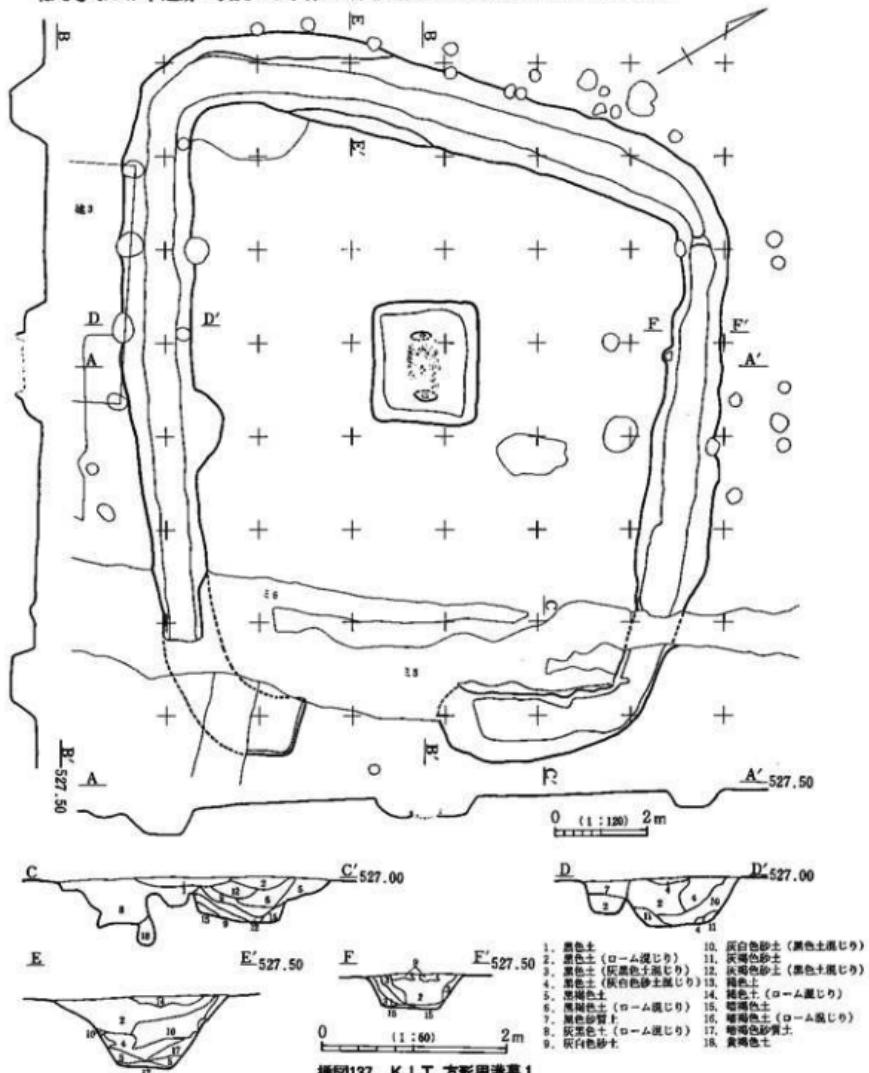
挿図136 K1T 方形周溝墓1 主体部

になる。これは前者の方法では不要なものであり、後者の方法で蒸し焼きした時に残った材料と考えられ、後者で作られたと判断している。名称は『組合せ式の箱形木炭棺』と仮称したい。

こうした形態の埋葬施設はほとんど類例がなく、石子原遺跡の方形周溝墓1主体部に炭がみられたという記述があり(遮那1972)、同様な施設であった可能性がある。古墳時代前期の古墳で広くみられる木炭郭との関連を考えるとしても、本址が若干古い時期と考えられ、炭を使用し

埋葬施設の発生に検討材料となるものといえる。

出土遺物は縄文・弥生土器片がみられるのみで、図示できるものはない。遺物から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後半から終末に位置づけられる。



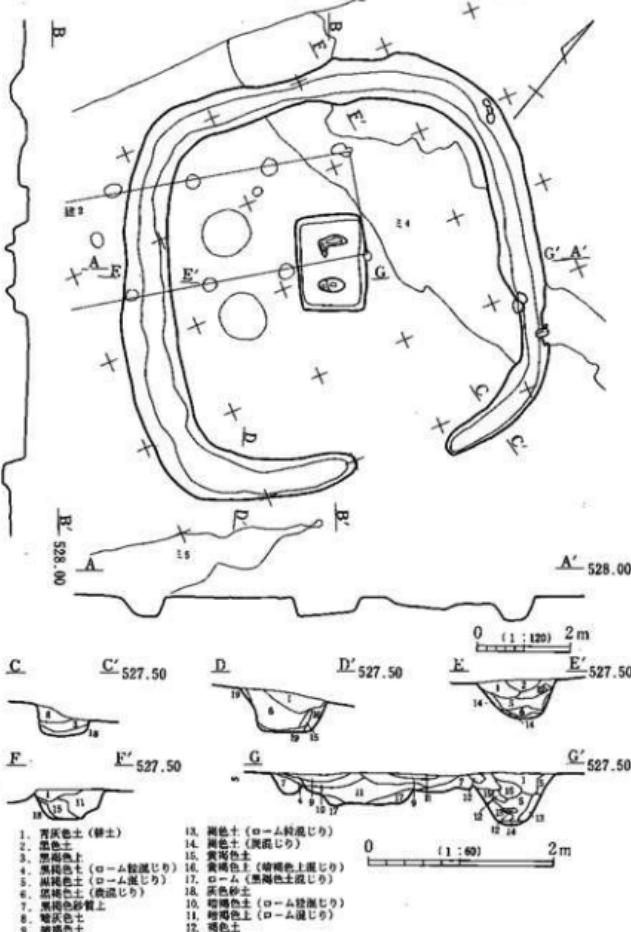
擇図137 KIT 方形周溝墓1

## ② 方形周溝墓 2 (挿図138、第82・114 図)

**遺構 第I地区B S41を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。中世の以降の溝跡4、建物跡3に切られる。9.4×9.0mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN42°Wを示す。周溝の形態はほぼ方形を呈し、南東溝東隅寄りが約2.0mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅120~58cm・深さ57~16cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央に位置し、2.1×1.5mの長方形を呈し、断面形は逆台形をなしてほぼ垂直の壁面をなす。底部に小口痕と考えられる小穴があり、この内側100×40cmの範囲が褐色土を主体とした土であり、周囲の黒色土と明確な土層の違いが確認できた。これらにより、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。**

**遺物 周溝内から繩文・弥生土器片42点、主体部から同6点等が出土し、周溝からの弥生土器底面(82-2)、打製石斧(114-1)・有肩扁状形石器(114-2)が図示できる。**

**遺物から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後期後半から終末に位置づけられる。**



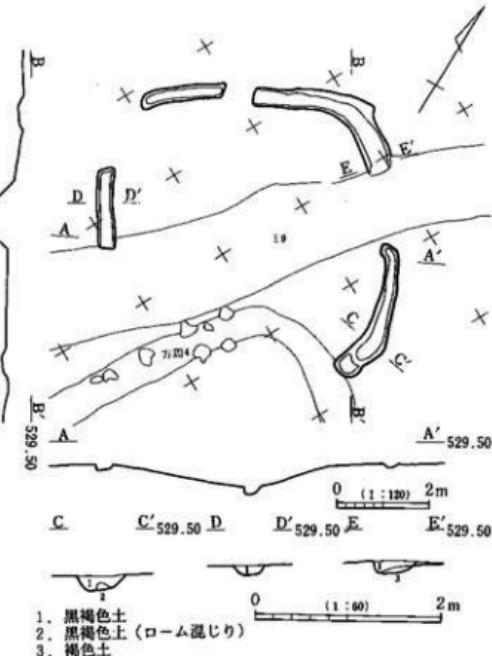
挿図138 K I T 方形周溝墓2

### ③ 方形周溝墓 3 (挿図139、第114図)

**遺構** 第II地区D P 32を中心にして検出した。縄文時代の13号住居址を切り、弥生時代の方形周溝墓4、中世の溝址9に切られる。6.4×6.4mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN31°Wを示すと想定できる。周溝の形態は西隅・北西側で断絶し、南側は切り合い関係から確認できない箇所が多い。西隅・北西側で断絶部は土橋部になるというより、全体が削平されて底部が残ったのみなので、本来は溝が存在した可能性が高い。周溝は幅60~26cm・深さ17~2cmを測り、断面形は逆台形を呈する。主体部は確認できず、溝址9に切られる位置に存在したのだろう。

**遺物** 周溝内から縄文・弥生土器片23点が出土し、磁石1点(114-3)が図示できた。

遺物から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後期後半から終末に位置づけられる。



挿図139 K I T 方形周溝墓3

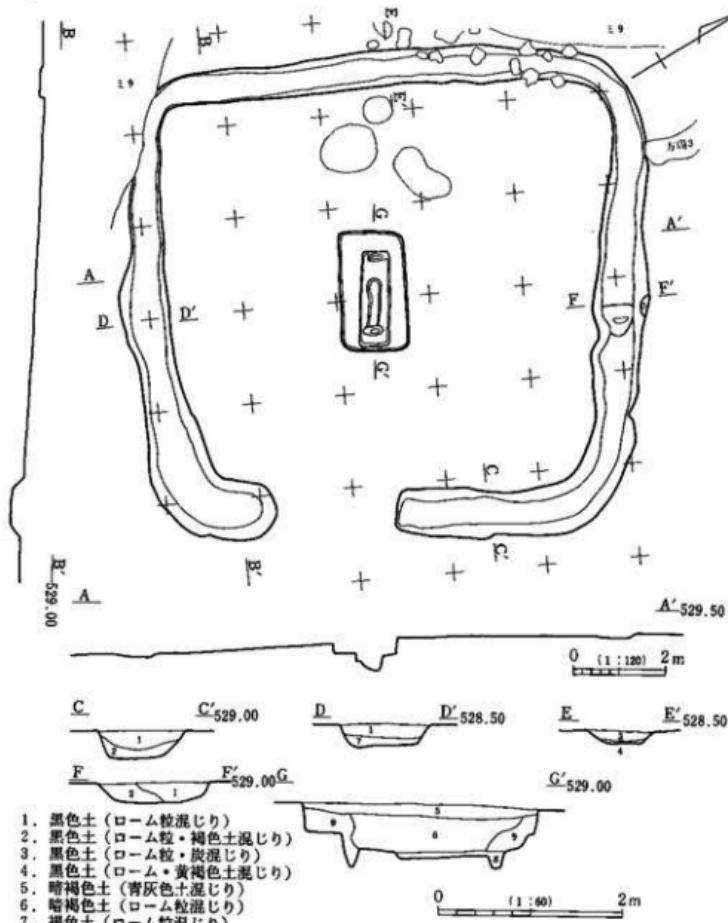
### ④ 方形周溝墓 4 (挿図140、第114図)

**遺構** 第II地区D S 36を中心にして検出し、ほぼ全体を調査した。縄文時代の25号住居址、弥生時代の方形周溝墓3を切り、中世の溝址9に切られる。10.3×11.2mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN56°Wを示す。周溝の形態はほぼ方形を呈し、南東溝南隅寄りが約2.6mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅134~56cm・深さ34~4cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央に位置し、254×142cmの長方形を呈す。断面形は箱形をなして垂直の壁面をなす。底部に小口痕と考えられる小穴があり、この内側が203×64cmの長方形に凹みその底がさらに凹んでいる。この範囲に組合せ式の箱形木棺が埋葬施設と

して使われたと判断できた。

遺物 周溝内・主体部から繩文・弥生土器片が出土したが、直接関係する遺物はない。周溝上層からの砾石(114-4)を図示したが、本址より新しい遺物である。

遺物から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後半から終末に位置づけられる。



挿図140 K I T 方形周溝墓 4

### ⑤ 方形周溝墓 5 (挿図142)

**遺構** 第II地区E G39を中心にして検出した。中世の溝址3に北東周溝の半分強を切られる。11.8×12.0mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN64°Wを示す。周溝の形態はほぼ方形を呈し、南東溝南隅寄りが約2.1m・北西溝西隅寄りが約1.7mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅140~54cm・深さ77~5cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなし、東隅周辺に稜が認められた。主体部は周溝内中央や北西寄りに位置し、235×146cmの長方形を呈し、断面形は逆台形をなしてほぼ垂直の壁面をなす。底部に小口痕と考えられる小穴があり、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。

**遺物** 周溝内から縄文土器片63点・弥生土器片56点、主体部から縄文土器片40点・弥生土器片2点が出土したが、直接関係する遺物はない。遺物から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後期後半から終末に位置づけられる。

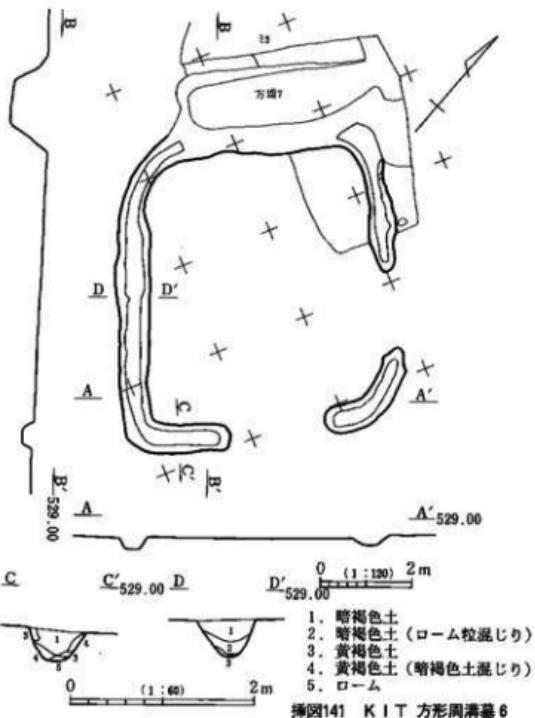
### ⑥ 方形周溝墓 6 (挿図141、第82図)

**遺構** 第II地区D B36を中心にして検出した。縄文時代の22号住居址、弥生時代の7号住居址を切り、弥生時代の方形周溝墓7に北西周溝のほとんどを切られる。

7.0×6.4mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN40°Wを示すと想定される。周溝の形態はほぼ方形を呈し、南東溝東隅寄りが約2.1m・北西溝東隅寄りが約1.6mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅72~40cm・深さ40~8cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内を精査したが、確認できなかった。

**遺物** 周溝内から縄文土器片1点・弥生土器片16点が出土したが、直接関連する遺物はない。弥生土器窓底部(82-4)を図示した。

**遺物** から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後期後半から終末に位置づけられる。



挿図141 KITA 方形周溝墓 6

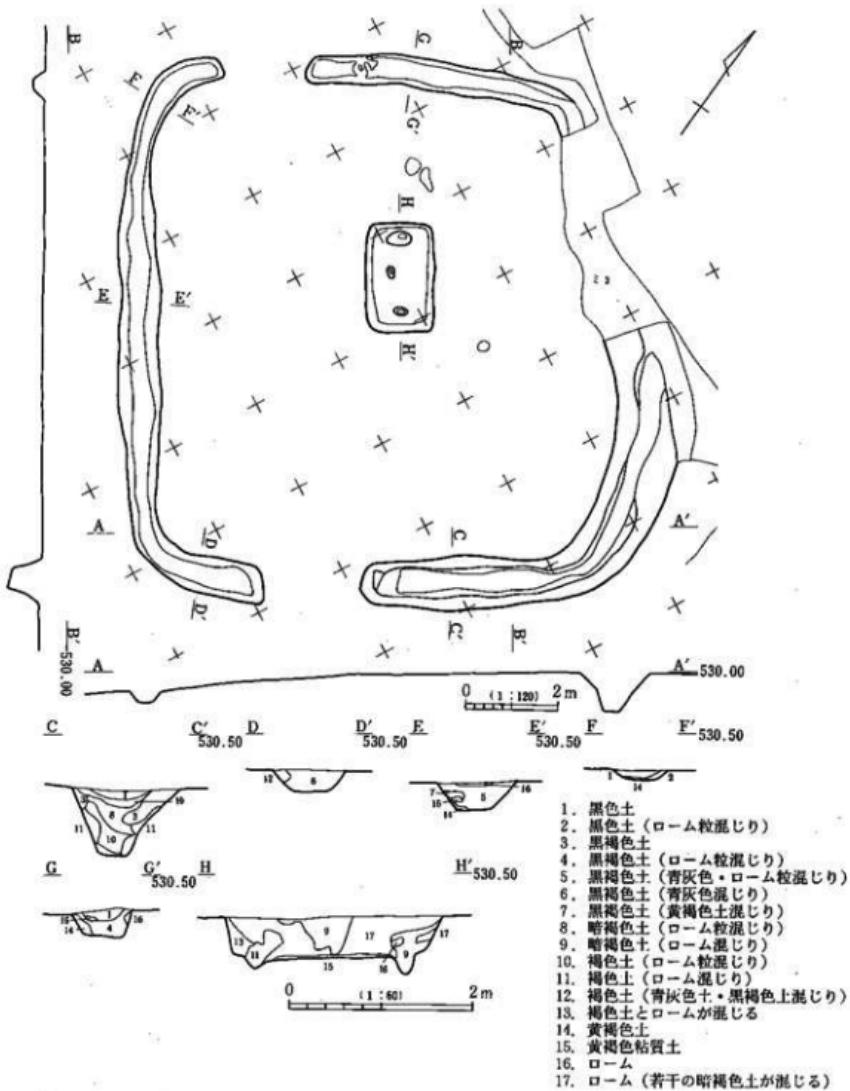
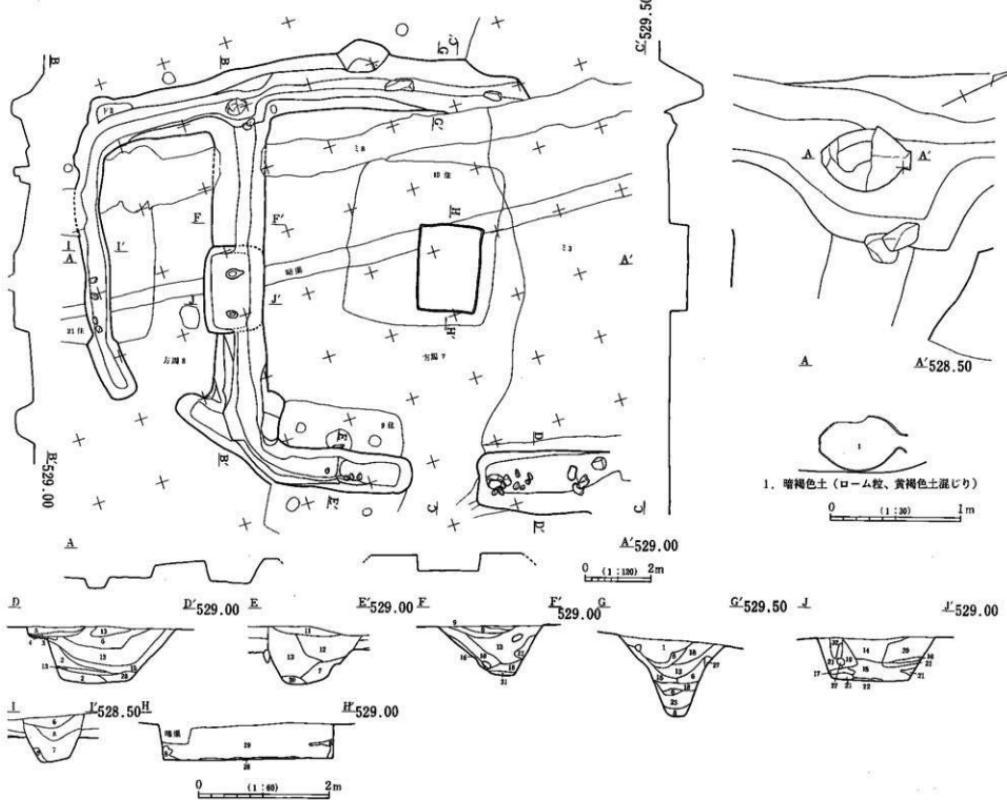


図142 KIT 方形周溝墓5



1. 黒色土
2. 黒色土(ローム粒混じり)
3. 灰褐色土
4. 灰褐色土(灰黑色土混じり)
5. 灰褐色砂土
6. 黑褐色土
7. 黑褐色土(ローム粒・炭混じり)
8. 黑褐色土(ローム粒混じり)
9. 黑褐色土(ローム混じり)
10. 黑褐色土
11. 黑褐色土(黄褐色土混じり)
12. 黑褐色土(ローム粒・炭混じり)
13. 略褐色土(ローム・粘混じり)
14. 略褐色土(ローム・炭・砂利混じり)
15. 略褐色土(ローム混じり)
16. 略褐色土
17. 略褐色土(炭混じり)
18. 略褐色土(ローム粒混じり)
19. 略褐色土(ローム・炭混じり)
20. 略褐色土(ローム・砂利混じり)
21. 略褐色土(ローム混じり)
22. 略褐色粘土質土
23. 黄褐色土
24. 黄褐色土(黑色土混じり)
25. 黄褐色土(ローム粒混じり)
26. 黄褐色粘質土
27. ローム
28. ローム(黒色土混じり)
29. ローム(わずかに黒褐色土が混じる)
30. ローム(略褐色土混じり)
31. ローム(褐色土混じり)
32. 残瓦

挿図143 KIT 方形周溝墓7・8

#### ⑦方形周溝墓 7（挿図143、第82・114図）

遺構 第II地区D G 37を中心にして検出した。縄文時代の24号住居址、弥生時代の9号・10号住居址を切り、弥生時代の方形周溝墓8、中世の溝址3、近世の溝址8、暗渠1に切られる。主軸方向の長さが13.2mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN40°Wを示す。周溝の形態は北東側が溝址3に切られるが、ほぼ方形を呈すると考えられ、南東溝ほぼ中央部が約2.0mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅180~90cm・深さ164~66cmを測る。断面形は基本的に逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなし、北西溝・南隅付近では稜を持つ。主体部は周溝内ほぼ中央に位置すると考えられ、10号住居址覆土中にロームを主体とした土で埋められていて、明確に検出できた。264×186cmの長方形を呈し、断面形は箱形をなして垂直の壁面をなす。10号住居址床面直上まで掘られていた。

遺物 周溝内から縄文・弥生土器片が相当量出土したが、流れ込みによるものがほとんどである。弥生土器壺（82-4~9）・壺（82-10~13）、石器打製石斧（114-6・7）・敲打器（114-8）を図示した。この中で、S字状口縁付壺（82-12・13）は破片ではあるが、本址に直接結び付くと考えられ、時期決定の決め手となる。

出土遺物から、弥生時代後期終末に位置づけられる

#### ⑧ 方形周溝墓 8（挿図143、第82・83・115図）

遺構 第II地区D H 33を中心にして検出した。縄文時代の24号住居址、弥生時代の9号・21号住居址、方形周溝墓7を切り、中世の土坑2、近世の溝址8、暗渠1に切られる。主軸方向の長さが11.4mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN45°Wを示す。周溝は方形周溝墓7を利用して作られ、同址の西隅と南隅から南西側に伸ばしている。よって、西隅では若干底部が蛇行し、南隅では段差をもつ。形態は南隅が約1.3mとぎれ、土橋部と考えられる。全体形は不明であるが、方形周溝墓7の周溝を最大限に利用し、全体とすれば方形を呈したと考えられる。周溝は幅146~90cm・深さ88~66cmを測る。断面形は基本的に逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は方形周溝墓7南東周溝内ほぼ中央に位置し、周溝覆土とは明確な差をもっていた。256×186cmの長方形を呈し、断面形は逆台形をなしてほぼ垂直の壁面をなす。10号住居址床面直上まで掘られていた。底部に小口窓と考えられる小穴があり、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。北西溝の方形周溝墓7との接合部溝底に、口縁部を欠く大型の壺が横倒しの状態で置かれていた。胴部を33×30cm焼成後に欠き、この部分を上にしていた。出土状態から壺棺と考えられる。

遺物 周溝内から縄文・弥生土器片が相当量出土したが、流れ込みによるものがほとんどである。弥生土器壺（82-14、83-1）・壺（83-2~5）、石器打製石斧（115-1）を図示した。壺棺の壺（82-14）は中島式土器の典型的な文様構成をもつ。

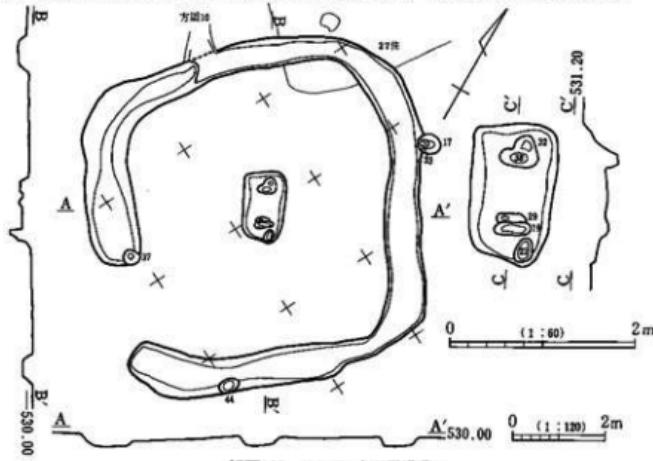
切合い関係から、弥生時代後期終末に位置づけられる。

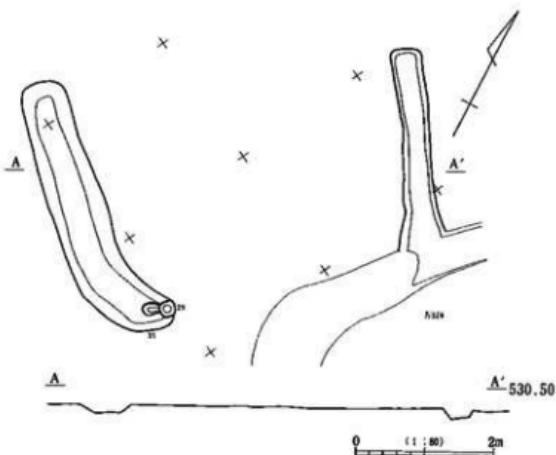
### ⑨ 方形周溝墓9（挿図144、第115図）

造構 第Ⅲ地区D L54を中心にして検出し、全体を調査した。弥生時代の27号住居址・方形周溝墓10を切る。7.4×7.2mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN55°Wを示す。周溝の形態は方形を呈し、南隅が約1.7mとぎれ、土橋部と考えられる。周溝は幅100~36cm・深さ34~6cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内中央に位置し、148×90cmの長方形を呈し、断面形は逆台形をなしてやや緩やかな壁面をなす。底部に小口痕と考えられる小穴があり、組合せ式の箱形木棺が埋葬施設として使われたと判断できた。

周溝内から縄文土器片98点・弥生土器片43点、主体部から縄文土器片14点・弥生土器片1点など出土した。石器砥石（115-2）を図示した。

遺物から時期の確定はできないが、弥生時代後期後半から終末に位置づけられる。





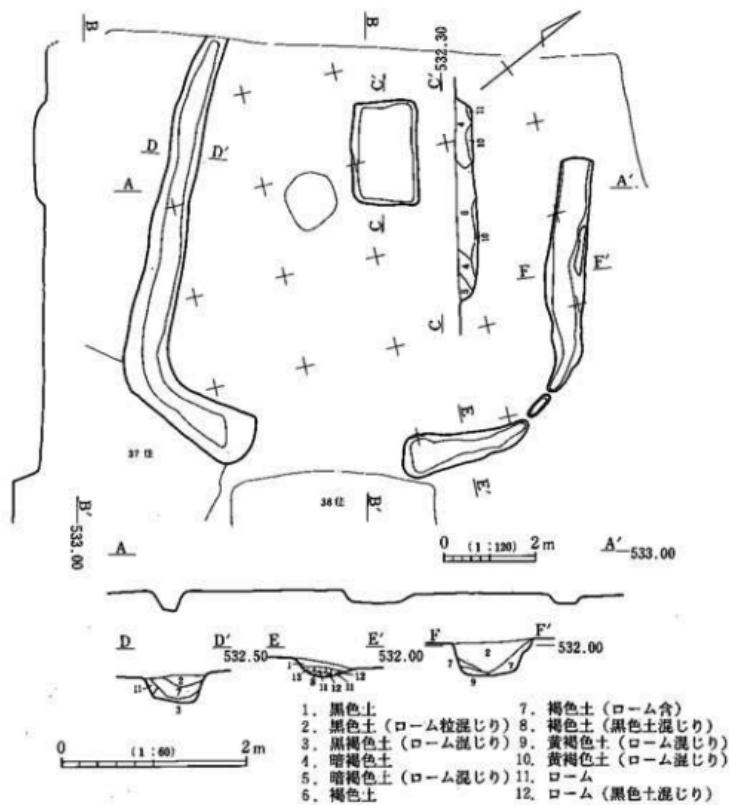
挿図145 K I T 方形周溝墓10

⑪ 方形周溝墓11（挿図146、第83図）

**遺構** 第IV地区E G84を中心にして検出した。上面を水田の造成で削平され、弥生時代の37号・39号住居址を切る。北西側が用地外にかかり、北西溝等が調査できなかった。主軸に直交する方向が9.2mを測る方形周溝墓で、主軸方向はN51°Wを示す。南東溝ほぼ中央が約3.2mときれ、土橋部と考えられる。東隅と北東周溝の北側に溝がみられない部分があるが、上面を水田の造成で削平したためで、本来は存在した可能性が高い。周溝は幅120~40cm・深さ52~6cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや緩やかな立ち上がりをなす。主体部は周溝内ほぼ中央に位置し224×142cmの長方形を呈し、断面形は逆台形をなしてやや緩やかな壁面をなす。中央部が色の違いが認められたが、明確な差を見出だすことはできなかった。

**遺物** 周溝内から縄文土器片2点・弥生土器片50点、主体部から弥生土器片4点が出土したが、直接関係する遺物はない。弥生土器壺(83-6~9)・甕(83-10)がある。

遺物から時期の確定はできないが、遺跡の状況から、弥生時代後期後半から終末に位置づけられる。



挿図146 K I T 方周溝塗11

### 3) 囲溝址

#### ① 囲溝址1 (挿図147)

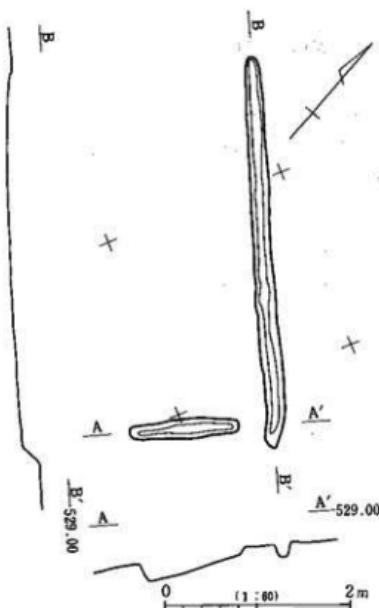
第II地区E A 28付近で検出した。長軸方向がN45° Wを示し、長さ4.2m・幅20~15cm・深さ17~5cmを測る小溝と、この東側ではほぼ直角の方向を示す長さ1.2m・幅21~15cm・深さ21~8cmの小溝で本址と把握した。2本の溝があるのみで圍溝状にはならないが、当地方の弥生時代の遺跡にしばしば認められる围溝址と類似するものとの認識から围溝址とした。

出土遺物はないが、前述した理由から弥生時代後期に位置づけられる。

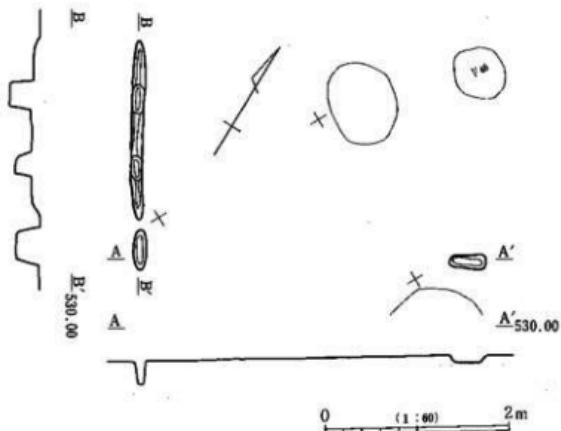
② 囲溝址 2 (挿図148、第115図)

遺構 第II地区DX39付近で、長軸方向がN31°Wを示し、1箇所断続するが長さ245cm・幅12~10cm・深さ35~8cmを測る小溝があり、ここから約3.2m離れて直角の方向を示す長さ38cm・幅13cm・深さ18cmの小溝で本址と把握した。前者の溝には部分的に深くなる箇所がある。遺構址1と同様に2本の溝があるので圍溝状にはならないが、当地方の弥生時代の遺跡にしばしば認められる圍溝址と類似するものとの認識から圍溝址とした。

遺物 出土遺物は磨製石斧(115-3)があるが、縄文時代からの混入遺物であり、類似遺構や遺跡の状況から弥生時代後期に位置づけられる。



挿図147 K I T 囲溝址 1



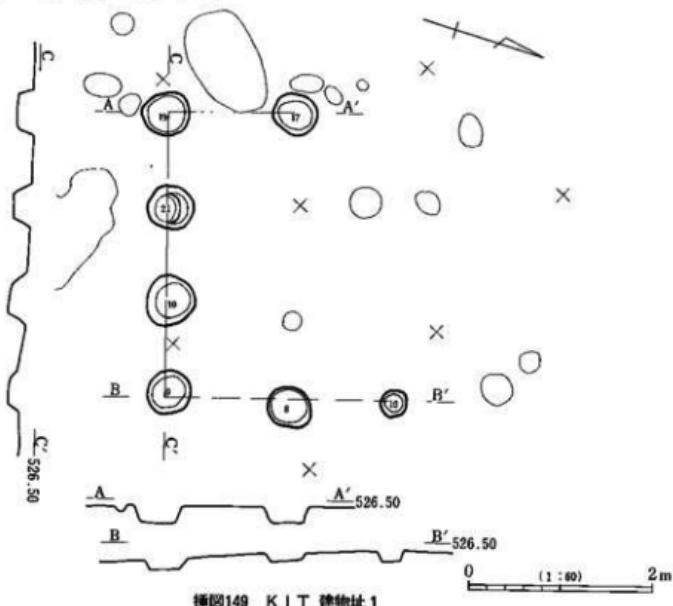
挿図148 K I T 囲溝址 2

#### 4) 建物址・柱穴列

##### 遺構 ① 建物址 1 (挿図149)

第I地区B E38付近で、7個の柱穴がコの字状に並び建物址ととられた。北側の穴は検出できなかった。2×3間と考えられる掘立柱建物址で、桁行3.06m・梁行2.46m、柱間は桁行1.02m・梁行1.24mを測り、桁行方向はN75°Eを示す。柱頭方は円形で、径54~28cm・深さ21~10cmを測る。

出土遺物がなく、時期は不明である。



挿図149 K I T 建物址 1

##### ② 建物址 2 (挿図150)

遺構 第I地区B U39付近で検出した。弥生時代の方形周溝墓2を切る。5×1間の細長い掘立柱建物址で、桁行8.46m・梁行2.24m、柱間は桁行1.69m・梁行2.24mを測り、桁行方向はN41°Eを示す。柱頭方は円形で、径40~14cm・深さ63~25cmを測る。東隅柱のレベルを不注意から測り忘れてしまった。

出土遺物がなく、時期は不明である。

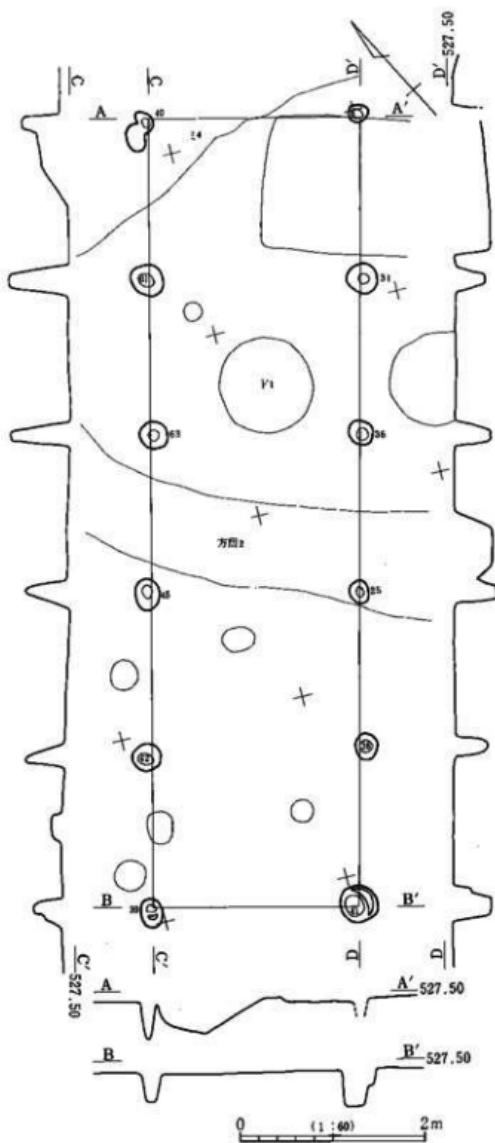
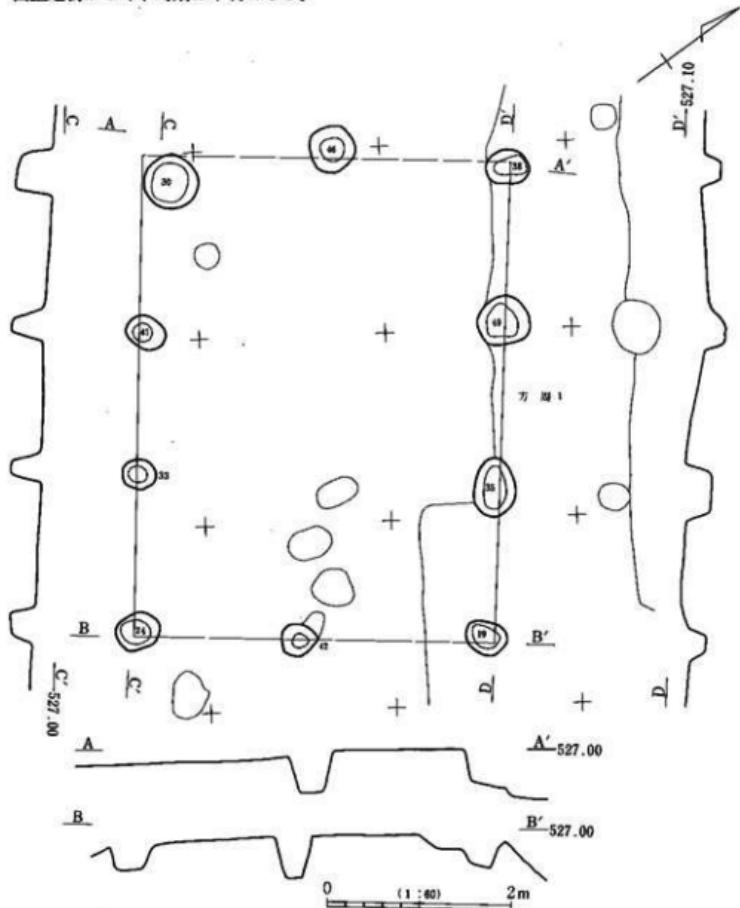


插圖150 KIT 建物社 2

③ 建物址 3 (挿図151)

造構 第I地区B-U29付近で検出した。弥生時代の方形周溝墓1を切る。 $3 \times 2$ 間の掘立柱建物址で、桁行5.16m・梁行3.88m、柱間は桁行1.72m・梁行1.95mを測り、桁行方向はN59°Wを示す。柱掘方は円形もしくは梢円形で、径56~31cm・深さ49~19cmを測る。西隅柱が若干ゆがんだ位置にある。

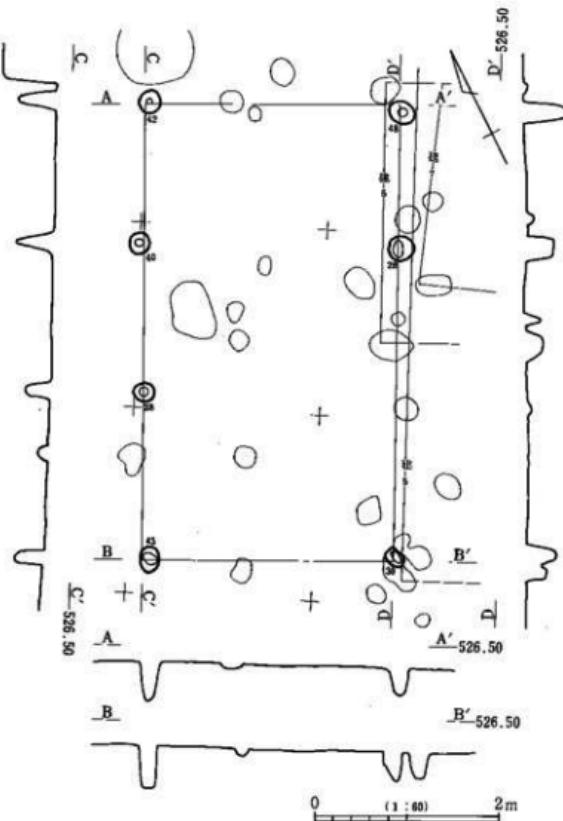
出土遺物がなく、時期は不明である。



挿図151 K I T 建物址 3

④ 建物址4 (挿図152)

遺構 第I地区B E30を中心にして検出した。建物址5・6・7と重複する。  
 3×2間の掘立柱建物址で、  
 柱行4.88m・梁行2.7m、  
 柱間は柱行1.82・1.53m・  
 梁行2.7mを測り、柱行方  
 向はN26°Eを示す。柱壠  
 方は円形で、径27~19cm・  
 深さ48~28cmを測る。南東  
 側の中間柱1本が把握でき  
 なかったが、建物址5の穴  
 がほぼ同じ位置にあり、こ  
 れが本址の穴になる可能性  
 がある。



挿図152 K I T 建物址4

⑤ 建物址5 (挿図153、第115図)

遺構 第I地区B C30を中心にして検出した。建物址4・6・7と重複する。3×2間の掘立柱建物址で、柱行5.28m・梁行3.4m・柱間は一定でなく柱行2.06・1.80・1.42m・梁行1.7mを測り、柱行方向はN27°Eを示す。柱壠方は円形もしくは椭円形で、径29~22cm・深さ62~25cmを測る。本址の内部の北東側に、2.85×1.66mのゆがんだ長方形を呈して、南東側が階段状の壁面をなす穴がある。深さは119cmを測り、覆土は埋められており、焼土と炭を含んでいた。本址と何等かの関連をもつ施設と考えられる。

遺物 西隅の柱穴から砥石(115-4)が出土した。

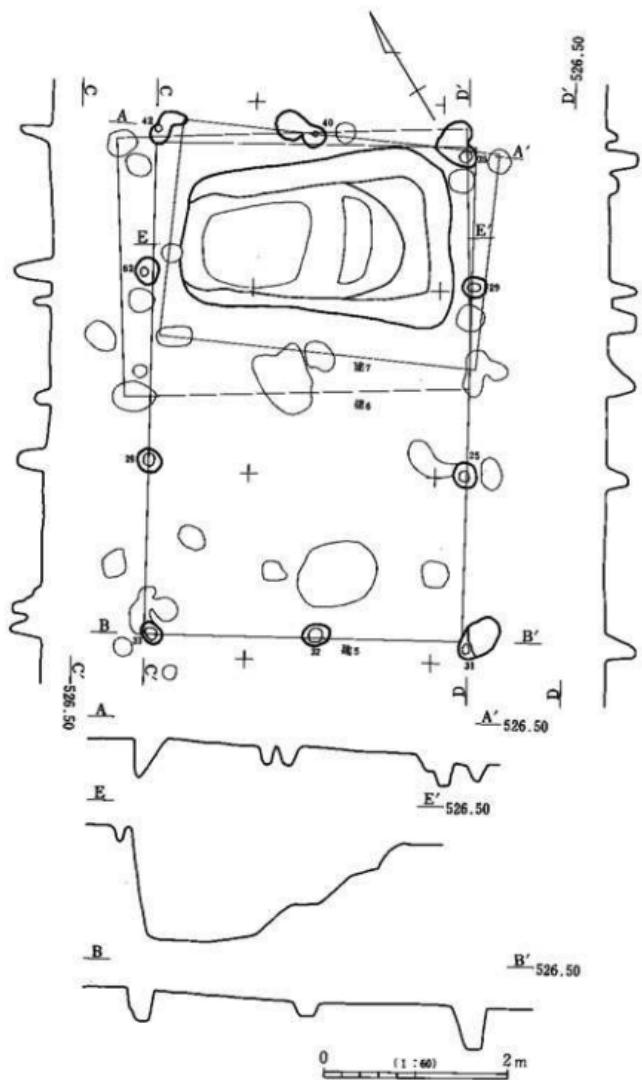


図153 KIT 建物址 5

#### ⑥ 建物址 6 (挿図154)

遺構 第I地区B C31を中心にして検出した。建物址 4・5・7と重複する。2×1間の掘立柱建物址で、桁行3.74m・梁行2.77m、柱間は桁行1.88m・梁行2.77mを測り、桁行方向はN 65° Wを示す。柱壠方は円形もしくは椭円形で、径46~24cm・深さ48~25cmを測る。本址の内部に建物址 5で記述した穴がある。

#### ⑦ 建物址 7 (挿図154)

遺構 第I地区B C31を中心にして検出した。建物址 4・5・6と重複する。2×1間の掘立柱建物址で、桁行3.42m・梁行2.32m、柱間は桁行1.72m・梁行2.32mを測り、桁行方向はN 58° Wを示す。柱壠方は円形もしくは椭円形で、径39~14cm・深さ44~19cmを測る。本址の内部に建物址 5で記述した穴がある。

建物址 4~7は、柱穴の様相に共通する点が多い。ほかにも、周辺に同様な穴が検出され、規則的に並んだものを建物址としてとらえた。よって、把握できなかった建物址が存在する可能性があり、時期を近接させて何度もわたって建て替えられた結果があらわれていると推測される。また、前述の大きな穴も直接に関連すると考えられ、これらを総合的に判断する必要がある。

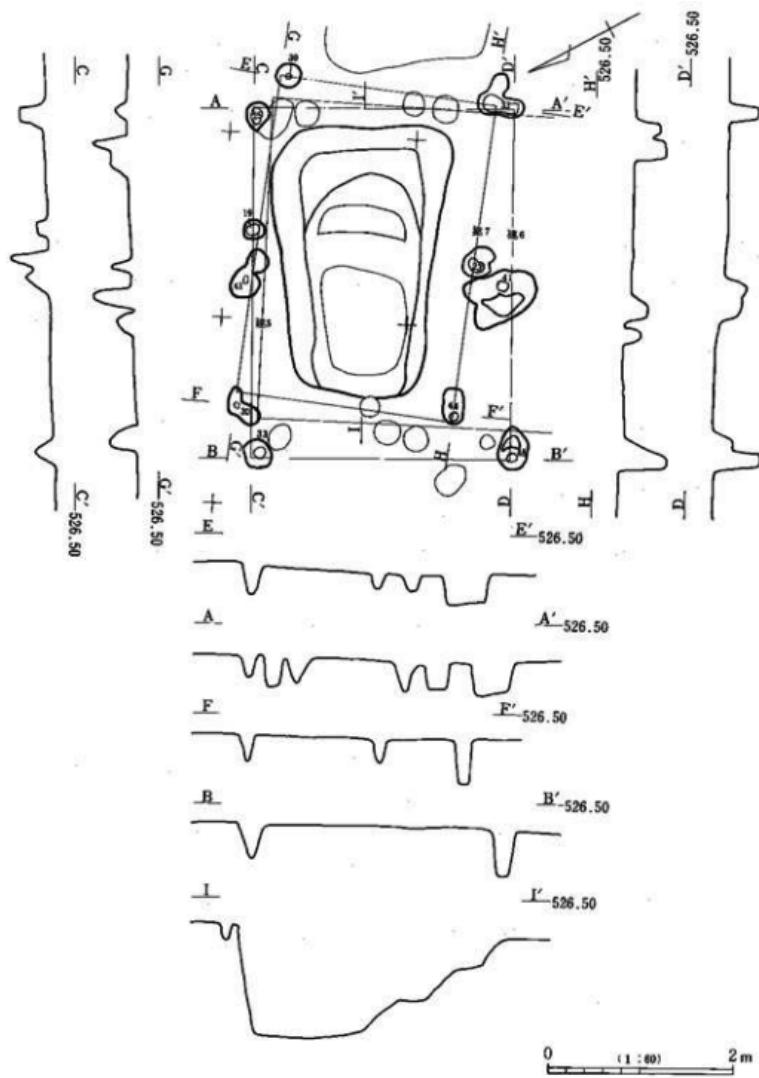
また、本址の北西側にも小柱穴が集中して検出されている。これらも同様な遺構だった可能性がある。

時期は砥石のみでははっきり断定できないが、本址周辺から中世陶器が検出されており、中世に位置づけるのが適切と考えている。

#### ⑧ 柱穴列 1 (挿図155)

遺構 第IV地区E D79付近で6本の柱穴が直列して本址とした。弥生時代の37号・39号住居址を切る。全長は6.15mを測り、方向はN32° Eを示す。柱間は1.48mで、南側2間は0.92mを測る。これから、北側隅と南側の2本目の柱から直角に西の方向に1.92m離れた位置に柱穴があり、本址と同様な覆土であり、付属するものと考えた。柱壠方は円形もしくは椭円形で、径35~31cm・深さ75~13cmを測る。なかに、柱痕が確認できたものがあり、実測図には点線で示しておいた。ほぼ角の柱と考えられる。5×1間の掘立柱建物址で、西側の柱の4本が把握できなかった可能性があるが、検出は容易だったこともあるので、柱穴列としておく。

遺物の出土はなく、所属時期は不明である。



插図154 K I T 建物址 6+7

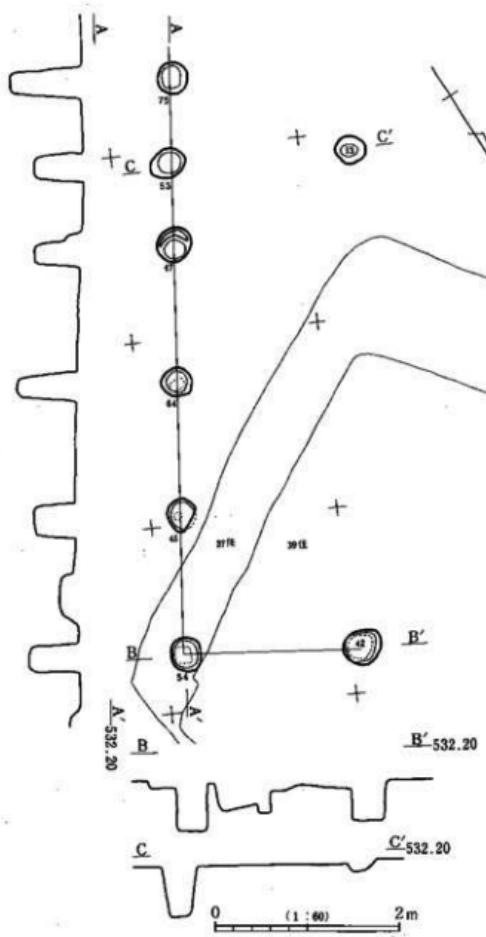


插图155 K I T 柱穴剖面

## 5) 溝 址

### ① 溝址 3 (第83図)

遺構 第II地区東側・北東側で検出した。検出面から砂が入り、自然の川の流路と考えられたうえ、規模が大きかったため、調査費用と調査期間の関係から掘り下げるの調査はしなかった。弥生時代の10号・11号・12号・18号住居址、方形周溝墓5・7・中世の溝址9を切り、近世の溝址8、暗渠1に切られる。溝の幅は約10~6mである。昭和61年度町道調査の溝址3に連続するとの把握から名称を統一したが、その間に長い未調査部が存在するため、別の遺構である可能性も残されている。

遺物 いずれも検出面からの遺物であり、弥生土器28点、須恵器1点、灰釉陶器鉢1点、山茶碗1点・小皿1点、常滑窯1点、石器1点、鉄滓1点等があり、山茶碗小皿(83-12)が図示できた。

出土遺物と切り合い関係から中世に位置づけられる。

### ② 溝址 4 (押図156)

遺構 第I地区北東側で検出した。弥生時代の方形周溝墓2を切る。調査延長は約32mで、両側に延長する。若干蛇行するがほぼ直線的にN82°Wの方向を示す。幅250~40cm・深さ40~8cmを測り、断面形は不定形である。覆土は砂が主体となり、細かい堆積をなしている。遺構の状況から自然の川の流路であり、西から東へ流れたものである。

遺物 覆土中から、繩文土器47点、弥生土器30点、須恵器壺17点・蓋2点・坏5点、山茶碗2点、常滑窯1点、すり鉢1点、石器8点等が出土したが、時期を示すもので図化できるものはない。

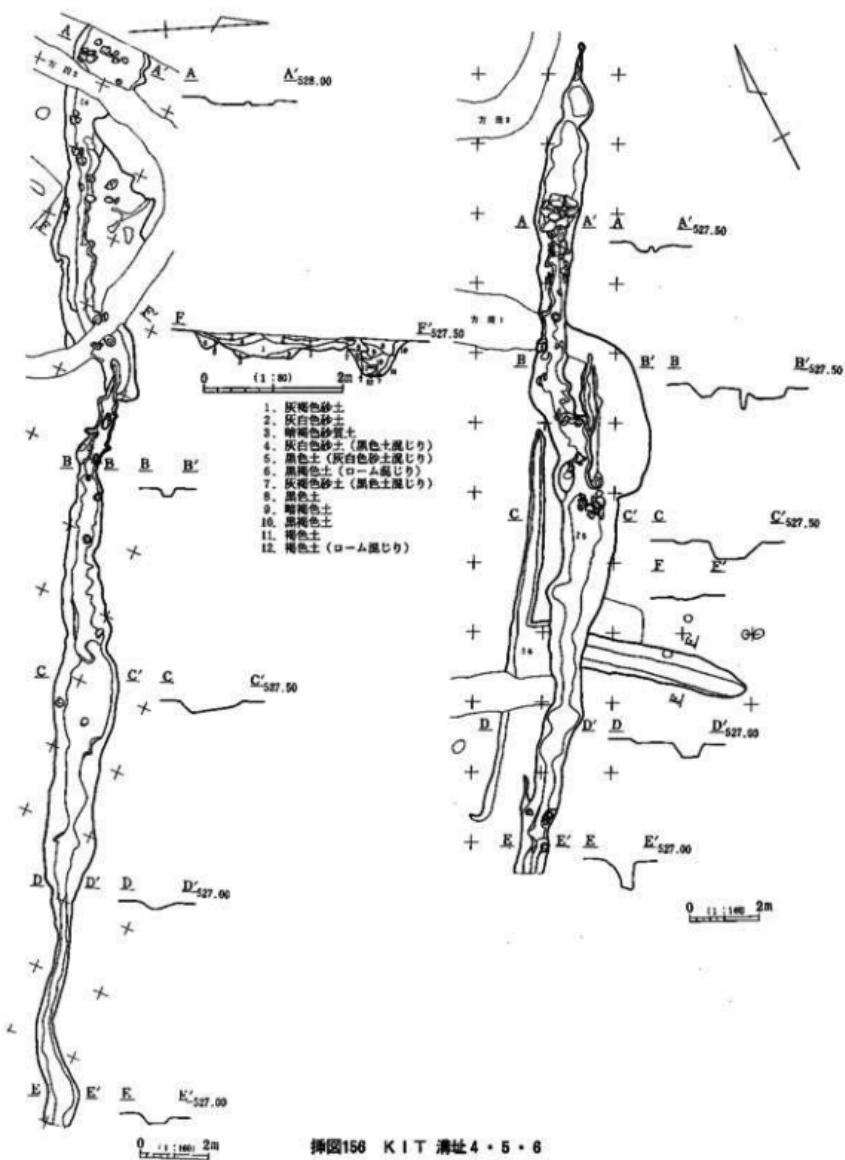
出土遺物から中世に位置づけられる。

### ③ 溝址 5 (押図156、第83図)

遺構 第I地区北西側で検出した。弥生時代の方形周溝墓1を切る。調査延長は約24mで、両側に延長する。若干蛇行するがほぼ直線的にN31°Eの方向を示す。幅160~70cm・深さ66~20cmを測り、断面形は不定形である。覆土は砂が主体となり、細かい堆積をなしている。遺構の状況から自然の川の流路であり、北から南へ流れたものである。

遺物 覆土中から、繩文土器10点、須恵器壺2点、天目茶碗2点、内耳1点、瓦器1点、鉄滓2点、石器7点等が出土した、天目茶碗2点(83-13・14)が図示できた。

出土遺物から中世に位置づけられる。



擇図156 K I T 清址 4・5・6

④ 溝址 6 (挿図156)

遺構 第I地区北西側で検出した。弥生時代の方形周溝墓1を切る。調査延長は約12mで、南側は検出できなくなる。ほぼ直線的にN32°Eの方向を示し、幅60~30cm・深さ20~6cmを測り、断面形は逆台形をなす。覆土暗青灰土のほぼ一層で、耕土に近い色である。

遺物 覆土中から、須恵器蓋1点、近世陶器1点、石器1点が出土したが、時期を示すもので図化できるものはない。

出土遺物から近世以降に位置づけられる。

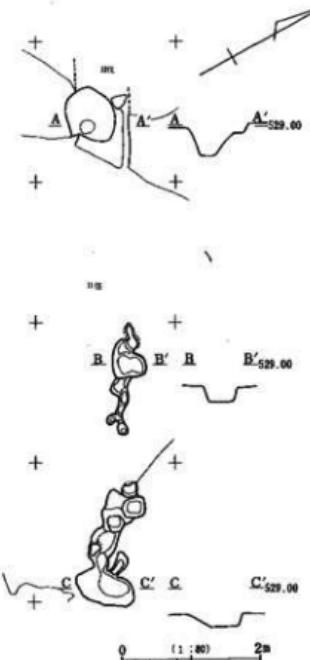
⑤ 溝址 7 (挿図157)

遺構 第II地区東側で検出した。弥生時代の11号・12号住居址を切り、中世の溝址3に切られる。調査延長は7.4mである。11号・12号住居址覆土中にも本址は存在したが、同時に掘り下げたために床面下に存在する部分のみの把握となつた。N

64°Wの方向を示し、幅76~26cm・深さ74~4cmを測り、断面形は不定形である。覆土は砂が主体となり、底部でえぐれる箇所が多い。遺構の状況から自然の川の流路であり、北から南へ流れたものである。

遺物 底部を主体として、縄文土器19点、弥生土器21点、須恵器壺3点、灰釉陶器瓶子1点・山茶碗1点、石器2点等が出土したが、時期を示すもので図化できるものはない。

出土遺物から切り合い関係から中世に位置づけられる。



挿図157 KIT 溝址7

⑥ 溝址 8 (挿図158、第83・120図)

遺構 第II地区中央やや南東側で検出した。縄文時代の土坑42、弥生時代の12号・21号住居址、方形周溝墓7・8、中世の溝址3を切る。調査延長は約30mで、両側に延長する。若干蛇行するがほぼ直線的にN35°Eの方向を示す。幅200~50cm・深さ74~19cmを測り、断面形は不定形である。覆土は砂が主体となり、細かい堆積をなしている。遺構の状況から自然の川の流路であり、北から南へ流れたものである。

遺物 覆土中から出土した。縄文・弥生土器多数のほか、山茶碗鉢(83-15・16)、茶碗(83-

17~19)、鉄軸皿(83-20~22)、志野皿(83-23)、鉄器(120-2・3)等がある。

出土遺物から近世に位置づけられる。

#### ⑦ 溝址9(挿図159図)

遺構 第II地区中央部で検出した。縄文時代の12号・25号住居址、弥生時代の方形周溝墓3・4を切り、中世の溝址3に切られる。調査延長は約41mで、両側に延長する。D R 41付近から南西方向へ約23m続き、D T 31ではほぼ直角に曲がって南東方向に約18m調査した。前者の方向はN43°E、後者はN24°Wを示す。幅は200~130cm・深さ99~34cmを測り、断面形は緩やかな台形をなし、底部はえぐれる。底に水が流れているが、方向や幅等規格性が認められ、人為的に掘られた溝址で、なんらかの区画ためのものと考えられる。

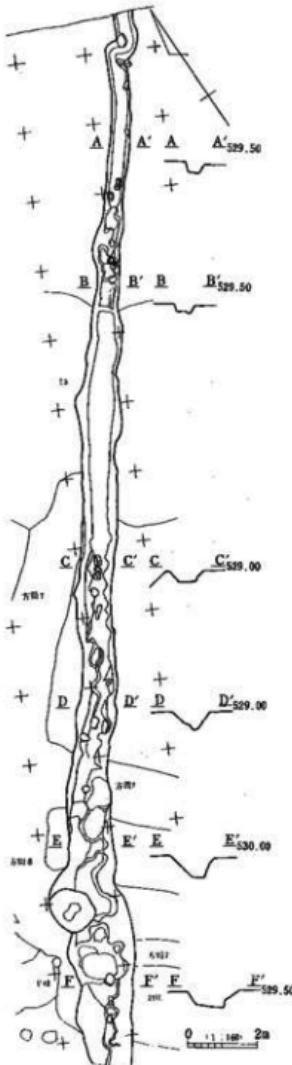
遺物 覆土中から出土した。縄文・弥生土器多数のほか、須恵器壺1点、灰釉陶器碗1点、山茶碗鉢1点、常滑窯6点、こね鉢1点等があるが、時期を示すもので図化できるものはない。

出土遺物から中世に位置づけられる。

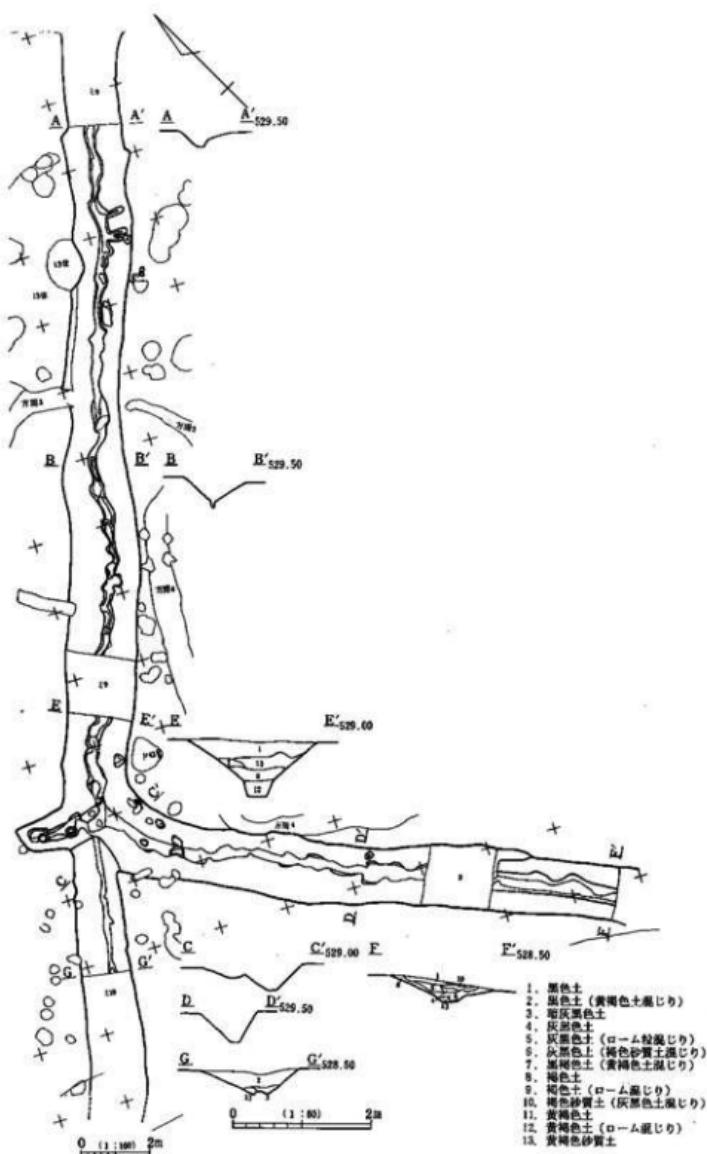
#### ⑧ 溝址10(挿図159図)

遺構 第II地区中央部西側で検出した。調査延長は約8mで、南西側に延長する。方向はN36°Eを示す。幅は70~60cm・深さ36~17cmを測り、断面形は緩やかな台形をなし、底部が狭くなる。溝址9の北東側の溝と方向が同じであり、当初は溝址9が直線的に掘っていたものを、直角に作り替えたため、本址が残ったものと考えられる。

出土遺物はないが、溝址9との関連から中世に位置づけられる。



挿図158 K I T 溝址8



捜図159 KIT 溝址 9・10

⑨ 溝址11

遺構 第II地区中央部北側の未調査部にかかるて検出した。近世の溝址8に切られ、溝状造構1・2を切る。検出面から砂があり、かつ大部分が調査範囲からはずれるため掘り下げなかった。自然の川の流路と考えられる。

出土遺物はない。

⑩ 溝址12（挿図161、第120）

遺構 第IV地区東側で検出した。弥生時代の36号住居址を切り、中世の40号住居址に切られる。調査延長は約19mで、北側でとぎれ、南側は延長する。ほぼ直線的にN25°Wの方向を示す。幅136～100cm・深さ107～32cmを測り、断面形は逆台形で底部がえぐれる。覆土は黒褐色土が主体で、底に砂が認められた。底部に水が流れているが、規格性のある形態からみて人為的なもので、区画用と考えられる。

遺物 覆土中から出土した。縄文・弥生土器多数のほか、常滑窯1点、青磁碗1点、鉄器2点（120-4・5）等がある。

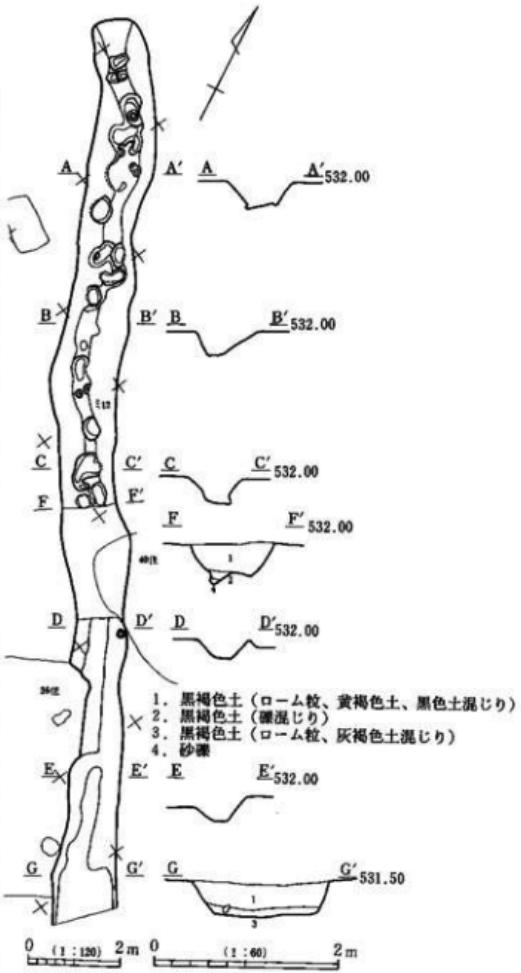
出土遺物から中世に位置づけられる。

⑪ 溝址13（挿図162、第83図）

遺構 第IV地区南西側で検出した。調査延長は約19mで、両側に延長する。若干蛇行するがほぼ直線的にN37°Wの方向を示す。幅310～72cm・深さ71～14cmを測り、緩やかな壁面をなして底部がえぐれる。覆土は黒褐色土が主体となり、砂が混じっている。遺構の状況から自然の川の流路である可能性が強い。

遺物 弥生土器がほとんどであり、壺底部（83-11）が図化できた。

出土遺物からみれば弥生時代後期の可能性が高いが、断定はできない。



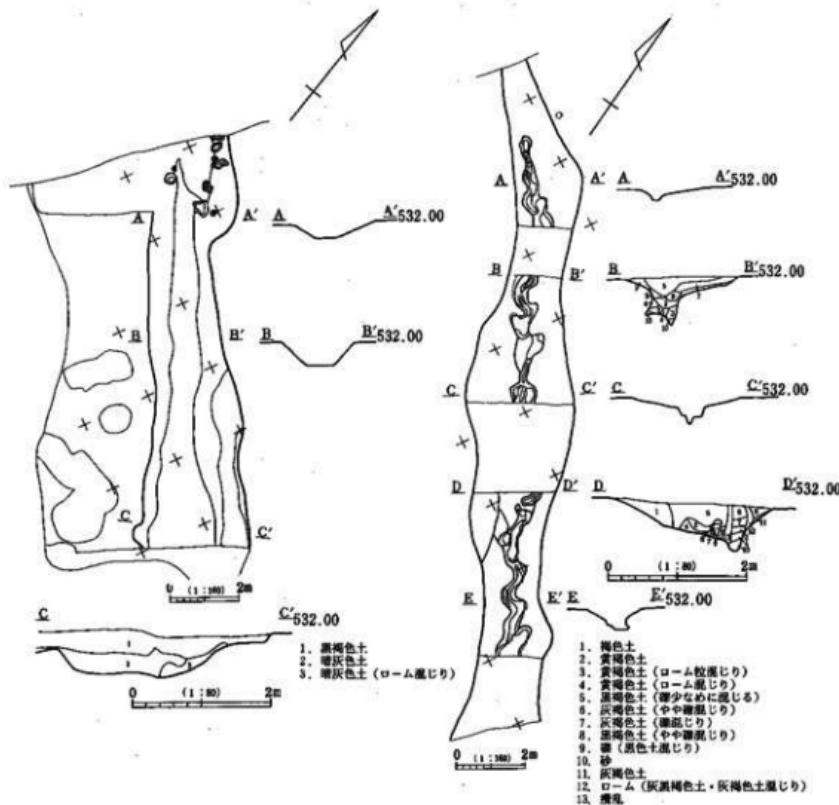
挿図161 K I T 溝址12

⑫ 溝址14（挿図162、第83・120図）

遺構 第IV地区南西端で検出した。弥生時代の41号住居址を切る。調査延長は約11.6mで、両端に延長する。ほぼ直線的に N38° W の方向を示す。幅300~170cm・深さ62~30cmを測り、断面形は逆台形を呈し、東側で段をもつ。覆土は暗灰色土が主体となる。底部に少し水が流れているが、規格性のある形態から人為的に掘られたものである。

遺物 覆土中から、繩文土器4点、弥生土器22点、須恵器壺1点（83-24）・甕1点、灰釉陶器瓶1点、山茶碗碗1点（83-25）、常滑甕1点、鉄器釘（120-6）、鉄滓（120-7）等が出土した。

出土遺物から中世に位置づけられる。

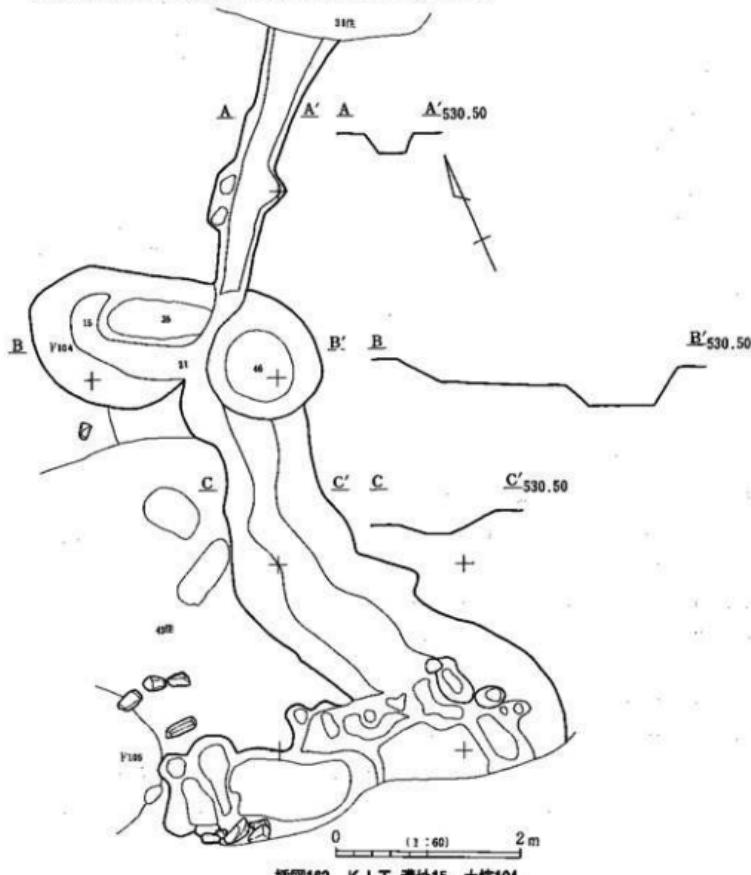


挿図162 K1T 溝址13・14

⑬ 溝址15（挿図163）

遺構 第III地区中央部で検出した。縄文時代の15号住居址・土坑104を切り、中世の31号住居址に切られる。調査延長は約9mで、31号住居址の南側から4m程続き、そこから緩やかに南に曲がって続いている。42号住居址の南側では底部が不規則で、西側に2.4m突出している。幅140～36cm・深さ70～14cmを測り、断面形は逆台形をなす。覆土は砂が主体となる。遺構の状況から自然の川の流路であり、北から南へ流れたものであり、第II地区で検出した溝址11に続いている可能性が高い。

遺物は縄文土器が2点出土したが、流れ込み遺物である。

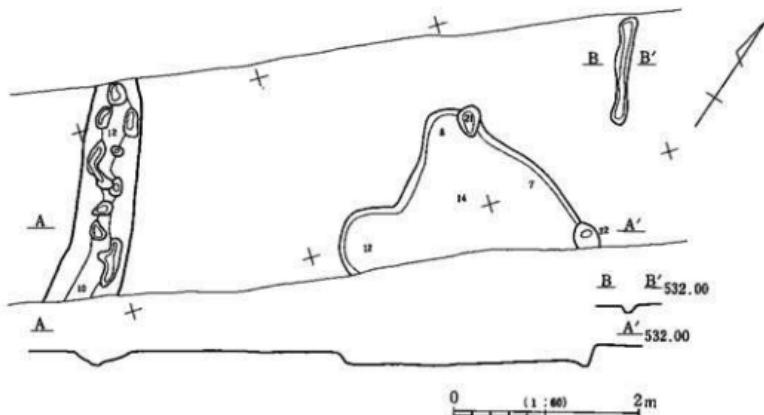


挿図163 K I T 溝址15、土坑104

⑭ 溝址16（挿図164）

造構 第IV地区東側に設定した2.4mのトレンチにかかるて検出した。調査延長は2.3mで、両側に延長する。幅64～44cm・深さ21～9cmを測り、断面形は逆台形をなして、底部は水流による小穴が認められる。覆土は砂が主体となる。造構の状況から自然の川の流路であり、北から南へ流れたものである。

出土遺物はなく、時期は不明である。



挿図164 KIT 溝址16

⑮ 溝状造構1・2（挿図165）

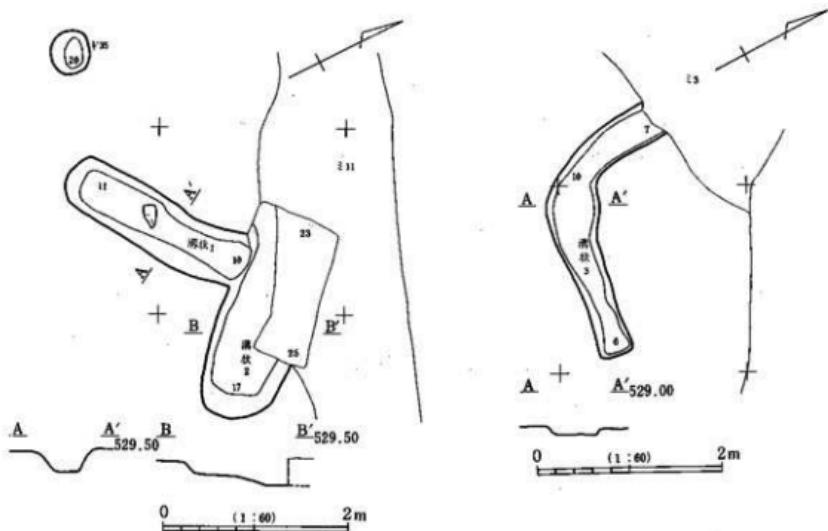
造構 第II地区D K43付近で検出し、溝址11に切られる。西側を1・南側を2としたが、土層が同一であり方向も直角となり、関連すると考えられるので一緒に記述する。溝状造構1は調査延長2.2m・幅61～57cm・深さ10cm前後を測り、南西側がとぎれる。溝状造構2は調査延長2.0m・幅90cm前後・深さ17～9cmを測り、南東側がとぎれる。断面形はいずれも逆台形をなす。

出土遺物はなく、時期・性格とも不明である。

⑯ 溝状造構3（挿図165）

造構 第II地区C X40付近で検出し、溝址3に切られる。ほぼ直角に曲がる溝状造構で、調査延長3.1m・幅58～31cm・深さ10～6cmを測り、東側がとぎれる。断面形は逆台形をなす。覆土は黒色土の一層である。土層からやや新しい感じを受け全体が調査できないので溝状造構としたが、方形周溝墓の周溝である可能性がある。

出土遺物はない。



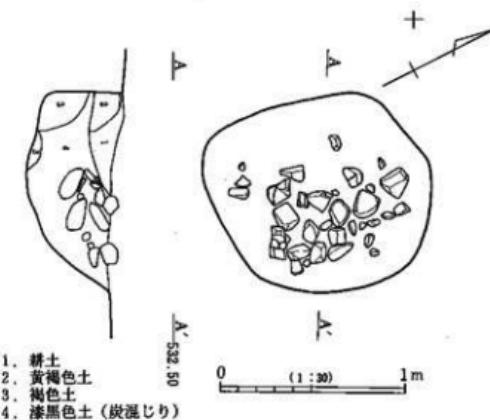
挿図165 K I T 溝状造構 1・2・3

## 6) 集石炉

### ① 集石炉 1 (挿図166)

遺構 第IV地区 E H83で検出した。123×105cmの楕円形を呈し、上層に15～4cmの石が集まっている。その下には細かい炭を含む漆黒色土となり、石は上層を主体とする。断面形は椀状を呈して深さ50cmを測り、北西側が急な立ち上がりをなす。

出土遺物がなく、時期は不明である。

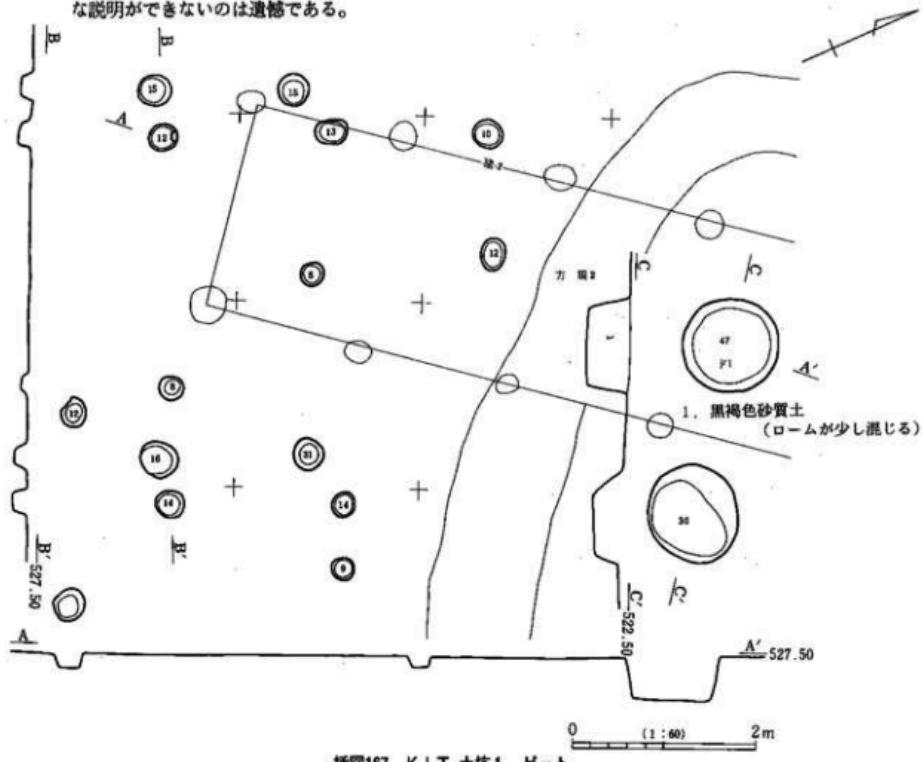


挿図166 K I T 集石炉 1

## 7) 土 坑

垣外遺跡で土坑としたものは108を数える。遺物が出土した形の整ったものを土坑ととらえたため、ほかにも土坑とすべき大きな穴がある。遺構図（挿図102・108・123・133・163・167～189）は全てを掲載し、説明は省略して一覧表で示す。遺物（第84～94・115～121図）は土坑の時期を示すものは掲載したが、明らかにまぎれこみと判断できたものは省略した。

分布をみると第I・II地区に多く、極端な集中箇所は第III地区北西側にあるだけで、ほかは全体に散布しているが、縄文時代のものは第II地区北西側が多い。時期は縄文時代と中世が主体で、平安時代のものが2基だけみられた。中世は第III地区の集中箇所の大半が当る。形態は様々である。縄文時代は土器を伴うものがあり、増田遺跡ではみられなかったタイプである。性格は不明なものが多いが、一様でない状態からして様々な用途があったと考えられる。個々について十分な説明ができないのは遺憾である。



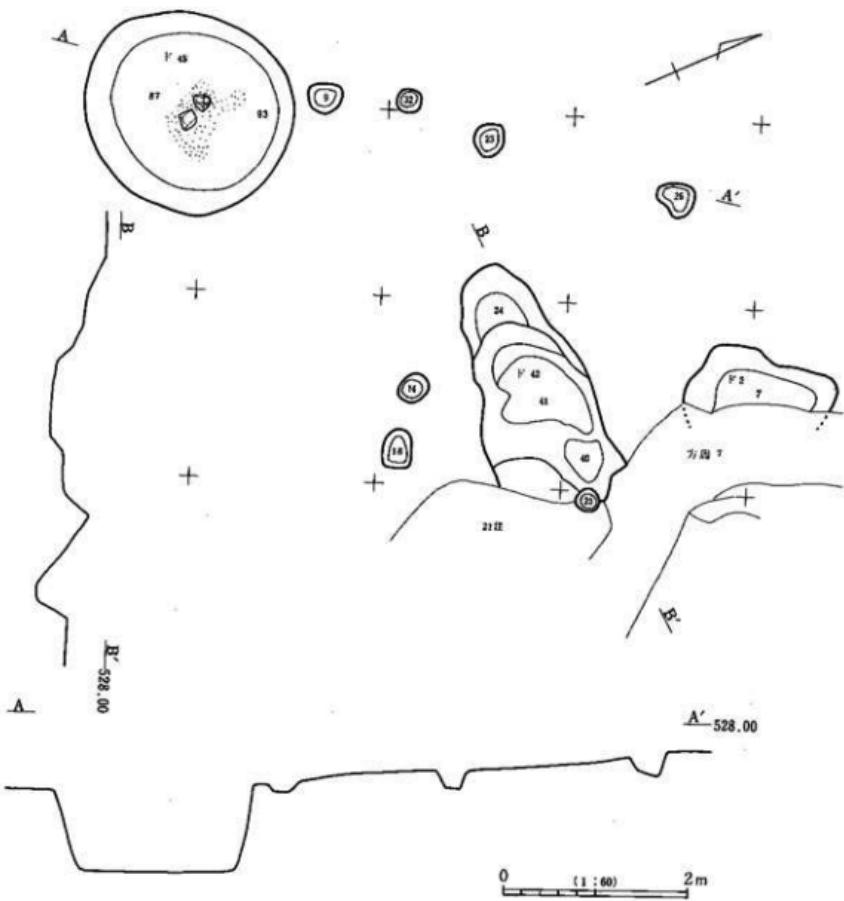
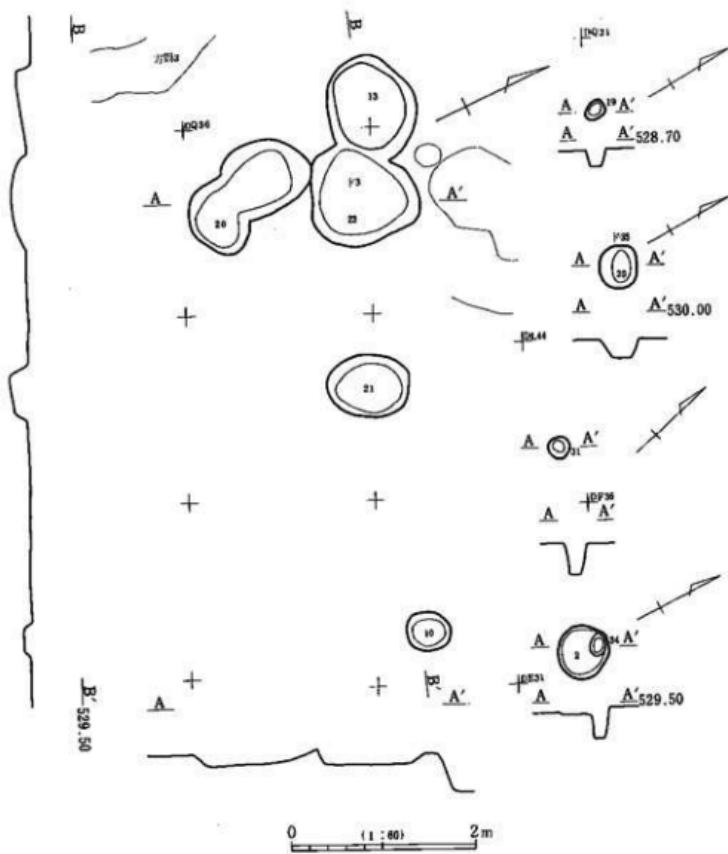


图 188 K I T 土坑 2 • 42 • 45



擇図169 K I T 土坑3・35

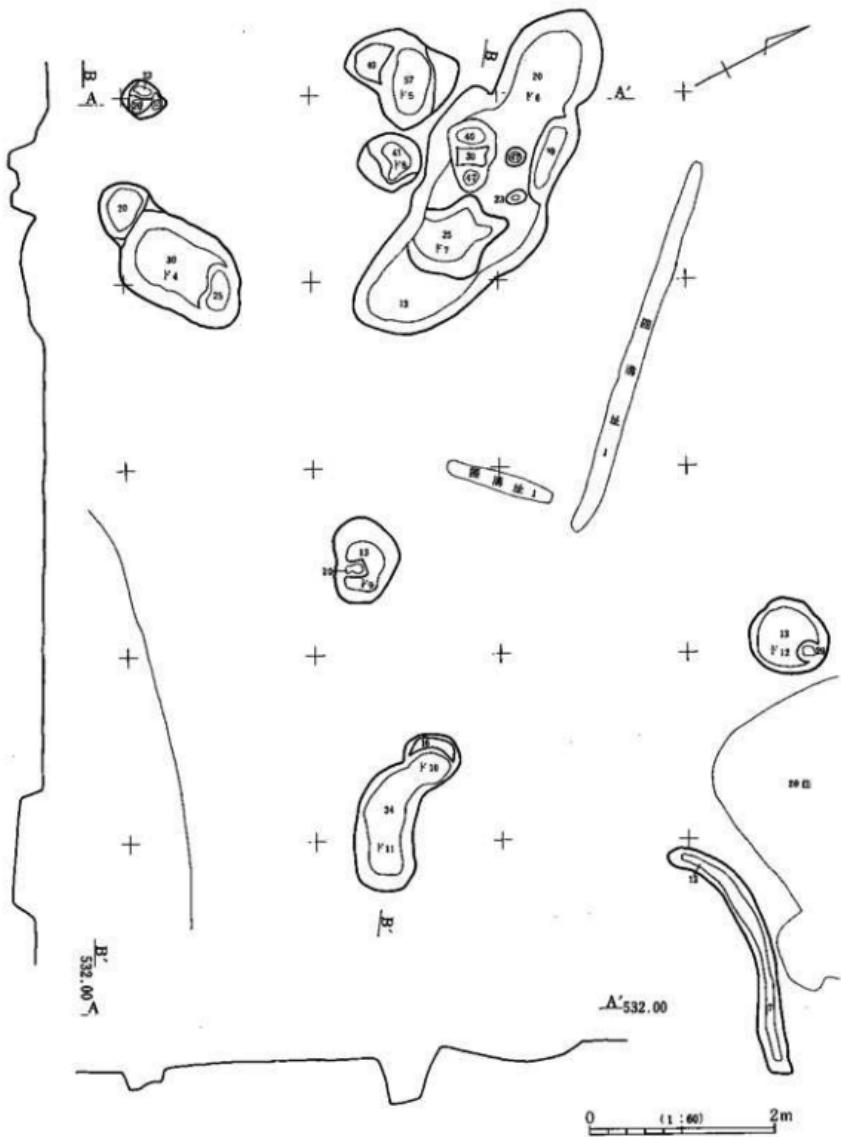


插圖170 K I T 土坑4・5・6・7・8・9・10・11・12

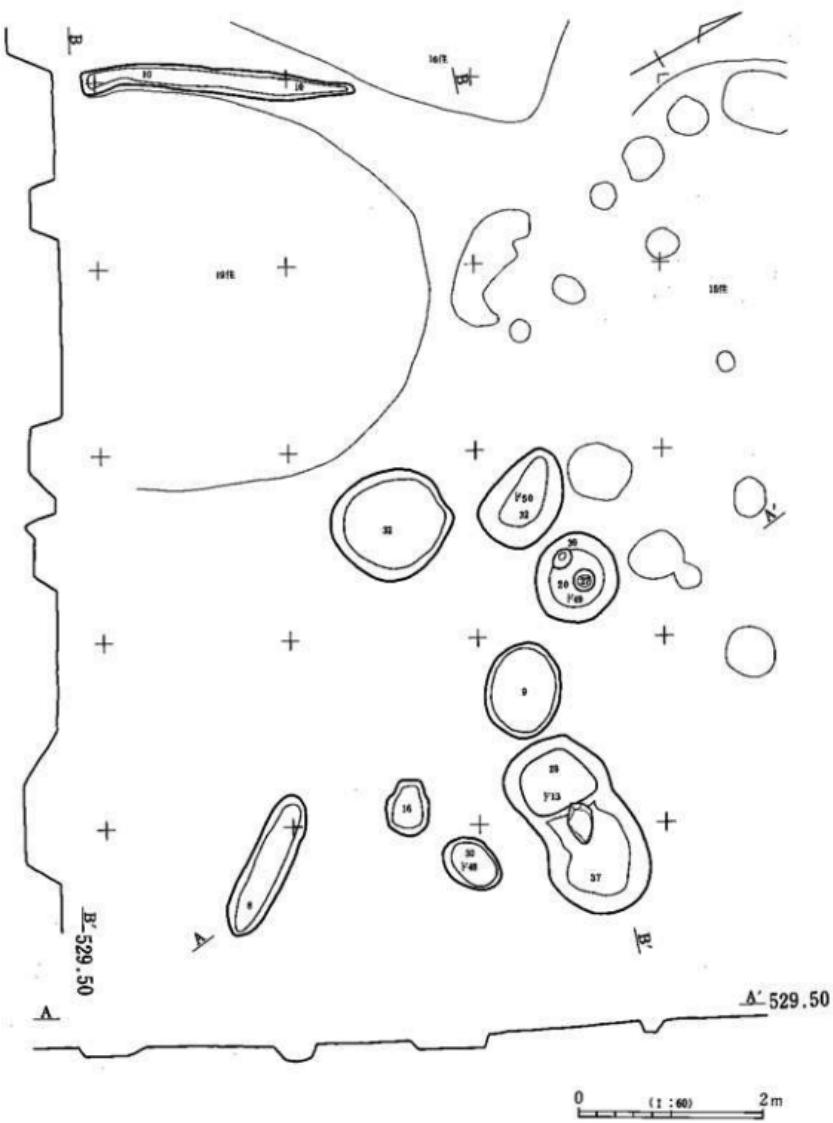
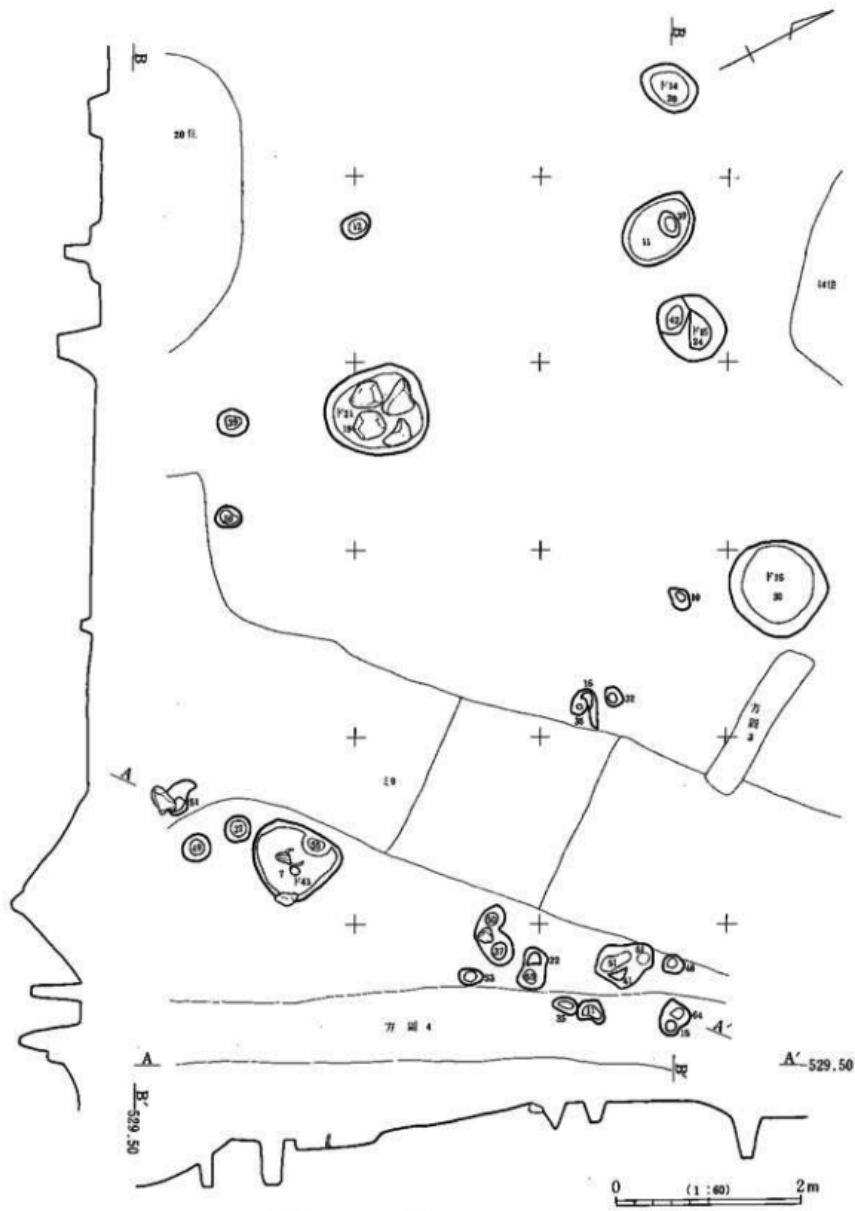
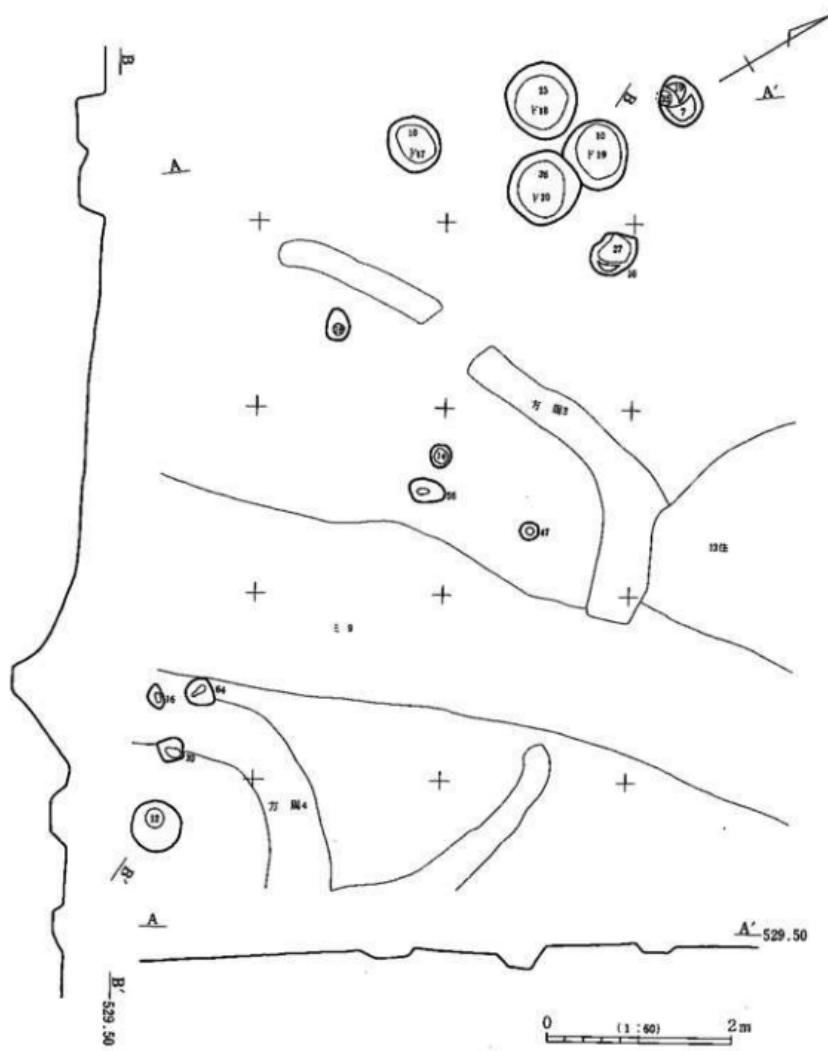
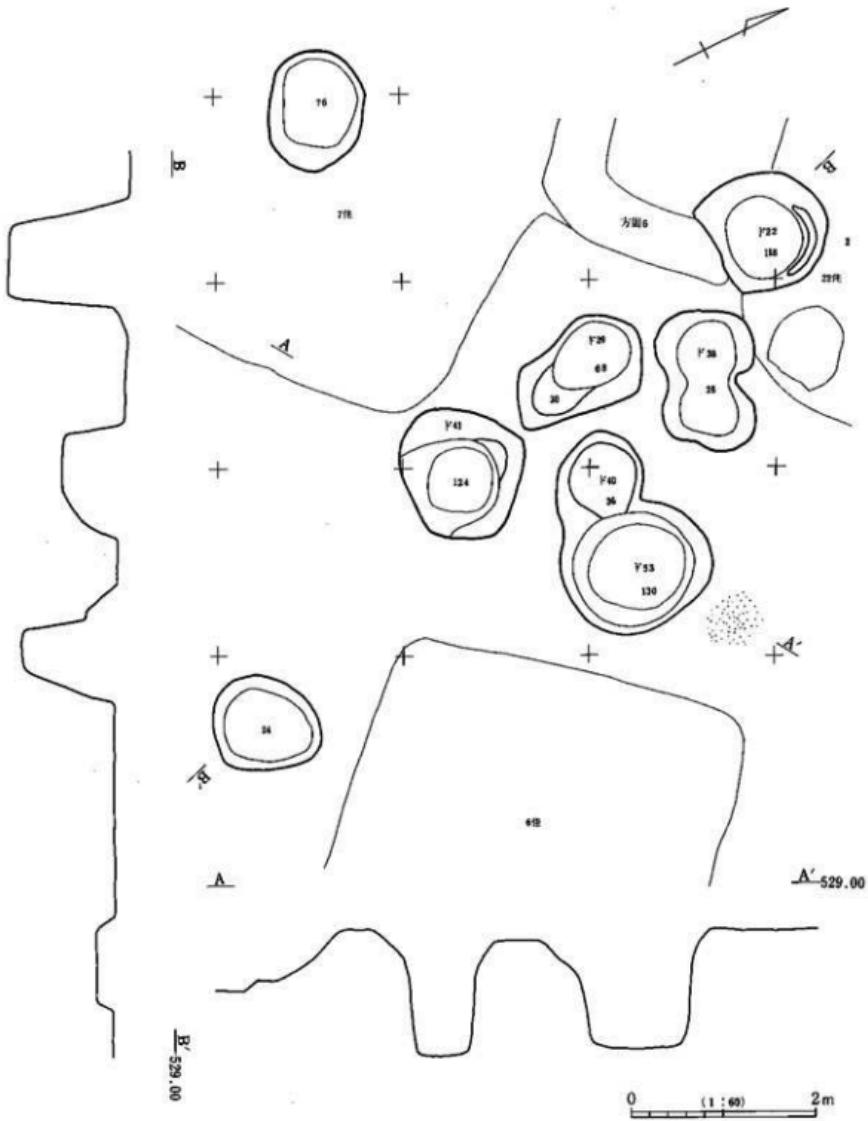


插圖171 KIT 土坑13・48・49・50

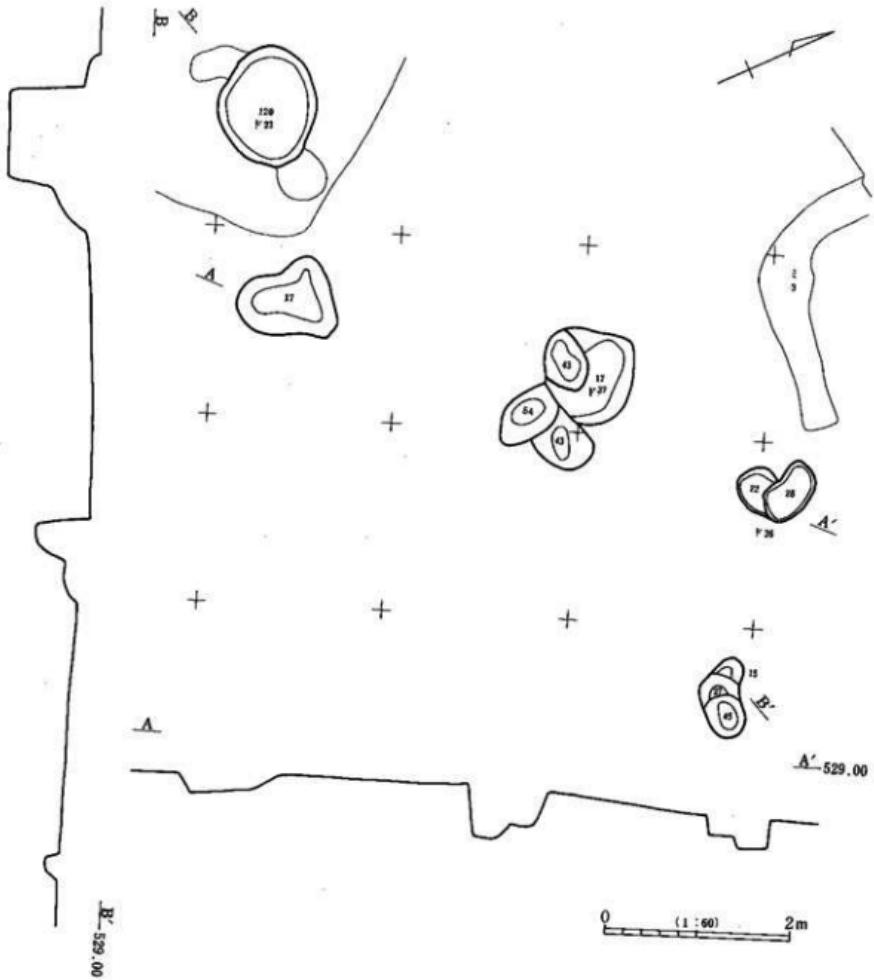




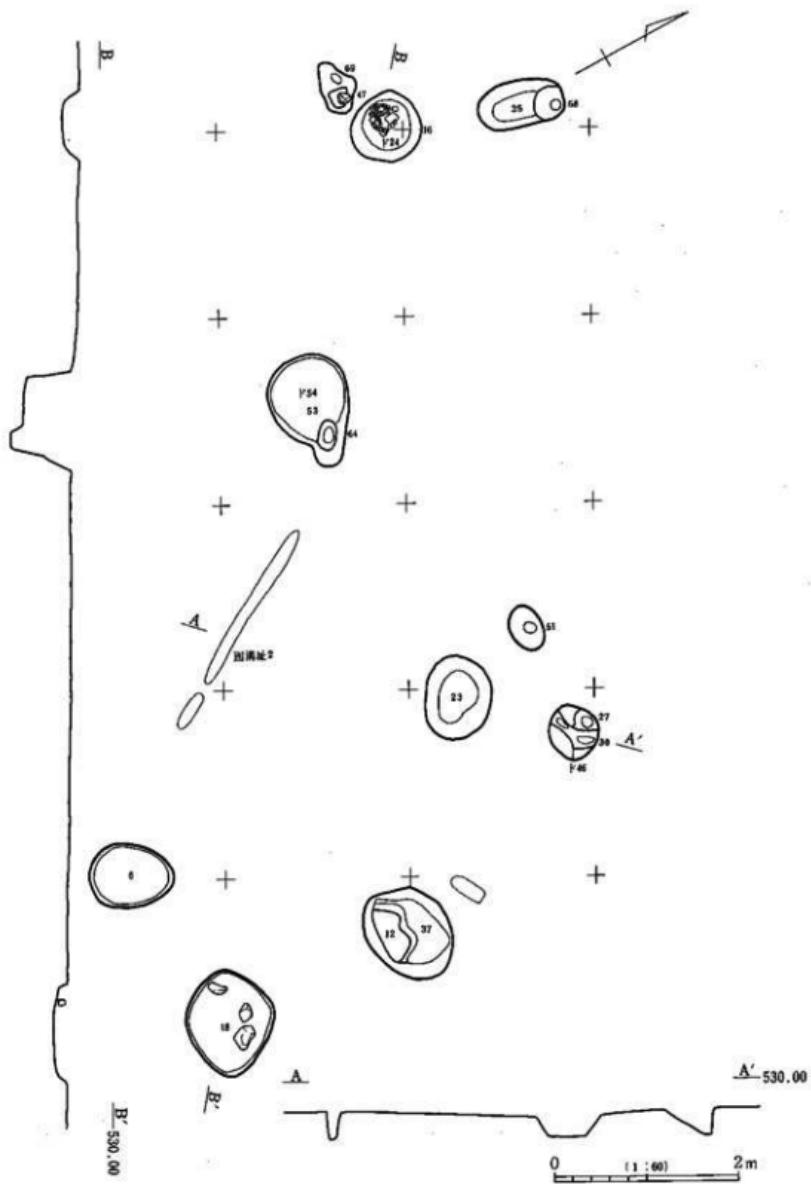
擇図173 K I T 土坑17・18・19・20・23



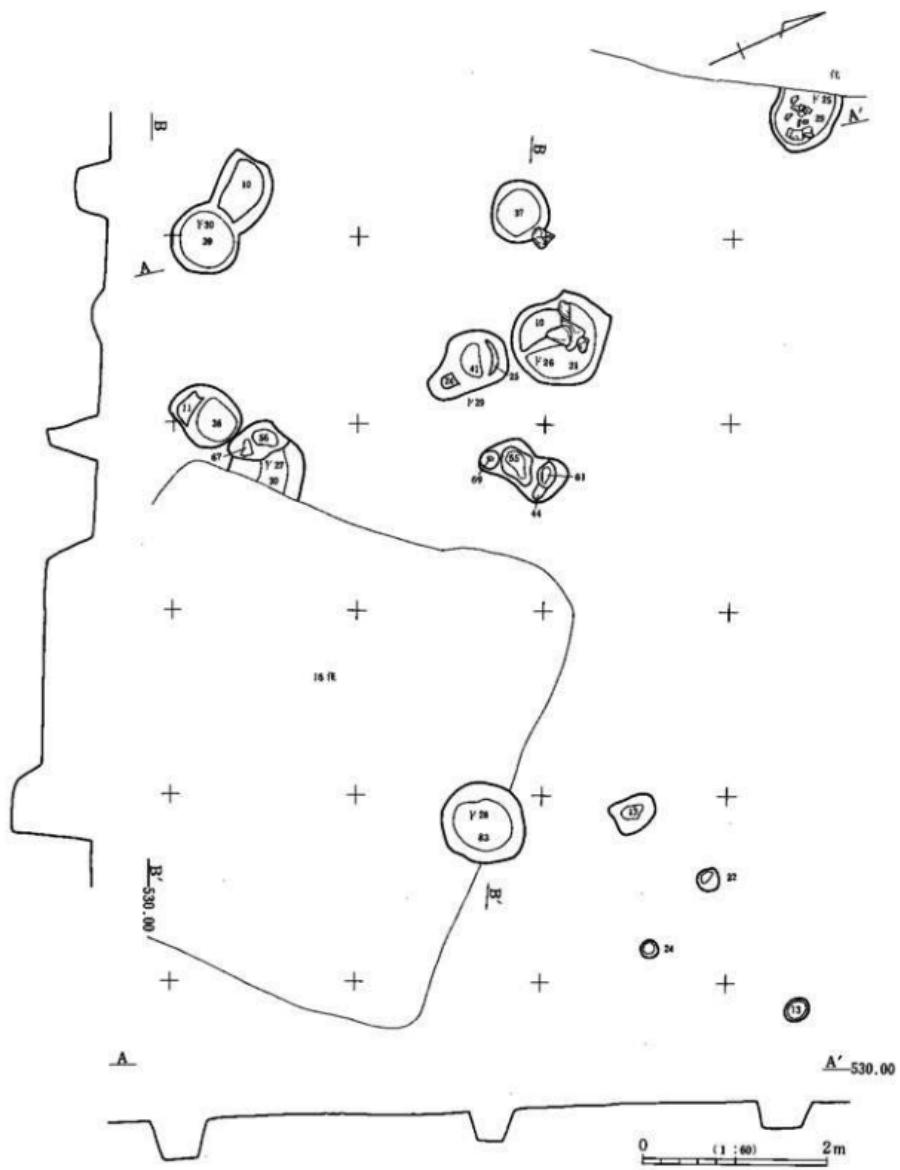
插図174 K I T 土坑22・38・39・40・41・53



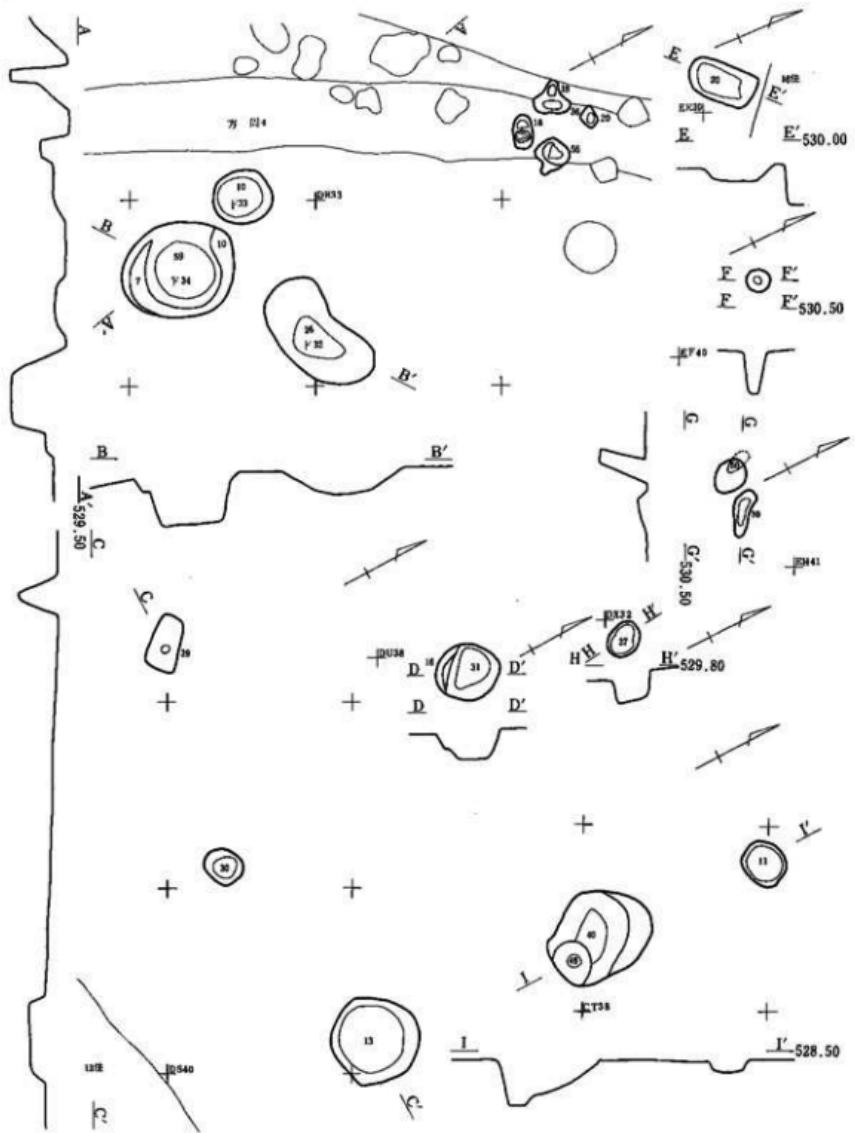
擇圖175 KIT 土坑23・36・37



攝圖176 KIT 土坑24・46・54

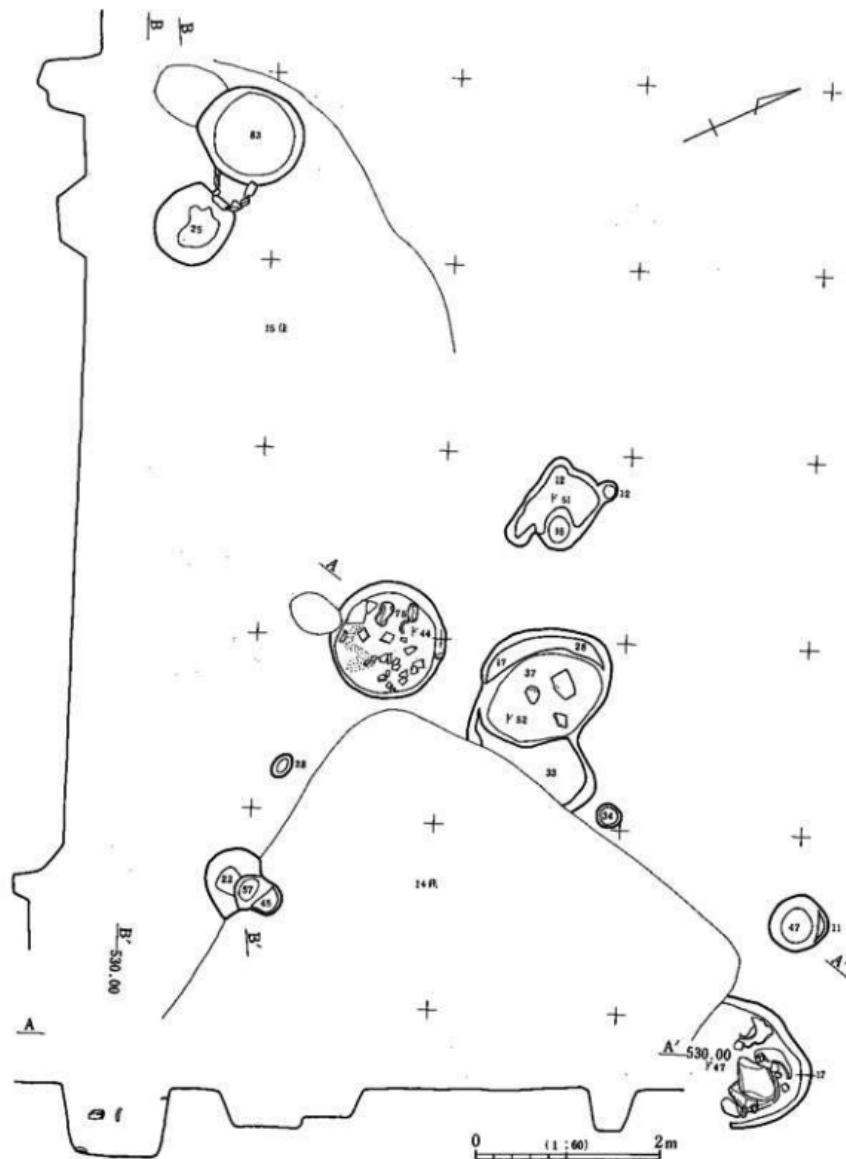


擇圖177 KIT 土坑25・26・27・28・29・30

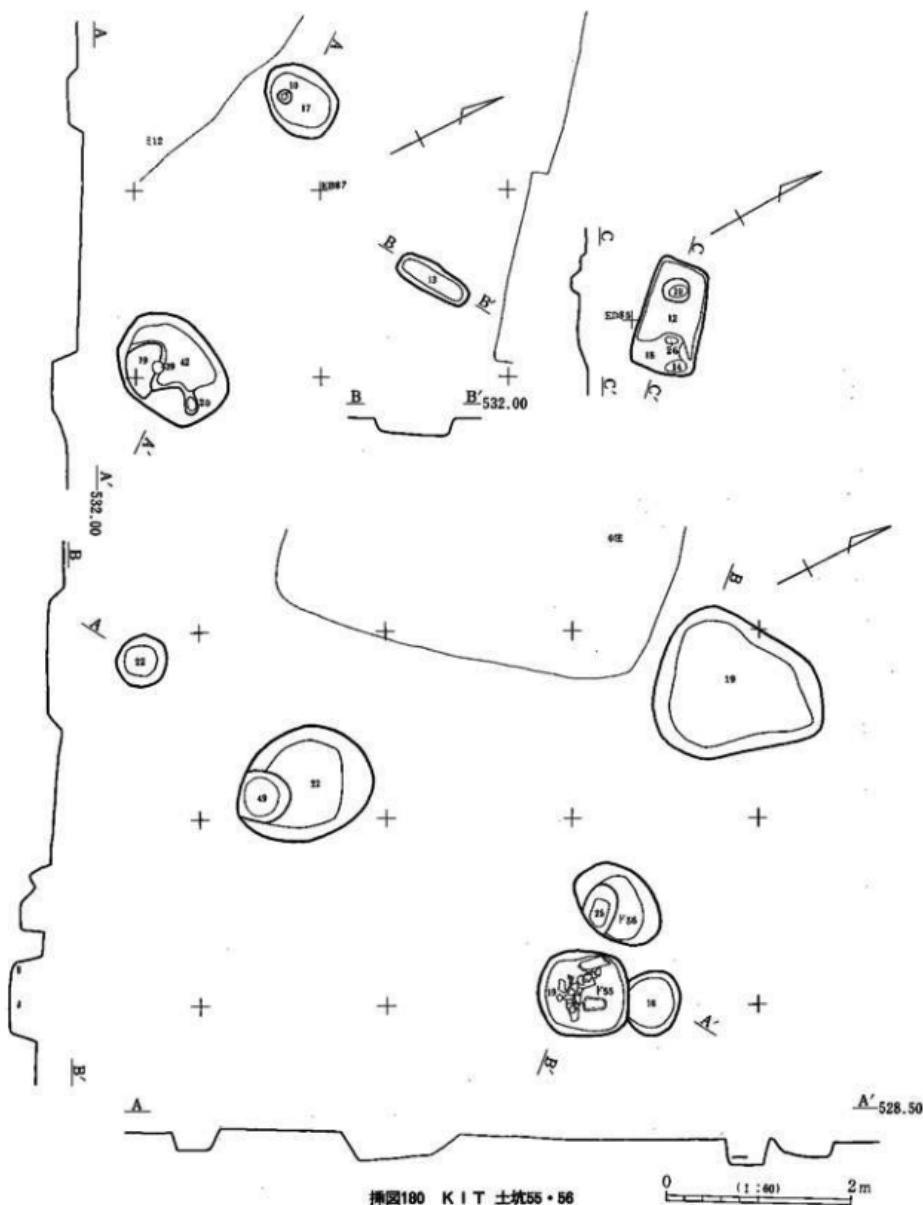


擲図178 KIT 土坑32・33・34

0 (1 : 60) 2 m



擲図179 K I T 土坑44・47・51・52



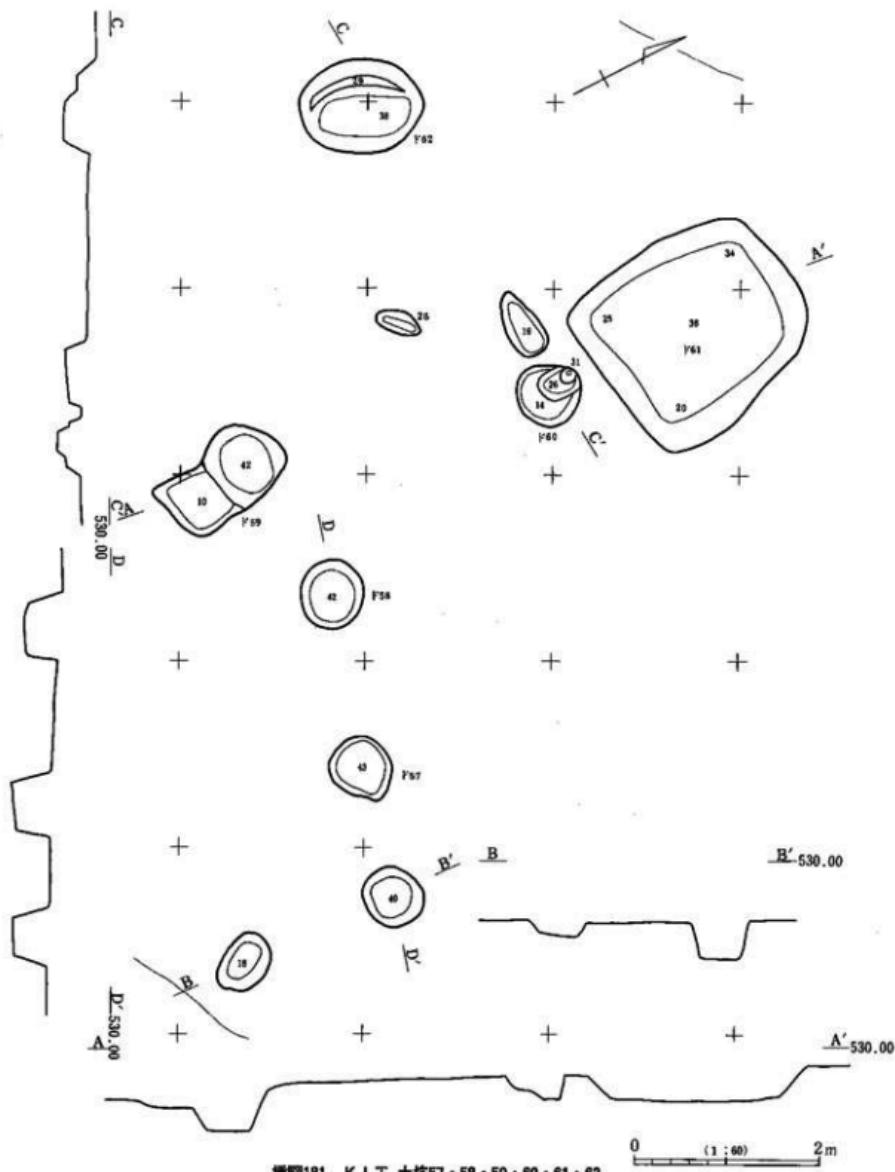


圖181 KITT 土坑 57·58·59·60·61·62

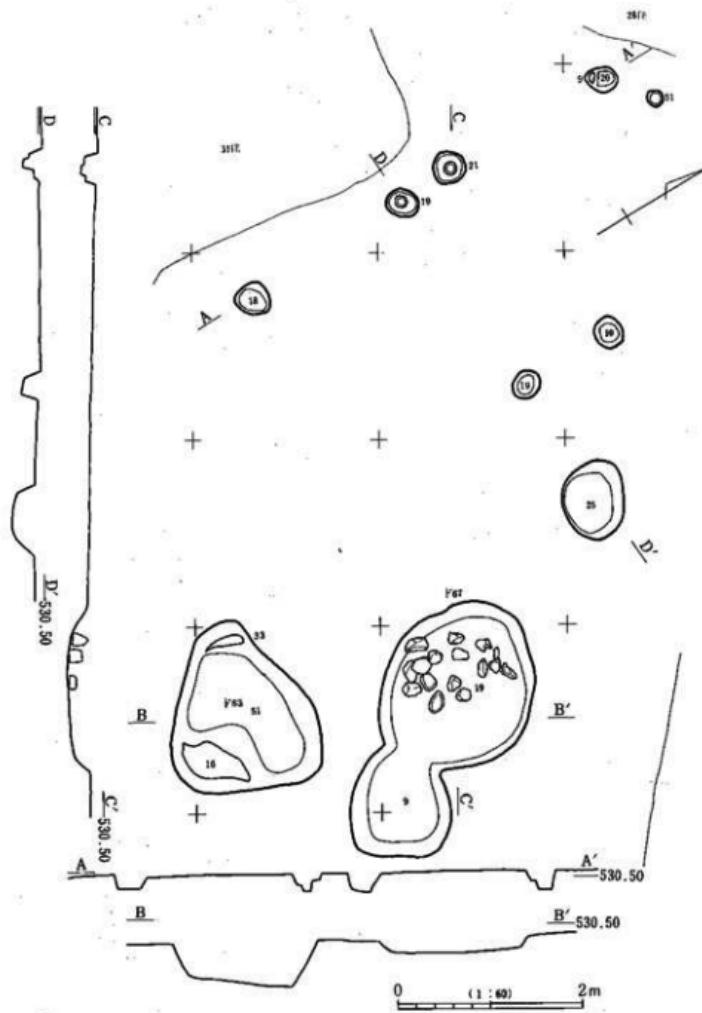
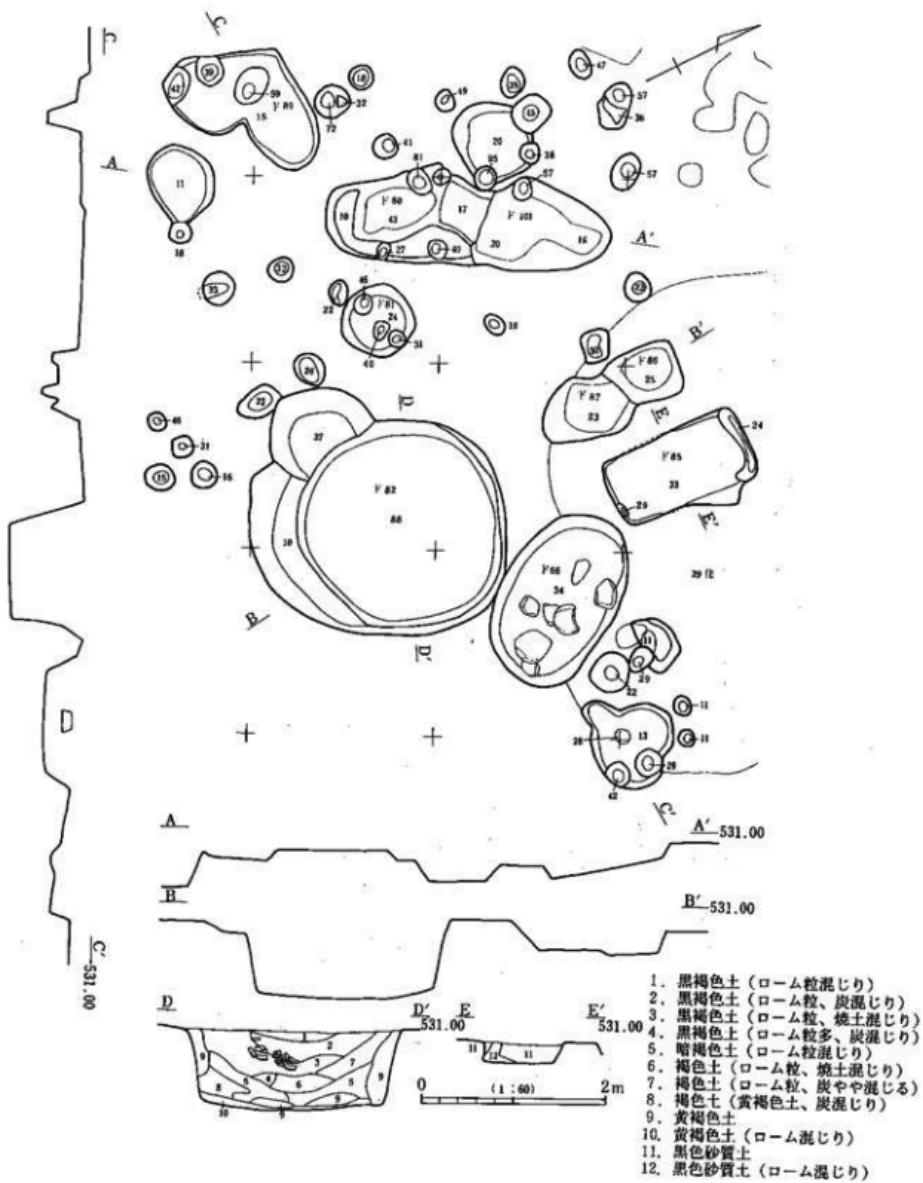
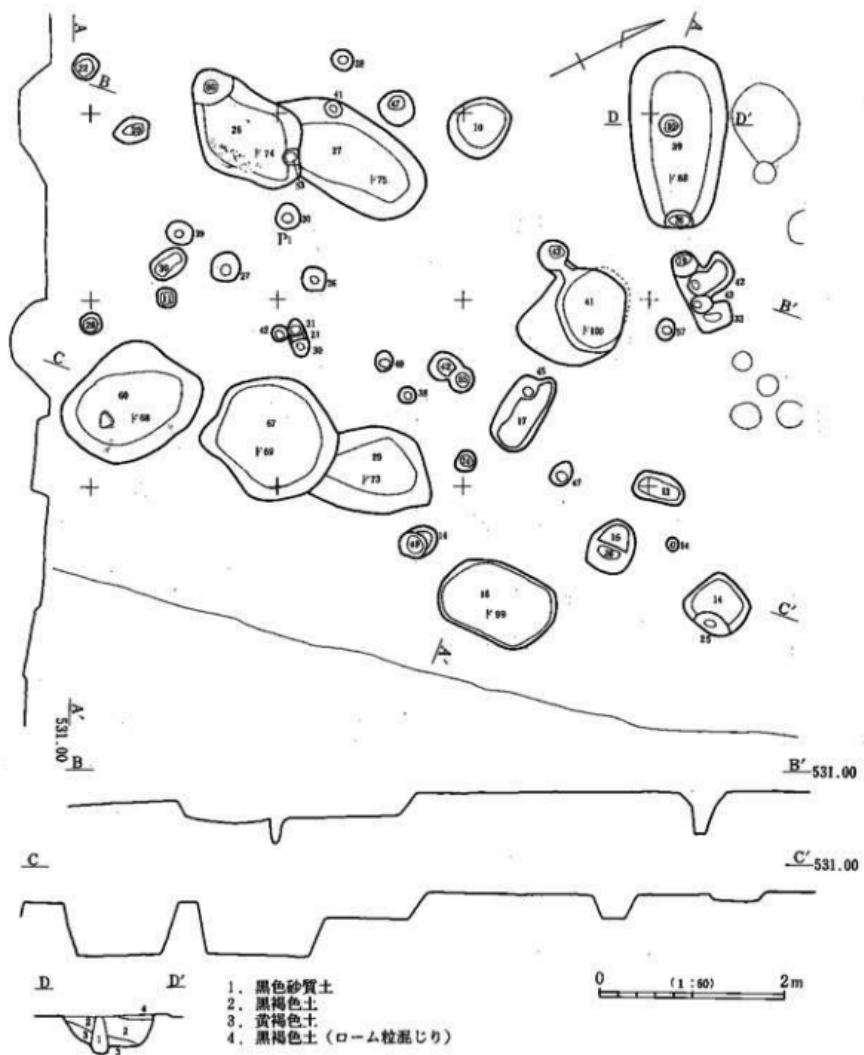


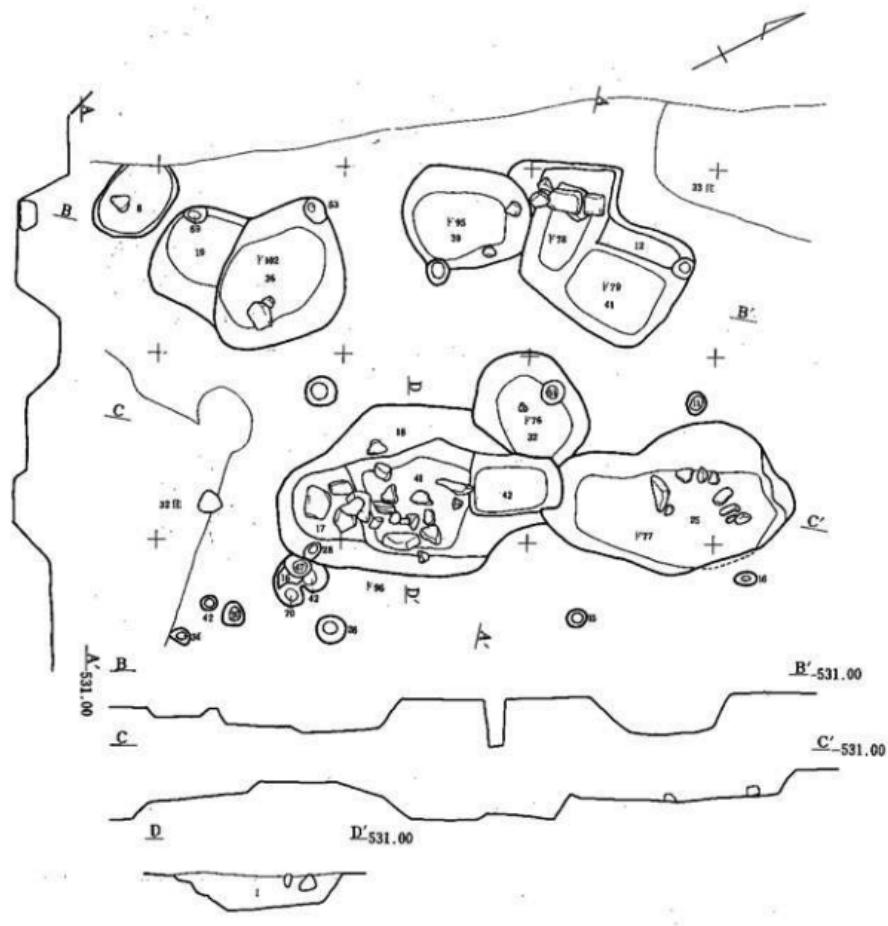
插圖182 K I T 土坑63・67



插図183 K I T 土坑66・80・81・82・85・86・87・89・101



插図184 K I T 土坑68・69・73・74・75・88・99・100



1. 灰黑色砂質土(炭・灰粒混じり)

0 (1 : 60) 2m

擲圖185 K I T 土坑76・77・78・79・95・96・102

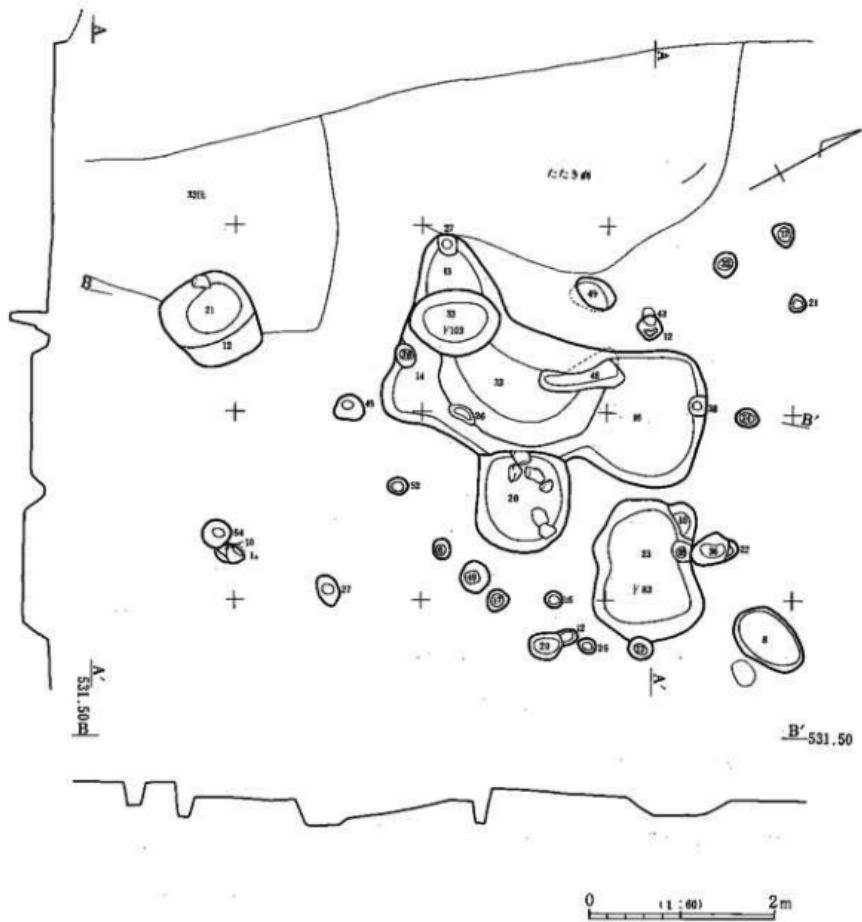


図186 KIT 土坑83・103

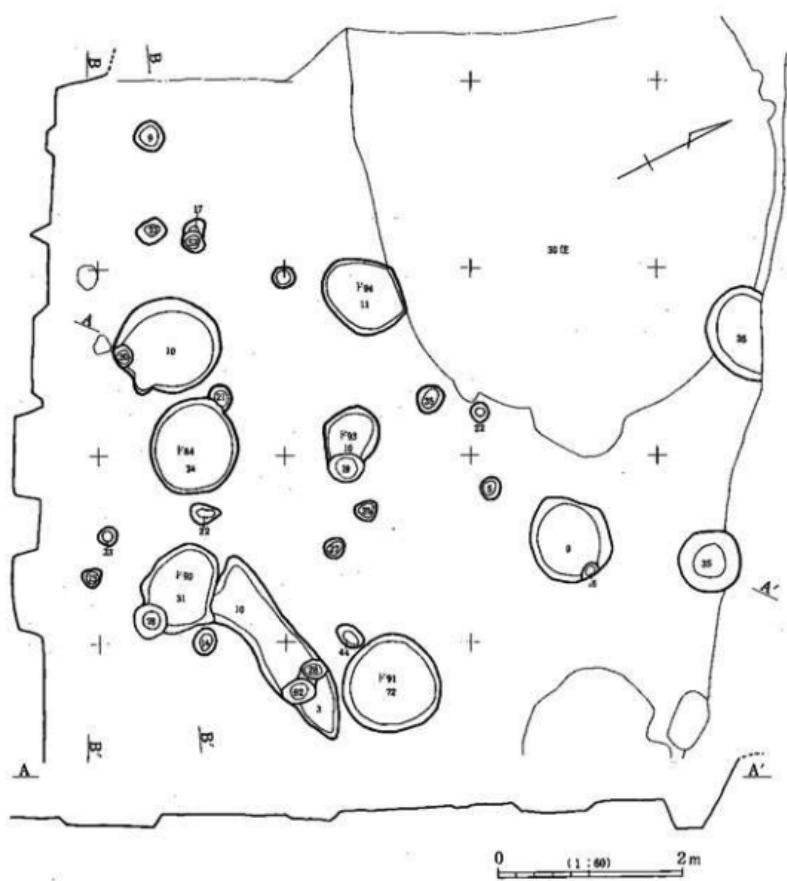
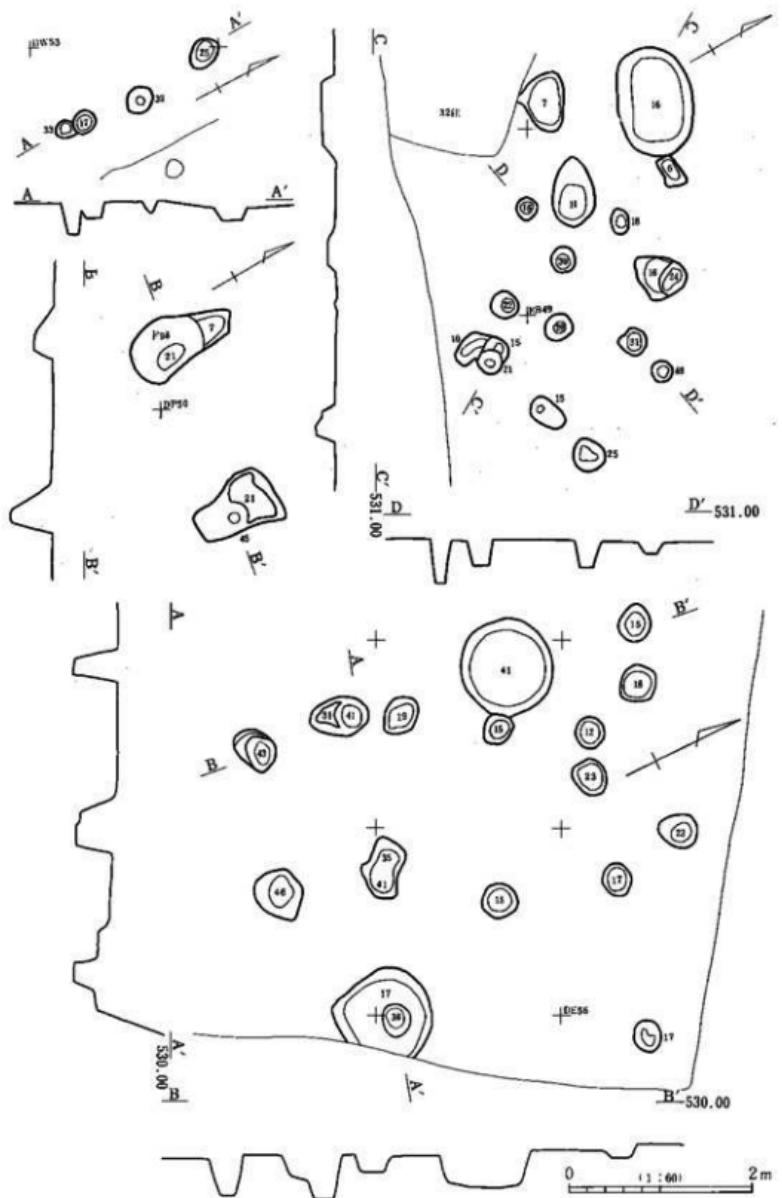


插图187 KIT 土坑84·90·91·93·94



挿図188 KIT 土坑98、第三地区ピット

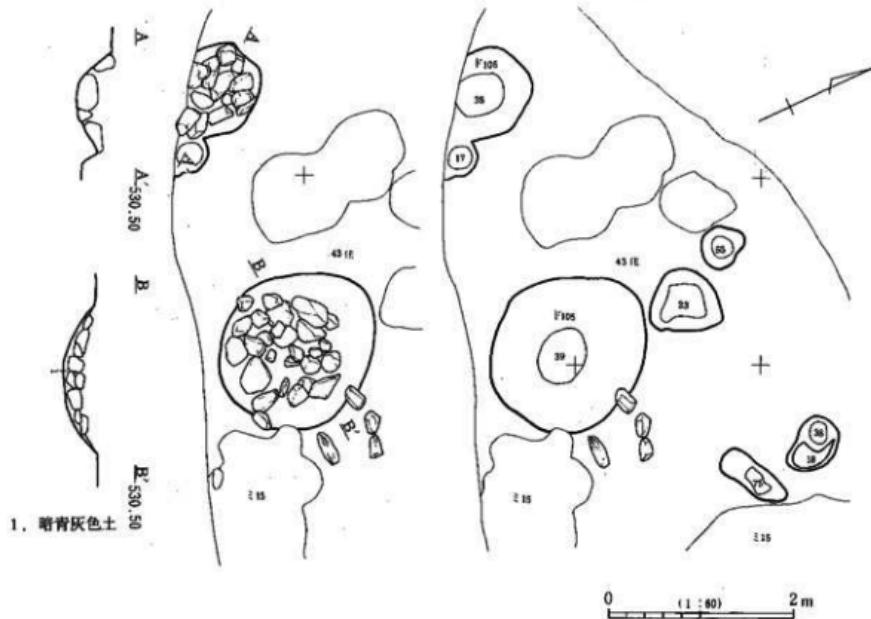


插图189 K I T 土坑105·106

第2表 K I T 土坑一覧表

単位 cm

No.	位 置	平 面 形	規 模	断 面 形	深 さ	備 考
1	B T40	円形	103×100	逆台形	47	
2	D K32・33	橢円形	160×-	ナベ底状	7	方形周溝墓8を切る。中世
3	D P36・37	橢円形	118×110	逆台形	23	西側で土坑と重複
4	E B26	橢円形	196×92	逆台形	30	
5	E C27	橢円形	110×94	逆台形	57	土偶脚部
6	E C28	不整形	-×100	逆台形	20	土坑7と重複
7	E B27	不整形	-×140	逆台形	25	土坑6と重複
8	E B27	円形	64×62	逆台形	41	
9	E B26	橢円形	90×68	逆台形	20	
10	D X26	橢円形	60×-	逆台形	16	土坑11と重複
11	D X・W30	不整形	-×60	逆台形	34	土坑10と重複
12	D Y29	円形	85×79	皿状	13	
13	D X・Y33	橢円形	203×110	逆台形	37	底よりやや上に環あり
14	D W33	橢円形	62×46	逆台形	20	
15	D E31	円形	77×64	段をもつ	24	
16	D T34	円形	105×104	逆台形	30	
17	D U35	円形	60×55	ナベ底状	10	
18	D V36	円形	82×76	逆台形	23	
19	D V36	円形	75×69	皿状	10	
20	D V36	円形	74×74	逆台形	36	
21	D U32	橢円形	107×94	ナベ底状	19	底部に環4個
22	D A36	円形	127×120	コップ状	118	方形周溝墓6に切られ、22住を切る。
23	C Y37	橢円形	130×107	コップ状	120	22住を切る。
24	E B40	円形	76×76	ナベ底状	16	縄文時代中期初頭の土器
25	E H35	橢円形	-×70	逆台形	29	17住に切られる。縄文時代中期中葉の土器
26	E G34	不整円形	110×94	逆台形	21	底に環4個
27	E F32	不整形	-× 80	段をもつ	67	16住に切られる。
28	E E33	円形	90×86	逆台形	83	16住に切られる。縄文時代中期初頭土器
29	E G33	ゆがんだ橢円形	72×64	段をもつ	39	
30	E H32	円形	74×70	逆台形	39	
31	D L36・37	不整橢円形	142×95	不定形	62	24住と重複
32	D Q32・33	長橢円形	136×62	ナベ底状	26	
33	D Q32	円形	62×56	逆台形	10	
34	D R32	橢円形	120×103	逆台形	59	
35	D L43	橢円形	50×40	逆台形	20	

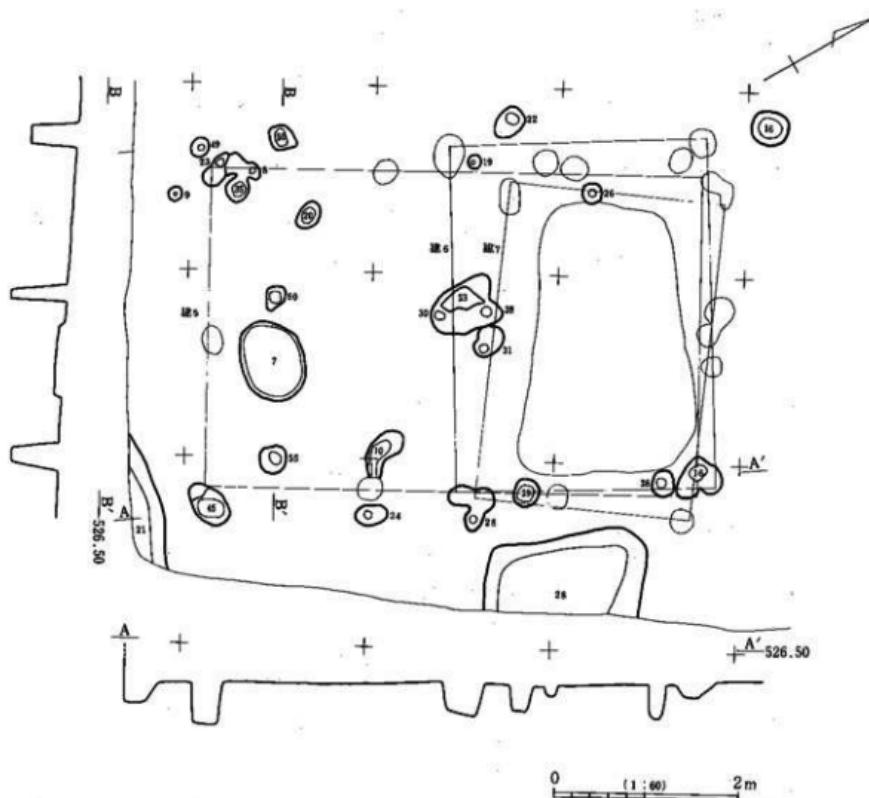
単位 cm

No.	位置	平面形	規模	断面形	深さ	備考
36	C X41	ハート形	80×60	逆台形	28	2個の穴の重複
37	C X38・39	不整形	150×110	不定形	54	幾つかの穴の重複
38	C Y35	ひさご形	150×104	逆台形	28	2個の円形の土坑の重複
39	C Y34・35	椭円形	160×100	逆台形	68	
40	C X35	椭円形	—×92	逆台形	36	土坑40と重複
41	C X・Y34	円形	160×130	コップ状	124	
42	D K32	不整形	210×130	段をもつ	41	21住・方形周溝墓7に切られる。
43	D S31	不整形	87×82	逆台形	7	中央に縄文中期中葉土器が逆位で埋まる。
44	E A34・35	円形	136×125	コップ状	75	焼土と土器片を多く含む。縄文中期終末
45	D M30	円形	224×214	逆台形	93	焼土がありその周りから炭化クルミ出土
46	D W40	円形	57×53	不定形	30	
47	D X37	椭円形	140×140	ナベ底状	17	中期中葉土器が埋められその上に礫を置く
48	D X32・33	椭円形	68×50	逆台形	30	
49	E A33	円形	96×90	逆台形	30	
50	E A33	不整椭円形	111×75	椀状	32	
51	E A36	不整形	110×74	不定形	12	
52	D Y36	椭円形	158×145	逆台形	37	礫3個
53	C X35	椭円形	160×130	コップ状	130	土坑40と重複
54	D Y39	不整椭円形	122×86	コップ状	64	縄文時代中期中葉土器
55	C T35	丸っこい方形	97×92	逆台形	19	縄文時代中期中葉土器
56	C T35	椭円形	105×74	段をもつ	25	
57	D F52	不整椭円形	70×62	逆台形	43	
58	D G51	円形	744×68	逆台形	43	
59	D H51	丸っこい方形	138×82	逆台形	42	
60	D H53	円形	72×70	段をもつ	31	
61	D I54	方形	225×200	ナベ底状	36	
62	D J52	椭円形	134×100	逆台形	38	西側に段をもつ
63	D P55	丸っこい三角形	182×160	逆台形	51	
64	D V57	方形	150×80	箱形	15	刀子・鎌、青磁
65	D X58	不整円形	170×138	逆台形	59	3個の礫、中世
66	D Y55	椭円形	193×123	逆台形	34	上層に礫7個、中世
67	D P56	椭円形	300×160	椀状	19	礫16個、中世
68	E A50	丸っこい方形	156×112	逆台形	60	刀子2点・铁滓、青磁、底に礫1個と焼土
69	E A51	円形	140×132	逆台形	67	上層に礫8個、中世
70	D X58	椭円形	160×—	逆台形	32	北側未調査、中世
71	E A58	円形	210×—	逆台形	16	北側未調査、底部に穴、中世

単位 cm

No.	位置	平面形	規模	断面形	深さ	備考
72	E B59	椭円形	200×-	椀状	54	東側未調査、西側底部に炭、中世
73	E A50	不整椭円形	114×95	逆台形	29	中世
74	E C51	丸っこい菱形	154×108	ナベ底状	26	底部に炭、中世
75	E C51	椭円形	184×94	ナベ底状	27	土坑74と重複、中世
76	E E51	椭円形	130×100	逆台形	32	中世
77	E Q52	丸っこい長方形	248×152	逆台形	25	底部に甕8個、中世
78	E F51	不整長方形	152×120	逆台形	46	北西側に6個を用いた石組、中世
79	E F51	長方形	128×108	逆台形	41	土坑78と重複、中世
80	E C55	長方形	168×106	逆台形	43	土坑101と重複、中世
81	E B54	円形	75×75	逆台形	24	中世
82	E A55	椭円形	375×230	コップ状	88	覆土中に焼土と縄文時代中期終末の土器
83	E D55	椭円形	152×118	逆台形	23	中世
84	E E56	円形	110×95	逆台形	34	須恵器系切坏、平安時代
85	E A56	長方形	158×78	箱形	33	29住を切る、中世
86	E B56	方形	70×70	逆台形	25	29住を切る、中世
87	E A55	不整形	94×74	ナベ底状	23	29住を切る、中世
88	E C53	長椭円形	194×104	逆台形	39	中世
89	E C54	ハート形	180×86	皿状	15	中世
90	E D56	椭円形	100×72	逆台形	31	中世
91	E C57	円形	104×102	コップ状	72	中世
92	E C57	不整形	142×120	皿状	11	中世
93	E E57	不整椭円形	80×58	段をもつ	19	中世
94	E E57	椭円形	97×84	皿状	14	平安時代
95	E D50	椭円形	138×106	逆台形	30	中世
96	E D50	不整形	306×180	箱形	41	上層に20個の甕、中世
97	D V54	円形	70×60	袋状	67	
98	D P50	椭円形	120×56	椀状	21	
99	D Y52	椭円形	120×80	皿状	16	中世
100	E B53	不整形	124×94	袋状	41	中世
101	E B55	椭円形	140×100	不定形	30	土坑83と重複、中世
102	E E49	不整形	186×128	逆台形	36	2個の甕、鉄滓、中世
103	E E54	椭円形	98×72	逆台形	33	中世
104	D U51	椭円形	190×148	逆台形	35	溝址15にきられる
105	D U49	円形	180×160	椀状	40	43住を切る、集石土坑
106	D V48	椭円形	110×-	椀状	38	43住を切る、集石土坑

そのほか、名称は付さなかったけれど、各地区に50~10cmくらいのピットが認められた。覆土は黒色土を主体として中世の土坑と共に通するものがほとんどで、縄文時代の土坑とは覆土に明確な差がみられた。全体に散布するが、第I地区西側・第II地区中央部溝址9周辺・第III地区北西側の3箇所の集中箇所が認められる。平面形は円形がほとんどで、壁面が急なものが主体となる。深さはまちまちである。集中箇所には、中世に位置づけられる建物址・溝址・土坑がみられ、これらとなんらかの係わりのあるものと推測され、時期も中世と考えられる。実測図では、土坑図に入れたものを含めて全てを掲載した。



挿図190 KIT 第I地区 ピット(1)

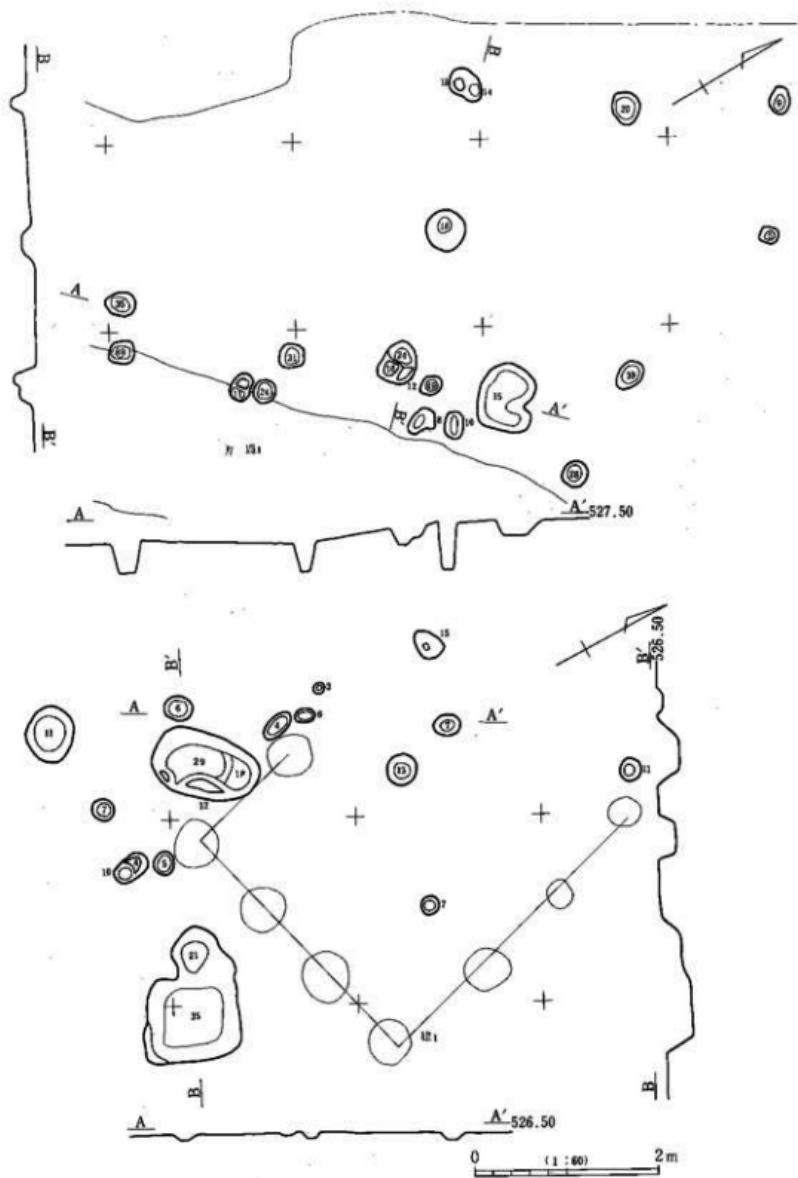


図192 第I地区 ピット(2)

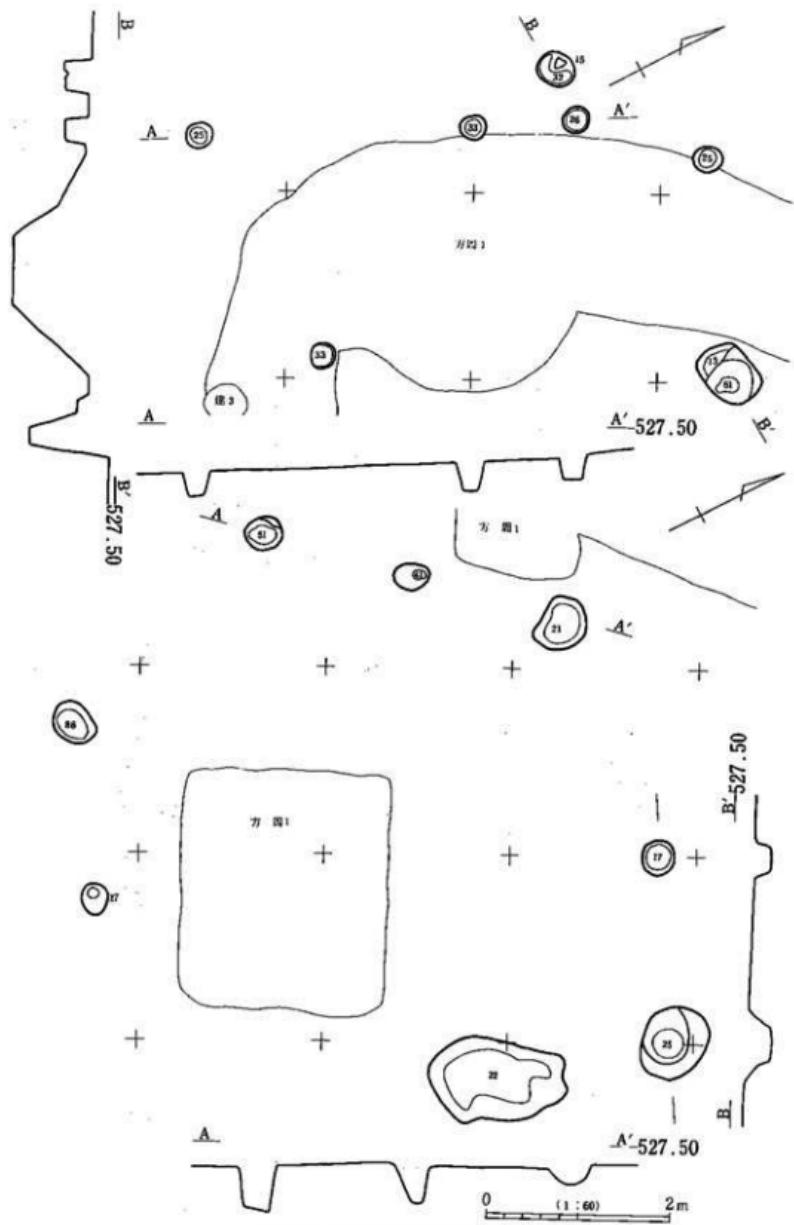
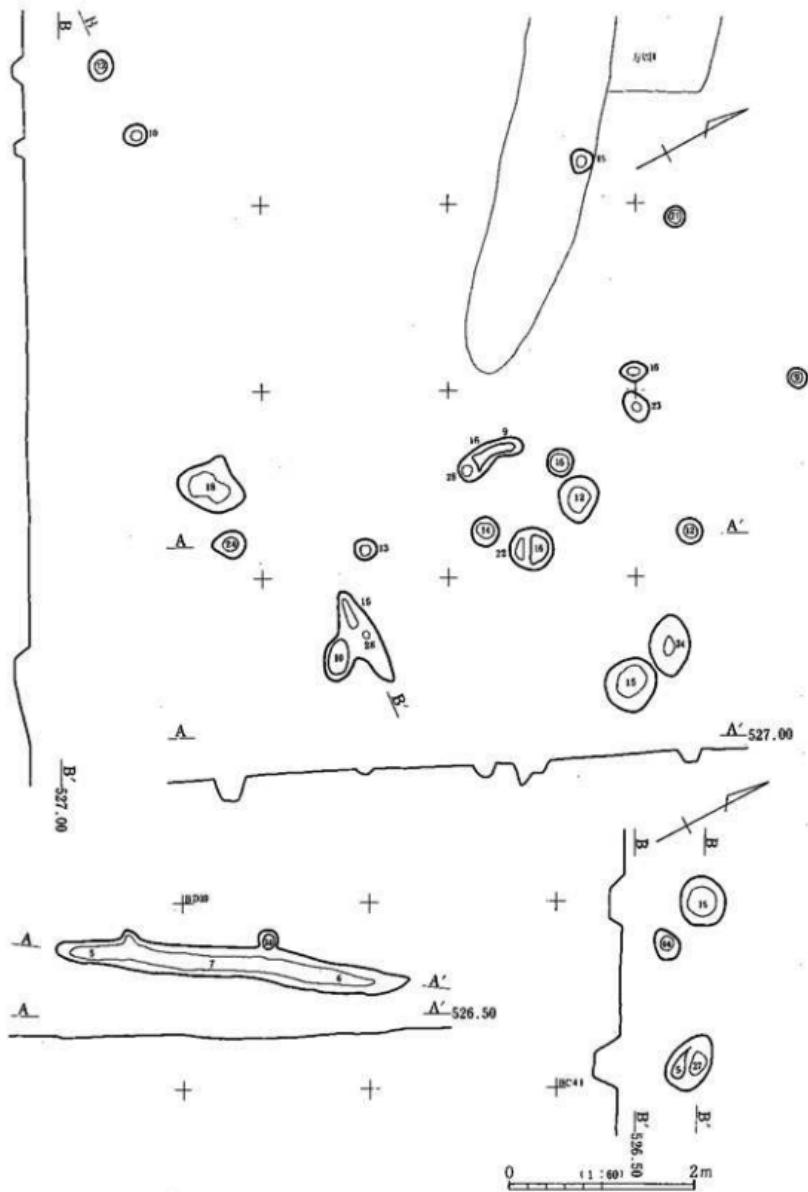
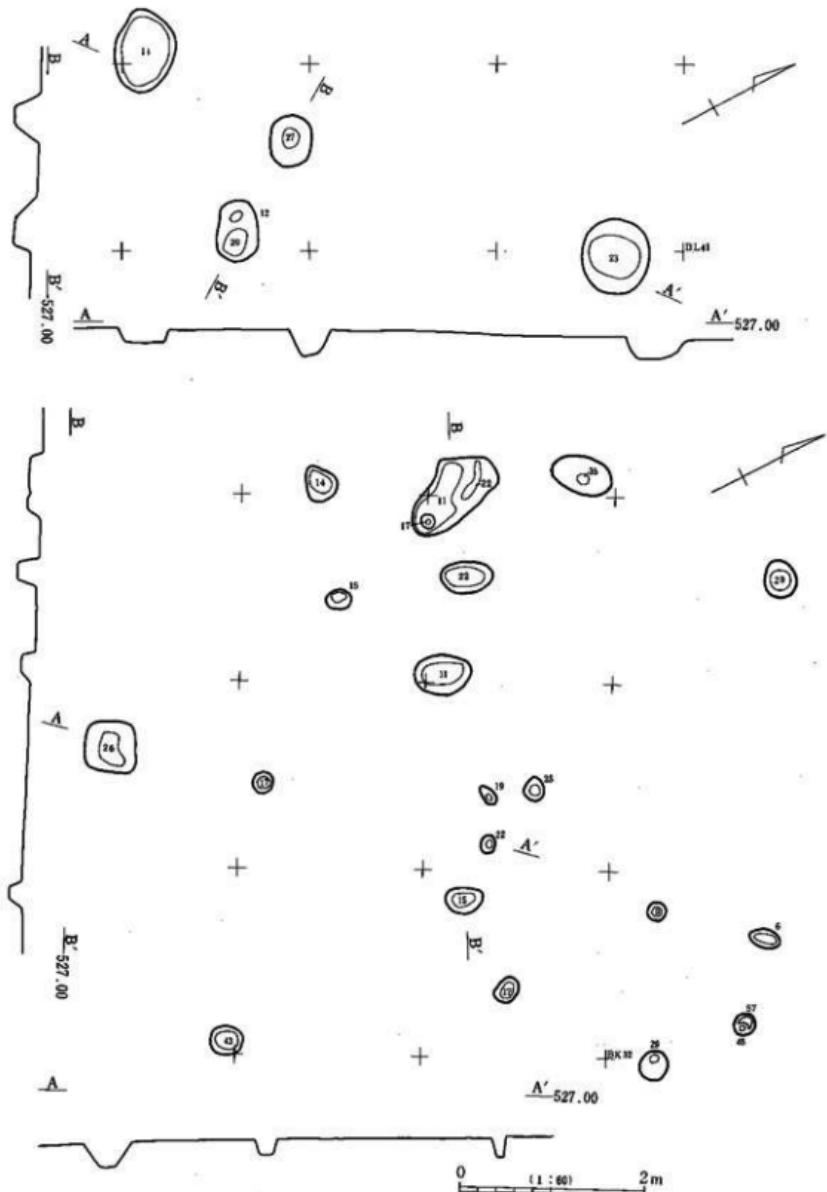


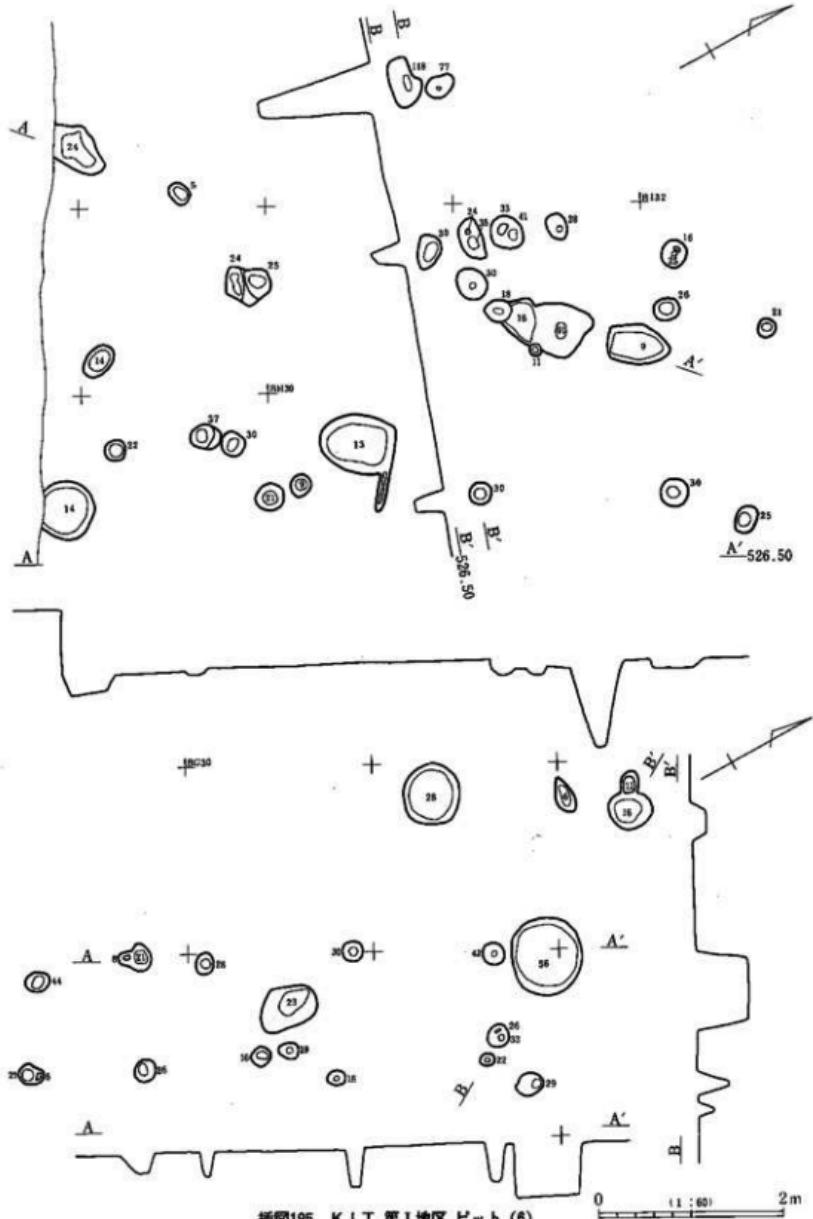
図192 KIT 第I地区 ピット(3)



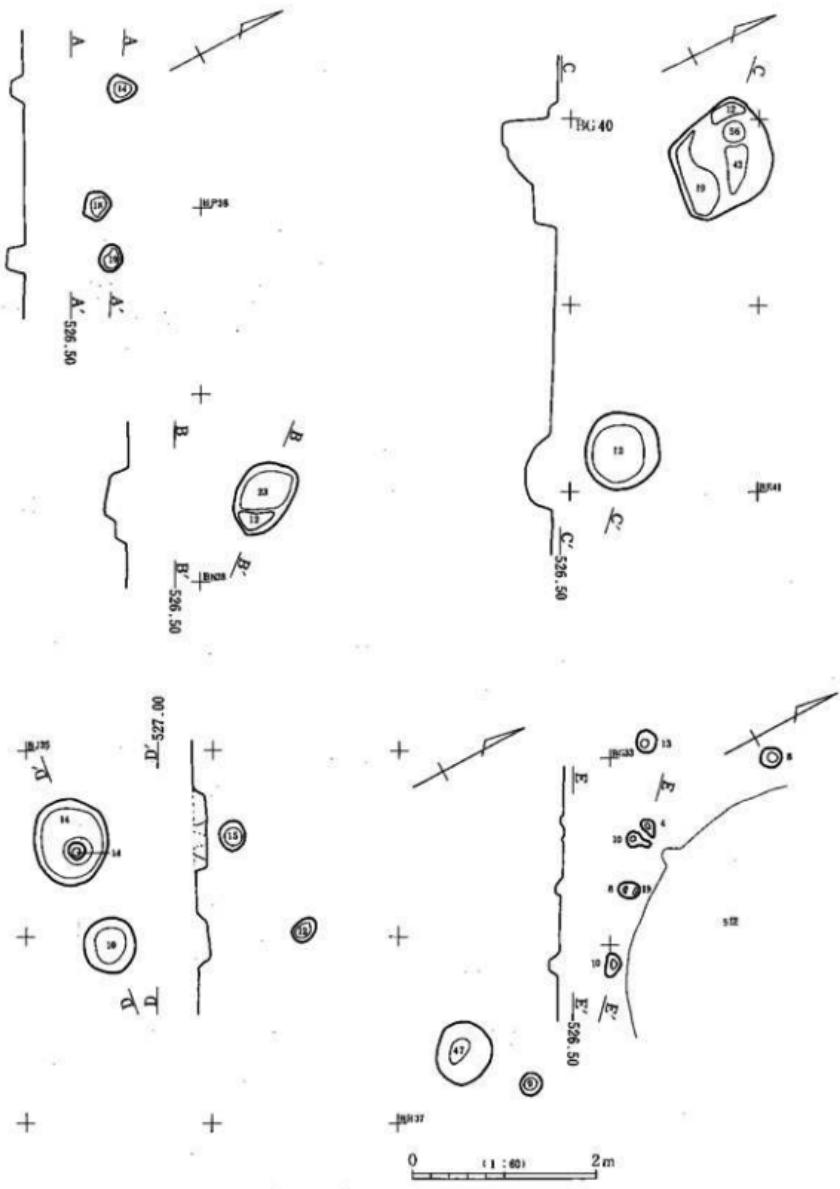
挿図193 KIT 第I地区 ピット(4)



挿図194 KIT 第I地区 ピット(5)



挿図195 KIT 第I地区 ピット(6)



挿図196 第I地区 ピット(7)

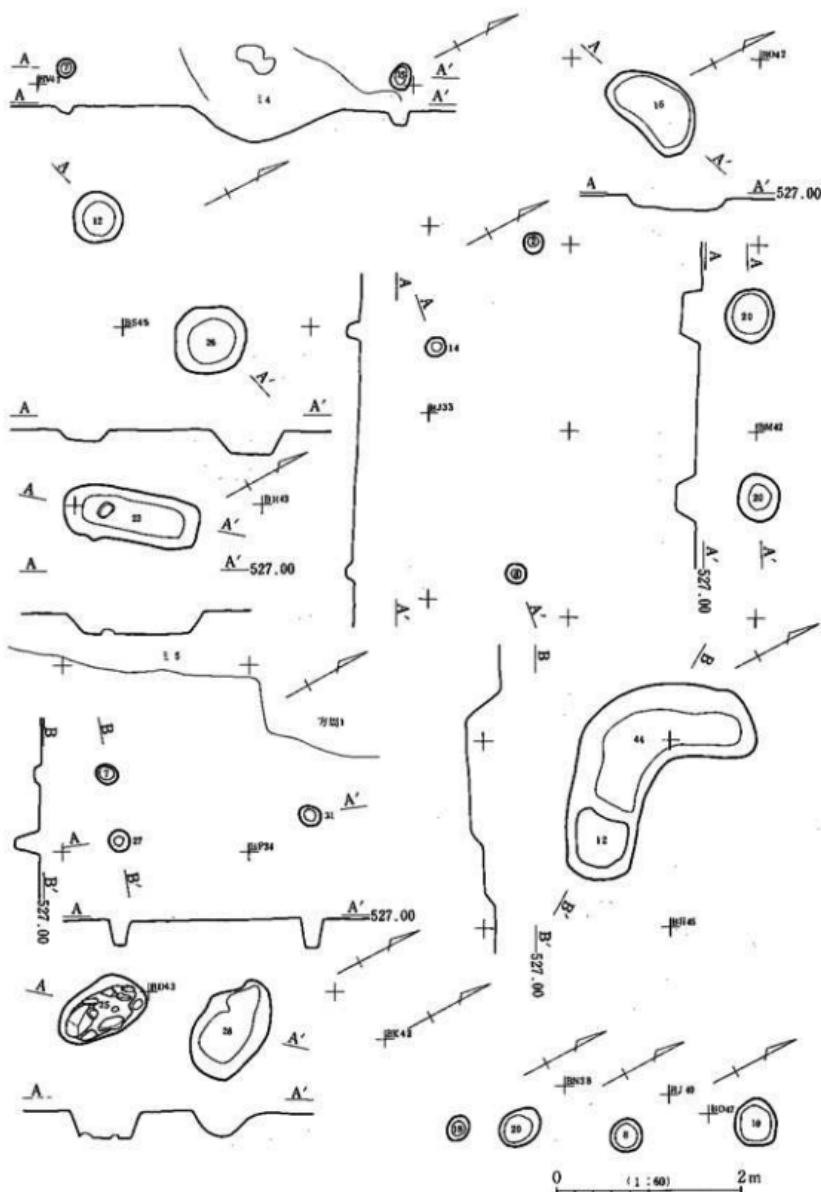
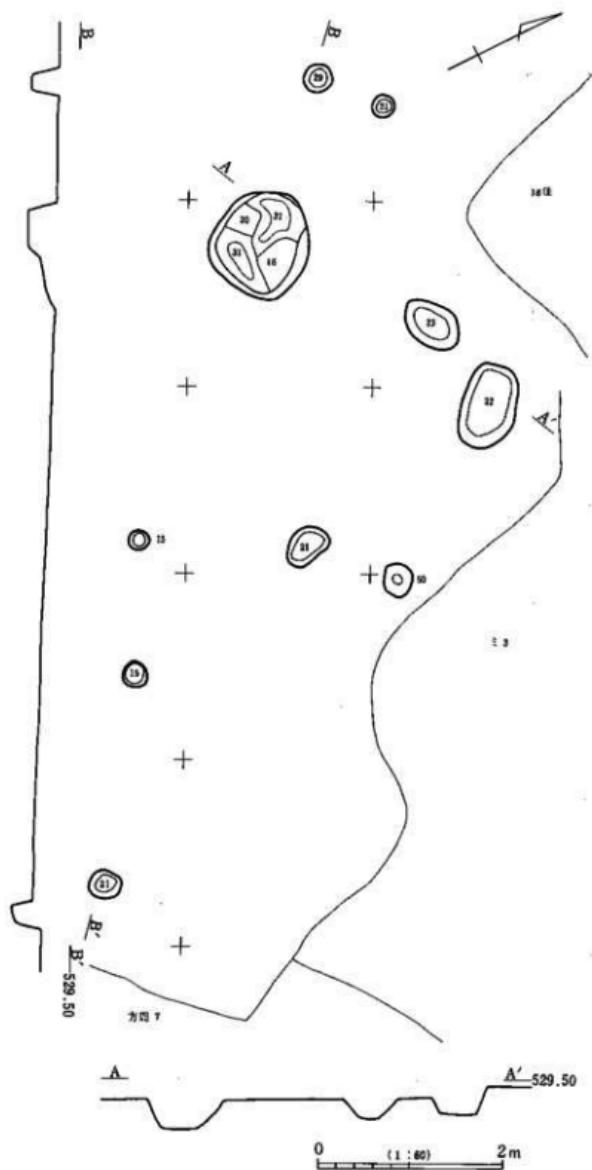
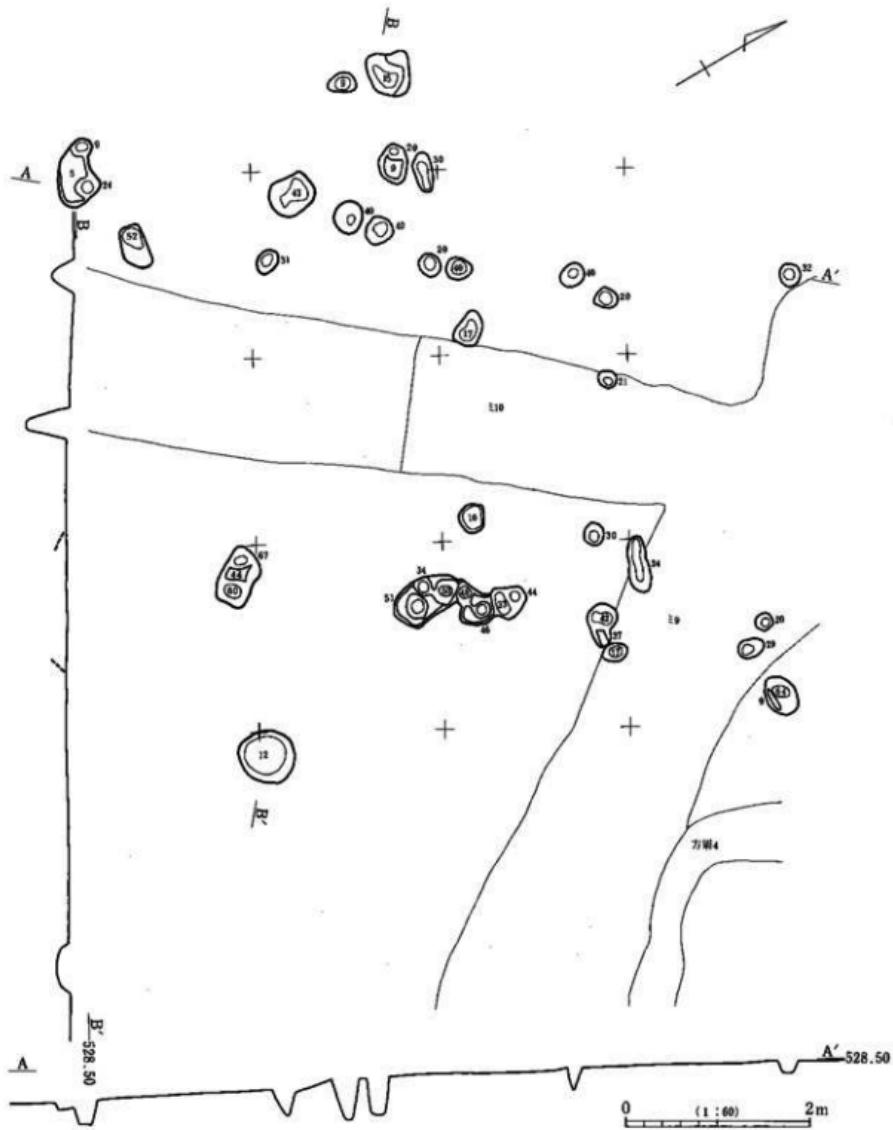


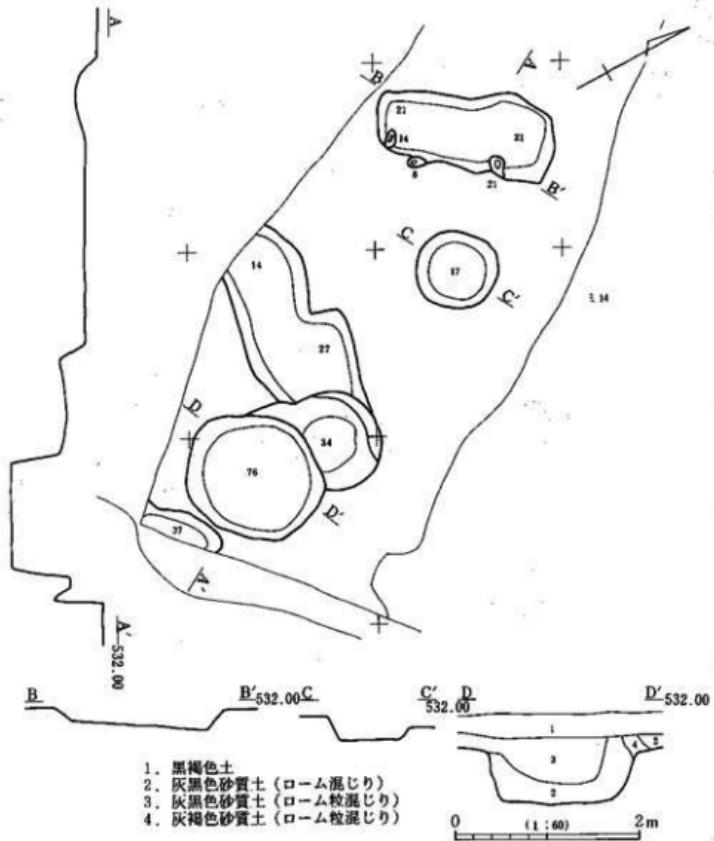
図197 KIT 第I地区 ピット(8)



擇図198 K I T 第II地区 ピット(1)



挿図199 KIT 第II地区 ピット(2)



擇図200 KIT 第IV地区 土坑

## IV まとめ

今次調査によって検出された遺構・遺物は既に述べてきた通りである。時間などの制約により、基礎的な資料提示のみに終わり、十分な説明や検討が加えられてないのは遺憾である。ここでは、調査によって得られた問題点を、時期ごとに指摘してまとめたい。

### ① 繩文時代

増田遺跡から中期の竪穴住居址17軒と土坑、垣外遺跡からも中期の竪穴住居址14軒と土坑が検出された。ツルサシ・ミカド遺跡に若干の土坑等があるが、該期の中心は増田・垣外遺跡遺跡にあったといつてよい。遺構相互に切り合い関係があるように時間差がみられ、中期の長い期間にわたって継続的に営まれてきた集落の一端が明らかにできたわけで、集落や遺物研究に一資料を提供する結果となった。詳細な検討はできないが、おおよその時期を整理すると以下のようである。

中期初頭 増田遺跡14号住居址、垣外遺跡19号住居址・土坑24など

中期中葉 増田遺跡3号・11号・12号住居址、垣外遺跡5号・15号・20号・22号・23号・24号  
29号・30号・42号・44号住居址、土坑47・55など

中期後半 増田遺跡1号・2号・5号・6号・7号・8号・9号・10号・13号・15号・16号・  
18号住居址、垣外遺跡25号住居址

中期終末 垣外遺跡13号住居址、土坑44・82など

増田・垣外遺跡は相互に関連する可能性はあるが、それぞれ別の集落を構成していたものと考えられる。ここでは、両遺跡の集落変遷について考えてみたい。

増田遺跡 事業範囲にかかる遺跡は完掘できたが、集落については東側の一部の姿が明らかになったに過ぎない。中期初頭から居住域として利用されているが、継続するのではなく、中期中葉の終末までに空白期間がある。中葉から後半にかけて継続し、終末の遺構はなく、後半までの集落である。しかし、中葉中頃の遺物が遺構外から出土しており、終末以前の住居址がある可能性は高い。住居址は相互に切り合う形で密集しており、未調査部が多いが、全体とすれば弧状をなすと考えられる。その内側に住居址の空白箇所があり、土坑が構築されている。やや狭い台地における集団としての規制が働いた結果といえる。

垣外遺跡 広範囲の調査となり、ある程度集落全体を明らかにできたと考えている。増田遺跡と同様に、中期初頭の住居址が1軒あり、同時期の土器を伴なう土坑が検出された。集落としての最盛期は中葉末で、9軒の竪穴住居址があり、同時存在していた可能性が強い。これから集落は継続せずに、やや時間をおいて、後半と終末の竪穴住居址が1軒ずつある。住居址は遺跡全体に散在していて、切り合い関係をもたない。中心となるのは第II・III地区で、第IV地区には遺構

はおろか遺物もほとんどなく、集落域からはずれていると判断できた。比較的広い台地上に営まれた短期間の集落といえ、増田遺跡とは違った面を明らかにできた。

遺物の面では、両遺跡の資料を合わせると、中期中葉から終末までの継続資料ということができ、いまだ十分とはいえない該期土器の研究に基礎的な資料となり得るとしている。ほかにも、十分な組成を示すわけではないが当地方にほとんど検出されてない中期初頭の資料もある。増田遺跡の主体となる中期後半は、一時期の資料でなく細かい時期差を示すものである。およその見通しをつけると、中期後半の初頭から、6号・7号・10号・15号・18号住居址、次に1号・2号・5号・8号・9号・13号住居址となり、次に垣外遺跡25号住居址で終末の垣外遺跡13号住居址に変遷すると考えられる。

## ② 弥生時代

なんといっても、今次調査の最大の成果は該期にあるといってよいだろう。密接なつながりがあると考えられるツルサシ・ミカド・垣外遺跡から、後期前半から終末に至るまでの竪穴住居址28軒、方形周溝墓・円形周溝墓24基、土壇墓3基が検出され、集落と墓域の関係を考える上での基礎的な資料が得られた。

十分に整理・検討ができるないが、現時点での感想を記してみたい。主体となるのは竪穴住居址23軒。方形周溝墓11基を検出した垣外遺跡で、これを中心にして考えてゆく。遺構の分布状況をみると、第I地区では方形周溝墓のみであるが、ほかは竪穴住居址と方形周溝墓が混在している。なかに切り合い関係をもつものがあり、全て方形周溝墓が竪穴住居址を切っていた。そうすれば、垣外遺跡の方形周溝墓群は集落内に設けられたものではなく、集落がほかに移動した後に墓域とした可能性が高いと考える。垣外遺跡の集落は1軒ずつの後期後半と終末のものを除けば前半に位置づけられ、方形周溝墓が後半から終末の可能性が高い。これを裏づけるように、後期後半の中島式土器の壺棺や終末のS字状口縁台付甕が方形周溝墓周溝から検出されている。垣外遺跡方形周溝墓を構築した人々の集落は、はっきり断定できないが、昭和61・63年度に町道改良などで調査した垣外遺跡の南東部と考えられる。一部の範囲にとどまったのであるが、61年度調査で竪穴住居址3軒、63年度調査で竪穴住居址1軒が検出され、いずれも後期後半の中島式土器を出土した。未調査部に広がる住居址の存在を考えれば、多くの方形周溝墓を構築した集落となることは十分に予想され、集落を南東側に150mほど移動し、元の集落を墓域としたものと予想される。

垣外集落の墓域は、上方のミカド遺跡の周溝墓群が相当するのではないかと考えている。ミカド遺跡は、特殊な形態を示す竪穴住居址が1軒あるのみで、集落域に相当する箇所はみられなかった。これだけの墓域を形成するには、かなり大規模な集落が必要となり、これに相当するのが垣外遺跡と想定するのが無理のない解釈となる。ミカド遺跡の周溝墓の時期を決める資料はほとんどないが、周溝内からわずかに得られた土器片は後期前半のものであり、垣外集落と時期の一致

をみる。両遺跡の間には生産域に想定される湿地帯があるが、150m程を隔てただけであり、集落を望める高台を墓域としたものといえる。

ツルサシ遺跡の方形周溝墓は上記のものに比べて新しく、古墳時代前期に位置づくことが周溝内から検出された土器から判明した。県内でも初めてといつていい完形の布留式土器の壺であり、それ自体大きな問題を内包している。これに対応する集落ははっきりしないが、同時期の竪穴住居址はツルサシ遺跡の第IIトレンチで検出した5号住居址があり、この周辺に該期集落が存在し、100m上方を墓域としたのかもしれない。

これまで、当地方の弥生時代後期は、多くの遺跡が掘られ膨大な資料が得られているにもかかわらず、集落の一部の調査にとどまったものが多く、集落全体の様相をつかめるものが少なかつた。こうしたなかで、今次調査はある程度集落全体の様相を明らかにできたといえよう。

ほかにも、全国的にみてもほとんど類例のない『木炭棺』が検出された方形周溝墓や当地方で初めての壺棺の検出、方形周溝墓主体部の小口痕による木棺使用が推定できしたことなど、周溝墓関係で当地方初見の事実がみられた。

また、後期前半を主体とする良好な住居址出土遺物が得られており、この中にしばしばみられる外来系土器含めて良好な資料であり、今後の検討課題となる。

生産域と想定される湿地帯と台地内部域、それに前述した集落と墓域、遺物や遺構の状況、これら全てを総合的に検討して初めて、今次調査における弥生時代後期の意義が明らかになるといえる。

### ③ 奈良・平安時代

ツルサシ・垣外遺跡で奈良時代の竪穴住居址が1軒ずつと垣外遺跡で平安時代の土坑が2基検出された。

弥生時代と違い単独で存在しており、こうした住居址の在り方は何を意味するものであろうか。今後の類例に待ちたい。

### ④ 中世

垣外遺跡が中心になり、竪穴住居址3軒・掘立柱建物址・溝址・土坑群・ピット群などがある。ほかの遺跡にも中世に位置づく遺構はあるが、集中するのは垣外遺跡のみである。

居住のための竪穴住居址ばかりでなく、区画を示すであろう溝址や墓所とするのが適切であろう土坑群などさまざまな遺構が存在する。住居址については、平面形や形態に問題を残している。時期については、筆者の勉強不足から詳細な位置づけができなかったが、ある程度時間幅があることが予想できる。このように、問題のみ山積しているが、いまだ進んでない中世研究の資料となるものと考えられる。

今次調査で得られた問題点・課題について記してきたが、十分整理できたものでなく、思いつくままにのべたにすぎない。下伊那の原始・古代・歴史時代を考える上で貴重な資料が得られたわけであるが、それに引き代わりしてツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡の多くはこの世から永遠に消え失せてしまった。後世に伝えるべき文化遺産をわれわれの世代で失わせてしまった代償として、記録という形で保存したのであるが、その責務を十分に果たせたのかははだこころもとない。

終わりに、今次調査の調査補助員として昭和62年度現場の遺構計測を一手に引き受け現場作業の推進役となっていた米山義盛・伊藤泉の両氏は、長野県の高校教員として昭和63年4月から就職された。両氏がいなければ、この事業が完成しなかったことを明記してお礼を申し上げる。

## V. 垣外遺跡（町道都出線拡幅改良工事）

### 1. 調査の経過

#### 1) 発掘調査の経過

昭和61年11月南条棚田遺跡調査中に、上黒田地籍町道都出線改良工事が進み垣外遺跡に該当する地籍の工事が急がれたので、棚田遺跡の検出調査と並行して試掘調査に入ったのは12月1日のことであった。この工事は道路拡幅事業のため調査可能地は広い所で2m程度のため、538.10mを基点にして北東方向道路両側に1mのグリットを設定した。南東側には既に側溝が構築されていたので十分な幅が取りにくい状況であった。

比較的振りやすい北西側では平安時代の遺物包含がみられる溝址2が検出されただけで、他の遺構は発見はなかった。東側では南で弥生時代1号住居址・溝1、中央400辺りで弥生時代2号住居址・溝2の重複が検出された。とともに既設道路があり側溝で破壊されているために80cm程しか検出できなかった。北東側カーブ地籍では土壤と焼土が検出され、弥生時代の遺物が発見されたので重機による排土をしたところ大きく深い溝址3と弥生時代3号住居址が発見され、12月6日まで検出作業を続け12月6日に現地説明会をしてひとまず作業を中断している。

翌年2月中旬になって既設道路の舗装除去のおりに1・2号住居址の検出・測量作業を終了している。

#### 2) 調査組織

##### ① 調査団

調査団長 今村 善興（日本考古学協会員）

調査補助員 林 敏、米山 義盛（以上～63. 3）、林 貢

作業協力員 今村 春一、櫛原 稔樹、小林 薫、原 祐三、福田 千八、

向田 一雄、吉川 佐一、吉川 正美、今村 俱栄

##### ② 事務局

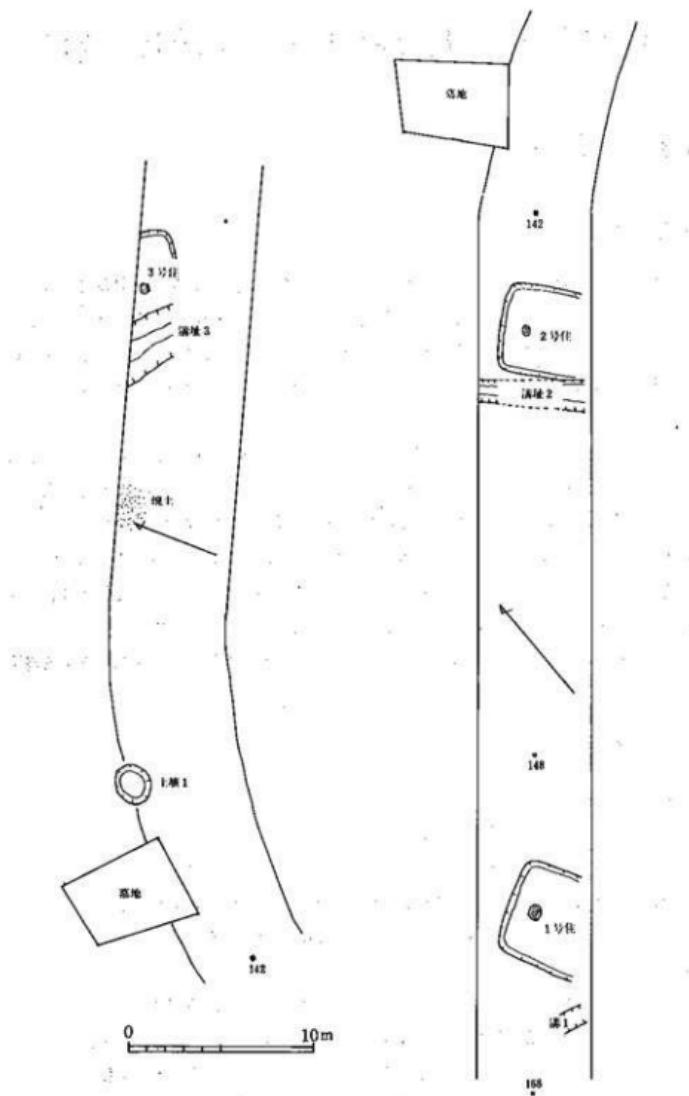
吉川 昭文（教育委員会教育長） 北原 義信（建設課課長 62. 3～）

篠田 公平（同 上 事務局長 62. 3～） 篠田 公平（同 上 ～62. 4）

菅沼 富雄（同 上 ～62. 4） 宮下 成式（建設課工務係長）

吉川 勝一（同 上 局長補佐） 今村 美和（教育委員会社会教育係）

山下 誠一（同 上 社会教育係 ～62. 4）



挿図201 K I T (町道調査) 造構全体図

## 2. 調査の結果

### 1) 調査の概要

ごく限られた範囲の調査区であったが弥生時代後期の小集落の一郭が検出されたことは大きな成果であった。

#### 「検出された遺構」

弥生時代後期住居址3、弥生時代後期溝址1、平安時代溝址1、時期不詳溝1、不詳土壙1、時期不詳焼土塊1、ピット1。

#### 「発見された遺物」

弥生時代弥生時代後期壺形土器1、弥生時代後期壺形・壺形土器片60、同打石器20、平安時代土器片10、中世陶器片30。

### 2) 遺構と遺物

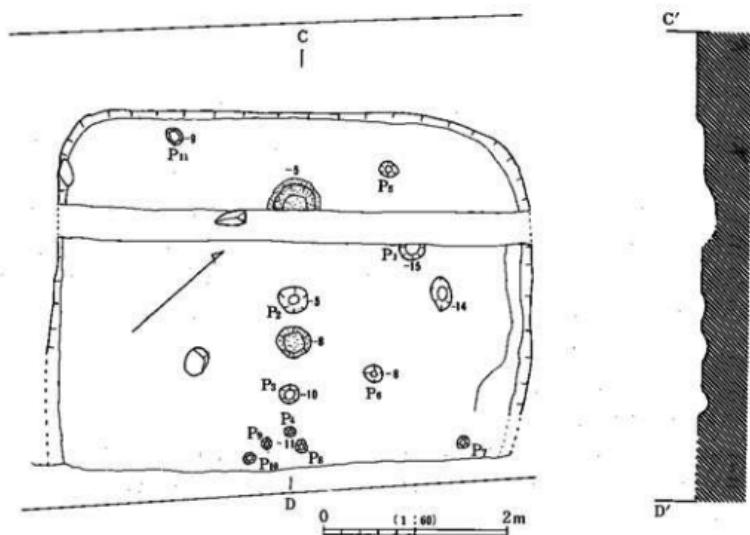
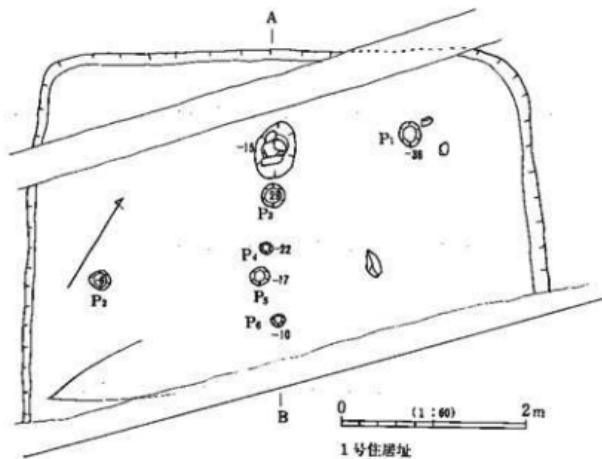
#### (1) 1号住居址

##### ① 遺構（挿図202）

道路南側中村豊さん宅上の台地先端部、BC 9538と520の中間で検出された住居址である。プランは東側の側溝で破壊され、その先は用地外のため確かめられないが、1辺5.6m程・主軸方向N21°Wの方形堅穴式住居址である。堅穴の掘り込みは15cmほどと浅いのは道路造成工事により上面が削り取られているものと思われる。北西側には水道埋設溝の掘り込みがあって床と壁の一部は破壊されている。西側に枕石をもつ幅30cm・深さ15cmの炉が発見され、炉底から埋甕炉の残片が出土している。そこから東南にやや不規則ではあるが直列的に4個のピットが並ぶ。P<sub>1</sub>は炉に近く深さも29cmあって正体不詳であるが、他の3個は間仕切りのピットかとみられる。主柱穴と思われるものは北隅のP<sub>1</sub>だけではなくには確認されていない。床はこの時期としてはやや軟弱ぎみであるが比較的固いものであった。

##### ② 遺物（挿図203・204）

遺物の出土は非常に少なく炉内の壺形土器片（204-8）のほかは壺形土器片・壺形底部・壺形土器底部（204-1～7）で、半磨製の石器（203-1）だけであった。土器形式は弥生時代後期中島式のものである。



B-D'

插图202 KIT 1号・2号住居址

## (2) 2号住居址

### ① 遺構（挿図202）

1号住居址の東北25mのところで検出された住居址である。1号住居址と同様東南側は側溝で切られているため全容は分からぬが、1辺5mほどの方形隅丸堅穴式住居址である。主軸方向はN40°Wで西北壁側に幅50cm・深さ5cmの地床炉が構築されているが、水道管理設溝によりほぼ半分割り取られていた。石もなく埋甕の形跡は全く無い炉である。同様の地床炉が住居址のほぼ中央にもあったが新旧の状況は不詳である。その近くに直線的に並ぶ3個のピット（P<sub>1,2,3</sub>）は間仕切りのもの、東南側の小ピットは（P<sub>4,5</sub>）入口に近い小ピットかもしれない。ピットはほかにあるが主柱穴と思われるものは北隅に1個（P<sub>1</sub>）検出されただけである。壁高は10cm程しかないのは既設道路の造成により削取られたか、重機の排土が深すぎたのかもしれない。先の試掘調査のおりには部分的ではあるが40cmほどは確認している。床は総体的にこの時期の特長である極めて固い状態であった。周溝の確認は出来なかった。

住居址の南側は平安時代かと思われる溝址2に切られている。

### ② 遺物（挿図203・204）

1号住居址と同様遺物の出土は少ない。土器は4図9～12の壺・甕形土器口縁・底部ほか、石器は打石斧1・剥片石器3（203-3～6）に留まっている。器形の特長・文様・成形痕から弥生時代後期中島式のものである。

## (3) 3号住居址

### ① 遺構（挿図203）

2号住居址の東40m、道路北側の井坪氏の桃畑に掛かる堅穴住居址である。表土下70cmほどに固い床面があり、北側のコーナーだけが確認されて他は西側の桃畑・東側の道路下にかかり、南側は溝址3に切られているためプラン・方向のつかみにくい住居址であった。枕石・埋甕をもつ炉が検出されたのは幸いであるが、北東のコーナーとの位置関係をみると住居址のほぼ中央に思えるが、何か所かに残る張り床の存在等から建て替え・拡張等も予想されるので別の位置の炉が存在するかもしれない。炉は幅40cm・深さ20cmで東側に長さ25cm・厚さ5cm・深さ15cmの枕石が埋められ、それに密着するように底部を欠いた口径17cm・高さ18cm以上の薄手の甕形土器が埋められていた。甕の上縁は床面よりやく5cm下にあり、周囲には焼土が充満していた。炉の形態からすると当地方では類例が少ない枕石・埋甕を兼ね備えた整ったものである。

主柱穴の位置は断定できかねるが深さ・位置からみてP<sub>1,2,3</sub>かと思われる。床面は極めて固い床が所どころの上層にあり、それを剥がすと炭とともに焼けた床があった。住居が焼けたあと赤土を運び入れて新しい床を張り、新しい住居を構築したように思われる。

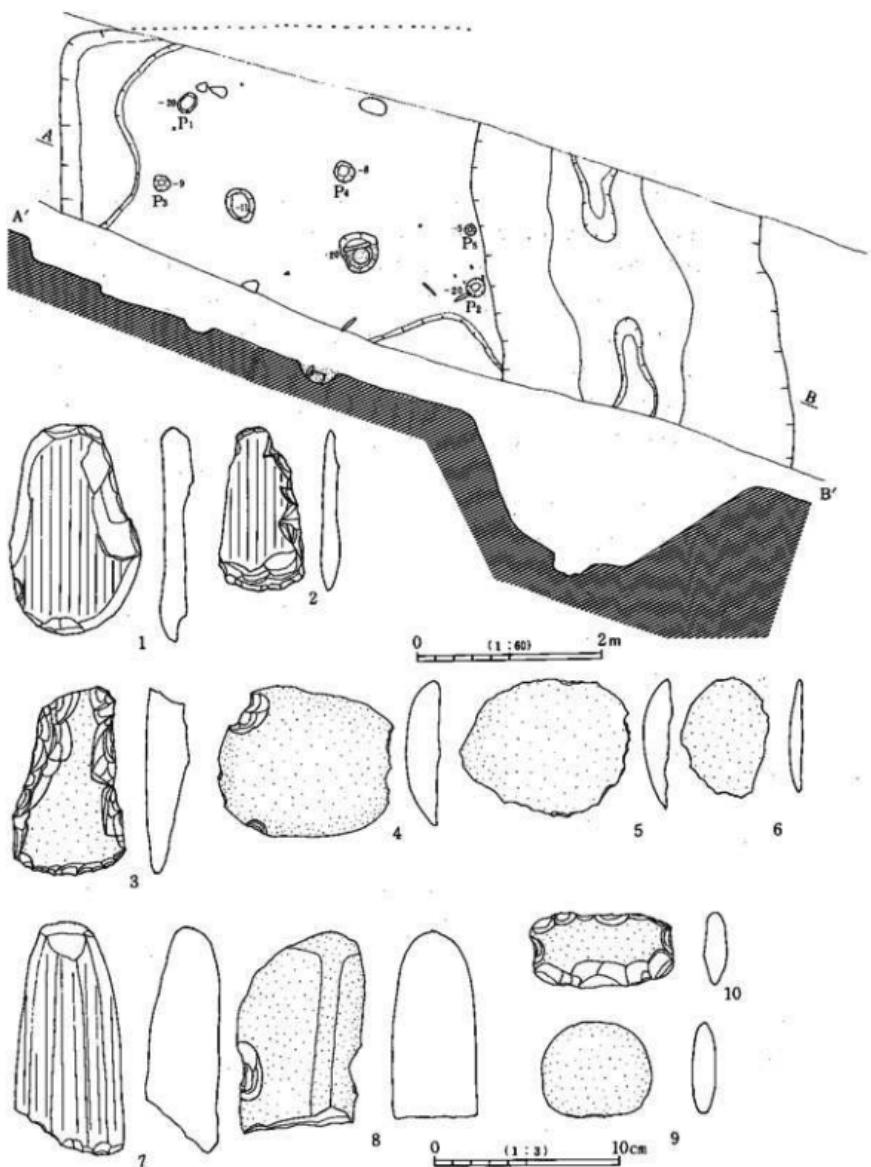
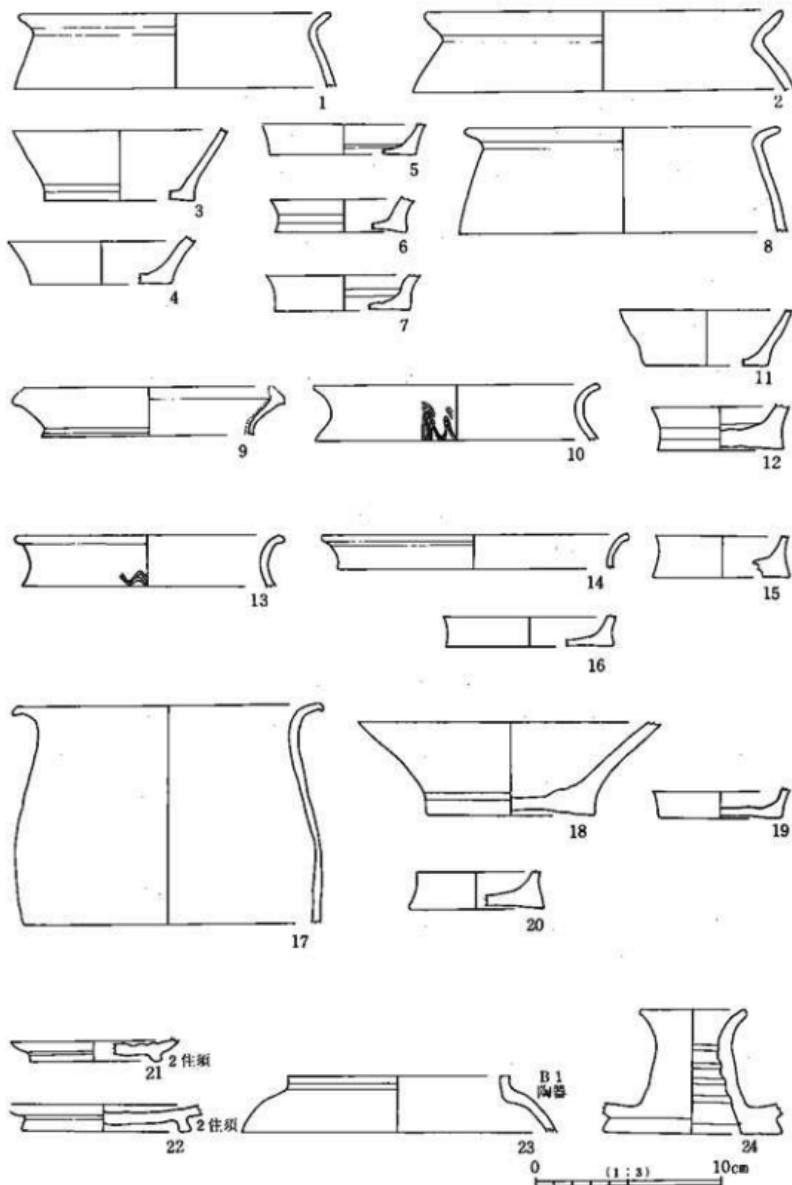


插图203 KIT 3号住居址・溝址3平面図及び1号住居址(1)、2号住居址(2~6)  
3号住居址(7~8)、溝址3(9~10)出土石器



插図204 KIT 1号住居址 (1~8)、2号住居址 (9~16)、3号住居址 (13~16)

溝址3 (17~19)、その他 (20~24) 出土土器

## ② 遺 物（挿図203・204）

検出した住居の面積も少ないが絶じて出土遺物も少ない。代表的なものは埋甕で、口径17cm・高さ18cm以上、薄手で口縁が平に外反し無文で調整痕だけ残る弥生時代後期中島式後半期の壺形土器がある。そのほかは全部破片でわずかに波状文のある壺形土器片・底部片である。器形がはっきりしないが床の重複等からみても、中島式土器のなかにも時期差がありそうに思える。石器も磨製石器（203-7）だけで東側床面に密着して台石が出土している。

## （4）溝 址 1

1号住居址の南西に幅1m・深さ50cmほどの溝があったがその方向・時期は確認されていない。

## （5）溝 址 2

2号住居址の南側にあって2号住居址を切っている幅1.5m・深さ40cmほどの溝址2があった。道路北西側に幅1m・深さ30cmほどで、溝底から平安時代須恵・土師・灰釉陶器片が出土した溝址があった。方向からみて同一のものと思われるが2月の検出調査では確認されていない。

## （6）溝 址 3

### ① 遺 構（挿図203）

3号住居址の南西に位置し3号住居址を切って西から東へ続く大きく溝址である。幅は3.3mほど・深さは1.5mの雄大な溝で、幾層もの砂質土・黒色土が重複し、溝底には荒めの砂質土と細かめの砂質土が堆積して溝底は複雑に掘り込められていた。溝底に近い辺りから流れの影響のある土器・影響の少ない土器片が多く出土している。溝上部を含めて出土する遺物は弥生時代に限られていることから、この時代の溝址かと思われる。

### ② 遺 物（挿図203・204）

弥生時代後期壺・壺形大型土器片が溝底から出土している。204-17～20で図示していないもので胴部片も多い。文様のあるものではなく調整痕を残すものに限られている。石器は半磨製石器・石包丁形石器・剣片石器（203-8～10）で石包丁形石器は摩滅が著しい。

## （7）土 壤

墓地の近くで検出されたが近世陶器のほかは古い遺物は発見されていない。

### 3. 調査のまとめ

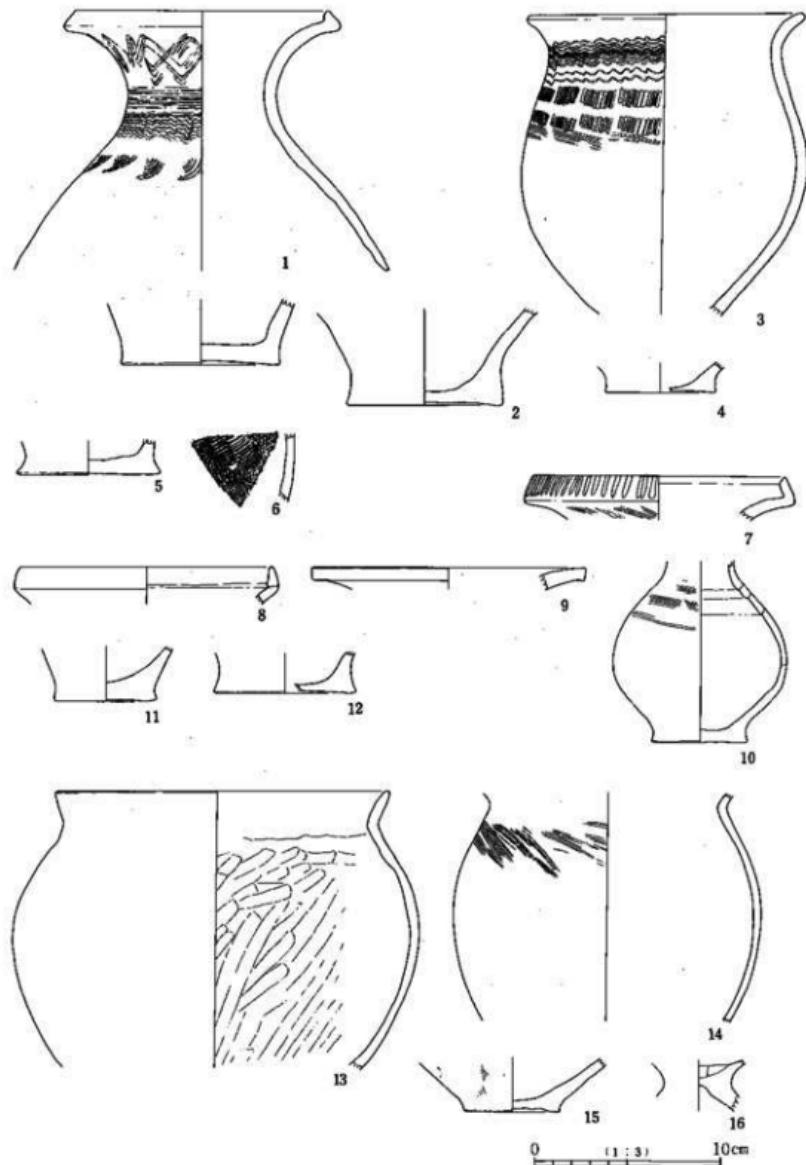
ごく限られた調査範囲であり調査の時期が厳冬最中であったので、十分な調査ができなかつた恨みはある。しかしながら、限られた範囲のなかで弥生時代後期の住居址3軒が検出されたことは、垣外遺跡の手始めの調査としては大きな成果であったと思っている。昭和62年度に実施された垣外遺跡上方地域での弥生時代後期の方形周溝墓群・弥生時代後期の大集落地であることが解明されつつある。そのなかで見ればほんの一部の遺跡に過ぎないが関連的に考察する資料には十分成りうる結果であったといえそうだ。

この都出線内だけの調査結果でみても幾つかの考察ができるようである。遺物出土が少ない住居址であったことから時期判断は困難な面はあるが、1、2号住居址は住居の形態・方向から同一時期のものかと思われる。上方地域で検出された各住居址との時期比判断は難しいが、遺物出土稀薄・炉の単純さ・主要石器の不出土・住居址の間隔等から、上方の集落とは違って夏場における小村の様相がみられる。その面からみると3号住居址は立地する場所の相違もあるが、時期差・居住目的の違いがありそうに思う。報告では触れてないが3号住居址の西側に少量の弥生時代後期の土器片を伴う焼土塊があったことである。地形的に見ると3号住居址の北東側は傾斜地のようであり、黒色泥土の堆積する低湿地があるようで水辺に近い住居の様相が伺えるが、完掘していない1軒だけの住居址では無謀な考察かもしれない。

それぞれ時期・形態の異なる溝址が3本検出されたが、高燥台地によくある例である。溝があれば近くに住居址の存在が予想されることで、その意味では重要な遺構の一つと考えられる。

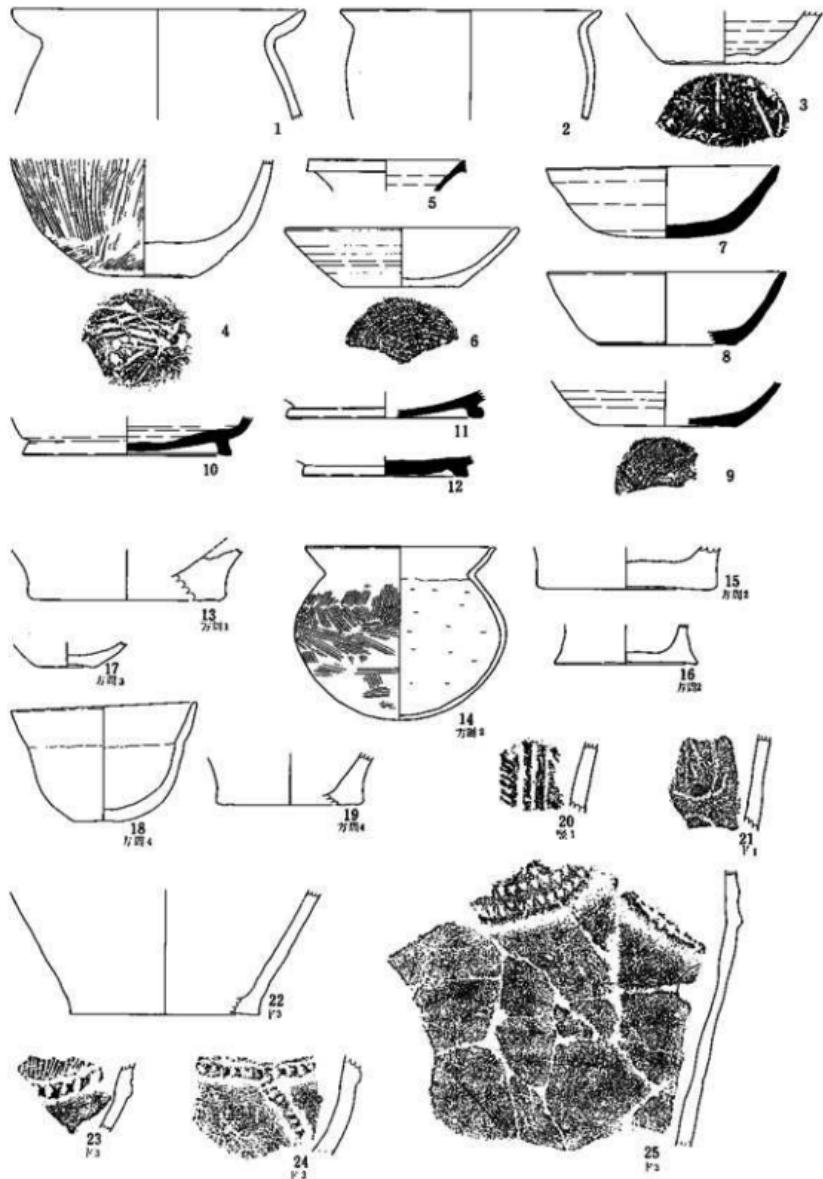
偶然かと思われるがそれぞれの溝址が住居址の南側にあったということは捨て難い結果で、今後の課題のひとつである。溝址3は広く大きく遺物出土も多かったことから、上方・下方へ続く重要な溝かと思われる。上方の調査地区にも類似する溝址が幾つかあったことからそのうちの一つが繋るに違いないと思う。

平安時代の遺構としては溝址2だけに留まっているが、発見遺物のなかには須恵器・灰釉陶器片もあり、道路北西の桑畠では須恵器・灰釉陶器片・中世陶器片の表面採集が多く出来るので、この時期の遺構も近くに存在するに違いない。

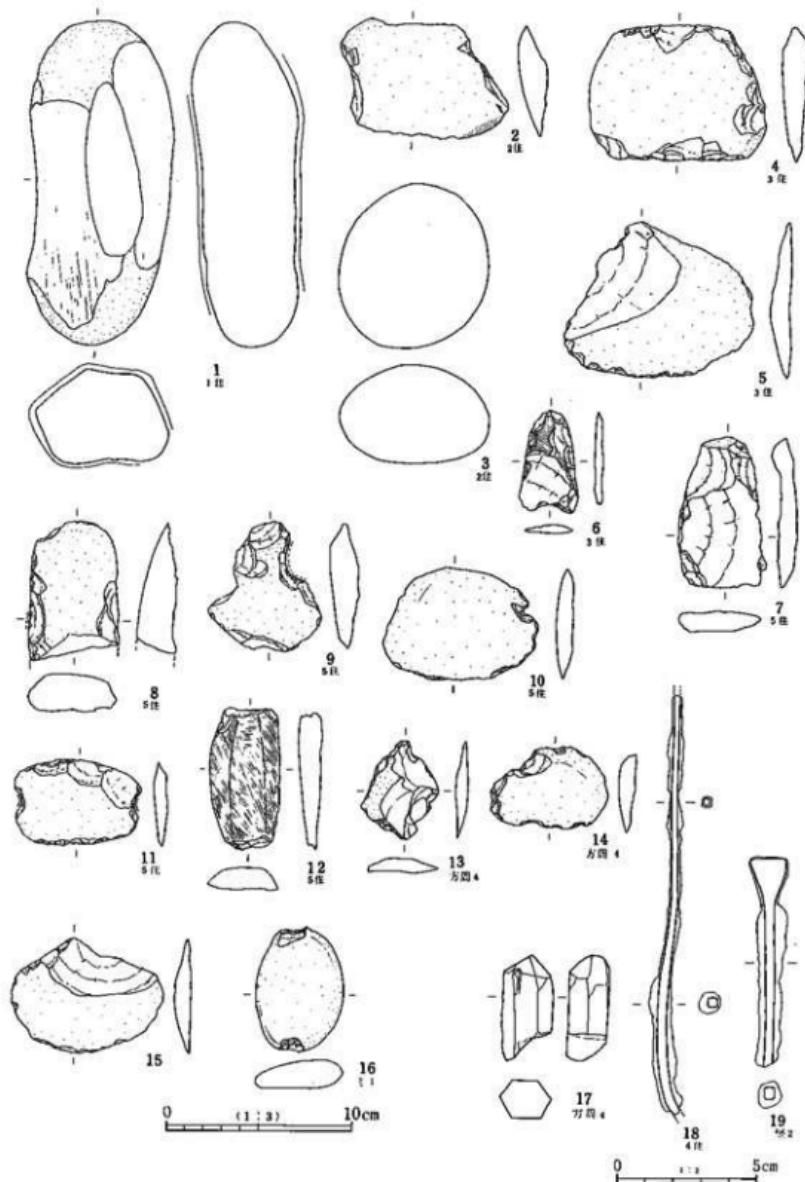


第1図 TRS 1号住居址（1～4）、2号住居址（5・6）、3号住居址（8～12）

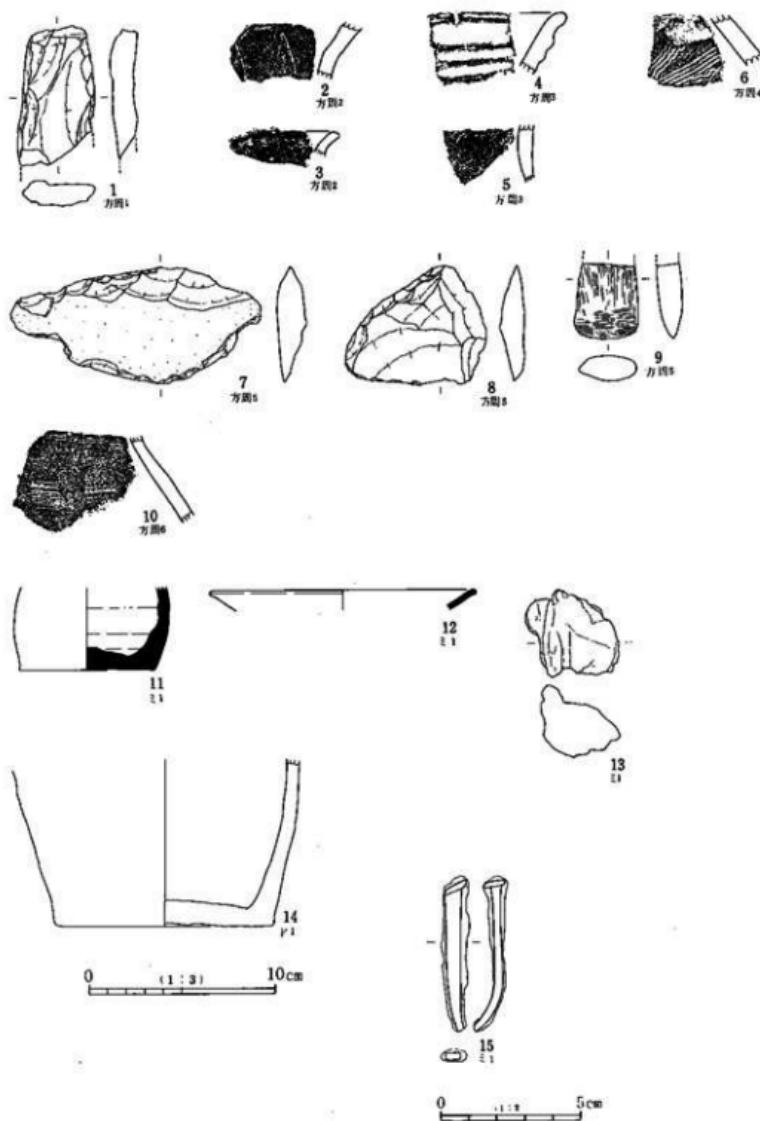
5号住居址（13～16）出土土器



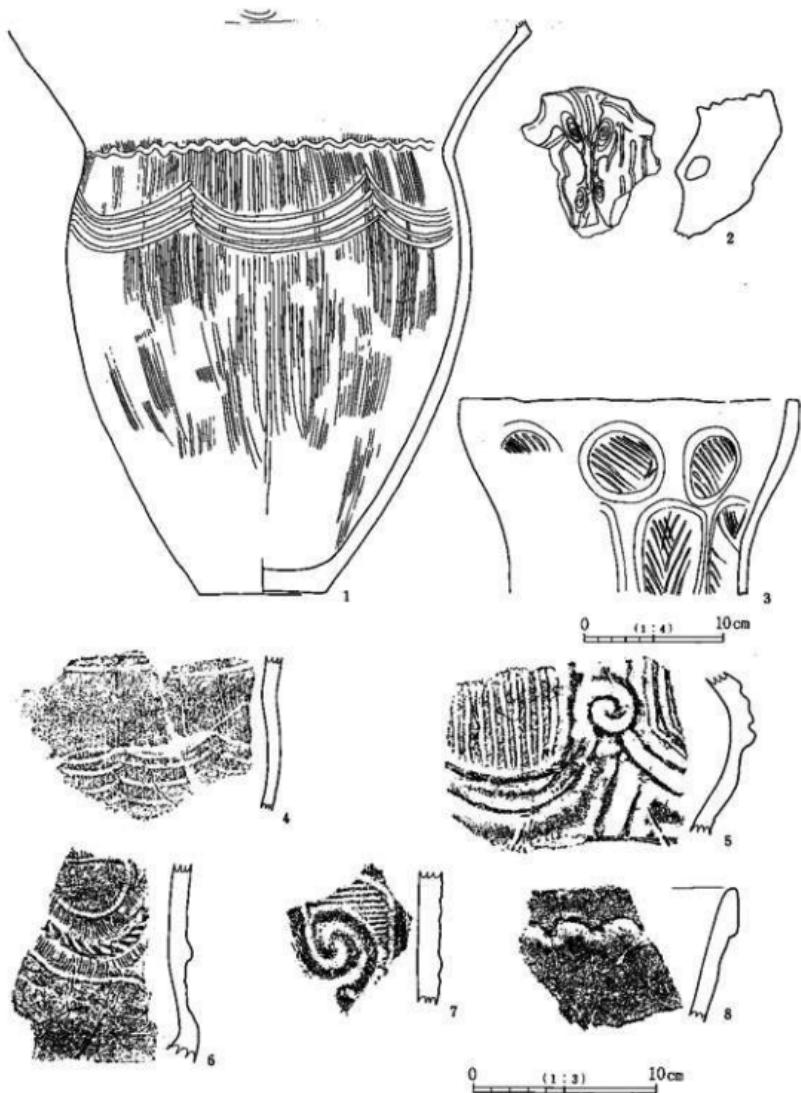
第2図 TRS 4号住居址 (1~12)、方形周溝墓 (13~19)  
壁穴状遺構 (20)、土坑 (21~25) 出土土器



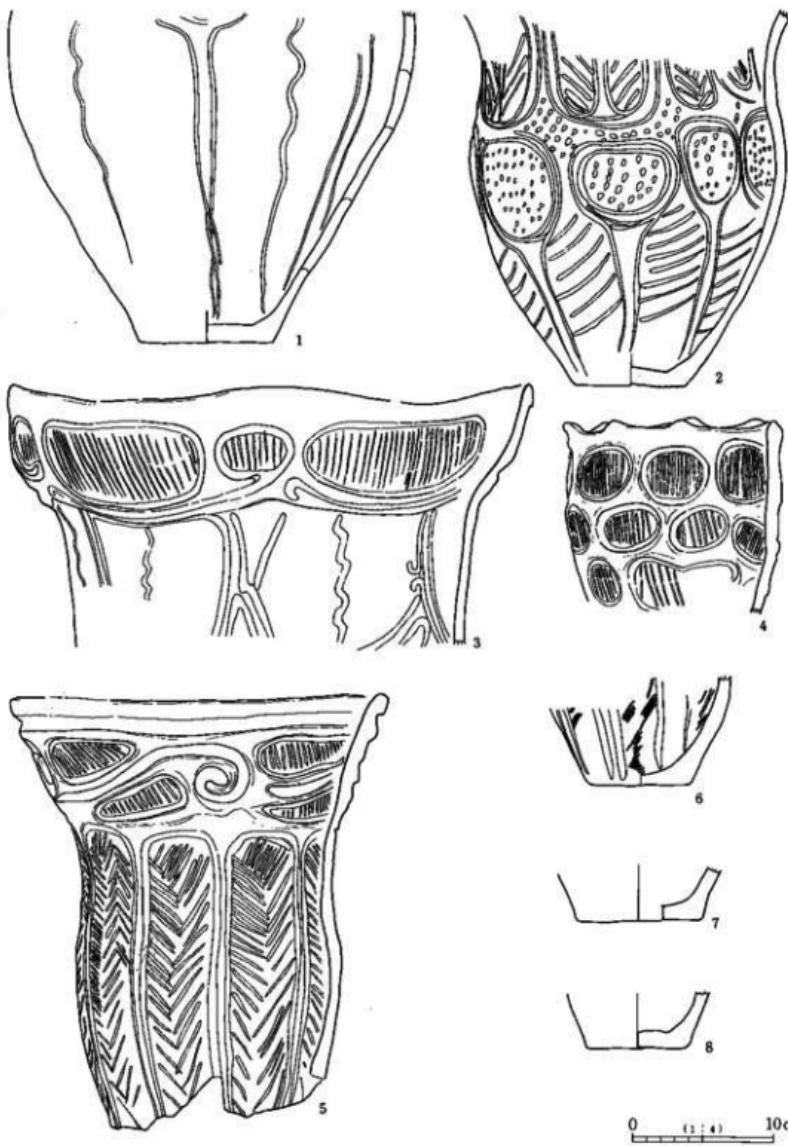
第3図 TRS出土石器（1～16）・水晶（17）・鉄器（18・19）



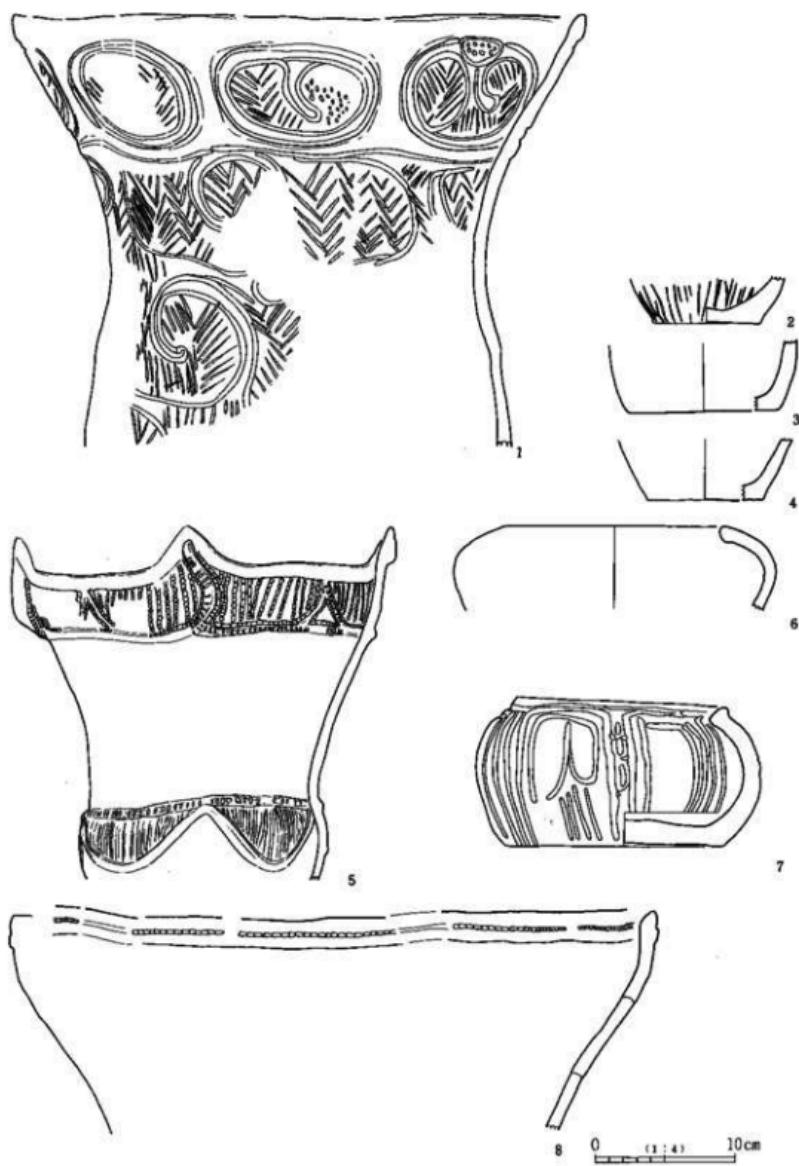
第4図 MKD 出土遺物



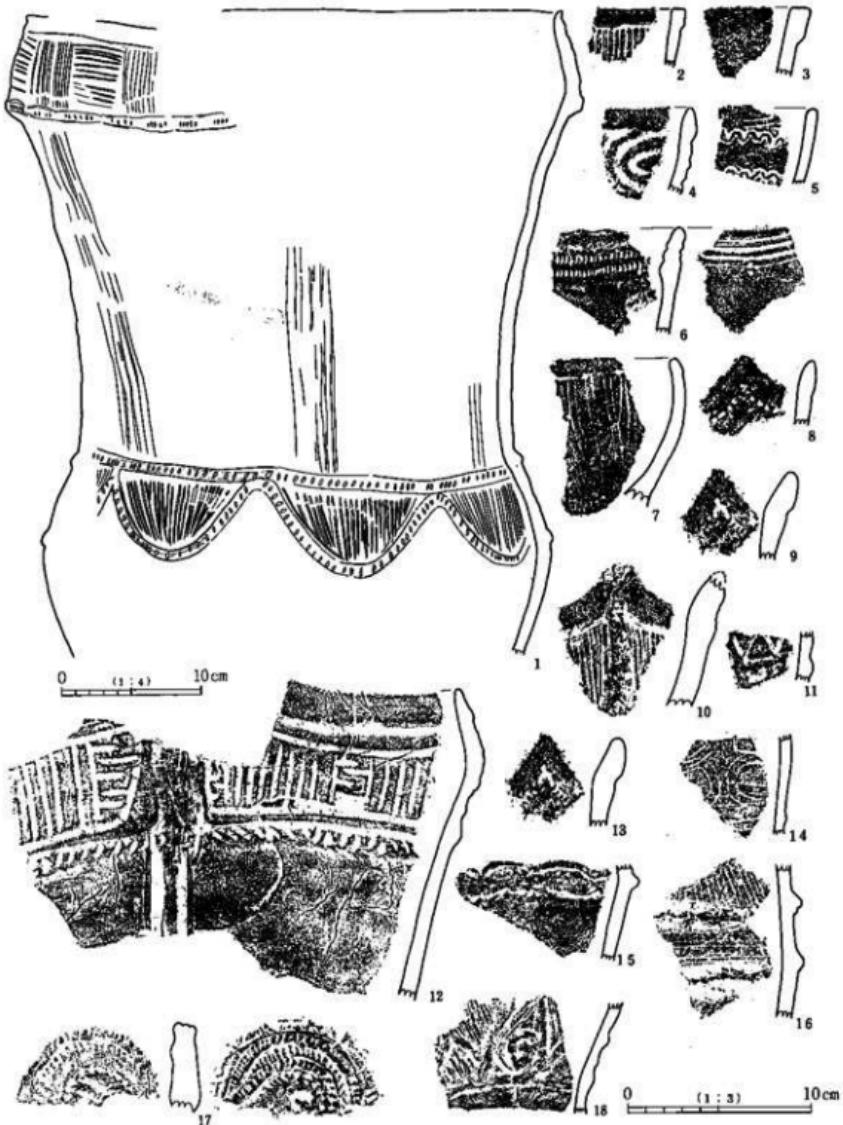
第5図 MSD 1号住居址出土土器



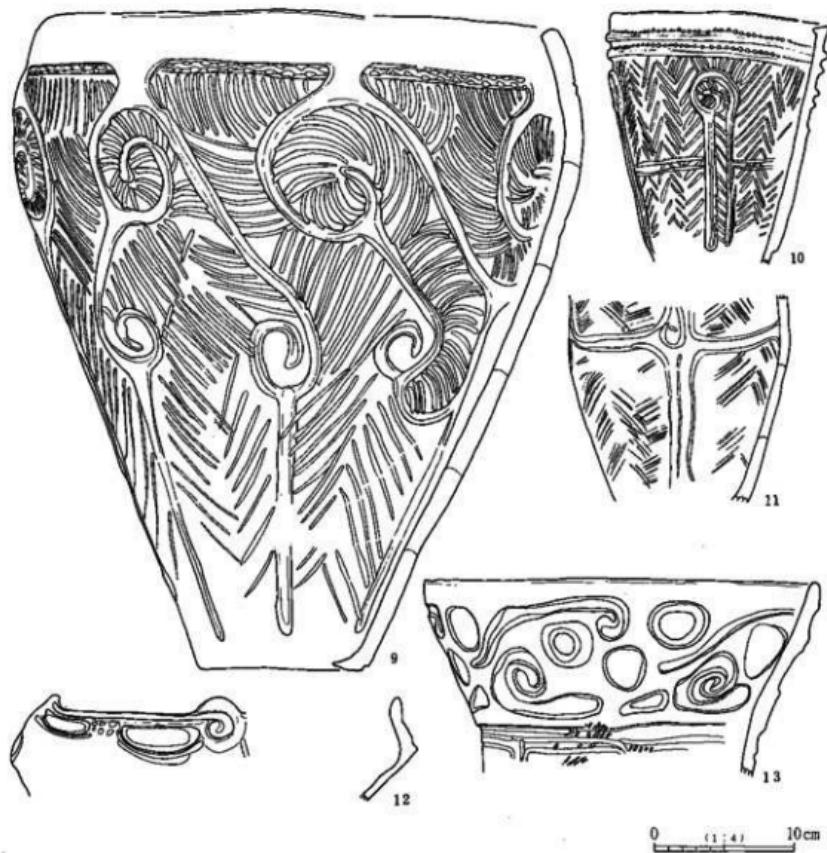
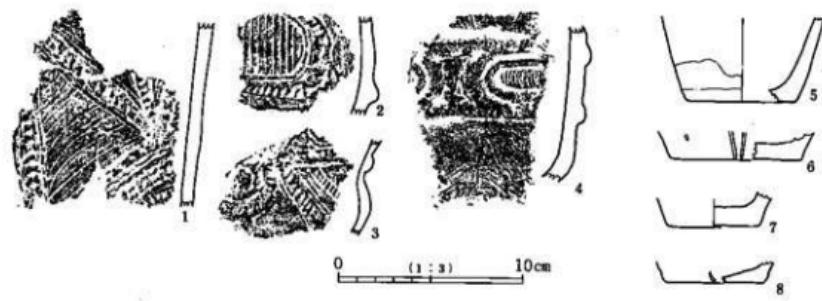
第6図 MSD 2号住居址出土土器



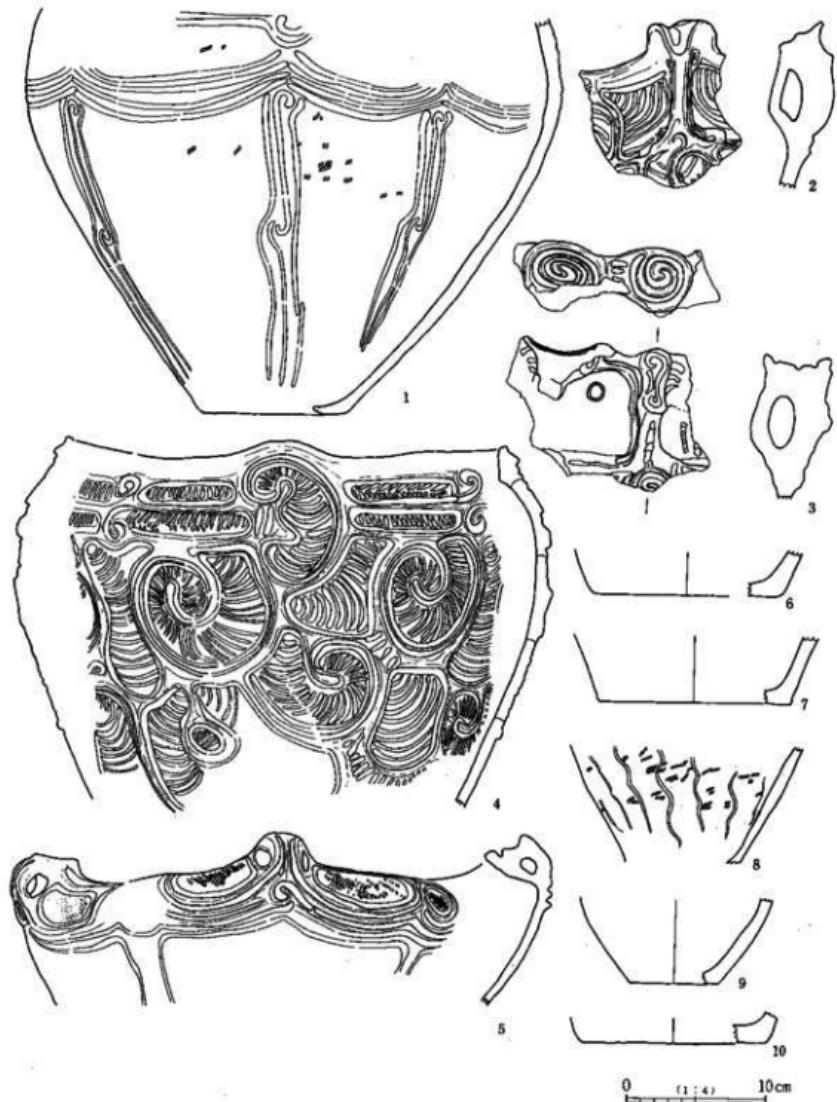
第7図 MSD 2号住居址(1)、3号住居址(2~8)出土土器



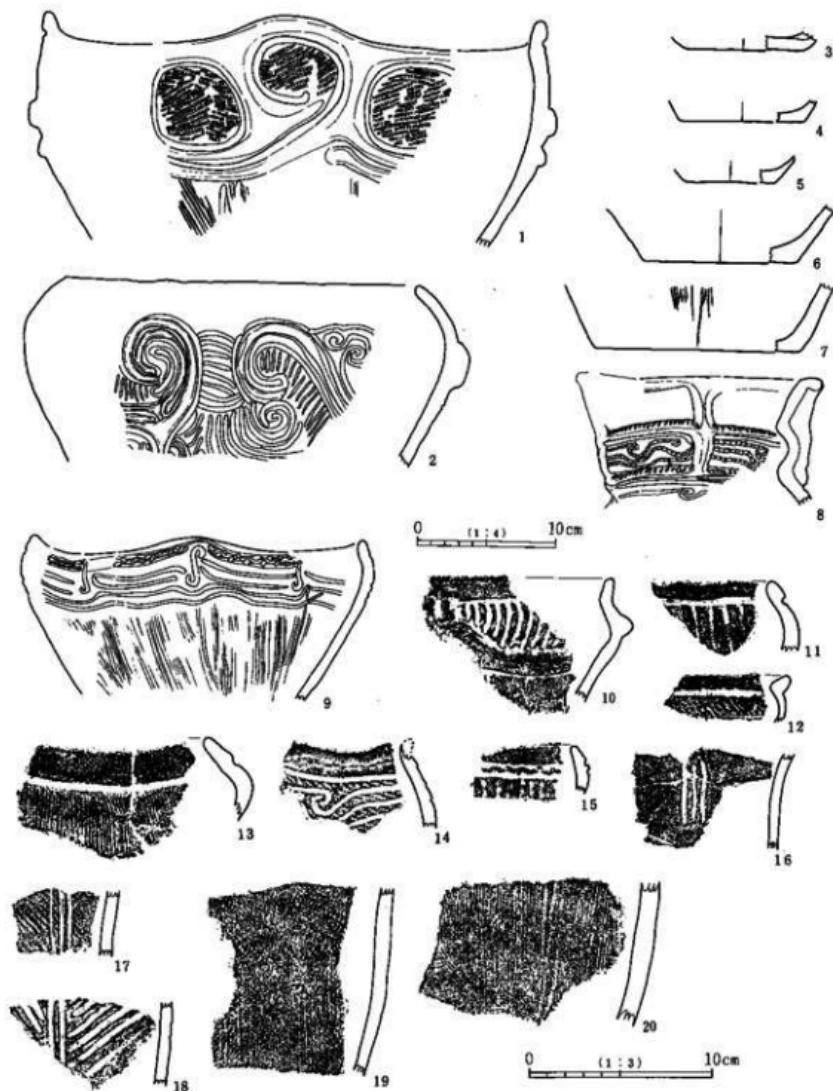
第8図 MSD 3号住居址出土土器



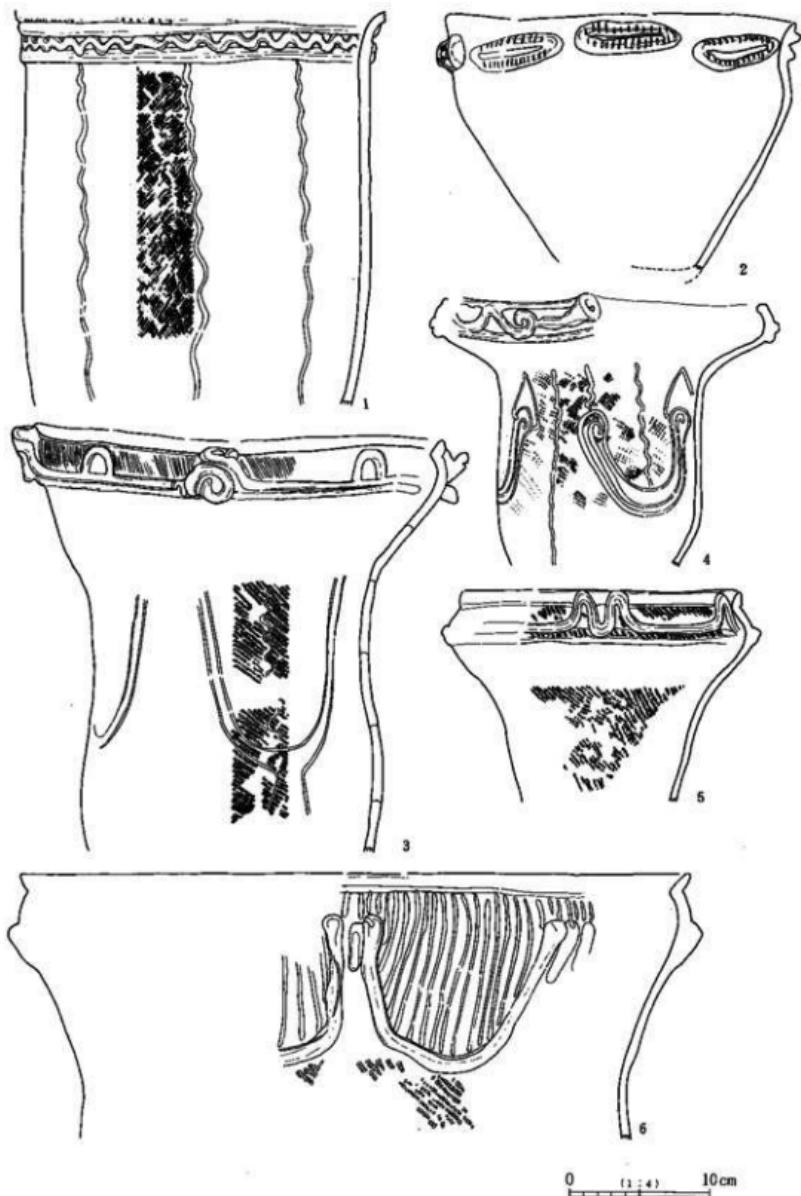
第9図 MSD 3号住居址(1~4)、5号住居址(5~13)出土土器



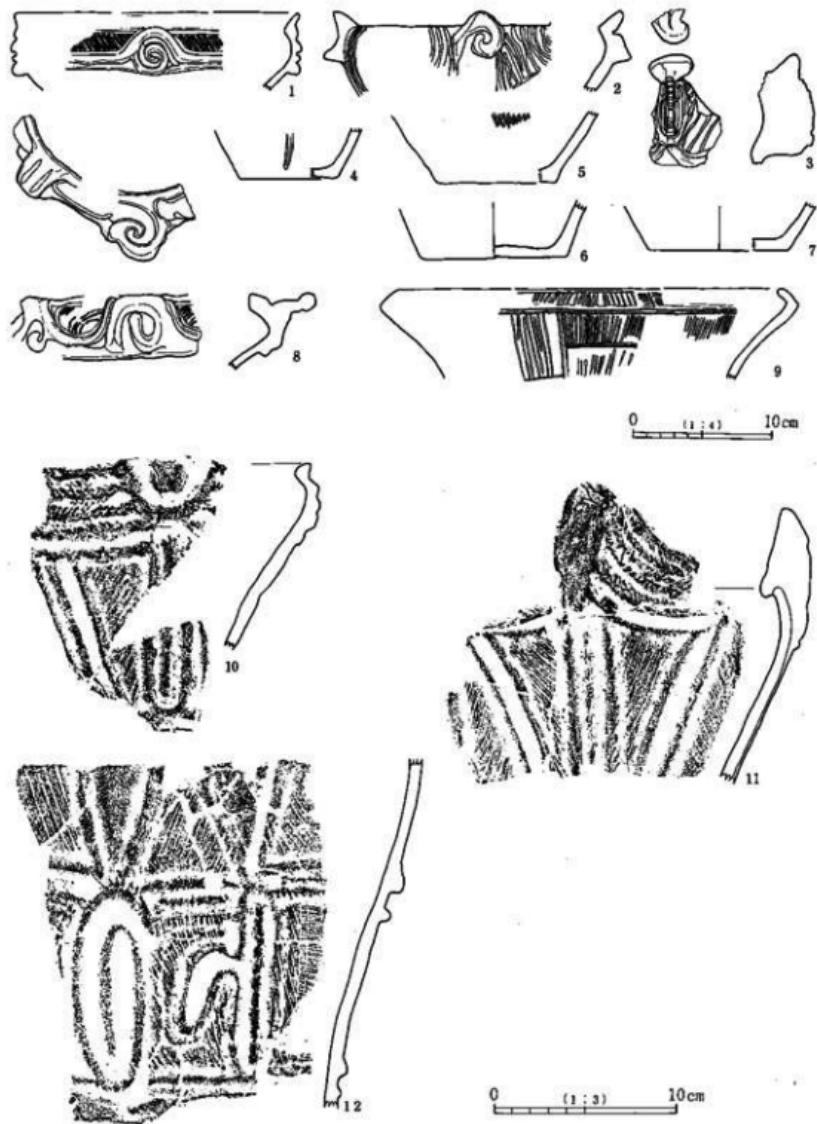
第10图 MSD 5号住居址出土土器



第11図 MSD 5号住居址(1・2)、6号住居址(3~20)出土土器



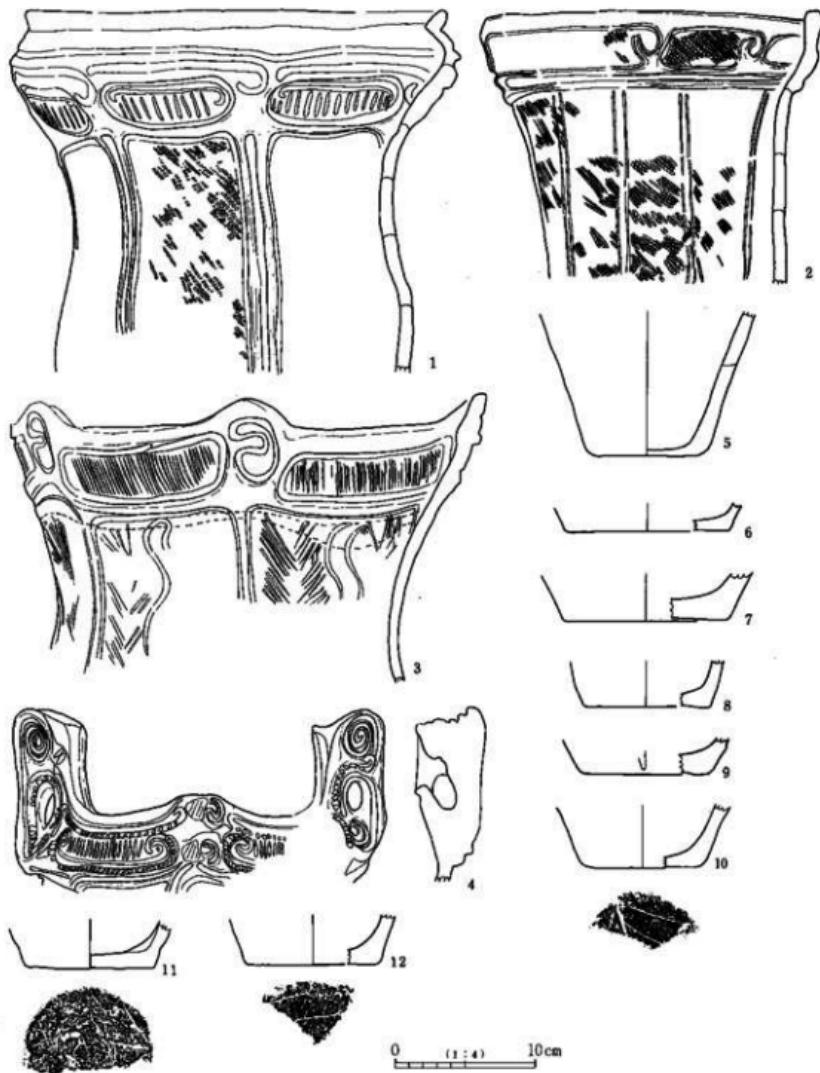
第12図 MSD 7号住居址出土土器 (1)



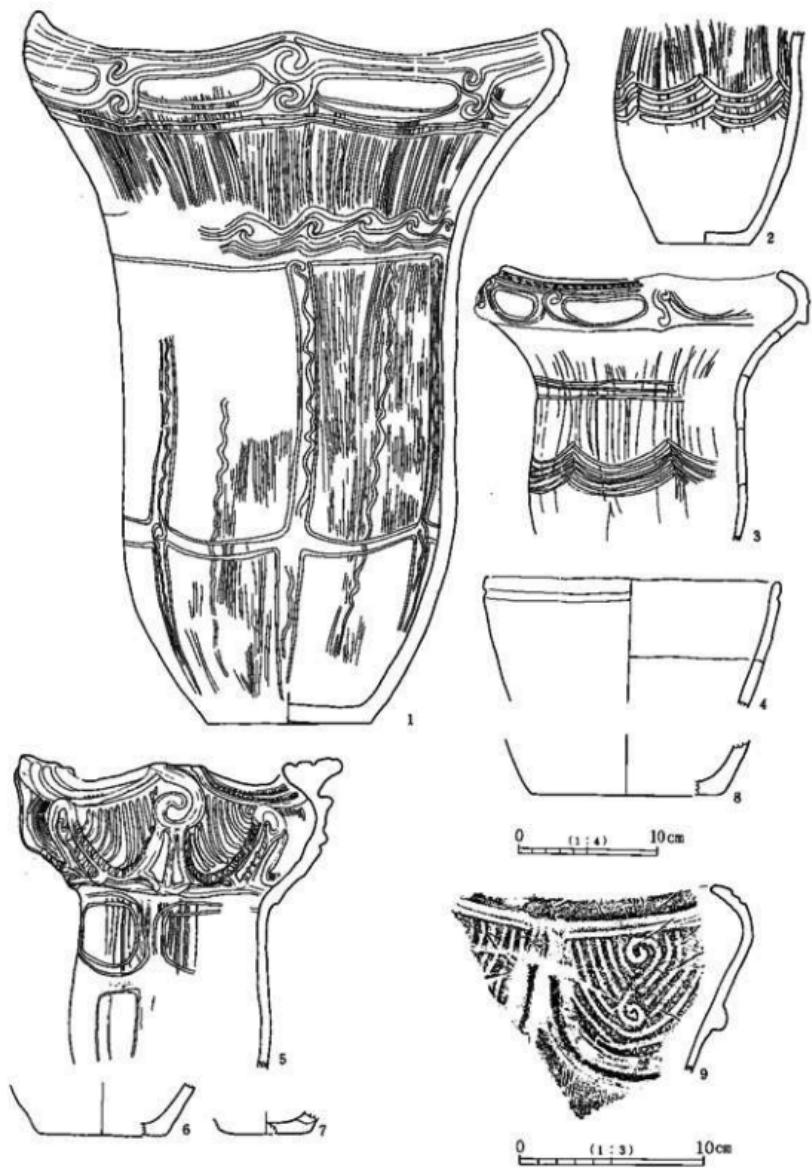
第13图 MSD 7号住居址出土器 (2)



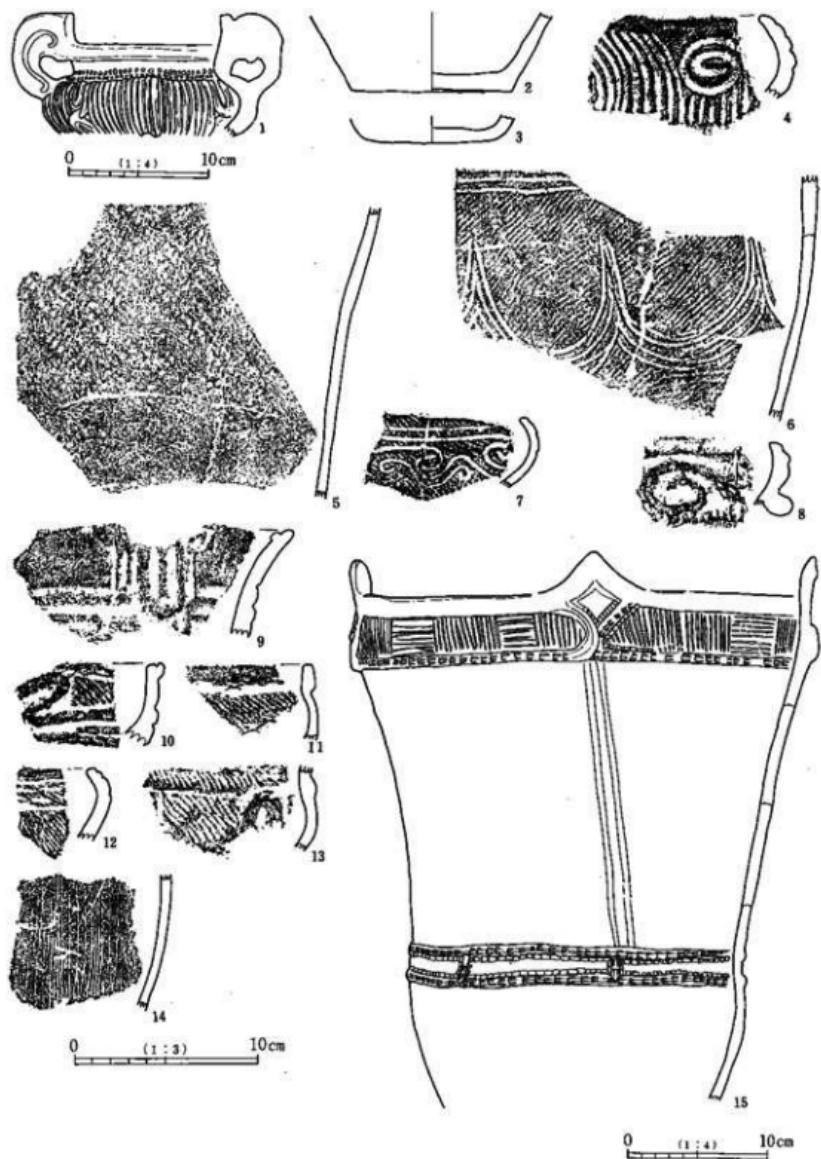
第14図 MSD 8号住居址出土土器 (1)



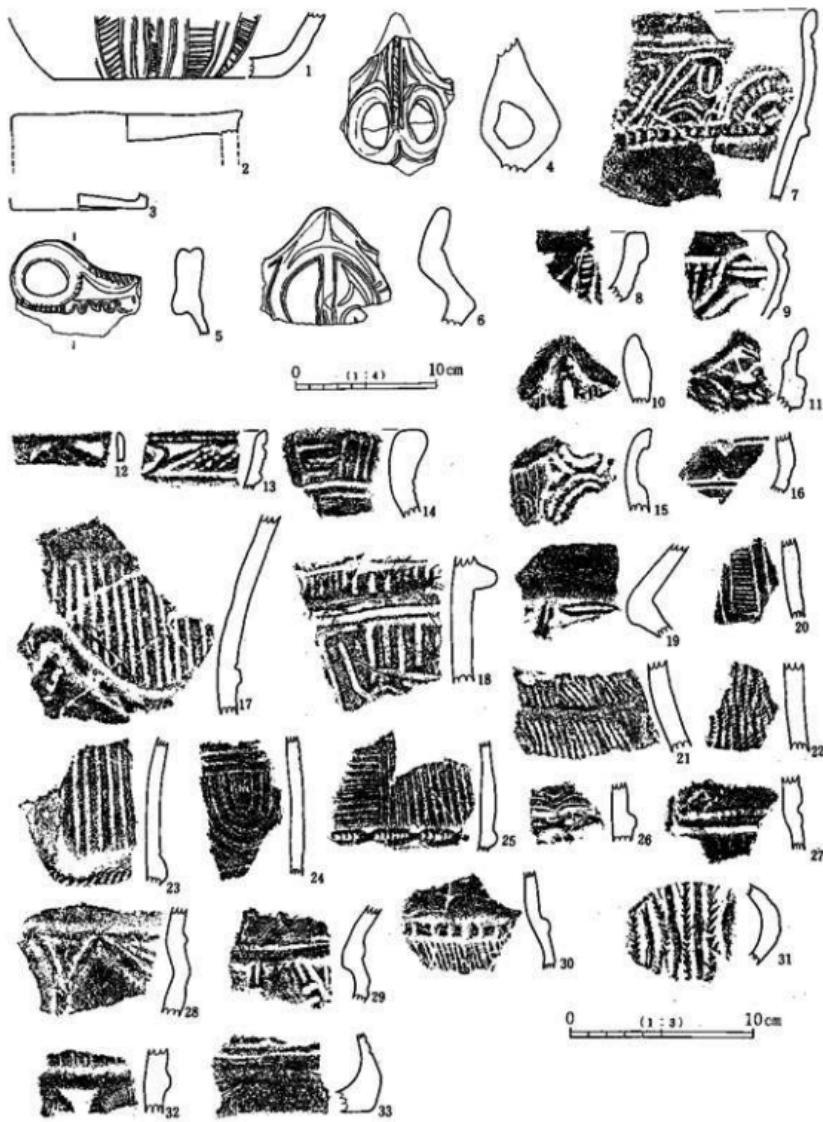
第15图 MSD 8号住居址出土土器 (2)



第16図 MSD 9号住居址出土土器



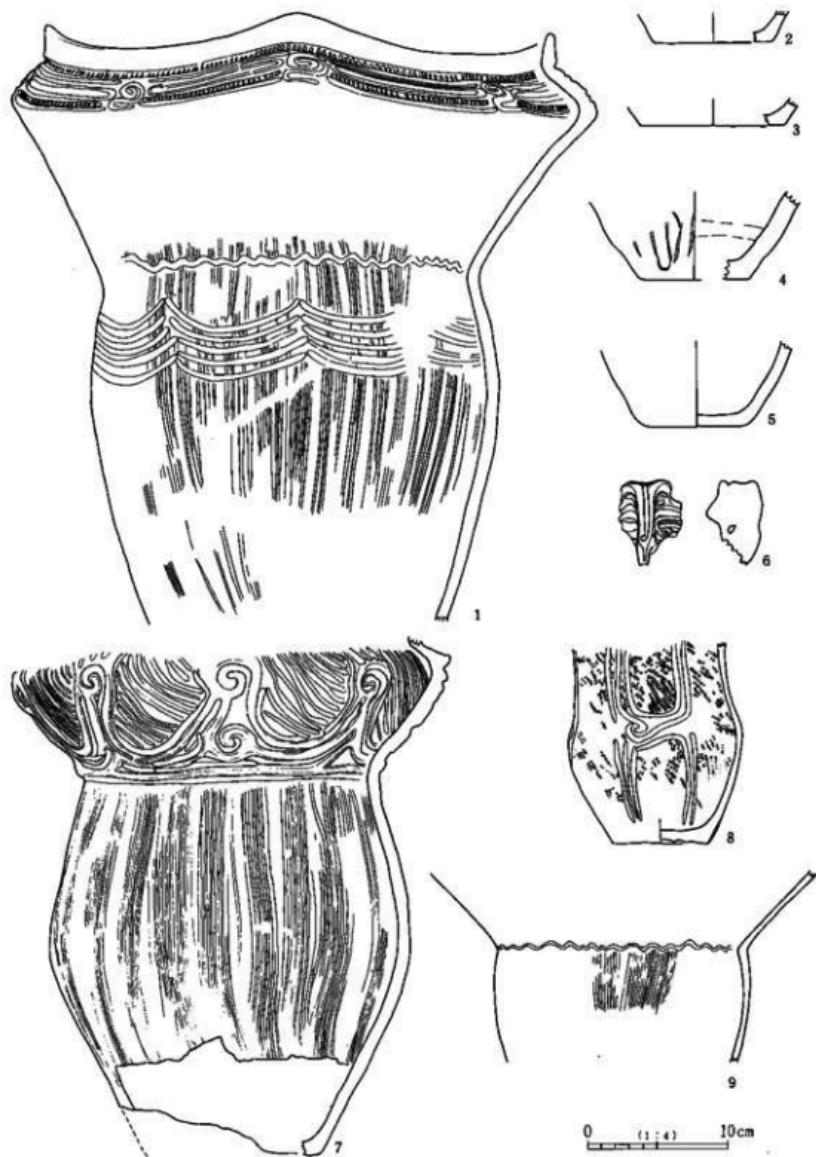
第17図 MSD 10号住居址（1～14）、11号住居址（15）出土土器



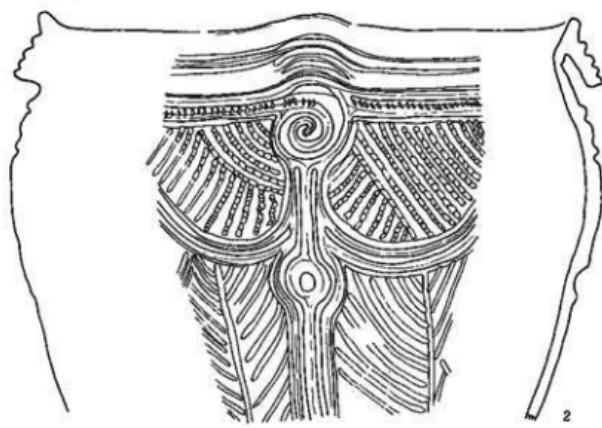
第18図 MSD 11号住居址出土土器



第19圖 MSD 12號住居址出土土器

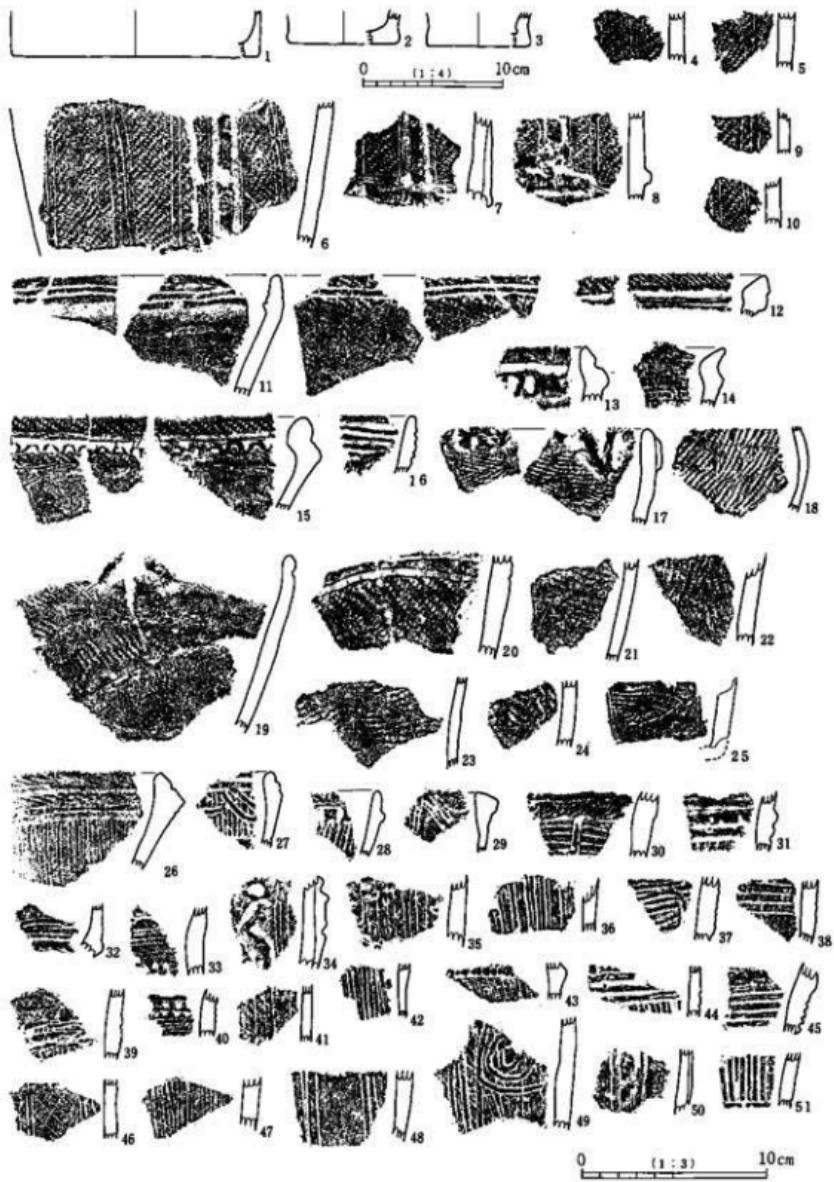


第20図 MSD 13号住居址出土土器 (1)

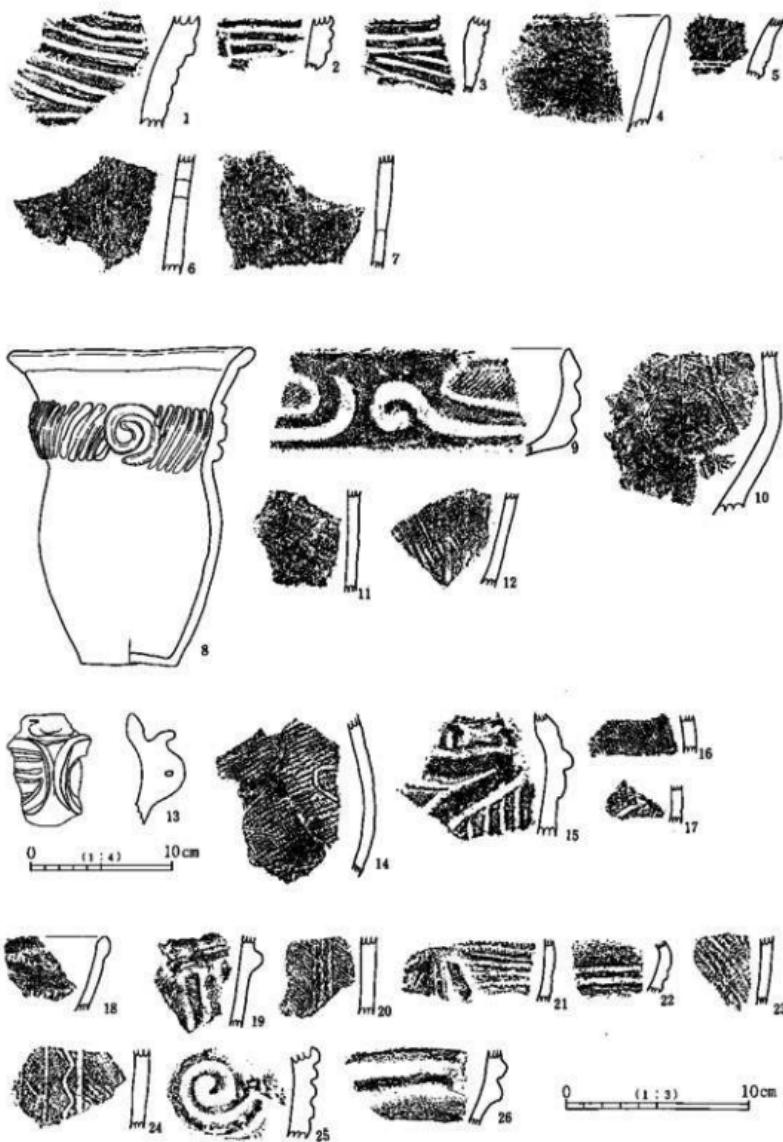


0 1 : 41 10 cm

第21图 MSD 13号住居址出土土器 (2)

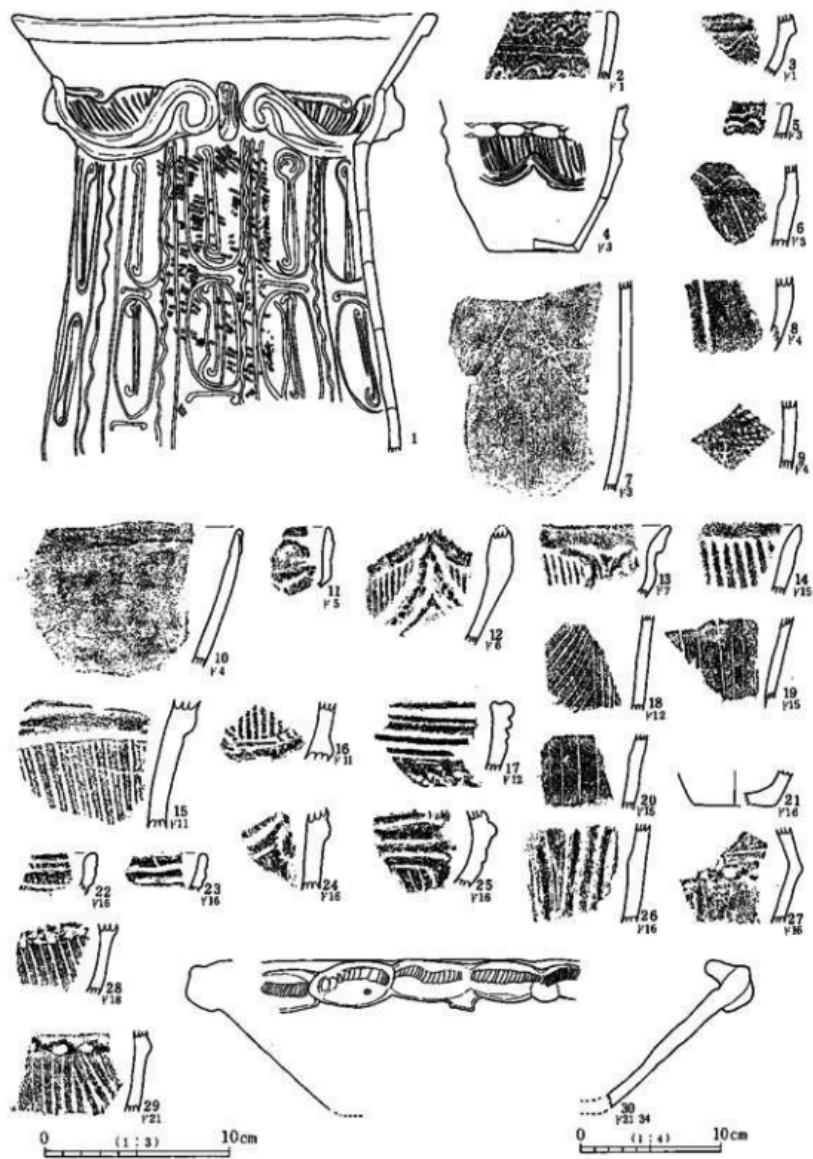


第22图 MSD 14号住居址出土土器

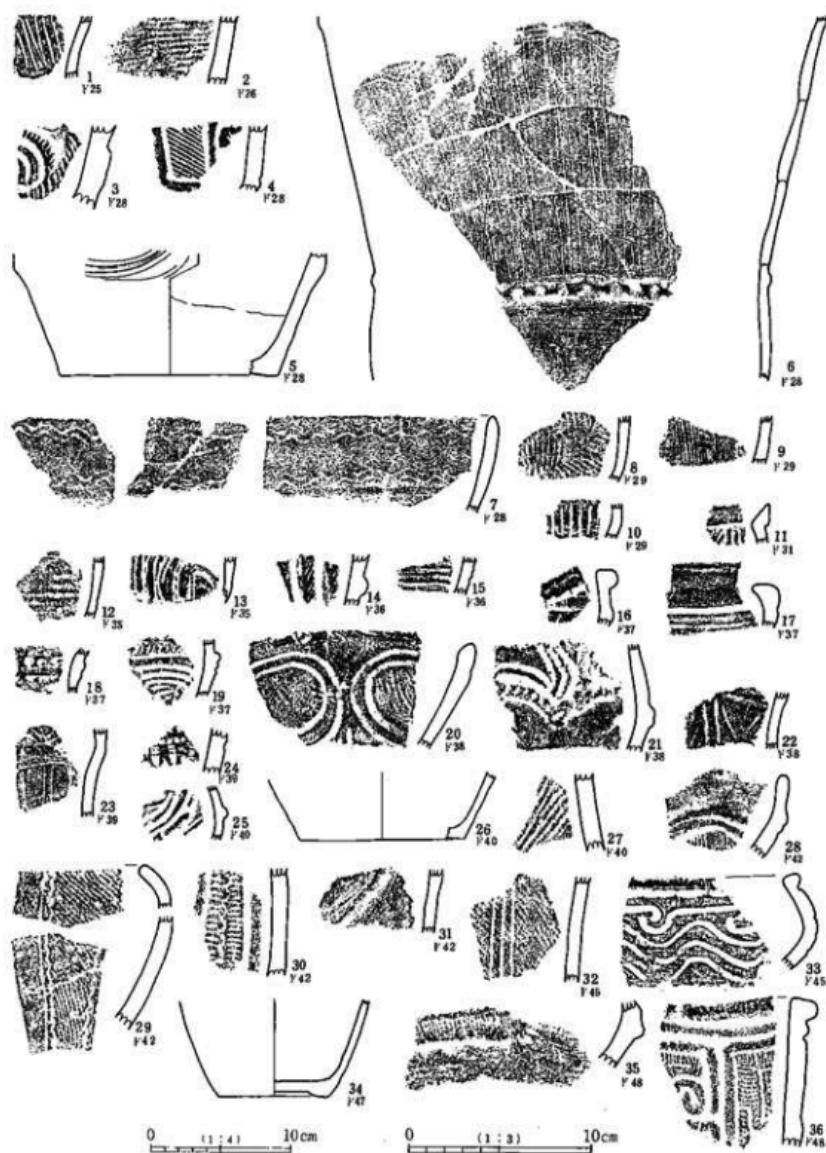


第23図 MSD 14号住居址 (1~7)、15号住居址 (8~12)

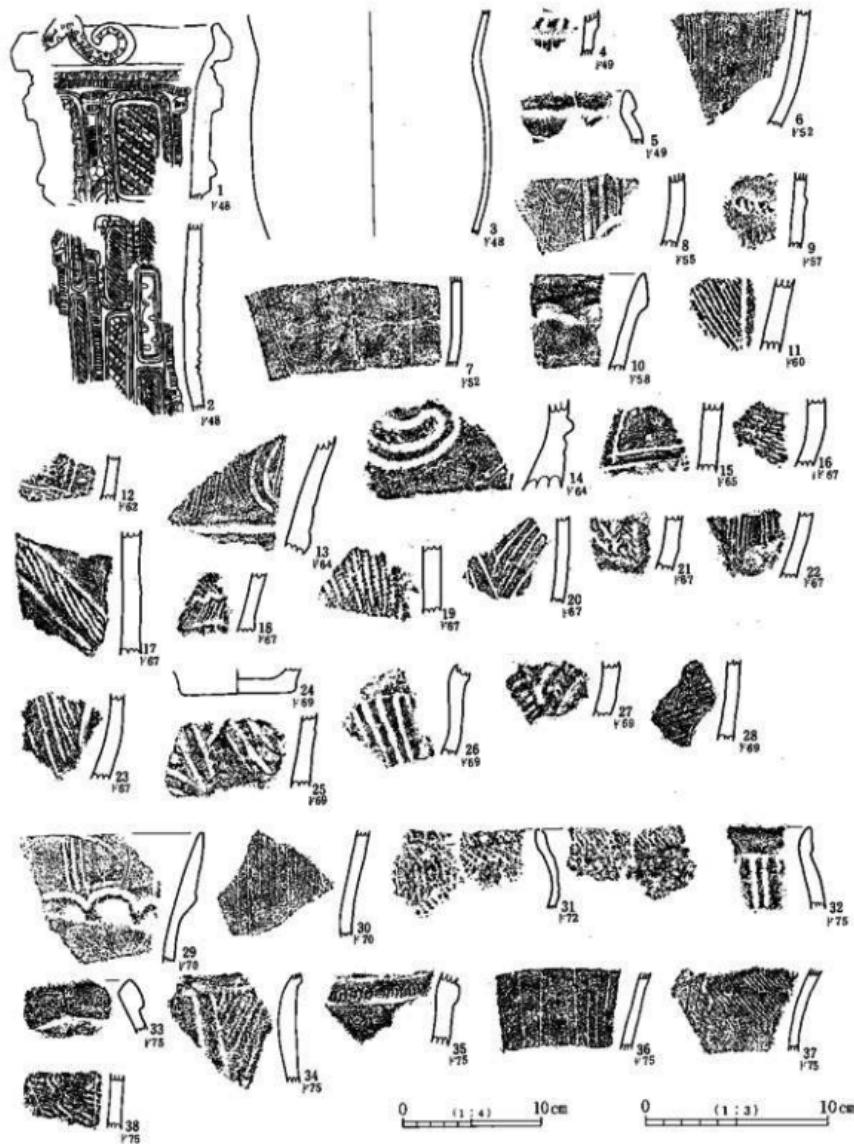
16号住居址 (13~17)、18号住居址 (18~26) 出土土器



第24図 MSD 18号住居址(1)、土坑出土土器



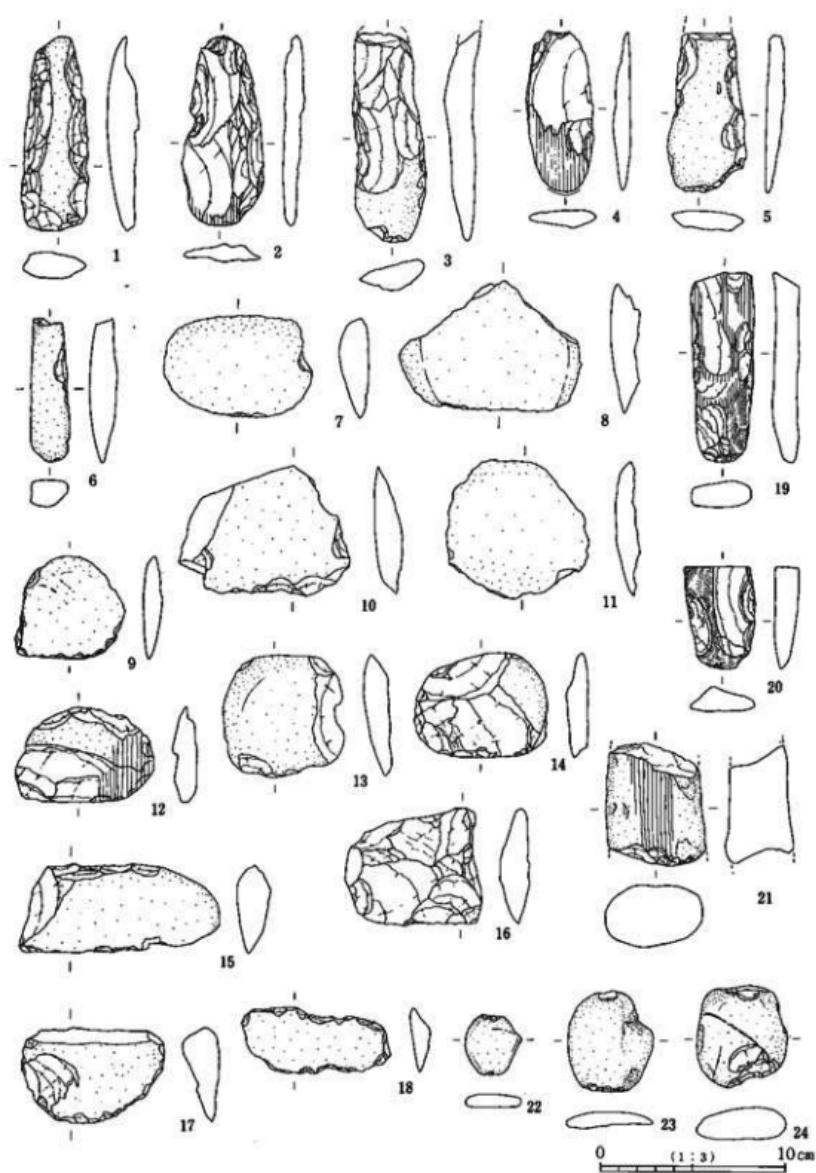
第25図 MSD 土坑出土土器 (1)



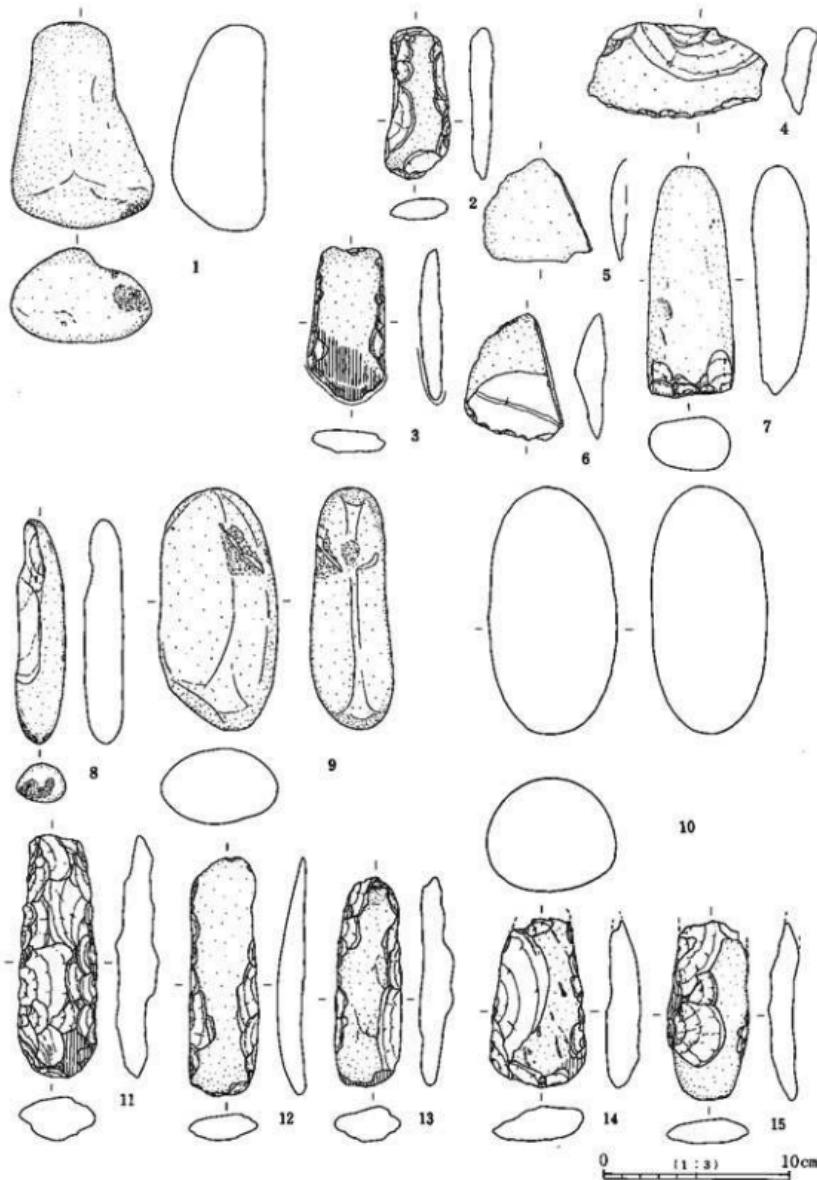
第26図 MSD 土坑出土土器 (2)



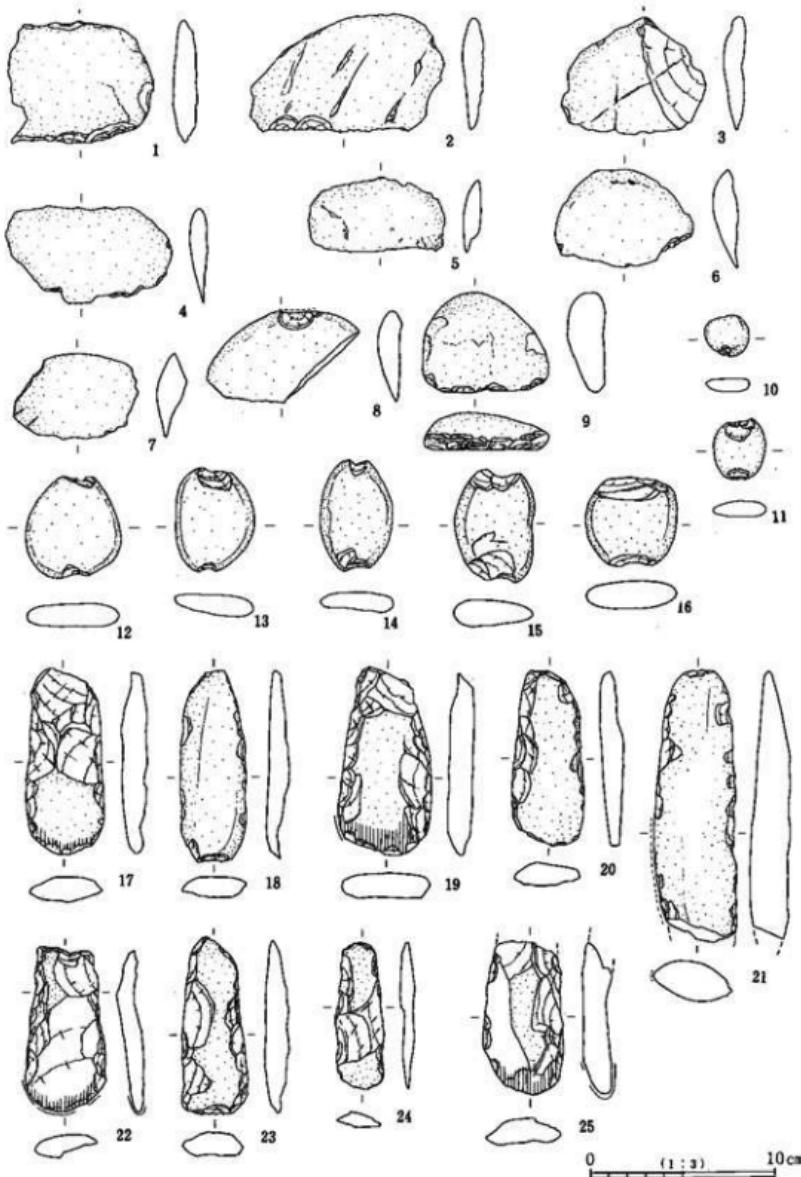
第27図 MSD 土坑 (1~14、第I地区 (15~24)、第II地区 (25) 出土土器



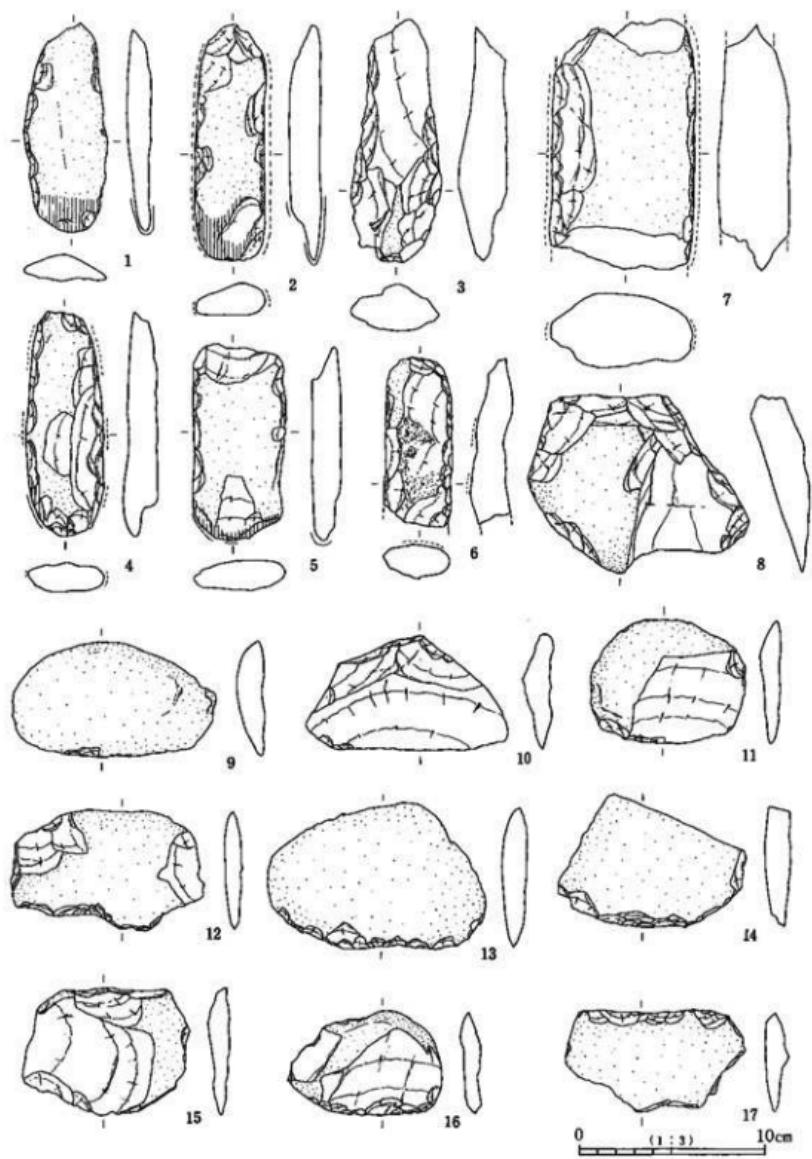
第28图 MSD 1号住居址出土石器



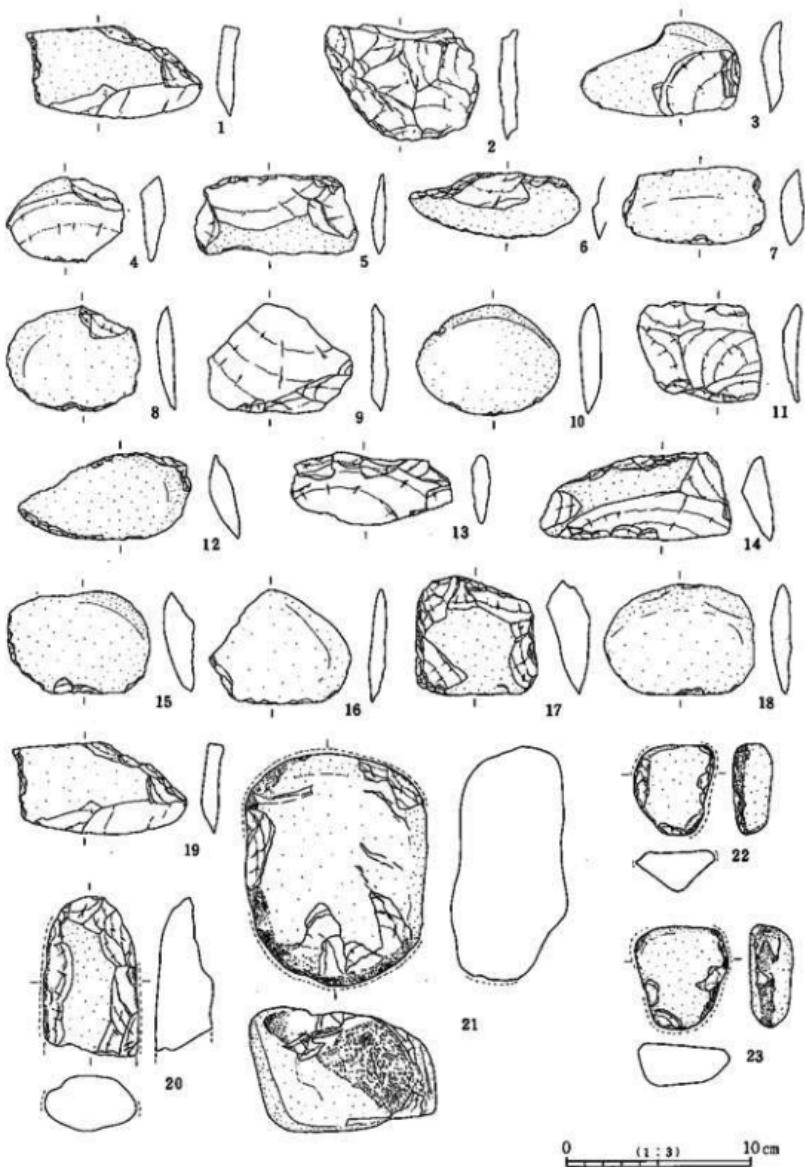
第29図 MSD 1号住居址(1)、2号住居址(2~10)、3号住居址(11~15)出土石器



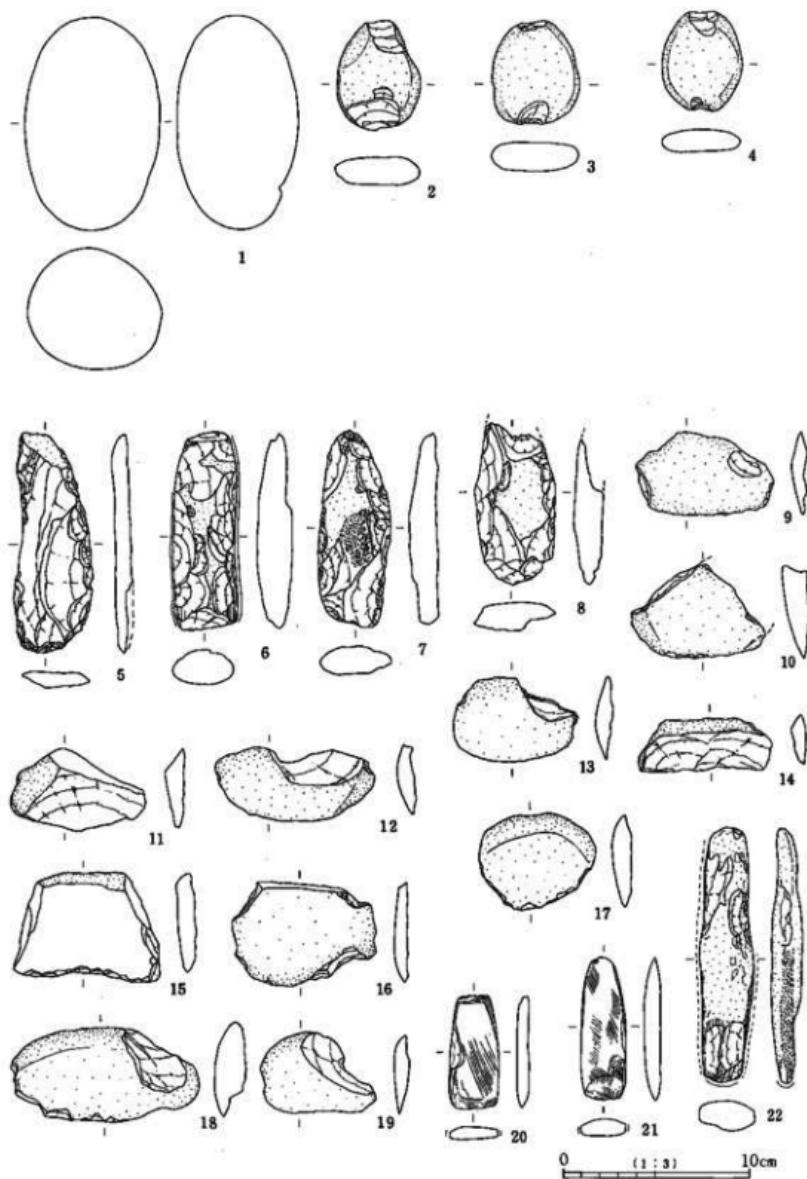
第30図 MSD 3号住居址(1~16)、5号住居址(17~25)出土石器



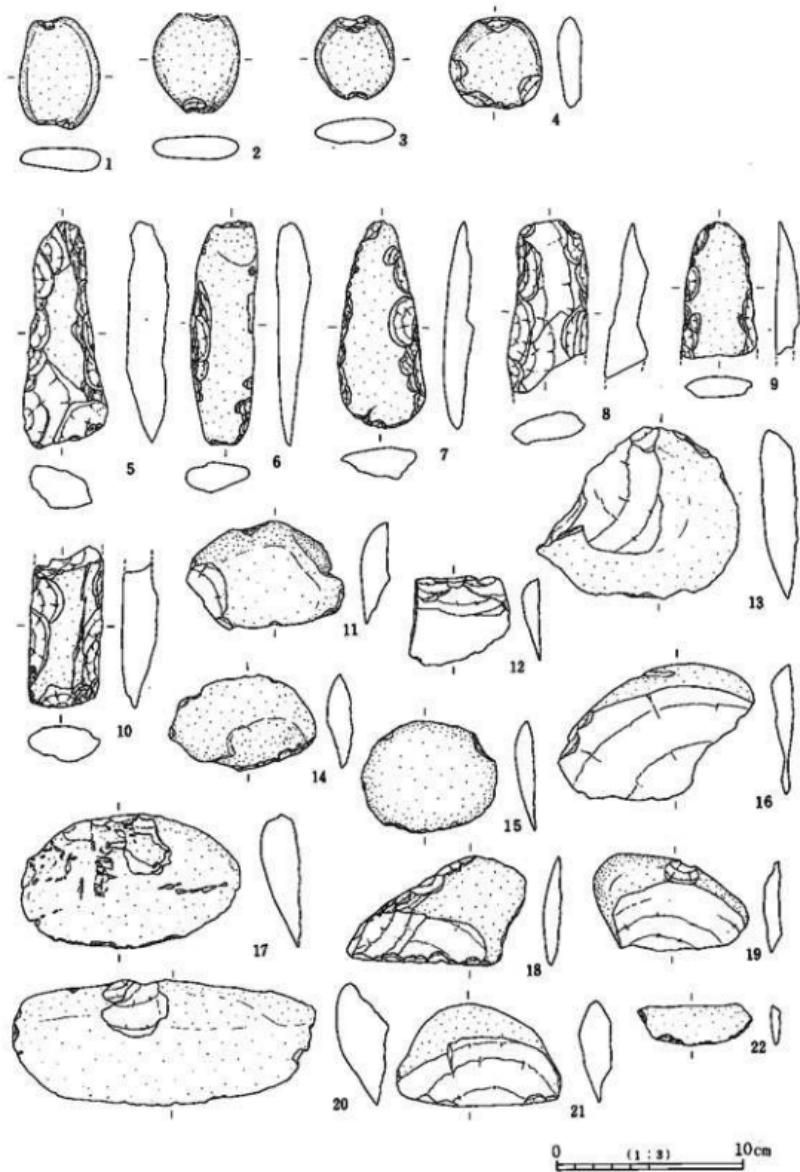
第31図 MSD 5号住居址出土石器 (1)



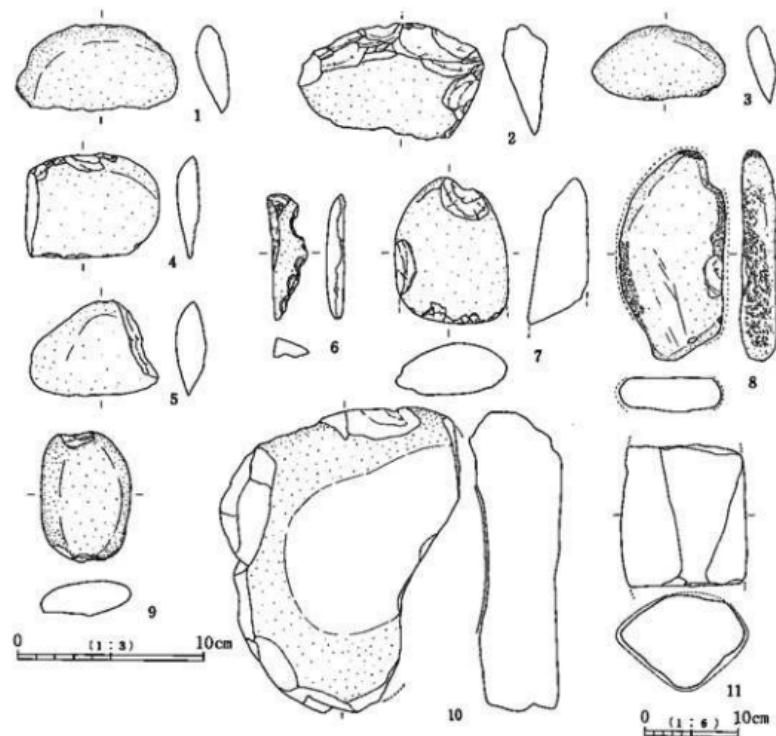
第32図 MSD 5号住居址出土石器(2)



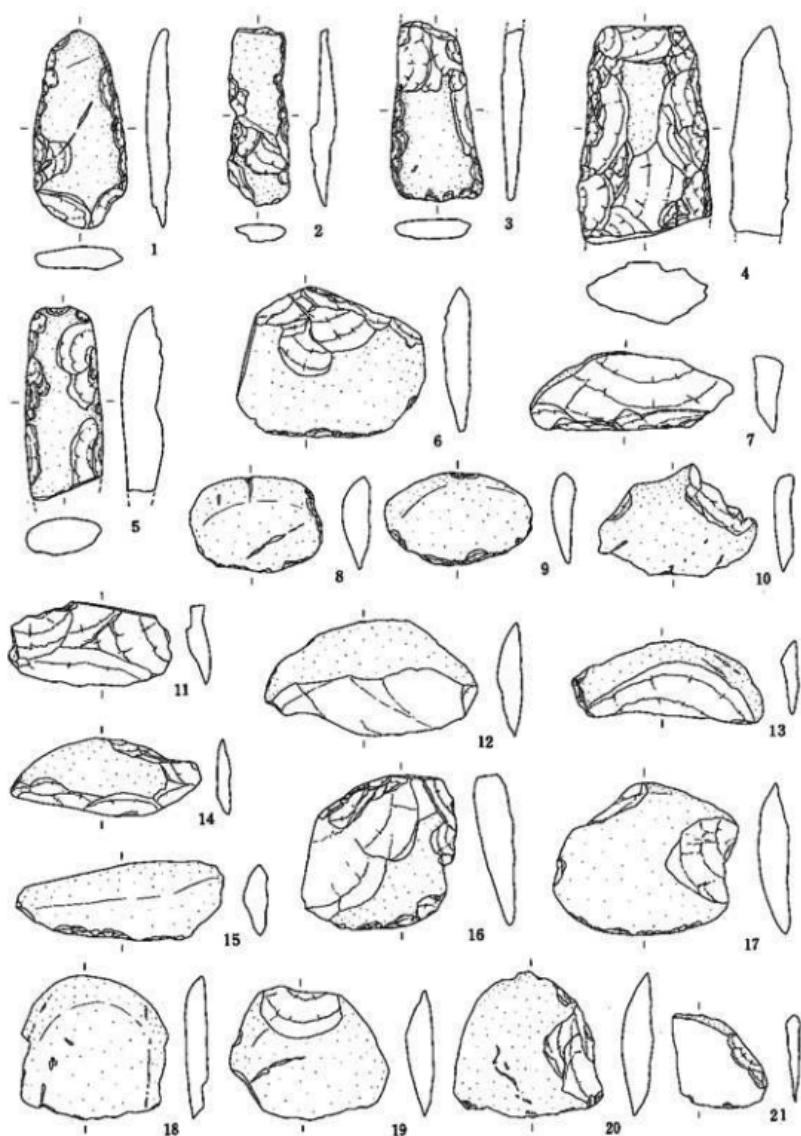
第33図 MSD 5号住居址(1~4)、6号住居址(5~22)出土石器



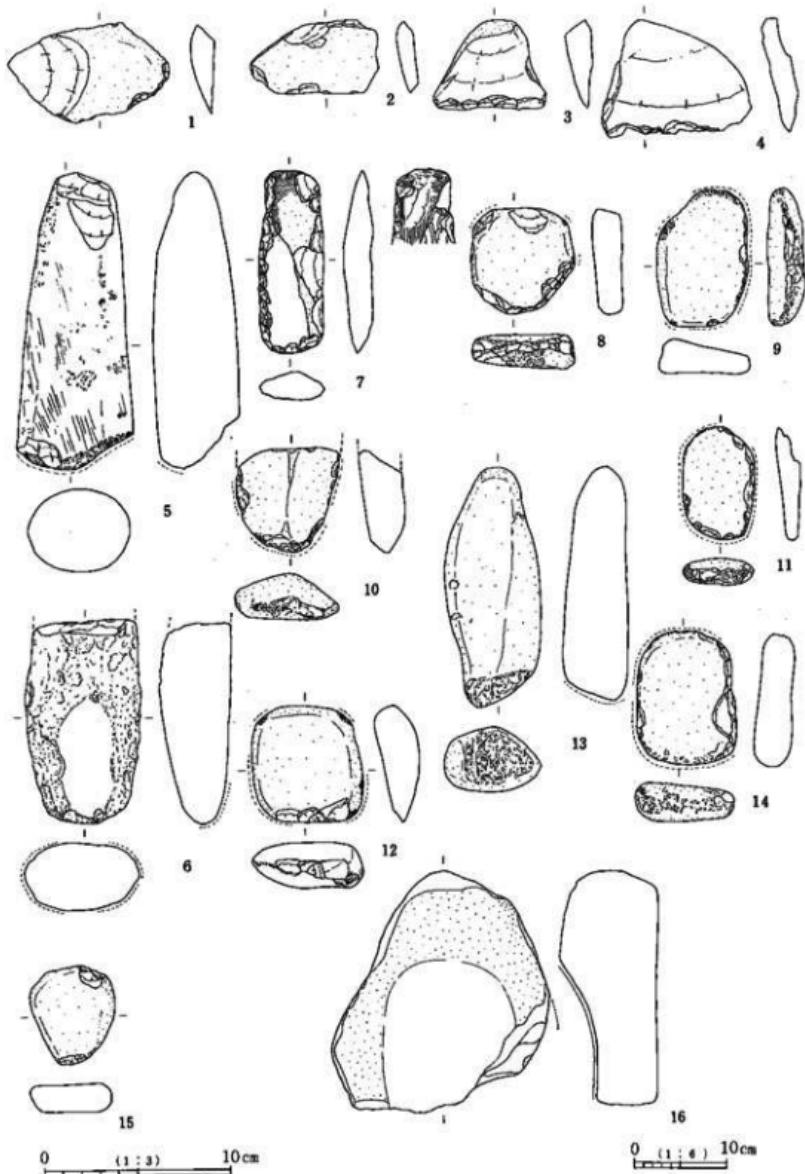
第34図 MSD 6号住居址(1~4)、7号住居址(5~22)出土石器



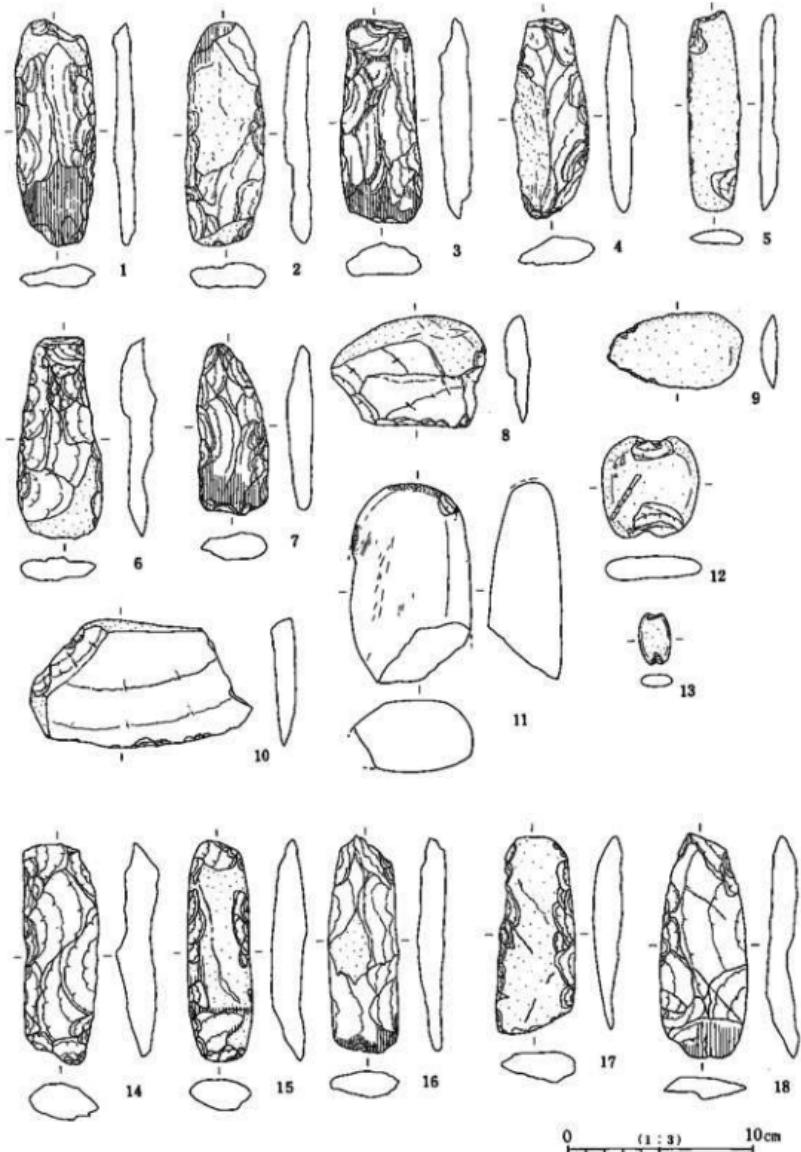
第35図 MSD 7号住居址（1～11）、8号住居址（12～16）出土石器



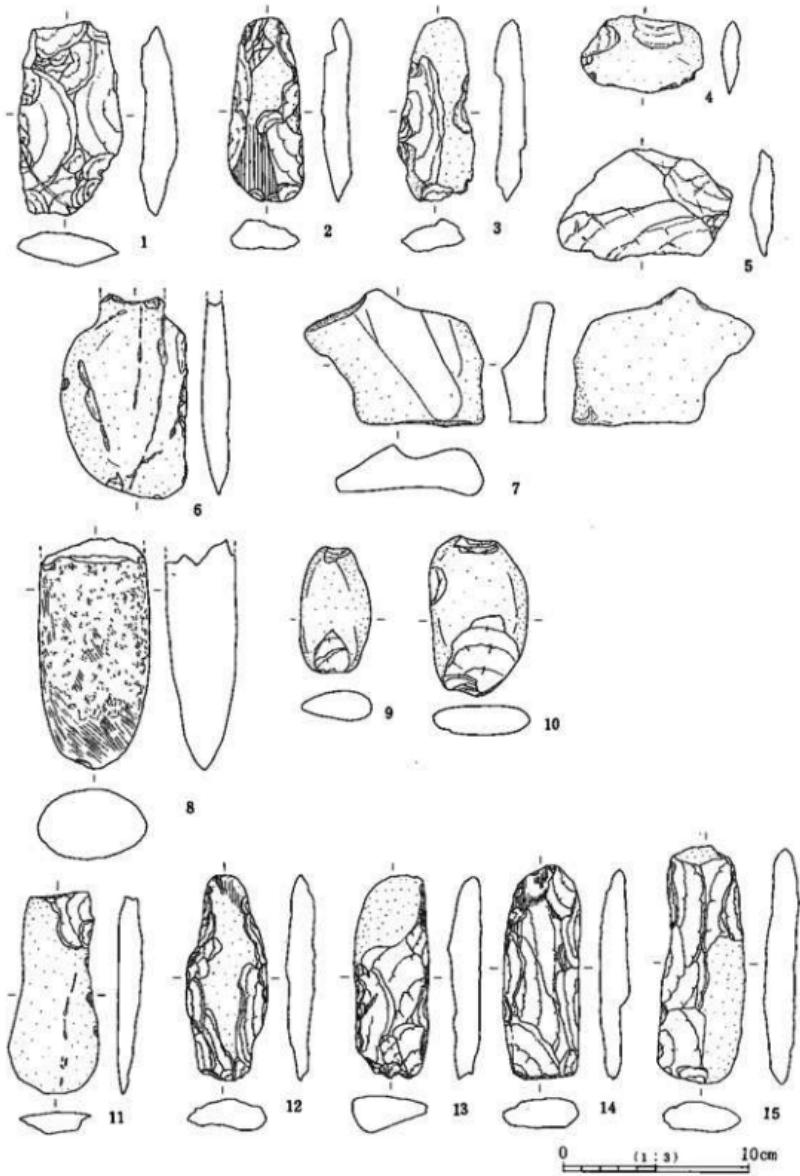
第36図 MSD 8号住居址出土石器(1)



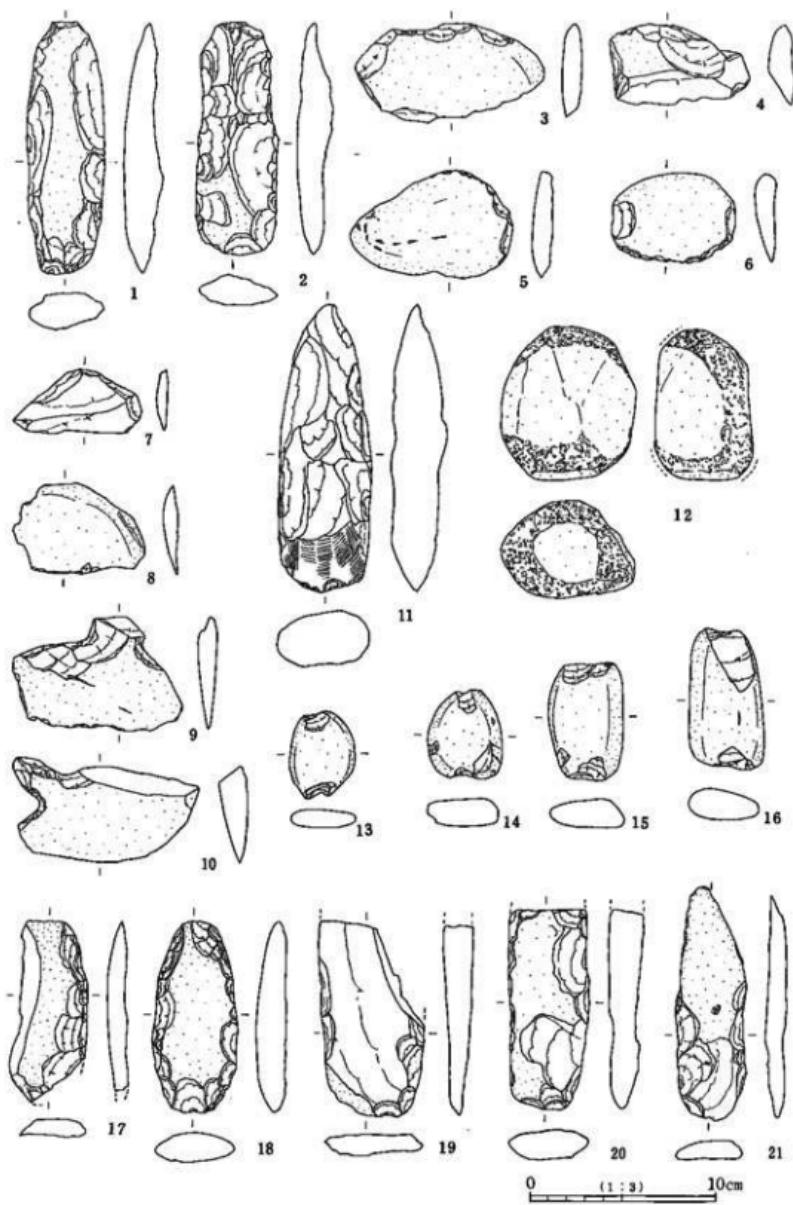
第37図 MSD 8号住居址出土石器 (2)



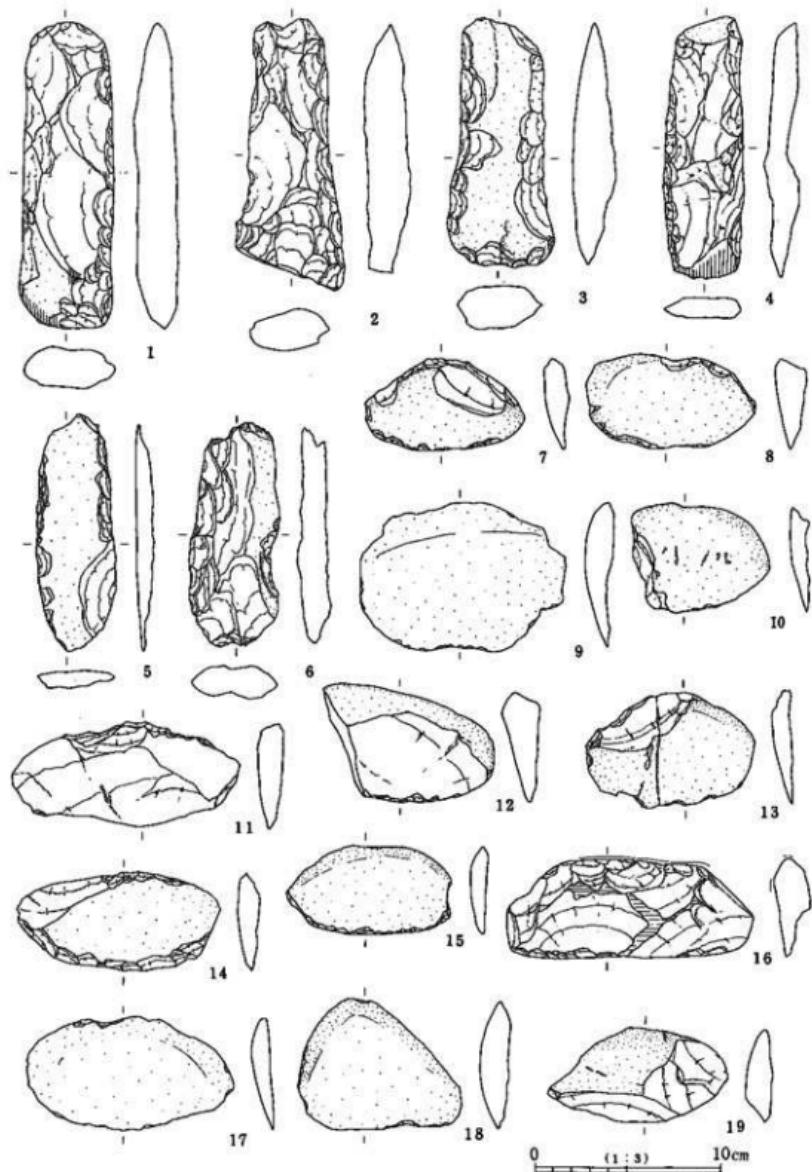
第38図 MSD 9号住居址(1~13)、10号住居址(14~18)出土石器



第39図 MSD 10号住居址（1～10）、11号住居址（11～15）出土石器



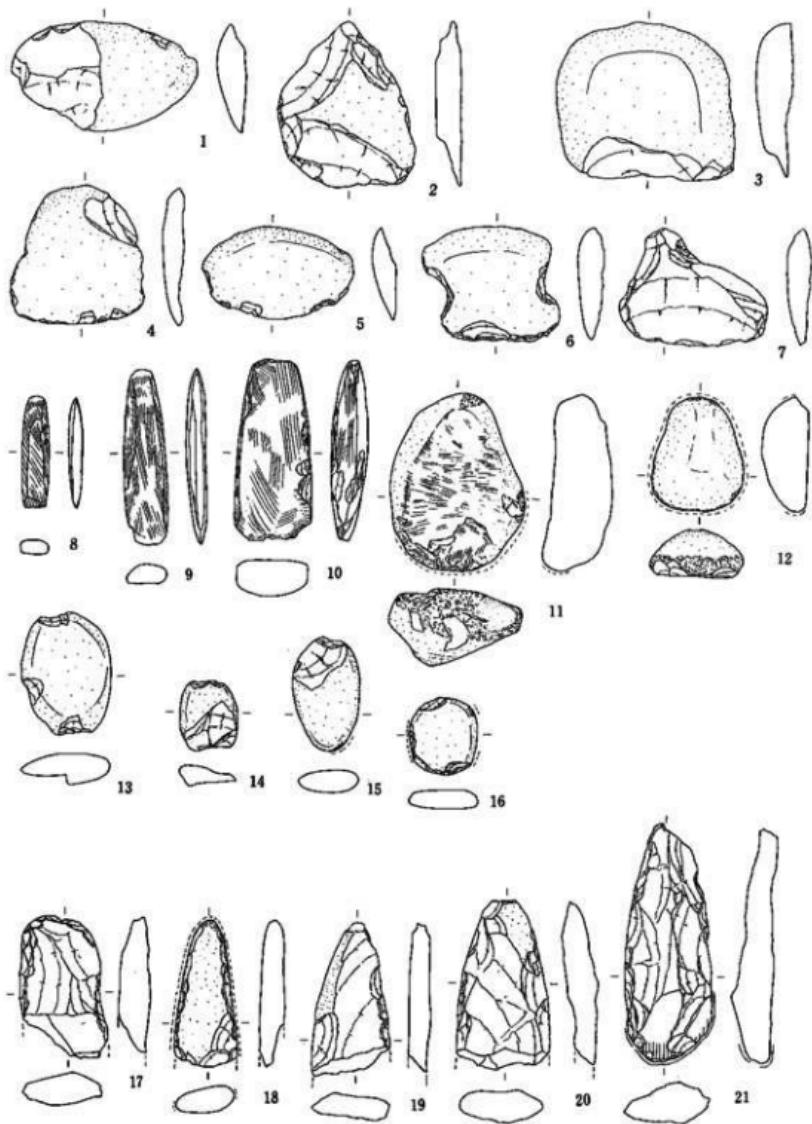
第40図 MSD 11号住居址 (1~16)、12号住居址 (17~21) 出土石器



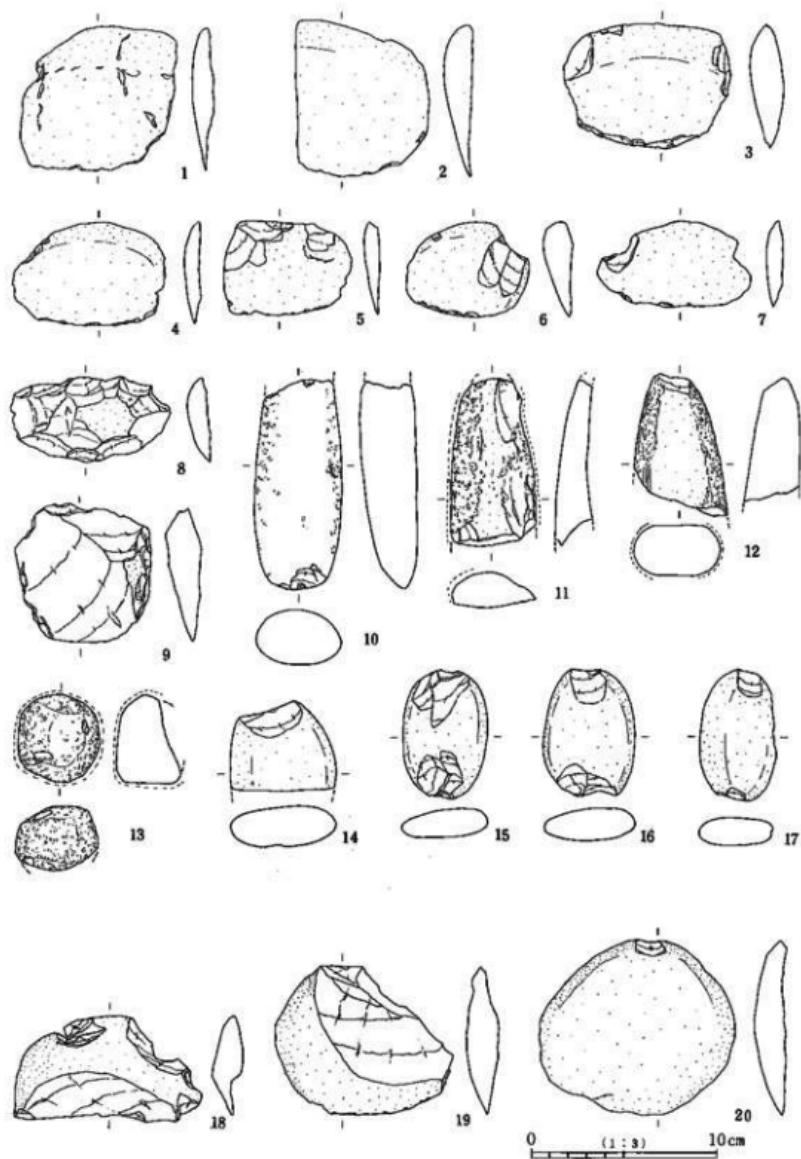
第41図 MSD 12号住居址出土石器



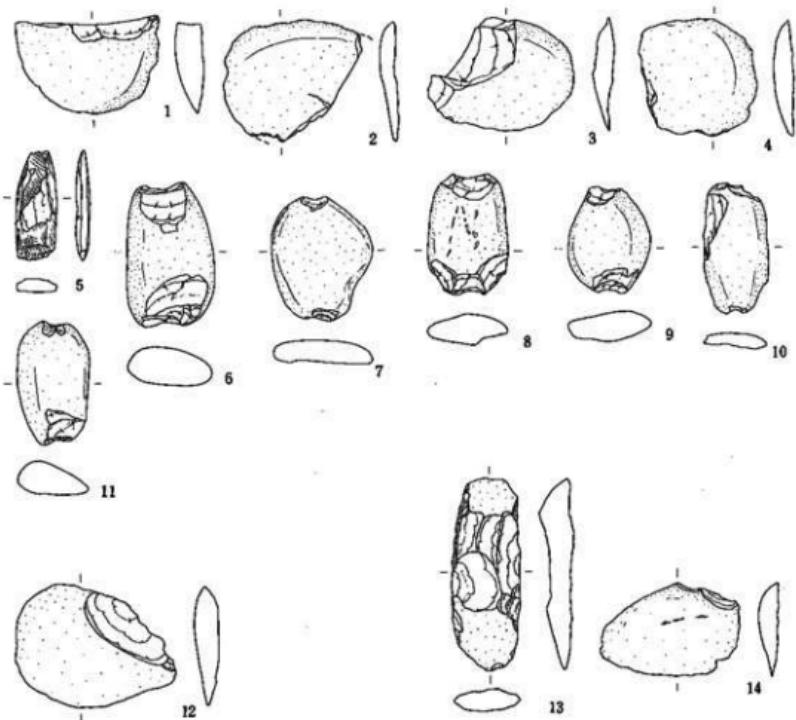
第42図 MSD 12号住居址 (1~8)、13号住居址 (9~19) 出土石器



第43図 MSD 13号住居址（1～16）、14号住居址（17～21）出土石器

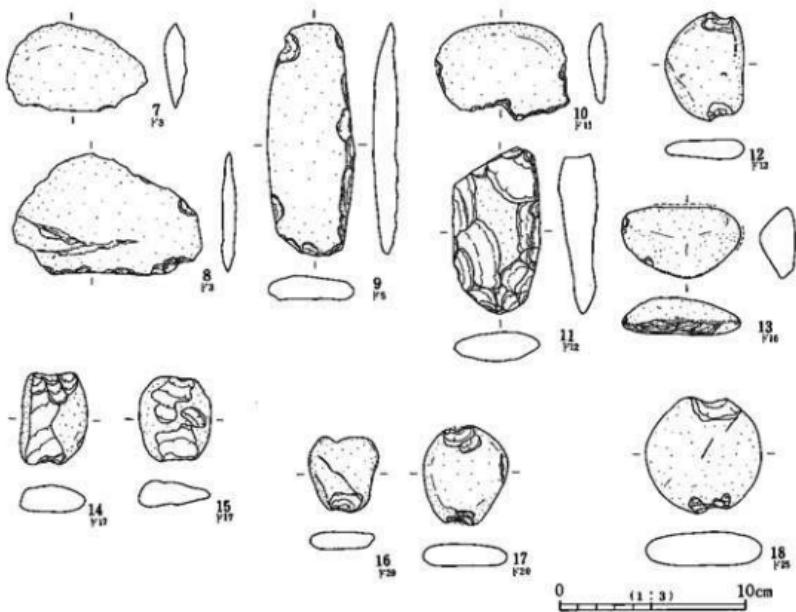
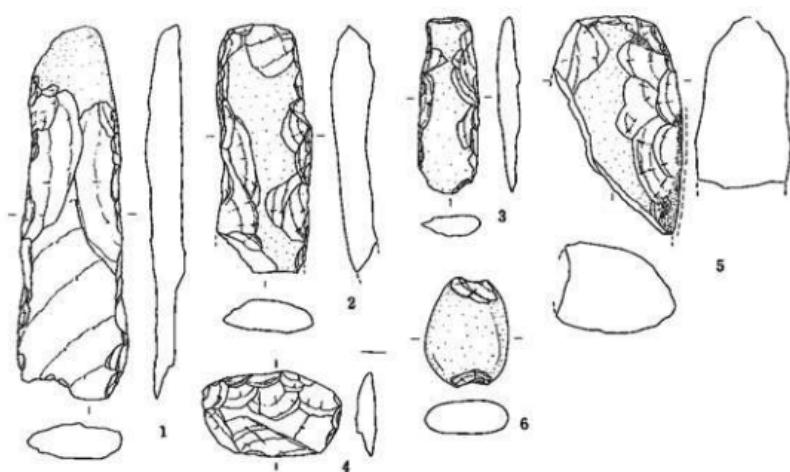


第44図 MSD 14号住居址（1～17）、15号住居址（18～20）出土石器

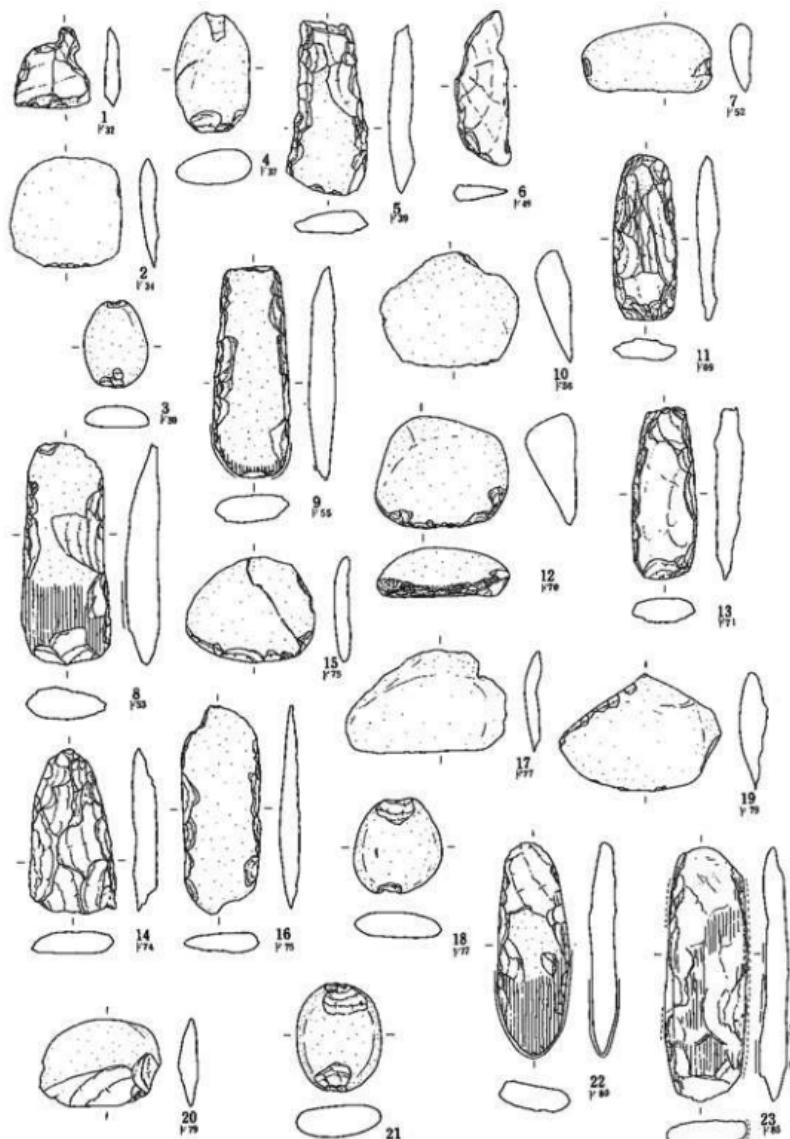


第45図 MSD 15号住居址 (1~11)、16号住居址 (12)、18号住居址 (13・14)

4号住居址 (15~18) 出土遺物

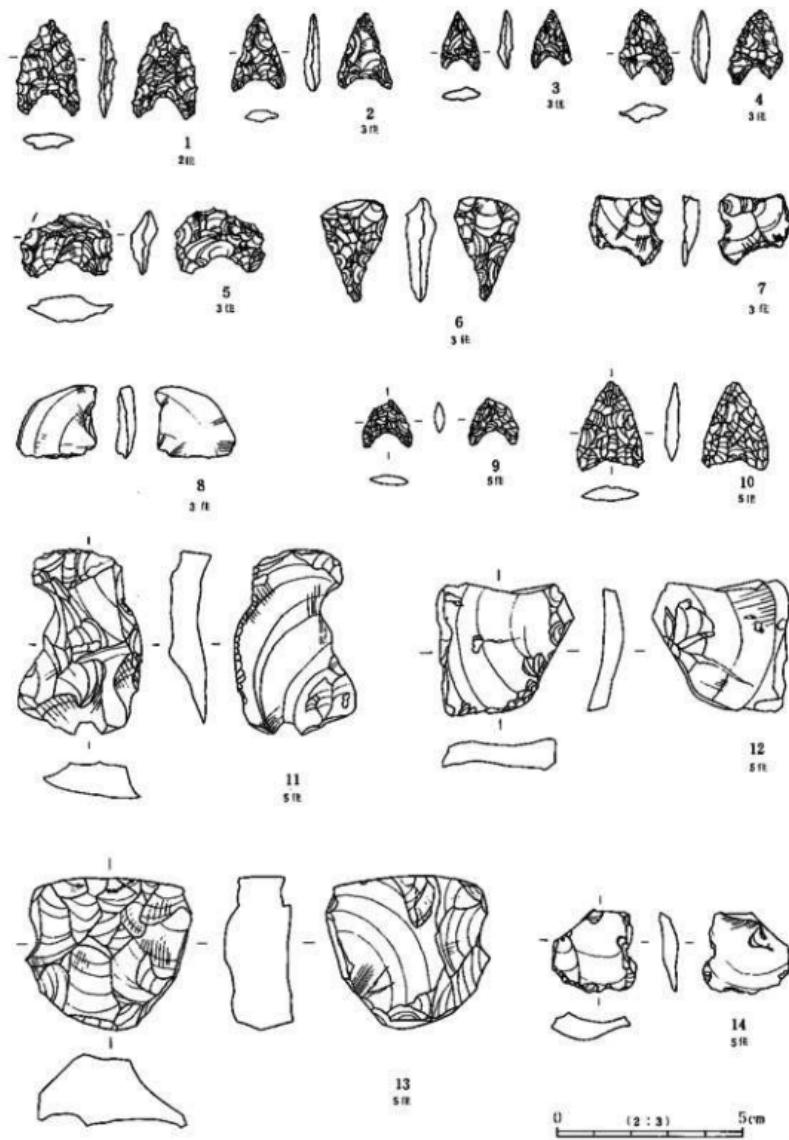


第46図 MSD 4号住居址 (1~6)、土坑 (7~18) 出土石器

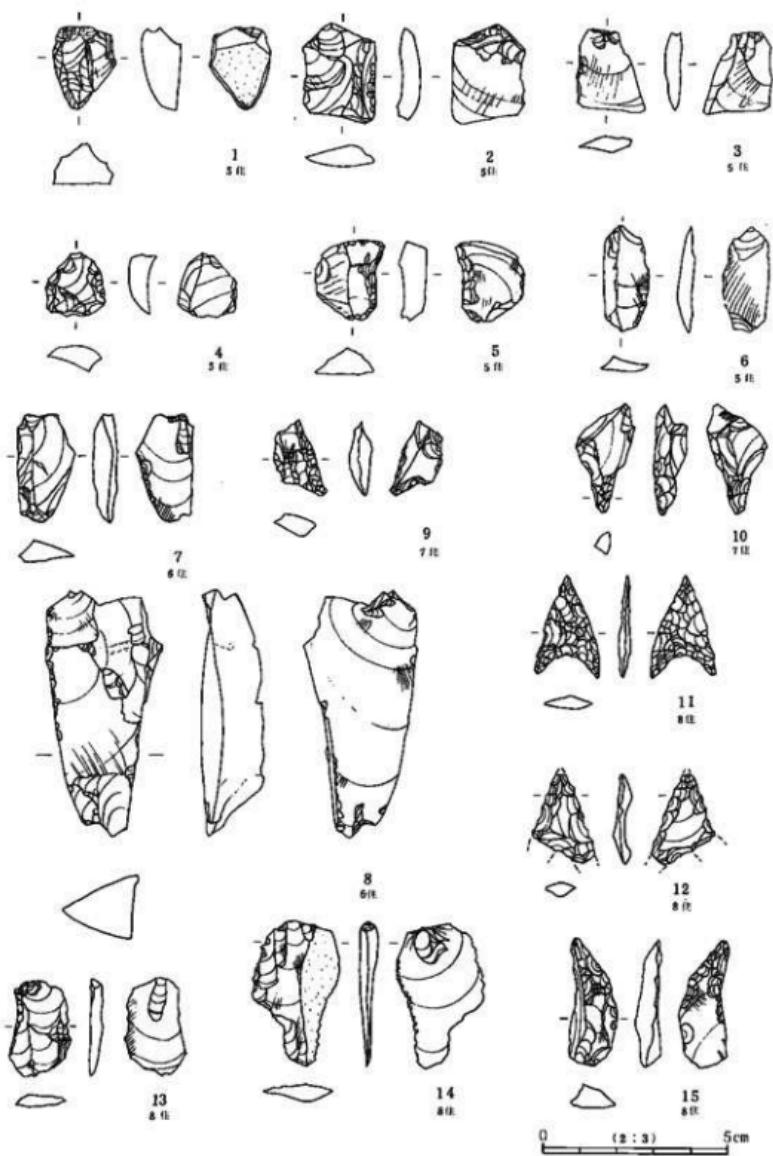


0 (1 : 3) 10 cm

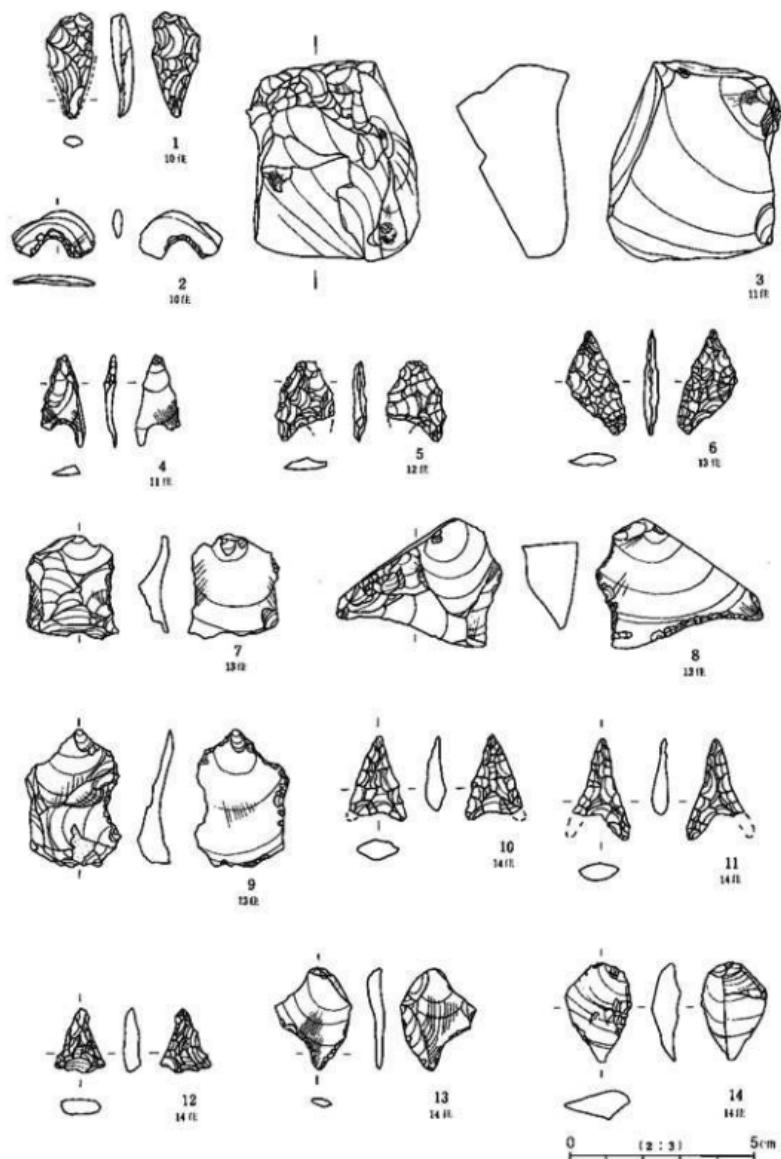
第47図 MSD 土坑出土石器



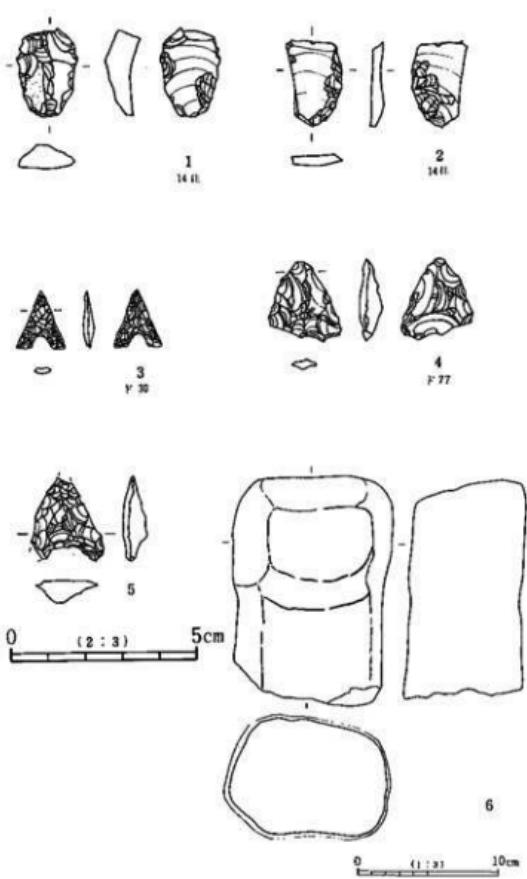
第48圖 MSD 出土小型石器 (1)



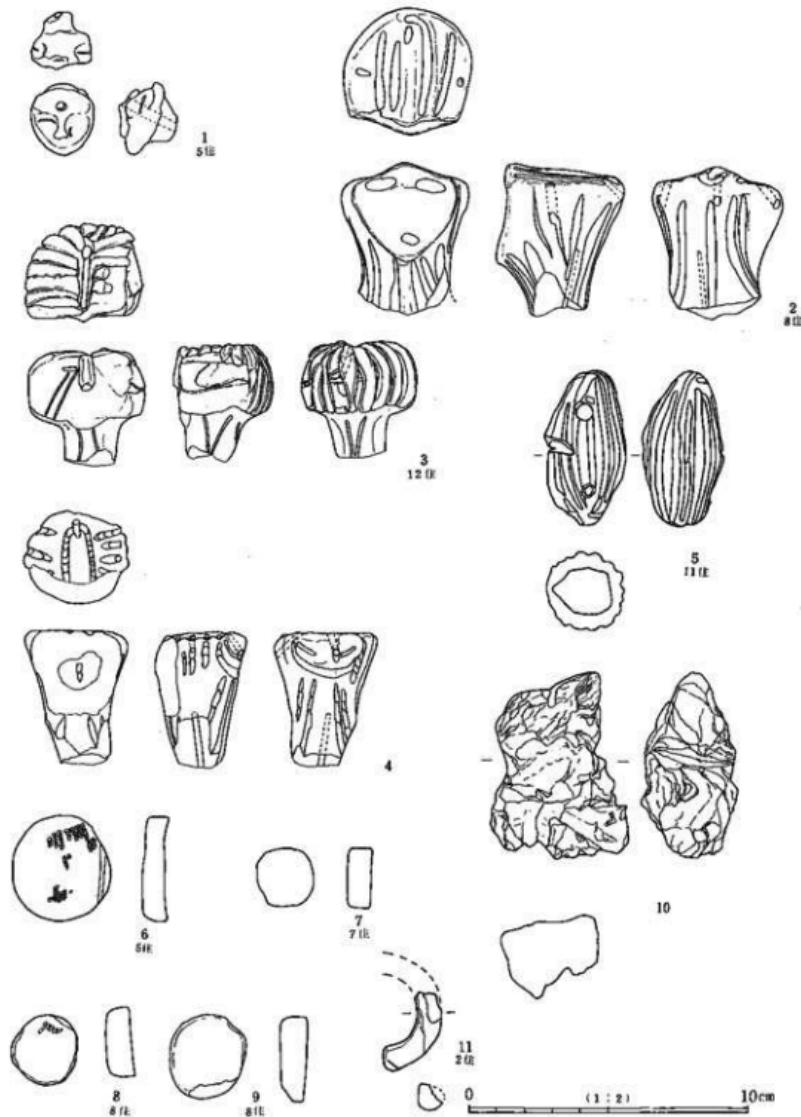
第49図 MSD 出土小型石器 (2)



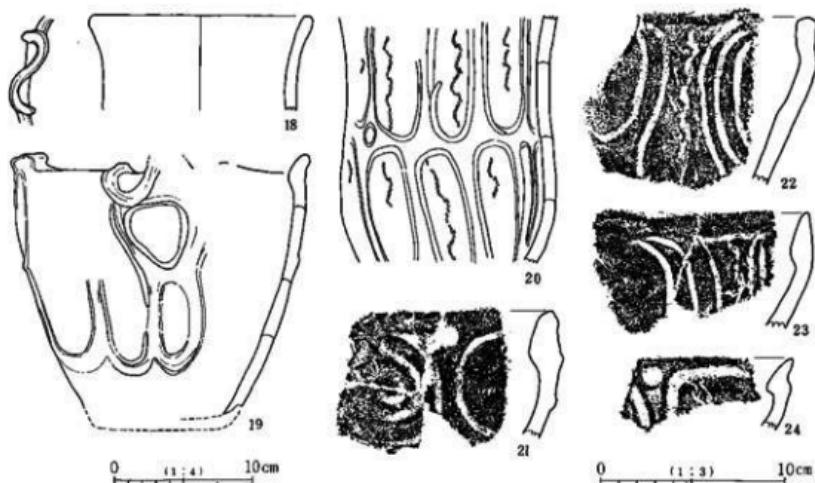
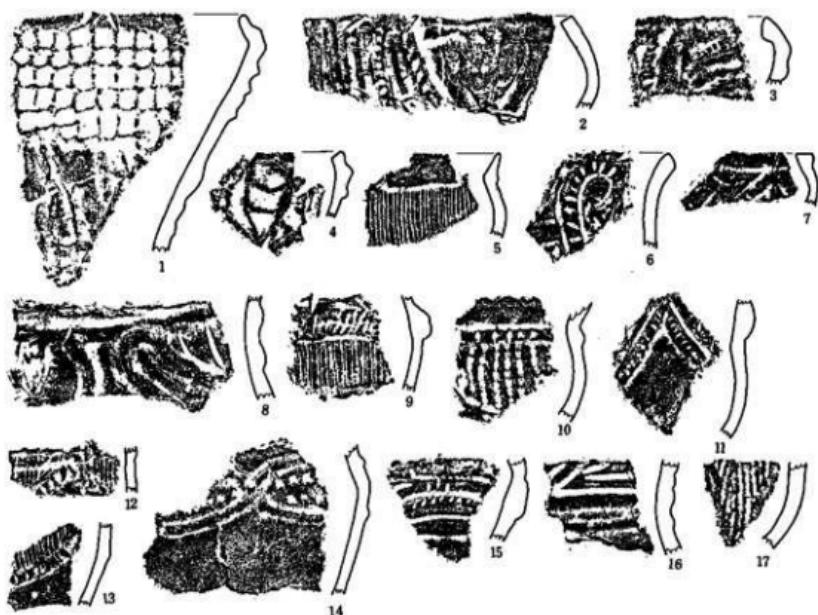
第50圖 MSD 出土小型石器 (3)



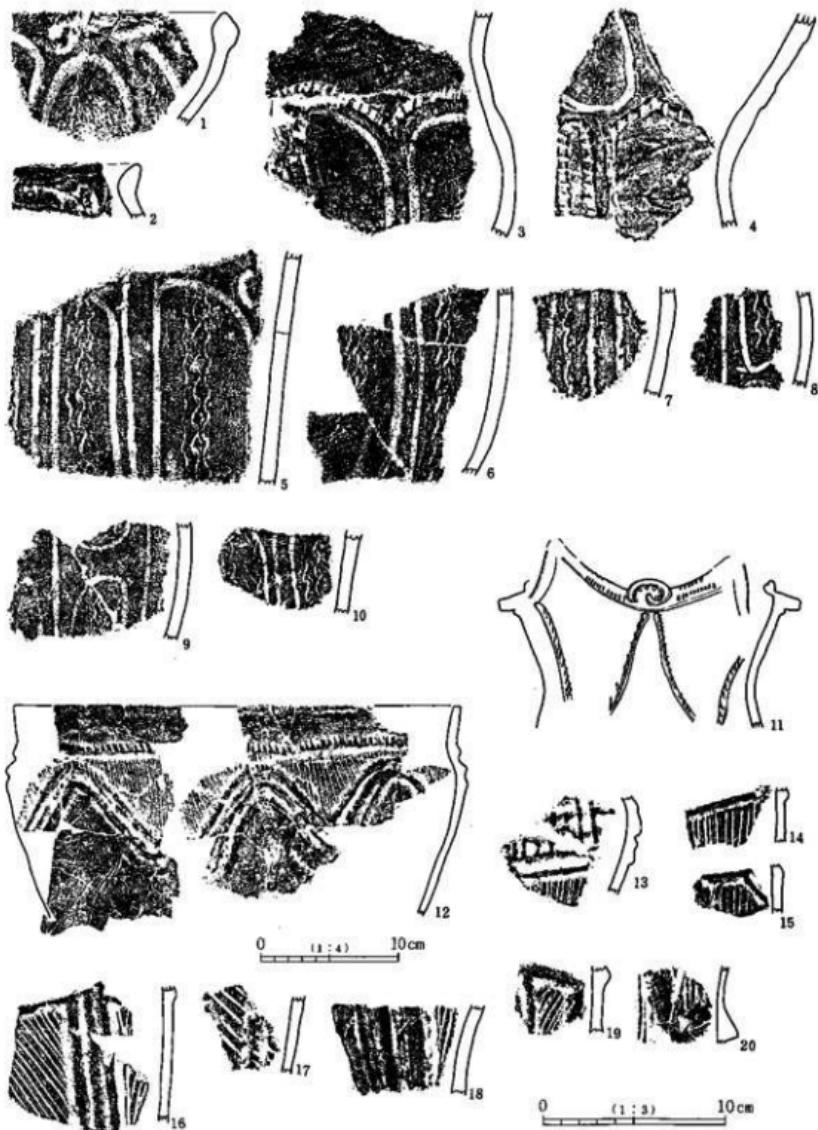
第51図 MSD 出土小型石器 (4)



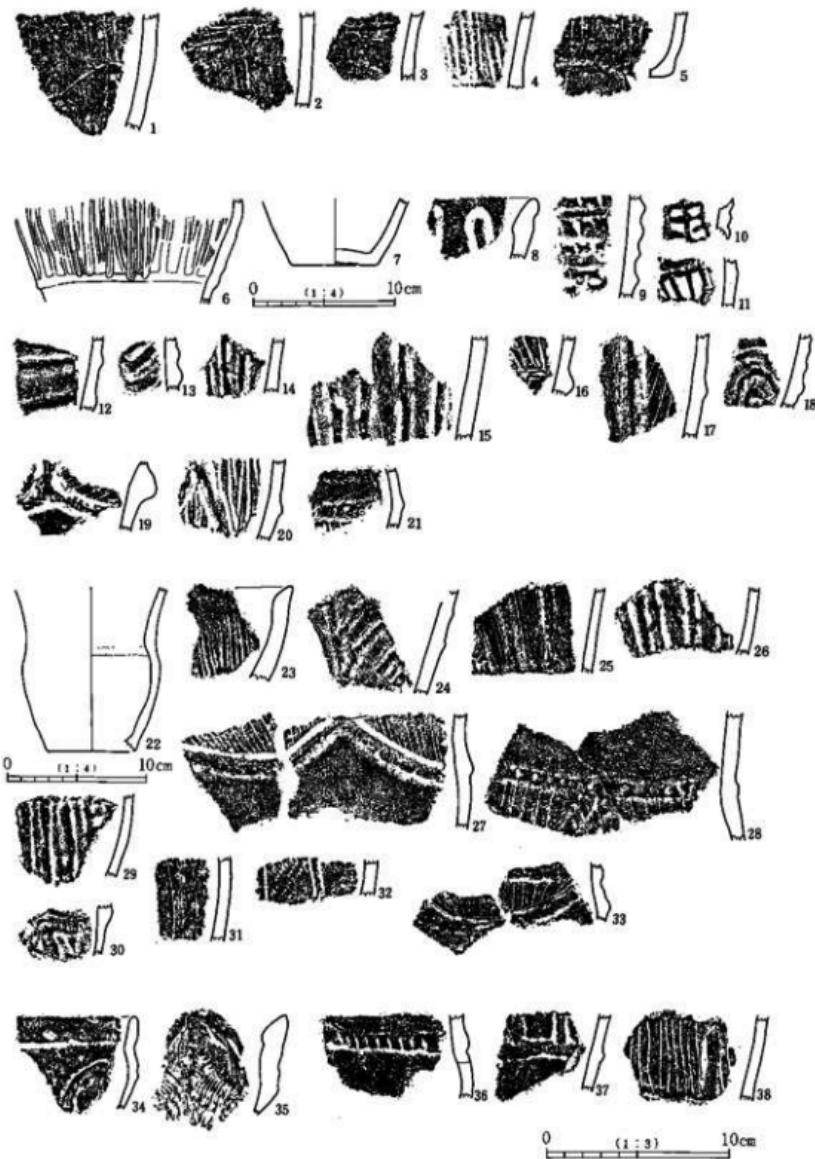
第52図 MSD出土土製品（1～10）、石製品（11）



第53図 KIT 5号住居址(1~17)、13号住居址(18~24)出土土器

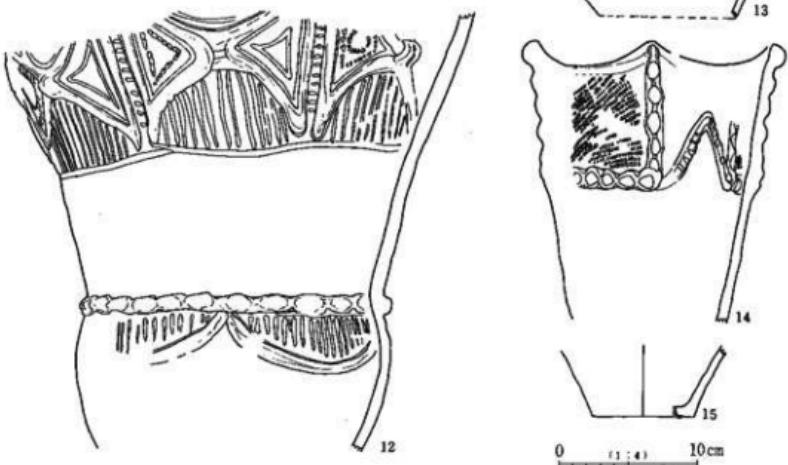
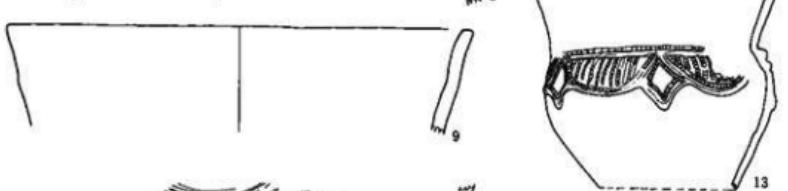
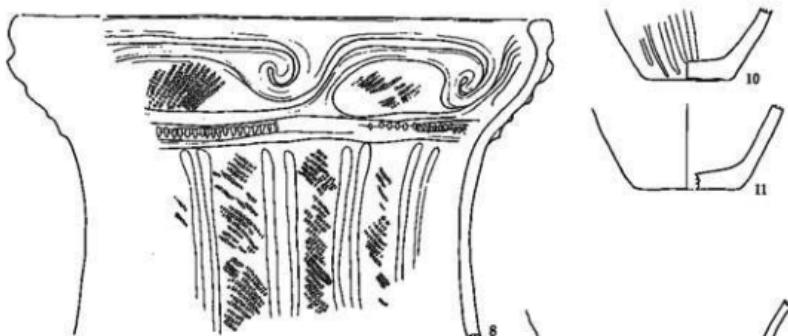
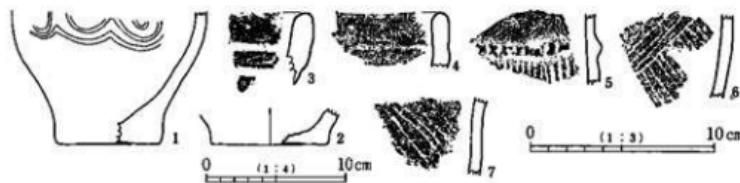


第54図 KIT 13号住居址（1～10）、15号住居址（11～20）出土土器



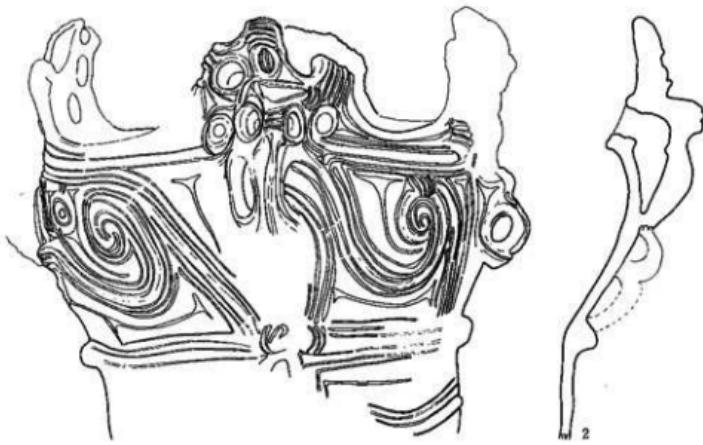
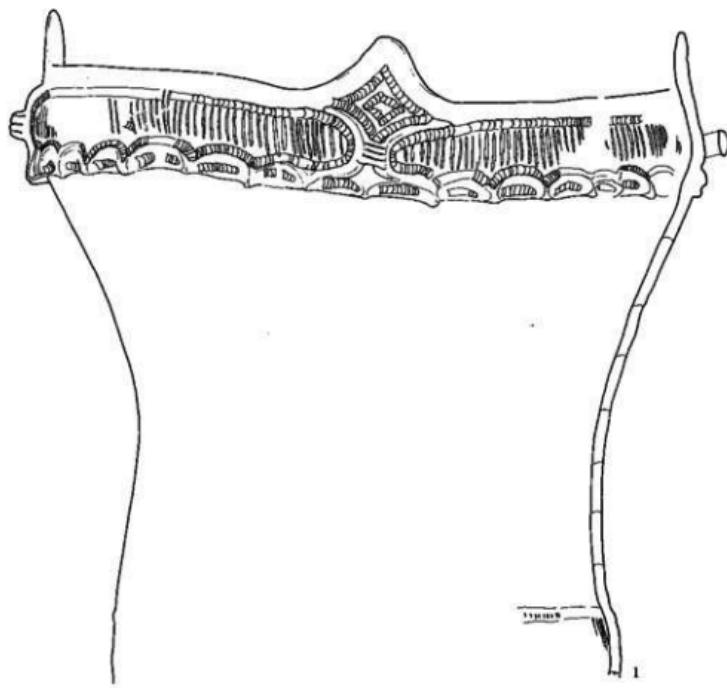
第55図 KIT 19号住居址 (1~5)、20号住居址 (6~21)

22号住居址 (22~33)、23号住居址 (34~38) 出土土器



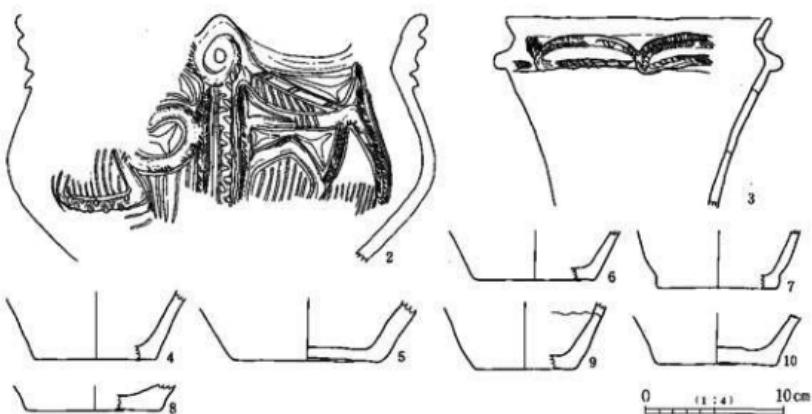
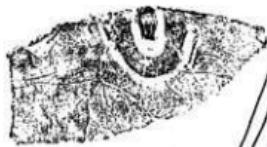
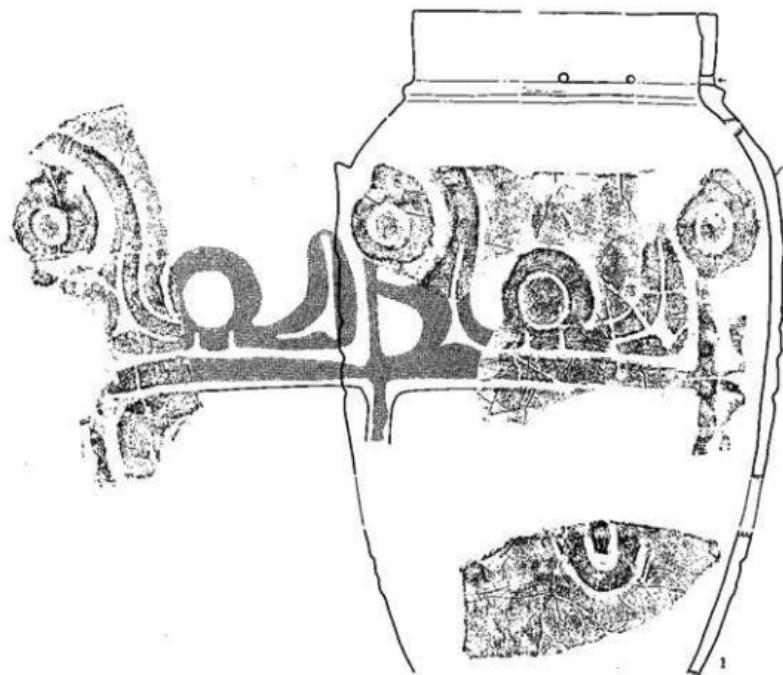
第56図 KIT 24号住居址(1~7)、25号住居址(8~11)

29号住居址(12~15)出土土器

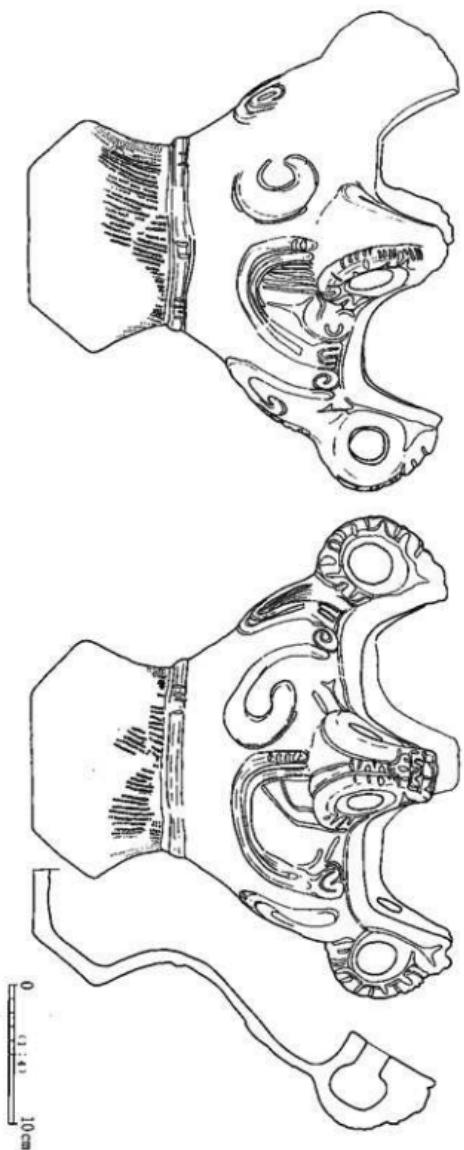


0 (1 : 4) 10 cm

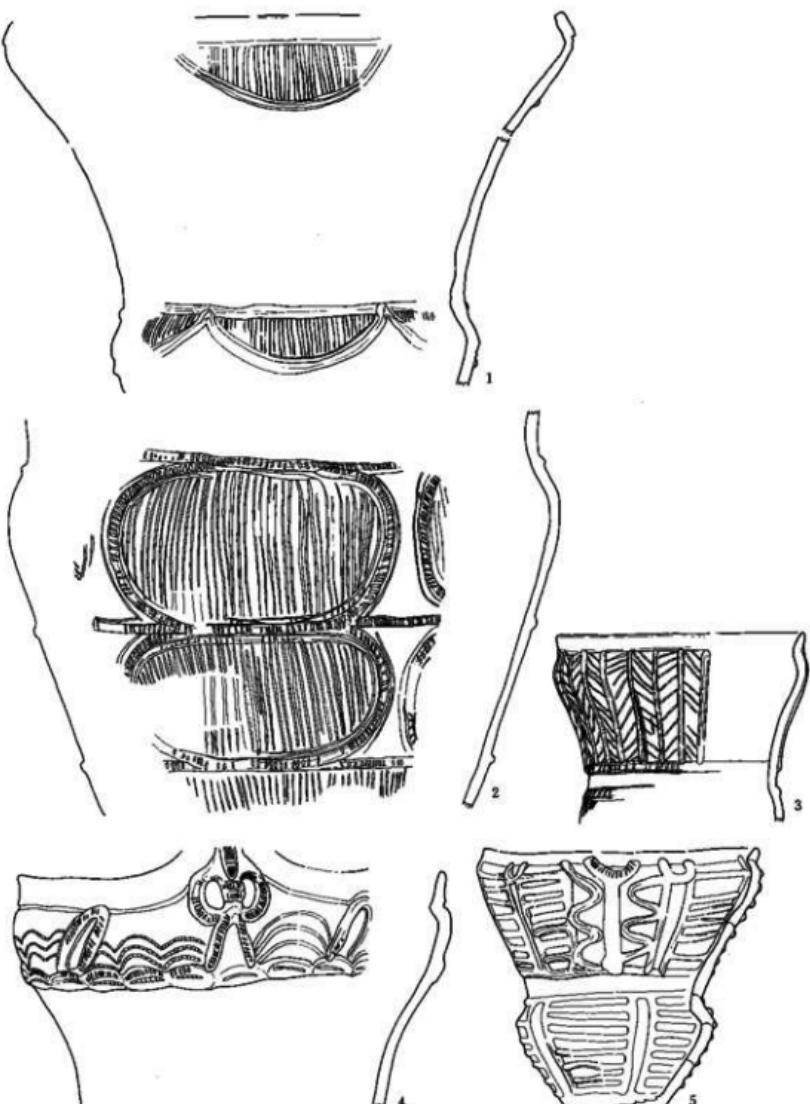
第57図 KIT 29号住居址出土土器



第58図 KIT 29号住居址(1)、30号住居址(2~10)出土土器

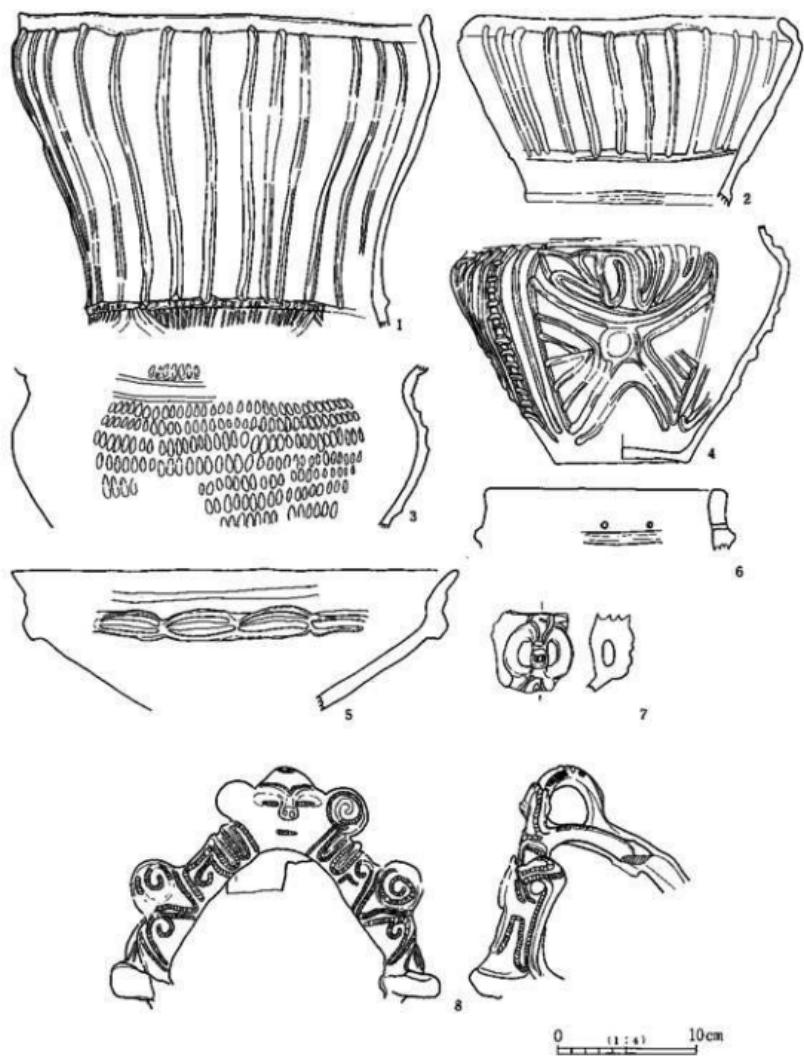


第59圖 K I T 30号住居址出土土器 (1)

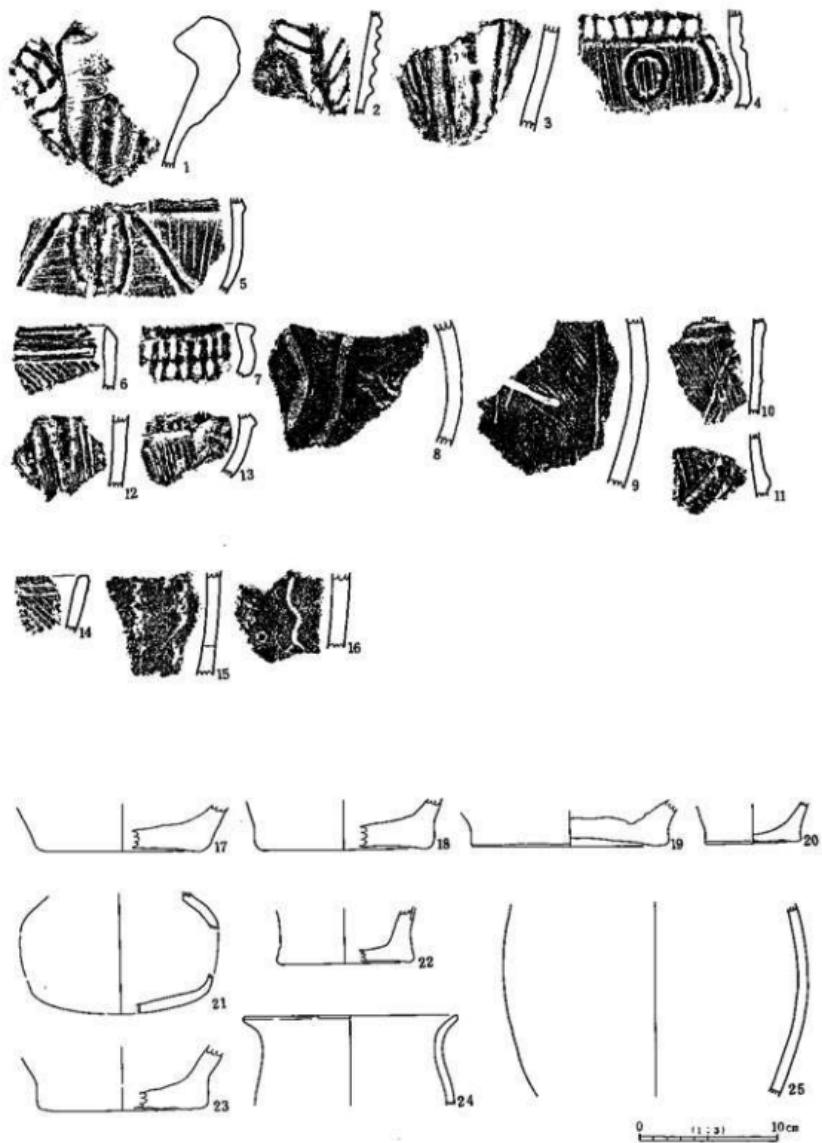


0 (1 : 4) 10cm

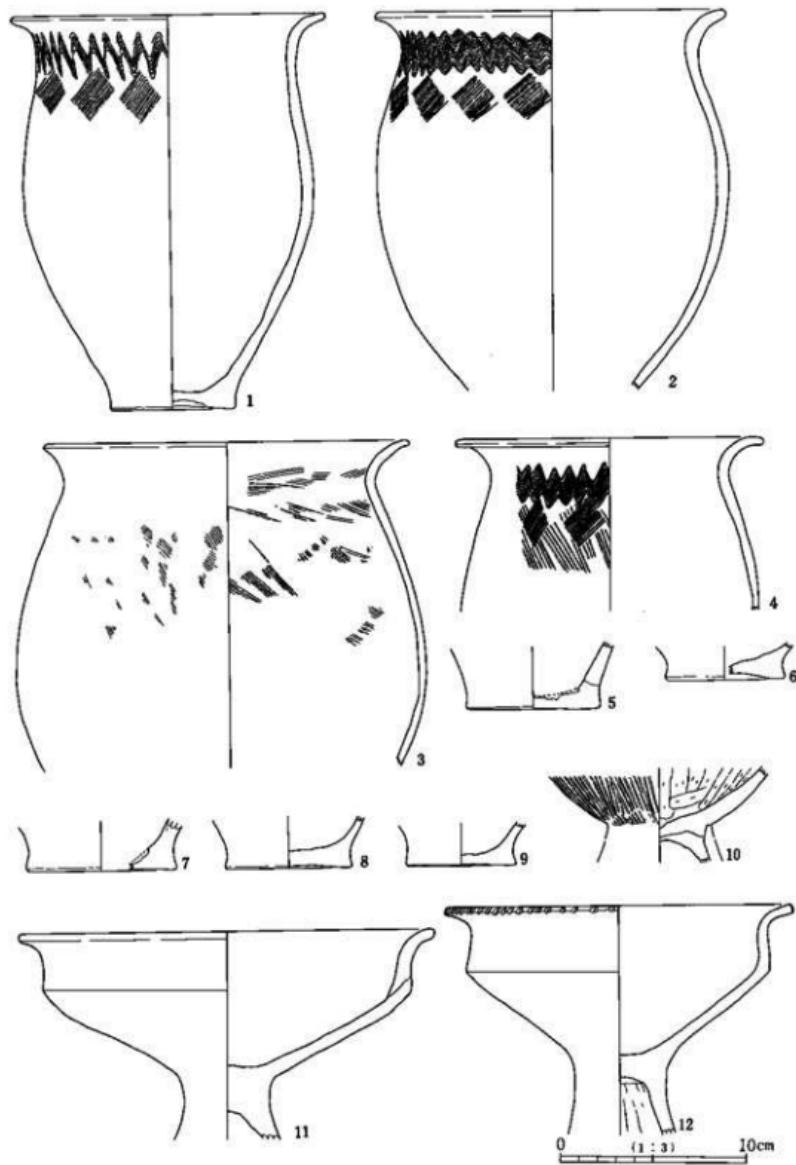
第60図 KIT 30号住居址出土土器 (2)



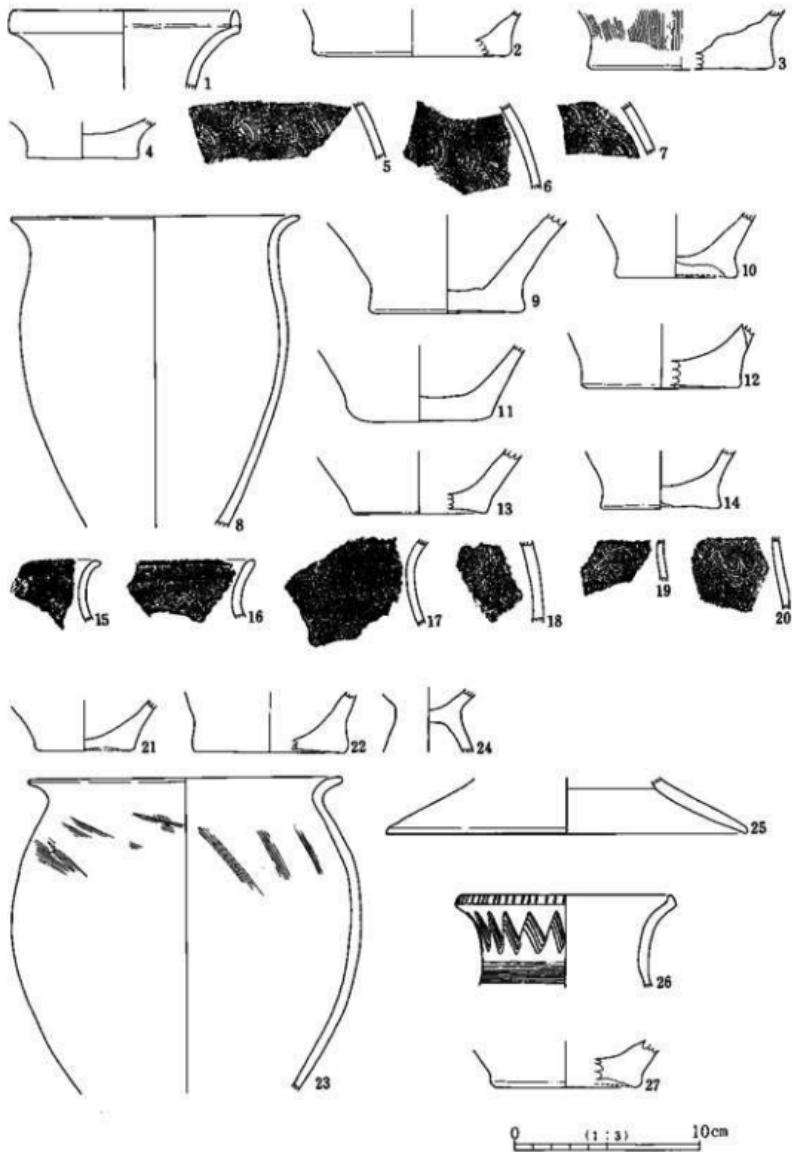
第61図 KIT 30号住居址出土土器 (3)



第62図 KIT 42号住居址 (1~5)、43号住居址 (6~11)  
44号住居址 (12~16)、6号住居址 (16~24) 出土土器

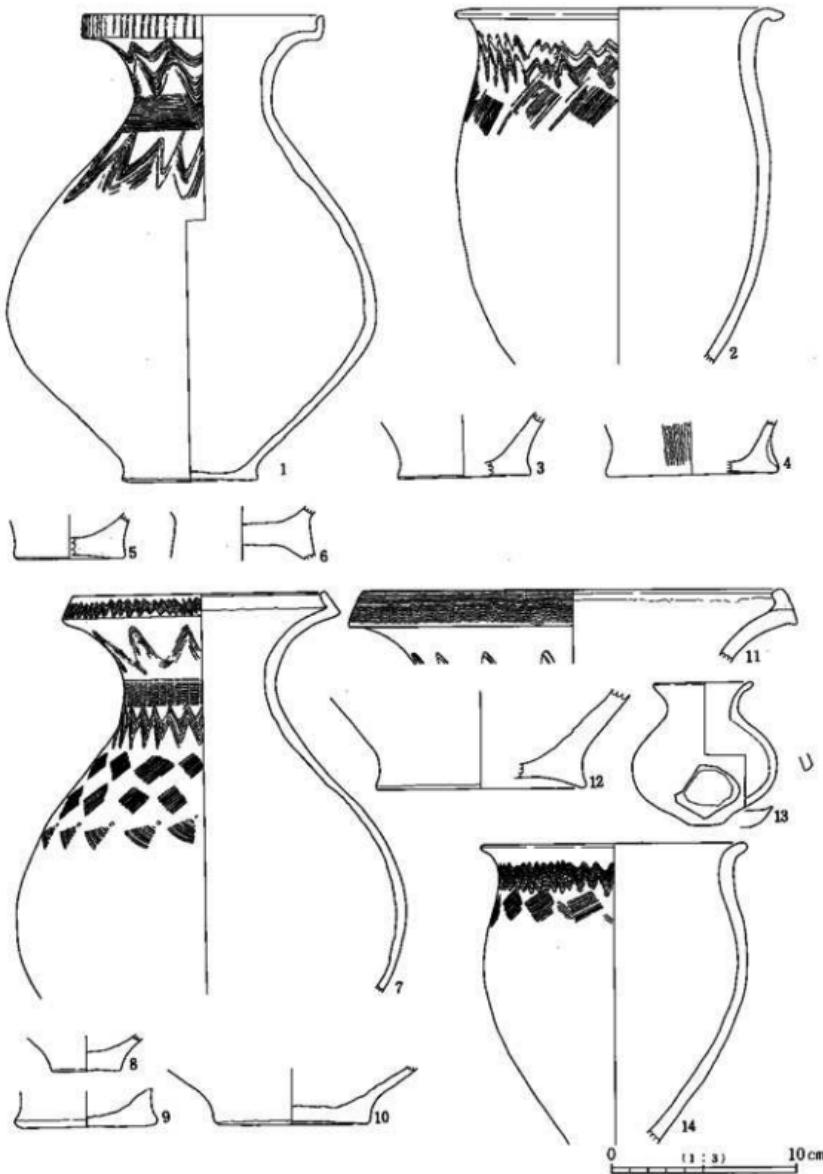


第63图 KIT 6号住居址出土土器

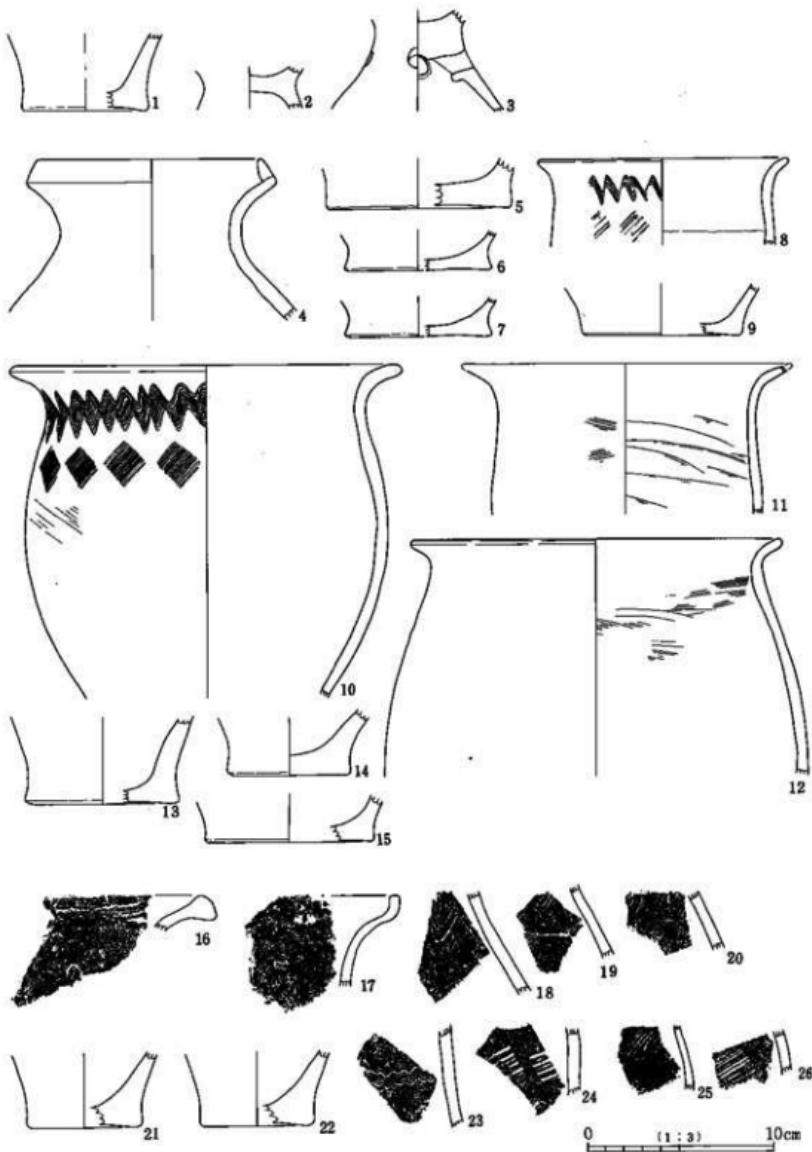


第64図 KIT 7号住居址 (1~20)、8号住居址 (21~25)

9号住居址 (26・27) 出土土器

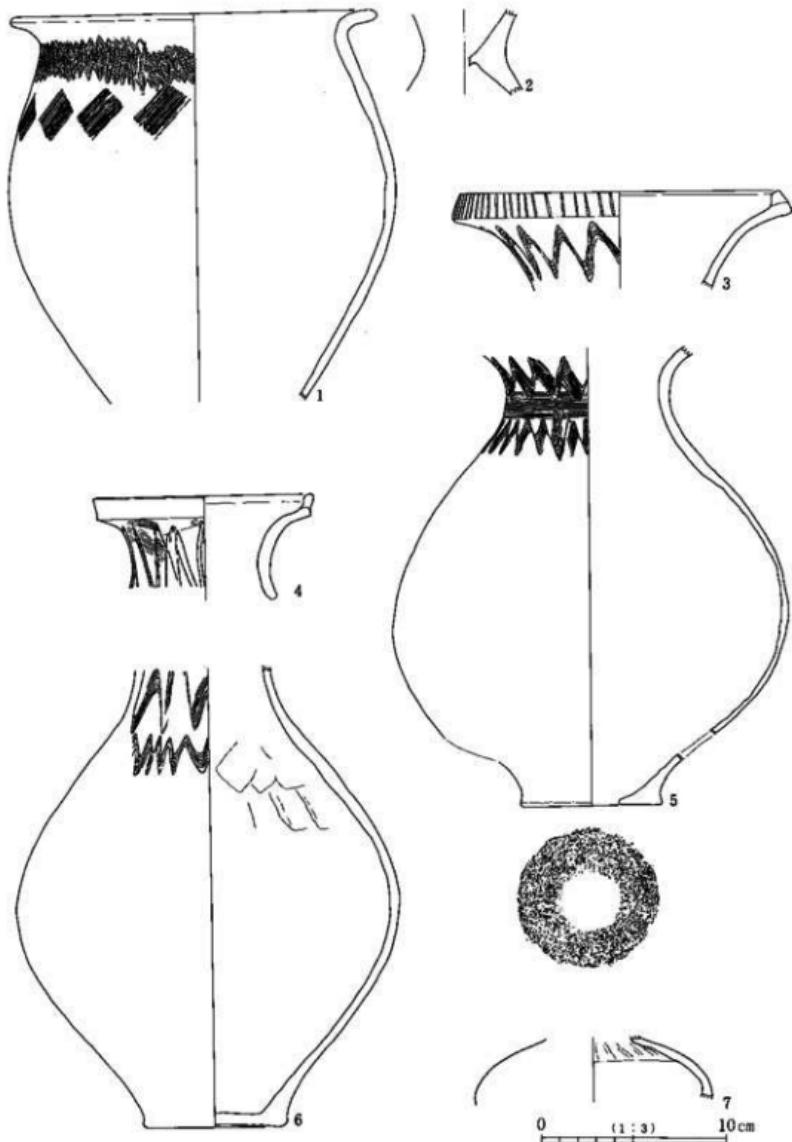


第65図 KIT 9号住居址 (1~6)、10号住居址 (7~14) 出土土器

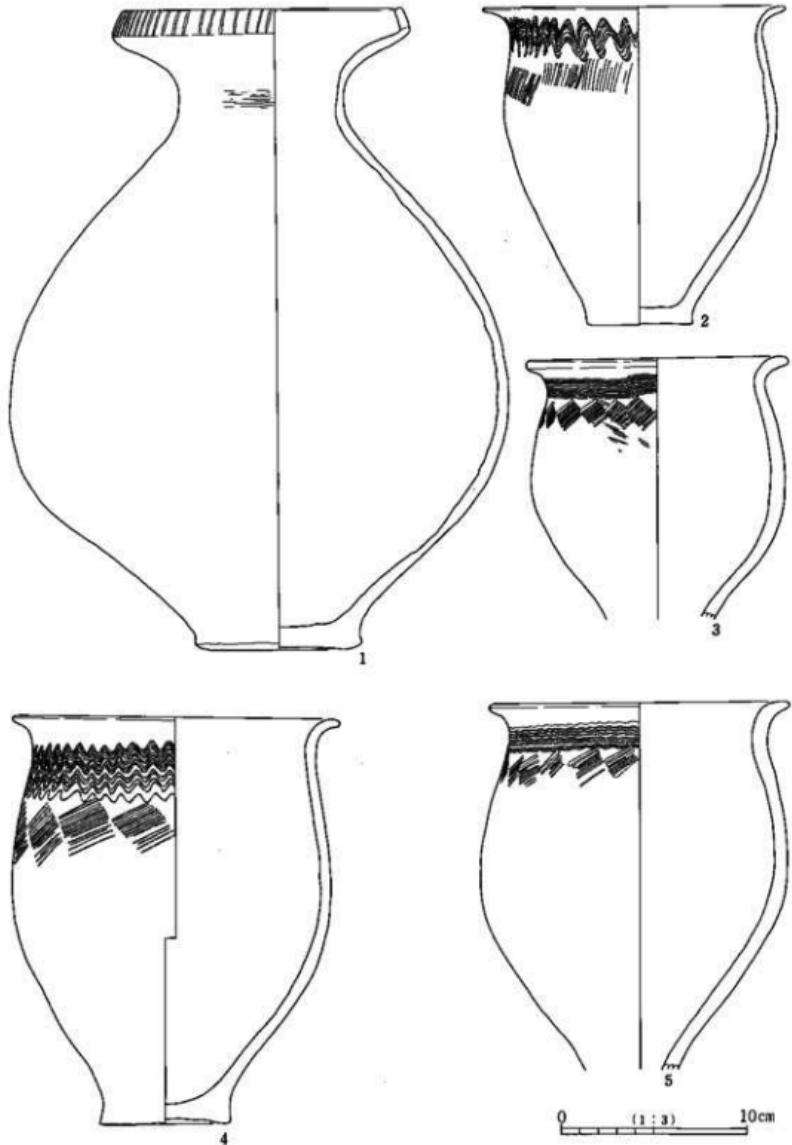


第66図 KIT 10号住居址 (1~3)、11号住居址 (4~15)

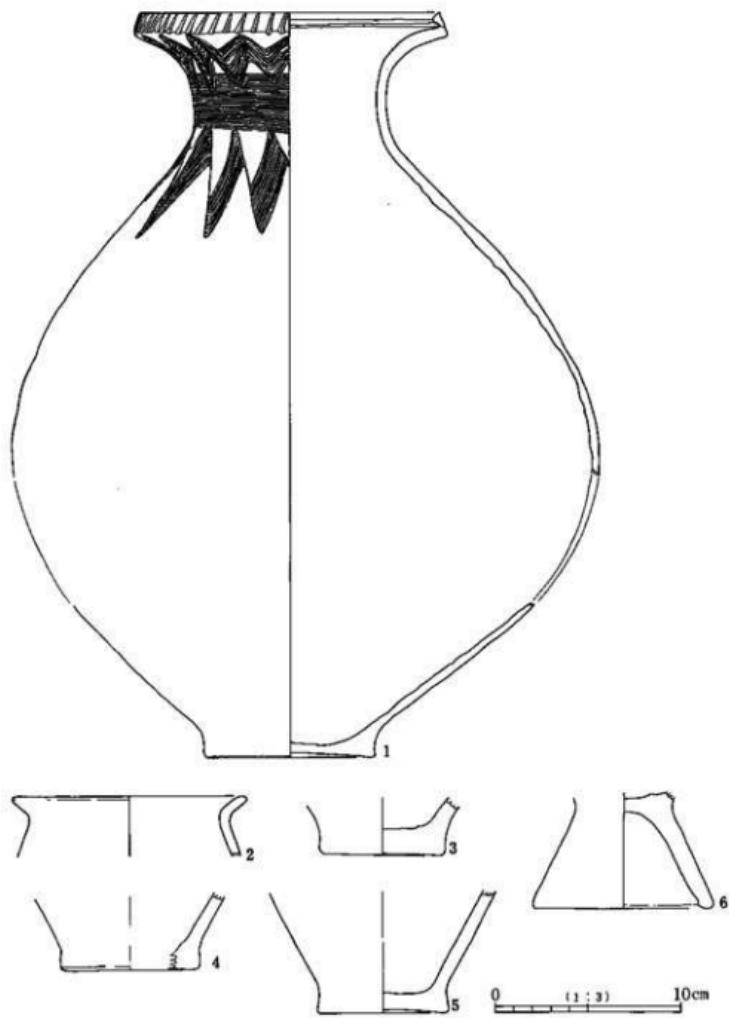
12号住居址 (16~26) 出土土器



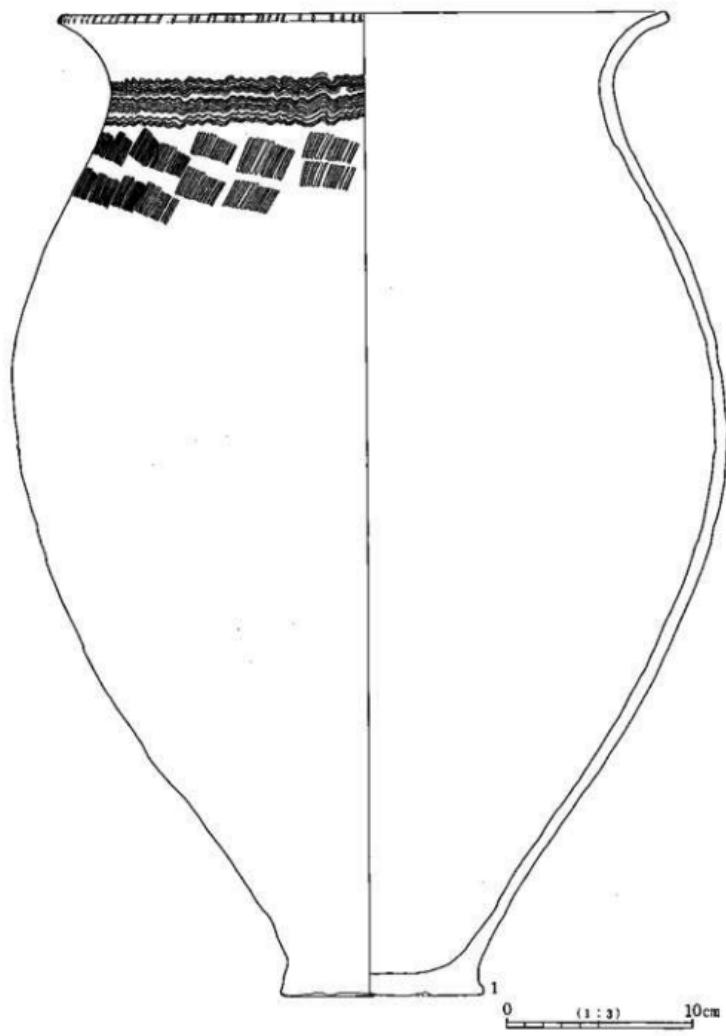
第67図 KIT 12号住居址 (1・2)、16号住居址 (3~7) 出土土器



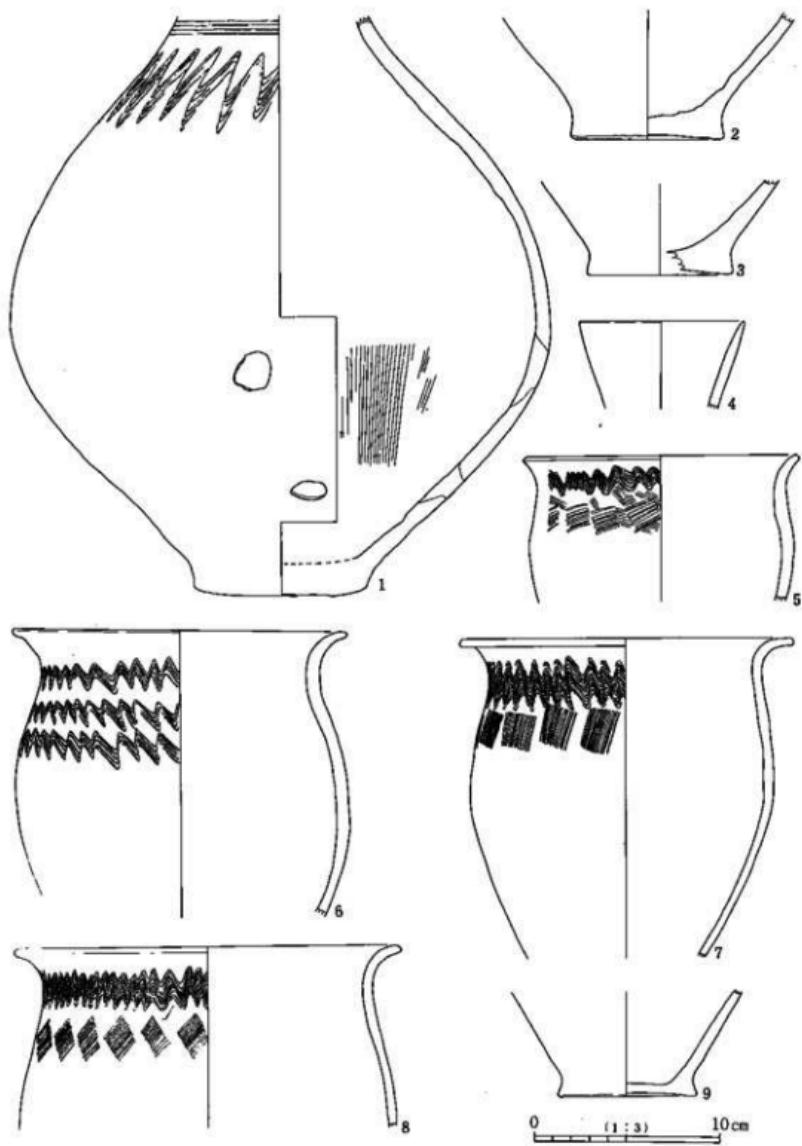
第68図 KIT 16号住居址出土土器 (1)



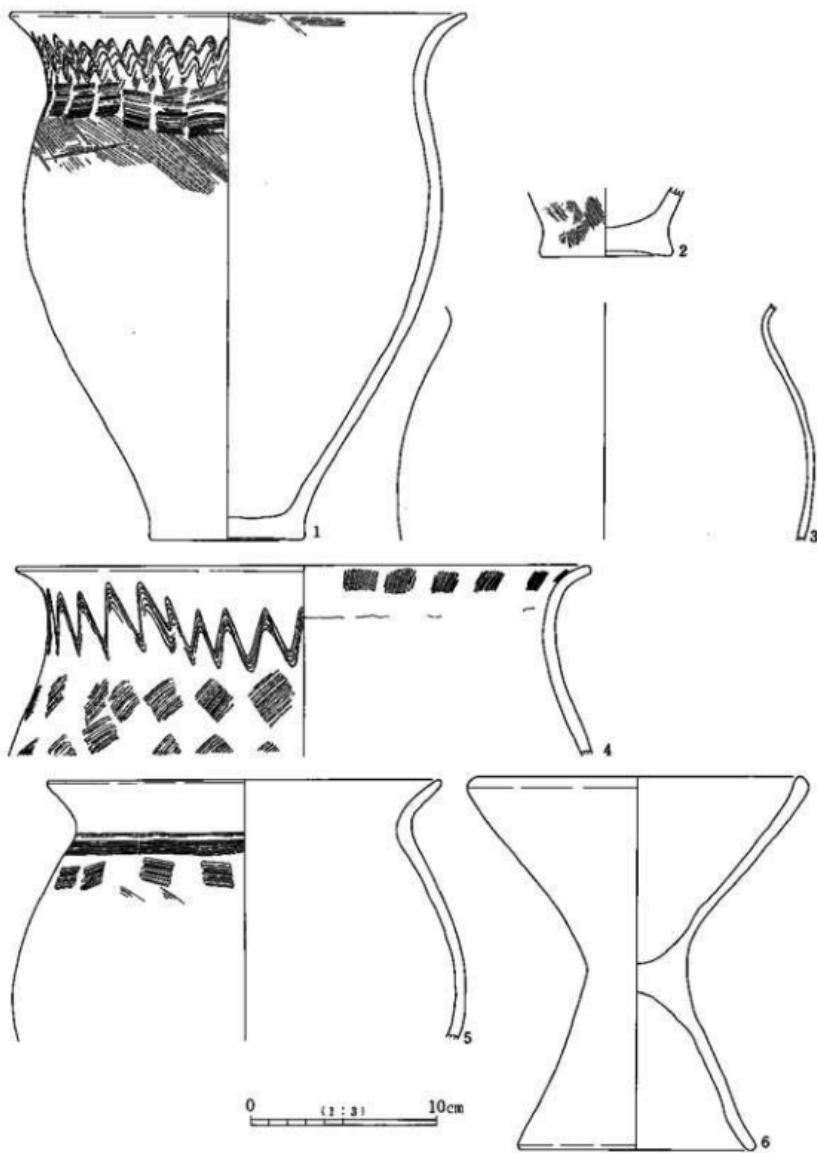
第69図 KIT 18号住居址出土土器 (2)



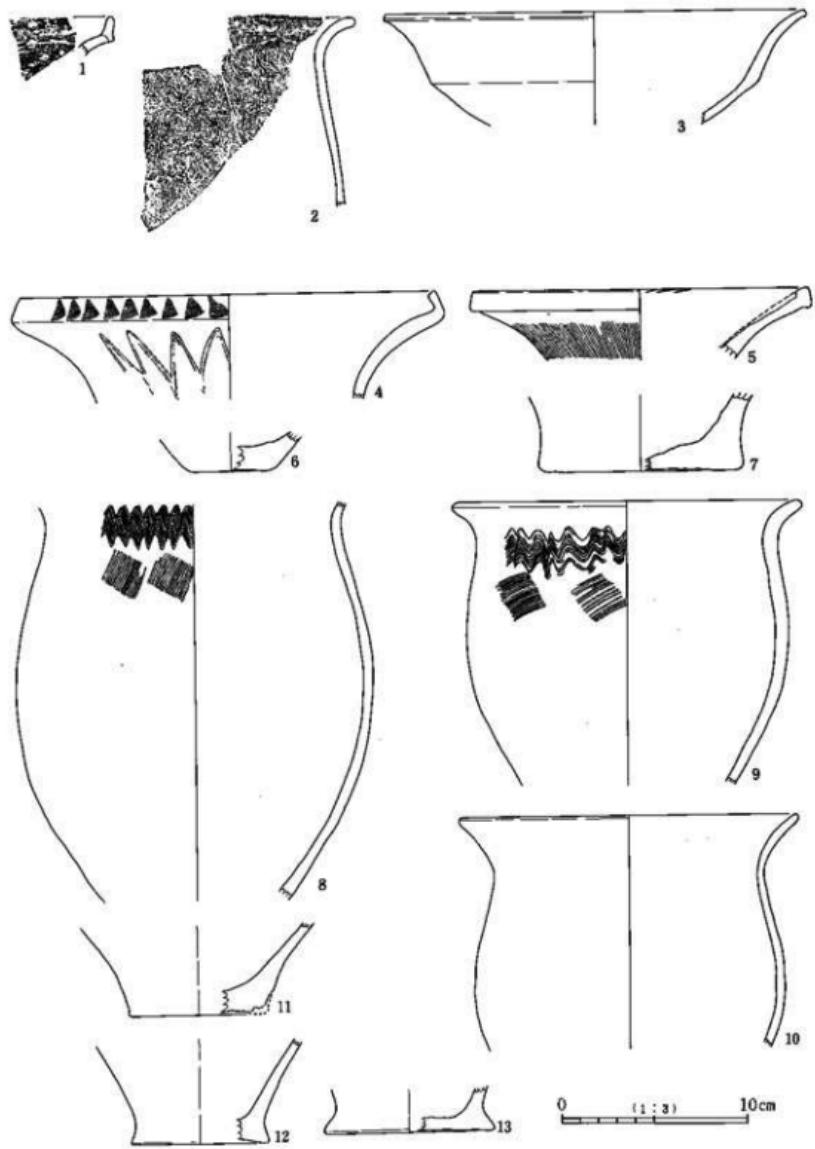
第70図 KIT 16号住居址出土土器 (3)



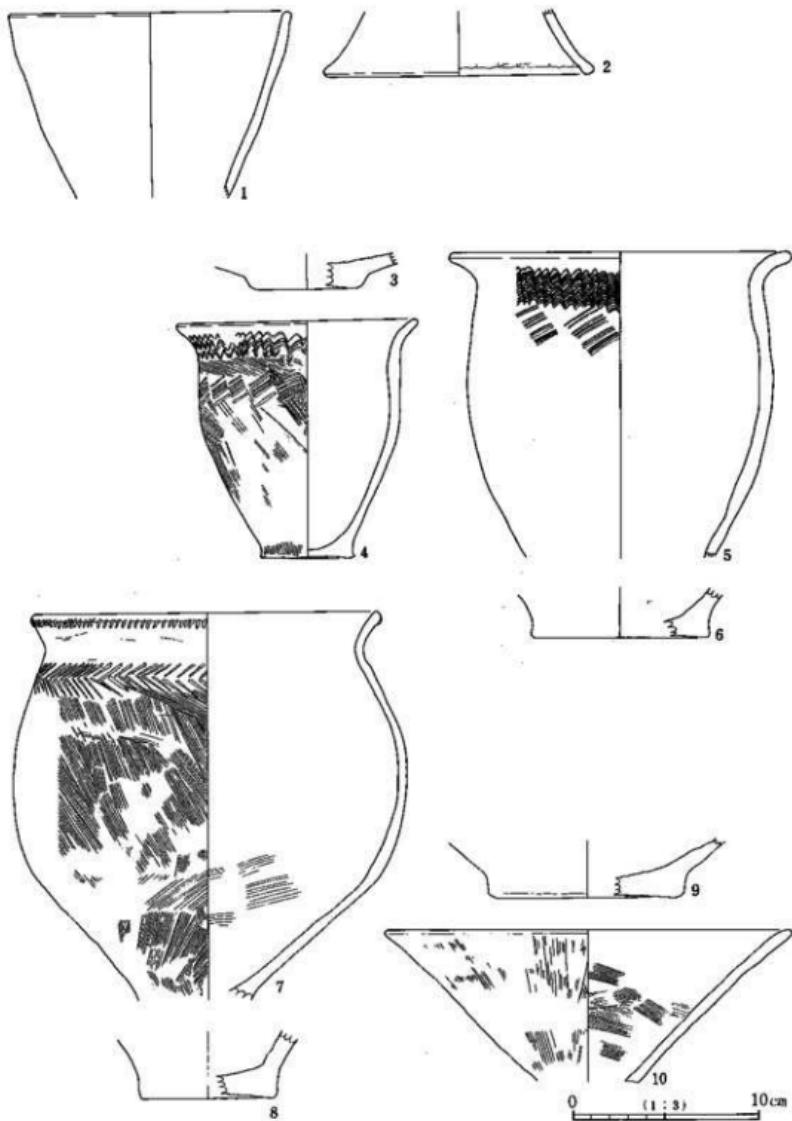
第71図 K I T 17号住居址出土土器 (1)



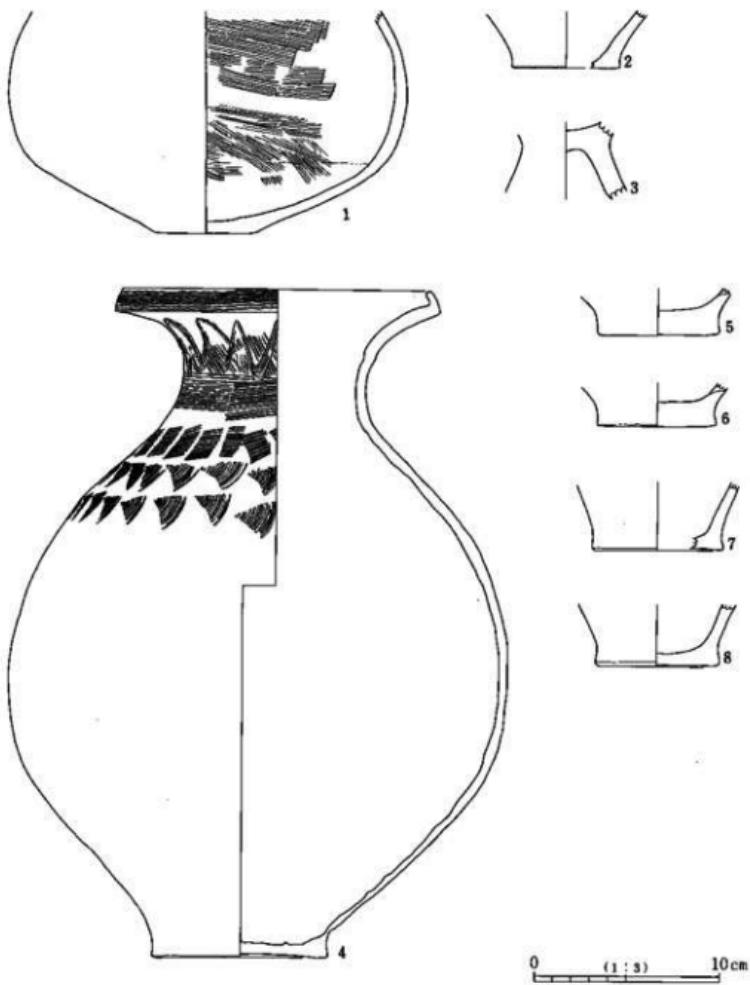
第72図 KIT 17号住居址出土土器 (2)



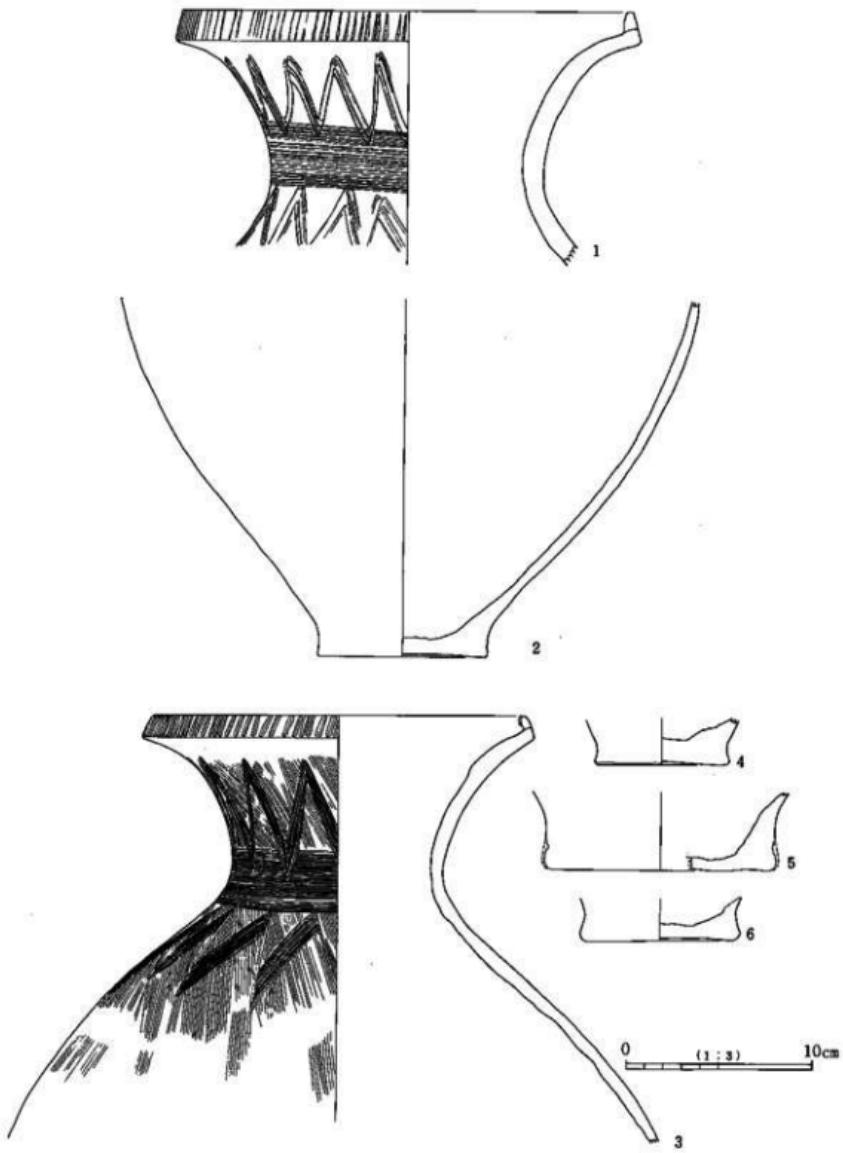
第73図 KIT 18号住居址（1～3）、21号住居址（4～13）出土土器



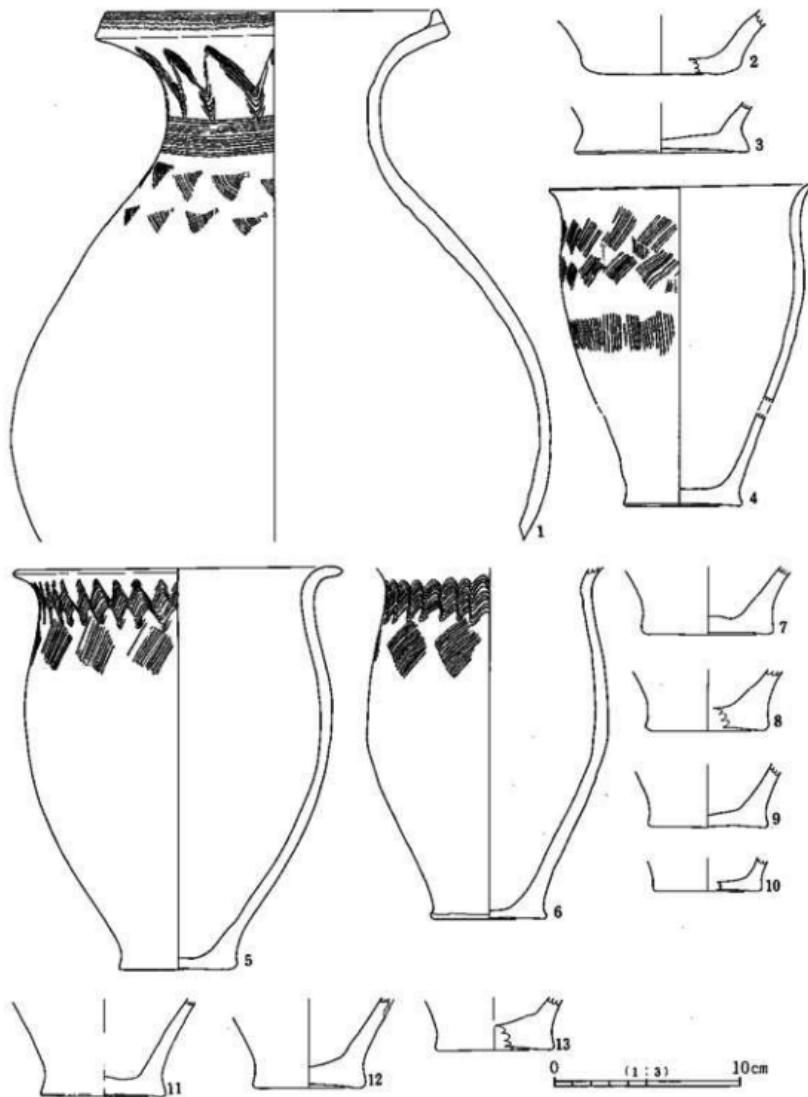
第74図 KIT 21号住居址 (1・2)、26号住居址 (3～6)  
27号住居址 (7・8)、28号住居址 (9・10) 出土土器



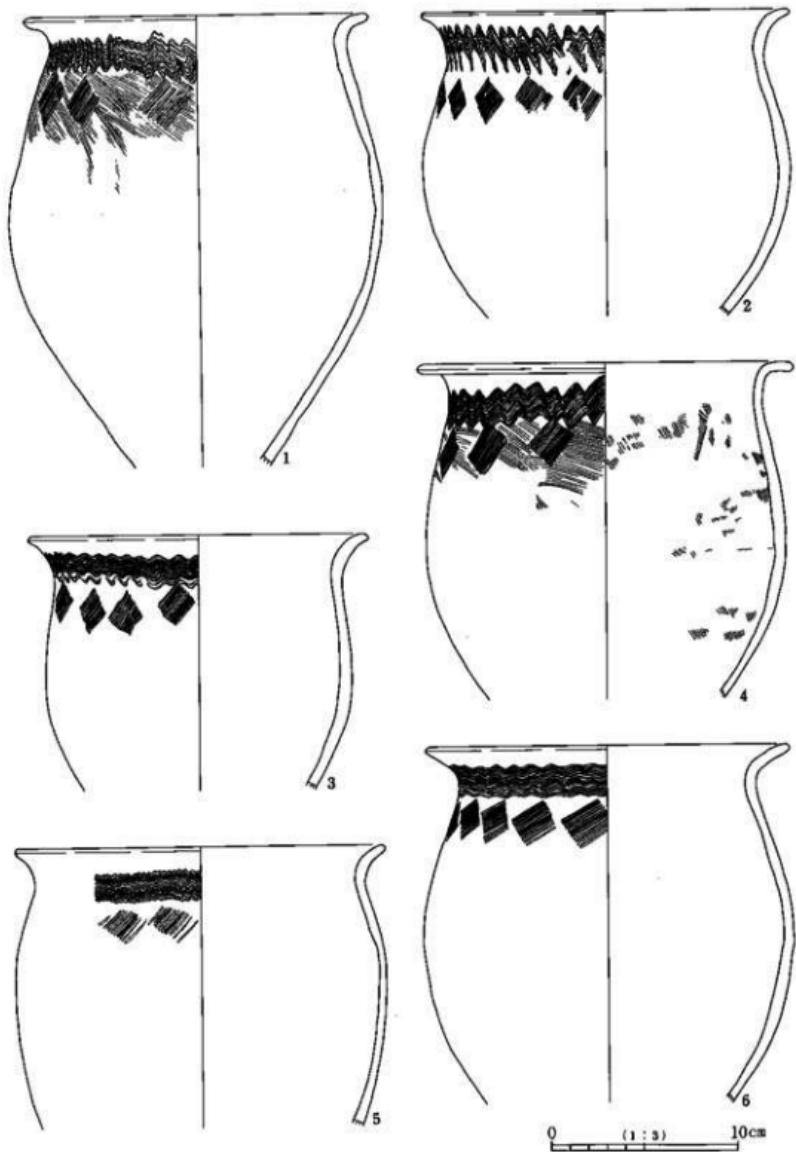
第75図 KIT 32号住居址（1～3）、34号住居址（4～8）出土土器



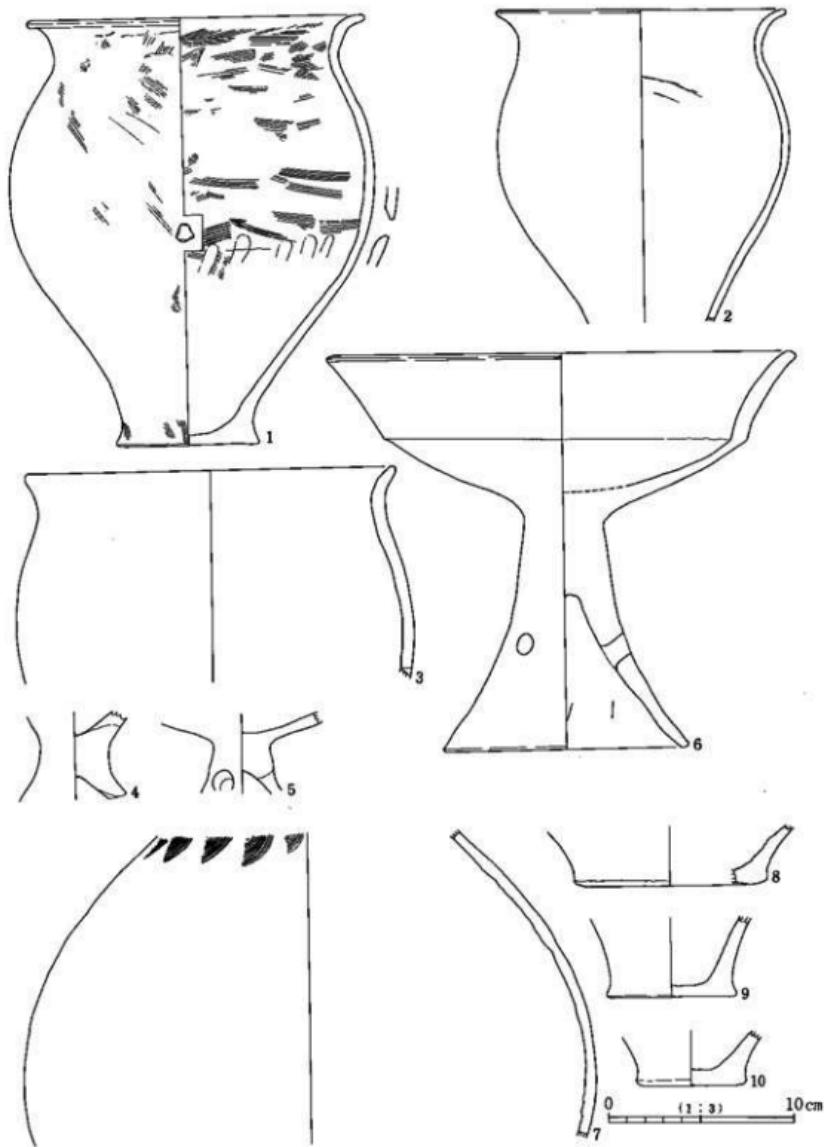
第76図 KIT 34号住居址 (1・2)、35号住居址 (3~6) 出土土器



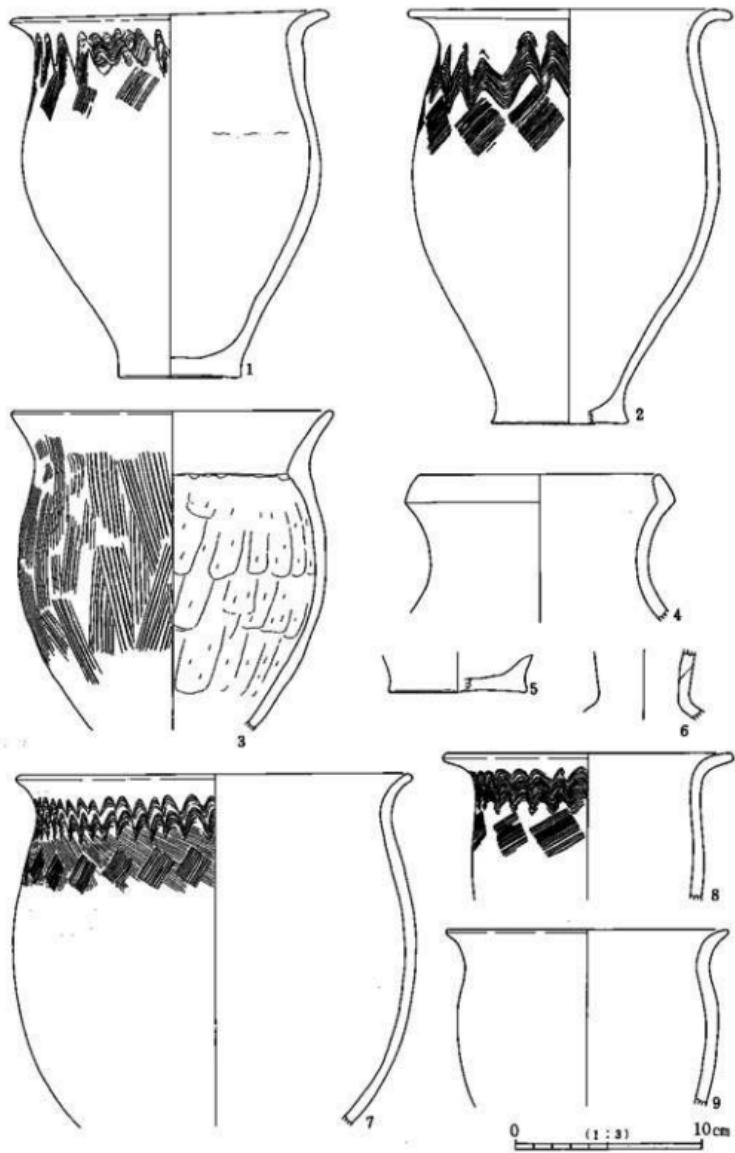
第77図 KIT 35号住居址出土土器 (1)



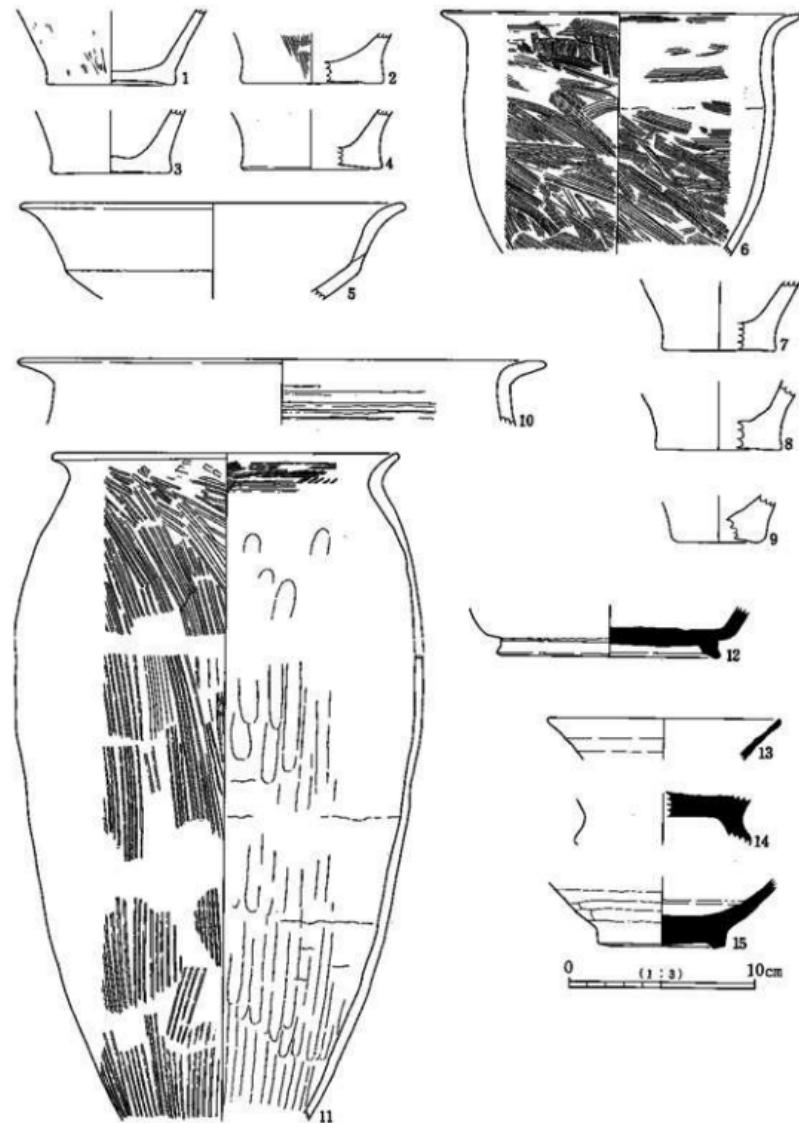
第78図 KIT 35号住居址出土土器 (2)



第79図 KIT 35号住居址（1～6）、36号住居址（7～10）出土土器

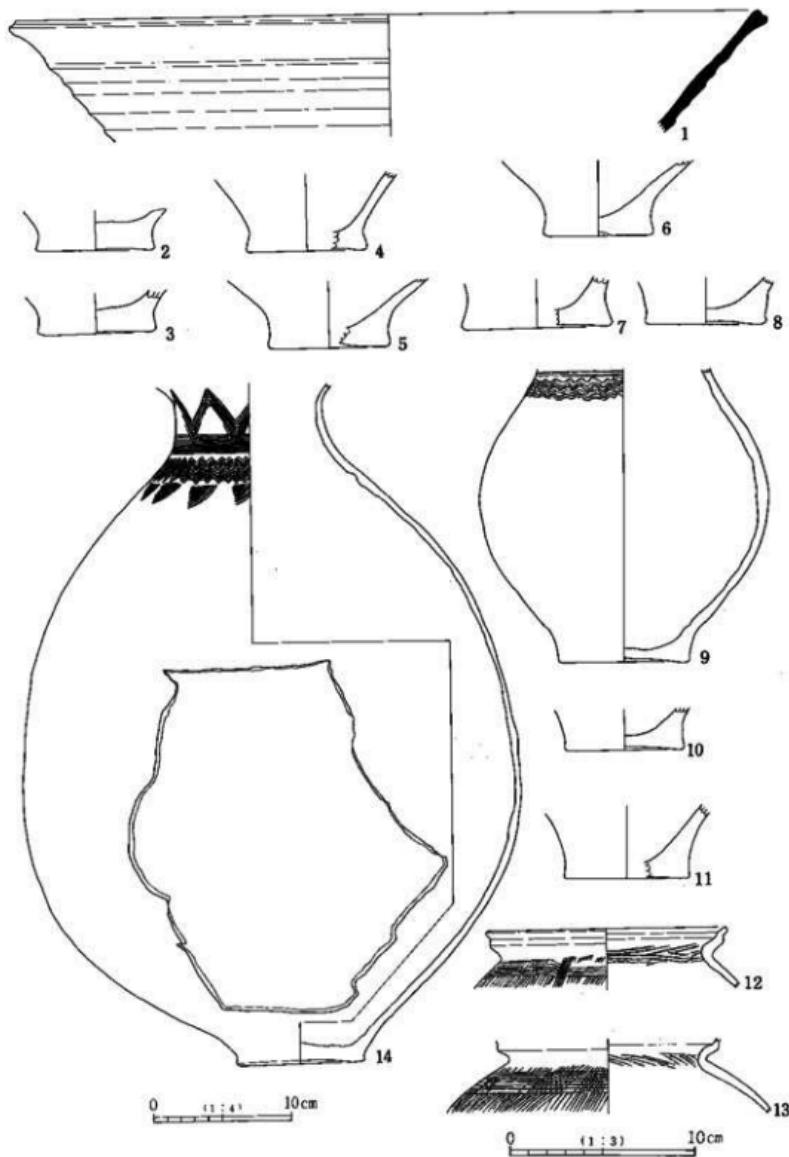


第80図 K I T 36号住居址(1~3)、37号住居址(4~9)出土土器



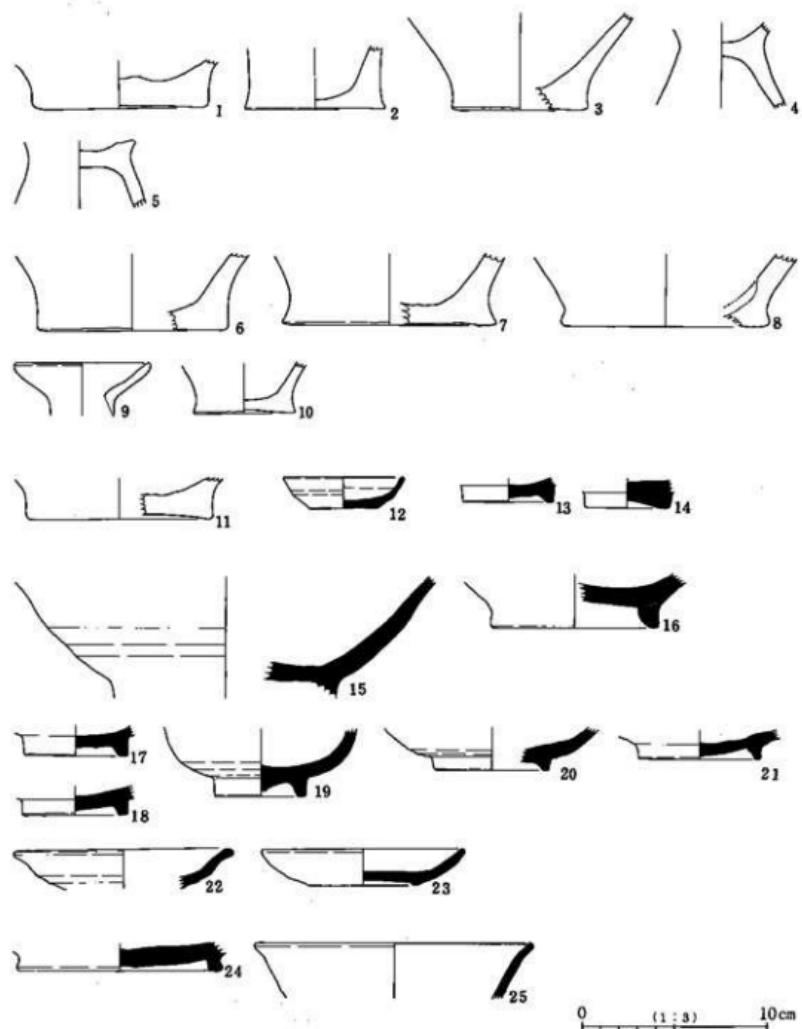
第81図 KIT 37号住居址 (1~5)、38号住居址 (6~8)、41号住居址 (9)

4号住居址 (10~12)、31号住居址 (13~15) 出土土器

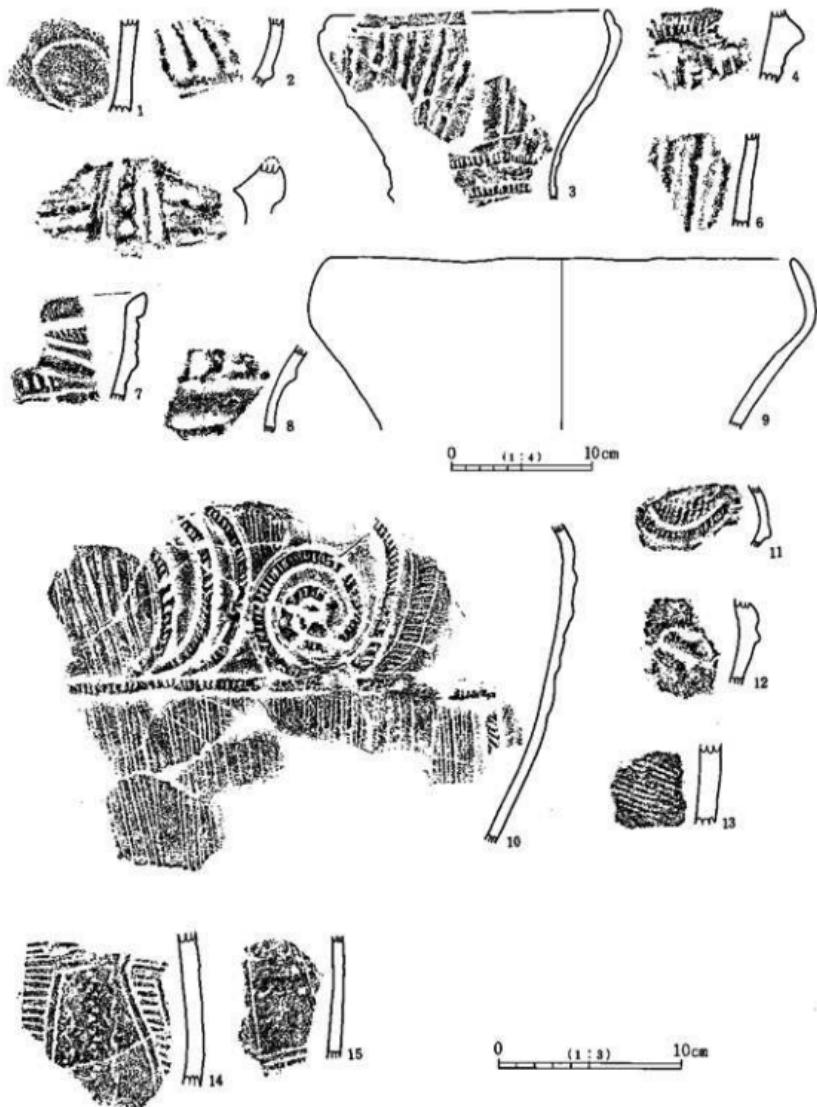


第82圖 KIT 31号住居址 (1)、方形周溝墓 2 (2・3)、方形周溝墓 6 (4)

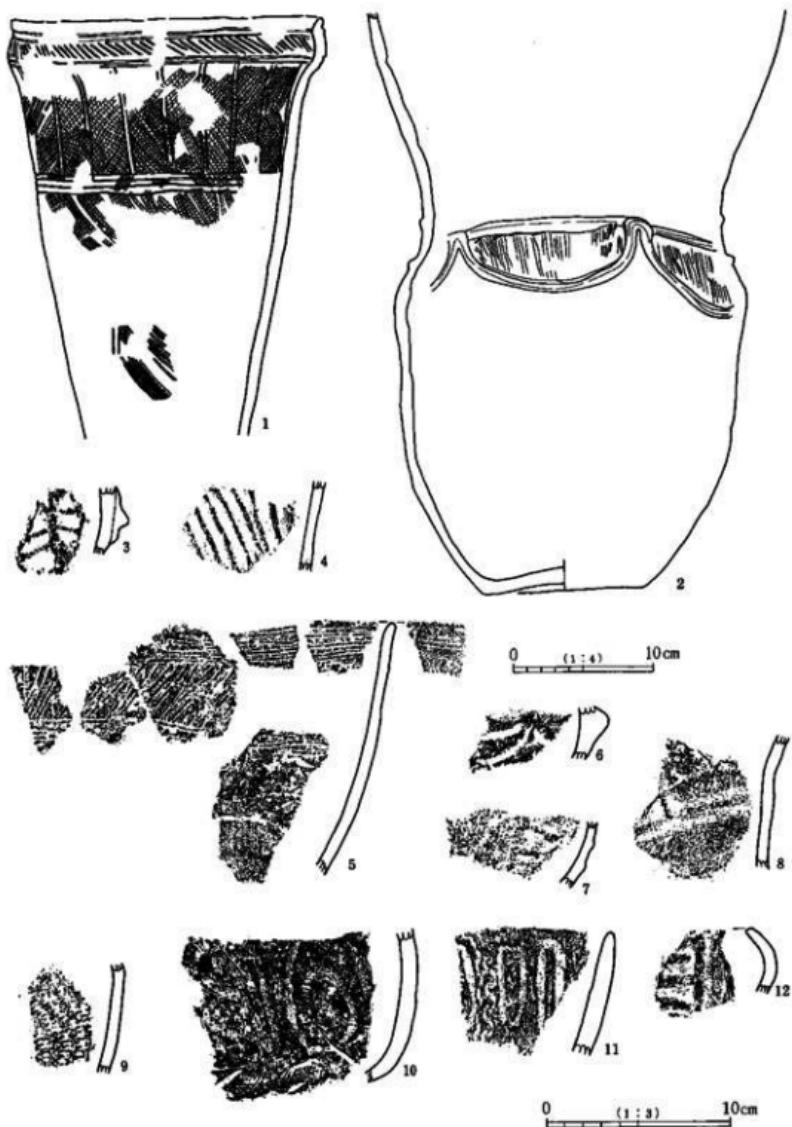
方形周溝墓 7 (5~13)、方形周溝墓 8 (14) 出土土器



第83図 KIT 方形周溝墓8（1～5）、方形周溝墓11（6～10）、溝址13（11）、溝址3（12）  
溝址5（13・14）、溝址8（15～23）、溝址14（24・25）出土土器

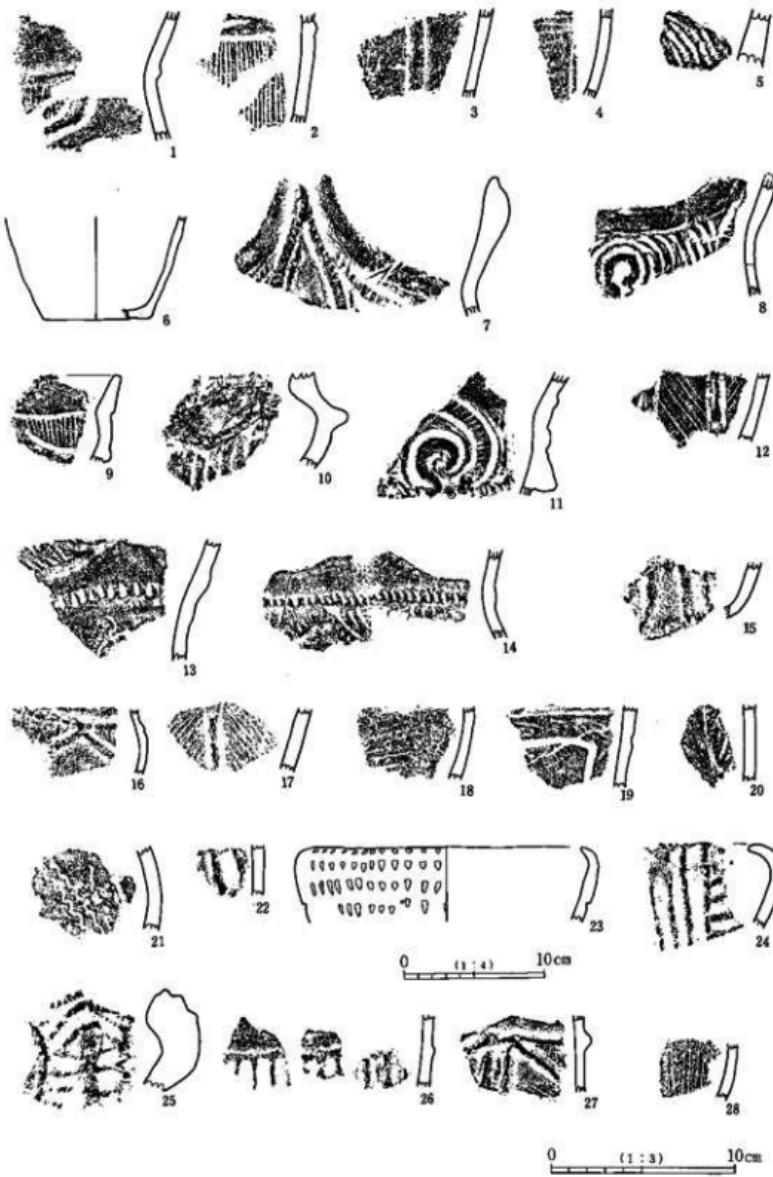


第84図 KIT 土坑3(1)、土坑7(2)、土坑12(3)、土坑13(4~6)、土坑14(7・8)  
土坑20(9・10)、土坑22(11~13)、土坑24(14・15)出土土器



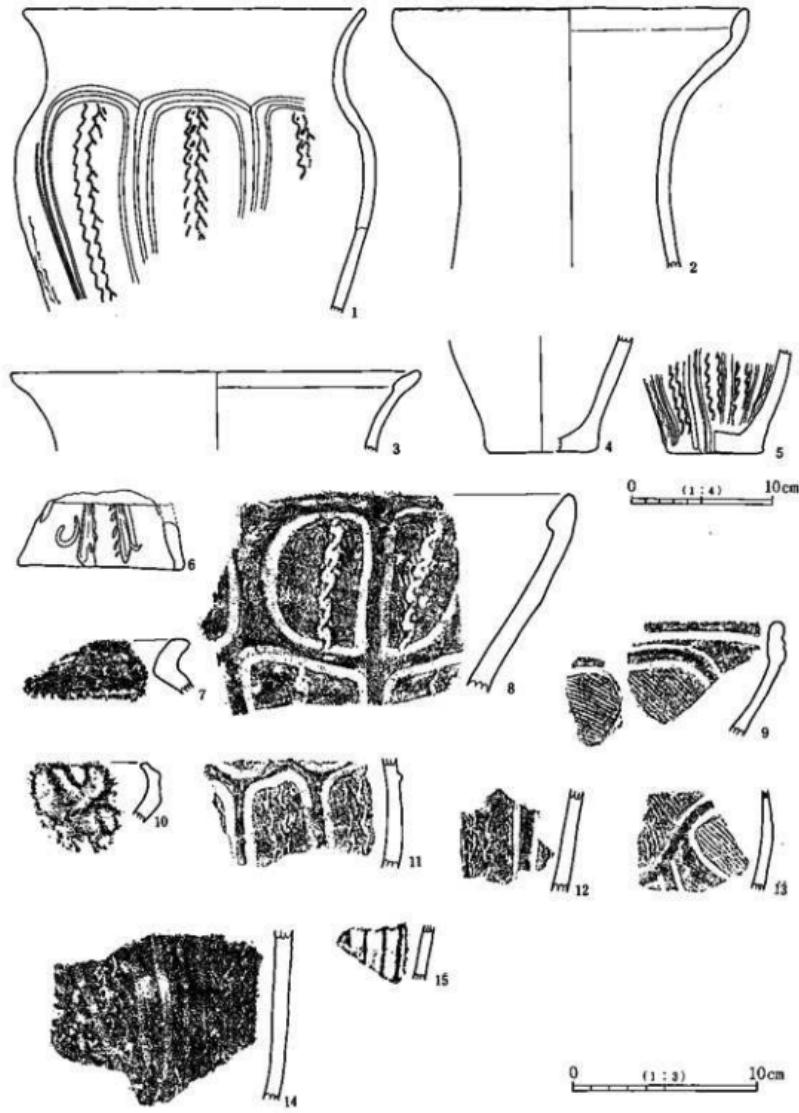
第85図 KIT 土坑24(1)、土坑25(2)、土坑26(3・4)、土坑28(5)

土坑30(6～9)、土坑31(10)、土坑34(11・12)出土土器

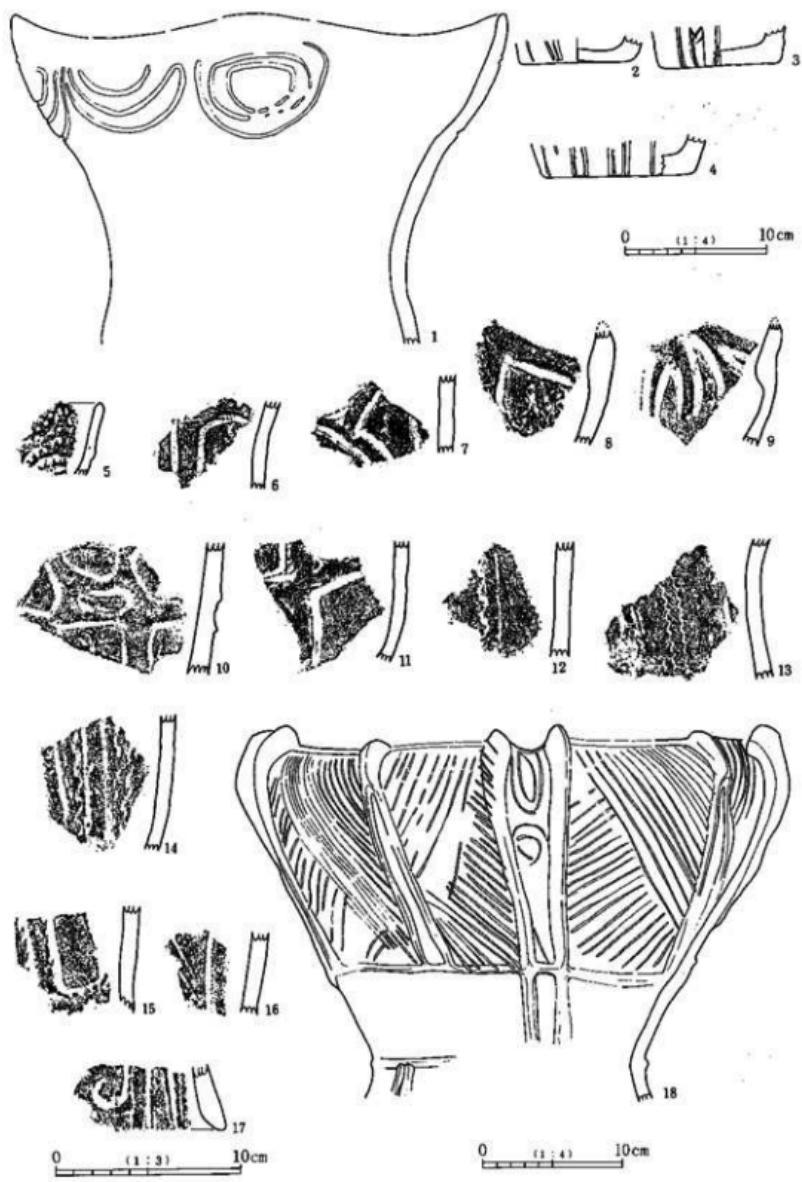


第86図 KIT 土坑35(1~3)、土坑38(4)、土坑38(5)、土坑40(6~14)

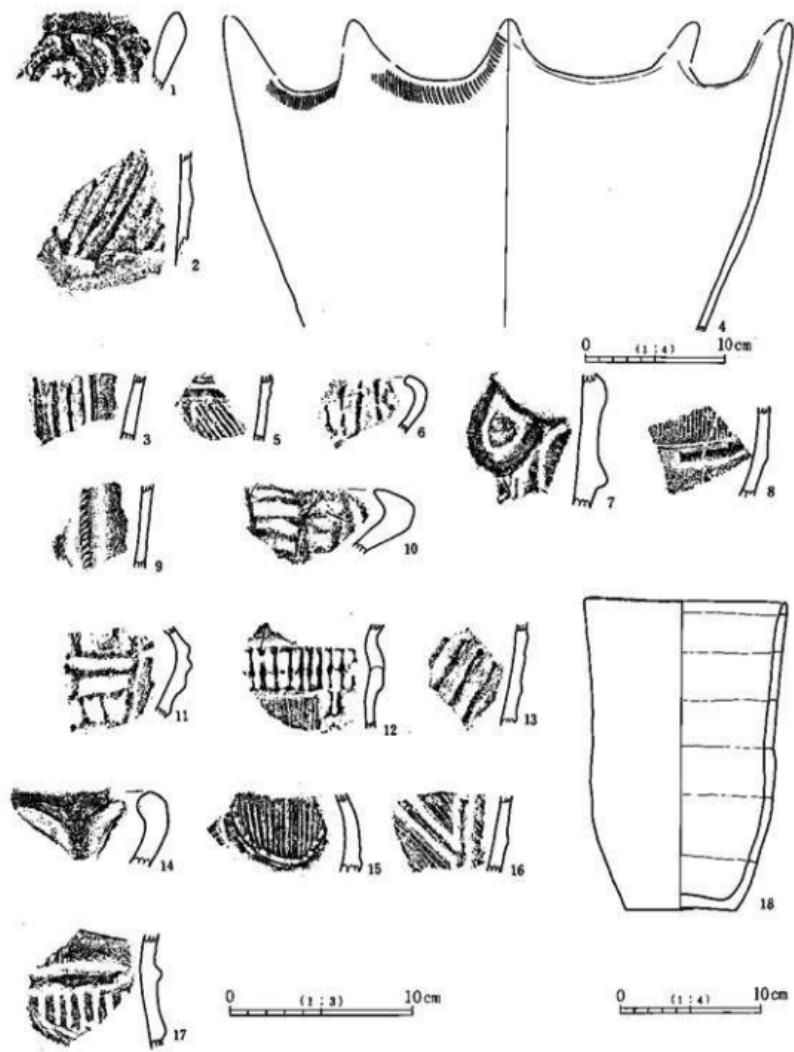
土坑41(15~17)、土坑42(18~22)、土坑43(23~28)出土土器



第87圖 KIT 土坑44出土土器

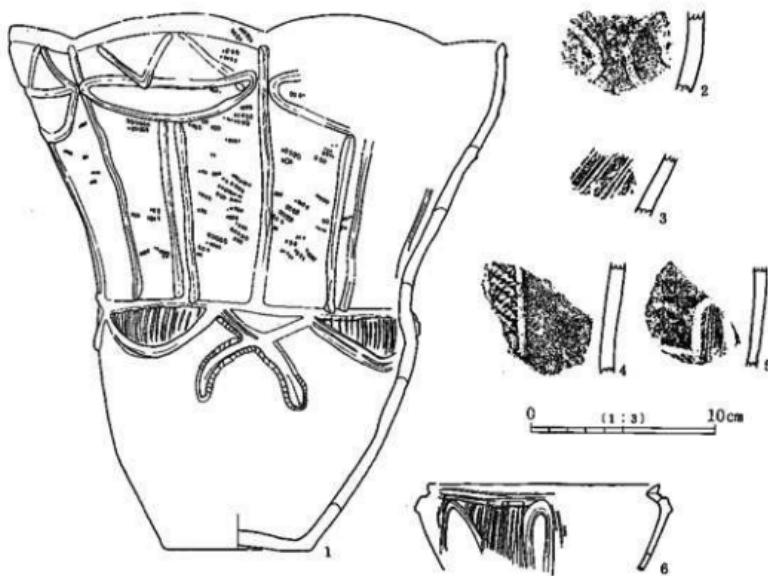


第88四 KIT 土坑45 (1~17)、土坑47 (18) 出土土器

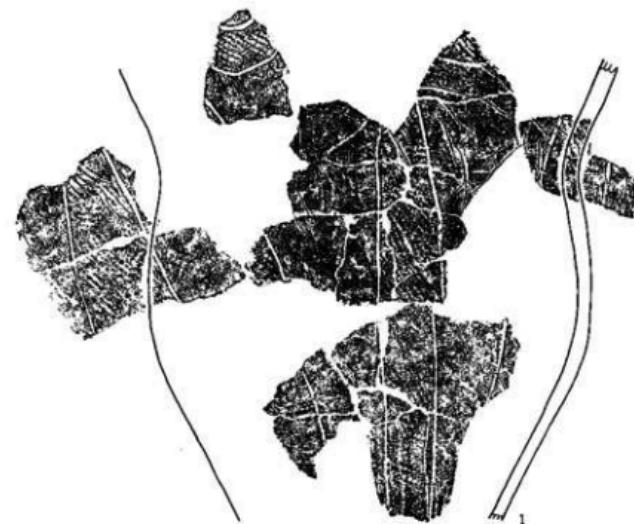


第39図 KIT 土坑47(1~3)、土坑49(4)、土坑50(5)、土坑51(6~9)

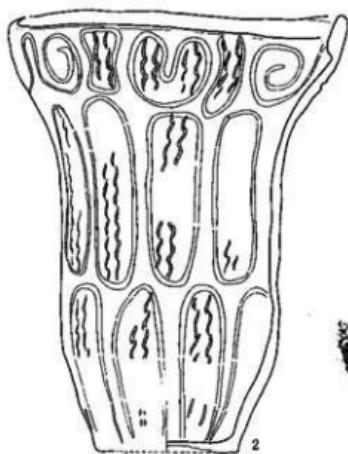
土坑52(10~13)、土坑53(14~17)、土坑55(18) 出土土器



第90図 KIT 土坑55(1)、土坑60(2)、土坑61(3・4)、土坑62(5)  
土坑69(6)、土坑82(7)出土土器



1

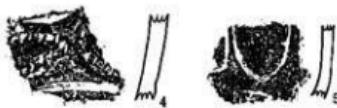


2

0 (1 : 4) 10 cm



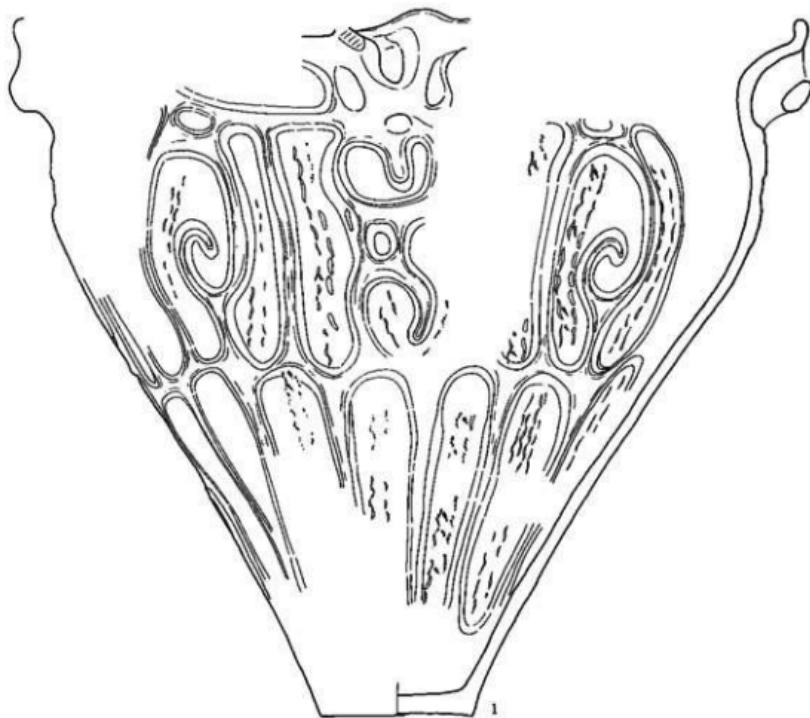
3



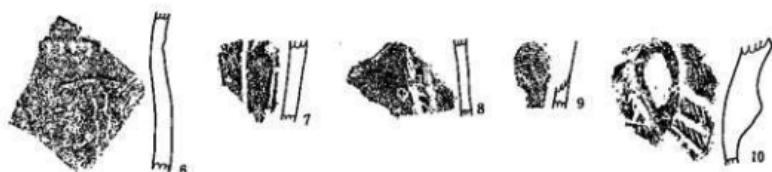
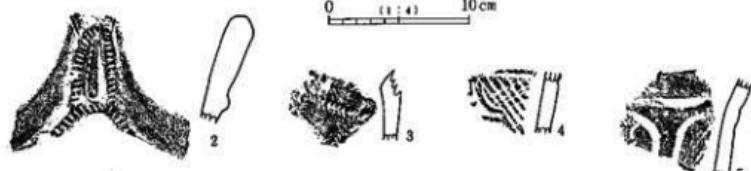
4

0 (1 : 3) 10 cm

第91図 KIT 土坑32出土土器



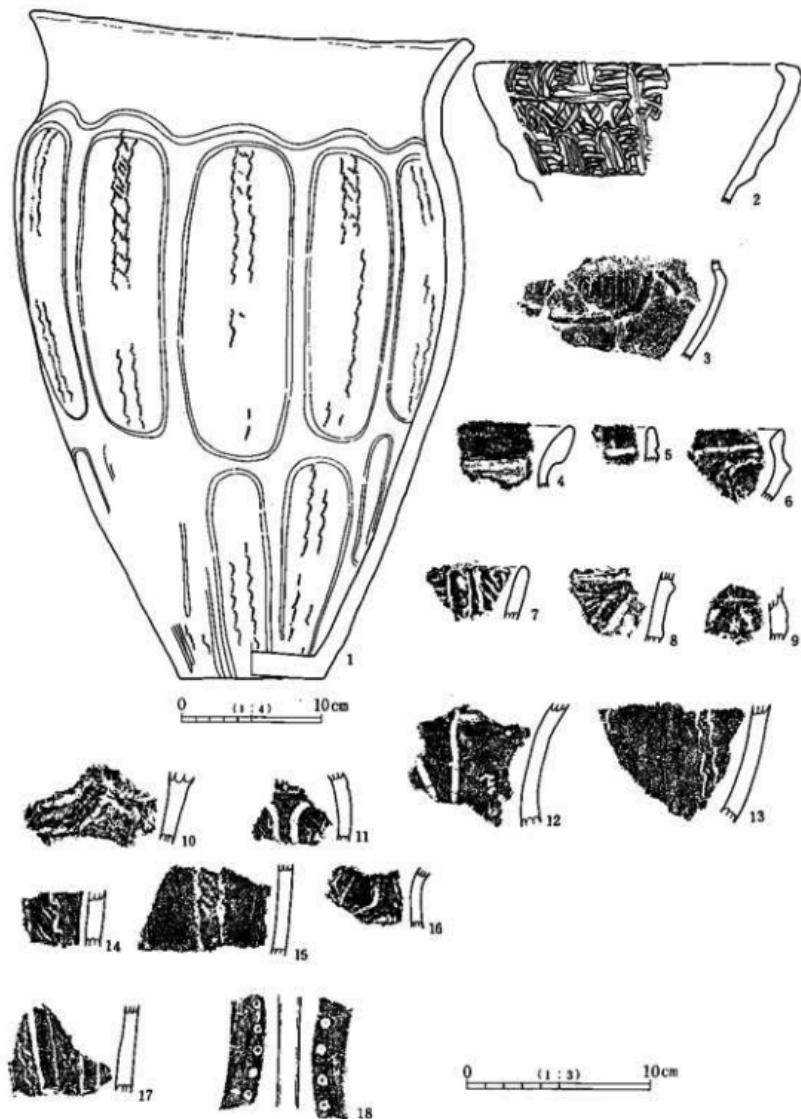
0 (1 : 4) 10 cm



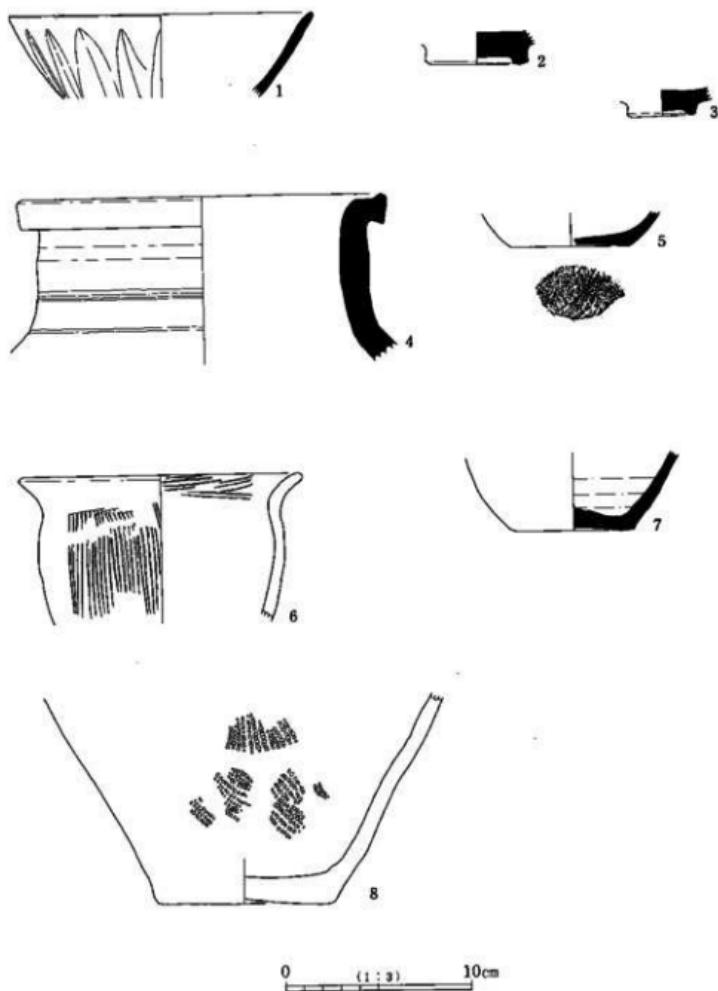
0 (1 : 3) 10 cm

第92図 KIT 土坑82(1)、土坑97(2~5)、土坑98(6~7)

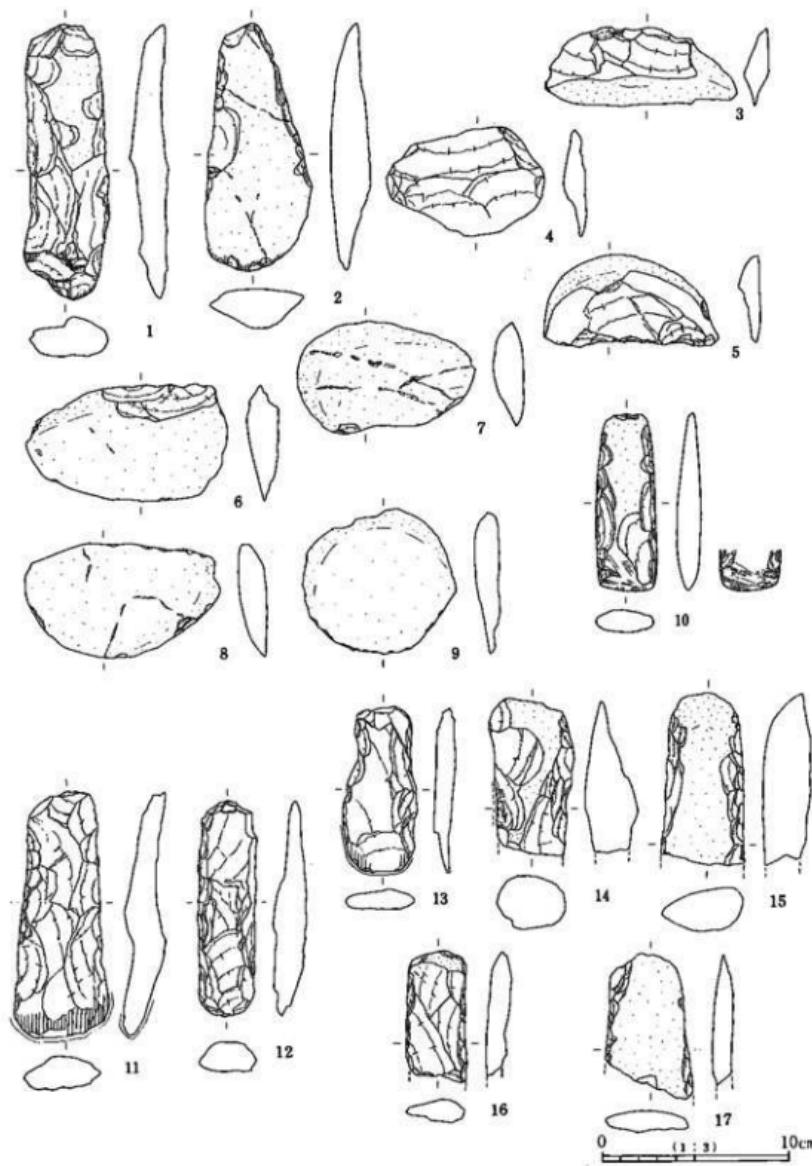
土坑104(8・9)、土坑106(10)出土土器



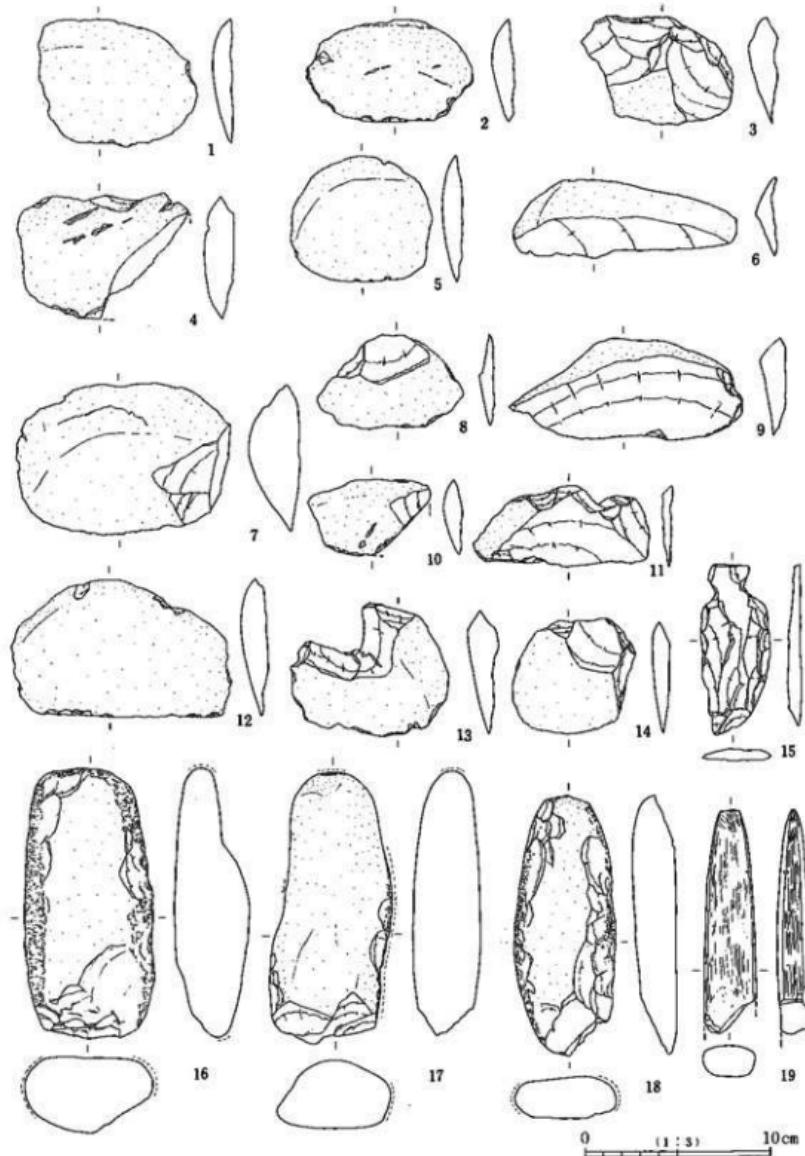
第93図 K I T 土坑82(1)、土坑107(2・3)、土坑108(4~18)出土土器



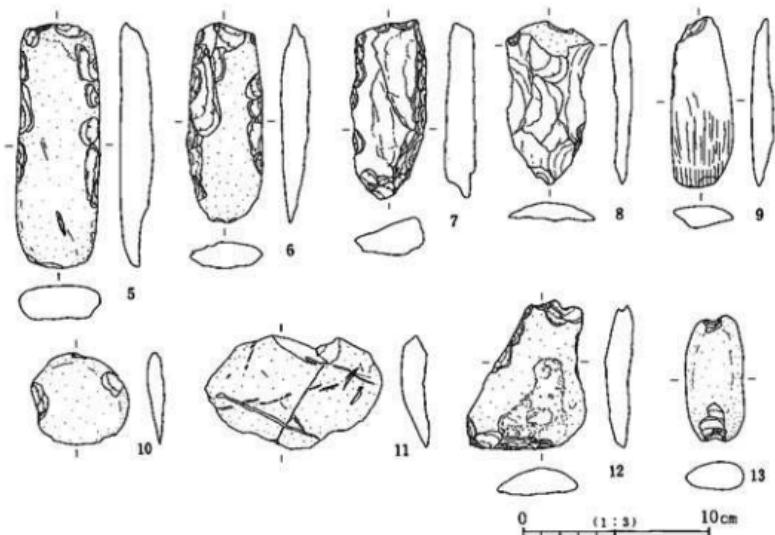
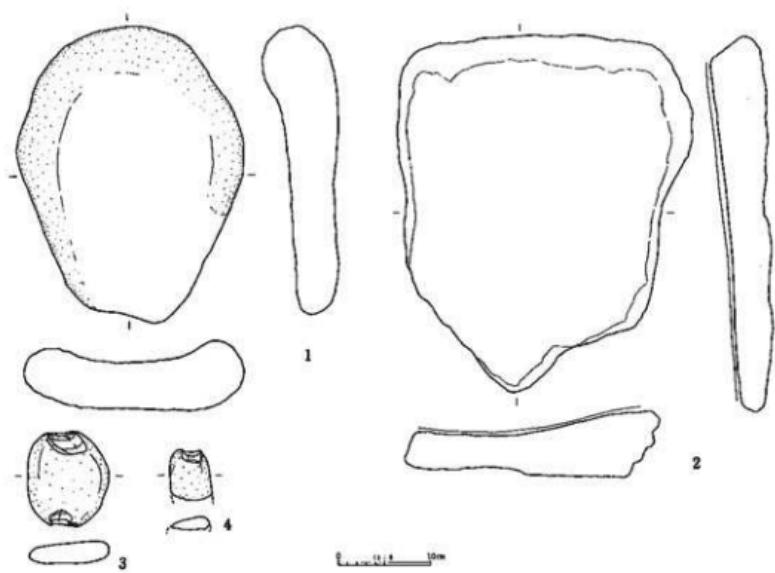
第94図 KIT 土坑2(1~3)、土坑71(4)、土坑84(5)  
土坑94(6・7)、埋設土器1(8)出土土器



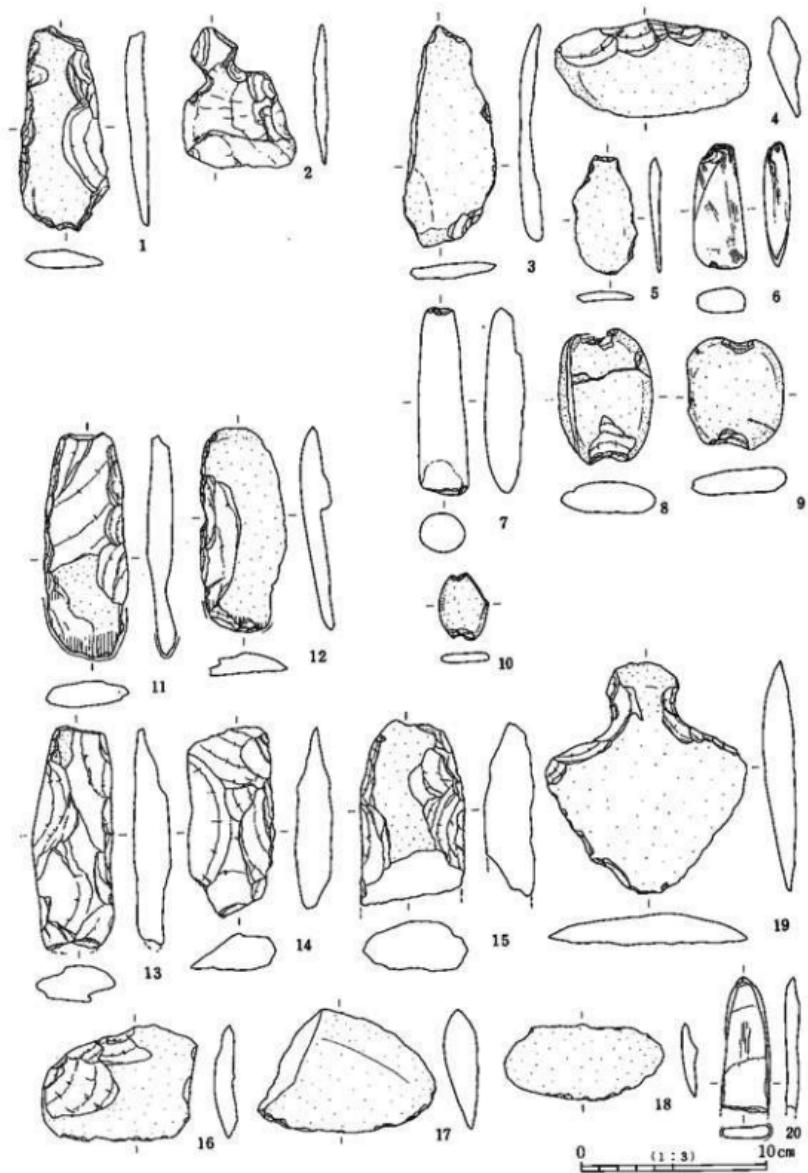
第95図 KIT 5号住居址 (1~10)、13号住居址 (11~17) 出土石器



第96図 KIT 13号住居址出土石器

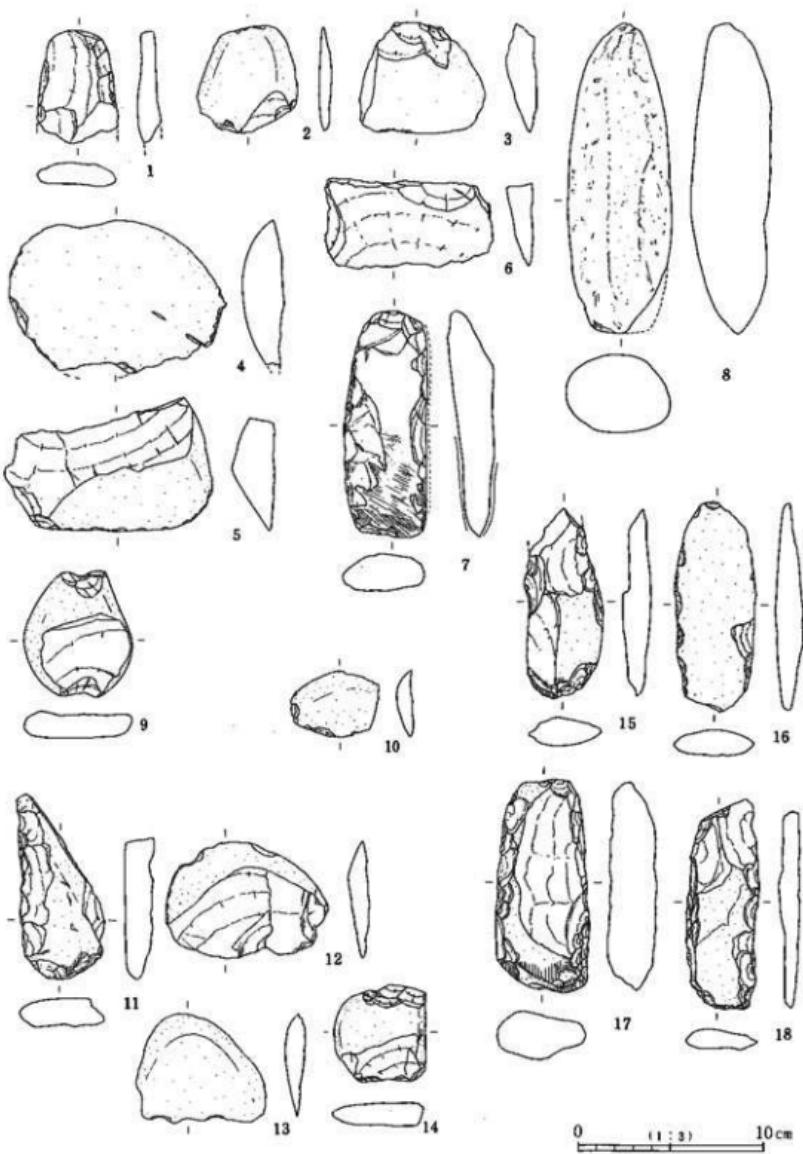


第97圖 K I T 13号住居址（1~4）、15号住居址（5~13）出土石器

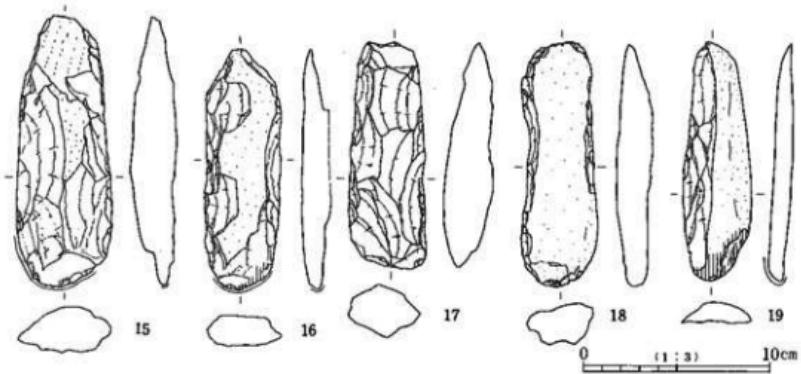
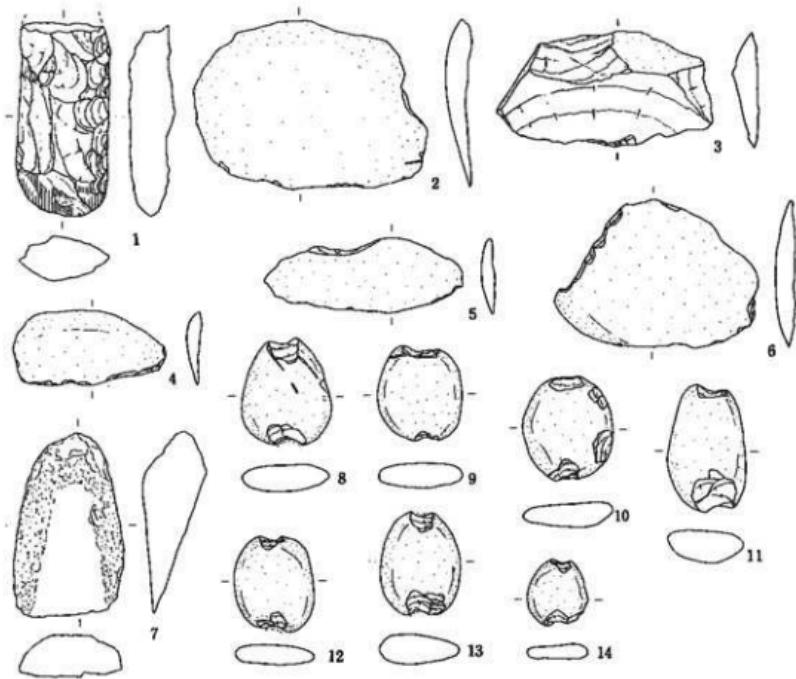


第98図 KIT 19号住居址 (1~2)、20号住居址 (3~10)

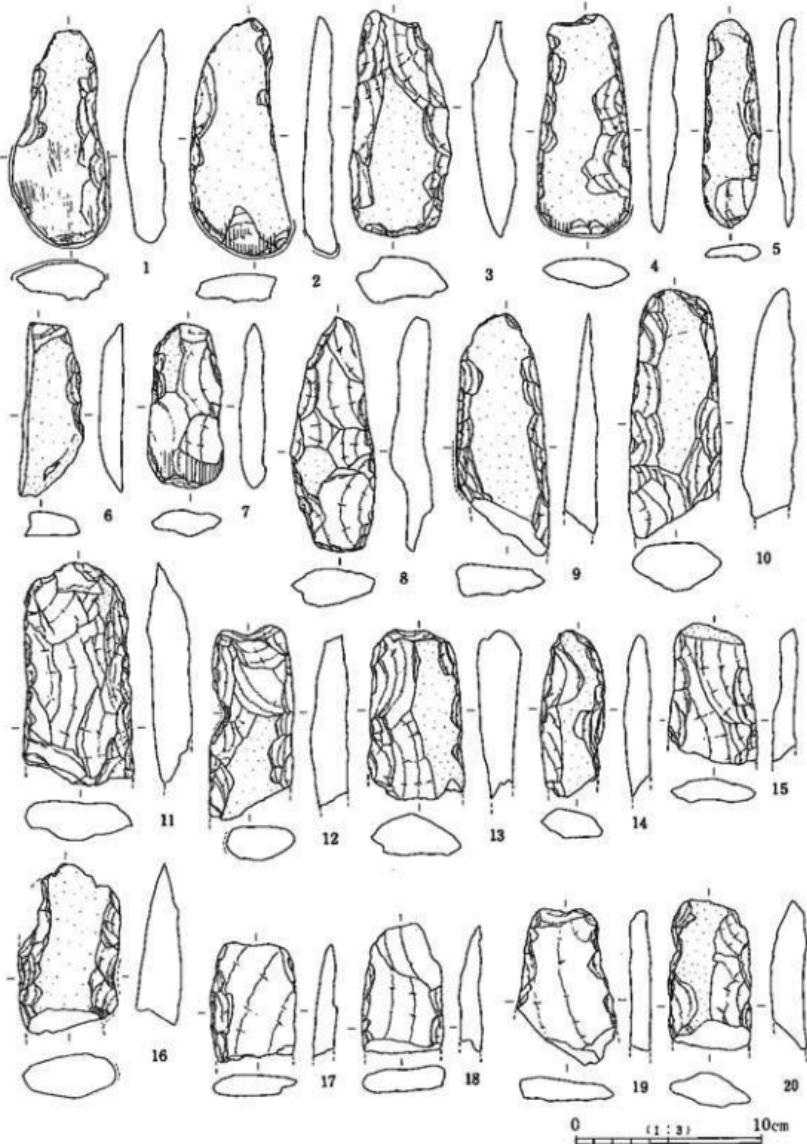
22号住居址 (11~20) 出土石器



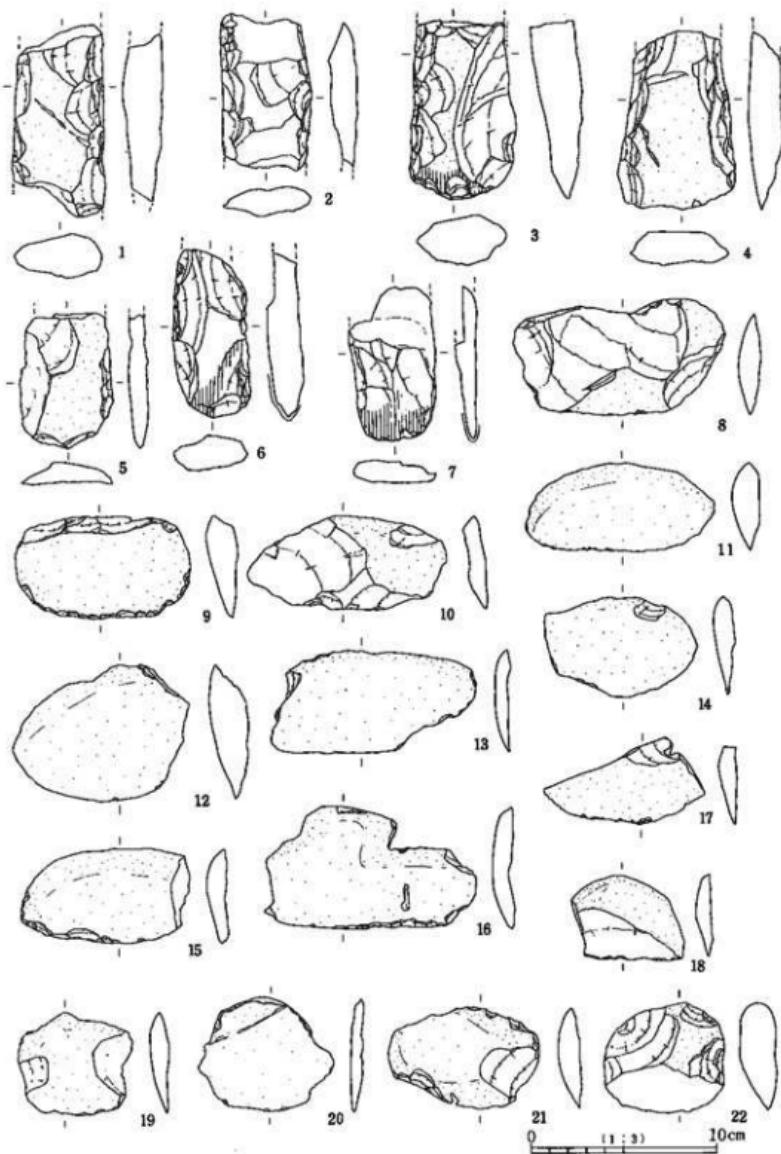
第99図 KIT 23号住居址 (1~9)、24号住居址 (10)  
25号住居址 (11~14)、29号住居址 (15~18) 出土石器



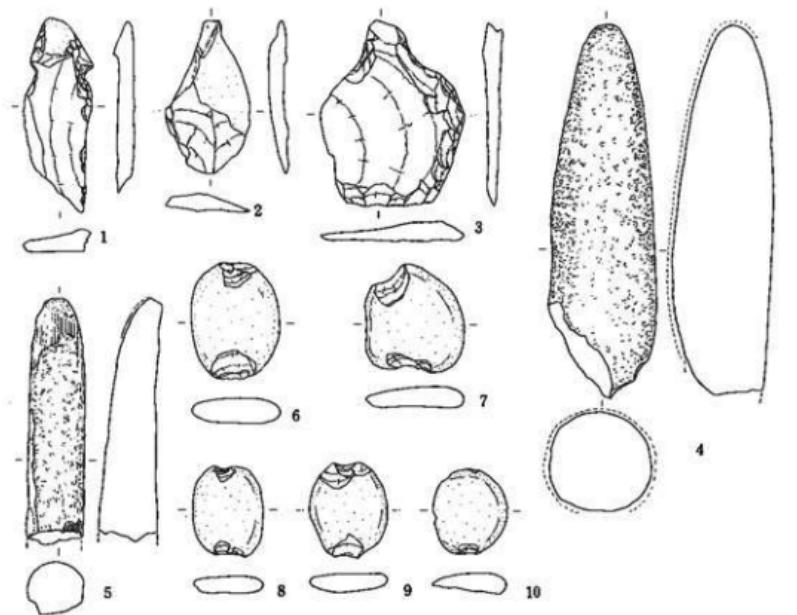
第100図 KIT 29号住居址（1~14）、30号住居址（15~19）出土石器



第101図 KIT 30号住居址出土石器(1)



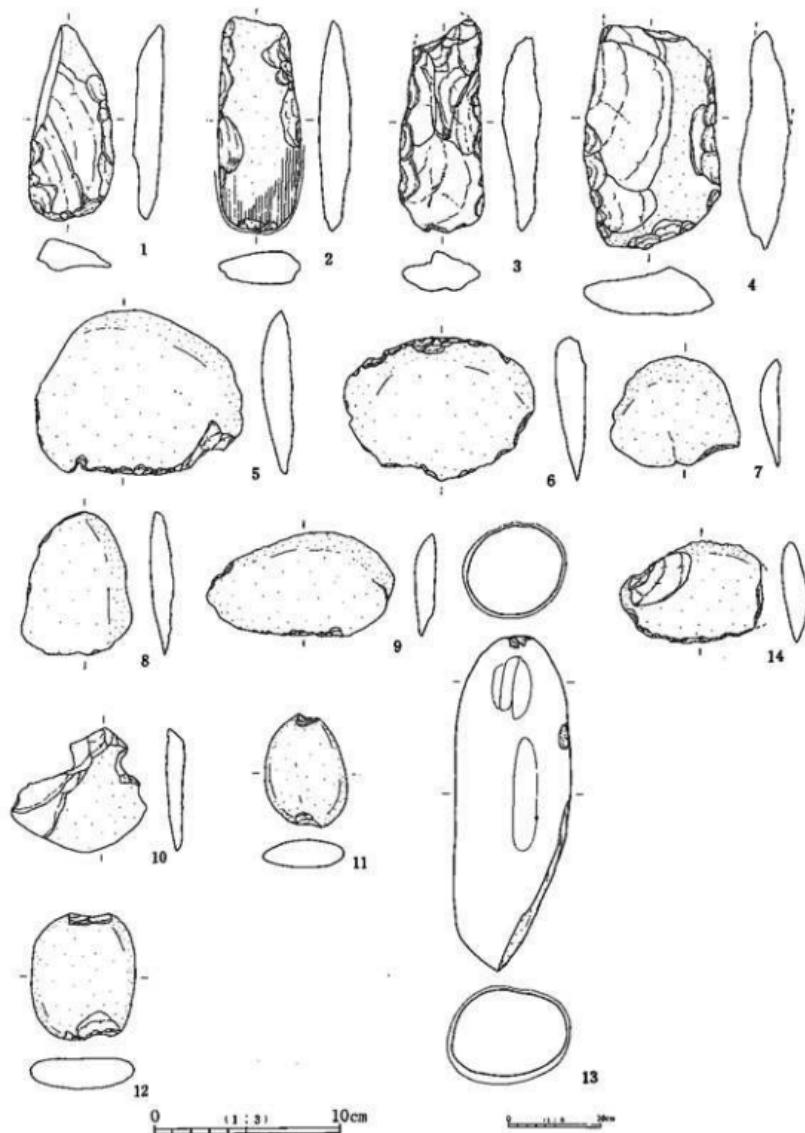
第102図 KIT 30号住居址出土石器 (2)



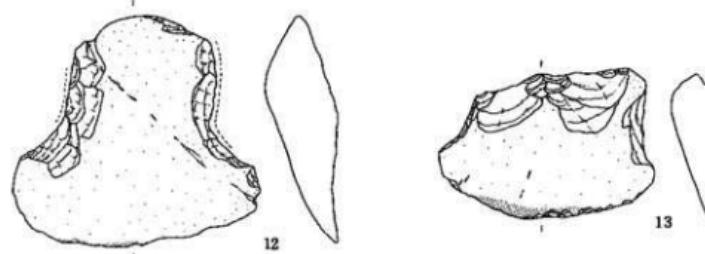
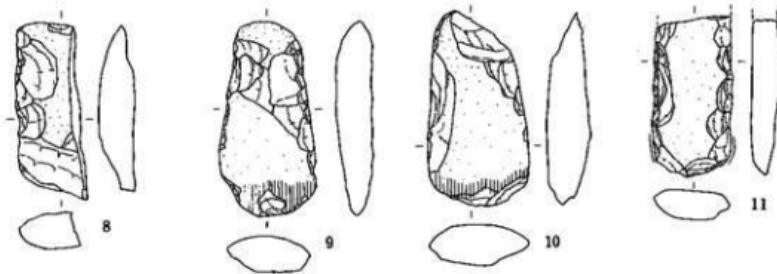
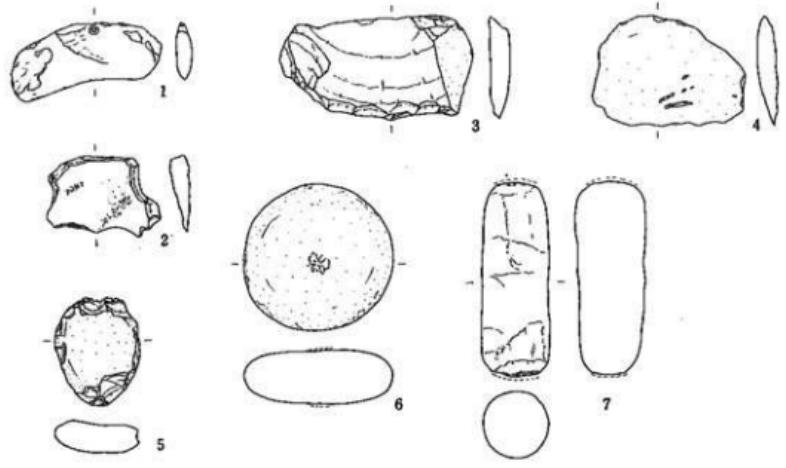
第103図 KIT 30号住居址 (1~10)、42号住居址 (11~13)

43号住居址 (14・15) 出土石器

0 (1 : 3) 10 cm

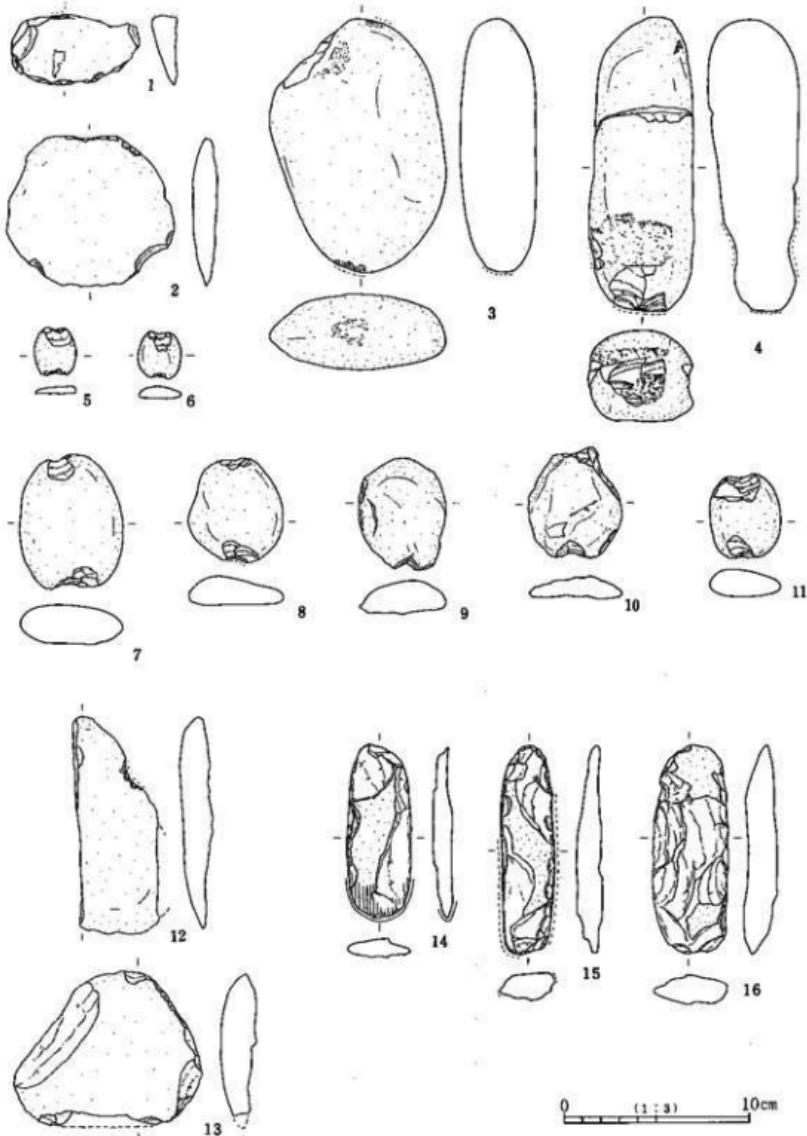


第104図 KIT 43号住居址（1～13）、44号住居址（14）出土石器



0 (1 : 3) 10 cm

第105図 KIT 6号住居址(1~7)、7号住居址(8~13)出土石器



第106図 KIT 7号住居址 (1~11)、8号住居址 (12~13)

9号住居址 (14~16) 出土石器

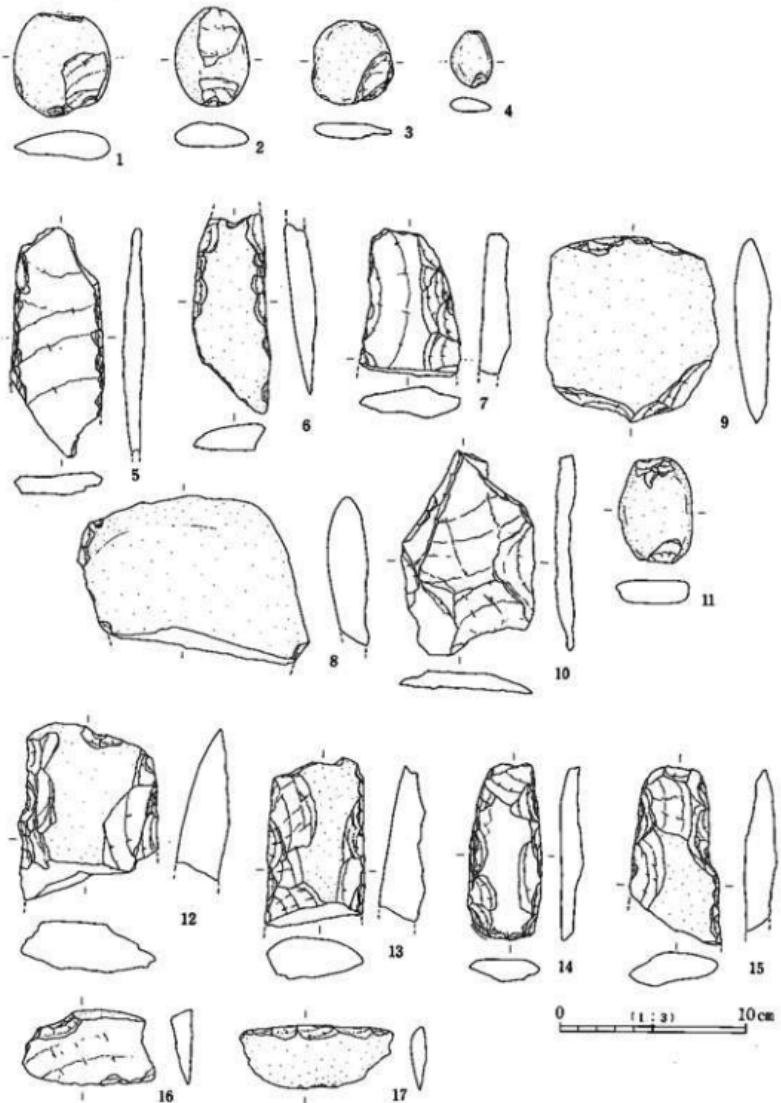


第107図 KIT 9号住居址（1～13）、10号住居址（14～16）出土石器



第108図 KIT 11号住居址 (1~6)、12号住居址 (7~9)

14号住居址 (10~16) 出土石器

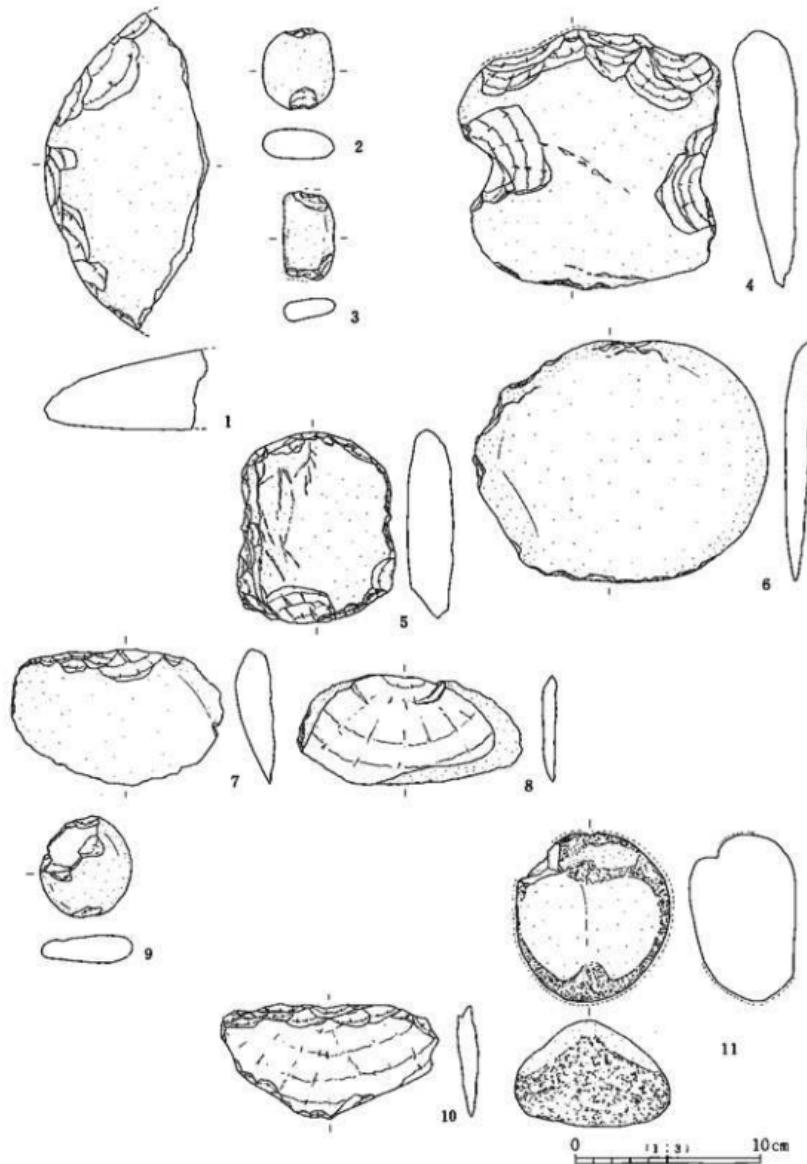


第109図 KIT 14号住居址（1～4）、16号住居址（5～11）

17号住居址（12～17）出土石器



第110図 KIT 17号住居址(1~3)、18号住居址(4~5)  
21号住居址(6~9)、26号住居址(10~12)出土石器

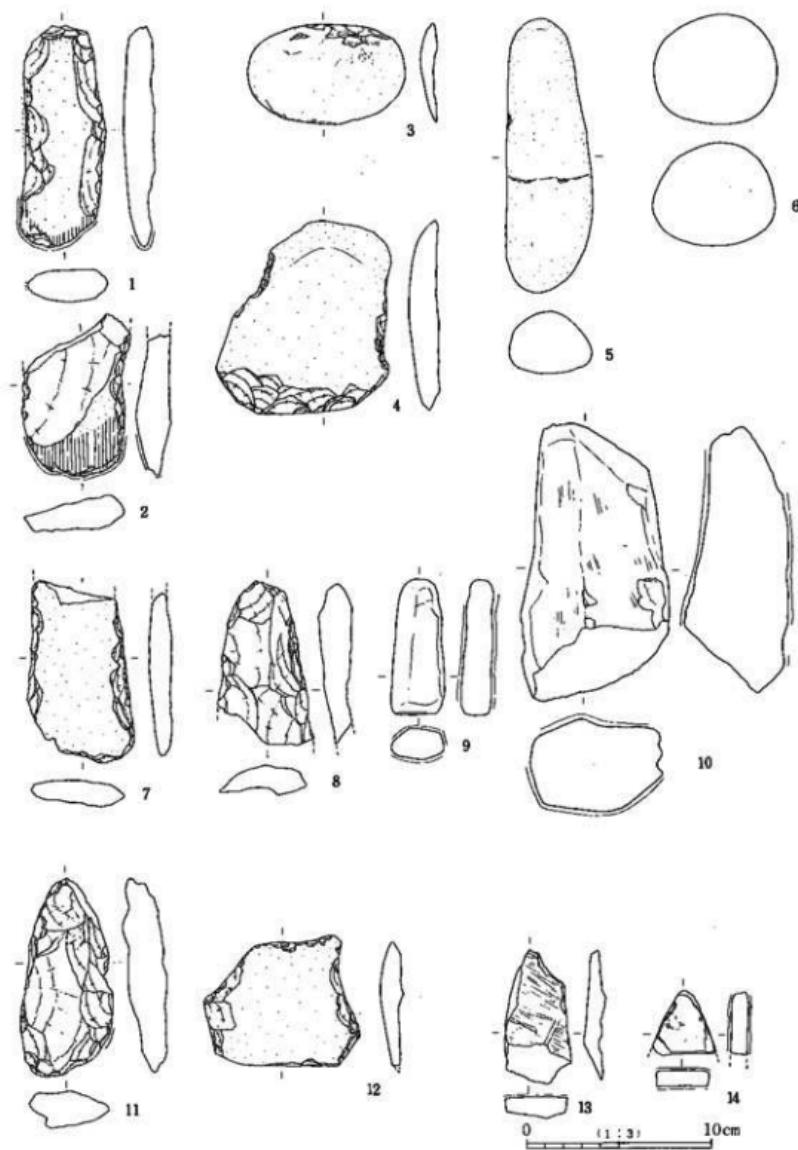


第111図 KIT 28号住居址 (1~3)、27号住居址 (4~9)

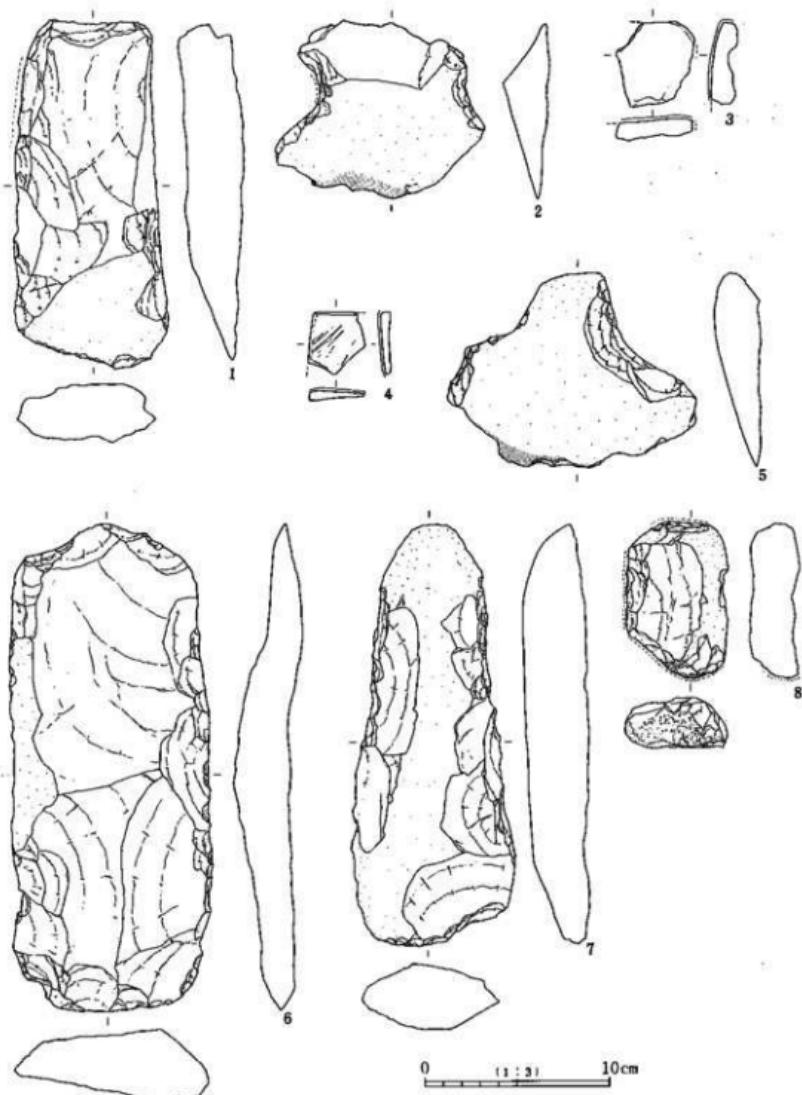
29号住居址 (10・11) 出土石器



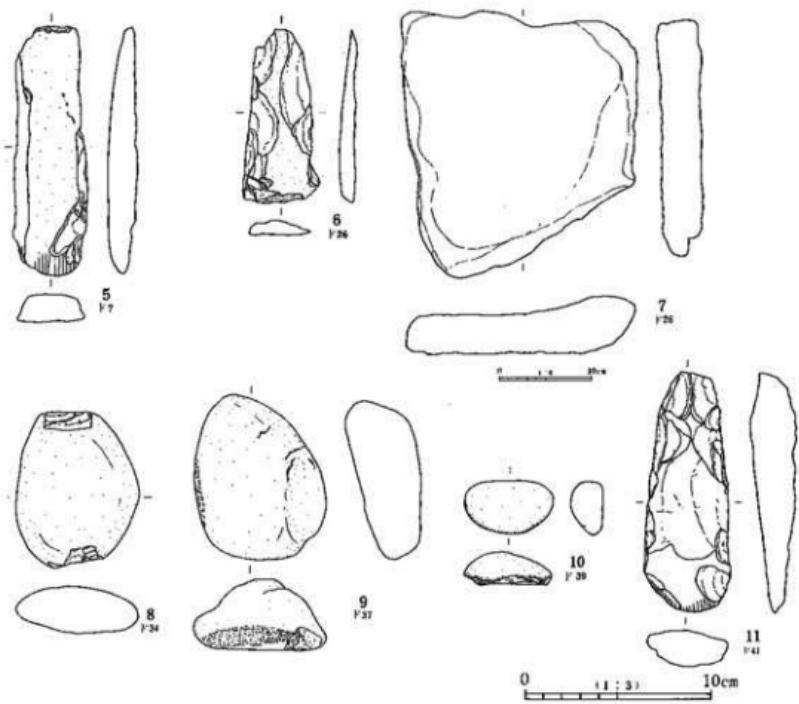
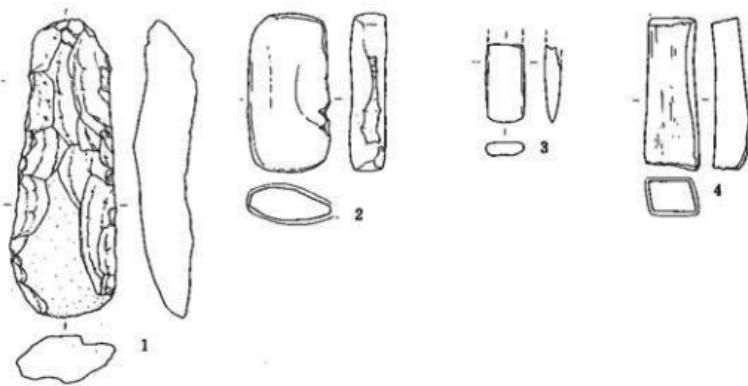
第112図 KIT 32号住居址 (1・2)、34号住居址 (3・4)  
35号住居址 (5~11)、36号住居址 (12・13) 出土石器



第113図 KIT 37号住居址 (1~6)、38号住居址 (7~10)  
41号住居址 (11・12)、31号住居址 (13・14) 出土石器

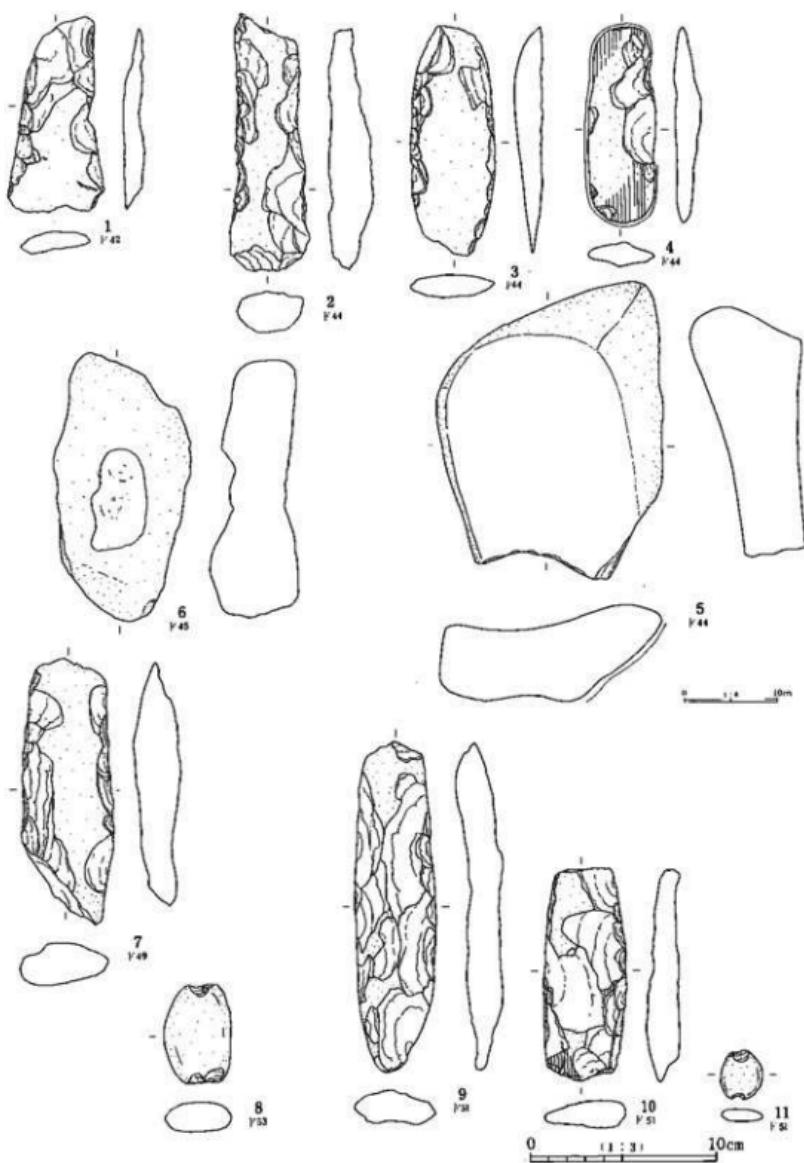


第114図 KIT 方形周溝墓2(1・2)、方形周溝墓3(3)、方形周溝墓4(4)  
方形周溝墓5(5)、方形周溝墓7(6~8)出土石器

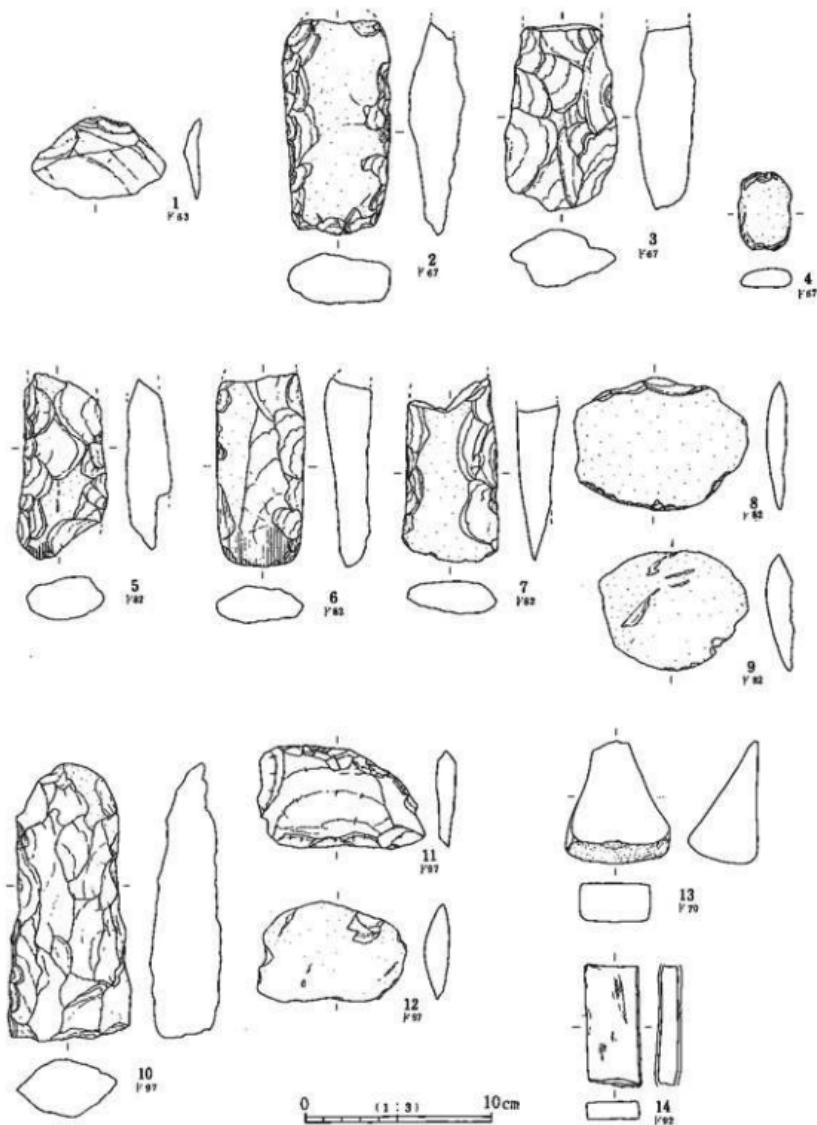


第115图 KIT 方形周溝墓8(1)、方形周溝墓9(2)、圓溝址2(3)

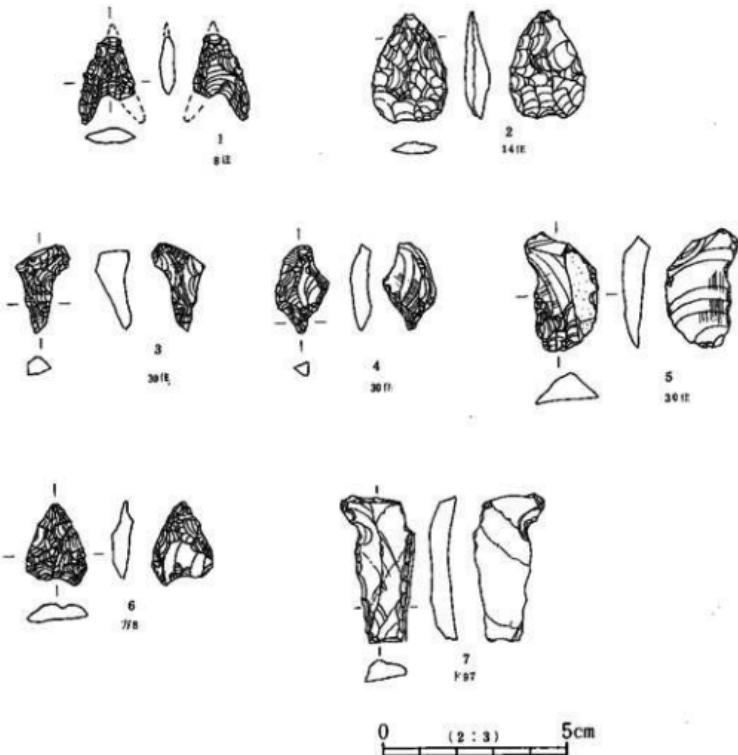
建物址5(4)、土坑(5~11)出土石器



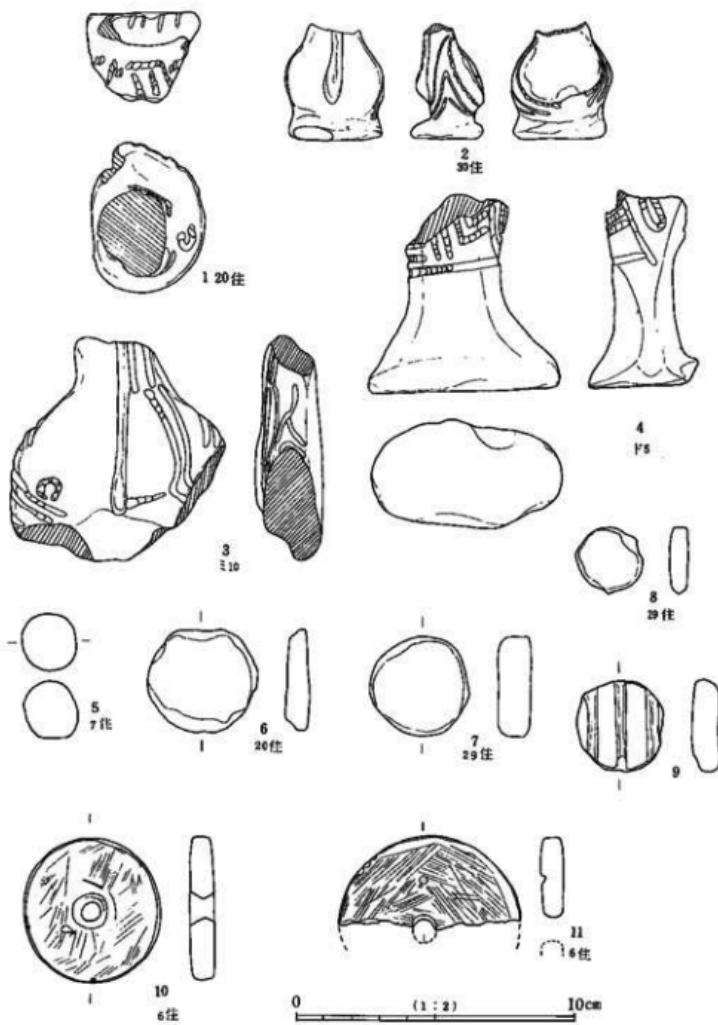
第116圖 K I T 土坑出土石器 (1)



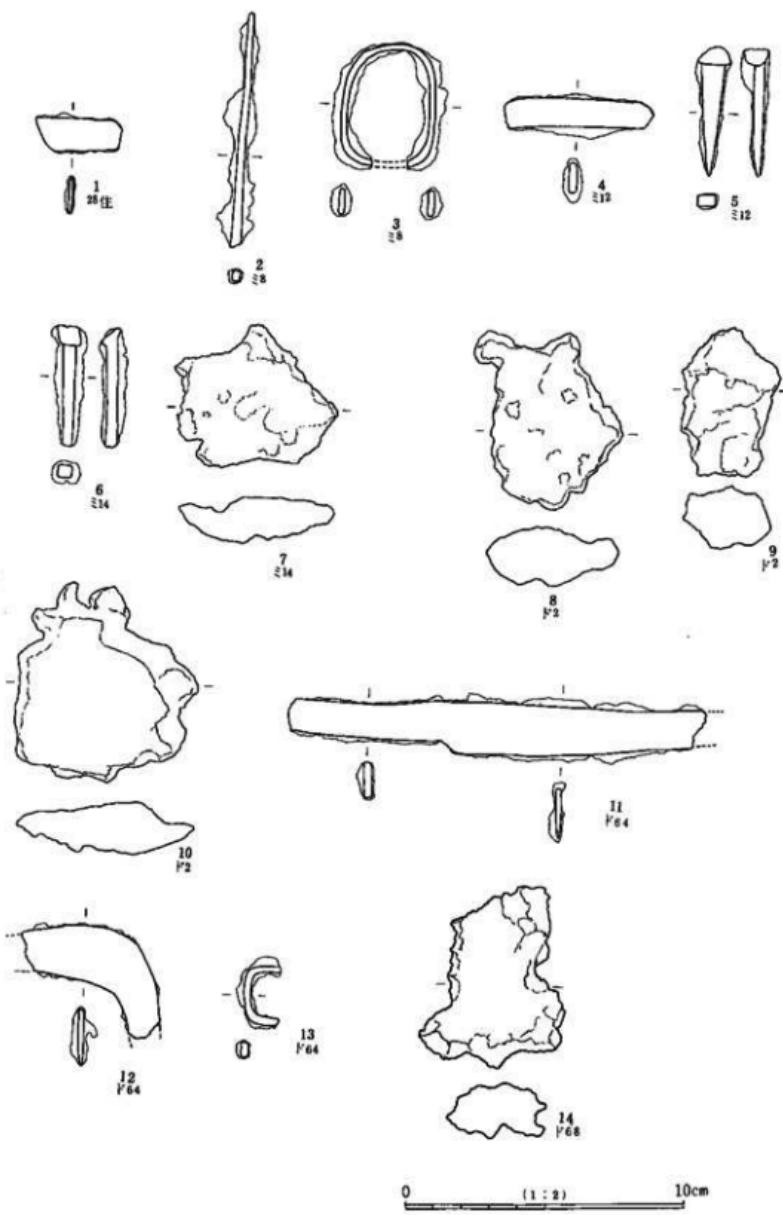
第117図 KIT 土坑出土石器 (2)



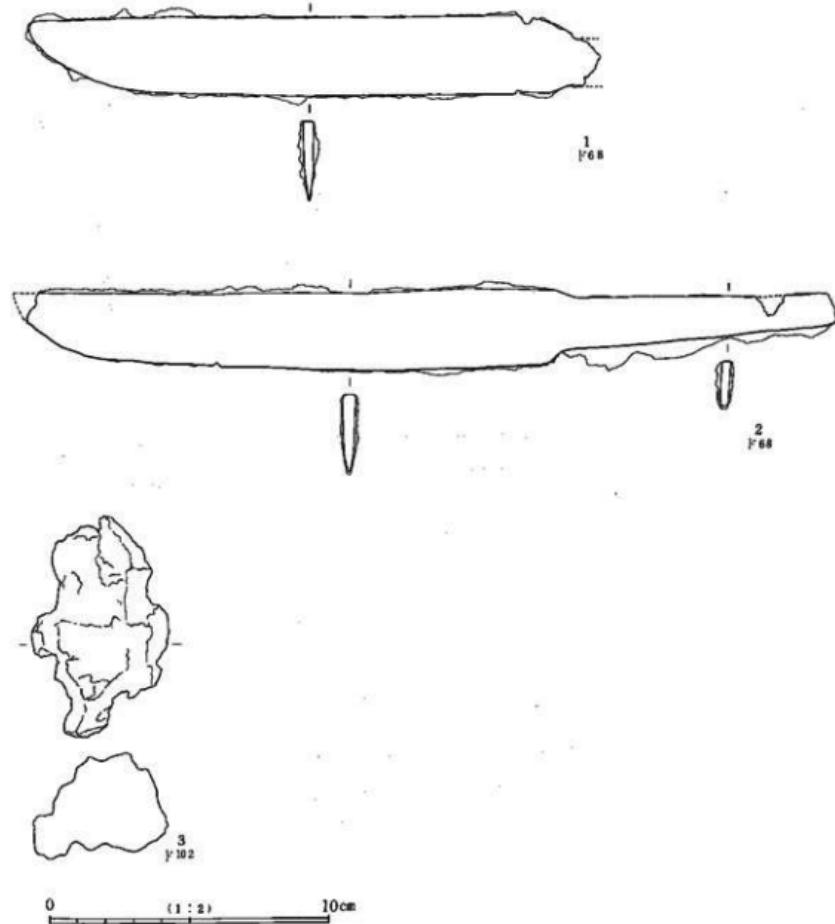
第118圖 K I T 出土小型石器



第110図 KIT 出土土製品（1～9）、石製器（10・11）



第120圖 KIT 出土鐵器・鐵滓 (1)



第121図 KIT 出土鐵器、鉄滓 (2)



ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡遠景（北西より望む）



ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡遠景（南より望む）

図版 2



ツルサシ遺跡近景  
(ミカド遺跡より望む)

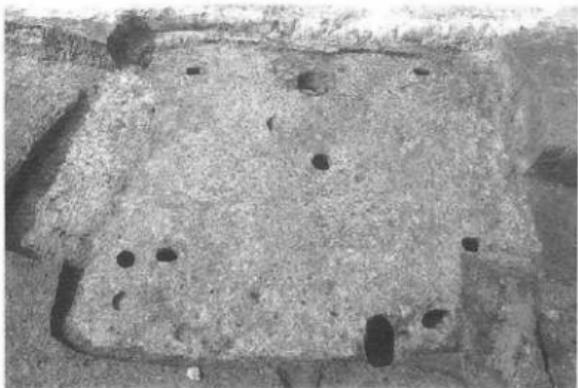


TRS 1号住居址

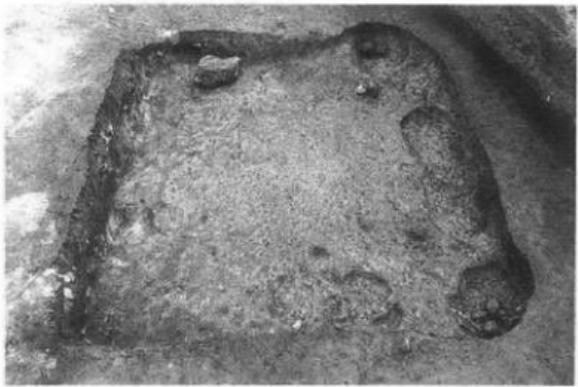


TRS 2号住居址

図版 3



TRS 3号住居址

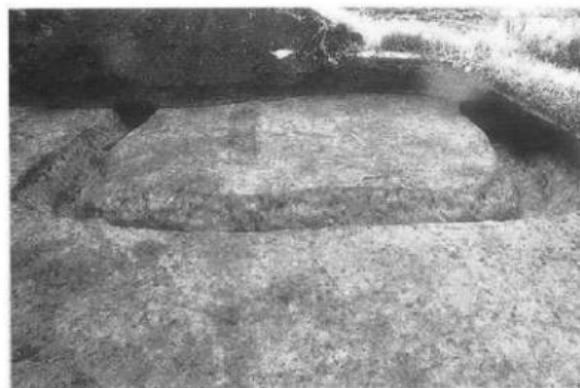


TRS 4号住居址



TRS 5号住居址

圖版 4



TRS 方形周溝墓 1



TRS 方形周溝墓 2

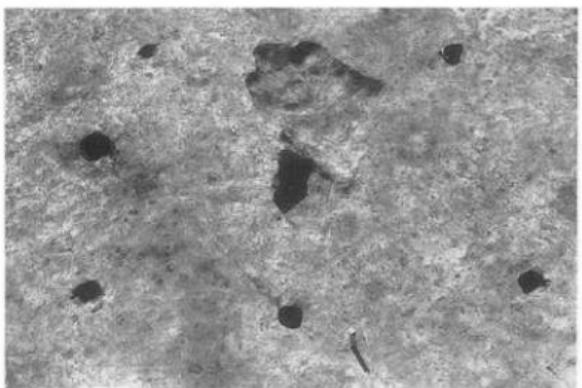


TRS 方形周溝墓 3

図版 5



TRS 方形周溝墓 4



TRS 建物址 1

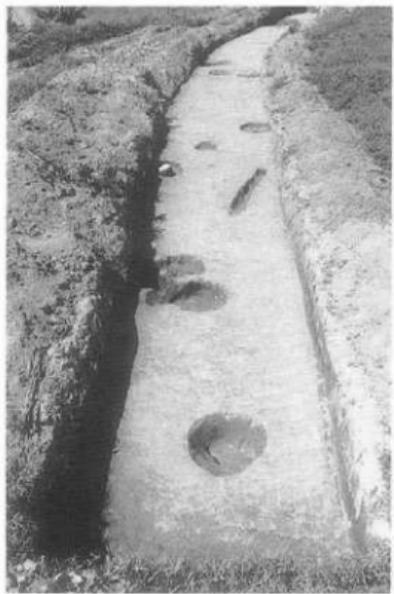


TRS 第 I 地区全景

図版 6



TRS 第Iトレンチ全景



TRS 第IIトレンチ南東側全景



TRS 第IIトレンチ北西側全景



ミカド遺跡近景  
(ツルサシ遺跡から望む)

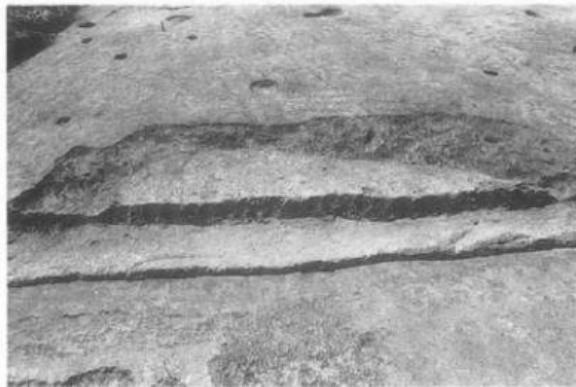


MKD 1号住居址



MKD 方形周溝墓1

図版 8



MKD 方形周溝窓 2



MKD 方形周溝窓 3



MKD 方形周溝窓 4



MKD 方形周溝墓 5



MKD 方形周溝墓 6・7



MKD 円形周溝墓 1

图版 10



MKD 円形周溝墓 2



MKD 第II地区

溝址 1・2・3



MKD 第III地区溝址 1・2



MKD 第 I 地区全景



MKD 第 II 地区全景

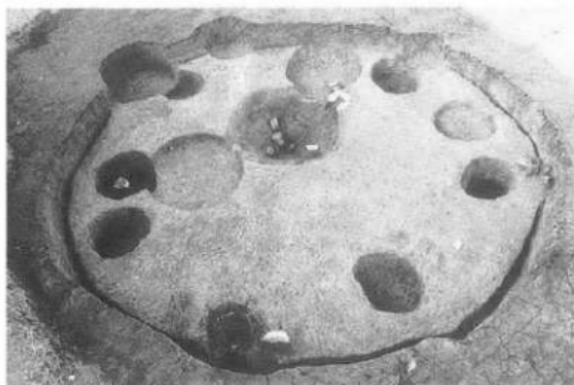


MKD 第 III 地区全景

図版 12



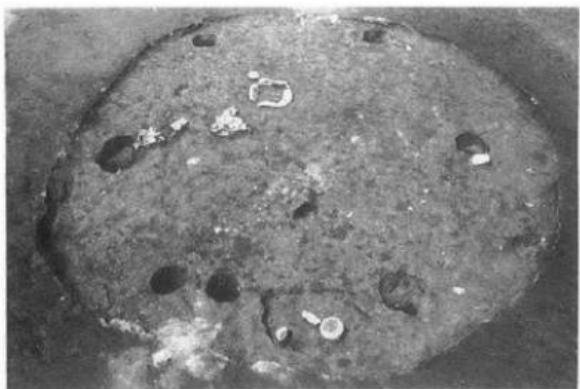
増田遺跡近景  
(垣外遺跡から望む)



MSD 1号住居址



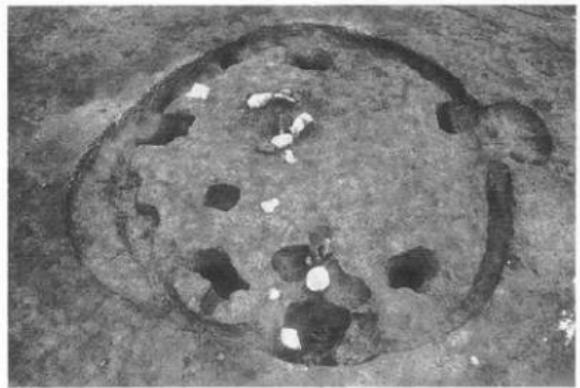
MSD 2号住居址



MSD 3号住居址



MSD 5号住居址



MSD 6号住居址

图版 14



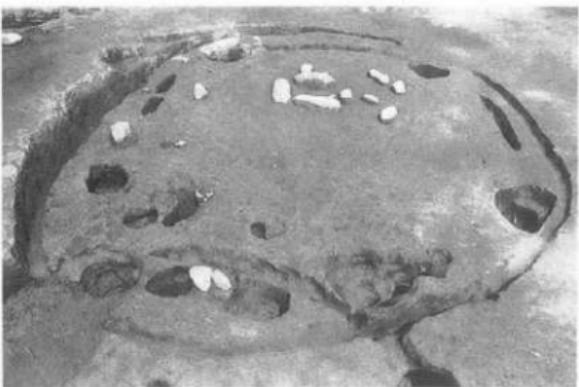
MSD 7号住居址



MSD 8号住居址



MSD 9号住居址



MSD 10号住居址



MSD 11号住居址



MSD 12号・17号住居址

図版 16



MSD 13号住居址



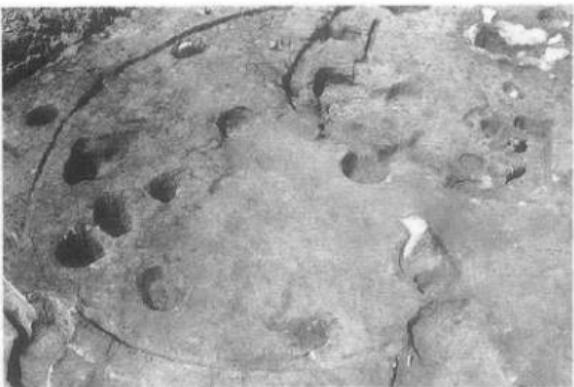
MSD 14号住居址



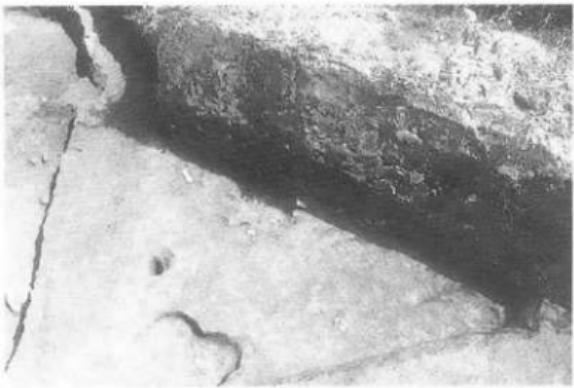
MSD 15号住居址



MSD 16号住居址

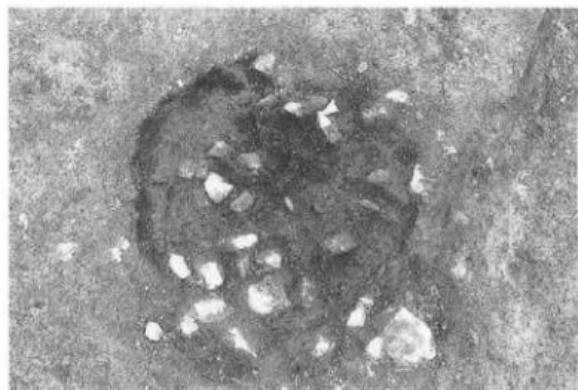


MSD 18号住居址



MSD 4号住居址

図版 18



MSD 集石炉 1



MSD 第 I 地区土坑群



MSD 第 II 地区土坑群



MSD 全景



MSD 第Ⅰ地区全景



MSD 第Ⅱ地区全景

図版 20



垣外遺跡近景  
(増田遺跡より望む)



K I T 5号住居址

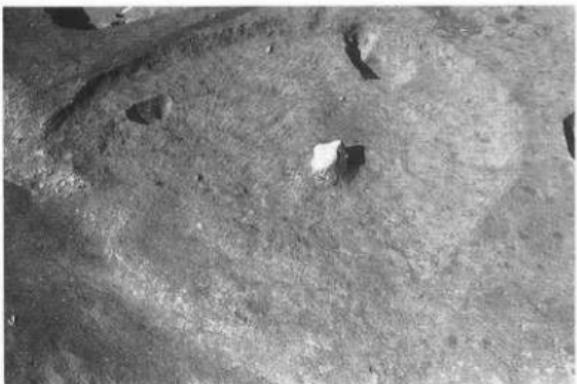


K I T 13号住居址

図版 21



KIT 15号住居址

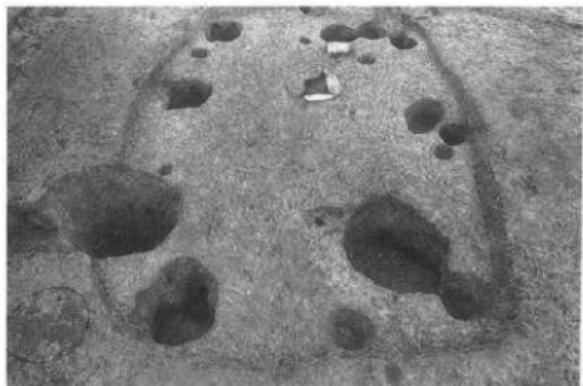


KIT 19号住居址



KIT 20号住居址

図版 22



K I T 22号住居址



K I T 23号住居址



K I T 24号住居址



K I T 25号住居址



K I T 29号住居址



K I T 30号住居址

图版 24



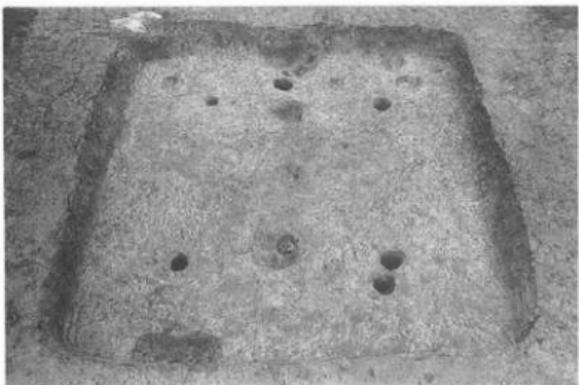
K I T 42号住居址



K I T 43号住居址



K I T 44号住居址



K I T 6号住居址

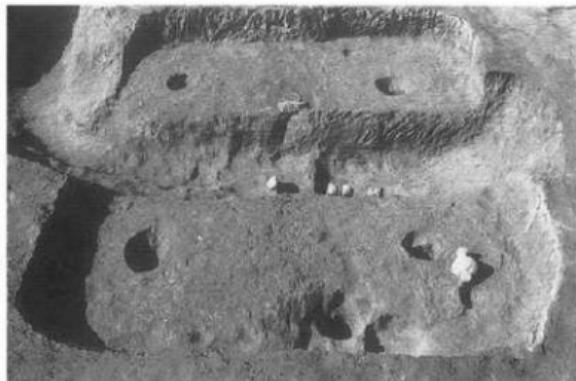


K I T 7号住居址

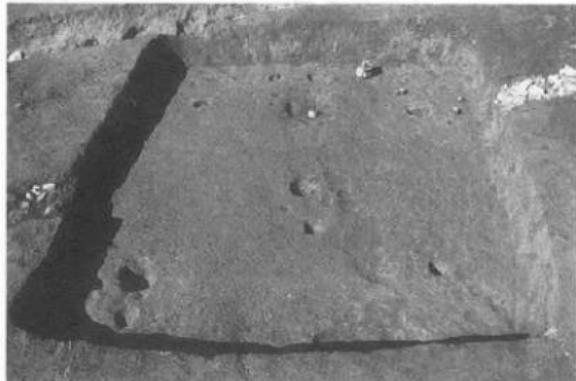


K I T 8号住居址

圖版 26



K I T 9号住居址



K I T 10号住居址



K I T 11号住居址